vs新日本、純プロの未来に三沢光晴が静かなる炎!!
紙のプロレス
2001 40
RADICAL
vsK-1、vs『PRIDE』を語る!!
小川直也
幻の「地上最強のプロレス団体」
Uインター同窓会対談!!
金原弘光vs高山善廣
超怪物! プロレスを変える男
藤田和之語録
破壊王に迷いナシ!! 活字の元気玉!
橋本真也人生相談
猪木軍団vsK-1軍団の向こう側に見たいのは
地上最強のプロレスだ!!
★7·29『PRIDE.15』超直前見どころ三昧!
★8·11有明・リングス10周年大会に"熱"を!!
●総合の台風の目! 郷野聡寛
●坂田亘! 沈黙を破りまくり!!
暑い夜には熱いインタビューが似合う!
俺が大谷だ! オ〜レが大谷だ! 大谷晋二郎
小さな巨人のドデカイ人生! グラン浜田
濃密2連発!!
「ドス・カラスJr」「総合格闘技」「前田日明」etc.
"サスケ節"大炸裂!!
ザ・グレート・サスケ
久々の大炎上!! 多方面に噛みつき三昧!!
ターザン山本
注目のガイジンさん、いらっしゃ〜い!
ヴォルク・アターエフ/トム・ハワード 他
米マット界にもイチロー現象
TAJIRI大ブレイク記念! WWF特集!

ボクらが望んでいるものが、ハッキリした！ それは

地上最強のプロレス!!

怒りがないから!!
てやれ!!」
ます!!」

21世紀最初の夏、マット界に久々にスケールの大きな話題が降ってわいてきた。
まさに〝夢の潰し合い〟ともいえる、「猪木軍団」vs「K—1軍団」が本当に実現しそうな勢いになってきたのだ。いま、スポーツ紙や専門誌も、この話題一色といっていい。
流れをかいつまんでいうと、もともと石井和義館長が、いまK—1の中で、もっとも勢いのあるジェロム・レ・バンナと「小川か藤田とやらせたい」とリップ・サービス的に発言したところ、これが大きく報道されて、まず藤田和之が呼応。さらにアントン総帥が、「どうせやるなら10vs10の全面対抗戦でやったら面白いじゃねえか、ダーッハッハッハ!」と、いつ何時でも迎撃態勢にあることをブチ上げたのだ。
K—1の武蔵が小川直也、藤田とやる、やらないという話が出たり、小川や藤田も「向こうが来るなら受けて立つ」的な発言をしたり、なにやら実現に向けて動き出しているのか、いないのか、どうにも雲を掴む的な話が多かったのも事実だ。
が、ここにきて一気に実現へ向けてのアプローチが出てきた。
まず、8・19さいたまスーパーアリーナでアンディ・フグ・メモリアルとして開催される「K—1ジャパン」。
この日は、小川vs山本憲尚戦が行われるという話が飛び交ったり、石井館長も「8・19は面白いことが起こる」と、大会自体が純K—1の枠に収まらないことを示唆していたから、何が起こるかわからない匂いがプンプンと漂っていた。
そしてその8・19に、いまやマット界の中心人物となった藤田が、「猪木軍団」vs「K—1軍団」の開戦マッチとして出撃するという話が浮上した。この日を境に、全面抗争へとなだれこむ可能性も出てきたというわけだ。
アントン総帥は、帰国・渡米するときの恒例の成田会見を7・12に行ったが、その終了間際に藤田が到着。そのときの記者陣とのやり取りを紹介しよう。
猪木　ということで時間がないから結論から言うと、K—1のリングに上がってくれって言われてるけど、上がんのか?
藤田　はい、いいですよ!
猪木　じゃあ、行って来い!!
藤田　はい。行って来ます!!

7・12。K—1迎撃の決意を固めた藤田は丸坊主姿で成田会見に現れた。「おまえ、剃らなきゃ」とアントンに言われ、藤田は「とりあえずやる気は本気ですから」と返答

猪木　ということだそうです。ま、一つ石を投げてから次に発展していきゃいいじゃない?　でもまぁ、(相手が)ビビってやりたくないっていう噂も聞くしさ。
——藤田選手、ルールは何でもいいんですか?
藤田　ルールは気にしてないですけどね、喧嘩なんだから。競技会じゃないんだから。抗争なんでしょ?　いつでもやってやりますよ。
猪木　怒れッ!　世の中怒りがねーからさ。ニタニタ笑ってるから。怒れッ!　ブッ殺してやれッ!
藤田　ブッ殺してきます!!
猪木　ということでいいですか?　俺メシも喰ってねーし、腹が減った。
ということで、8・19に藤田が殴り込むことは確定的と見ていいだろう。今回は、藤田が「K—1が挑戦してきたから受けて立つだけ」という姿勢で、出撃することになったというわけだ。
ルールや対戦相手はこの原稿を書いてる7月19日の時点では未定だが、相手にはシリル・アビデ

猪木「怒れよ!! 世の中怒
怒れ!! ブッ殺してで
藤田「ブッ殺しに行きます

ィやミルコ・クロコップの名が有力候補に上がっている。

そして、アントン&藤田の成田会見が行われた翌日の7・13。

今度は東京・お台場でビッグ・サプライズが起こった。若手中心の興行となるため、Zepp Tokyoという小さなライブハウスで2連戦を行っていたZERO―ONEの興行に、いきなり小川直也が登場したのだ!

「K―1からの挑戦を受ける」という決意表明をするために来場した小川は、宿敵・橋本真也の呼び込みに、笑顔でリングに登場。マイクを握り、「巷では、猪木軍vsK―1という問題がいまクローズアップされています。やはりこの舞台に備えて、猪木軍としてここはK―1を迎え撃つべきじゃないかということで、橋本選手に呼びかけて、一歩前進ということで、今日は来させてもらいました。共闘ということで我々の目標が一致しました」と、対K―1との全面戦争に名乗りを挙げた。

驚くべきことに小川のマイクを受けた橋本まで、「プロレスは絶対に逃げません! ただし、人の米びつに手を突っ込んだりしません。だけど、火の粉が降りかかってきたら絶対に振り払います!!」と痺れる破壊王節で対K―1に名乗りを挙げたのだ。

選手生命を賭けて潰し合った暴走王と破壊王は握手こそしなかったものの、猪木軍団の名の下に共闘していくことをブチ上げた。

これによって「猪木軍団」vs「K―1軍団」の夢の全面対抗戦は、実現に向けて一気に加速しだした。

この平成に蘇った軍団抗争は、もし実現すれば、ビッグでリアルなものになる。

7・12の成田会見にはヤスティこと安田忠夫も現れた。アントン総帥に「そのヒゲをもうちょっと変えなきゃダメだな」と言われ、本人は苦笑いしたが、記者陣は大爆笑だった

なぜなら、石井館長が本当にヤル気だからだ。純K―1を1度壊してでも、アントニオ猪木という毒さえ飲み込んででも、世界のマット界を統合してやるという野望さえ見える。文字通りの「超K―1宣言」をしているのだ。

この危険な全面対抗戦は、年末の『猪木祭り』で行われるという話も飛び交っているが、現時点では、まだわからないというのが実状だ。

「猪木軍団」のメンバーは、いまのところアントン総帥が挙げているのが、小川直也、藤田和之、中西学、永田裕志、安田忠夫、石澤常光、高山善廣、ゲーリー・グッドリッジ、マーク・ケアー、マーク・コールマンなどだ。

他に佐竹雅昭や村上一成を入れて報道しているところもあるが、佐竹は『K―1軍団』のほうに入って、小川とやるのも面白い」と本人が言っているので、面子はかなり流動的なものになるだろう。

また、どういうルールで、いつ何時行われるのか。またこの抗争が、夢の潰し合いになるのか、マット界の統合に向けての足ががりになるのか。いずれにしても、大きな地殻変動が起こることは間違いない。

さらに、「猪木軍団」vs「K―1軍団」の先には、「猪木軍団」vs『PRIDE』軍団」。さらに、その3軍による対抗戦というプランまであるというのだ。そして対抗戦の先にはアントン総帥と石井館長、さらにはDSEが手を組み、マット界にとてつもない新しい潮流を生み出す可能性もある。総合と立ち技の世界最高峰の選手たちによって、新たなステージを作り上げていくということも考えられなくはないのだ。なにせ、アントン総帥と石井館長という稀代の名プロデューサーが絡むのだから、

…迎え撃つべきじゃないか
…来させてもらいました!!」
…ません!!」

何が起こるのかは、まったく予測がつかない。
仮に「猪木軍団」vs「『PRIDE』軍団」が実現したとしたら、コールマンやグッドリッジはどっちに付くのか、高田道場の高田延彦や桜庭和志の去就はどうなるのか、あるいはテレビ局の問題はどうなるのかなど、実現までにクリアすべき問題は山積みとなってくる。
しかし、ここは現実的な予測よりも、妄想を駆使し、ヒリヒリドキドキの全面対抗戦が実現することを考えたほうが面白い。
そうやって、妄想を駆使することにより、プロレスファンが潜在的に欲しているものが改めてわかったのだ。
実際に団体でもない、いや実体さえないともいえる「猪木軍団」というものに、なぜファンはワクワクするのか。
それは、プロレスファンが潜在的に欲しているのが、〝地上最強のプロレス〟だからだ。
たぶん、そうだ。
アントン総帥が生みだしたストロング・スタイル→異種格闘技戦→UWFといった流れが、ファンに爆発的に受け入れられたのは、プロレスの中で世界最強を目指すのではなく、〝地上最強のプロレス〟をつくり上げていく、あるいは目指していく方向性にファンは夢を見たからだ。
「いつ何時、誰の挑戦でも受ける」――というのが、アントン総帥の理念だったが、実際の勝ち負けや、ふだんの試合スタイルがどうという問題ではなく、どんな敵が来ようが逃げないという理念とベクトルを支持したのである。
バーリ・トゥード（アルティメット）やK―1が出てきてから、プロレスは数々の辛酸を嘗めてきた。それからは、「プロレス」と「格闘技」にハッキリとボーダーラインを引くことに拍車がかかった。

7・13――。ZERO―ONEのリングに突如現れたオーちゃんも、対K―1迎撃宣言！ 破壊王も続いた。猪木軍団はさらに〝押せ押せムード〟を増していくのか？

桜庭和志や小川直也などの大車輪の活躍により、ファンの傷はかなり回復したものの、根本的な傷はまだ癒えきっていないのが実状だ。WWFという極北のプロレスやデスマッチを支持しながら、あるいは『PRIDE』に〝プロレス〟を託したりしながらファンは傷を癒している状態なのだ。
そろそろ、プロレス側が元気よく、進軍ラッパを鳴らしながら攻め込むという図式を見せない限り、ファンの傷口は完全には塞がらないだろう。
アントン総帥はこう言っている。
「やっぱり方向性がガチッと決まらないと人間というのは力が出ないんだよね。100の力を200にするくらいの。肉体にたとえりゃ『あそこを攻めるぞ！』って言った時に、やっぱり進軍ラッパを鳴らすというかね。みんなが突進していかなきゃ」
「俺たちのころは、立ち上げてから決めてくというね。いまは決めてから立ち上げていこうという話だから。どちらかというと計算が見えてしまう。いま一番物足りないのは押せ押せムード！」
プロレスが失った求心力を回復させるためには、プロレス側が〝攻め〟ていく姿勢が必要なのだ。
いま、それができるのは猪木軍団しかない。
恐らく、アントン総帥は、新日本に対しても、そういうことが言いたいのではないだろうか。
かつて、極真空手は、〝地上最強の空手〟という文句を高らかに揚げていた。
しかし、極真出身のフランシスコ・フィリョやアンディ・フグも、グローブを着けてK―1に出て行ったときは何度も涙を飲んだ。
これをもってして、「極真は地上最強ではない」ということほどバカバカしいことはない。

猪木「猪木軍としてK―1を迎
ということで、今日は来
橋本「プロレスは絶対逃げま

そういえば現・極真会館館長の松井章圭氏は、「大山総裁が本当に地上最強かどうかなんて関係ないんです」と言っていたことがある。

故・大山倍達総裁は、戦後、プロペラ機で何日かかるかわからないなか、アメリカに飛び、プロレスラーやボクサーと闘って、空手を広めようとした。70歳になっても、銀座で喧嘩して相手をひっぱたいて警察に捕まった。

実際に大山総裁が地上最強であったかどうかは問題ではなく、総裁の押せ押せムード！　そしてその理念と気骨、そこに〝地上最強〟の方向性を見たのである。

現在のプロレス界には、押せ押せムードも理念も気骨も方向性も見えない。流されっぱなしだ。そういうところにファンは物足りなさを感じてるのではないだろうか。

いま〝地上最強のプロレス〟という方向性で引っ張れるのは、アントン総帥か前田日明、あるいは石井館長しかいないのではないだろうか。

ところで、プロレス界にも大山総裁のような人がいる。プロレスの神様・カール・ゴッチである。

そういえば、4年前にゴッチさんのフロリダの家に行ったときには、本棚に大山倍達の『What is Karate』が置いてあった。

そしてガレージに置いてある、コシティと簡単なプッシュアップ用のトレーニング器具を指さしてゴッチさんはこう言った。

「これっぽっちの器具でも、人を殺せる練習はできるんだ」

まったく、キ○ガイである。神様とキ○ガイは紙一重なのである。

ゴッチさんといえば、この間、前田日明から面白い話を聞いた。

朝鮮半島を分断する38度線に立つアントン。ソーラーシステムによって38度線に明かりを灯すことを考えるアントンは、プロレスと格闘技の境界線にも明かりを灯すつもりだ

前田が海外修行から凱旋帰国したとき、ポール・オーンドーフと当たることになった。プロモーターからは、凱旋マッチ＆TVマッチなので12〜13分試合を引っ張れと言われたが、ゴッチさんは「あんな奴は10秒で片づけろ」と言った。板挟みにあった前田は試合前に葛藤を続けたという。そのころ前田は危険な角度で落とすフロント・スープレックスを得意としていたが、それを伝え聞いたオーンドーフは、「そんな危ない技は受けれない」と言った。

それを聞いてゴッチさんは激怒し、控え室まで怒鳴り込み、オーンドーフの胸ぐらを掴み、「おまえはプロレスラーじゃない」と恫喝した。そしてまた前田のところに戻り、あらためて「あんな奴は10秒で片づけろ」と言い放ったそうだ。

そういうゴッチさんも、リングに上がれば、シュート試合だけではなく、〝拡大鏡〟を付けたプロレスをしていた。でも、ふだんからトレーニング方法のことや、犬と闘ったらどうやって殺すかということばかりを考えてる人なのだ。ゴッチさんも〝地上最強のプロレス〟を標榜していたのではないだろうか。

「50年たっても、いまだに拳の握り方に疑問を覚えるよ、キミィ」と〝地上最強の空手〟を標榜した大山倍達とゴッチさんが、妙にダブるときがあるのだ。

対K―1、対バーリ・トゥードにも臆することなく、狼煙を上げてプロレスが攻めて行ったとき、その道筋のどこかに〝地上最強のプロレス〟の火種が必ず立ち昇るはずだ。

真のプロレス復興の機運は、その方向性にしかないような気がする。行きますかーッ!!【N・Y】

藤田和之

新日本、K−1、『PRIDE』
マット界の3大メジャーを席巻する男!

連日新聞紙上を賑わせる「猪木軍団vsK−1軍団」開戦報道。その急先鋒として、矢面に立っているのが、この藤田和之だ。K−1だけではない、IWGP王者として永田と「今年のベストバウト」の声も出たプロレスを見せ、『PRIDE』では高山戦で強烈な印象を残す。まさにいまの藤田は新日、『PRIDE』、K−1というマット界 3大メジャーを席巻する超大物となり、その自信は発言にも表れるようになった。藤田和之・野獣咆哮録。この男、地上最強のプロレスラーか。

構成/堀江ガンツ
designed by hisa (Two Three)

この男、"地上最強のプロレスラー"か!

対K―1編

（バンナ戦について）
絶対逃げない！
絶対折れない！
【SRS―DX No.50】

（藤田の名を出した武蔵に対して）
「お前は誰だ？名を名乗れ！」

（K―1ルールで闘うことに対して）
だってできないもん、そんなの

（猪木軍団について）
濃いですよ。「ションベン」じゃないですよ。スペルマくらい（笑）**。濃いヤツは多いから。**

（猪木に「怒れよ、今の世の中、怒りがねえから、ブッ殺してやれ！」と言われ）
ブッ殺してきます！

キナ臭い？ウソ臭い、ハハハ。
（脅迫電話など、かつて猪木vsウイリー戦での周辺の緊張感ある出来事について）

オレにとっては、K―1のKはケンカのK。ルールはケンカでいい。ブッ殺してやる！『PRIDE』なめると、エライことになりますよ
【7月14日東スポ】

ションベンをかけらないように気を付けないと。逆にションベンを浴びせてやるよ。顔シャ！
（バンナの「バーリトゥードはションベン」発言に対して）

疲れるんだから（苦笑）**。毎回毎回、クドいて、前戯して、挿入するの、同じ工程を繰り返さないといけないから。**
（バンナ、コールマンとの対戦が熱望されてるのに対して）

藤田和之 野獣咆哮録

（猪木の「K―1のリングに上がってくれっていうのがあるのか?」という質問を受けて?）

いいですよ、ハイ。行きます！

K―1からケンカを吹っかけてきたので、オレは受けたんだ。勝手に立場を逆転するな！【6月27日東スポ】

オレに挑戦させてください、お願いします、と頭を下げにこい【6月27日東スポ】

喧嘩なんだから。競技会じゃないから。抗争なんでしょ? いつでもやってやるよ!!

「三冠に興味? かなりアンティークと聞いてるんで、まだ骨董には興味はないです（笑）」（6月25日新日本事務所・札幌ドームカード発表会見）

今の状態で防衛戦をやって、永田戦で上がった新日本の名前を落とすことになってもオレは知らない【6月21日東スポ】

『PRIDE』王者のコールマンが新日本で試合をするということは、勝敗以外に価値も下げないように覚悟してもらわないと

（永田とタイにて）

新日本や全日本がチャンピオンを選ぶんじゃなくて、ベルトが選ぶんじゃないですか

（タイにて）

（マーク・コールマンが「闘いたい」と言っていることについて）

それこそ、俺と闘って、あっちは何か生まれるんですか？

【SRS・DX 永田戦直前】

新日本にいるときに長州さんに「プロレスラーは日焼けも仕事なんだ」って言われた

（SRS・DX50号）

心の底にある芯をブチ折るから！

（高山戦について）

（高山戦について）

福笑いみたいにしてやるから、フフフフ。

「今のチャンピオンはプロレスの奥深さを知らな過ぎる」と言うプロレスラーがいた。でも、お前らは『PRIDE』ルールの恐ろしさを知らないだろう？ガチガチの試合を経験して。それから文句言えよ。

【ゴン格・高山世戦直前】

「猪木軍団」vs「K−1軍団」、
“新旧最強対決”vs高田戦を語る!!
そして、「vsヒクソン」、「vsタイソン」も
オーちゃんのなかでは消えていない!!

直也

「いままでのプロレスが逃げてただけの話!!」

聞き手／山口日昇　撮影／森鷹博
designed by hisa (Two Three)

取材開始前。ＵＦＯ公式出入りカメラマン・モーリーが海にロケハンに行ってる間、オーちゃんは、駐車場に止めてあるモーリーの車に、オーちゃんステッカーをベタベタと張り付け始めた。そこに何も知らないモーリーが帰ってきました。

モーリー　ブアッ！……あ、ありがとうございます。こんなに張っていただいて。

小川　横にも前にもいっぱい張ってあるからさ。

モーリー　い、いや、感激の極みですよ。

小川　走ってると、「あ、あいつ小川のファンだ」って思われるよ（笑）。

モーリー　……い、いいじゃないですか！ボ、ボク、小川さんのファンですから（泣）。

小川　また次回来たときにわかるからね、はがしたかはどうかは。

モーリー　は、はがしませんよ、絶対！（意地になって）。

小川　さ、じゃあ、撮影、インタビューと張り切っていきますかーーーッ!!

モーリー　い、行きましょう。張り切ってもう海の中でもなんでもやりますよ、ち、ちっくしょ～。【以下略】

●

――いやぁ、ＺＥＲＯ―ＯＮＥの会場に突如来場して、対Ｋ―１出撃宣言をしたんで、ビッグサプライズが起きてましたね。

小川　その日に行くの決めたから。巷で猪木軍とＫ―１って盛り上がってるじゃないですか。そういった部分で言う機会ってあんまりないですからね。それでどうしようかって考えてた矢先に、橋本さんの興行があるって聞いたから、しゃべれりゃいいかな、みたいなね（笑）。

――しゃべれりゃいい（笑）。小川さん、あんな小さい会場行くの初めてなんじゃないですか？

小川　アメリカでＮＷＡをサーキットしたときは経験したけど、日本では初めて……かな？　入った瞬間に、あまりの会場の小ささに「え？」と思ったけどね。

――対Ｋ―１は小川さんはやる気満々なんですか？

小川　俺たちとはもともとジャンルも違うし、どうでもいいっていえば、どうでもいいようなもんだったじゃないですか。でも、再三向こうから挑戦だなんだってね。それで周りの反応見てると、クローズアップされてるから、ここはやっとくべきなのかなって。向こうが来るんであればだけどね。で、一歩尻込み状態だった橋本さんもいたから、ここは背中を押すつもりでね。押してるのか、無理矢理引っ張ってんのか、わかんないけど。ダーッハッハッハ。

――でも破壊王もカッコよかったですよ。「プロレスは絶対に逃げない！」って力強く言ってましたから。

小川　俺に先にしゃべらせといて、あとであんなこと言われたら、「あ！　破壊王、カッコいいなぁ」って思われちゃうよね。ま～たやられちゃったよ。橋本さんは弁当屋だから、おいしいものをつくるのが得意だからね。おいしいとこ持っていかれてもしょうがないかなって（笑）。

――でも破壊王はなにかのインタビューで「小川は俺よりも自分のことしか考えてない」って言ってましたよ（笑）。

小川　お、俺もな、こう見えても周りのことは考えてるよ！　失礼な！　橋本さんも、まだ目が覚めてないのかな（笑）。

――巷では対Ｋ―１で盛り上がってるのは、潜在的にファンは、「プロレスは強いんだ」っていうことを見せてもらいたいというのがあるでしょうね。

小川　それはもちろん！　橋本さんが言う一番大事な部分ですよね。その言葉をプロレスラーから聞きたいと思うしね。そういった部分で、橋本さんは引っ込みつかないから言うしかないんだろうし。でも、ああいう言葉を橋本さんが言うことの重要さっていうか、それをわかってほしいね。橋本さんの「絶対逃げない」っていうあの言葉はね、勝ち負けを超えた意味合いがあると思いますよ。どんな強いヤツが来ようが逃げないってことでしょ。でも、俺たちは別に行く必要ないんですよ。向こうが喧嘩売ってんのに、こっちがノコノコ行く必要ない。あの橋本さんの言葉は辛酸を嘗めてきてるからこそ、言えることでしょう。

――嘗めさせたのは、小川さんですよ！

小川　俺か（笑）。

――しかし破壊王は凄いですよね、発言に勢いがあるというか。実に吹っ切れてますよね。

小川　「プロレスは逃げない！」っていう言葉も、正確に言えば、あの日俺が練習終わって会場に行く1時間かそこらの間

vs「K―1軍団」の前に、vsモーリー

待ち合わせ場所に着くなり、「モーリーの車どれ、モーリーの車？」と言い放ち、オーちゃんステッカーをアーティスティックに貼りだしたオーちゃん。実に嬉しそうに貼りまくってました。この車をみかけたら、イタズラ書きでもしてやってください

に、自分で言おうと決心したんだろうね。でも、もともと自分の気持ちの中にそういう気持ちがあるから素直に言えるんじゃないですか？　心の隅にもないことは言えないでしょ。

——破壊王にはそういう気持ちは、絶対ありますよ。あると思いたい（笑）。

小川　たまに笑っちゃうんだけどね。「破壊なくして創造なし」とか、凄いこと言うよね。感心するよ。破壊王ってどんどん破壊していくのかと思ったけど、自分が破壊されながら進んでるんだもん（笑）。

——ダハハ。自分のことも破壊していきますからね。

小川　勢いもあるし、興行でもいま橋本さんのとこが一人勝ちじゃないの？　だってＺｅｐｐＴｏｋｙｏでも、「あ、こんなとこでやったんだ」って全国のみなさんに伝わったでしょ、あれで。

——でも、小川さんが、対Ｋ—１をブチ上げた翌日は、東スポの一面は取られましたね。「前田恐喝」に（笑）。

小川　あ〜れには参ったねぇ、俺の想像を絶したよね（笑）。

——８月19日のＫ—１ジャパンで、小川vs山本憲尚戦が行われるんじゃないかっていうのも業界の内部では噂になってたんですけど、そういう話ってあったんですか？

小川　そういう話は進められたかもしれないけど、俺としてはＫ—１のリングで山本選手とやる必要性っていうのはないでしょ。Ｋ—１だとお客さんの層も違うだろうし、メインディッシュになるのに、意図的に前菜として扱われちゃう可能性があるからね。だから、Ｋ—１のリングでやるんだったら、Ｋ—１のヤツとやった方が面白いでしょ。でも、先に藤田選手が行っちゃったからね。

——今回の「猪木軍団vsＫ—１軍団」というのは、最初に石井館長が「バンナと小川か藤田をやらせたい」って言ったのが始まりですよね。

小川　俺的には、いつものリップサービスかと思ってたんだけどね。本当でも、ちょっと様子見ようかなって感じだったね。

——藤田さんに先に行かれたことは悔しかったんですか？

小川　悔しいっていうより、「あら〜、行っちゃったのぉ？」みたいな（笑）。もうちょっと待ってくれれば。向こうに言わせるだけ言わせて、引っ込みつかないとこまで言わせないとね。チョコッと言われただけで反応しちゃあね。周りに「やるんだろ？」って思わせたとこで、引っ込みつかなくなったとこで一気に切り替えして行こうかと思ってたんだよね、俺は。要はカウンターを狙ってた。

——Ｋ—１戦士を相手に（笑）。８・19は、藤田選手が乗り込むのはいまのところ確定的って感じですよね。

小川　先に行っちゃったから、もうしょうがねぇかなって。どうなるんだろうね？

——小川さんの中では、猪木軍っていうと、どこからどこまでなんですか？

小川　勝手に東スポが作っちゃって、やたらめったら入ってるよね、いま（笑）。

——よく言われてるのは、小川、藤田、安田、村上、橋本。佐竹選手が入ってる場合もありますよね。

小川　あとコールマンとかグッドリッジとか。あれは東スポや他が勝手に作っただけだから、流動的なんじゃない。

——永田、中西の名前も上がってますね。

小川　でも、野球で考えれば、猪木さんが監督で、「今日のスターティング・メンバーを発表する……」みたいなのがあったら、カッコいいと思わない？　あとは猪木さんが決めればいいことですよ。ん？……それで俺が入ってなかったりして（笑）。

——ガハハハ！　小川さんが入ってなかったら、話にならない。

小川　それが一番心配なんだけどね、いま唯一の。「小川は補欠」だって。

——小川直也が補欠！（笑）。それは贅沢すぎますね。猪木さんが「俺らの全盛期は立ち上げてから物事を考えてたけど、いまのヤツは物事を考えて計算してから立ち上げていくからつまんねぇんだ」って言ってましたね。今回の「猪木軍団vsＫ—１軍団」は、話が立ち上がってから動いてますよね。

小川　結局、火を灯し続けてる存在なんだよね、俺が。なんだかんだ言ってさ、火が消えかかってる話題もさ、火を灯し続けてる存在なんですよ、オ・レ・は！

——なにリキんでるんですか（笑）。

小川　だって火を灯し続けてる存在はやたらと嫌われるじゃん（笑）。俺は「猪木軍団vsＫ—１軍団」は絶対消しちゃいけないと思ったからね。

——マスコミによっては、対Ｋ—１のあとに、「猪木軍団vsＰＲＩＤＥ軍団」もありえるって書いてるところもあるんですよ。

小川　だけど、夢がいくつもあることはいいけど、いまなにが大事かっていうと、Ｋ—１と猪木軍であって、いまはそれだけで十分なんじゃないかな。

——まずそれを実現させることですよね。

小川　それがなかったら次に進まないもんね。もとはと言えば、俺が言ったわけじゃないし、勝手に向こうが言い始めた話だから。しつこくガタガタ言ってるから、もう話が決まってんじゃないかと思ってワクワクしてたんだけど、そうでもないみたいでね。こないだも武蔵選手がどうのこうのって言ってたけど。

——武蔵選手はあとで否定してましたけどね、「小川選手と闘いたいとは言ってない」って（笑）。

小川　だから否定すんのはやめろって（笑）。話は繋げればいいじゃん。

——ファンはいま、プロレスが攻め込むところを見たいんだと思うんですよね。あまりにもいままで、いわゆる格闘技に対しては傍観と受身なことが多かったから。

小川　でも、こっちは挑戦されてるんだから、悠々と構えとけばいいじゃない。攻め

ZERO—ONEのリングで vsK—1軍団をブチ上げる!!　破壊王も呼応!!

7・13ＺＥＲＯ—ＯＮＥのお台場大会に突如登場し、対Ｋ—１出陣宣言をブチ上げたオーちゃん。「巷では、猪木軍vsＫ—１という問題がいまクローズアップされています。猪木軍としてここはＫ—１を迎え撃つべきじゃないかということで、橋本選手に呼びかけて、一歩前進ということで、今日は来させてもらいました！」

これで猪木さんがメンバーを発表して「小川は補欠」って言われるのが一番心配（笑）

させて一気に畳み込むって戦術もあるじゃないですか。

—それだけ、イメージとして、プロレスがK—1やバーリ・トゥードに押されてるっていうのがあるんですよ。

小川 いいんですよ、押されれば（笑）。

—返したときがデカいと。

小川 そうそう、いい試合ができる。だけど、実際に周りから「K—1とやるんですか?」って言われて、自分自身はイライラしてたけどね。早く食いつきたいなぁ、と。

—せっかちな小川さんが、よく我慢してましたね（笑）。

小川 いや〜、別のことで忙しかったから（笑）。

—別のことって、もしかしたら山本憲尚選手のことですか?

小川 いや、あんなの小さいことですよ。

—じ、じゃあ、山本戦はないんですか?

小川 彼自身がよくわからないっていうのかな、今後どうしたいのかっていうのが明確に伝わってこない!「第三者のリングで」って言うんだったら、ZERO—ONEなり、『PRIDE』なりあるんだけど、かといってそっちに直訴してるわけでもないでしょ。俺も報道で見てるだけだからわかんないけど、俺が言えるのは「とりあえず、キミはなにがしたいの?」ってことだけ。それがわからないんだよ。俺とやりたいのはわかるんだけど、なんのためにやるんだか、よくわかんないし。

—なんのためにというか、まず小川とやりたい、ということでしょうね。

小川 リングスを出た理由っていうのも、なんで出たかを明確にしないしね。たとえば「俺はリングスにいたら、いつまでも他の選手とやらせてもらえない、自分の力を試してみたかった。出たからには標的は大きい方がいい」とかさ、そういうのがあればいいよ。

—それは言ってたんですよ。「2年前に実現しそうだった小川直也を追いかけるというのも退団理由の一つ」だって。それで『真撃』のあの一件があったわけですよね。

小川 そこまではいいんだけど、それからだよね。早く実現させるっていっても、「じゃ来月やろう」とはいかないでしょう。どこでやるにしても、会場とかいろんな準備しなきゃいけないし。それ以前に、UFOの自主興行ならまだしも、他のところでやるんだったら、そのカードを買ってもらえるのかっていう問題もあるしね。だいたいもう、山本クンの旬って、オレを殴って終わったんじゃないの? だいたい、後ろから殴られたから、山本クンに殴られたっていう実感がないからね、俺には。

—橋本さんは「『真撃』のリングでああいうことをしたんだから、『真撃』のリングで決着をつけるのは当たり前だ」って言ってましたね。

小川 そりゃそうでしょ。第三者のリングだし、『真撃』のリングでもいいんじゃないの?

—秋にUFOの自主興行でって話もありましたよね。

Naoya Ogawa

小川 それに備えるようにしようと思ってたんだけどね。「お前のとこでやってやるよ」って言われたときに、「実はできねぇんだよ」ってわけにはいかない。だから、興行の仕組みっていうのがまるで見えてないっていうか。まぁ、それを山本選手に求めるのは無理なのかなぁ。自分の脳味噌、自分で食べちゃったような感じだからね。

—ダハハ。凄い表現ですね（笑）。

小川 かわいそうだけど、俺も煮え切らない態度の人にいつまでも付き合ってたくないんだよね。次のことをやりたいですからね。6月の『真撃』からでも1ヶ月以上あったわけじゃないですか。

—いまは流れが早いですからね。

小川 彼に言わせりゃ、リングスで10年間培われてきたものがどうのこうのっていうのがあるんでしょうけど、なにが培われてきたのかなって。いまのマット界の流れって早いじゃないですか。それを知ってた上で出て来たわけでしょ?

—知らないかもしれない（笑）。

小川 まぁね（笑）。だけど、「俺は長くやってきた」って自負があるから、それが邪魔してるんだろうね。波に乗れるか、乗れないかですよね。彼もそういう意味じゃタイミング逃したっていうか。あのときにすぐ「俺はどこでもやってやる」とか言えば一気にできてたかもしれないのに。売れっ子俳優さんかなんかと勘違いしたのか、「ちょっと来い」って偉そうに言っちゃったのがね。挑戦するって感覚でやればよかったのに、「俺の方がおまえより業界の先輩なんや」って感じで言ってるからさ。「どこでもやってやる」って言えば、ファンも「そうだ、行け行け!」ってなったかもしれないのに。「あそこはダメ、ここはダメ」って言っててもね。挑戦しといて選ぶ権利あんのかよっていうさ（笑）。果たし状持って来るんでもいいし。それでいいと思うんだけどなぁ。

—でも、山本選手からしてみたら、小川さんが逃げてると思ってるのかもしれない。

小川 俺は彼につきあう義理もないし、現に1ヶ月以上アクションを待ってたっていう部分ですね。

—単純に殴られ損というか、思い出して腹立ったりしないんですか?

小川 猪木さんの言葉を借りると「小っちぇえもん」だから。俺的には、あのときは次の選択権を自分でも持ってたと思うし。やるきっかけっていうのも、預けていいのかなって思ってたし。彼の言う「第三者のリング」って言ったって、プロである以上は俺という人間、山本という人間を高く評価してもらうべきじゃないですか。現に橋本さんも「俺が買ってやる」って言ってるわけだし。『PRIDE』はまだわかんないけどね。でも『PRIDE』で山本選手とやるのを俺がなぜ拒否してるかっていうと、高田さんからの対戦要求の問題があるから。高田さんからそう言われてる以上は、『PRIDE』側も「小川を呼ぶんなら高田戦で」って思ってるはずなんだよね。じゃあ、仮の話、『PRIDE』が小川vs高田戦じゃなくて、小川vs山本戦を買ってくれるならそれでもいいよ、条件次第では。

—やるんだったら、なにか意味合いを持たせたいってことですね。山本にしてみれば、「一発殴ったんだから、男として小川は受けるのは当たり前だ」って意味付けをしてるかもしれないですよね。

小川 彼は普段プロレスをバカにしてるくせに、やってること一緒じゃん!（笑）。

殴ったんだからっていっても、全然インパクトない殴り方だったと思うんだよなぁ。

――小川さんの殴られた後の「ありがとうございました」の方が全然インパクトありましたね。別の意味で（笑）。

小川　ダーッハッハッハ。叫ぼうとしたら、舌が回らないからやめとこうと思ってね。彼はね、乱闘ひとつにしても、簡単だと思って来たんだろうね。

――『PRIDE』でいうと、11月3日東京ドームで高田戦が噂されてますけど、小川さんの中ではこれは決めてるんですか？

小川　う〜ん、俺には、まだヒクソン戦っていうもんが残ってるから！

――そ、そうか！　ヒクソン戦も正式に消えたわけじゃないわけですね。

小川　ヒクソン戦っていうものに対して考えていかなきゃいけないって部分があるから。

――小川さんの中ではヒクソン戦はまだ生きてるんですね。

小川　全然死んでないよ。むしろ、これもなんかの運なのかなぁって思うんだけど、高田さんからやりたいって話があって、それが実現したら、もともとあったレールに戻るんじゃないかなっていう。

――2年前は「『PRIDE』に上がるなら、やる相手はヒクソンと高田」って言ってましたからね。

小川　一度軌道が外れたんだけど、また戻るみたいな感じかな。俺としては、結果的に自分が思ったようになってるかなって感じだね。

――でも、小川さんのなかで、ヒクソン戦が死んでないっていうのは、ファンは喜びますよ。

小川　だって、高田選手の件だって、俺から起こした行動ではダメだったけど、自分が離れたときに、向こうから追ってきたわけじゃない。不思議なもんですよね。だから、どう転ぶかはわからないよ。

――対タイソンというのはどうなんですか？

小川　もちろんありますよ！　だから、一度目標に定めた人に対して、やらなかったら自分で後悔する。だから、ヒクソンなり、タイソンなり、高田選手なりが強かろうが、弱かろうが、そんなのどうでもいいんですよ。自分でやってよかったとか、満足度ってあるでしょ。やらなかったら一生後悔することになるし。

――やらないで後悔するよりは……。

小川　そう！　たとえ強い相手でも、やって、負けて後悔した方が諦めがつくと思うし。俺はそういう考え。でも、俺がやりたくないやつから対戦表明された場合、それがすべてやるとは限らないってことですよ。だから、ここにきて、自分のやりたかったレールに戻ってきた喜びっていうのが凄く大きいんですよ。

――K―1にしても、小川さんは一度K―1のリングに上がってますからね。

小川　「猪木軍団」として猪木さんがやると発したときに、それに付いていける準備をしなきゃいけないし、そこでみんなが活気づきながらやるのと、「え〜、やるのかよ」っていうのじゃ違いがあるでしょ。それを選手同士で固めないといけないんじゃないかな。だから今回、橋本さんがああいうこと言ってくれたのは嬉しいね。選手同士で固まるとかそういうの好きじゃないんだけど、呼びかけて応えてくれる選手がいてよかったなと。それはファンに見えない部分だけど選手としてよかったな、みたいな感じだね。

Naoya Ogawa

――いまクローズアップされてる藤田選手には、ぶっちゃけた話、ジェラシーはないんですか？

小川　全然ないですよ！　俺は俺で別のことやってるし。どっちが成功するかもわかんないし。

――藤田選手は逆に小川さんにジェラシーはあるんでしょうかね。

小川　それはどうだかわかんないけどね。いまは猪木会長が藤田選手を売り出してるから、それはそれでいいと思うし。

――憶測で「猪木さんと小川はホントは仲悪いんじゃないか」とか書くマスコミもありますよね。

小川　マスコミさんはね、書くのはいいんだけど、自分のモノサシで考えるから俺も困っちゃうわけよ。俺をその人間のモノサシで測ろうとするな、と。最近は諦めついてきたけどね。だってジェラシー、嫉妬なんて、柔道時代は嫌というほど見てきたし、オリンピックとかの世界に出たらもっと凄いよ。アマチュアほどそういうのがヒドイとこないからね。

――それは猪木さんもよく言ってますね、「アマチュアほどヒドイ世界はない」って。

小川　ホントにヒドイよ！　その中で勝ち抜くのは大変なことなんですよ。技量とは別の部分で。アマチュアって目標がオリンピック一本しかないから、オリンピックに出るのに、政治力もあるし、いろいろあるから。強いだけじゃ出れない人っていっぱいいるからね。学閥だなんだってドロドロしたもんで凝り固まったのがアマチュアですから。そう考えるとプロなんてフリーマーケットみたいなもんですよ。

――そういう世界を通過してきてるわけだからなぁ。

小川　だから、プロとして藤田選手は売り出した方がいいって俺も思いますよ。そのほうがいいカード組めるし。だって藤田選手が頑張れば頑張るほど、俺も頑張んなきゃって思うからね。俺が藤田選手の足引っ張ったっていいことないじゃないですか。いまのマスコミさんに欠けてるとこって、「みんな強いんだ」って言ってくれれば世界が広がるのに、ちょっとプロレスに詳しいからって「実は誰々は弱い」とか、そういうこと言うでしょ。自分の首絞めてるようなもんだと思うんだけどね。

――猪木さんが「全盛期のときは、ある意味成長してるパワーというものが俺たちのプロレスにはあった。その中には無計画って部分もあったと思う。だけど、国全体も押せ押せの勢いがあった。そういう意味でいま一番足りないのは押せ押せムードだ」って言ってるんですよね。その押せ押せムードっていうのは、ここ数年のプロレスの中にはなかったんですよね。

小川　そういうムードにしようとしても、入り乱れた情報の中で、「な〜んか裏があるんじゃねぇか」って最初っから思われたりさ。だから俺なんかも無計画で行くしかないよね。

――ま、計画的には見えないですよね（笑）。

小川　試合決まっても無計画だしね（笑）。

――小川さんがプロレスに入って来た頃は、実際にはK―1やバーリ・トゥードに攻め込まれてるって感覚はありました？

小川　攻め込まれてなんかいないよ。ただ単にそのときのプロレスが逃げてただけの話じゃない？　最初に芽を摘んどけばよかったものを摘まなかったばかりに、ワーッと広がっちゃったわけでしょ。

――バーリ・トゥードが出てきたときに新日本が逃げなかったら、全然情勢は違っ

てたでしょうね。

小川　だけど、見ての通りさ、いまの新日本は自分たちで勝手に枠を作っちゃってるでしょ。俺が言うことはホラだと思われてもいいけど、俺だって、あと20年も30年もできるわけじゃないし、やれるうちはやっときたいなって思うよね。

——小川さんはよく「ファンのニーズ」っていう言葉を使いますよね。その言葉尻を捉えるというか、そういう部分を捉えて、「小川は勝てる相手としかやらない」とか、「小川は逃げてる」とか言う格闘技ファンもいますね。

小川　あ～。「逃げてる」って一部では言われてるみたいだね（笑）。中西選手にも言われちゃうからね（笑）。でもね、ファンはね、言うだけ。なんでも否定から始まっちゃうから。

——マニアは特にそうですよね。

小川　だから、なに言ってもいいんだけど、正直言って、あんまりそういう人たちに応える気はないっていうかね。昨日たまたまテレビで見たんだけど、日産が成功した理由っていうのは、フランス人の社長を呼んで、もともといた人間をバッタバッタ切ってったわけですよ。でも、そのときに工場の人たちの言葉をいちいち聞いてたら、いまの日産はなかったわけでしょ。潰れてたかもしれないし。だからマニアの人たちの言葉を聞いてたら、自分のやりたいことが進まないっていうかね。もちろん意見も聞かなきゃいけないんだけど、いちいちそれに応えてたら、前に進めないっていう。俺は後ろに下がるためにやってるわけじゃないから。

——極真空手が謳ってたのが「地上最強の空手」なんですよ。この「猪木軍団vsK—1軍団」の話が立ち上がったときにフと

藤田選手が頑張れば頑張るほど“俺も頑張んなきゃ”って思うからね

思ったのが、やっぱり潜在的にプロレスファンが求めてるのは「地上最強のプロレス」なんじゃないかなぁってことなんですよね。

小川　よくK―1が「史上最強の格闘技」って言ってなかった？　それは言わしとけばいいんですよ。それで俺たちが潰せば。それをみんな否定に走ったりするから世界が広がらないんだよ。肯定的に見てやりゃあいいじゃん。最後に乗り込んで潰しちゃえばいいんだから。

――プロレスは、ここ数年そういうことを言ってないですからね。「最強」って言葉は高田さんで終わっちゃってますよ。

小川　俺、言ってるよ。「プロレスは最強であり、最大の格闘技でなきゃいけない」って。言ってんだけどなぁ、否定されちゃうんだよなぁ……。

――小川さんがそう言っても、共鳴するプロレスラーが少ないんでしょうね。

小川　ホントにそうだよね。だから他の格闘技が出てきちゃうんだけど、それはそれでいいんじゃない？　人間がやってんだから。

――ただ、ハッタリでもなんでもいいから、打ち出しっていうのは必要ですよね。

小川　プロレスがこうなっちゃったら、いまさらなに言ってもダメなんだから。一度はそういう姿も自分で見ないといけないんですよ。だから、いまはK―1に言わせとけばいいんですよ。でも、俺たちは黙ってた世代の人たちと違うからね。

――実に頼もしいですね。ところで7・20は新日の札幌ドームって話もあったじゃないですか。あれはなんで消えちゃったんですか？

小川　またな～んか、俺が逃げたとか、逃げないとか、ヘンな話になっちゃってるみたいだけど、よくわかんない。

――そんな、かわいらしく（笑）。

小川　逃げたって言われるんだったら、俺が逃げたのかなぁ？　だって中西って強いじゃん。中西のコメント聞いてるとビビっちゃうもん。それがリング上で出ればいいんだけどねぇ。でも、中西選手のタイミングも凄いウマイなと思って。『真撃』が終わった瞬間に言い出したからね。「小川、逃げるな」とか。高田選手、山本選手、中西選手と同時に3人から挑戦されてたから、『真撃』に来た選手とやるって言ったわけでしょ。高田選手はZERO―ONEサイドに正式に「出場を辞退させていただきます」って連絡入ったらしいんですよ。で、山本選手は彼なりに答えを出してきて、中西だけ……あいつ寝てたのかなぁ？　それで不思議なことに『真撃』終わった瞬間から「逃げるんじゃねぇ」とか言い出したから、怖い人だなぁと思って。

――ガハハハ！　小川さんのほうがタチ悪いです。

小川　それから怖くなっちゃってさ。ま、そういう意味で怖いんですけどね。

――なんで「小川が逃げた」って声が多くなるんでしょうね？

小川　新日ファンが多いんですよ。情報なんて誰でも操作できるし。でも、情報操作をするのも戦術の一つだしね。情報戦から戦争だから。でも、結局リングでやるのは本人たちで、それで真価が問われるんだから、いちいちそんなのに構ってるヒマはないんですよ。俺も彼のデータ知ってるよ。

――なんですか？

小川　橋本さんと俺が張り合ってる最中にね、彼は「橋本の兄貴がやるべきだ。最後までやるべきだ」って言ったんですよ。「俺が仇を取ってやる」って人間じゃないんですよ、彼は。まあ、俺が逃げたってことで言わせておけばいいんじゃない。

――いいんですか！

小川　だって、情報戦ばっかなんだもん、あいつら。

――は～。では最後に！　猪木さんがなんかのインタビューで「小川は練習は真面目だし、自己コントロールもできてる、唯一それができる選手かな。凝り性というか」って言ってたんですけど、凝り性なんですか？（笑）。

小川　こ、凝り性っていうか、責任感が強いって言ってほしかった（笑）。

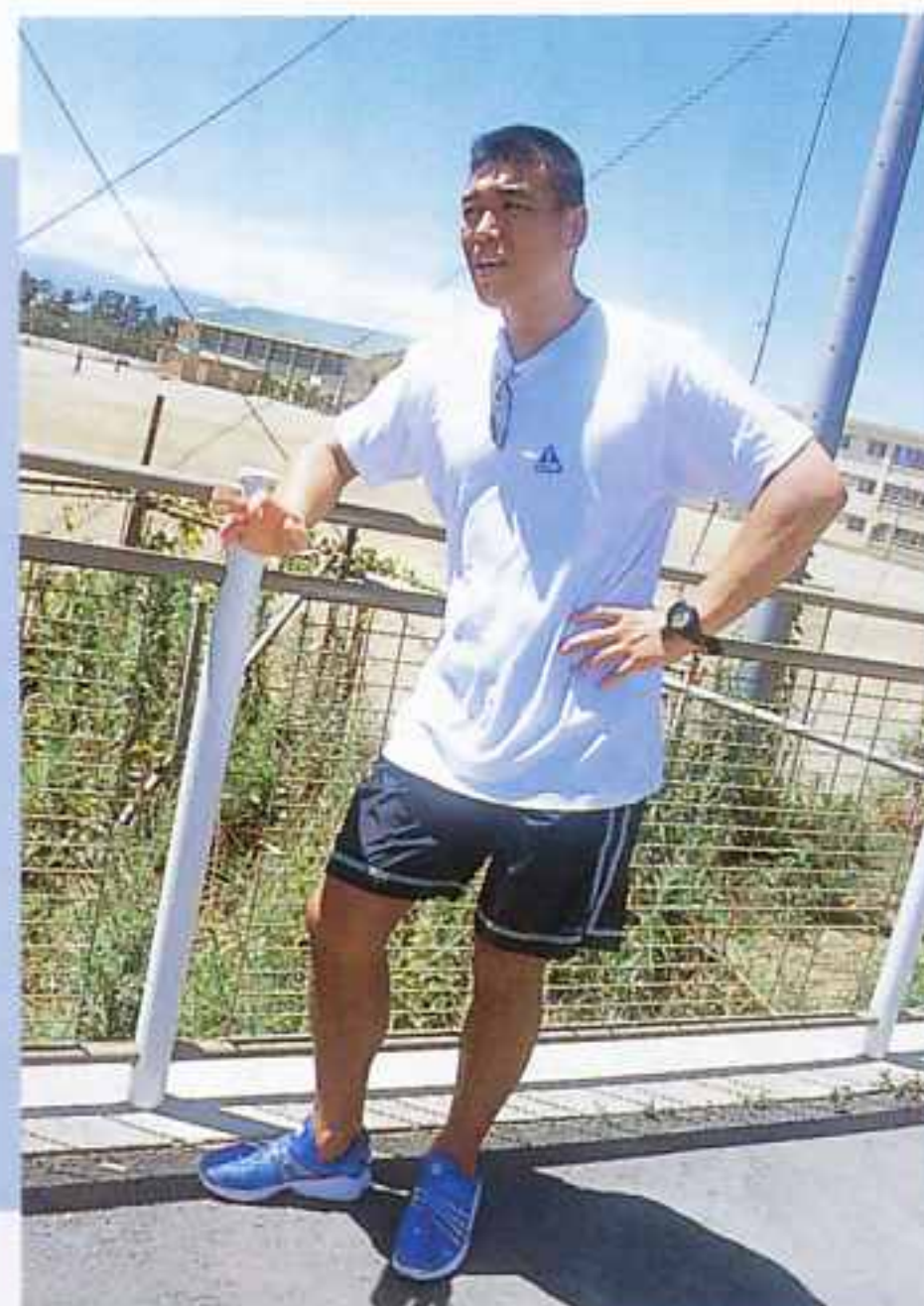
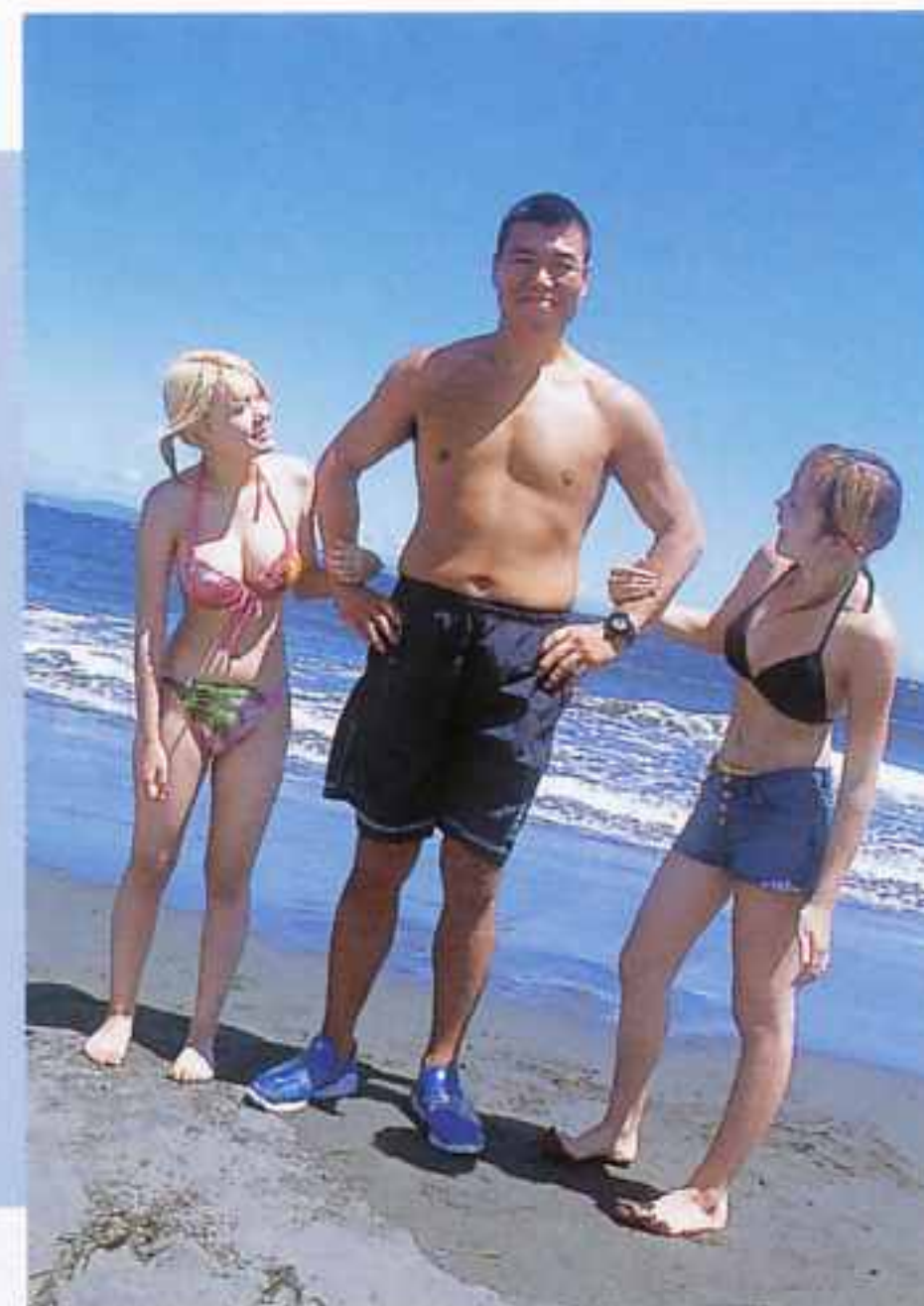
――ガハハハ！　なるほど。

小川　いまの時代的に言えば、中途半端に大きいところより、小っちゃいほど強いっていう部分があるでしょ。ある意味じゃ俺はUFOを任されてる。そういった中で任された以上は、常にやり遂げなきゃいけないなって思ってますから。みんな簡単に考えてるけど、背負う者っていうのは、いつも看板背負ってるようなもんだから。猪木さんが昔、新日本プロレスを背負ってやってきたときと規模は違うけど、結構プレッシャーも出てくるし。俺が一度六本木で刀を抜かれたときもあったでしょ？

――ガハハハ。あれは初期UFOのころですね。佐山（聡）さんと一緒に刀を突きつけられたときだ（笑）。

小川　いや、笑ってるけどね、ホントなんだよ。あのときに刀を突きつけられながら、「団体の看板を背負う人間の重さを知れ！」って言われたときに、それを実感したんですよ。あれからですけどね。そういった意

オーちゃんin地元・茅ケ崎

♪エ～ボシ～岩が見えてきたァ　俺の家も近いィ～　サザンの『勝手にシンドバッド』の歌詞に出てくるエボシ岩を指さすオーちゃん。対K―1は、いまはこれくらいの距離か？

桑田佳祐の出身校である茅ケ崎一中をバックに！　茅ヶ崎を歩いてるときのオーちゃんは、さすがにリラックスモード。今年の夏は由比ヶ浜の「オーちゃんハウス」へGO!!

撮影場所の茅ヶ崎の海岸を歩いてると、ギャルから声をかけられたオーちゃん！　さすがジモティ！　聞くと、まだ2人とも16歳！　16歳にしては、き、巨……人ファン（ベタベタ）

猪木会長に注意されないように、どんどん夢のあることをやります!!

Naoya Ogawa

味で、他の選手は「そいつだけ倒せばいい」ってレベルで考えてるけど、こっちはUFOって看板を背負ってるからね。やらなきゃいけないときは、俺は背負ってるって部分があるから。3月に交通事故起こしたときもつくづく感じたっていうのかな。俺一人じゃないんだって思ったよ。神様のキツイ一発を食らったっていうか。

――UFOといえば、（7・12）ZERO－ONEで、村上選手はなぜ突然、破壊王をうしろから襲撃したんですか？

小川 よくわからないね、最近のあいつの行動は。フォローできる範囲だったらいいんだけど、フォローできないんだもん。

――大乱闘になってましたからね（笑）。

小川 でも、あれを新日本で出してくれればいいんだよ。彼が心臓に毛が一本でも生えてくれれば……これは気が弱いってことなんだけど（笑）、そうしたらもっと凄い選手になれるのにね。

――でも破壊王には結構行ってましたよ。

小川 それを新日本で出さなきゃダメなんだよ！ G1に出るんでしょ？ 正直言って、そこであういうのを出してほしい！ まぁ、でも一勝もできないで帰ってくるんじゃないの？

――それは寂しいですよ。

小川 勝たなくていいんだけど、一人ぐらいはブチ殺してくれればいいよ（笑）。

――小川さんの名言である「勝つ自信はないけど、殺す自信はある！」という気持ちで行けと。

小川 そうそう。村上もね、藤波さんの口の中でもグサグサに切って、しゃべれなくさせれればいいんだよ。そしたら新日の人たちも悩まないでしょ。こんにゃく発言がなくなるんだから。

――ダーッハッハッハ！ 新日本も藤波さんの発言には悩まされないで済むと（笑）。

小川 藤波社長に「村上、もうおまえは来るな！」とか言わせてみろ、と。

――ちょっと気になったことがあるんだけど、猪木さんが「小川は世界という夢を持つか持たないか。やっぱりサラリーマンをやってると、そういう気質ができちゃうんだよね。結局、サラリーマンという枠の中から抜け出せないのかな」って言ってたんですけど、そういうのってあるんですか？

小川 猪木さんに注意されるのは、自分でも「俺、小っちゃくなっちゃったかな」って部分ですよね。そういうのは小さくならないように、常々、自分を省みてね。俺もサラリーマン長かったから（笑）。最初はそういう気質が抜けないんですよ。でも、ある意味そういう気質を持ち合わせないといけないのかなって思うんだけどね。結局K－1とやったりっていうのは、サラリーマンの考えだったら、絶対にやるべきじゃないし。だからうまいこと両方を自分の中で併せ持ってればいいんじゃないですか。あ！ 猪木さんの凄いところは、ドル計算が早いんですよ。

アントニオ猪木のマネをする桑田佳祐のマネをするオーちゃん。どうも茅ヶ崎にいると桑田モードにスイッチが入ってしまうようだ。次は8・30「真撃」だ！

――なんの話だ（笑）。考え方とか、発想にも瞬発力がありますよね、猪木さんは。

小川 うん。見に来る人はサラリーマンも多いですからね。サラリーマンがなにを求めてるかってわかるから、俺（笑）。

――猪木さんは、小川さんのことを「前田日明もそうだけど、もっと大きな可能性を秘めてた部分があるのに、結局は誰かにプロデュースしてもらわなきゃいけない部分を勘違いして、自分をプロデュースしてるという。それを勘違いすると結局はみんな小さくなっちゃうしね」とも言ってますね。

小川 うん、会長の言いたいことはわかりますよ。だから、自分の枠にハマらないようにはしてますよ。でも、いまのこの業界には、怪しい奴が多すぎる！

――多すぎますか！

小川 うん。多すぎる。

――猪木さんはよく「毒を飲み込む器量も必要」って言いますよね（笑）。

小川 いや、毒なら毒で飲んでみたいけど、毒にも薬にもならないような奴らばっかりだからね。いやんなっちゃうよ。

――小川さんは、プロレスラーにしては、社会の仕組みを知りすぎてるというか、自分で全部考えられちゃうから、逆に辛い部分はないですか？

小川 あるねぇ。特に村上に関してはそれは大いにあるよね。あいつはまったくそういうのわからないから。ダーッハッハッハ。

――でも、夏以降は、また暴れる機会が増えそうですね。

小川 とにかくね、まずはK－1！ 高田戦とかいろいろあるけど、猪木さんに注意されないように、どんどん夢のあることをやっていきますから！ 由比ヶ浜に「オーちゃんハウス」っていう海の家もできるから！

――ゲ!! ホントですか！

小川 みなさん、遊びに来てくださ～い。山口さん、そこで「そんな小っちゃい夢の話してませんよ」って突っ込んでくれないと。ダーッハッハッハ。

【7月16日／茅ヶ崎の海の近くの山口日昇が駐禁で引っ張られた喫茶店で収録】

昨年の『PRIDE.10』の佐竹戦の前に桑田佳祐が歌った『PRIDEの唄～茅ヶ崎はありがとう』がライブで収録されている、マキシシングル『波乗りジョニー』（ビクターエンターテインメント）は、ご存じの通り、絶賛発売中！

ンターナショナル
0周年記念対談

金原弘光

Uインターの話をしたら
インタビュー一回分じゃ
とても収まらないよ

聞き手／堀江ガンツ
撮影／松本崇
designed by hisa (Two Three)

ス」目指した団体があった――

インター伝説!

つぶれてなければ

UWFインター
創立10周年

高山善廣

連載にしましょう、
連載に（笑）

かつて「地上最強のプロレス」を

蘇れ！ UWF

――今日は「Uインター存続していれば旗揚げ10周年記念」（笑）として、Uインター一期生二期生である金原選手と高山選手においでいただき、いま再評価されているUインター強さの源流を探ってみたいと思います！

高山　要は藤原さんとドン荒川さんの対談（『紙プロ』4号に掲載）みたいなもんですね（笑）。

――ガハハハ！　その通りです！（笑）。

金原　でも、オレと高山君でUインターの話なんかしたら、インタビュー一回分じゃ収まりっこないよ（笑）。

高山　一回分なら禁断の「中野龍雄さん話」だけで終わっちゃいますよ（笑）。

――中野龍雄さんですか！　そんなに凄い方だったんですか？

高山　みんな凄いですよ。だからもう連載にしましょう（笑）。

――とりあえず前編後編でお送りする予定なんで、よろしくお願いします！　まず金原さんと高山さんって、入門時期はどれくらい違うんですか？

金原　10ヶ月ぐらいかな。オレは第1回の入門テストで入ったから。旗揚げ前の入門だよ。

――そんなに早かったんですか。

金原　そう。そのころは道場がまだなくてさ、合宿所の隣の公園で練習してたから。そこに和田さん（和田良覚レフェリー）がジープに乗ってガァーってやって来るんだよ（笑）。

――和田さんとジープっていうのはハマリ過ぎですね（笑）。

金原　和田さんは当時、風呂無しで六畳一間のアパートに住んでたんだけど、見栄だけは張ってジープに乗っててね（笑）。

高山　しかも時計はロレックスをしてましたから（笑）。

いのは高田さんや安生さんがとにかく強かったから

――でもアパートは風呂なし、と（笑）。

高山　よくあんなボロアパート残ってたな、っていうくらいのアパートですからね。また一方通行がたくさんある迷路みたいな場所にあって（笑）。

金原　近くに竹藪があって、そこで首吊り自殺があったって噂が出たりね（笑）。

高山　それでお客が来たら、サンドバックを横に倒してソファーの代わりにするんですよ（笑）。

――ガハハハ！　どんな家ですか（笑）。

金原　それはそれは豪快な男でしたよ（笑）。

高山　栄養は道場のチャンコでたくさん取っていてね（笑）。

金原　そうそう、和田さんはメチャクチャ喰ってたよ！　練習生はどんぶりでチャンコ3杯、ゴハン3杯のノルマがあったんだけど、俺ら下っ端が最後にメシ食おうと思ったらないんだよ！　和田さんが全部食べちゃってて（笑）。

高山　チャンコなんて汁しか残ってなかったですからね（笑）。

金原　気が付いたら和田さんだけが太っちゃって。練習生は全然太れなくて、宮戸さんに「お前らもっと食え！」って怒られてさ（笑）。

高山　それが「和田最強伝説」の始まりでしたよね（笑）。

――そこから始まりましたか（笑）

金原　インタビュー前半は和田最強伝説だけで埋まるよ（笑）。

――それは困りますね、面白いけど（笑）。今日は和田さんの強さじゃなくて、Uインター勢の強さの秘密に迫るんですから！

金原　でも強さの秘密って言ったら、それはもう強い先輩がたくさんいたからだよ。とにかく高田さんとか安生さんが強くて、ホント嫌になったもん。

――嫌になるぐらいの強さですか？

金原　ホントそうだったよ。でも上にそういう先輩が居れば居るほどさ、後輩は揉まれて強くなっていくからね。基礎練習とかもホント凄かったし。

――どんな感じだったんですか？

金原　スクワットとかも「何回やれ」って言われるんじゃなくて、延々やらされてさ。

――まだそういうのが残ってた時代なんですね。

金原　スクワット５００回と四股１００回やって、レッグランジやって。腕立てやって。ブリッジ3分やって、腹筋を２００回やって。それで柔軟運動やる。これは先輩は来る前にはやらなきゃいけなかったんですけど。

――それからスパーリングですか？

金原　そうなんだけど、昔のスパーリングって今と違ってずっと寝技なのよ。今は一回極まったら、立ち上がってまたスタンドから始めるんだけど。昔はアームロックを

92・12・22両国国技館　「第1回ジュニア・リーグ」の決勝を争った金原と高山（金原の優勝）。実は高山はデビュー戦から4試合連続で金原戦だったという。あの頃ならではである。

極めても離すだけで、そのサイドポジションのままもう一回始めるからさ、バンバン極められるんだよ（笑）。

――いわゆる「いじめスパーリング」ですね。

高山　30分とか1時間とか延々でしたからね。

金原　俺、最高2時間やったからね！

――2時間極められっぱなしですか！

高山　あれは金原さんだけでしたよ（笑）。

――金原さん、嫌われていたんじゃないですか？（笑）。

金原　違うよ！　練習生はそういうのに耐えて強くなっていくんだよ。しかもスパーリングが終わってチャンコ番で「お先に失礼します」って帰ろうとしたら、宮戸さんが「足の運動やっていけよ」って、またスクワットが始まるんだよ（笑）。そういうのを一年間は続けていたから、当時は体力凄いあったよね。

高山　それで俺らは練習でボロボロにされた後に、さらに「中野さん練習」っていうのがあったんですよ（笑）。

――中野さん練習！（笑）。それはどんな練習なんですか？

金原　中野さんって、合同練習には参加しないで、みんなが練習終わった後に時間をずらしてやってたのよ。「みんなと練習するのはおかしいだろ？　だから一人残れよ（語尾上げる）」って茨城弁で言われるの

元Uインターの選手が強いの

（笑）。

高山　それで練習生が一人残って、また中野さんと一から練習しなくちゃならないんですよ。スパーリングパートナーやミット持ちからやって。

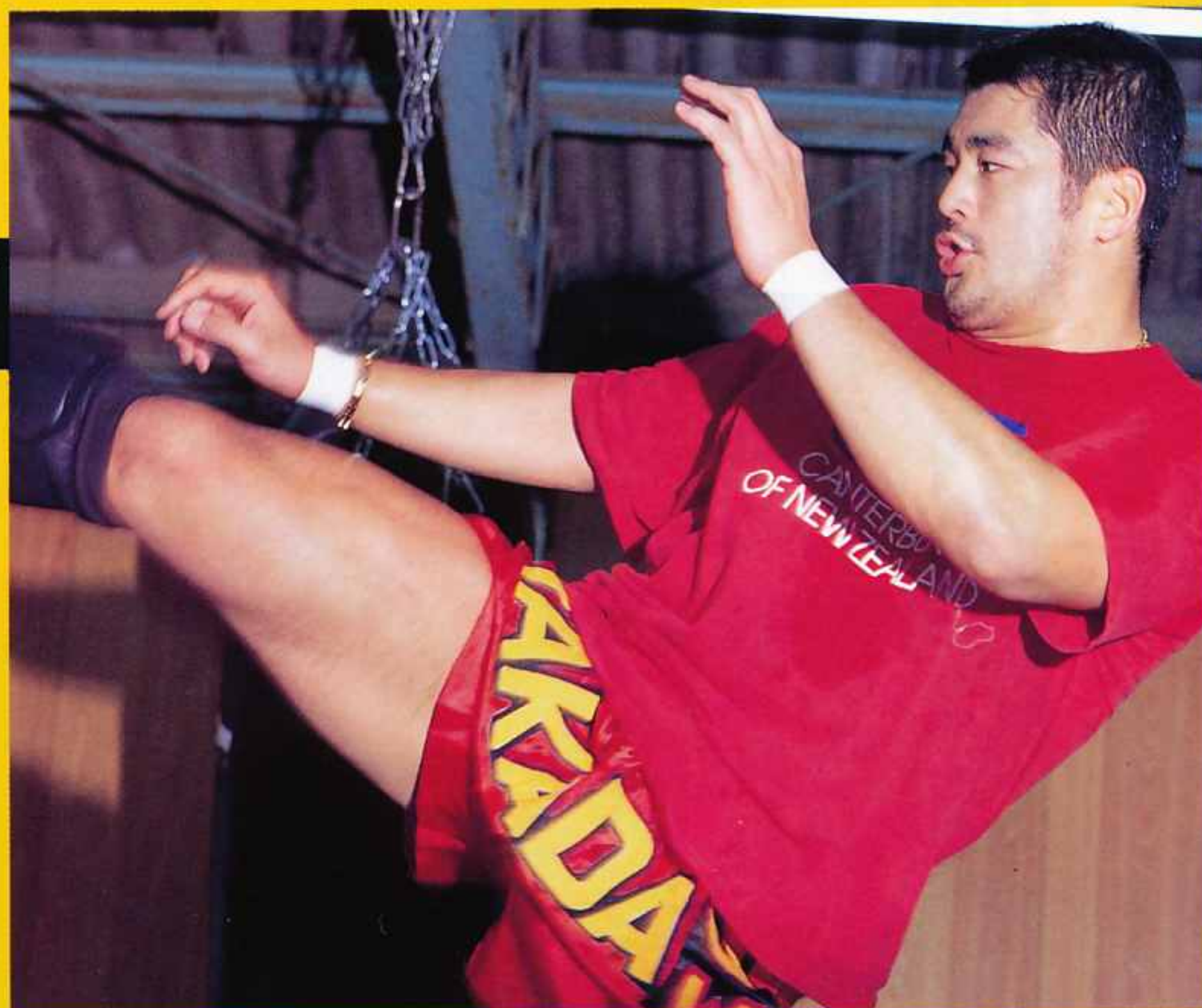
金原　最後に鏡を持ってね（笑）。

――鏡持って何をするんですか？

金原　練習後にシャワーを浴びて、髪の毛を整えるから俺らが鏡を持つの（笑）。

高山　エルビス張りのリーゼントをセットするために（笑）。

金原　それで高山君なんか照明の光を反射させて、中野さんの顔に当てたら、「まぶしいぞ、この野郎！」って怒られてさ（笑）。

――ガハハハ！　そんなイタズラもしてたんですね。

Uインターの社長であり、エースであり、絶対的な存在であった全盛期の高田。「猪木全盛時代の新日本」をモチーフとし、「地上最強のプロレス」を目指したUインターは、高田延彦という存在があってこそだったのだ。高田以来、プロレスで絶対的なエースは現れていない。出よ、絶対的エース！

金原　俺はね、「中野さん練習」は肩が痛いとか、どこが痛いとか言って、いつも逃げていたからね（笑）。そのぶん雑用が多かったけど。

高山　中野さんは「金原はB型だから合わねえ！」て言ってましたけど（笑）。

金原　俺を抜かして「中野さん練習」は代々受け継がれていってたからね。高山君やって、桜庭やって、山本（喧一）やって。

高山　そこで終わりですね。

金原　他の先輩もさ、時間通りに来るわけじゃないからさ。早い時間に来るときもあるし、俺らが帰るときに来るときもあるし。ホントキツかったよ。

――合宿所の生活はどうだったんですか？

金原　合宿所はキツかったよ。オレは道場より合宿所がキツかった！

――道場よりキツイ合宿所ってどんなところなんですか？

金原　とにかく先輩後輩の上下関係が厳しい所だからさ。風呂なんかも、上の人が入らないと入れないのよ。クタクタになって帰ってきてさ、風呂に入って寝たいのに、先輩が入らないといつまでも入れないから困ったよね。

高山　寮長が田村さんから垣原さんになってからは変わりましたけどね。

――田村さんが寮長のときはそんなに厳しかったんですか？

金原　厳しいよ～。

高山　メシを食うときも、テーブルは田村さんや垣原さんが食べる場所で、自分らはちゃぶ台出して床に座って食べてましたからね。

金原　コンビニに行くときもイチイチ許可とんなきゃいけなくてさ。

高山　金原さんがTVやラジカセ買うときも許可とってましたよね。「ラジカセ買っていいですか」って（笑）。

金原　イチイチ断ってから買いにいってたから、うざったくて外出するのが面倒くさくなってさ。練習する以外は部屋にずっと篭って暗かったよね。生気がないんだよ。当時の練習生はみんなそんな感じだよ。夢も希望もないようなね。

高山　世間をシャットアウトされてるわけですからね。プロレスの世界に入る前にあった自分の趣味とかあるじゃないですか。TVとか音楽聞くとか全くなくなりますからね。

――娑婆とは全く無縁になってたんですね。

金原　ホントそんなかんじ。刑務所よりもキツイと思うよ。あのときにだけは戻りたくないって思うよ、今でも。

――田村寮長の絶対王政時代には戻りたくないと（笑）。

金原　合宿所の全てが抑圧された雰囲気が凄い嫌だったね。

――田村さんが元Uインターの後輩と余り仲良くないのはそのせいですかね（笑）。

金原　それが大きいと思うよ。なんでここまで厳しくするのかわからなかったもんね。

――おそらく第2次UWFの合宿所がそういう感じだったんでしょうね。

高山　中野さんが寮長のときの人ですからね。「しなくちゃいけない」と思いこんでたんじゃないですかね。田村さんもまだ二十歳とかそれくらいでしたから。

金原　あの合宿所には戻りたくないね。道場でいくらスパーリングはやってもいいけど、合宿所だけは戻りたくない。

――そんなに嫌だったんですか（笑）。

高山　金原さんはおとなしくしてればいいのに、反発するから余計そうなったんです

黄×金原弘光

飲み会の最後は必ずみんなで肩組んでハウンドドッグを歌うんだよ（笑）

よ。

—そうなんですか（笑）。

金原 ちょこっとね（笑）。

高山 俺なんて25歳で入ったから、これはしょうがないって思いましたからね。

—昔の前田さんや高田さんがいたころの新日本プロレス合宿所はいろんなエピソードがあったわけですけど、そういうのは何かありますか？

金原 合宿所でそういうのはなかったね。

—みんなの飲んで騒いだりっていうのはなかったんですか？

金原 合宿所っていうか、試合が終わったあとに必ず飲み会があったの。

—試合後毎回あるんですか？

高山 毎回浴びるほど飲まされるんですよ（笑）。

—ガンガン蹴られて、ガンガン飲んで、メチャクチャ危険ですね（笑）。

金原 いま考えると危ないことしてたよね（笑）。大橋（秀行）さんのボクシングジムに通うようになって、「頭打ったあとは、バカになるから飲まない方がいい」って言われて、ビックリしたよね。

高山 でもそんなことも言ってられないんですよ（笑）。

金原 でもあの飲み会があったからUインターの団結力があったと言えるよね。

高山 最初は若手が高田さんに呼ばれて、高田さんのまわりで輪になるんですよ。そこにだんだん安生さんとか宮戸さんとかが加わってきて、最後は関係者全員が輪になって。

金原 輪になってからはほとんど一気だからね！

—噂に聞くUインター飲み会伝説ですね（笑）。

金原 ホントにキツイよ。全部ストレートだからね！ 高山君はジャック・ダニエル専門だったよね。

高山 アメリカ行ったときにジャック・ダニエルのアンケートに答えたら、なぜか会員証を送ってきたんですよ。高田さんがそれを知っていて、いつも「高山、あれ出して」って、みんなに会員証を見せるんです（笑）。それで「彼はジャックだから、ジャック・ダニエル持ってきて」って（笑）。

—飲み会では高山さんは「ジャック」でしたか（笑）。

金原 俺の場合は何を飲まされるか分からなかったからね。あれは死ぬよ、もう。話がちょっとでも止まるとすぐ一気なんだよ。どれぐらい飲んだか分からないよ！

—それが2次会、3次会と続くんですよね。

金原 そう！ 記憶がなくなるまで飲み続けるんだよ！ 歌も歌って最後はみんなでハウンドドッグを歌うのが決まりで（笑）。

高山 頃合いを見て入れとかなきゃいけないんですよ。まずは「パレットキャット」を入れて、盛り上がったところで「ブリッジ」。「ブリッジ」はUインターの社歌でしたから（笑）。

—ガハハハ！ 社歌がありましたか！（笑）。

金原 高田さんが真ん中でみんなで輪になって、肩組んで歌うんだよ（笑）。こういうをやってたら結束は固まるよね。きついけど楽しいんだよね！

—高田さんを頂点とした「組」とか「一家」って感じなんですね。

金原 そうだねえ。高田さんも飲むと喋りだすし普段と違うからさ、楽しかったよ。

高山 六本木でベロベロに飲んだ後に高田さんを自宅まで送りに行ったことがあるんですよ。そしたら「上がってけ！」って言われて、寝てる向井（亜紀）さんに「向井！ 起きろ！ 金原と高山が来てくれたぞ！」って叩き起こして（笑）。

金原 そういう機会じゃないと高田さんとは話しは出来なかったよ。

高山 高田さんは喋ってもらいたかったみたいでしたけどね。「何かあったら会社じゃなくて、俺に言えよ」って言ってましたし。

—高田さんも孤独にさせられた部分があったんでしょうね。

金原 俺らのことは宮戸さんで止まっていたからね。俺は高田さんと遊園地に行ったことがあるけどさ（笑）。

—高田さんと2人で遊園地ですか？（笑）。

金原 いや、もう1人知り合いの歯医者の先生がいたんだけどさ。日曜日に道場で高田さんとの練習が終わったら「金原、行くぞ！」って。どこに行くのかなあって思ってたら遊園地で。高田さんと一緒にジェットコースターとか乗りましたよ（笑）。

—それは良い思い出ですね〜（笑）。

金原 嬉しかったよね。神様みたいな存在だったからね。

高山 思い出といえば、金原さんと一緒にデビューした前田（雅和）さんが辞めたときに、みんな気落ちしてるだろうってことで、高田さんと向井さんがジュリアナに連れて行ってくれたんですよ。

金原 ジュリアナが全盛期の頃にね。

ジュリアナのお立ち台をUインターで占拠したこともありましたよ（笑）

高山　それで「ドレス・コードがあるから、みんなスーツ着て来いよ」って言われてね（笑）。
――それでみんなスーツ着ていったんですか？（笑）。
金原　そうなんだよ（笑）。それでジュリアナでも例によってまたみんなで飲み始めてさ、ラモスさんとかJリーグの選手も来てたんだけど、俺らが「ウガァー！」って飲んでいたから帰っちゃって（笑）。
――ラモスも逃げ出すUインター軍団（笑）。
金原　ぐでんぐでんに酔っぱらってさ、女の子しか上がっちゃいけないお立ち台にみんな登っちゃって、Uインターで占拠したりね（笑）。
――ガハハハ！　ジュリアナのお立ち台を占拠するUインターって凄い光景ですね（笑）。
金原　非常にタチが悪い客だったね（笑）。
高山　あのときは黒人のガードマンみたいなのがいたんだけど、俺らには何も言えないんですよ（笑）。
金原　どこ行っても凄かったよねえ。飲み会でもさ、遅れたりしたら駆けつけ3杯飲まされるじゃん。あれが嫌だったねえ！
高山　「早く追いつけ！」って飲まされるんだけど、追いつくどころか追い越すほど飲まされるんですよ（笑）。
金原　駆けつけビール大瓶3本とかさ。腹タップんタップんだよ！（笑）。
高山　俺なんて、駆けつけでジャック・ダニエルでしたからね（笑）。
――ガハハハ！「駆けつけジャック・ダニエル」（笑）。
高山　駆けつけでボトル一本空けるんだから（笑）。ブッ倒れましたよ。
金原　でも、どんなに飲んでもさ、高田さんをタクシーに乗せるまでが仕事だからさ、潰れることはなかったよね。俺か高山君のどちらかが絶対居なきゃいけないっていうのは、暗黙の了解でお互いにあったよね。「今日は頼む！」みたいね。
――そういう教育も徹底されていたんですね。
金原　今でもそうだよね。最後まで高田さんを見送んないと。
高山　カバンと持とうとしたりね（笑）。今でもそういう気分になりますよ。高田さんに「やめろ、バカヤロー」って言われるけど。
――しかし皆さん、酒グセは悪そうですよね（笑）。
金原　練習生の頃はストレスがたまってるからね。飲んで暴れて発散するんだよ。でも最近はオレたちも大人の飲み方してるよね。
高山　それは当たり前ですよ（笑）。
金原　物とか壊さないようにしてるからね（笑）。
高山　でもみんなそうでしたから。松井（大二郎）とか喧一とかもそうですからね。
――ヤマケンさんも危ないんですか？
高山　暴れるっていうか訳分かんないですね。松井も高田さんの知り合いの店の玄関でもどしちゃったりね（笑）。それでぶん殴ったことあったからね。桜庭がなんて合宿所で酔っぱらって、寝てる後輩のふとんの上にションベンしちゃって（笑）。
――でも、そうやって飲んでバカやって、練習はガッチリっていうのは、プロレス団体として理想的ですよ。
金原　うん、練習はホントにきつかったからね。高田さんとのスパーリングもきつかったけど、安生さんの「ラッパ」なんてホント嫌だった！
――「ラッパ」って何ですか？
高山　グラウンドで上になってタテ四方の態勢でお腹を顔に当てるんですよ。それで息が出来ないから「プーッ」って呼吸音が出るからラッパなんです（笑）。
金原　宮戸さんが安生さんと練習生がスパーリングしてると「安生さん！　ラッパ行けよ、ラッパ！」って横槍いれてさ（笑）。宮戸さんは練習生が「ギャー」って悲鳴を上げてるのが大好きだから。
高山　「ラッパ」は溺れるときと同じ感覚でしたね。もがいてももがいても取れないし。
金原　逃げても逃げても安生さんの腹の肉が口に入ってくるから（笑）。でもそういうのをやってきたからグラウンドで逃げるのが上手くなったんだよ。

――元Uインター勢の強さの秘密が「ラッパ」のおかげというのも凄いですね（笑）。みんな上の人とはスパーリングをやっていたわけですね。
金原　練習生はみんなそうだよね。上の人同士はあんまりやらなかったけど。
――中野さんは「中野さん練習」をやってたし（笑）。
金原　中野さんは試合当日になんないと上の人とは会わないぐらいだったからね。
高山　「中野さん練習」してるときに安生さんなんかが道場に入ってくると、気まずい雰囲気になりましたからね（笑）。
金原　安生さんなんか帰っちゃうんだよね。夜練習しようと思って来てもさ（笑）。

ホント先輩は厳しかったですからね。宮戸さんなんか練習生規制係みたいなかんじだったからさ。常に言われそうな雰囲気だったからいつもビクビクしてたね。あと宮戸さんは安生さんとの絡みが面白かったね（笑）。
高山　面白かった（笑）。会社の方針なんかを練習中に急に話し始めて。
——練習中に取締役会議開始ですか！（笑）。
高山　段々二人とも荒々しくなって、大声で今にも殴り合いにならんばかりの騒ぎになるんですよ（笑）。
金原　俺らも止めなきゃって思うんだけど、いつも最後のオチがあって、宮戸さんが安生さんに「だからあんたはアントニオ猪木の前を黙って横切って藤原喜明にぶん殴られるだよ！」それで安生さんが「何年前の話をしてるんだよ！」って。それで宮戸さんが「ハハハハハ！」ってなって二人で車に乗って帰るんですよ（笑）。
——ワケ分かんない関係ですね（笑）。
高山　しょっちゅうケンカして、いつも終わり方が一緒。それで宮戸さん免許なかったから、安生さんが運転して帰るんですから（笑）。
金原　この二人は一体どういう繋がりなのって（笑）。宮戸さんはチャンコの味もうるさかったからさ。
——宮戸さんは味への探求心は相当強かったらしいですね（笑）。
金原　だってさ、しまいには自分のこと「宮富徳」って言い出してさ（笑）。
——ガハハハハ！　宮富徳！（笑）。
高山　オレとか高山君はチャンコ番から卒業してたから良かったけどさ。当時のチャンコ番は大変だったと思うよ。
高山　山本喧一が犠牲者（笑）。凄かったですよ。周富徳の本を買ってきて、それを再現するんですよ（笑）。その辺の八百屋では売ってないモノを材料するから、高島屋まで買いに行かせて。出来はおいしいんですけどね。

ある日、宮戸さんが「宮富徳」を名乗りだしたよね（笑）

金原　チャーハンとか海老チリとかさ。ホントにうまいの！
——道場の食事とは思えないものが出てくるんですね（笑）。
金原　それでメシの前に「チャンコ番長からのお知らせです！　海老チリは一人2個までです！」って宮戸さんが言うの（笑）。
——料理長の挨拶があるわけですね（笑）。
高山　料理にはこだわってましたからね。山本なんて「できるのが遅い」って、宮戸さんに中華の鉄のお玉で殴られてましたから。それで血が噴水のように噴き出して（笑）。
金原　そういえば、高山君も松井（大二郎）に同じ様なことやったよね（笑）。
高山　松井も失敗が多かったんですよ。それで「今度やったらどうすんだ」って聞いたら「殴ってください！」っていうんですよ。でも松井の頭は固くて殴ったら痛いから、木槌で叩いたんですけど、角が当たっちゃって噴血（笑）。
金原　オレは高山君の後輩じゃなくてつくづく良かった思うもんね（笑）。
高山　みんなそう言いますよね（笑）。
金原　だって怖いじゃん！　上山龍紀なんかもさ、高山君に怒られて前蹴り喰らってジャッキー・チェンの映画みたいに道場の壁まで5メートルぐらいふっ飛んだからね（笑）。
高山　それは覚えてないなあ。上山じゃないヤツにやったのは覚えているけど（笑）。
金原　高山君は口での追いつめかたも凄かったからね。キングダムのときに豊永（稔）がノイローゼになって出ていったからね（笑）。
高山　「幼稚園からやり直せ。入園願書をオレがもらってきてやるから」って言って（笑）。
金原　こんなおっきな先輩に言われたら恐ろしいよね。震え上がるね。ワキで見てると面白いんだけどさ（笑）。
高山　また真剣に後輩を叱ってるのに、金原さんはニヤニヤしながら近づいて来てチャチャ入れるんですよね（笑）。
——金原さんとか高山さんは怖かった先輩って誰ですか？
金原　そりゃ、みんな怖かったよ。でも宮戸さんが一番怖い。高田さんが怒る前に怒って練習生をちゃんと教育してたからね。
——山本小鉄さんみたいな感じですか？
金原　そうそう。
高山　なんか粗相があったらマズイってのをいつも考えていました

からね。

金原　リングで練習しててさ、誰かがふざけてエルボードロップとかやったことがあって。俺らが「なにプロレスやってんだよ！」って言ってたら、宮戸さんが奥から血相変えて飛び出してきてね「お前ら、プロレスとは何だよ！」「プロレスを説明してみろよ！」って怒鳴られて、そのあと「プロレスとはな」って延々説教されたことがある（笑）。

――それは今と変わってないんですね（笑）。安生さんはどういう感じだったんですか？

高山　宮戸さんの通訳ですよ。外人には英語を喋って、若手には体を使って「ラッパ」で宮戸さんを喜ばして（笑）。

金原　手となり足となって（笑）。

高山　宮戸さんは脳味噌だけ使って、実際にやるのは全部安生さんでしたからね（笑）。

――安生さんはやっぱり陽気な方なんですか？

高山　最初は分かんなかったですよね。

金原　安生さんは急に弾けちゃったよね。宮戸さんと別れてからだよね。自分の頭脳で動きだしてから。

――なるほど（笑）。逆説的に言うと宮戸さんが「200％男」のキャラを作ったわけですね（笑）。

金原　それまでは、あんなに喋る人だとは思わなかったよね。そして行き着いた先が、ゴールデンカップス（笑）。

――まってました！（笑）。

金原　でも高山君なんてゴールデンカップスをやった影響はあるでしょ？

高山　ゴールデンカップスやってなかったら、ノーフィアーもやってないですからね。

金原　いまは「ノーフィアー」ってやっているけど、昔は安生さんが「ウィーアー」って言って「ゴールデンカップス！」ってやってたんだから（笑）。

みんな俺の後輩じゃなくてよかったって言うんですよ（笑）

高山　「ノーフィアー！」ってやり始めたとき、安生さんに「あれは単純過ぎる」って言われたんだけど、受けちゃったじゃない。それで安生さんに会ったときに「安生さんの業界を見る目も衰えてますね」って言ったら「いやあ、高山君の言う通りだよ（笑）」って（笑）。

――高山さんはゴールデンカップスに入ったきっかけは何だったですか？

高山　あれは新日本と対抗戦やってるときに、高田さんが足ケガしちゃったんで、安生さんと垣原さんを全面出そうって話になったんですよ。でも安生さん的にはしっくり来なかったみたいで、それでボクを使ってみようってなったんです。

金原　実は俺も誘われたんだよね（笑）。

――え！　金原さんもゴールデンカップスにですか!?

金原　安生さんが「今度ユニット作ろうと思うんだけど、金原はどうする？」って聞かれて。「ボクはいいです。」って（笑）。

――世が世なら、安生、金原、高山のゴールデンカップスが実現してたんですね（笑）。

金原　二人じゃさみしいし、もう一人入れるかって。それで山本が入ったんだけどね。CDとかも出してたよね（笑）。

高山　ビデオは2本出てるんですよ。

金原　凄いよね！　試合前に歌うんだから！（笑）。

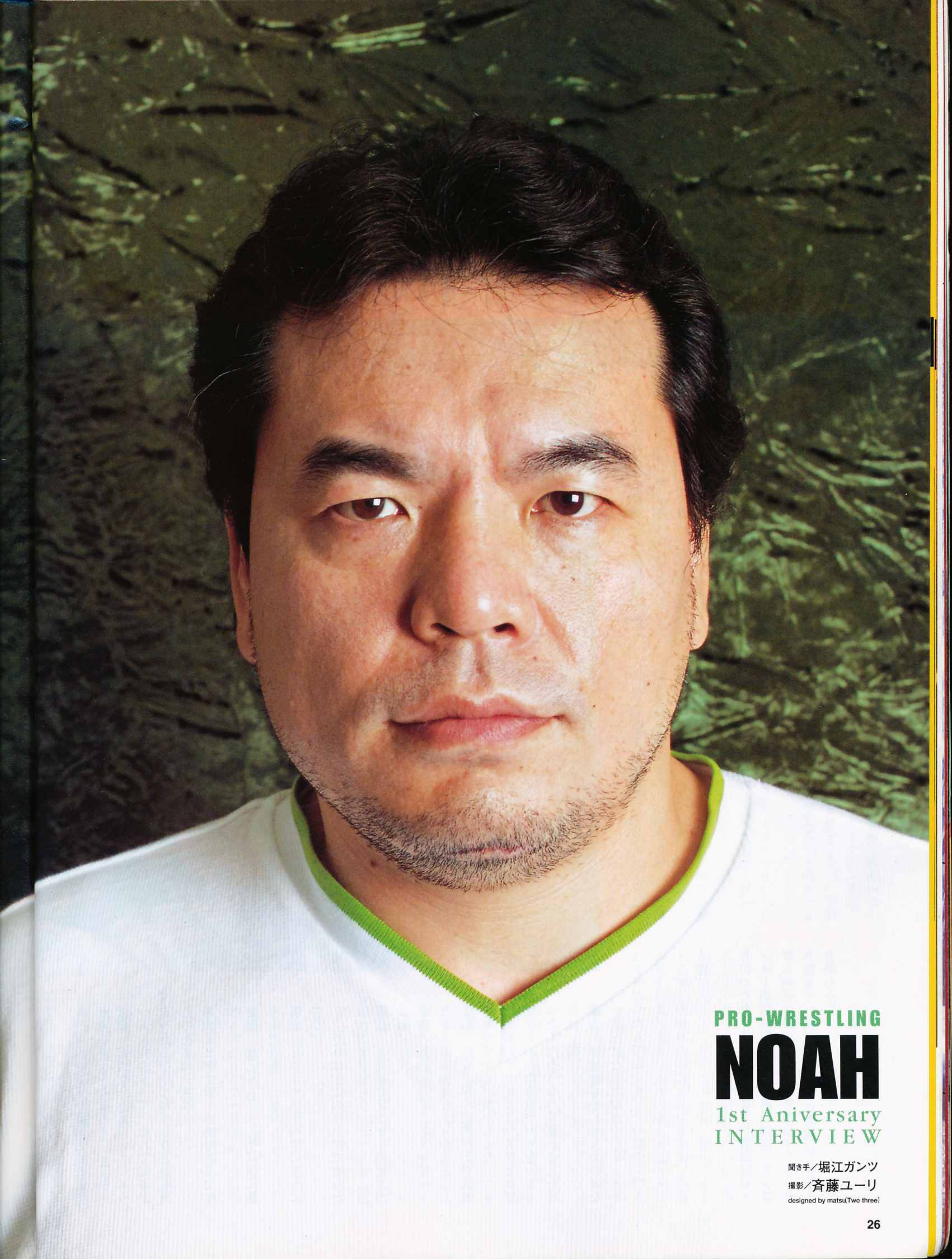
高山　ビューティーペアのように（笑）。

――それはどこのリングで歌ったんですか？

高山　末期のUインターのときだよね。

金原　あの頃は100％マシンとか200％マシンとかもあったよね。（笑）。なんか新日と対抗戦をやってから、おかしくなってきたからね。タイガーマスクとコブラが上がった時点でどうなっちゃったんだろうなって思いましたけどね（笑）。

高山　対抗戦をやらなきゃいけない状況になった時点でUインターはダメだったんでしょう。その前の「ワールドトーナメント」。あれがコケたからUインターが崩れたんだと思いますよ、今思えば。

といった所で今回はここまで。次回はUインター崩壊秘話、面白新弟子列伝、キングダム時代の話、そして現在のUインターOB話まで、秘蔵写真と共にお届けします。お楽しみに！

PRO-WRESTLING
NOAH
1st Aniversary
INTERVIEW

聞き手／堀江ガンツ
撮影／斉藤ユーリ
designed by matsu(Two three)

マット界再編の鍵を握る団体NOAH
2年目の〝大航海〟は遂に〝大陸〟を目指すのか！

新日本と交流してもノアが取り込まれることはありえない！

三沢光晴

Mitsuharu Misawa

旗揚げ、ZERO―ONEとの交流、小川との遭遇、ノーフィアー高山『PRIDE』出陣、秋山の新日武道館来場……。この1年間、激動の航海をしてきたNOAH。「自由」の旗印に恥じない英断を積み重ね、当初の予想以上の輝きを見せている。

そして勝負の2年目、NOAHはいよいよ、"大陸"新日本プロレスを目指す航海に出るのか？

マット界再編の鍵を握るのは、やはりこの男・三沢光晴だ！

――三沢さん、ノア旗揚げ一周年おめでとうございます！　まずは、あまりにもオーソドックスな質問で恐縮なんですけど、この1年という時間は、三沢さんにとって長かったですか？

三沢　一年は早かったですねぇ。早かったんですけど、「まだ1年なんだ」って感じもあるんですよ。全日本に上がっていたことが遥か昔のような感じがするんですよね。

――ホントにいろんなことがありましたよね。ボクらも三沢さんと橋本さんや、小川さんの試合がこんなに早く見られるとは思いませんでしたから。

三沢　それは俺も旗揚げしたときには想像すらしてなかったことだし。明日なにが起こるかわからない世界ですからね。すべてはそのときの流れで、やった方がいいかなっていう判断をしただけですから。

――やはりZERO―ONEとの交流なんかもマット界の流れをみて、やるべきだという判断をくだしたわけでか？

三沢　あれは交流なのかわかんないですけど。

――交流まで行ってないかもしれない。

三沢　まぁ、あれは結果的にウチの実力をアピールできたんで、あれはあれで良かったんでしょうね。

――中でも力皇さんや杉浦さん、丸藤さんら若手選手が大いに実力をアピールしましたよね。

三沢　だから、この1年で一番の収穫はやっぱり若手選手の成長でしょうね。

――ノアになって一番目を引くことは、若手選手に個性が出たというか、選手として一本立ちしたことのような気もしますからね。

三沢　ウチは「お前はこういうスタイルでやれ」っていうんじゃないですから。でも、「こうやれ」って言わないことは、逆にシビアな部分でもあるし。

――自分で考えて行動を起こす選手と考えない選手では、大きく差が出てくるわけですね。

三沢　だから今回ノアになって、客層も変わって、誰を見に来てるのかっていうと、やっぱり頑張ってる選手なんですよ。

――あ、メインイベンターに限らず、頑張っている選手はお客が呼べるわけですね。

三沢　いまは強いトップがいなきゃいけない時代と、前座からメインまで誰の試合でも楽しめる時代っていうのが、ちょうどつながってるときだと思うんですよ。

――特にノアはインターネットなんかでも、ほとんどの若い選手にファンが作った応援のホームページがあるくらいですもんね。

三沢　団体としたら、特定の選手ひとりの人気でもっていたら、その人が怪我したときにキツいですよね。今回小橋が怪我で休んでますけど、そのおかげで小橋がいなくなってもそれほどの影響は出なかったんでね。小橋が戻れば、もっと盛り上がると思いますけど。逆にいまあんまりお客さん入ってなかったら、小橋がいけないってなっちゃうし（笑）。

全日本に上がっていたことが遥か昔のように思えますね

――それにしても1年間でうまく選手が育ちましたよね。

三沢　若いヤツがね、殻を破った選手が多いですね。これからが大変なんですけどね、必ず壁にブチ当るときがきますから。

――その壁をブチ破る手段じゃないですけど、今回、秋山選手が「新日参戦」を宣言したり、金丸選手が「新日のジュニアに興味がある」みたいなことを言ってますよね。三沢さんは基本的に、そういったこともファンが望めば、実現に努力しようというお考えなんですよね？

三沢　でもね、ファンが望むことっていうのは、レスラーにとっては面倒くさいことが多いんですよ（笑）。あんまりやりたくないカードとか。

――でも面倒くさくても、応えていかなきゃいけないかなっていう気持ちはあるわけですか？

三沢　そういう気持ちはありますよ。選手もいちレスラーとしてやりたいっていうのがあるだろうし。でも、その段取りを組むのは会社の仕事じゃないですか（笑）。

――「社長、お願いします」と（笑）。

三沢　やらせてあげたいとは思うけど、一人が動くと、どれだけの人間が動いて、どれだけの労力を使うかっていうのがあるじゃないですか。そういったことをわかった上で、それでもやりたいぐらいの気持ちがあるならば、やってあげようっていう気持ちは常にありますけどね。

――生半可な気持ちで言ってもらっても困ると。

船出から1年。たかが1年といえど、現在とは選手の表情、風貌が様変わりしていることに気づくだろう。特に若い選手は、見た目も中身も大きく成長した。勝負の2年目、ノアはどんな航海をしていくのだろうか。

三沢　ハッキリ言って、俺、自分のことだったら絶対動かないですよ。やんない方が楽でいいよ。リングで闘うだけだったらいいけど、そこまでの交渉とか、面倒くさいからヤだよ。誰かやってくれよっていうね（笑）。

——ある意味、リング上で闘う以上に、リングに上がるまでが大変なんですね。

三沢　そういう部分でね、ノアのことも考えてほしいというか。自分が一番大事でしょうけど、みんなのことを考えられる人間になってほしいですよね。

——高山選手なんかは、その点考えてる人なんじゃないですか？

三沢　高山選手はそのためにフリーという手段取りましたからね。でもフリーっていうのは大変ですよ。ケガをしても病気をしても、すべて己に降りかかることですから。そういう道を選んでまでもフリーになるっていうのは、自分のやりたいことをやれるっていう自己満足の部分だけですからね。その自己満足が大事なんですけど。

——いまはフリー流行りというか、一部では「団体プロレスが崩壊し始めている」と言われたり、「プロダクション形式が21世紀のプロレスだ」みたいな声もありますけど、三沢さんは逆に団体というものをしっかりしていこうというお考えなんですか？

三沢　そうじゃないと、若い選手が育たないですからね。これからプロレスをやっていきたいっていうのが入って来れないし、基本を教えられないですよ。

——長期的な考えでいくと、いまのシステムを変えるつもりはない、と。

三沢　そうですね。明日もわからない仕事をしてるわけですからね。怪我したら終わりとか、そういうのは怖いでしょう。プロダクション形式は言葉は悪いですが使い捨てですからね。ダメになって、「もういらないよ」って言われたら終わりですから。それだったら保証してあげて、安心して闘ける状況を作ってあげないとね。

——なるほど。ところで、いまZERO—ONEとの交流がストップしてますけど、その最大の理由は、橋本さんの交渉のやり方なんでしょうか？

三沢　あれはねぇ、橋本の場合は「こうやろうと思うんですけど、どうでしょうか？」じゃないの。「この日やるんで、出てもらえますか？」なの。

——交渉前に決定事項になってるわけですね（笑）。

三沢　それはちょっと違うだろう、と。4月の武道館のときだって、シリーズが終わって3日後にあったわけじゃないですか。そんな無理な話でしょ。そこを昔、昔のプロレスのノリでね、「待ってるぞ！」とかね、そうやってこじつけるのがね、俺はどうも好きじゃない（キッパリ）。

——マスコミを最大限に利用しようとしてるのが裏目に出てますよね。

三沢　書く方としては、そういうことがあった方が書きやすいんだろうけど。それはお互いね、プロレスをやってる俺らと、プロレスを書いてるあなたたちがそんなことやってるから、メジャーになれないんですよ。

——耳が痛いですね。

三沢　レスラーも話題を作ることは確かに必要ですよ。そうしないとお客も来ないですよ。だからそれも必要だと思いますけど、それればっかりっていうのはね。

——これからはプロレス用語ばかりではダメということですね。

三沢　「こうなったら凄いでしょ？」って言われても、こっちとしては「そうするには、どうしたらいいんですか？」って聞き返したくなる。人の心を自分が発した言葉で煩わせたくないっていうかね、変に期待させたりとか、それがダメだったときにショックを与えてもいけないし、言葉って大事なんですよ。わかって発言してくれないと。

——一言でファンからなにから、みんな巻き込むわけですからね。

三沢　言ってないことが報道されることもありますしね。

——ニュアンスが全然違ったり。

三沢　「そうする」と「そうしようと思う」じゃ全然違いますからね。そこらへんもそうだし、マスコミとレスラーにはね、信頼してないヤツには美味しい話は言えないですよ。

——橋本さんは、変にサービス精神旺盛なんですかね。

三沢　乗せられちゃうんだろうね。すぐ「え、知ってんの？」とか言っちゃうから、「やっぱそういう話があるんじゃん」てさ。誘導尋問に落ちやすいタイプ（笑）。

——昔、三沢さんが全日本時代に、闘魂三銃士の方々と極秘で会ったときも、橋本さんが言っちゃったらしいですからね（笑）。

三沢　あの時でも会ってメシ食ったってだけでも、なんかあると思われるわけですよ。そのへんは気をつけないと。

——やっぱり団体間の交渉っていうのは、非常にデリケートな問題なわけですね。その点今回、秋山さんの新日本参戦の件は、ビックリするぐらいスムーズに話が進んでる気がするんですけど、これは窓口が変わったっていう部分が大きいんですか？

三沢　それはありますね。

——やはり長州さんから藤波さん、蝶野さんに変わったということが。

三沢　いや、向こうの窓口っていうか、こっちの窓口が変わったことも大きいでしょう。馬場さんは「そういうことは絶対揉める」っていうのがあったから、嫌がってたんですよ。俺だって、揉めないとは思ってないですよ。揉めるんだろうなと思ってやってますけど、それを揉めないようにやってますからね。

——藤波社長とは何回かお話しているんですか？

三沢　1回だけですよ。挨拶ぐらいはしてますけど、まともに喋ったのは1回。

——話してみた印象はどうなんでしょう？

三沢　わかんないですよ。酒でも飲めばわかりあえると思うんですけど、まぁ徐々にね。

——藤波さんなんかは早くも「俺も三沢と

3・4両国、4・18武道館で行われたZERO-ONEでは、タッグながら三沢vs橋本、三沢vs小川、秋山vs永田が実現し、今年上半期マット界の話題を独占。この奇跡のような興行が再び実現することはあるのか？

Mitsuharu

やりたい」って話してましたけど（笑）。なんでそんなに先走って言っちゃうんだろう（笑）、そんな話もないのに。

――藤波さんも橋本さんと同じように、自分の夢を、とりあえず口に出しがちなタイプみたいですからね（笑）。

三沢　いい人なんでしょうけどね（笑）。それでスタッフが踊らされちゃったりするじゃないですか。考えて言えばいいのに。俺だったら言わないですけど。

――ノアと新日本の交流っていうのは、マット界の起爆剤になるような話題で大賛成なんですけど、いま新日本プロレスがマット界統一というか、新日本を母体にして、あらゆる有名選手が新日本プロレスのビッグマッチに集まるみたいな形にしようとしているじゃないですか。だから交流することによって、ノアが新日本に取り込まれないかっていうことを、ちょっと危惧しているんですけど。

三沢　ノアが取り込まれることはないでしょうね（キッパリ）。

――その点には絶対の自信がある、と。

三沢　ありますよ。それに選手集めたからって統一じゃないですよ、客を集めて統一ですよ。

――ではノアが目指すのは、選手を広げるというよりも、クオリティーを高めるという感じですか？

三沢　そっちの方が大事だと思うし。育ちが違った人間だけを集めて、同じ志でやって行くって難しいですよ。

――それはプロレスに対する考え方が違うということですか？

三沢　それもあるし、やっぱり男の世界っていうのは、育ててくれた人がいて、「この人のために頑張ろう」っていうのがあるわけじゃないですか。そういう気持ちがないと、やっていけないですよね。自分の体痛めて、命削ってやってるわけですから。それがね、上に立ってる人間が何も考えてなかったらね「なんでこんな人のために」ってなるわけじゃないですか。最終的には自分のためなんですけど、それを評価してくれない人間のためにはできませんよ。

――そういった意味でも、団体プロレスというのは意味があるわけですね。それとは別に、いま、オープンフィンガーグローブをつけてプロレスする「格プロ」とか呼ばれてる試合が増えてますけど、そういう流れについてはどう思われますか？

三沢　やっててつまらないと思いますけどね。

――やっててつまらない！

三沢　プロレスラーなんだから、体を全部使って、空間を自由に使ってプロレスなんじゃないですか。他のスポーツでできないことをするからプロレスなんじゃないですか？

――それをわざわざ限定することないだろう、と。

三沢　俺はそう思うんですけどね。

――三沢さんも、小川選手や村上選手と対戦したとき、やりづらかったようなお話をされてましたけど、面白かったか、面白くなかったかで言うと、どうですか？

三沢　面白くなくはないかなっていう、微妙なとこでしょうね。

――それは相手が小川選手だからっていうのはありますか？

三沢　どうなんでしょうねぇ。こっちも、どんなもんなのかなっていうのもあったし。レスラーとしてオールラウンドなのかな、とか。なんでもできる選手じゃない人と闘うときは、気を使わないといけないんですよ。「こいつにこの技かけたらイッちゃうな」っていうときは、ある程度自分の中で制御しなきゃいけないわけじゃないですか。だから、そういう意味では疲れる。

――ブレーキ踏み疲れみたいな感じですか？

三沢　そうですね。

――あの小川直也を相手に、「力を制御しなきゃいけない」っていうのも凄いですね。

三沢　自分が楽しめる試合をできない相手とか、いろんなスタイルでできない相手は、ホントに強い選手なのかなって思いますからね。どうしても技の幅とかが狭まりますからね。たぶん自分で試合してて、「つまんねぇな」ってなってくると思いますよ。

――ノアの選手であぁいう闘いをしたいっていう選手が出てきたら、どうしますか？

三沢　やりたいんだったら、別にいいですよ。身をもって、そのスタイルの限界を感じてもらいますから。

――三沢さんには、きっと限界を感じるだろうっていうのが見えてるわけですね。

三沢　楽しくないと思うしね。楽しめるところがないと。シビアな世界ですからね、楽しめるところがないと。アマチュアの世界でやったら「厳重注意」なことでもプロレスだからできることもあるし。それで精神的に優位に立つとかね、そういうのがあっていいんじゃないですか。

――スタイルは違いますけど、技が限定されるということでは、三沢さんもタイガーマスク時代にそれを感じたりしたんですか？

三沢　感じましたよ。あれは、自分がそうやりたいってもんでもなかったですから。

――それなのに「タイガーマスクはこうあるべき」っていうのがあるわけですね。

三沢　完全にベビーフェイスじゃなきゃいけないし。相手をおちょくってみたいときがあっても、そんなことしちゃいけないし（笑）。

――子供の夢を壊しちゃいけない（笑）。

三沢　でも、アニメの『タイガーマスク』って、俺らの年代は知ってたけど、来てる子どもたちは知ってたのかっていうのがあるよね（笑）。

――とっくに放送は終わってるわけですからね（笑）。

三沢　いまでも親子連れに会うとね、お父さんが「昔タイガーマスクだった人だよ」ってさ、子どもは知らねえだろって（笑）。

――ではこの辺で、ノアの方向性とは別に、三沢さん個人の野望っていうをお聞きしたいんですけど。

三沢　欲っていうのかなぁ？　まだまだレスラーとして、気持ち的には衰えないっていうのはありますよ。

――第一線で闘い続けるということですか。

三沢　うん、「練習しなきゃダメだな」って思ってるうちはまだ大丈夫かなって。体力的なもんじゃないですよね、結局。精神的なもんだと思ってますからね。年食うとね、どうしても筋肉痛になったりしますけど（笑）。たまにね、鏡の前でちょっとナルシストになってポージングしたりね、「筋肉落ちちゃねぇな」って（笑）。

――まだまだイケるぜ、と（笑）。これから誰と闘いたいとか、そういう希望は別にありませんか？

三沢　誰っていうのはないですけどね。レスラーとしての向上心はまだまだありますよ。自分で自分に満足してないですからね。

――三沢さんみたいなトップレスラーが、さらに上を目指してるわけですか！

三沢　「一試合、一試合、一生懸命」って言っても、気分が乗らないときとか、体調が悪くて試合したくないときってあるんですよ。そういうときとか「高校時代、もう

Mitsuharu Misawa

www.noah.co.jp
「格プロ」はやっててつまんないと思うよね

新日本に自分から動いてまでの魅力はまだないね

ちょっと練習しとけばよかったな」とか思ったりしますからね。

——そんなことまで思うことがありますか！

三沢　でも戻んないですからね。いま一生懸命やるしかねぇんだなって。年取ると、「若いヤツはいいなぁ」とか言うけど、お前も若い頃あったんだよっていう（笑）。だから俺は、年取った時「あのとき一生懸命やってたからいいや」って思いたいですよね。

——秋山選手が新日本に参戦したいという話が進んでいますけど、その闘いの中に三沢さんも入っていきたいっていう気持ちはあります？

三沢　入っていきたいっていうのはないですね。入らないといけなくなったら、そうなったときに考えようと思って。いまからいろいろ考えてもしょうがないやって。だから自分から動いてまでって魅力は俺の中ではまだないですね。

——過去、一度だけ上がったことのある新日本（90年2月11日・東京ドーム）のイメージっていうのはどんなものですか？

三沢　あのときはそんなにプレッシャーなかったですね、タッグマッチだったし。パートナーも上の人間とだったし。それが、立場が下の人間とだったらね、「俺が頑張るから、俺の姿を見て頑張ってくれよ」とか思ったりしますけどね。ただ、新日本とやったとして、そのあとどうすんだっていうね。それで引いちゃうってこともあるじゃないですか。そういうことがないように、地固めしなきゃいけないんだよっていう。「ここの選手といい試合したね」だけじゃなくって、「ノアの大会の試合ってどういうんだろう？」って興味沸かせないといけないんですよ。

——打って出たあとには、お土産を持って帰らないと意味がないわけですね。

三沢　そういう考えで出してますからね。結果的にそうなってるし。旗揚げ前とかもね、ウチの丸藤とか金丸とかでね、よそのファンをこっちに引っ張ろうとしたりね。それが功を奏してね、うまい具合にいったけど（笑）。そういう自信もありましたからね。

——では今回も新日本に自信を持って秋山選手を送り出すと。

三沢　それは徐々にね、段階を経て（笑）。

——そういう意味で、今回武道館のメインイベントで三沢さんと秋山さんのGHCタイトルマッチがありますけど、いまのノアの頂上対決ですよね。これはいまのマット界の中で、もっともハイレベルな闘いを見せるという意気込みはありますか？

三沢　それぐらいの試合しますよ。

——どんな試合を見せたいっていうのはありますか？

三沢　どういう試合をみせたいというより、どういう試合になるのか自分でもわからない方が面白いのかなって。秋山も、全日本でやってたときと違いますからね。自分を出せるようになってるし。

Mitsuharu Misawa

——秋山さんなんかは「前はロボットが試合してた」って言ってましたからね（笑）。今度は感情までぶつかりあう戦いになるんじゃないですか？

三沢　そのつもりで行きますよ。そういう意味で以前とは、まったく違った試合になるでしょうね。

——秋山選手は「三沢さんと試合をしたら、俺がコントロールしている」みたいな発言もしていますけど。

三沢　そういう部分はあるんじゃないですか。

——そこを認めますか！

三沢　でも、間違っちゃいけないのは、試合はひとりじゃできないってことですよ。そういう考えで落ちていった人間はいっぱいいますからね。上を狙うとか、勢いのあるヤツは自信があるだろうし。結果はどうなるかわかんないですけど、そのあとが大事なんですよ。仮に秋山が勝ったとしたら、これから身をもってわかることですから。それが今回なのかはわかんないですけど。

——上になれば責任も違ってくるわけですからね。

三沢　「自分はこれだけやってる」と思っていても、この世界はファンが認めるかどうかの世界ですからね。そこらへんに難しさがあるし、ファンがどう捉えるか楽しみですよね。

【01年7月7日／プロレスリング・ノア事務所にて収録】

いつ、なんどき、

誰の~~挑戦~~でも受ける

相談

橋本真也の

破壊王的人生相談 其の弐

人生ケサ斬りチョップ

一刀両断！

&7/12・13 ZERO-ONE2連戦レポート付

ヨッ！　お前ら待たせたな！　前回は手作りがモットーの『真撃』の準備で時間が取れず相談に乗れなくて正直スマン……って、それは健介か。ダーハッハッ！　おかげさまで真撃の評判は良かった。しかし、今度の8・30のカードが全然決まらん！　ムシャクシャするから今回は下ネタしか受けん！　オイ、ジャイ子はどうした？

聞き手／チョロ
構成／坂井ノブ
撮影／丸山剛史
designed by matsu（Two three）

秘策がある！ 寝込みを襲え！ くわえてる時に歯をたてろ！

Q 「プロレス好きの彼の技の実験台にされるのがイヤです。悔しいから何か仕返しをしたいのですが、力ではかないません。彼を『ギャフン』と言わせる方法をぜひ伝授してください」（学者犬／17歳・高校生・♀）

A まあ、よくある話だな。やっぱり弱いものを実験台にするっていうのは、よく聞くもんや。それでケガしちゃったとかな。素人は限度がわかんねえからさ。こういう場合は野郎がグースカ寝てるときに逆十字を取れ！　ギリギリまで伸ばしておいて、目が覚めたときに「どうだ、まいったか！」と、「まいったと言わなきゃ折るぞ！」と。もうひとつ、秘策がある！　寝込みを襲え！　**くわえてる時に歯をたてろ！**　17歳にそういうこと言っちゃいけねえか（笑）。でも、そういうことや。以上！

Q 「長いこと付き合ってる男の人がいるんですけど、最近Hもマンネリ気味で、次の展開が読めるのでつまらないんです。でもそんなこと彼に言えません。何か新しい刺激が欲しいと思うのですが、橋本さんならどうされますか？　また女性からどんなことをされたら嬉しいですか？」（アイアンのお祈／26歳・OL・♀）

A 26歳かぁ。結婚前から刺激がないんだったら、結婚したらもっとないぞ！　でもな、お前にも問題があるやろ？　ズバリ聞くが、**お前マグロじゃねえのか？**　全部してもらえると思ったら大間違いやぞ！　もっと**官能小説を読んで勉強することだ。**テメエだけが気持ちよくなってもダメや。相手もよくしないとな。俺もやってて、相手の反応がなきゃ面白くねえよ。たまに目を開けたまま見入ってるヤツもいるけど、あれは困っちゃうよな（笑）。やっぱし、お互い高めていかなきゃいけないからな。（急にかしこまって）人間は性行為のことを「セックス」と言いますから、決して「交尾」じゃないですから。官能ってのは、やっぱり脳に響かないと気持ちよくないんだよ。「カーン」「脳」ってぐらいだからな！　ダーッハッハッハッ！　まあいい。結局、お前は「まずはナメて、次は挿入して出す」という流れがわかっちゃってるからつまんないわけやろ？　でも、愛してたらいつもと同じでも感じるものだけどな。たまには**道具**に頼ってみたらどうだ（笑）。ある意味での飛び道具は必要かもな。それをやってから、もう一度相談してこい！　お前はどうなんだ？　**お前はどういうふうにしてるのか教えろ！**　以上！

Q 「彼にお弁当を作ってあげたいと思いますが、どんなメニューがいいのかわかりません。破壊王弁当をプロデュースした橋本さん、男がグッとくる料理をぜひ教えてください」（やりかけのひねりっこちゃん／18歳・短大生・♀）

橋本真也の破壊王的人生相談 其の弐 人生ケサ斬りチョップ 一刀両断！

A 男をアッと言わせるんだったら煮物やろ！「なんでこんなのができるんだ!?」とビックリさせることができるぞ。でもな、一度やってしまうと永遠にやんなきゃいけないから考えモンや。あと卵焼きは絶対不可欠や！ 18歳が作るっていったら卵焼きとかそんなんだろ？ **卵焼きは究極のお弁当やぞ！ 甘く見たらいかん。** 焼きすぎず、半熟過ぎず、焦げ目をほどほどに、甘く、中はトロリと、重ねてな。卵焼きひとつがおいしかったらあとは許されるようなところもあるからな。あとは間違っても、コンビニで買ってきたお惣菜なんか入れるんじゃねえぞ！ 『真撃』と一緒で、手作りっていうのがいいんや！ あとはご飯の真ん中には暑いから梅干しを入れとくように！ えっ？ 俺の好物は何かって？ 俺の場合、絶対に弁当に入ってなきゃいけないものは**赤いソーセージ**や！ やっぱりお弁当なんかは愛情が入ってると嬉しいもんだよ。俺の場合はかみさんと一緒になって初めてメシを付くってもらったときに、おかずを一口食べて、あとは**「まずい」**と言って全部食わなかったんや。その後、**卵掛けご飯で「ごちそうさま」したら泣いてたけどな。** でも、その行為がいいか悪いかは別にして、まずいものは「まずい」と意思表示をするのも大事やぞ！ 俺のかみさんは、それから料理がうまくなってきた。そういうやり方が決していいとは思わんがな。以上！

Q 「新社会人の女子です。私は人見知りが激しい自分がイヤでたまりません。初対面の人と会うと、言葉少なになってしまい、気の利いたことが言えず自己嫌悪に陥ります。いつも大胆な発言と男っぷりで人を惹きつける橋本さんに上手な人付き合いのコツを教えて欲しいと思います」 (匿名希望/？歳・？・♀)

A 俺もそうだったよ。この世界に入るまでは、好きな子が**100メートル向こう**を歩いていても赤面したぐらいだったもんや（遠い目）。向こうに気づかれなくてもそうだったよ。入ってからは逆になっちゃったけどな（笑）。でもな、やっぱり自分の思いを伝えるためには一歩踏み出さなきゃいけない。「意志を伝えたかったら飛び込まなきゃいけない」っていうのが**ウチのおばあちゃんの教え**やったからな。どうしても怖いと思ったら目をつぶって飛び込んじゃえ！ どうにかなるやろ。とにかく、その一歩を出すか出さないかだからな。一歩踏み出して失敗したらしょうがねえじゃん。何も言えなくて終わっちゃったら、しょうがねえとは言えないもんな。**勇気を出せ！** でも、正直な話、今でも自分の理想の女がいると固まっちゃうよな（笑）。それまでと態度が明らかに違うから。普通にやればいいのに、逆にそいつのことを祭り上げちゃうからうまくいかないんや……。俺も根っこ

俺もニャンニャン写真が流出する危険性は一度だけあった!

の部分では人見知りのところはあるから、お前の気持ちもよくわかる。でも、お前に言いたいのは、とにかく一歩踏み出せってことだ！ **感じたら走り出せ！** なんかスポーツ平和党みたいだけどな（笑）。自分を変えるのは自分の力しかないからな。一歩踏み出せ……**その一足が道となる**ってな（笑）。以上！

Q 「奥■恵のニャンニャン写真が流出してから、『芸能人でもやってるんだから』と言って彼がハメ撮りを強要してきます。私はそういうのはイヤなんですが、どう逃げればいいのか教えてください。また橋本さんはハメ撮りの経験はありますか？」 (ユキエ/24歳・保母・♀)

A (ニンマリしながら) **保母さん大好き！**（笑）。まあそれはいい。俺もハメ撮りはしたことあるぞ！ まあお互いに撮り合って、相手のポ●チン写真も撮ればいいんだよ。もし、その写真がどっかに流されたら流し返したらええやろ！ それに撮られるんだったら『キレイに色っぽく撮って』と頼むことだな。ただモノの周りばっかり撮られたらダメだけどな（笑）。『私を女優にして』と、撮ってもらえば**お互いを高める**ためにはいい行為だと思うぞ！ ただし、忘れちゃいけないのは、野郎が勃起してる情けない写真も一枚だけでもいいから持っておくことや！ 今は写真だけじゃなくてビデオやデジカメもあるし、現像に出さなくても済む方法があるわけだし。だったらそれは自由に活用するべきや。俺か？ 正直に言うと、**俺もニャンニャン写真が流出する危険性は過去に一度だけあった！** まあでも、それはベッドに横たわってるだけだから。やってる写真はないから大丈夫だ！ まあ流出したところで『**通りすがった女だ！**』って言うだけだから、俺の場合は**何も問題はない！** 以上！

Q 「破壊王、こんにちわ。私悩んでるんです。知り合って1ヶ月くらいの男性がいるのですが、出張先で知り合った関係なのでマジになるのも騙されてるのかも、私って地方妻？ いろんなこと考えて凄く辛いんです。やっぱり私遊ばれてるんでしょうか？ 地方妻がたくさんいた（？）破壊王はどんな考えで付き合ってたんですか？ やっぱり身体だけ？ 教えて、破壊王!!」 (ももちゃん/22歳・フリーター・♀)

A まあ男の地方といえば、若い頃は肉体を欲求するものだからな。それはしゃあないやろ。だけど、**行為の後で遊ばれてるかどうかわかるはずだ！** 行為の後、なんとなく家に帰されたり、「急用ができた」とか言ってお前から離れようとした場合は明らかに身体が目当てやぞ！ そうじゃなくて一日朝まで一緒にいてくれるようだったら、まあ安心してもいいだろう。でも、もし男にとって遊びであっても、お前が本気で好きなんだったら、本気にさせることをしなきゃいけねえな。相手に尽くしまくると損をするぞ。たまにはそっぽを向いたような素振りをしてみるといい。相手は追っかけてるくることもあると思うし。やっぱり、これも一歩踏み込まなきゃいけねえな（笑）。踏み出せばその一足が道となり……そういうことだ！ ようするに**チンポなんて簡単に入るけどな、気持ちがそこまで簡単に入るかっていったらそうはいかねえから！** その気持ちが裏切られるのをみんな怖がってるわけよ。

浮気って言ってもチンポを入れるだけの行為だったら別にいいんだよ！

みんなビビリながら寄っていくわけや。そんな人間なんて簡単に分かり合えたらおかしいよ。恋愛にビビッたら凄く淋しいよ……。俺も何回振られたことか（笑）。まあ、俺は自分で本気になったら終わることが多いな。大体往々にして俺は手に入らないものを欲しがるからな。ナニ？　相談の答えになってないだと？　まあ、俺の恋愛論はそんなとこや。とにかく行為が終わった後でどうかっていうのを観察してみろ！　あとはホントに好きだったら**奪ってしまえ！**　振られることも覚悟しないと、リスクを背負わなきゃおっきいものは手に入らないからな！　まあでも遠距離恋愛はツラいわな。男は絶対浮気するから！　浮気って言ってもチンポを入れるだけの行為だったら別にいいんだよ。そんなもん許してやれ！　男は処理だけできればスッキリするんだから。ところが自分の大事なものっていうのは違うとこに存在するんだよ。Hでもいろんな人とやって、「やっぱりお前がいいな」っていう場合もあるかもしれない。それを「最低！」っていうヤツがいるんだったらそれで結構！　でも、**「吟味」**という言葉があるやろ！　食べたヤツにしかわかんないということだな（笑）。なあ？　こんなことばっかり言って、俺人気さがんねえか？（笑）。ただし、これだけは言っておく！　病気をもらってきたら、その男は**減点3ポイント**だ。以上！

Q　「私は某所でレンタルビデオ店のパート勤務をしてる主婦です。実は最近入った社員の人に恋をしてしまったんです。話も面白くて仕事もできて見た目もかなりイケてます。脈ありそうな感じなんだけど独身の彼に対して既婚者の私からアプローチしてはいけない気がします。向こうから誘ってくれればいいんだけど。でも主婦として越えてはいけない一線があるのは承知してます。このやりきれなさ、なんなの？」（フリ／34歳・パート・♀）

A　これは惚れてしまったねぇ（しみじみと）。往々にしてこういう関係はムチャクチャ**いやらしいHができる**んだよ（笑）。そういう気持ちを抑えるのは難しいんだよな。でも、抑えようとすればするほど、抑えるのが無理になってくるんじゃないの？　あなたの中でもう答えは出てるはずだよ。ただ、旦那や子供と別れてまでその男と一緒になるのは有りえないことと思うからな。恋愛にルールはないけど、自分の中でどうしてもやりてえんだったらしょうがないよ。**不倫っていうのは遊びじゃねえから**な。

俺は家庭崩壊の危機に何回か直面してるからわかるんや（笑）。まあ、このケースみたいにちょうど10代の男と30半ばの女っていうのは、お互いに望んでるものが非常に一致するからな。**ちなみに旦那は最近、不発弾が多いのかな？**　表面上はうまくいってるかもしれないけど、女として満足してないんだろうな。それを旦那に急に求めても「何言ってんだ！」ってなるだろうし……。いろいろと難しい部分があると思うけど、自分が今まで旦那に見せなかった部分を持ってるんやろ？　それが爆発しそうになってる。それは俺には止められん！　ただ凄い興味はあるから、その後、あなたが一線を越えたなら様子を**また連絡してくれ！**　抑えられるんだったら抑えた方がいいのかもしれないけど、もう無理でしょ？　どう考えてもそこまでなっちゃったら。やっぱりスッキリした方がいいんじゃねえか？（笑）。好きになってしまったら止められないんだろうしな。え？　何でそんなに詳しく心理を分析してるんだって？　そんなの、このへんについて**俺は非常にスペシャリスト**やから！　この話ばっかりは「一歩踏み出せ！」とはなかなか言えないけどな（笑）。以上！

Q　「私は三沢社長の大ファンです。将来は社長の愛人になりたいんですけど、どういった努力をすればいいのかヒントを教えてください」（PP-7／？歳・キャットファイター・♀）

A　これは非常に難しいな（苦笑）。相手はタヌキだから！　お前もストレートに攻めるんじゃなくて、あの手この手で攻めないと。相手は一筋縄ではいかないからな。まあでも**ポエムを贈る**とかな、そういうのも結構効くんやぞ。「ん？　なんだこれは」って思うからな。それが「好きで好きです好きです」っていう単なる独りよがりになっちゃうと周りがそれを見てるから、相手は引くかもしれない。相手は秘密主義なところがあるからな。そういった意味では酒場で口説かれたりとか、そういうシチュエーションが凄く有効だと思うな。ただ、「私を愛人にしてください」っていうだけだったら誰でもできるやろ。相手だって警戒して「こいつはおかしいんじゃないか」って思うだろ。だから例えば「あなたに迷惑がかかっちゃいけないから、どこどこで待ってます」と、

そこで「私はあなたが好きです。良かったらエッチしてください」って頼むことだな（笑）。そんなに人前で「好きだ好きだ」って言ったら手を出せないもんや！（急に我に返って）そういえば、お前が愛人になりたい相手ってのは三沢だったっけ？　俺はこんなこと言っていいのか？（笑）。**三沢と思って言ってないことにしておいてくれ！**（笑）。いまさら遅いって？　まあ、仕方がない……。だったら、タイガードライバーでも喰らったらええやろ！　そのためには、まず三沢を満足させるような**技術**を身に付けておかないとな。三沢はヤワじゃないぞ。そんじょそこらの技術じゃダメや！　そういうことだよ（笑）。四次元殺法で攻められるぞ！　なんてったってGHC王者だからな。以上！

Q「私は女子プロレスファンです。高校を卒業したらすぐにでも女子プロに入りたいと思ってるのですが、男友達から、女子プロレス界はレズが多いと聞きました。私は普通に男の子が好きなので、そういう世界なのであれば躊躇してしまうんですが、本当のところを教えて下さい」

（レイカ／17歳・女子高生・♀）

A 踏み出せ！　Kに襲われることを考えろ！　それで**相手の弱点**を探るのもいいだろう。ダーッハッハッハッ！　それは冗談やけどな。宝塚もそういう噂は多いけど、女子プロ界の噂はよく聞くな。どうなんやろうな？　そういうこともあるのか？　男の世界はあんまりないぞ。ひとつ言いたいのは、**そんなことでビビッて自分の夢を諦めるな！**　もしかしたら、あと5年もしたらお前は入った団体の**女王様**になってるかもしれねえぞ（笑）。まあでも、それが気持ちよくなっちゃってるんだったら、しょうがねえよな（笑）。よく女子プロレスで三禁（※編集部注　酒・タバコ・男を禁止するという女子プロ界独特の掟）っていうけど、あれは**入って一年ぐらいなもんだろ？**　禁ずることによって、そっち方面への欲求がリング上で爆発するわけだから、それを引き出すのが目的じゃないの？　男とやりたかったら、頑張ってトップになれと。タバコ吸いたかったら、酒飲みたかったら頑張れと。え？　違うの？　現役である以上は、すべて禁止？　へぇ～。でもさ、なんで人間が酒を飲むかっていったら、自分をさらけ出させるためやろ？　酒飲んだ後の本音こそが、ホントの本音に近い部分があるからな。自分を一回壊して、それまでの自分を解放して自分を守るために酒を飲むわけだから。だからそれはいいことだと思うよ。まあ、そういうこと禁ずるから逆にその不満をエネルギーに変えてレスラーとしてキャリアを積んだらそれを爆発させるわけだよ、**いろんな意味でな**（笑）。女子プロが男を知ったら女性らしくなってダメだってよく聞くだと？　女子プロが女性らしくなったってかまわねえだろ。そうなったら女性らしさを武器にして闘えばいいわけだから。キレイな女子レスラーがいたっていいしな。白鳥智香子は辞めちゃったけどな（笑）。Kとかはその対極にいるけどさ（笑）。でもさ、女が女しか愛せなくなったり、男を受け付けなくなったりするのは悲しいよな。両刀っていうのはいいんじゃねえか？　俺もレズは許すからな。むしろ**レズは見てえんだよ**（笑）。ホモはイヤだけどな。これは有名な話だけど俺もSさんにちょっと撫でられたことはあるんや！　それ以外では今のところはないな。●●●●もそんな噂があるのか？　それは怖えな（笑）。逃げられねえだろ。ヘビに睨まれたような感じだよな。なにもデカイらしいからな。まあ、脱線しすぎたみたいなんで話を戻すとだな……三禁がイヤだから女子プロに入りたくないっていうのは**逃げ口実**だよ！　自分の夢を果たしたかったらそんなの関係ねえだろ！　プロレス辞めてくヤツはみんな**自分のせいにはしない**んだよ。途中で逃げてくヤツは絶対自分のせいにはしないから。「こんな世界は冗談じゃない」と。必ず人のせいにして辞めるから。そんなことにビビッて入門できないって言うんだったらお前は本気じゃないんだよ。悩んでないで一歩踏み出せ！　以上！

5年もしたら、お前は入った団体の女王様になってるかもしれねえ

橋本真也の破壊王的人生相談 其の弐 人生ケサ斬りチョップ 一刀両断！

★8月5日（日）（PM3:00～）
津田沼パルコA館1F特設会場（JR津田沼駅徒歩1分）

破壊王参戦決定!! 1対2トークバトル！

“破壊王”橋本真也 VS “編集王”谷川貞治&山口日昇

★テーマ『G1クライマックス大予想？』

※当日（8/5）、特設会場で3000円以上の商品をお買い上げの方先着100名に整理券をお配りします。

●企画／井上きびだんご　●協力／津田沼パルコ　●お問い合せ／グレート・アントニオ　03-3219-9550

お前らは人生経験が浅すぎる！

死ぬほど恋をしてから相談してこい!!

お前らまだまだ人生経験が浅すぎる！　恋をするなら死ぬほどの恋をしろ！　そして『愛と誠』を読め！　恋の相談はそれからだ！　強者からの相談を待ってるぞ！　最後に、ジャイ子！　なんで取材に来ねえんだよ？　次は必ず来いよ！　待ってるからな！　以上！

【宛先】〒151-0051　東京都渋谷区千駄ケ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス　紙のプロレスRADICAL編集部
『なんでジャイ子は来ねえんだ！』係まで

7.12＆7.13 お台場2連戦　ダイジェスト!!

構成／赤覆面X　撮影／平工幸雄

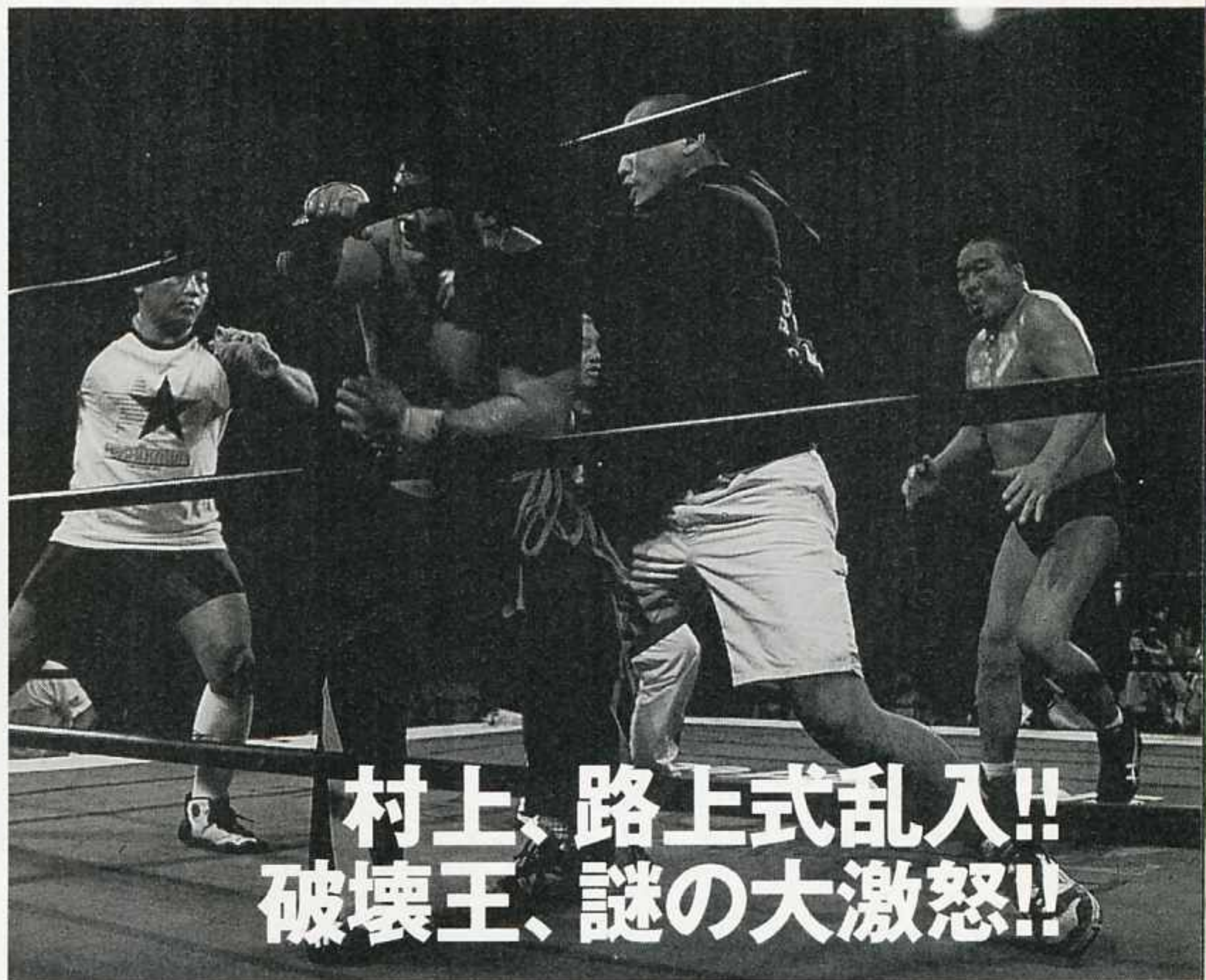
designed by さおとめの事務所

ホントにわからないゾ!!

7.12 in Zepp Tokyo

7・12&13に行われた、Zepp Tokyoで行われたZERO―ONEお台場2連戦。初日の客入りの悪さにはア然としたが、まったく破壊王には運がある！　結果的には面白かったゾ、2連戦！　押忍ッ！

破壊王的アレク再生計画

橋本&藤原組長vsアレク&臼田が初日のメイン。組長先発に対し、アレクが出ようとすると、組長は臼田を招き入れる。組長はアレクが出てくると、破壊王にタッチ。破壊王とアレクの満を持してのぶつかり合いかと思われたが、破壊王まで、アレクにシッシッ。"いないもの"として扱われ自軍コーナーで不満げのアレクに、とうとう橋本がキレた。「来るんだったら、来いよ！　コラッ！」。それから破壊王&組長に気持ちいいくらいにやられまくったアレクは次の日……

村上、路上式乱入!!　破壊王、謎の大激怒!!

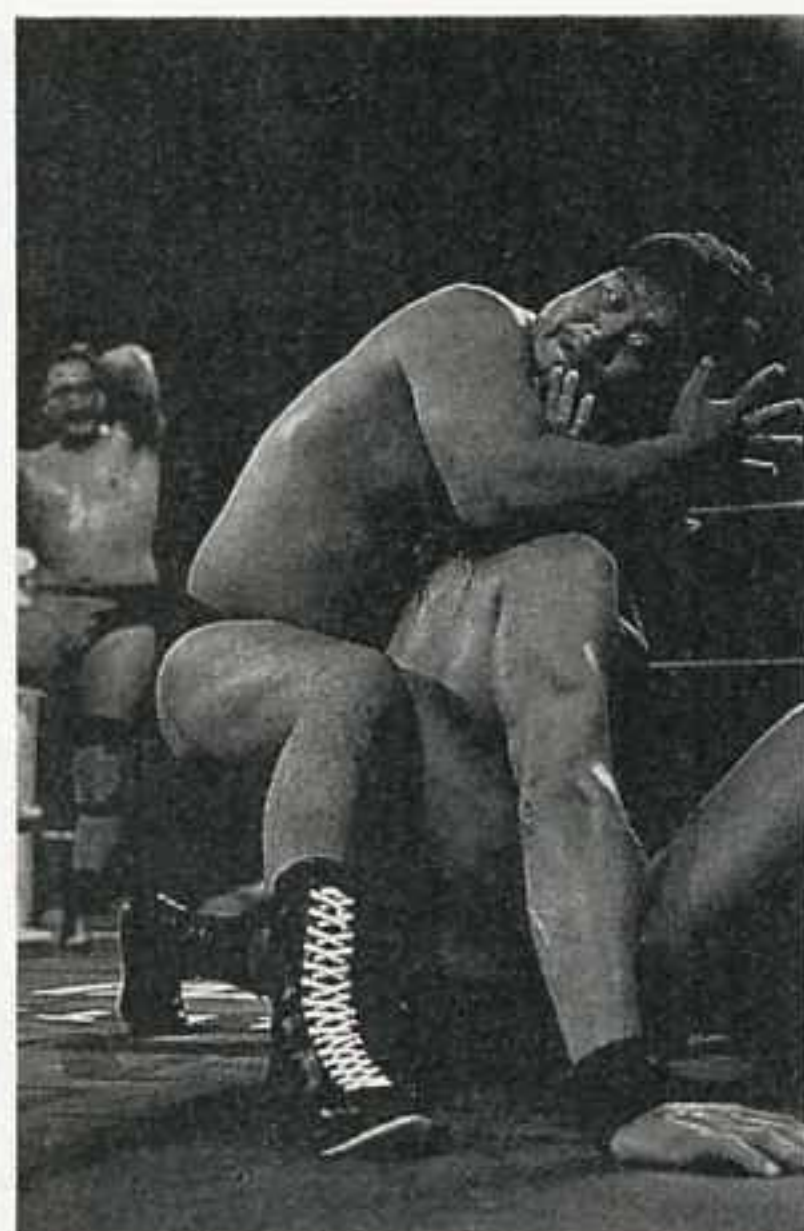
初日のメイン終了後、ファンに向かい挨拶する破壊王の背後から、"平成のテロリスト"村上一成が急襲！　この一撃は強烈無比で、破壊王も怒りの鉄拳を切り返す！　藤原組長やセコンド陣もたじろぐ、壮絶な大乱打戦へと発展してしまった。破壊王は鼻血、口の中から出血、襲撃した村上も青タンや口の中が膨れ上がる負傷を負った。何かがズレた緊迫感に、場内&バックステージには異様な雰囲気に包まれた。翌日に橋本と村上の絡みはなかった

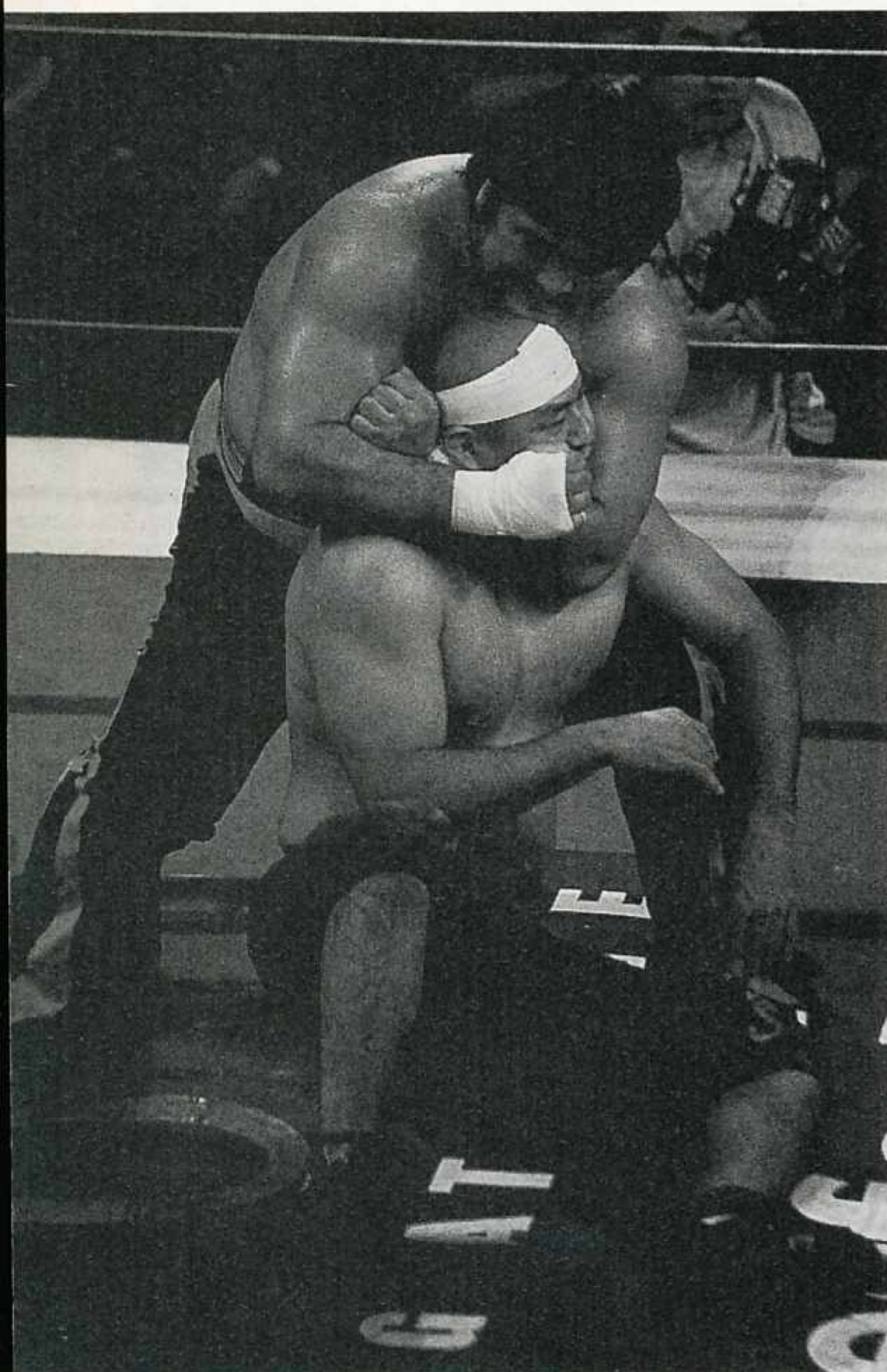
黒になってもコブラはコブラ

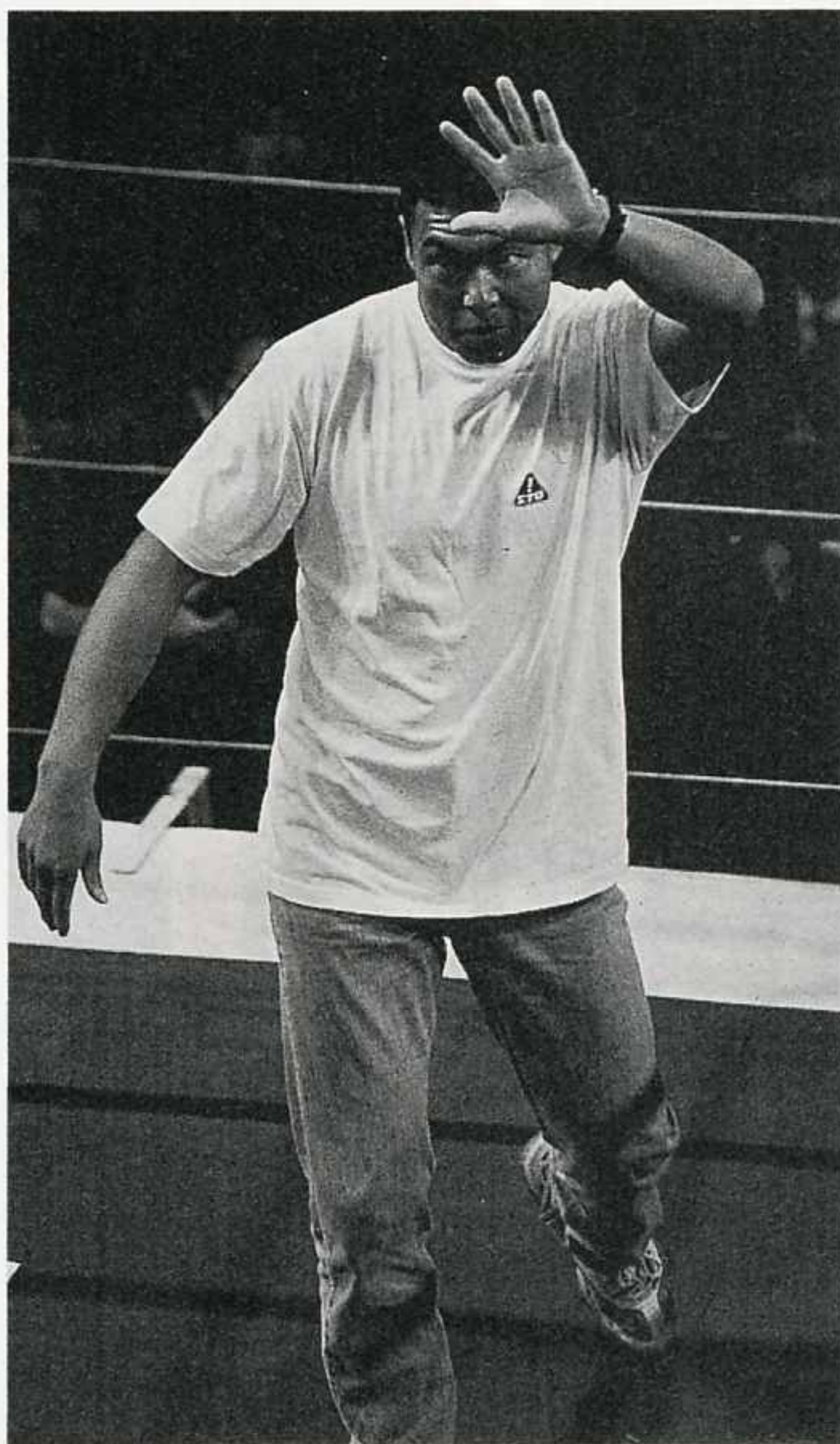
ブラック・コブラ見参！　最後は田中将斗にローリング・エルボーでピンフォールされたが、さすがマスクを黒に変えただけあって、いつもと違……わないコブラだった

石川社長、"無冠の帝王"を返上!!

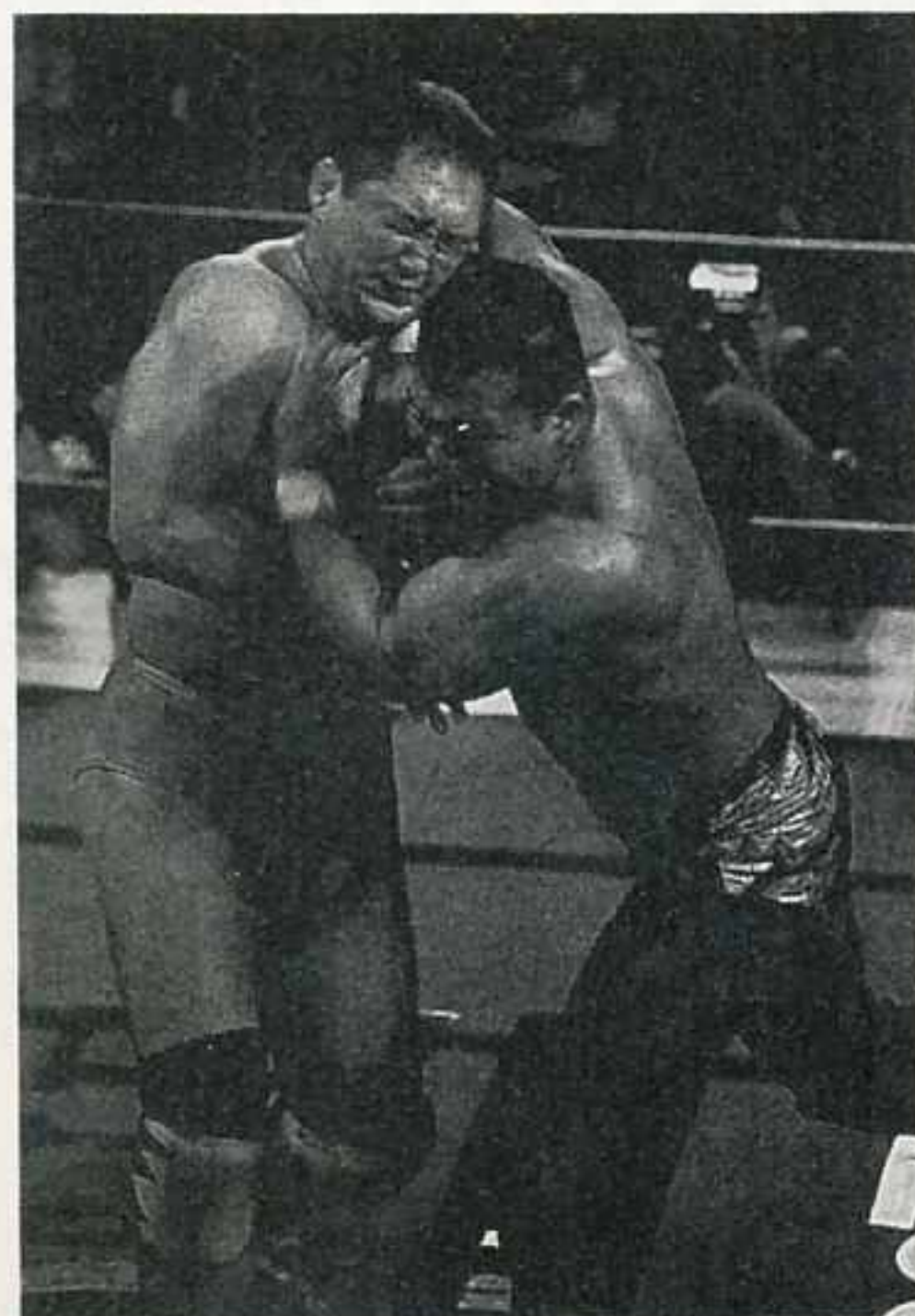
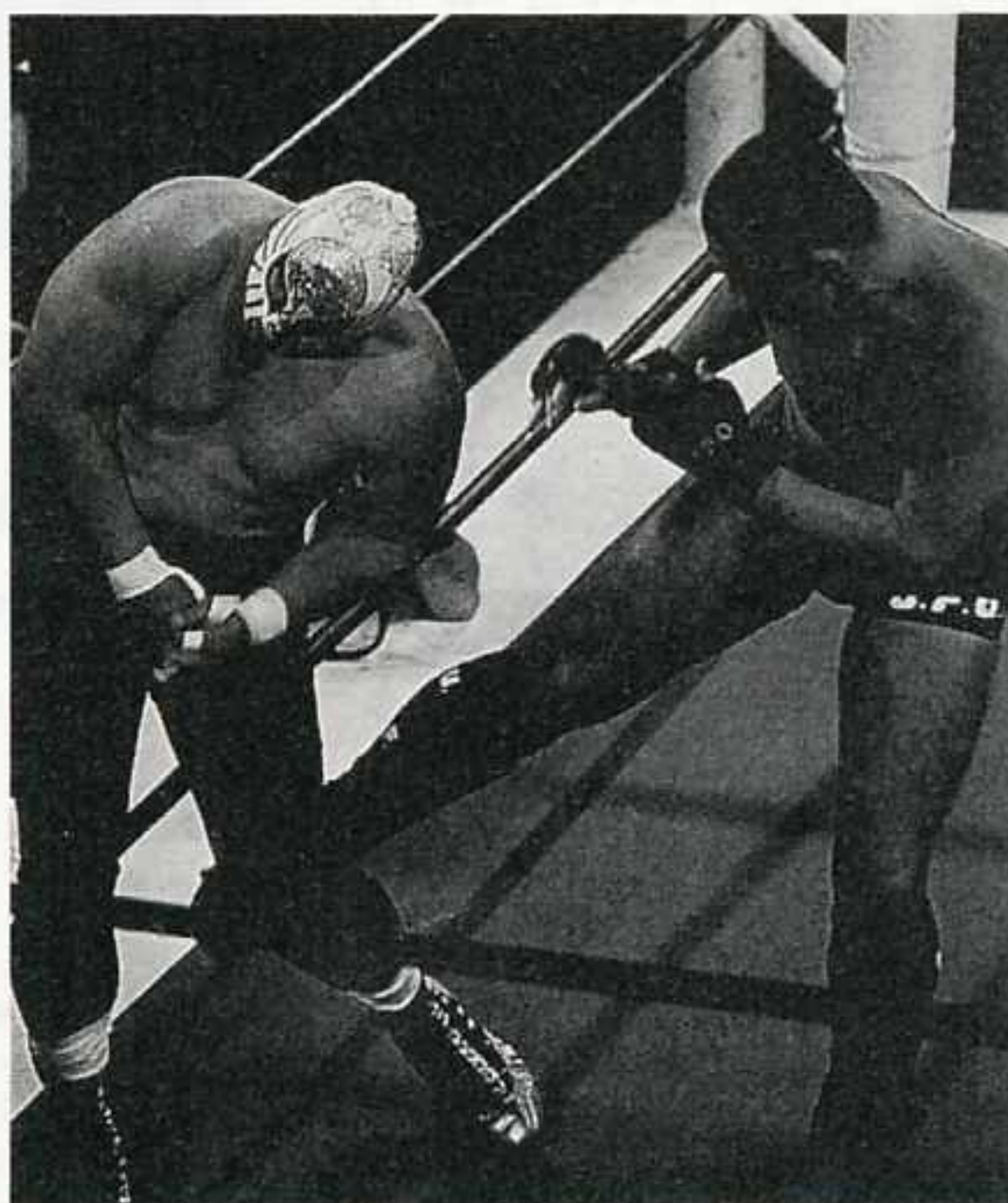
石川雄規&大谷晋二郎組が、スティーブ・コリノ&マイク・ラパダ組からNWAインタコンチネンタルタッグ王座を奪取！　石川はプロ入り初戴冠！　やったぜ、社長！　石川と大谷といえば、2人とも熱いが、その熱さの質はまったく違う。そして相手は80年代初頭のアメリカン・スタイル。噛み合わない試合になるかと思われたが、これがまた不思議で懐かしい味わいを醸し出していた。ちなみにコリノは、オーちゃんが巻いていたNWA世界ヘビー級の現王者だ

7.13 in Zepp Tokyo

誰も注目してなかったかもしれないけど(笑)

ZERO-ONEは何が起こるか

破壊王なくしてお台場なし!! 急遽第1試合で橋本vsアレク戦実現!!

アレクが2日目の大会開始と同時に、前日、コテンパンに叩きのめされた破壊王に対してリング上から対戦要求。破壊王はこれを快諾。急遽、橋本vsアレク戦という豪華な一戦が第1試合にラインナップされた。果敢に破壊王に立ち向かったアレクだったが、結果的にはあえなく轟沈。しかし、橋本が試合後、「アレクはモノになるかもしれない」とコメントしたように、ここのところ迷いがあったアレクの目が、確実に開いたのがわかる一戦だった

ギョッ!! オーちゃん、突如来場!!

2日目のビッグ・サプライズは、K—1迎撃宣言をするために訪れたオーちゃんの突如の登場！　休憩後、破壊王が「オガワッ！」と叫び、ホントにオーちゃんが出てきたときは、狭い場内が蜂の巣をつついたような騒ぎになった

大谷の「熱い奴集まれ!!」に集まった奴らは？

もともと大谷晋二郎世代をメインを据えるというコンセプトで立ち上がったこのお台場2連戦。2日目の大トリは、プロデューサーの大谷が田中将斗との"熱い"闘いで締めた。大谷は試合後、「熱いヤツはこれだけか？　熱いヤツはリングに上がれ！」と呼びかける。そこにまず村上が乗り込み、そして石川雄規、アレク、田中も呼応した。その様子を見た破壊王は「オマエら、やる気あるんだったら試合でやれや。近々試合組むゾ！」とマイクで宣言。近々ZERO—ONEのリングで「熱いヤツリーグ戦（仮）」が組まれることになりそうだ。主役は誰だ？

村上と破壊王の絡みなし!! なぜだ!? そして村上はコブラのマスクをはぐ!!

前日、破壊王に謎の襲撃を仕掛けた村上だが、2日目は橋本との接点はなし。異色の相手、コブラのマスクを剥いで、サッサと反則負けの道を選んでニヤリ。メインの大谷vs田中戦の後、大谷の呼びかけにまっ先に上がったのが村上だった

7.12&7.13 ZERO-ONEお台場2連戦リポート

偶然が転がりまくる破壊王ロマン!!

8.30の『真撃』が実に楽しみである

「利害を超越して　誰も出来ないこと　誰もやらないことを　夢としてそれに挑戦する!!　それが私のロマンである」――というアントンイズムを、絶賛引き継ぎ中の破壊王。

そんな破壊王ロマンは、「ZERO―ONEはみんなの団体や!」などと、よく考えればナンセンス極まりない、実現不可能なコンセプトまで持ち出しながらバク進している。

とにかく破壊王は強引だ。まさに「強引グ・マイウェイ」である。しかし、不思議なことに、その強引さゆえか、破壊王の周辺には、毎回毎回、磁場が発生している。ノア勢参戦、小川vs三沢という奇跡の絡みを実現させ、6・14『真撃』では大方の予想を覆し、見事な解放感を生みだしてしまったのだ。

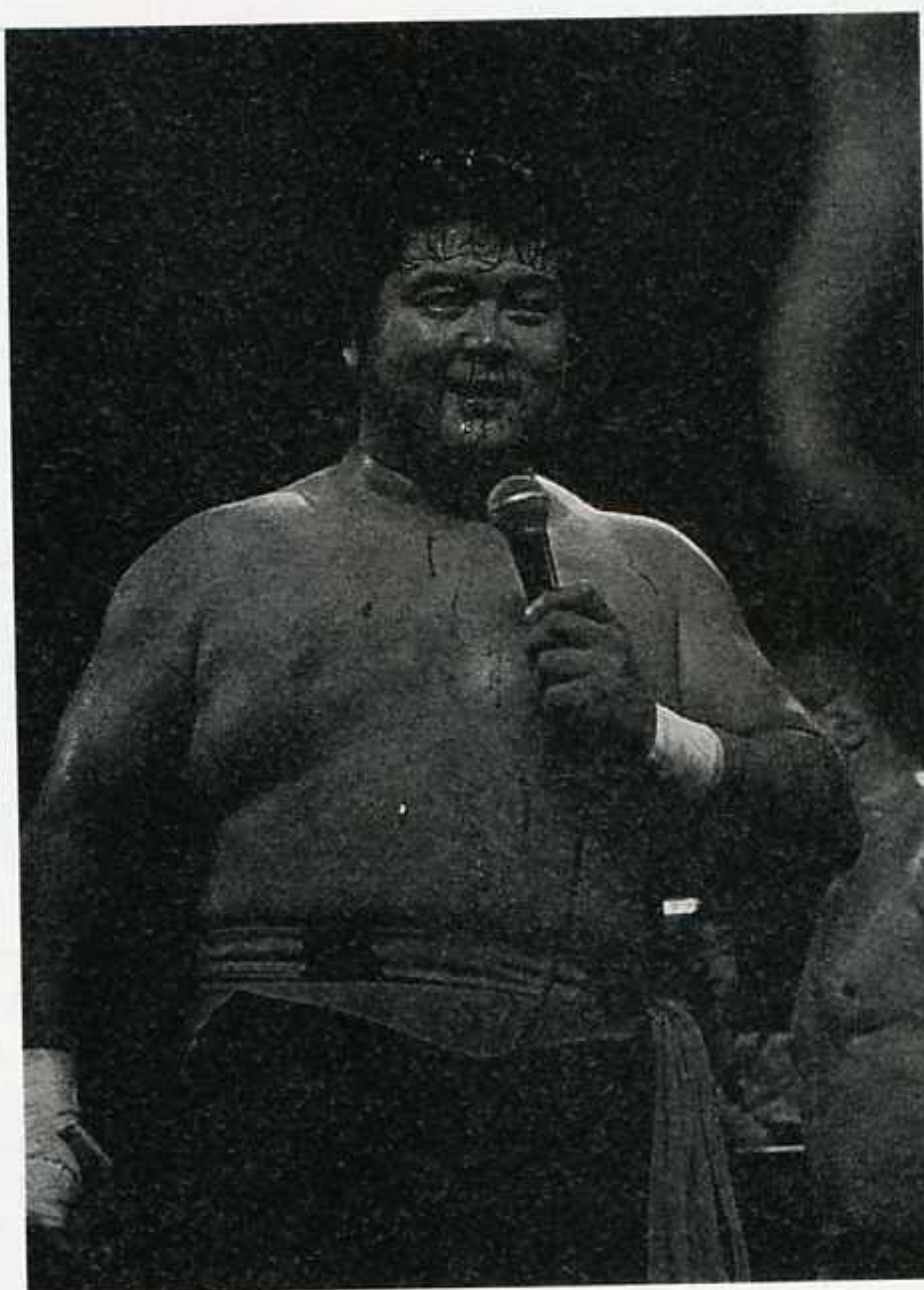
そんな流れの中で行われた7・12&7・13のお台場2連戦。地の利の悪いZepp Tokyoというライブハウスが会場だが、箱は小さいながら、いや、箱が小さいからこそ、コアなファンがこぞって注目しているだろうと思ったのだが、見事に誰も注目していなかったようだ。

初日は破壊王の試合が組まれてるにも関わらず、「入ってないなぁ～」という感じの入りなのだ。ファンの反応も全般的におとなしかった。

しかし、破壊王には偶然を呼び込む運がある。暖まってない会場でも、次々に個性ある闘いが繰り広げられ、「ひょっとしたら、相当オモシロイんじゃないか」と思えてくるからたまらない。

メインの破壊王&組長vsアレク&臼田のタッグマッチは、猪木さんが全盛期の頃の新日本チックな試合だった。

カンタンにいうと、アレクの眠ってる情念を、破壊王&組長が、まるでイジめるかのように引き出しにかかった試合だ。

組長先発に対し、アレクが出ようとすると、組長は臼田を招き入れる。しばらく組長と臼田の藤原組チックな絡みの後にアレクが出てくると、組長は破壊王にタッチ。さぁ、破壊王とアレクの満を持してのぶつかり合いかと思われたが、破壊王まで、アレクをシッシッと追い払う。〝いないもの〟として扱われ、仕方なくしばらく不満げの表情をしながら自軍コーナーで戦況を見つめるアレクに、とうとう橋本がキレた。「来るんだったら、来いよ!　コラッ!」。それからアレクは突貫す

るが、流血させられ、破壊王に「大塚ァ、おまえ、そんなもんかァ!!」と罵倒されながら、実に気持ちいいくらいにやられまくった。

試合後、破壊王に「立ってこい!」と言われ、ヘッドバットを思い切りかましていくアレク。「最初からそれをやれよ!」と破壊王。

生の感情をぶつけあいながらも、試合の伏線は転がりまくり、いつのまにかわけのわからない迫力に目を見張っているというのは、昔の新日本を思い出させる。

それだけではなかった。引き揚げようとした破壊王の背後から、〝平成のテロリスト〟村上一成が急襲したのだ。破壊王も怒りの鉄拳を切り返し、藤原組長やセコンド陣もたじろぐ、壮絶な大乱打戦へと発展してしまった。破壊王は鼻血&口の中から出血。襲撃した村上も青タンや口の中が膨れ上がっている。

何かがズレた。

村上は、翌日のコブラ戦が気に入らないという理由からの乱入だったようだが、破壊王はマイクを持つと、「(淡々と)村上クン、お前のぼせ上がってんなよ。(声を張り上げ)ちゃんとキッチリ!　仕事してからモノ言えよ、この野郎!!」とシュート活字的な絶叫!　控え室でも破壊王の怒りのエネルギーの放出の仕方は尋常じゃなかったし、翌日、破壊王と村上の絡みは何もなかったことが、偶発ぶりを物語っていた。

初日は大混乱の中で終わった。しかし、このズレをも「これはこれで面白いんじゃねえか!」と豪快に笑い飛ばす破壊王の懐の深さと豪快さは、いまのプロレス界では貴重だ。

初日がよかったせいか、2日目になると、入りもグンとよくなったし、オーちゃんがK―1迎撃宣言のため来場しビッグ・サプライズを起こした。ファンのノリも初日とはまったく違う熱があった。

もともと普段から、Vシネマ・フィーリング溢れまくる破壊王だが、大会場でのZERO―ONEや『真撃』が映画だとするなら、小さな箱でのZERO―ONEは、Vシネマを見る面白さがあったのだ。

しかも、Vシネマにも関わらず、偶然起こった劇を演出していくという迫力あるつくり方だった。

予算もないので、敵(俳優)も自分でつくっていかなければならない。

そういう境遇がうまいほうに転がっている。

そういえば、トム・ハワードはやっぱり最高だった。

いまのプロレス界は、破壊王なくして創造なし!　そういう状態にあるのだ。たぶん。

8・30の『真撃』でどういう偶然が転がるのか、実に楽しみである。

文／山口日昇

紙のプロレスRADICAL

2001 No.40 CONTENTS

No.40 Main-Event

さてはおまえプロレスファンだな　日昇

Cover Model
アントニオ猪木 vs モハメド・アリ

Art Director
出田さん● San Ideta

Design
Two Three
ヒサくん● Kun Hisa
マツくん● Kun Matsu
村松さん● San Muramatsu
グッチー● Gutty
ミネ● Mine

Saotome no jimusho
トメオ● Tomeo
ハナエ● Hanae
あっちゃん● Atchan

ZERO graphics
海老沢勇● Isao Ebisawa
古賀ゆきえ● Yukie Koga

※RADICALの意味は「根本的」「根元的」だって？
村上君、キッチリ仕事してからそういうこと言え！

ターザン山本 in紙プロ “呪い”の座談会

『PRIDE』から「新日本」という故郷に戻った〝噛みつき魔〟が久々に紙プロ座談会で咆吼!!

昭和59年のUWFから17年間、俺はホントに新日本プロレスに凄いモノになってほしいと思うがために、余計なことをしてきたんですよォオオオ!!

構成／山口日昇
撮影／堀江ガンツ
designed by さおとめの事務所

テンションの高いコミュニケーション それを俺は求めているわけですよォ

いまや、プロレスのライターor編集者を育てる『一気塾』の〝塾長〟という肩書きを持つターザン山本。その『一気塾』では〝モノの見方〟を教えてるという。〝感性の十字軍〟（だっけ）を標榜する塾長が、久々に『紙プロ』座談会に登場！ 落ち武者から塾長へと飛躍的なステップアップを果たしたターザンが、どんな塾長ぶりを発揮するのか、心して読めェエエエ！

◆　◆　◆

【部屋に入ってくるなり、いきなり大声で】

ターザン 腹立ったよォォォ!! ハ〜ラ立って腹立ってしようがないよォォ!!

山口 塾長！ どうしたんですか（笑）。

ターザン いやぁ、地下鉄乗ってたら、ガイジンのおばはんがドアをドンドン叩いて、警報機かなんかが鳴ったらしいんだよな。それでクソ暑い中、5分も足止め喰いましたよォォォ！

山口 5分くらい我慢すればいいじゃないですか。

ターザン 正確には4分！

山口 なお我慢ですよ、塾長（笑）。

豪 堪え性がないですね（笑）。

ターザン （仲居さんに向かって）まず、ごはん持ってきて、ごはん！

『一撲塾』塾長

山本隆司

ターザン山本

〒124-0022 東京都葛飾区

山口 いきなりごはんですか、塾長！ じゃあボクもごはん（笑）。

ターザン 俺は大盛りね！ こっちは普通盛り。

山口 なんで勝手に決める！（笑）。

ターザン 俺がVIPだからですよ。

豪 「俺がVIPで、後は平民だから普通盛りでいい」と（笑）。

ターザン 昨日（7月14日）、『一撲塾』の25人連れて、全日本プロレスを見に行ったんだよ。そのあと『魚民』で宴会やって、ファミリーレストランで朝5時までだもん。寝てないし、今日メシ食ってないんだよ〜。

山口 しっかし、山本さん、ホント恨みますよ！

ターザン 何が？

山口 （新人の片山ボンちゃんを指差しながら）こんな余計なの押しつけやがって（笑）。

ターザン いやいや、取った方が悪い（あっさりと）。取る取らないは、俺じゃないから。

山口 「俺が保証人になる」ってチョロに言ってらしいじゃないですか（笑）。

ターザン だって、そういったほうが早く電話が切れるから（あっさりと）。

山口 ガハハハッ！ だけどボンちゃんは電球も外せないし、ファックスは送れないし、コピーは取れないし。末恐ろしい人物ですよ！

ターザン カ●ワじゃないか！

山口 ある意味、カ●ワですよ（笑）。

豪 いい家に育ったから、世間ずれしてないんですよ。

山口 お母さんと会ったら、すごく上品な人でね。

ターザン 新地で高級クラブやってるんでしょ？

ボン 新地です、はい。

ターザン そういうところに生まれたかったなぁ、俺も（しみじみ）。

「ミッドナイト修学旅行」と題して「一撲塾」塾生27人と7・14全日本を合同観戦したという塾長。しかし、6人がドタキャンしたことに大炎上。きっと呪いがあるでしょう。

豪 そういうオチ（笑）。

山口 で、『一撲塾』の人たちと朝5時まで何話してたんですか？

ターザン 会社とかじゃプロレスの話、なかなかできないじゃない。で、仲間が出来たわけでしょ。そこで、俺の恋愛論を語るわけですよ（自慢げに）。

豪 プロレスと関係のない話を（笑）。

ターザン 俺の恋愛論を聞いて、俺が言ったことを『一撲塾』の塾生が言って、その女の子をものにしたという……。凄い話でしょ!?（自画自賛）

豪 凄い話じゃないですか！

山口 山本さんだって、うちの「青空プロレス道場」で彼女をモノにしたじゃないですか。一時期（笑）。

ターザン 俺は……なんだ……凄くいいんだよね。

豪 アハハハ！ 何がですか！

ターザン 今まで、嫁さんに逃げられたりとかあったでしょ。あれは次の人に譲り渡してるんだよね。

豪 なるほど。どんどん託して。

ターザン そうそう！ みんな再婚してるからね。よく出来てるよ、俺は。彼女たちは別に幸せを見つけてるんだよな。俺は幸せを求めてないもん。

豪 じゃあ、何を求めてるんですか？

ターザン テンションの高い愛ですよォォォ！

山口 テンションの高い愛（笑）。

ターザン テンションの高いコミュニケーションですよ。それを俺は求めてるわけですよ。

山口 上っ面の愛はどうでもいい？

ターザン 愛や幸せなんか、どうだっ

“呪い”の座談会出席者

全身こっつぁん体質の塾長が執拗に要求するのがVIP待遇。今回は「叙々苑」で焼き肉を食わせてみました。

吉田豪

本誌スーパーバイザー。膨大な量の連載を抱えほとんど太陽に当たらない生活をしているが、「海の日」に真樹先生のクルーザーにお呼ばれし、何年かぶりに日焼けした金髪鬼。

山口日昇

本誌編集長。この本の入稿直後、教育委員会の招きでオーちゃんと共に中高生三千人を相手にした講演会をするため徳島に飛ぶ。中卒の鬼畜を招くとはどんな教育委員会だ!?

ターザン山本

先月まで「プロレス楸本」編集長という肩書きがあったが、同誌休刊に伴い現在は〝感性の多国籍軍〟「一撲塾」塾長。その破廉恥な私生活は新刊「豪速球」を読めばわかる。

ていいんだよォ（自暴自棄）。

山口　『週プロ』はｉモードの"ｉ"を"愛"にしてますよ（笑）。

ターザン　愛とか、感動とか、そういう言葉を絶対使うな！って『一揆塾』では命令してるわけよ。安っぽい言葉でさぁ。ああいうの、一番イヤだね。吐き気をもよおすよぉぉぉ！　ツバ吐くか、吐き気をもよおすよ！

山口　「吐き気」とか「ツバ」っていう言葉は使っていいんだ（笑）。

ターザン　だってよくあるでしょ。女子プロレスラーがちょっといいファイトしたからって、「光が見えた」とか。あんなのホント、ツバ吐きたくなるよ。「ペーーーーッ」ですよォォォ！　だって、俺がレスラーでもイヤだよ。そういう書き方されたら。「未来を見いだせ」とか言われるでしょ。あんなこと言われると、ホント、殴ってやりたくなるよ。そんなこと言われたくもないよ。違う？

山口　塾長の言う通り（適当に相槌）。

豪　山本さんが凄いのは、『一揆塾』第一回を見に行ったときに、塾生の作文を見て「感動とか、こんな言葉を使っちゃダメだ」って言ってたわけですよ。で、それを書いたヤツに「じゃあ、この場合はなんて表現使ったらいいんですか？」って言われたら、「まあ、それはそれとして」って言い出して（笑）。

山口　どんな講師だ！（笑）。

ターザン　違う！「答えを俺に聞くな、お前らで考えろ」って言ってるんだよ。何でも答えを聞きたがるから。答えは自分で見つけなきゃダメでしょ。俺が答えてどうするんだっていうことです。俺はフェイントの答えを言ってるだけだから。答えてるようで答えてない、フェイントをかけてるんだから。

【片山ボンちゃんが、いかに世間ずれしてないかの話になったので、大幅に略】

ターザン　でね、『プロレスＬＯＶＥ』の『ＬＯＶＥ』というのは、ホントの定義は「もっとハードルを低くしてプロレスを見ましょう」っていうことなんだよ。それが『ＬＯＶＥ』なんですよぉぉぉ。

豪　余計なアラ探しをしないで？

ターザン　いや、違う違う。高いハードルで見ると耐えられないわけよ、現実のマット界は。もう少しバーを低くして見たら、もっと違った見方が出来るんじゃないかっていうところに、プロレスの『ＬＯＶＥ』の定義があるんだよ。

豪　武藤にしても全盛期ほどの動きはできないんだから、「それなのに凄い」っていうようにハードルを下げてから見よう、と？

ターザン　いや、武藤はいいよ。武藤は凄くいいよ。

豪　昨日は、どうでした？

ターザン　めちゃくちゃアーティストだね、あいつは。あの、スティーブ・ウィリアムスね。ぶきっちょでどうしようもなくて、カタくてさ、何も出来ない男が、きっちりと焦点を絞った攻防を繰り返してるわけよ。今までウィリアムスは、ドッタンバッタンと関係ないところで変な技を出すというプロレスだったのが、そういうところが一個もなかったわけよ、昨日は。だから、武藤は凄いよね。あれが出来るのは武藤しかいないよ。

豪　観客が椅子投げたりとかラッシャー木村の代わりにマイクを持ったりとか、ああいうのはどうだったんですか？

山口　ファンがマイクを奪い取ったんですか？

豪　「グーパンチやるな！」って？

ターザン　いやいや、安生ごときが『世界タッグ』のベルト獲るってことは、『世界タッグ』のベルトが汚されたっていう怒りがあったわけだよね。一番前の端っこに坐ってた女の子がいたんだよね。ジョニー・スミスのファンで、スミスがグーパンチでフォール負けしたわけよ。そのときに、スミスのファンとしては頭に来て、その席を立って、本部席の後ろに来て、木原リングアナがマイクを離すのを待ちかまえていて、いきなりマイクを取って、「こんなくだらないことで勝って！」って怒ったわけだよ、彼女は。

豪　それってプロレス史上に残る、とんでもないことですよね。

ターザン　ハッキリ言って、大事件だ！　これは一種の不祥事ですよ！

豪　そういうのを止められなかったっていうのが問題なんですか？

ターザン　っていうよりも、隙を見せちゃったんだよね。だから、馬場さんがいた頃の全日本プロレスから遙かに、聖域を守る緊張感が、あるいは空間がないっていうことなんだよな。

山口　でもグーパンチが出る出ないっていうことで、それだけ盛り上がるってことは、一応そのアングルは全日ファンは認識してるってことですよね。何日か前からやってた伏線を。

ターザン　これは凄いことだよ。最近珍しい！　グーパンチが是か否かっていうことでシリーズを引っ張ってきて、最後のタイトルマッチに持ってきたっていうのは、近頃珍しい古典的なアングルだよな。美しいというか。

豪　起承転結がちゃんとしてる。

ターザン　天龍の力だよな。天龍がいかに古典的で、昭和のプロレスラーかっていうことだよな。

山口　話は変わりますけど、最近の"往生際日記"（ターザン山本有料ＨＰ『マイナーパワー』）は面白いですよ。

「新日本がどうなるかは俺の関知する所じゃないから。故郷を眺めるだけですよォォォ！」という塾長。新日VTも「NG出すのは辞めた」とのこと。

豪　まだ更新されないのかと、つい何度もチェックしてますからね（笑）。

山口　各方面に噛みつきまくりだもんなぁ。

ターザン　全部、豪ちゃんの影響だよ。

山口　ガハハハハ！　吉田豪スーパーバイズ&ミスリード。

ターザン　吉田豪ちゃんを喜ばすために、どうやって書いたらいいかなぁって。たったひとりのために書いてるわけよ。でも文章っていうのは、そういうもんなんだよ。のっぺらぼうの大多数の人に伝えて書くより、たったひとりの人のために書く文章のほうが生きるんだよな。それが全部広がるわけよ。発見したよ。いつでも俺はたったひとりのために書こうとしてるんだよ。

豪　その結果、「あの噛みつき方は面白い」とか何とか言われるようになって。でも（水道橋）博士はそれを見抜いてたりして。「豪ちゃん、あれは面白いんだけど、何かターザンに言ったでしょ？」って。

山口　「またミスリードしたでしょ？」って（笑）。でもさ、塾長の日記に〝aiko〟と〝小柳ゆき〟っていう単語が出てくるだけで面白いもんね。

ターザン　言っちゃ悪いけど、あいつらホンットに才能ないよ。アイちゃんだっけ？

山口　アイちゃんって、キャバクラ嬢じゃないんだから（笑）。aikoですよ。

ターザン　aikoさんは、もっと才能ないよ、あれ。歌詞になってないもん。単なるBGMだもん。才能ありませんよぉぉぉ。俺は『一揆塾』では才能が重要だって言ってるんだよね。才能で一番重要なのはぁ……。

山口　ボン、よく聞いとけよ（笑）。

ボン　あ〜、は、はい。

ターザン　笑顔！　笑顔が大事。ダメだ、笑いのないヤツは。声の小さいヤツもダメだよ。目に表情のないヤツはダメだよ。元気がないヤツはダメ。

山口　全部、ボンちゃんに当てはまるな（笑）。

ターザン　一番の才能は顔だよ。顔は雑誌でいうと、表紙だから。

豪　同じレベルの仕事ができる奴が2人いたら、元気があるほうに仕事を頼むでしょうしね。

ターザン　そう！　景気のいいヤツね。声がハキハキしてるヤツ、目に表情があるヤツ、それを全部合わせて〝顔〟っていうんだよ。

山口　塾長は声が大きすぎますね、テレコが壊れますよ（笑）。あ、そうだ。塾長の日記に「『プロレス激本』を山口さんに定義してくれと言われた」って書いてありますよね。あれ、冗談ですからね。そんな話どうでもいいです（笑）。

豪　ちなみに定義するとどうなんですか？

ターザン　ポジショニングでいうと、俺はかつて昔はジャンルの中心にいたわけよ。『週刊プロレス』という。それがジャンルの端っこに行ったわけ。だから端っこで、ネタを拾うというかさ。小さな宝石を拾い出して、山積みされたなかに「ダイヤモンドはねえかなぁ？」というさ。

豪　ダイヤはあったんですか？

ターザン　ほ〜んのちっちゃなダイヤはあったよ。でね、『プロレス激本』がなぜ潰れたかって言うと、中心にいる人たち、『週プロ』とか『ゴング』がファンを育ててないからだよ。そいつらがファンを育ててなかったからいけないんですよォォォ。

豪　責任転嫁しますか（笑）。

ターザン　（一点の曇りもなく）だって、あいつらのせいでしょ。育ったファンがいたら、評価に繋がったわけよ。小さな点みたいな感じで評価されたんだよ。今は非常に不幸な時代だよ。せっかく俺が端っこ回ってるのになぁ。

豪　だけど『週プロ』も姿勢としては、山本さんのとき以上に素人のファンを育てようとしてるわけですよね。結果的には、そうなってないんだろうけど。

ターザン　全然してませんよ！　佐藤（『週プロ』編集長）は、ターザン山本の劣性の遺伝子だよ。それに比べてGK（『週刊ゴング編集長＝金沢氏』）はかわいいよぉ！　なぜかというと、会場に行くでしょ。全日本にしろ、ZERO－ONEにしろ。必ず俺を見たら、彼の方から近づいてきて、ニッコリ笑って彼が知ってるシークレットの情報を俺に教えてくれるんだよね。会話するわけよ。いかにもボクのこと好きだっていう感じでね。

山口　ガハハハハ！　思いこみ（笑）。

ターザン　ボクのことを好きな人が、ボクは人生で一番好きなんだから。それがVIP待遇だと思ってるから。

豪　もしかして、新日の関係者が佐藤ちゃんを「キツネつきだ」とか噂してるって教えてくれたのは、GKだったわけですか？

ターザン　そう！　GK！　GKが言ってるわけよぉ。クックック。新日本の控室で「佐藤編集長にはキツネが付いてるね」と関係者が言ってたよ、と教えてくれたわけですよ〜。

豪　いい関係ですね（笑）。GKは『ゴング』でも山本さんの本とか面白おかしく告知してくれるじゃないですか。

ターザン　俺の本、『プロレスのあばき方』を送ったんだよね、版元の松林氏が。要するに、GKが読んだんだよ。忙しいのに読むっていうこと自体凄いことなんだよね、違う？　「読んで面白かった。でも山本さんは所詮ド素人だ。誤解の産物みたいなところがある」と。俺が「それを必ず書けよ」と言ったら、「次の週に紹介します」と。見たら小さいコーナーだけど、ネタになってるわけ。受け身取ってるわけよ。プロレスしてるわけよ〜。

山口　あれは画期的ですよね。『ゴング』で塾長の本が紹介されるなんて。

ターザン　それもすぐ速攻でやったわけよ。次の週に。だって俺の友達が電話してきて、「今回の『ゴング』はビックリした。山本さんの書評がGKの署名で載ってて、それが面白い」って。『週プロ』がそれをやらなかったということは、雑誌のレベルが『ゴング』より落ちるっていうことだよ。『ゴング』が大関だとしたら、前頭筆頭くらいだな（キッパリ）。

山口　ガハハハハ！　番付つけてる。

豪　そういう番付は山本さんを扱うかどうかで決まるわけですね？

ターザン　そう！　そりゃそうじゃない。俺に対して何をしたかっていう、その度合いによって、VIPランクを決めるわけだから（当然のように）。

山口　ダハハ。ところで『激本』は何で終わっちゃったんですか？

ターザン　会社かららしいよ。担当者

『激本』がなぜ潰れたか？　『週プロ』『ゴング』がファンを育ててないからだよォ

俺が心情的に『PRIDE』から離れたのは、（サダハルンバ）谷川のせいですよォ

がファッション雑誌作るんだもん。被害者ですよ、俺らはァァ。
豪 被害者（笑）。
ターザン そうだよ！ 3回の結果を見ろって言ったんだよ。この3回が維持できたら、評判を取るから、もう少しやったらよくなるよっていう、そういうメッセージなわけよ。それが理解されなかったわけ。
山口 要は、自分は地下鉄で4分も耐えられないけど、F社にはもうちょっと堪えろと（笑）。
ターザン 雑誌を育てるためにもうちょっと投資しろと。時間も金もね。F社危ないな、あれ。デリケートさに欠けるもん。
山口 山本さんのほうがデリケートさに欠けますよ！（笑）。
山口 でも、なんで今年の春前くらいから新日本に注目しだしたんですか？この間も突然「『PRIDE』に興味が持てない」とか日記に書いてありましたよね。
ターザン あるとき「つまんねえな」って思ったわけよ。思ったときに、新日本の永島（勝二）さんと雑誌の対談で再会出来たでしょ。タイミングがよかったというかね、うん。5年目にして、取材拒否が解かれたわけですよ。東の投獄から帰ってこいみたいな感じでね。京の都に帰れるっていう。別に新日本が京の都じゃないけども、京の都に帰れるっていう喜びがあるわけよ。
豪 ところが、せっかく京の都に帰れそうだったのに雑誌が終わったと（笑）。
山口 それより、何で『PRIDE』がつまんないと思い出したんですか？
ターザン （サダハルンバ）谷川のせいだよ（キッパリ）。
山口 ダーハッハッハッハ！ なぜだ。
豪 それは面白すぎますよ（笑）。
ターザン 谷川と『SRS・DX』のせいだよ。SRSとかSWSとかゴロが悪いな……。性に合わんっ！
豪 その名前には金と権力の匂いがするわけですか。でも、どうこう言いながら両方から金は貰ってそうなんですけどね（笑）。
ターザン （無視して）谷川と柳沢（忠之）と『SRS・DX』のせいだよ！
山口 個人的な恨みですか（笑）。
ターザン 感覚的な違い、臭いの違いで「なんかなぁ」と思ったね。
山口 山本さん的には『PRIDE』は素材として面白かったわけですよね。
ターザン バッグンに面白い！ でも最後のところで、俺の描いているビジョン、イマジネーションがあるでしょ。彼らとの決定的な違いが見えちゃったわけよ。
山口 その決定的な違いって何なんですか？
ターザン 俺がピュアで、彼らがプアーってことですよォォォ。プアーって言ったら、彼らには失礼だけどな。
山口 「谷川のせいだ」っていってる時点で失礼ですよ（笑）。
ターザン 谷川は悪くはないんだけど、俺は外側から見てるじゃない『PRIDE』を。彼らは中に入りすぎてる。それが見えちゃったわけよ。俺は何も知らないっていう形の中で、自分の中のパーソナルな、個人的な『PRIDE』に対するイメージとか理想を書いてたわけよ。彼らは違うから。深く入り込んでるんだよ。
山口 現実的な部分でやってるわけ？
ターザン そうそう。当然、ボクのピュアな部分と彼らの現実的な部分っていうのは、異変を起こすでしょ。俺もピュアなものとしてやろうとしても、「現実的にはこれが大事なんだから」「これが重要なんだから」とか出てくるじゃない。そうすると俺のいる価値がなくなってくるわけよ。
豪 ビジネス的な観点のほうが強くなっちゃうから？
ターザン そうそう。
山口 要は疎外感を感じたわけだ？
ターザン い、嫌なこと言うなぁ。だけど、その通りですよ。
山口 ガハハハハ！ 一本ッ！
ターザン 疎外感っていうことは、のけ者っていうことですよ。
山口 でもその疎外感とか孤立感っていうのを、今まで『週プロ』時代では誌面に活かしてたけど、今はミクロだけど、HPの日記に活かしてますね。
ターザン 日記は呪いですよ！ 最近はトマスマンの「芸術は呪いである」という、あの言葉が気に入ってる。何でも呪いにしてるわけよ。「プロレスラーは呪いである」「恋愛も呪いである」というね。全部呪いに通じるわけですよ。
豪 説得力ありそうに聞こえますよね。「藤波は呪いである」とか（笑）。
山口 お前、また訴えられるよ（笑）。
ターザン 生きてることとは呪いじゃない。いろいろな裏切りがあったり挫折があったり、失敗があるわけじゃない。それが免疫になってるかどうかだよ。自覚してるかどうか。
山口 『PRIDE』から新日本に鞍替えして、鞍替えという言い方はおかしいかもしれないけど、新日本の対応

「新日の会場に行くと、永島さんとニッコリ握手して、坂口さんと雑談するでしょ？ それだけでいいんですよォォォ！」という塾長。リング上のことは知らないとは実に潔い。

はどうなんですか？

ターザン　みんなウエルカムで迎えてくれたわけよ。会場に行ったら。露骨に嫌悪感丸出しの倉掛（欽也）さんでさえも会話出来るわけよ。

豪　嫌味を言われながらも（笑）。

ターザン　言われたよ！　入った途端。「プロレスは死んでません」とか言われた。でも、「こいつ俺の本、読んでるな」とかわかるじゃない。

豪　あの人は確実に読んでますよ。

ターザン　だって、新日本では『マイナーパワー』を回し読みしてるんだもん。プリントして。だから書くときは注意して書こうと思って。

山口　ガハハハハ！　姑息だな。

豪　藤波さんも読んでるみたいですからね。「山本さんは、さすがに鋭いですね」って言ってたっていうから、さすがはドラゴンなんですけど（笑）。

ターザン　何でかって言うと、藤波さんってそういうことがもの凄く気になる人なんだよね。ちょっとした活字のことが。それをやると藤波さんがこ～んな顔になるわけよ。引きつった顔に。そういう気分の悪いことはしたくないので、『マイナーパワー』でも、そういうことを書くのはやめたよ。愛を持って書こうと思って……あ、愛って言葉使っちゃダメなんだよな（笑）。

山口　自分でツッコミますか（笑）。

ターザン　会場に行くと、永島さんなんかでも、ニコッと挨拶して握手したりするし、坂口（征二）さんとかとも雑談するでしょ、その会場で。いっぱいいろいろいるわけじゃない。そうすると、やっぱりケンカしてたけど、同じ釜のメシを食った者同士みたいな感覚になって、プロレスの業界っていうのは、こういうもんなんだなぁと思ってね。もの凄く救われた気分になるんだよな。

山口　ノスタルジーとは違うんですか？

ターザン　ノスタルジーじゃない。人間は展開してるから結びつくものがあるんだなということだよね。もの凄く気持ちがいいんだよねぇ。

豪　ケンカした後にわかりあえるという。

ターザン　「美しい世界だなぁ」と思ってね。理屈抜きで新日本が好きになったよ。

豪　それは要するに長州さんがいなくなったからですよね？

ターザン　それはあるね。でも、結局は長州さんがオッケーを出してるんだよね。「ターザン山本を入れるパスを出してもいい」っていうのは、長州さんがオッケーしないとダメなんだよ。暗黙のうちに長州さんのゴーサインが出るわけじゃない。永島さんが根回ししたか知らないけど。で、今回取材出来たじゃない。4月の大阪ドームかなんだか知らないけど。

山口　なんだか知らないのを取材してるようです、新日本関係者のみなさん（笑）。

ターザン　いや、気持ちがいいわけよぉ、俺は。長州さんの心が伝わってくるわけよ。お互いに会うこともないしさ、会わないようにしてるわけ。これは特権的人間関係ですよォォォ。そうやって新日本は盛り返したわけよ。俺は福の神だよね、やっぱり（自画自賛）。

豪　「俺が面白くした」ってことですか？（笑）。

ターザン　俺と仲直りした途端に運命が変わったわけよ。ターザン山本は呪いの人物だから、鎮めなきゃいけないと。天神さんつくったようなもんだよ、天神さん。俺は菅原道真ですよ！

豪　そういうことですよね。山本さんを外してからプロレス界は落ちていった。だったら、山本さんを捕まえればいいという。

ターザン　そうそう。捕まえて、魂を鎮めなければいけない。ならば取材拒否を解放しろということで踏み切ったわけよ、やっと。

豪　好転反応を起こしたと。

山口　っていうより、妖怪扱いじゃない。魂を沈めるって（笑）。

ターザン　恨みを持った人間に対して神社をつくるとか、あるわけよ。それですよ、俺は。呪いなんだから、俺は。存在が呪いなんだから。

山口　ターザン山本とは呪いである（笑）。

豪　タチ悪いですね、それも（笑）。

ターザン　でも、ボクの場合許されちゃうのがあるわけね。かわいげがあるから（自画自賛）。

豪　かわいげがあるから（笑）。

山口　自画自賛、自暴自棄（笑）。

ターザン　結局、UWFにしろなんにしろね、常に新日本プロレスを脅かすものが外側に出てきて、出てきたものそのものがジャンルとして独立して進むか、もしくはマット界のメジャー団体である新日本を揺さぶって危機感を与えて、もう一度新日本を再生するか。それしかないんだから！　長州的プロレスの圧政下にあったでしょ新日本は。それは古いものになっていった。でもそれが『PRIDE』がのし上がることによって、新日本プロレスは落ちるんだけども、結局最後は、もう一回再生してくるという、こういうドラマね。そういう役割をUWFも、K―1も、グレイシーも、『PRIDE』も果たしてきたわけよ。要するに、ボクも結局めちゃくちゃプロレスが好きなわけですよォォォ。

豪　ホントは（笑）。

ターザン　好きの度合いが過ぎると、それに対して「プロレスがダメだ」と思ったり、憎しみになったりとかするんだよな。

豪　ストーカーみたいな感じですね？

ターザン　それで要するにさ、寝技みたいなストーカーだからな。

豪　膠着して（笑）。

ターザン　そう。ベターッてなるからさ。愛……いや、愛情がいきすぎると……。

山口　何、言い直してるんですか！（笑）。

ターザン　いきすぎるとイケナイわけよね。でも本命はプロレスなんだから。俺も外側から新日本プロレスを揺さぶるものをつくることに疲れたっていうかさ。疲れてプロレスの源流を回帰したいというかね。うん。都会に疲れて田舎に帰る。帰郷願望みたいなものですよ。

GKを絶賛する理由は、単に新刊「プロレスのあばき方」を週ゴンで紹介してくれたためであったことが発覚。

塾長が「プロレスができる男」と絶賛する“GK”渾身の一冊「おい、金沢」の裏表紙。実に「かわいい」。

新日本は俺の魂を鎮めようとしてくれた 俺は存在そのものが"呪い"だから

山口 新日本は盛り返していく可能性は見えるんですか？ 塾長から見て。

ターザン それはもう、俺の関知するところじゃないもんな。それを関知しようとしたら、余計なことを考えてしまうわけよ。それに対してNG出したりとかさ。それを俺はもうやめようとしてるわけ。すんなり新日本プロレスという故郷に帰って、故郷の風景を眺めてるわけよ。

豪 いまさら故郷の悪口言ってもしかたないって（笑）。

ターザン そうそう。

山口 俺はまだ若僧なので、塾長のような心境にはなれないけどね。故郷になんか帰りたくもない（笑）。

ターザン （唐突に）心が広いよな、俺は。

山口 ガハハハハ！ ムチャクチャというか。アナーキーだよな、ホント。

ターザン 昭和59年のUWFから17年間、ホントに新日本プロレスに凄いモノになってほしいと思うがために、余計なことしてきたんだよな、俺は。

豪 星一徹みたいなもんですかね？ 星飛雄馬に対して、敢えて敵側に回ってぶつけていくような。

ターザン 非常に歪んだ、屈折した愛情というかね。クックック。山口さんはどうなの？『PRIDE』は。

山口 いや、グローバルスタンダードな匂いが絡みついてきてるんですよね、最近の『PRIDE』には。リング上はいいんだけど、ビジネス上の展開がデジタル的になりすぎてる気がするから、その点はやや危ういかなぁと。

ターザン この世界で一番美しいのは、アナログですよ。だって俺の人生がアナログだもん。プロレスもアナログじゃない。

山口 ただ『PRIDE』っていう素材は面白いから、『PRIDE』は盛り上げたいですけどね。

ターザン グローバルスタンダードを持ち出すってことは、俺からしたらその名のもとに権力を行使して、権力的行動を作ろうということだね。それは許せない。闘うぞ、俺は！

山口 ガハハハ。だから、そういう匂いに対して、山本さんがアナーキーな存在になって、『PRIDE』というか『SRS』から離れたっていうのが、俺の中の妄想ですね。

ターザン （ギョッと驚いた顔をして）いや、今まで山口さんといろんなこと話してきたけど、一番凄い発見だな。

山口 それ何回言ってるんですか。会う度に1回は言ってますよ（笑）。

豪 座談会の度に言ってますよね。

ターザン いや、グローバルスタンダードというのは、世界を一つの価値観によって権力を集中したいがために考えられた概念だから。中身なんて何もないんだよ。権力ありきだから、初めから。アメリカのスタンダードを押しつけることによって、アメリカが世界を支配する論理だから。あんなの絶対ダメですよ！ 我々は、一個の………

……（突然、無言でガッツポーズ）。

山口 な、なんですか？（笑）。

ターザン 俺はやっぱ正しいよ！ グローバルスタンダードに、思想的にイデオロギー対決できる唯一の概念はマイナーパワーですよォォ!!

豪 なるほど。

ターザン 違う？ マイナーパワーという言葉のみが、グローバルスタンダードに対してノーと言える思想だよ！ そういうことです！

豪 ゲリラ的なやり方で。

ターザン 俺はノーベル賞取ったようなもんだな。

豪 何でですか（笑）。

ターザン マイナーパワーですよォォォォ。個々のなかにそれぞれの幻想を育てると。それぞれの幻想を駆逐して、グローバルスタンダードな一個の答えを押しつけようとするのはノーだよ。アメリカにしろ、なんにしろ。俺は個々のマイナーパワーの個人的な、パーソナルな幻想を楽しみましょうって言ってるんだから。正しいな！ ハッキリ言って、俺は。間違ってないよ、昔から。マイナーパワーという言葉を生み出した時点から間違ってないんだよな。20年以上前から。

山口 そのマイナーパワーをプロレス側が勘違いして、ホントにマイナーなサブカルチャーに走っちゃうんですよね。マイナーパワーっていうのを、どんどん矮小化しちゃうんですよ。

ターザン サブカルチャーにするってことは、別の端っこの権力構造ってことなんですよ。俺の言ってるのは違うんだよ。あくまでも、個人に立脚したマイナーな存在のなかにひとつの宇宙があったり、幻想があったり、世界があったりとかいうことを俺は言ってるわけよ。……美しい話だねぇ。焼き肉食っただけあるよ。

山口 ガハハハハ！

ターザン 猪木さんが、常に『世界』という言葉を出すのも、グローバリズムのスタンダードな主張なんだよね。実は猪木さんにも合ってないんだよ。『世界』という言葉は。だって、猪木さん自体が、一個のアントニオ猪木という存在自体が、めちゃくちゃマイナーでしょ。

山口 でも、猪木さんの場合、『世界』を相手に挑発するから面白いんですよ。

ターザン ああ、混乱させようとしてるからな。とりあえずいまある世界に対して、それをシュートするために『世界』っていう言葉を使ってるんだからいいのか。

山口 『世界』をビックリさせようってことだけですからね（笑）。

ターザン ビックサプライズの人だから。個人の立場からね。小さな立脚点のなかからシュートしようとしてるんだから、それはいいんだよな。うん、これ気づいたのはシュートだな。もの凄いシュートだよ。

山口 でも、猪木さんには『PRIDE』で悪役になってほしいんだよなぁ。『PRIDE』を攻めにいく猪木さんも見たいじゃない（笑）。

ターザン 猪木さんは『PRIDE』に愛がないんだから、やるべきだよ。……あ！ 愛という言葉は使っちゃいけないんだよな（恥ずかしそうに）。

山口 ガハハハハ！ すでに今日、何回使ってるんですか。

ターザン 猪木さんの唯一の弱点は「新日本が好きだ」ってことだよな。猪木さんは初恋的人間だね。一個のものしか好きになれないという。

山口 あちこち浮気はしますけどね（笑）。

ターザン こだわってるのは、初恋一穴主義。猪木さんそれあるもんね。

【いきなり、若い女が世界のどんなものよりもいいという話に突入】

ターザン 俺はもうラストスパート入ったからね。あとは、どうフェイドアウトしていくかだよ。

山口 フェイドアウトする気あるんですか？

ターザン ない！！！

山口＆豪 ガハハハハ！ いいシメです！

【7月15日／四谷・遊亀亭にて】

特別付録!!

ターザン山本 呪いの妖怪七変化!!

K-1 VS 猪木軍団決定！
8・19 K-1ジャパン・たまアリ大会に

藤田和之出陣！

「先日、前田日明と会いました！」
（サダハルンバ谷川）

完全速報！
7・20 K-1 WORLD GP 名古屋大会
東京ドームのキップの行方は！？

7・29 PRIDE.15 直前情報
たまアリ大会
これを読んで、PRIDE.15を10倍楽しめぇ！

SRSDX

7/26 木 発売！

2001 8/9
No.51
毎月第2・第4木曜日発売
定価 680円
発行／フジテレビ出版・ローデス
発売／扶桑社

『紙プロ』なりに精一杯の速報ページ

タ－ザン山本 塾長が見た新日本7・20札幌ドーム

塾長！　札幌の原稿お願いします！
「なんでもやりますよぉぉぉ！」
そんな文字通りの二つ返事で実現した、「『紙プロ』なりに精一杯の7・20札幌ドーム速報」。はたして札幌ドームとはなんだったのか？
それでは塾長、お願いします！
「はい〜〜〜〜〜〜！」

行ってきました、札幌ドームへ。そう、7月20日「海の日」ですよ。それも私は〝日帰り〟の強行日程。新日本プロレスのドーム興行の今年第4弾。しかも札幌ドームはプロレス界にとって初進出。

タクシーの運転手が私に教えてくれた。「巨人戦を見に行ったんだけど、札幌ドームはコンクリートがやけに目立っていて、冷たい印象があるんだ

すよ」と言った。ああ、そうだったのかと私も納得。

ドームプロレスと『PRIDE』に、北海道の人たちは馴れていなかったのだ。東京と比べたとき、その点でたしかに〝時間差〟がある。「だから札幌では純プロレスの方がいいんです」。日野さんの言っていることは正しい。

PRIDE戦士のゲーリー・グッ

と求心力がなかったこと。

新日本対『PRIDE』という対立概念は、もしかするともう色あせたものになっているのかもしれない。私はそれを痛感した。

それより小川と橋本の方がインパクトがある。新日本は札幌ドームでこの二人を使わなかったことで、逆に隠された切り札をまたしても持ったことになる。実にしぶとい団体だ。

瀬がチャンピオンの田中に勝ち新王者となった。

邪道と外道はインディー育ちのレスラー。一方、成瀬は元リングス所属のレスラー。いずれも新日本からすると〝よそ者〟。グッドリッジとコールマンを合わせると、この日は〝よそ者〟が大事な試合で、すべて勝利を収めた日といえる。もし新聞の見出しをつけるとしたら、〝新日本、惨敗〟

PRIDEも成瀬も邪道・外道も〝飛んで火に入る夏の虫〟だった!

よね……」。

ドームの中に入ってびっくりした。暗い、とにかく暗いのだ。

7月20日は真夏だよ。この日、札幌は曇っていて日中は23度。寒いぐらい。それにしてもドームの中は、まるで地下の世界にもぐったみたいに薄暗かった。

映画、『メトロポリス』では、地上と地下に二つの町があり、地下の方はZONE1とZONE2に別れていた。まるで札幌ドームが私には、その地下のZONE1か2に見えた。

夏の真っ盛りなのに夏を感じさせない空間。全体的に盛り上がりに欠けた興行。リングと観客の間に妙に距離感があった。

そこらへんを札幌市内でプロレスショップ「リングパレス」を経営しているオーナーの日野さんにふったら、「山本さん、北海道のファンはドームと『PRIDE』に免疫がないんで

ドリッジとマーク・コールマンのカードを組むことは、新日本からすると自信の表れとなる。

しかし、札幌のファンが求めているのは、それとは違う。むしろ新日本対ノア、新日本対全日本、新日本対ZERO—ONEなのだ。このうちどれでもいいから「5対5」でやったら、これは大ヒットしただろう。

そう考えると、やっぱりというか、小川と橋本がいないのは決定的である。この日のカードはよくできていた。平均点の高いマッチメイク。フルコースというイメージではないので、メインディッシュがなかった。

どちらかというと高級懐石料理といった感じ。次から次へと手のこんだおいしい料理が少しずつ目の前に出てくる。そんな感じだった。題して〝懐石料理プロレス〟。

ただ一つだけ言えたことは、『PRIDE』というブランドを背負ったグッドリッジとコールマンに、意外

私の友人である炎上友の会の吉原さんは、メインが終わったあと、すぐに私のケータイに電話してこう言った。「グッドリッジと対戦した中西と、コールマンと対戦した永田は二人とも自分からすすんで〝飛んで火に入る夏の虫〟になった。あれを見たとき、ボクは新日本は『PRIDE』に勝ったと思いましたね」。

飛んで火に入る夏の虫はひょっとするとグッドリッジとコールマンの方だったのかも……。だって永田は、余裕で闘っていたし、ムチャクチャ強く見えた。結果は負けだったが〝強く見えた〟という方が、プロレス的だから……。

ここにプロレスの大いなるパラドックス(逆説)と反語的世界があるのだ。反語的といえば、邪道・外道組がライガー、サムライ組を破ってIWGPジュニアのタッグチャンピオンになった。IWGPシングルも成

となる。

ところが私には、それが惨敗にはどうしても見えなかった。どんな場合でも新日本はタフに生き続けてきて、日本マット界をリードしてきた。その歴史的事実を考えると、私は「行きはよいよい、帰りは怖い」という言葉を思い出してしまう。

あるいは「こっちの水は甘い。こっちの水は辛い」という言葉も。おい、おい、そうなると飛んで火に入る夏の虫とは、邪道や外道、成瀬もそう見えてきた。

最後に付け加えておこう。〝天才〟武藤は全日本のリングだと素晴らしい試合をするが、新日本のリングではそれがどうしてもうまくいかない。その理由は新日本に〝プロ格〟のイメージがあるからだ。武藤にとって〝プロ格〟は邪魔なものでしかないのだ。

田中正志またしても大暴れ！

シュート活字による まっとうな G1大予想!!

田中正志：日本の根回しマッチメイキングを無視して傍若無人に「俺だったらこうする」と断言してくるかと思いきや、「今回は大阪大会が終わらないとマジに誰が優勝するかわかりませんよ」だと？ 自称：ヘビメタ音楽界の新スター、歌うシュート活字王

Bブロック

武藤敬司

ベテランが勝ってはいけないＧ１のジンクスを覆し、輝いてるうちに四冠王者なるか。

蝶野正洋

本当の病名は虫垂炎なのか鬱室炎なのか？ ちゃんと出てくれるのかどうかが心配。

西村修

ドロップキックの切れ味は最高なんだけど。何しろ本人が古風で頑固者なんで……。

天山広吉

世界中の関係者が大絶賛。一番しんどいバンプを取りつづけたご褒美はあるのか？

獣神サンダー・ライガー

リック・フレアー街道まっしぐら。誰も悪くは言わないけど、誉める記事も減ってきた。

小島聡

プロレスラーとして一番光ってる。ロープの使い方、表情の出し方、どれをとっても満点。

Aブロック

中西学

文句も言わずお仕事をこなしてきた原人が、二度目のＧ１制覇する可能性は消えてない

永田裕志

Ｄ・フライらの証言から、すでに北米では神様扱い。辛抱「おしん」は報われるのか？

藤波辰爾

ある意味、再注目選手。毎日東スポでコメントを読むだけで試合以上に楽しめる人。

安田忠夫

ＰＲＩＤＥでは輝けたが、連戦のＧ１では昔のままのムーブで終わってしまうかも。

村上一成

今回の主役。しかしテロ行為を毎晩続ければ漫才になってしまう。将来を見据えた正念場。

田中稔

漁夫の利で美味しい試合を連発しそう。

Aブロック

日程	対戦
8・4 大阪	永田裕志 vs 村上一成 藤波辰爾 vs 中西学 田中稔 vs 安田忠夫
8・5 大阪	中西学 vs 永田裕志 田中稔 vs 村上一成 藤波辰爾 vs 安田忠夫
8・6 愛知	田中稔 vs 永田裕志 藤波辰爾 vs 村上一成 中西学 vs 安田忠夫
8・8 仙台	中西学 vs 村上一成 藤波辰爾 vs 田中稔 永田裕志 vs 安田忠夫
8・10 両国	藤波辰爾 vs 永田裕志 中西学 vs 田中稔 安田忠夫 vs 村上一成

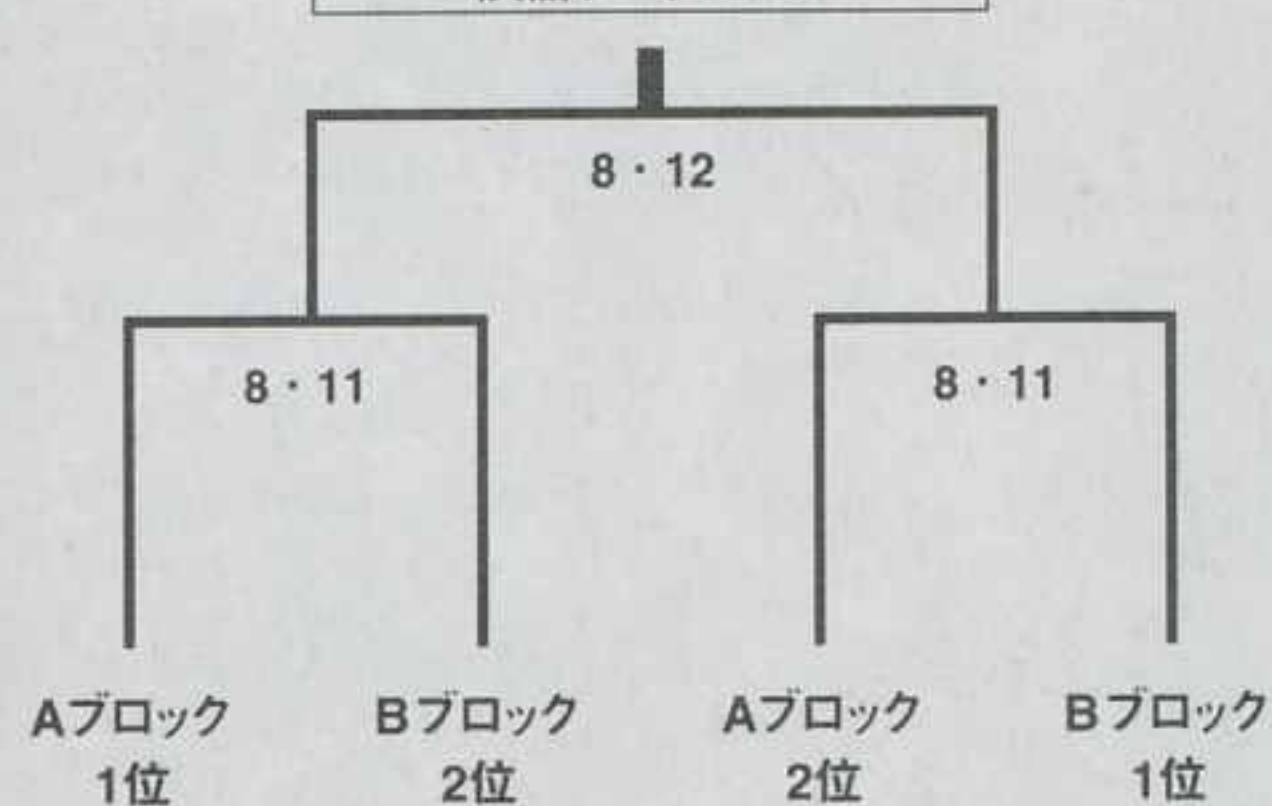
Bブロック

日程	対戦
8・4 大阪	蝶野正洋 vs 小島聡 武藤敬司 vs 西村修 獣神サンダー・ライガー vs 天山広吉
8・5 大阪	蝶野正洋 vs 天山広吉 武藤敬司 vs 獣神サンダー・ライガー 西村修 vs 小島聡
8・6 愛知	武藤敬司 vs 小島聡 獣神サンダー・ライガー vs 蝶野正洋 西村修 vs 天山広吉
8・8 仙台	武藤敬司 vs 天山広吉 西村修 vs 蝶野正洋 獣神サンダー・ライガー vs 小島聡
8・10 両国	武藤敬司 vs 蝶野正洋 天山広吉 vs 小島聡 獣神サンダー・ライガー vs 西村修

決勝トーナメント

8・12 決勝

8・11 Aブロック1位 vs Bブロック2位

8・11 Aブロック2位 vs Bブロック1位

各ブロック６名により、総当たりリーグ戦を行ない、得点上位者２名が準決勝に進出する。

8・11　両国国技館（18:00）
8・12　両国国技館（15:00）

優勝はズバリ武藤敬司

文／田中正志

まっとうに第11回G—1のチャンピオンを予想してみると、なんと実人生でまともに歩くことすらできない現・三冠選手権王者のベテラン選手が最有力という、なんとも皮肉な結論になってしまった。これでいいのか新日!?

ニッポンの夏、マット界の風物詩といえば、もちろんお仕事の出来る豊富な選手層を抱える新日本プロレスのG—1連続興行である。鍛えてない庶民は盛夏にぐったりの日々が続いているが、スポーツ選手は寒い冬より調子が良くなる時期。夏休みに地方から上京されるファン層や海外からの密航者をも取り込み、サイドストーリーに頼らない試合内容自体に重点を置いたシリーズを敢行できるのは、もちろん業界最大手の老舗団体だからこそ。誰が名勝負を連発したのかをお客様に判断していただく一週間強の耐久マラソンG—1は、次世代スターを売り出す絶好の試験場でもあった。

何しろ名称が競馬から来てるだけあって、G—1と言えば予想することもまた立派なプロレスの楽しみ方である。オールド・スクール出身「プロレス活字」の記者が内部情報を知った上で、わざと受けを狙ってプッシュする選手の名前を挙げる記事もあるが、実はそれが異常に面白かったりもする。ロジックなんてのは、いくらでも後から付けられるものなのだ。その名前の挙がった選手を贔屓にしているファンが読めば、プロレス・マスコミの楽しい部分に幸せな気分に浸れてしまう。自分にもファンタジー活字の原稿依頼がきて、「ついに永田裕志が初優勝!!」を書かせていただけるのかと期待したが、注文の内容はそうではないらしい。私としては「WWFのブッキングを現地でつぶさに観察してきた謎のコンサルタントが断言！」とか、大袈裟な見出しを打っておき、見事にハズして皆さんに笑っていただく方が記事は面白くなるのだが、あくまでビジネス分析として、「どのようなブッキングが一番まっとうかを、クソ真面目に分析せよ！」とのこと。すると落ち着く先は、余り新鮮味はないが「プロレスLOVE」のハゲ頭先生になってしまう。

ポイントは3つある。91年の第一回G—1以来、舞台裏での最大の変化は現場監督（北米での業界用語はブッカー）が長州力から蝶野正洋に変わったこと。「やっとこの人事異動が断行されたのか」と、昭和のプロレスファンが一斉に祝盃を上げた（と、される）遅すぎる交替劇ではあった。これだけ一般のファンの間からも「新日はつまらなくなった」から、「金返せコール」（入門者用の1・4東京ドームで発生した点は深刻）まで、カードの不満が爆発していたのだから、とりあえずビジネスを考える責任者の年齢が下がったことは評価せねばなるまい。

しかし、どんな会社組織でも、ボスが変わっていきなり斬新なことをやれば反発を食らってしまう。長州の子分だった佐々木健介が、しばらく視界から消えてくれているのが救いだが、いきなりチーム2000の部下である天山広吉が優勝してもマズいのである。もっともその健介が、昨年のG—1覇者だった事実を覚えている方がどれだけいるのだろうか？　長期的な展望に則ったカード編成といっても、コロコロ予定は変わるものなのだ！

判断材料の次のポイントが新顔。村上一成の英文シュート活字メディアでの評判は日本国内の数倍以上である。日本語がわからない分、政治的な配慮や偏見がなく、ビデオに残された映像だけで職務能力を判断するので、早くも「今年のMVP」の声まであがっている。受け狙いのG—1予想なら、間違いなく〝平成のテロリスト〟中心に幻想を膨らました方がワクワクさせてくれるし、カード表を眺めて最も興奮させてくれるのも〝離婚男〟なのだ。腐りきった新日帝国に文字通りの暴行を加え、そのまま優勝してくれた方が、舞台裏の監督交替劇なんてどうでもよい世間一般にはインパクト絶大。海外の日本マニアも大喜びで全員が得するハズなんだが、現場の体育会系現実は机上の論理と一致しない。いざ自分が監督の立場に立たされると、U系選手が地獄の連戦に耐えられるかの不安など、プッシュを躊躇するマイナス材料が気になってしまう。

負傷した飯塚高史の枠を引き継いだ、ジュニア王者の田中みのるは期待できそうだ。「どうせJr.チャンプが優勝するハズがない」の常識を逆手にとって、彼のやりたいようにお仕事させればよいだけ。まして業界の慣習として、代打さんは星取りや試合進行でわがままが言えるのだから、初日の安田忠夫戦だってコメディーにならないだろう。元リングスの成瀬戦を乗り切って、さらにG—1でも多様性を魅せられたなら、裏MVPを苦労せずにかっさらえるのではなかろうか。

最後のポイントが故障者リストとケガ。連戦形式G—1の面白さは、予定調和に収まりきれないリスクの匂いに、年季の入った「プロレス者」までがむせかえること。すでに飯塚が脱落した格好になっているが、その枠に長州の名前が出たことは良かったのか悪かったのか。いくら舞台裏の権威の低下があろうが、お茶の間の大衆にとってスターとしての神通力は絶大。スポーツ紙で参加を匂わせて、ファンを混乱させた罪は大きい。すでに決まっていたカード枠を検討して、どちらにせよ中途半端な活躍になりそうなのを避けたのだろうが、蝶野新監督にしてみれば前任者の扱いほど神経を使うこともないだろう。まぁG—1本戦から離れた分、どのような特別試合に登場するのか、やはり長州の呪縛から逃れられないのが組織としての新日なのである。

初日や二日目にケガしてしまい、それが決勝戦に本当に影響する危険度が高いのもG—1の特徴だ。初日の試合内容が評価され、後半の予定が変更される快感を楽しみにしている超マニアも少なくない。初日8月4日、大阪府立体育会館での永田vs村上戦、二日目の中西vs永田戦は要注意。勝ち負けではなくて中身なのである。「ブッカー頭で楽しむ観戦法」とは、例えば参加メンバーの中でプロレスが一番素晴らしい小島聡を照準にして、初日がvs新現場監督戦、五日目がタッグ王者のパートナーである天山戦と発表されてるカードを睨んで想像力と対決することにある。あるいは、今年は負け試合が溜まっている中西と永田の扱い。ずっと我慢してきた功労者は果たして最後に報われるのだろうか？　新しいスターを作るのがG—1の意義であり、そうやって第一回優勝者となった蝶野が、巡り回って冒険をしてくれるのだろうか？　それともノアの三沢ですら本人は死にたいのに周囲のしがらみを処理できず、秋山にすらベルトを譲れないように、提携先の全日本プロレスのご機嫌も考慮して、武藤がまた奇跡を連発するのだろうか？

純プロレスのテーマはイマジネーションの復活であるべきだ。それとシュート活字は全く逆方向にあるように思われがちだが、実はお互いに補完される関係にあったのである。

――井上さん、先月号を読んだ16歳の女の子から、面白かった記事として、このコラムを挙げてますよ！　井上さんに対しての感想は、「熱い人ですね」って書いてます（笑）。16歳にまで届いてますよ！

井上　熱いっていうけどね、そんなもん、アンタ、好きなんだから熱くなるのは当たり前なんだよ！（ドンッとテーブルを叩いているはず）。

――早くも熱いですよ（笑）。

井上　「好きこそものの上手なれ」って言うだろ？　好きなことを、自分の信じた通りに一生懸命やればいいんですよ。

――という、熱いメッセージもいただいたところで、今月のお題は「プロレスラーの政界進出は是か非か？」です。参院選は今月末の29日で、この号が発売された3日後ということで、井上さんにはまたまた予言じみたことをお願いしたいのですが。

井上　オレはな、ハッキリ言って、このテーマでは語ることはないんだよな、言うちゃ悪いけど。そんなもん、今の政治なんて改革だなんてワーワー言うとっても、何にも変わりゃせんのだからな！

――まあ、そう言わないでください（笑）。テーマはあくまでプロレスラーの政界進出についてですから。

井上　ハッキリ言ってね、人間なんてみんな収入があるから仕事をするんだよ。ナンボ好きだって言うとっても、収入にならなかったらやらないわけだよ。さっきの16歳の女の子の話と矛盾するかもしれんけども。だから忙しくても我慢できるんであってね。ところが政治家なんていうのは、割に合わないくらい忙しいんだよな！　身動きできんわけだよ。猪木が言うとったんだから。「これほど忙しいものだとは思わなかった」って。

――猪木さんには政治家すら狭く感じたんでしょうね。

井上　だからな、大仁田あたりが議員になって、毎週駅にでも立って辻説法でもしようかなんて思ってるかもしれんけども、これはハッキリ言って不可能ですよ。とんでもない忙しさなんだから、政治家なんていうのは！

――なるほど。で、大仁田の名前が出ましたが、今回の参院選では大仁田、佐山、堀田が立候補しています。なぜ、プロレスラーは政治家になりたがるんですかねえ？

井上　それはやっぱりプロレスラーという職業が、世間からバカにされるからなんだろうな。残念だけれども。

――やっぱりそういうことなんでしょうね。コンプレックスの裏返しというか。

井上　そういうことだな。それとプロレスラー側が、「こんなもん、オレにもできる！」って思うわけだよ。

――政治をなめちゃってるってことですか？

井上　それもあるだろうけど、やっぱり一流のプロレスラーっていうのは、何をやらせても通用するんだよ。

――プロレスラーは何をやっても通用する！

井上　そう！　それは記者も同じなんだよ。プロレスの記者の一流どころなら、大新聞の経済だろうが政治だろうが、何部に配属されても立派に務まるよ。

――やっぱりそれだけプロレスに関わっている中で感性が研ぎ澄まされるってことですか？

井上　ま、そんなところだな。

――では、今回の立候補者を一人ずつ語っていただきたいと思います。まずは大仁田から。

井上　やっぱり大仁田なんてのは、センサーが非常に鋭いというか、情勢を読む力が優れているわけだよ。政治家に向いてるんじゃないの？

――ズバリ、当落は？

井上　大仁田は通るだろう。ただ、タレント候補に逆風が吹いてるからな。でもまあ、自民党は追い風が吹いてるから、大丈夫だろう。

――では佐山聡。今回は初代タイガーマスクとして出馬です。

井上　うーん、佐山は非常にクールな男で、そういう意味では大仁田とは正反対だな。タイプ的にはまだ馳に近いかなとも思うけど、馳のようになれるかどうかはわからんな。

――政策は「強い日本人を育てる」ですよね。もともと右傾がかったところがありますね、佐山さんは。

井上　ふーん。

――あら、興味なさそうで（笑）。まあ、今回、大仁田も佐山も転職ってニュアンスが強いんじゃないですか？

井上　ハッキリ言えばそういうことなんだよ。やっぱり言うちゃ悪いけど、安定した収入っていう魅力もあるんじゃないの？

――では最後に堀田祐美子。

井上　オレは試合を観たこともないからわからん！　ただ、みんなに言えることだけど、出るからには当選してほしいし、政治家になったらなったで、「プロレスラーっていうのは政治をやらせてもなかなかやるな」と言われるくらいのことをしてほしいなということだよ。とにかくな、プロレスラーっていうのは世間が思うほどバカじゃないんだから！（ドンッ）。猪木を見たらわかるだろ！　政治からエネルギー問題から、専門家がビックリするくらい詳しいんだから。それとか前田な。もう難しい本ばっかり読んでるんだから！　もの凄い読書量だよ！　まあ、この前のしょうもない事件なんかがあると、そういうイメージがかすんでしまうけどな。

――しょうもない事件っていうのは、新日の事務所の前で東スポのカメラマンのフィルムを抜き取った事件ですね。井上さんはあの事件はどう思いました？

井上　ハッキリ言ってな、前田日明ともあろう者があんなことやっちゃイカンよ！（ドンッ）。力道山時代から悪いクセというか、力道山を知らないクセにプロレスラーっていうのは、「オレが喰わしてやってる」という意識があるんだよな！　これからの時代はそんなことじゃ絶対に通用しない！　断言する！

今月のお題

プロレスラーの参院選出馬は是か非か？

暑い夜には熱い井上さんがよく似合う！ というわけで、今月も情熱的にお届けする喫茶店トーク。今月のお題は、大仁田、佐山、堀田らが出馬し、ドラゴンまでが出馬を考えた今回の参院選。プロレスラーの政界進出は是非を井上さんに聞いてみました。

聞き手／原一博（元タコヤキ君）

——じゃあ、今回、井上さんが東スポのカメラマンのような目に遭ったらどうしました？

井上　ハッキリ言って、オレは前田だろうが誰であろうが言い返しますよ、そんなもん。向こうが「誰に喰わせてもらってるんだ」って言ってきたら、「誰が記事を書いてやって喰わせてやってるんだ」ってな!!!（ドンッ）。

——凄い!!!　さすが井上さんや！

井上　ハッキリ言ってね、どんなレスラーにも思い上がりがあるんだよ。レスラーだから上だとか、マスコミだから下だとか、そんなこと言う時代じゃないんだよ。東スポも「徹底的に闘う」って言うとるだろ？　いつまでもマスコミも黙ってないということだよ。ただ、マスコミも変ないい加減な記事は書いてはイカンな。

——なるほどお。ちょっと脱線しちゃいましたね。で、余談ですが、井上さんのお弟子さんのターザン山本さんが「次は参院選に出ようと思う」と平気な顔して言ってるらしいですよ（笑）。爆笑しちゃいましたけど。

井上　山本に「まずその勇み足をなくせ」って言うといてくれ！　思いつきで行動したり、変わり身が早いっていうことは、政治の世界では一番突っ込まれやすいんだよ！

——ワハハハ！　まさしくその通りだと思います（笑）。まあ、出馬したらしたで笑えますけどね。で、恒例の（笑）、もしものコーナーですけど、井上さんが出馬するとしたらどんな政策を打ち出しますか？

井上　オレ？　そんなもん、決まってますよ。「政党をなくせ！」ってことを徹底的に訴えますよ。「団体プロレスとともに、政党政治を潰せ！」って叫ぶだろうな、オレは。

——団体プロレスが世間ではわかんないでしょう（笑）。経済政策とか訴えないと当選しませんよ？　あと教育とか。

井上　そんなもん、小さい小さい！

——経済や教育が小さい！

井上　そんなもん、政党政治をなくして、本当の改革を成し遂げたら、経済も教育も簡単に解決できますよ！　とにかく政党がダメ！

——ほお。で、もし当選したらどんなことをやりますか？

井上　国家試験を実施する！

——国家試験？　誰が受けるんですか？

井上　国民全員ですよ、そんなもん!!

——国民全員！　ボクもですか？

井上　アンタもオレもだよ。全員！

——えーっ！（笑）。ほんでどうするんですか？

井上　国家試験で1級から10級まで作る。で、例えば弁護士になりたいなら、まず国民全員の国家試験で2級以上を取らないといけないとする。ほんで、2級以上取れたら、今度は弁護士だけの専門的な試験を受ける。プロ野球の選手も国家試験を受けてもらう。今、現役の選手もちゃんと受けてもらうから！

——ワハハハ！　いいじゃないですか、現役のプロ野球選手が勉強できんでも（笑）。

井上　オレが言うてる国家試験ってのは、勉強というよりも、道徳的なことだとか、日本の簡単な歴史だとか、日常会話程度の英語だとか、そういうことなんだよ。ほんで、みんなが国家試験を受ければ学校なんかも必要ないから。

——学校も解体しますか！

井上　する！　要するに、この試験に合格するってことは、人として最低限のことは満たしてるってことだから。学校なんか行かなくていいんだから！

——はあ。どこの誰よりアナーキーやなあ、井上さんは。

井上　だいたい、改革改革って、小さいことばっかり言ってたって、変わり様がないんだから！　オレが言ってるようなこともすぐにはできないだろうけど、でも現実的なことしか言ってないんだから。じゃあ、誰が日本を変えるのかってことをオレは言いたいんだよ！（ドンッ）。

——じゃあ、井上さん、次の参院選こそは出馬してください！　『紙プロ』読者が全員投票しますから（笑）。

言うちゃ悪いけど今月の結論

改革改革言っても何も変わらん！ 団体プロレスと共に政党をなくせ!!

いのうえ・よしひろ■1934年、岡山県出身。若い頃は大阪の新開地でドスを持ったヤクザと喧嘩したり武勇伝は数知れず。『週刊ファイト』編集長を長く務め、「活字プロレス」と呼ばれるジャンルの創始者。現・ビートたかしのターザン山本やゴングのＧＫ金沢編集長など、プロレスマスコミ業界には井上さんの弟子が多数いる。現在も『ファイト』で鋭すぎる批評コラムを連載中（必読）。

PRIDE、パンクラス etc…

7･29空前のマット界大戦争!! 出かけるときは忘れず1票!

号外 紙プロ選挙情報

国会にファイヤー 大仁田厚（自由民主党）

大仁田くん、一緒に改革を進めよう！（内閣総理大臣　小泉純一郎）

自民党から出ようと思った理由の一つが小泉首相に同じ『熱さ』―インディペンデントのこころを感じたからだという『現役大学生』大仁田候補の考える改革は、教育・モラルの見直し、夢のある社会の構築、ボランティアの充実、自然との共生の4つだ。遊説をジャケット・ジーパンの全身黒づくめの〝邪道スタイル〟でおこなったり、東京6大学をまわって支持を訴えたり、母校の駿台学園で学生救助隊を立ち上げたりの、ハチャメチャ選挙戦術はまさに大仁田流。しかも小泉首相に「子供や若者に夢、勇気、希望を与えるために一緒にファイヤーと叫んでほしい」との陳情書を渡して首相に「ファイヤー」を連発で絶叫させることに成功している大仁田候補。なぜか当選の晩に掲げている猪木との引退試合にむけて、100万人とファイヤーだ！

みかんひとつ貰わない政治を！ 徳田虎雄軍団（自由連合）

7月6日　千代田区　星稜会館

―格闘技ブームの仕掛け人― 杉山ひでお

杉山ひでおに国会という命の捨てどころを与えてください！

元『週プロ』＆『格通』編集長にして週刊ファイトから『週プロ』にターザンを引き抜いた男として有名な杉山候補。現在は自由連合幹事長として、武道及び各種格闘技を『無形文化財』として認め、育成すべき！『平和外交』でなく『武道外交』を標榜すべき！　と、虎雄イズム溢れる武道精神を爆発させている。そしてこの日応援に駆けつけた前田もまた「今の日本はしつけと暴力を勘違いしている！」と、まさに杉山候補と背中合わせのアキラ語録を爆発させていた。

初代タイガーマスク 佐山サトル

徳田虎雄氏と虎つながりな我らがタイガー・佐山サトルが自由連合スポーツ文化部長であることをキミは本当に理解しているか？　FBIのような強力な特別組織をつくり国際犯罪を根絶するだの、弱体化した警察の復活だの、文部科学省に武道教育をとりいれるだの、何事も10年早い佐山のこと、選挙への出馬も10年早いなんてことにならないよう、祈るのみだ。

元WWWA世界チャンピオン 堀田祐美子

そして紅一点は全日本女子プロレス倒産＆選手大量離脱時にエースながら「私も貯金がなかったら辞めていた」との無責任発言をブチかました堀田候補である。いじめ撲滅！　スポーツのある教育！　日本の教育に喝！　を旗印にスポーツ文化部次長を務める。ちなみに得意技はピラミッドドライバー。

自由連合とは何か？

自由連合の主要四大制作！

1. 医療と福祉に全力投球
2. 人間復興　教育改革と地球環境を守る
3. スポーツ・文化の振興により健康で明るい社会の創造
4. 消費税凍結・小さな政府で景気回復総合対策の実行

ハッキリ言って僕は政治のことは全く知らない。政治のことで知ってることと言えば、たまらない男・徳田虎雄氏率いる自由連合ぐらいなのだ。知性、個性、感性あふれる候補者が素晴らしすぎて、いつのまにか心を鷲掴みにされていたのだ。たとえば、ブラジルで三次元神来手なる怪しげな空手流派を立ち上げた猪木の兄貴・相良寿一に、松方弘樹の元愛人・千葉マリアに、ジェームス三木の元夫人・山下典子に、ボイン漫談の月亭可朝、おまけに元関脇・荒勢など、気にならない方がおかしいくらいの豪華版なのである。この人選に関して虎雄氏は「たしかに彼らは政治経験のない素人だけれど、それぞれが各分野で実績を残した人ばかり。等しく言えるのは庶民の感覚で物を見てきた人達だから、変革の時代に現体制でしか物を考えることのできないプロより、大衆のこころで発言できる素人の方が遙かにましっ！」　ということでこんなことになってしまったそうだ。7月29日の投票日には投票の仕方がわからないのでボクは投票できないが、『紙プロ』読者の皆さんは『紙プロ』選挙情報をよく読んで、誰でもいいから忘れず1票いれましょう！

（ボン）

猪木's EYE

（大仁田について）大仁田はうかりそうでしょ？　大仁田はいくと思うよ。ひと味違うというか、品格はさておき大仁田個人は自分を売る事とか、自分を目立たせるのはやっぱり群をぬいてるんじゃないのかな。その点は無条件で認めるよ。たくましさというか、ずうずうしさというか、機を見るに敏というか。彼は実力の200％だしてんじゃねーの（笑）。（佐山について）こないだも荒勢と佐山の演説聞いちゃったけど、アレ聞いたら俺は政治の出番じゃねぇな。俺たちはあんな立派な演説できなかったから。ダーッハハハ！（笑）。佐山なんかこないだちょこっと演説聞いてみたらお前待てよって。あんな真面目な演説じゃなくてやっぱりタイガーマスクらしいねぇ、宙返りでもしたら最高なのにね。『政治を宙返り』なんてさー、ひっくり返しますみたいなことでねぇ、キャッチフレーズ考えたら面白いのに（笑）。

（7・12成田空港）

今でも新日本プロレスを一番愛してるのは俺だよ！

プロレスファンの多くは、自らもプロレスラーとしてリング上で闘ってみたいという気持ちを持っているだろう。この大谷晋二郎は、小学生時代に抱いたプロレスへの想いを一瞬たりとも忘れることなく成長し、遂には本物のプロレスラーとなり、あの新日本プロレスでチャンピオンベルトを巻くまでの存在となった男である。現在ZERO-ONEで活躍する大谷に、プロレスそして変わらぬ新日本プロレスへの愛をノンストップで語ってもらった

“究極のファン上がりレスラー”

大谷晋二郎の

［ZERO-ONE］

語りだしたら止まらない

新日本プロレスLOVE論

聞き手／大坪ケムタ
助手／チョロ
撮影／丸山剛史
designed by matsu (Two three)

PRIDE、パンクラス etc...

7・29空前のマット界大戦争!! 出かけるときは忘れず1票!

号外

――昨日の試合（7・5バトラーツ後楽園大会・大谷＆日高組vs松井＆カール組）はお疲れさまでした！　相手チームの二人の感触はいかがでした？

大谷　気持ちの部分で、コイツら仲間に……仲間っていうか、輪の中に引き入れたいっていうのが正直に出ちゃったよね。

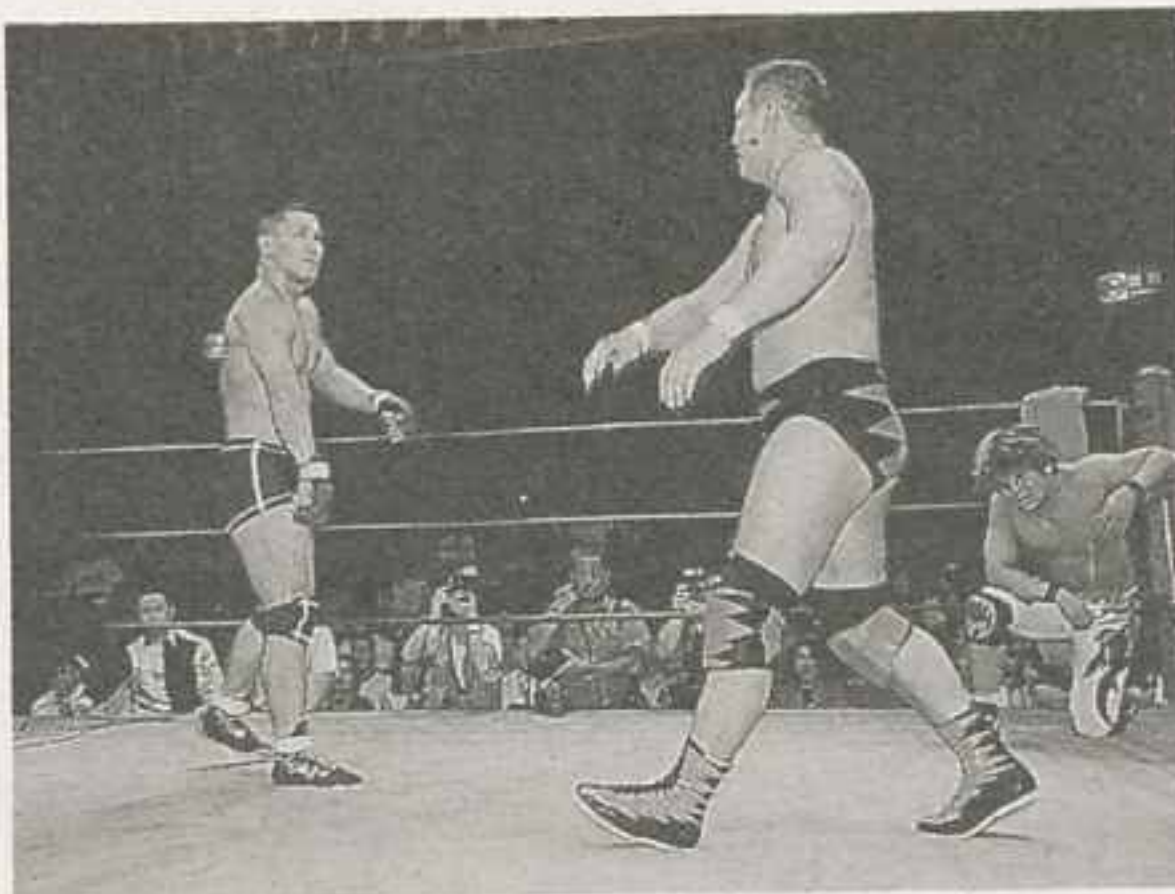
――松井選手もそれに応えた形でしたね。

大谷　正直、レスラーってのは欲求の塊ですから、もし松井君がプライドに専念したいんだったらボクは何にも言う権利はないですよ。でも彼がこういう熱い闘いに興味を持って飛び込んできたい時の道を作ってあげたかった。お前のやりたいことやって、もうひとつこういう熱い闘いに飛び込んできたいんだったらいつでもウェルカムだと。

――これまでの松井選手の印象っていうと？

大谷　非常に申し訳ないけど、バトラーツの時ぐらいしか見てないんですよ。プライドの試合も実際には見てないんです。でもいろんな人の話聞いて、怖い者なしみたいな感じでどんな選手でもぶつかっていくと。そんな選手大好きですから！

――もしシングルが実現したらUWAジュニア王座決定戦での桜庭選手との対戦（96・6・17）の敵討ちになっちゃいますね。

大谷　あの頃の桜庭選手と今の桜庭選手じゃ比べものにならないと思うけど、凄い楽しかったですよ。桜庭選手のあの時点で持ってる魅力というかそういうのも試合に出てたんじゃないかって気がしますし。

このインタビューの前日バトラーツで日高とタッグを組み松井＆カールとタッグで激突した大谷。初めてのZERO-ONEと髙田道場の遭遇となったこの試合。予想通り大谷と松井の熱い男バトルは火花を散らしまくった

――その時の桜庭選手の印象は？

大谷　この選手はプロレスってジャンルに思いっきり入って欲しいなって思いましたね。簡単にいえば、やっぱり頭が固くない、プロレスも視野に入ってる選手だって印象ありましたよ。だからボクは引き込みたいなって思ったけど、まぁ今考えれば桜庭選手の努力であそこまで行ったのは素晴らしいと思うし。これは素直に認めたいですね。

――あのUWA戦はいい試合でしたね。大会名はスカイダイビングJでしたっけ？

大谷（真顔で）なんでしたっけ、それ？

――全試合ベルト賭けてやったジュニア興行ですよ！（笑）。

大谷　ああ！　ジュニアの時っていろいろイベントがあったから、ゴッチャになってわかんなくなっちゃって（笑）。その頃でいうと、あと垣原選手とか、あの時は負けたのかな？　ボクはね、綺麗事言うようだけど、勝っても負けても、終わった後相手も自分も「やって良かった！」と思える試合をしたいんですよ、どういうスタイルの選手であれ。そういう意味でもその2試合は凄く記憶に残ってますね。

――じゃあカール選手の印象は？　試合後、カール選手は大谷選手のことを「リスペクト！」としきりに言ってましたよ。

大谷　う～ん、それは凄くありがたいけれども、立てることばっかりはいらないよ、と。この熱い闘いに入ってくるんだったら、どんどんケナして、どんどん挑発しろって。ケナすってのは認めてるからケナすわけじゃないですか？　ボクだってジュニア時代ライガーさんに対してもそうだったし。終わった後「あぁイイ試合だった」って気持ちは持ちたいけど、まだやりたいが上に言わなきゃいけない発言もあると思うんですよね。試合がキレイに終わって選手もファンも「あぁ良かった、この闘いもうしばらくいいや」じゃつまんないですからね。「次が見たい、次どうなるんだコイツら！」ってファンに思わせるのがボクらの役目だと思うし。

――そういう「熱いヤツら」が順調に呼応してきてますね。橋本選手がノアや小川選手で苦労してるのに対して（笑）。

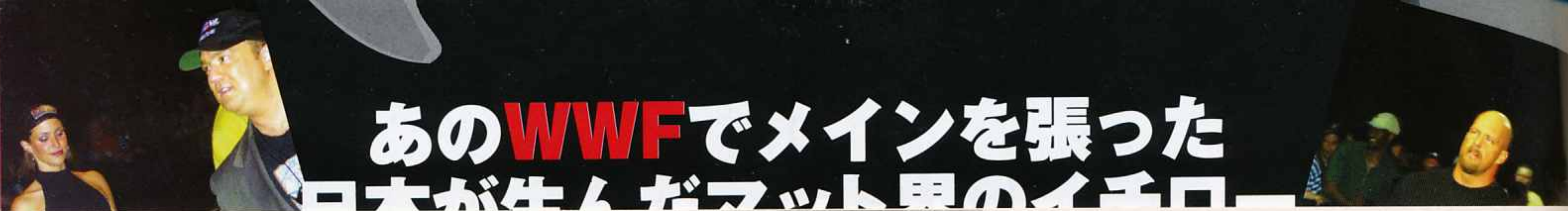
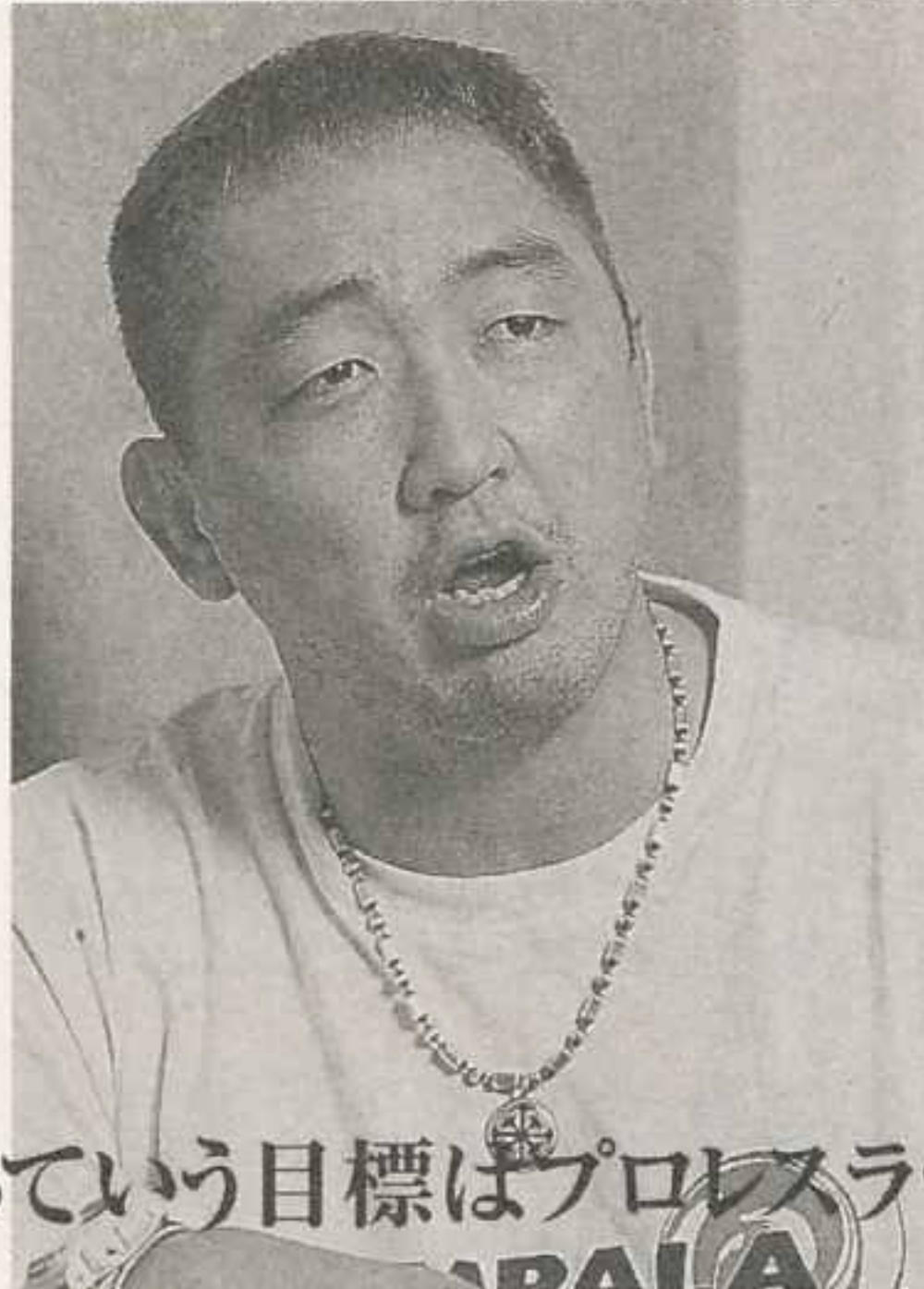
大谷　順調かどうか分からないけれど、村上なりアレクなり石川雄規なり松井君もそうだ、全てに言いたいのはね、ボクは集まれって言った時、「俺がリーダーになる！」と言ったけれども、それは俺の気持ち。このボクの作って来た流れの理想的な形は「俺がリーダーだ！」って気持ちをみんなに持ってもらいたい。全てがそういう気持ちを持った人間が集まって試合すればすっごい試合出来ると思うんだよね。ボクは「おう、俺の下に全員集まれ！」みたいなの全然ないから。ボクは格なんかに拘ってないからね。

――大谷さんは昔からそういうところはありましたよね。

大谷　でも誰でも彼でも入れるつもりはないよ。「また偉そうに」って言われるかもしれないけど（笑）、その人の試合なり考え方なりを見てからですよ。それからボクも「コイツと闘っていきたい」と思ったらボクの方から「来てくれ」って言いますよ。とにかく名乗りを上げるのはタダですよ。全部引き込もうとは思ってないけど、これはボクが新日本の時だったら絶対出来なかったことですからね。

――新日時代は積極的に外に声をかけるのは難しかったですからね。ゼロワンだから出来ると。

大谷　でも、やっぱり昔からの知り合いに会うと、10人中9人が

96年、武道館で開催された『ザ・スカイダイビングJ』。日本マット史上初の8大タイトルマッチが行われたこの大会、大谷は負傷欠場したヤマケンの代わりに出場した桜庭と闘った。最後は相手のお株を奪うチキンウイング・フェースロックで大谷が勝利を収めた

あのWWFでメインを張った

「新日本を辞めて失敗だったね」って言うわけですよ（笑）。

——でも、そういう人は多いでしょうね。

大谷　周りから見れば正直な気持ちだと思うんですよ。でもボクは凄く吹っ切れた想いがあるんですよ、投げやりじゃなくて。あれだけ好きだった新日本を辞めてゼロワンという団体、小さい団体だけど可能性を求めて来て。これでもし、ゼロワンという団体がなくなって自分が試合することもなくなって大谷晋二郎というレスラーの価値がなくなってしまっても、それならそれでいいじゃんって。大好きな新日本の中で思いっきり10年間やれたんじゃないか、お前のプロレス人生万々歳じゃんと。だったらもっと違った可能性賭けてもっとデカいものにして、お前の愛してる新日本プロレスに逆上陸してやろうじゃねぇかと。

——いい意味での開き直りというか。

大谷　俺は自分で決めたんだ、ダメだったらダメでいいじゃないかと。でも新日本出て新日本以外のいろいろな選手と実力を競い合って、新日本を出たからこそ大谷晋二郎のステイタスが上がったと言われるようにしたいし。そういう状態にしたら、必ず新日本のリングに上がる道が出てくると思う。これはねぇ、ゼロワンの関係者や橋本さんにも「俺は戻りますよ、新日本」ってハッキリ言ってる。知らない人が聞いたら「なんだ、じゃあ辞めることねぇじゃねぇか」って言うかもしれないけど（笑）、大谷晋二郎は新日本を辞めたけれど、今でも一番新日本プロレスを愛してるのは俺だよって気持ちはすっごいありますから。そりゃ新日本の選手からすると面白くないですよ。「お前辞めて裏切って出ていったくせに何が一番愛してるだ」って。でもこの気持ちは譲れない（キッパリ）。

——新日本LOVEは胸張って言える、と。

大谷　橋本さんにも先日言われたんですよ。「新日本とはしばらく距離を置くから新日本の名前を出すな」って。でも俺は「出しますよ」って。俺は絶対戻る気持ちだし。でも新日本の正規軍に戻ろうなんて端から思ってないですよ。ボクは新日本に10年いたからわかるんだけど、新日本プロレスって団体は、新日本以外の所でも注目されて上がってきた選手は絶対お呼びがかかるんですよ。Uインターの時もそうだった、サスケもそうだった、そして対抗戦に持ち込む。だからこそ、「大谷は今面白いじゃねぇか、よしウチの主力とぶつけよう」と、そういう状態に持っていきたいね。

——新日本からお呼びがかかるまで。

大谷　こういうこと言うと新日本の首脳陣が「エラそうなこと言ってんじゃねぇ。お前なんか呼ぶか！」となるかもしれないけど（笑）。それは今の状況では仕方ない。

——じゃあまだ今の時点では難しいと自分でも思ってるんですか？

大谷　一旦出たからには自分で納得して、よし行ってやろうかと思うまでは。IWGPヘビーを獲るっていう目標はプロレスラーである限り消えないと思うし。でも確かに新日本辞めた時吹っ切れた気持ちもありましたけど、いろんな人から同じこと言われると「アレ、本当に失敗だったのかな？」って（笑）。2、3ヶ月前思い悩んでましたよ。ファンも同じこと言ってるし。でも今はファンの方にこういう言い方失礼だけど、勝手に言ってろって！

——勝手に言ってろと（笑）。

大谷　正直、新日本離れたことでボクから離れたファンいっぱいいると思う。思うけども、「大谷は絶対このまま死なない。またメジャーを揺るがす行動をする」って信じてるファンが少人数だとしても絶対いると思うんですよ。またベビーフェイス気取ってるって言われるかもしれないけど、自分のためでもあり、自分を信じてくれてるファンのためでもあるんで、死なないッスよ、このままで。最初ゼロワンで負け続けて、ガクッってなったりした時期もあったけど、盛り返してる自信もあるし。もっともっとこのボクのプランをデカくして、みんなが無視出来ない動きにしたいですよね。

——でも、だんだんゼロワンでも大谷色が出てきましたよね。ZEPP2連戦のカードにしろ。

大谷　そうですね。それは橋本さんのいる前でも堂々と言ってましたから。「ボクは早く『ゼロワン＝橋本真也』っていう図式を崩したい」と。「ゆくゆくは大谷のゼロワンにしたい」と。確かに橋本さんがこの団体を旗揚げするまで一番苦労したのは重々分かってる。分かってるけど橋本さんだけのゼロワンじゃ会社の未来はねぇだろうと。そういう気持ちはあるしね。だからボクが行動起こしてボクの存在をデカくして、いずれはゼロワンの主軸が橋本vs大谷というカードになれるようにしなきゃ。

——大谷選手にとってひとつの区切りがそのカードなんですか？

大谷　そうですね。周りの見方も「もう大谷と橋本並んでるだろ－！」って言われるようになって、実質的に試合でも勝って。その時だろうね、ボクがでっかく「どうだい新日本さんよぉ、俺はここまでになったよ」と言えるのは。ファンの声で「オイ、大谷あげろよ。新日本の選手勝てるのか？」みたいな気持ちにさせて。後押しが無いにしても、意地でも何年後かには新日本のリングに立とうと思ってますよ。（急に小声になって）怒られるかな～、またこんなこと言ったら……。

——これだけ吠えて今更心配しないでくださいよ（笑）。でも大谷選手って新日本愛をこれだけ言ってても、インディー選手への差別って昔からないですよね。

大谷　全くないですよ。対抗戦の時も真っ正面からぶつかり合っていったし。ボクは相手を見下して試合をしたことは一度もない。これは自信持って言えるからね。

——以前、佐々木健介vs大仁田厚戦が凄く楽しみだったってコメントを聞いて、らしいなぁと思ったんですけど。

大谷　佐々木vs大仁田戦がどういう試合になるかわからない。でもボクの中で直感があったんですよ、佐々木vs大仁田戦より大谷vs大仁田戦の方が絶対面白いって。これは自信持って言えますね、ボクも目立ちたがり屋だし（笑）。

——お互いどれだけ感情出せるかになっちゃいそうですけどね（笑）。でも以前やり合ってた田尻選手やTAKA選手、船木選手もWWFで有名になっちゃいました。

大谷　そうですよね。彼らのことは凄く気になりますよ。雑誌に出てたら隅から隅まで読んじゃう（笑）。スゲェなぁ、メジャーリーガーじゃねぇか！って。まだボクのこと覚えてくれてるかな？（笑）。

——あと高校の後輩でもある藤田稔選手も今は海外ですね。

大谷　今メキシコかどこか行ってるみたいだけど、雑誌に出てたら「あぁ、やっていけてるんだ」って正直嬉しいし。藤田君には特別な思いがあるしね。彼が日本発つ前に何度か電話で相談とかしてきたんですよ。それで自分なりのアドバイスをしてあげたんです。「お前はいい物持ってるから、その気があるなら新日本への道を作るよ」と。

——新日入団の可能性もあったんですか？

大谷　でもまぁ本人が海外の方に行きたいと新日本の方にハッキリ言ったみたいなんで。それはそれである意味立派だと思いますよ。新日本という美味しいエサを蹴る覚悟で行ったんなら結果を出さなきゃいけない。ボクだって新日本という大きい物を捨てて結果を出すために頑張ってる。ある意味ボクは藤田君と同じような境遇かもしれないけども、素直にエールを送りたい、頑張れって。（胸を指さして）アイツはハートがすっごいイイ男なんです。まぁ藤田君だけじゃなく、またみんなと

IWGPヘビーを獲るっていう目標はプロレスラーである限り消えない!

PRIDE、パンクラス etc...

7·29空前のマット界大戦争!! 出かけるときは忘れず1票!

号外

は接点持ちたいですよね。

——ジュニア時代やりあってきた他団体の選手達も結果を出してきてますもんね。

大谷　ボクは欲張りでねぇ、ボクと絡んだ人間はみんな上がっていって欲しい！　それでヨソの所に行って自慢するんですよ、「アイツらボクとやってたんだよ」「俺ねぇ一回勝ったことあるんだよ」って（笑）。

——アハハ。あと他団体選手もそうですけど、当然、新日ジュニアで競い合ったっていう自信も大きいですよね。

大谷　もちろんそうですよ。今ジュニア卒業しちゃったから言えることかもしれないけど、ライガー、サムライ、金本、カシン、それに今一緒にいる高岩、その5人なくしてボクは語れないし、ここまでなってないですよ。だからね、ボクにはひとつ夢があって、毎日のようにやってたジュニア3vs3の試合あったじゃないですか？　何年後でもいい、あの3対3をもう一回やりたい。後楽園でもどこでもいい、一回やってみたい！

——いずれジュニア同窓会は見たいですねぇ。さて、大谷選手のこれまで描いてきた理想のプロレスってどういったものなんですか？

大谷　これはですね、やっぱりボクのやりたいプロレスってのは見てる人が素直に喜怒哀楽を出せるプロレス！　例えば普段おとなしい子だけども、大谷の試合を見ると自然と握り拳を握ってたとか、席を立ってたとか、そんな試合。レスラーが悪いことするとファンも「ここはブーイングする所だ」って感覚で言わせるんじゃなくって、悪いことしたら心底から「クソ〜、何やってんだ！」と喜怒哀楽を出させるプロレスをしたいんですよね。

——今はファンがレスラーのやることに合わせて声援する所ありますよね。

大谷　考えてじゃなくって、自然とそうなっちゃうようにしたいよね。よく猪木さんがよく言った言葉で、「見る人を手のひらに乗せるプロレスをしろ」というのがあるじゃないですか。それって例えば最後は逆転するって思ってたのをコロッと違う方が勝っちゃったりして驚かせるってことじゃないですか。ファンの読んでる先のことを考えて。でもボクは猪木さんの言ってるその言葉、半分賛成出来て半分反対なんですよ。ボクはレスラーって言うのはファンの手のひらで踊ってもいいと思うんですよ。

——あえてファンの考え通りにですか！

大谷　全部が全部でもダメですけどね。例えばファンが必死になってる、喜怒哀楽剥き出しで「大谷勝って！　ここで勝てる！」とか、そのまま勝っちゃってもいいんじゃないかと。裏の裏ばっかり読まずに期待に応える、ドリフターズと同じですよ（笑）。

——ドリフターズですか（笑）。

大谷　分かるでしょ？　オチは分かってるけど面白いと。ボクらだって闘ってるんだからどっちが勝つなんて分かんないですよ。ボクも元はファンだから分かるけど、「そろそろ逆転するぞ、勝てるぞ」って思ったりするじゃないですか？　でも逆転出来なくっても当たり前なんですよ、闘ってんだもん。だからレスラーがファンの上に立つっていうより、ボクの中では「いいじゃんファンと同ランクだって」って気持ちもあるんですよ。

——大谷選手の中ではお客との駆け引きっていうのは大きいですか？……駆

大谷　け引きっていうか……駆け引きとは違う。ボクたちはプロである以上、お客さん達はお金を払って見に来てる。だから会場出る時に「大谷の試合良かったな」って言わせて帰したいし。ボクはよくプロレスに染まりすぎだって言われるんだけど、ボクは対戦相手と同時にお客さんとも闘ってるから。自分が興奮しないプロレスをボクはしたくないし、やっぱお客を納得させて試合にも勝つ、これが最高だから。綺麗すぎるけども、試合が終わって自分も相手も納得してる、客も興奮しきって疲れてる、「もう次の試合いいよ、もう帰る！」くらいの感じにそれが理想ですかね。

IWAから大日本そして現在はWWFのトップで活躍する田尻とも名勝負を繰り広げている大谷。両者が再び闘う日は来るのか？

——じゃあ、大谷さん的には、ノーピープルマッチなんて考えられないわけですか？

大谷　考えられないですね、全く。でもそれってボクたちが道場でやってることでしょう？　やっぱりプロである以上お客さんいないと。もっと綺麗事言えば、お客さん一人でもいれば全力でやるしね。

——でも大谷選手も基本は猪木さんなんですよね。

大谷　小さいころはやっぱり猪木さんに憧れてたんで。ボクが観てたころ一番好きだったプロレスは、ヘビー級の中で小さい猪木さんがアンドレ・ザ・ジャイアントからギブアップをとる。アブドーラ・ザ・ブッチャー、スタン・ハンセン、ああいう選手をKOしていく。小さいものが大きいものを倒す、そういうのが好きでしたね。

——柔良く剛を征す、みたいな感じですね。

ボクと絡んだ人間は みんな上がっていって欲しい!

同じ山口県出身で、さらに高校の先輩後輩の間柄の大谷と藤田稔。現在は海外で活躍中の藤田のことを大谷は常に気にかけている

大谷　そう！　そういうプロレスに魅せられましたよね。始めて見た瞬間からこれだな、と。俺がやるのはこれしかねぇなと。それが小学2年の時ですよね。もう見た瞬間からボクはもう大谷晋二郎の人生を決めました。俺はこれをやる！　これ以外ない！　と。こういう昔の話していいんですか？

——そういうのも含めて大谷選手のプロレスラー観をお聞きしたいんですよ！

大谷　ボクそういう昔の話するの大好きですから！　いいんすか話して？　長くなりますよ（笑）。

——想像してましたから（笑）。

大谷　そうですか（笑）。それで、ボクはプロレスラーになるため、身体動かすことから始めようと。小学校の時からウェイトなんかやったら背伸びなくなっちゃいますから。まず小学校の時は少年野球を始めたんですよ。そして中学ぐらいから身体作っていかなきゃなと。

——船木選手のように中学卒業したらすぐ入門してやるぞと。

大谷　いや、ボクは小学校卒業して入門したかったんですよ、子供心に（笑）。

——小卒レスラーですか（笑）。

大谷　でも義務教育というものがあると知らされて。「プロレス界が俺を必要としてるんだから！」って自分では思ってたんですけどね（笑）。今考えると恥ずかしいけど、当時のボクは小学校卒業してプロレスラーになるという夢を「断念した」という思いが凄くあるんですよ。

——今でも悔やまれると（笑）。

大谷　ショックでしたねぇ（しみじみと）。今になるとそりゃ無理だよっていうのがあるんだけど、中学生になってもモヤモヤした気持があってねぇ。

——「俺はダメなヤツだ」みたいな（笑）。

大谷　そうそう。中学校で3年間も何やんだよと。授業中もボーッとして考えちゃうんですよ。俺はここで勉強なんかしてていいのか？　いやダメだろ！って、何度教室を飛びだそうと思ったか（笑）。お年玉かき集めて新幹線のチケット買って東京行かなきゃ、猪木さんが待ってるから！って。誰も待ってやしないですけどね（笑）。

あのWWFでメインを張った
日本が生んだマット界のイチロー

――「猪木二世は俺だ！」みたいな感じだったと（笑）。

大谷　そうですね。猪木さんがホーガンにKOされた時も「俺が倒さなきゃ！」って小学生ながら思ったし。今考えたら、お前殺されるぞって話なんですけどね（笑）。でもその頃から体調崩しちゃって、その時点でレスラーになれる確率は0パーセントだったんですよね。

――原因不明の病気だったみたいですね。

大谷　喉に出来た腫れ物が呼吸する器官を塞いじゃって、毎日1回は呼吸困難になるんですよ。完全に塞ぐんじゃなくて微かな隙間だけ空いてるんでしょうね。呼吸すると微かに呼吸できるんだけど、それがまたメチャクチャ苦しい！　もう死んだ方がマシだなってくらい。手術すれば治るんだけど、スポーツは出来なくなる。だったら俺はプロレスラーにならなきゃいけないからって地道に治す方を選んだんですよ。

――それもまた試練だと。

大谷　そうそう。「そうか！　なるほど、これは神様のイタズラか」と。試練ということは、これに耐えれるかどうかを試してるわけでしょ？　じゃあ俺は死ぬことはねぇなと。神様も殺しはしねぇだろうと。

――いずれプロレスラーになれるんだから、と。

大谷　なれるっていうか、なんなきゃいけないし。でもボクはそん時からこういう話してたから「お前バカか！」って言われてたんだけどね（笑）。それで「俺がレスラーになったらな、マスコミがいっぱい来るんだよ！　取材に来て、その時俺はそのネタを言うんだ」って。その夢が今かなってるわけですよ（笑）

――おめでとうございます（笑）。でも大谷選手は小学生の時はプロレス以外で影響受けた物とかはなかったんですか？

大谷　ボクねぇ、プロレス以外全く興味なかったんですよ。その頃は金曜の8時からプロレスやってたんで、プロレスの話が出ると「オッ、ちょっと待て！　その話は俺にまかせろよ！」って。プロレスの話になったら、もうボクが中心でしたね。でも中学校とかなると車とか服とか興味持ったりしてくるじゃないですか。洋服の話とかなると「知らねぇよ、そんなモン！　Tシャツにジーンズでいいじゃん」って。ホントね、そういう部分では同年代のみんなが夢中になってたもの、流行ってたこととかついてけない部分いっぱいありましたよ（笑）。

――本当に一途にプロレスが好きだったんですねぇ。

大谷　卒業アルバムにも「プロレスラーになりたい！」って書きましたしね。何をするにもプロレスラー、プロレスラーと。

――そんな性格だと、「中学卒業したらすぐプロレス入りしたい」って親に言ったんじゃないですか？

大谷　もちろん言いましたよね。でも親としては目の前でずっと病気で苦しんできたのを見て来てるわけじゃないですか。それが治まってきたのが中学3年入ってからだから、まともな生活出きるようになって数ヶ月ですよ。そんな子供を親が止めるのは当然だと思うけどね（笑）。

――病み上がりだから体力的にも全然なかったわけでしょ？

大谷　そうですね。同世代の人間よりなかったわけですから。でも親の説得の中でオッと思ったのが「アマレスやってみろよ。あれはプロレスの基礎だぞ」と。それにまんまと引っかかっちゃって。ボクはアマレスはロープあると思ってたし、ドロップキックしていいと思ってたし。

――ドン荒川さんみたいですね（笑）。

大谷　最初はとまどいもあったけどスープレックスとかもあるし、投げやタックルやってくなかで、アマレスはプロレスの基礎だなぁって子供心に思ってましたね。そういう意味で、今考えたら、あの3年間は貴重だったと思いますよ。本当にプロレスの基礎中の基礎って部分ありますからね。

――そういう経験の中で、UWFや全日に気持が移るってことはなかったんですか？

大谷　全くなかったですね（キッパリ）。新日本第一！　その気持ちは片時も動かなかったですね。それに、その想いは今だに続いてますからね。

――当時、全日は見てなかったんですか？

大谷　ボクの地元は山口で田舎なんでプロレスってそんな来ないんですよ。新日本も年に2回くらいだし。でも全日本プロレスも来たら行ってましたよ。

――でもちょっと違うかなって感じてたわけですか？

大谷　違いますねぇ～、全日本さんには申し訳ないけど。ちょうどその頃は（ロード・）ウォリアーズが来てる時期だったんですよ。全日本信者の人が聞いたら怒るかもしれないんだけど、ボクは試合よりも外人控室の前でカメラ持って待ってましたね。ウォリアーズが出てきたら「パシャッ！」って写真撮って「ホークだ！　アニマルだ！」って感じで（笑）。それが新日本のときは試合が1分1秒でももったいないってジッと観てましたからね。一緒に連れてきた後輩とかにカメラ持たせて「オイ、そろそろ延髄斬り出そうだから、出たら撮れよ！」って（笑）。

――自分は見てるだけで（笑）。

大谷　瞬きするのももったいないんですよ。それほどのファンだったからねぇ（苦笑）。

――ファン上がりのレスラーは結構いますけど、大谷さんに勝てる人はなかなかいないでしょうね（笑）。

大谷　でも逆に、ボクはファンだったからこそプロレスの魅力がわかると思うんですよ。プロレスっていうのはそれだけ見てる人が没頭できるもんなんです。

――それで高校卒業して念願の東京へ出てくるわけですね。

大谷　あてもなくひとり東京へ出ましたねぇ、5万円だけ持って。

――大仁田さんみたいだ（笑）。

大谷　自分でカッコイイなぁ～って思いましたからね。「一人で出てきたよ、東京に！」って（笑）。

――自分に酔いながら（笑）。

何年後でもいい、ジュニア3vs3の試合をもう一回やりたい！

PRIDE、パンクラス etc…
7·29空前のマット界大戦争!! 出かけるときは忘れず1票!

号外

大谷　いろんな人に言われるんですよ。「住むところもお金もなかったわけだから苦労したでしょ」って。でも違うんですよ。変な言い方だけど、もっとどこかに苦労落ちてねぇかなって思ってましたから。ボクがレスラーになったら、その苦労を絶対みんなに話してやろうって思ってたんで（笑）。

──レスラーになるあてもないのに、そこまで信念を持てるのは凄いですね。

大谷　ただ自分の心の中で、どういう道を使っても新日本のレスラーになるって決めてたから。何歳になろうがならなきゃいけないと思ってたし。

──そしてアニマル浜口ジムへ入門したわけですけど、そこで学んだ一番大きなことっていうのは、どんなことですか？

大谷　プロレス流のトレーニングもそうだけど、浜口さんから一番教わったのは精神的なもんですよね。あの人は凄く礼儀を重んじる人だから。やっぱ浜口さん見てて勉強になることは多かったです。

──実際、浜口さんが初めてプライベートで身近に触れたレスラーなわけですから、当然印象深いんでしょうね。

大谷　でも生で触れたっていうと、もっとデカい体験があるんですよ！確か中学生の時だったかなぁ？追っかけのファンがよくホテルまで行くじゃないですか。ボクはその一人だったんですよね。

──大谷さんは出待ち入り待ちまでやってたんですか（笑）。

大谷　そうなんですよ（笑）。で、その時の格好が闘魂ハチマキして、首に闘魂タオル、下はジャージとスネの部分には通信販売で買ったシューティングレガース履いて（笑）

──何故だ！（笑）。

大谷　とにかくプロレス物を身に付けたくて。それでのぼりを持って選手を待ってたんですけど。

──のぼりまでですか（笑）。

大谷　夜中にスーパーの駐車場の「大安売り」とかのポールを盗んで、のぼりの部分だけを新しく作り変えてましたね。

──やっぱ文字は「燃える闘魂」ですか？

大谷　ボクはどの試合でも振りたかったから「世界一強い新日本プロレス」って書いてましたね。

──「世界一強いアントニオ猪木」じゃなくって（笑）。

大谷　それに、目立ちたがり屋としては自分の名前も入れたかったんで、下の方に「大谷」って入れて。なんかカワイイでしょ？（笑）。

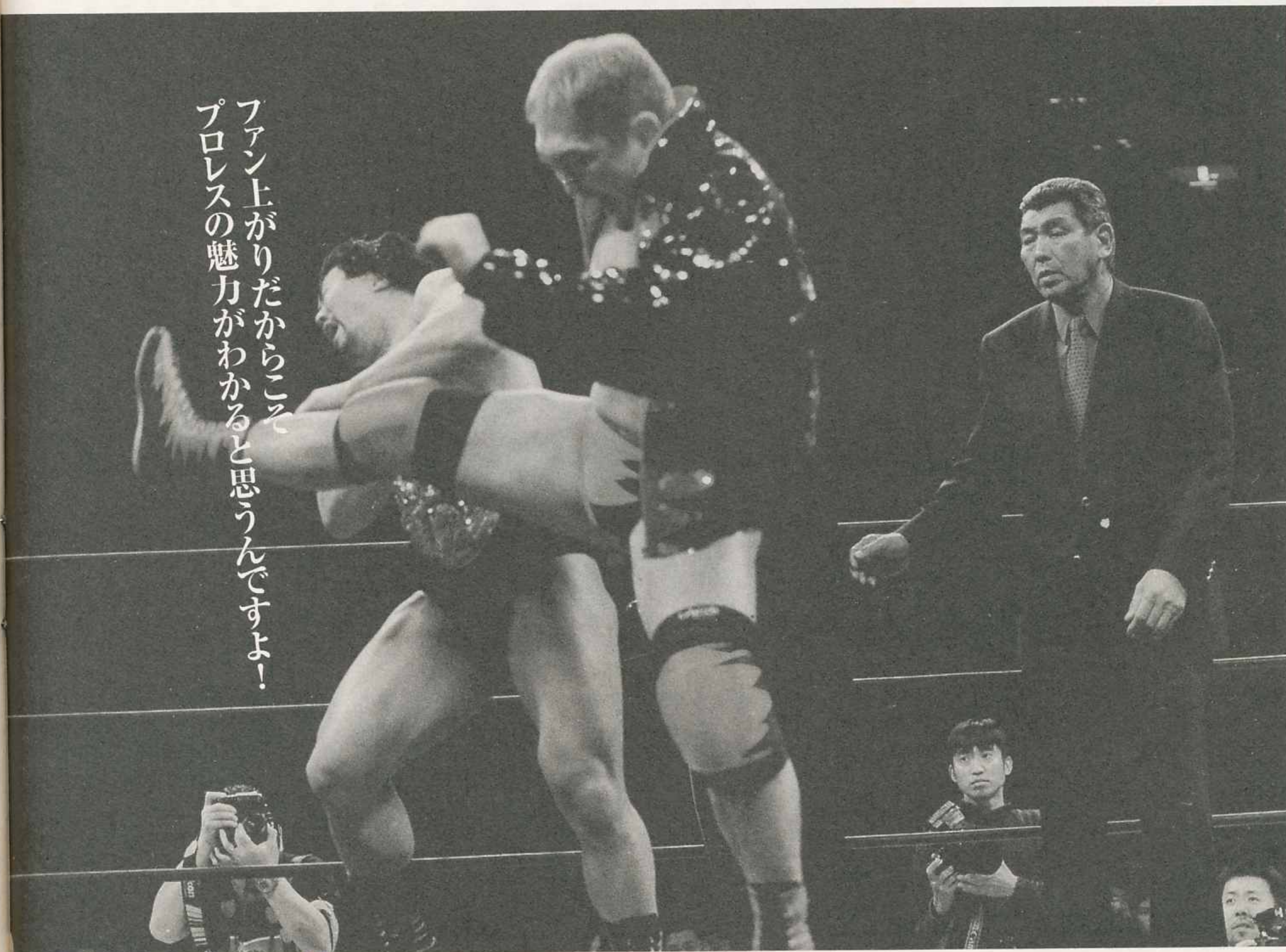
──カワイイですねぇ（笑）。

大谷　それでロビーをガラス越しに見てたら、今でもハッキリ覚えてる、エレベーターで誰かが3階から降りてきたんです。その扉が開いたら猪木さんがいるんですよ！

──憧れの人が目の前に！

大谷　もうボクね、周り見えなくなっちゃって。のぼり持ってホテルの中入っていっちゃったんですよ。でもホテルの警備員に「おい、坊主！」って止められたけど、ボクは猪木さんしか見えてない。そしたらパッと猪木さんがこちらを見て警備員に「あぁ、いいからいいから、坊主、何だ？」って声かけてくれて。もうそりゃ格好良くて！　いつかボクも同じようにやろうと思いましたからね（笑）。

──ファンに囲まれたら俺もそう言ってやろうと（笑）。

ファン上がりだからこそ
プロレスの魅力がわかると思うんですよ！

あのWWFでメインを張った

大谷　それで無我夢中で猪木さんに近づいて、いきなり猪木さんに「ボクは絶対、新日本プロレスに入ります」って言ったんですよ。そしたら猪木さんもファンサービスでしょうけど「おぉそうか、待ってるから早く来いよ」って。その言葉でグ～っと来て。

――また頭の中のギアが上がったわけですね（笑）。

大谷　そう！「猪木さんが待ってくれてる！」と。それで「猪木さんスイマセン、サインください」って言ったら「おお、いいよ」と。でもボク手ぶらでのぼりしか持ってなかったんで、首に巻いた闘魂タオルを差し出して「このタオルにお願いします！　4800円で買いました！」って（笑）。「そうかタオルか、何で書くんだい？」それでまたアァ～っと。猪木さんがフロントの人に「すいません、マジックはありますか？」と聞いてくれて、それでまた「カッコイイ～!!」って。

――いちいちシビれますね（笑）。

大谷　それで猪木さんが書く時タオルを持って「オイオイオイ、お前は端を持て」とピンと張って書くわけですよ。その時の感動はないですよ！　だってその時間、そのタオルを持ってる15秒か20秒かの間は猪木さんと物で繋がってるのは世界でボクだけなんですよ。次の日学校行って自慢しまくりでしたね。「その時間、猪木さんと物で繋がってたのは世界で俺一人なんだぞ」って。今思えば友達もみんなバカだから「スゲェな！」と（笑）。猪木さんが「待ってるから早く来いって言ってくれたんだよ！　決まった、俺レスラーになる！」ってクラス中言いふらして回りましたよ（笑）。

――その話って後々、猪木さんにはしたんですか？

大谷　出来るわけないじゃないですか、そんな話！　でもそういう記憶はファンは忘れないですからね。だからボクも会場を出入りする時、出来る限りファンの人、特に子供には接してあげたい。そういった意味でも子供のファンってのは来てくれると嬉しいですよ。

――新日本時代、他にプロレスが好きで入ってきたって選手は誰かいました？

大谷　どうなんでしょう？　でも少なからずファンではあったと思いますよ。でもボクが話すと大体呆れかえられますね（笑）。「お前ファンがマナー悪いとか怒れる立場じゃねーぞ」って。でもね、ボクはプロレス好きだったから自分の中でポリシーがあるんですよ。

――それは何ですか？

大谷　絶対にヤジは飛ばさなかった。高校時代とかは体格も結構あるからヤジ飛ばしたヤツ捕まえてましたから（笑）。「お前、今何つったんだコノヤロー！　いま藤波さんをバカにしたか！　お前、健悟さんに何つった？」って怒ってましたよ。

――若手レスラーじゃないんだから（笑）。

大谷　山口って、東京とかに比べたら田舎だからあんまり沸かないんですよ。だから、ボクの中で沸かなかったら、もう来てくれねぇんじゃないかって思って、一人で大声出して何とか盛り上げようと応援してましたよ。そしたら会社の人に覚えられちゃって。中村さん（現＝ゼロワン渉外・営業部長）ってさっきゼロワン事務所にいたでしょ？　中村さん、ボクが入門テストの願書持っていった時、気づいてくれたんですよ。「お前、山口の坊主じゃねぇか！　何しに来たんだ」「いやプロレスラーになりに願書持ってきました」って。それでコイツは面白い奴だなって思ってくれたみたいで、入ってからも中村さんには良くしてもらってますからね。

――応援はいつも一人で絶叫してたんですか？

大谷　それで盛り上げるのも一人じゃダメだと思って、そんなにプロレス知らないけど見に行きたいって友達や後輩かき集めて、ボクが持ってるタイガーマスクやマスカラスの覆面被らせたり、油性マジックでウォリアーズのペイント書かせたり。それで何とか盛り上げようとしていったんですよね。来年も来てくれるようにって。それで会場入る前「頑張るぞー、ウォーッ！」って気合い入れて入っていくんです。

――そりゃ覚えられますわ。究極のファン上がりレスラーですねぇ。

大谷　だからね、当時のボクみたいな純粋に見てるファンってどれくらいいるのかなと。ファンの目が肥えてるっていうのもあるけど、そういうファンを取り戻したいなって気持ちもあるんですよ。それで、ボクが入った時期から新日本ってスカウトが多くなったんだよね。大学で鍛えてたりとかオリンピック行ったりとか。そういう選手ももちろん必要だと思うけど、その中に一人か二人でもいいからファン上がりってヤツいないと絶対ダメだと思うんだよ。よし、俺がその役目をやろうと（笑）。

――その反面、今インディーも含めたら新人の数は増えてるわけだし、ある意味レスラーデビューへの壁が薄くなってきてるところもあるでしょうね。

大谷　でもね、そういった選手に言いたいのはね、例えば大日本プロレスはデスマッチやってるじゃないですか。ファンの頃からデスマッチやりたい、大日本入りたいってずっと思ってて入門してレスラーになる。それは素晴らしいことだと思いますよ。でもそれがどこの団体に入りたいけどあそこは厳しいからとか、あそこは競争率が高いからとかそんな理由で他の団体を選ぶようなレスラーが増えて欲しくない。そういう考えで入った選手は即辞めて欲しいね。

――好きな物に対するプライドを持ってやって欲しい、と。

大谷　みちのくなり大日本なり、ここでやりたいんだ！　っていう選手はホントに応援したい。いいこと言うでしょ？　ボク（笑）。よくボクの記事を読んだ人から「気取ってる」とか言われるんですけど、本心なんですよね。

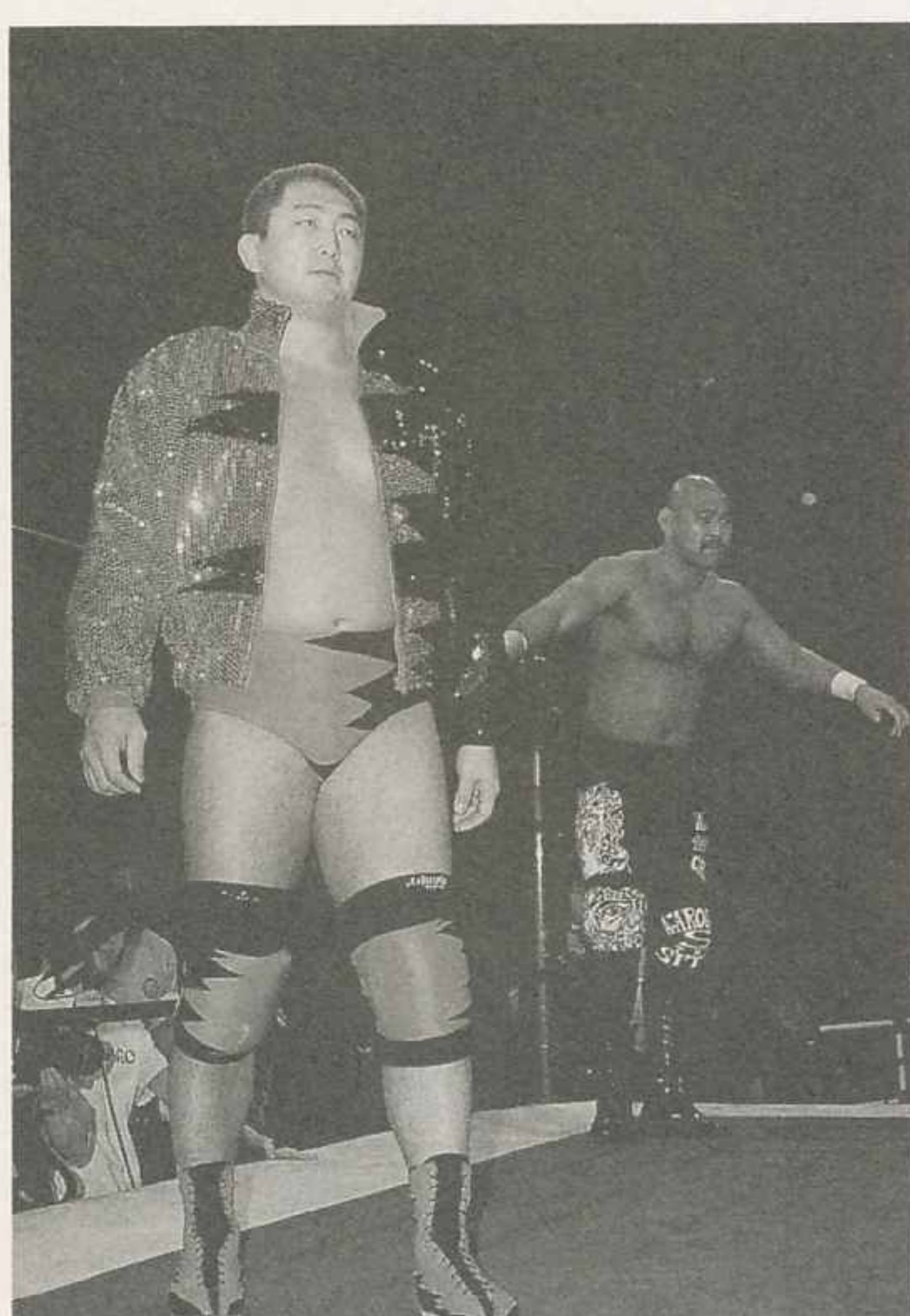
――結構、他の団体とかは見るんですか？　雑誌やテレビで。

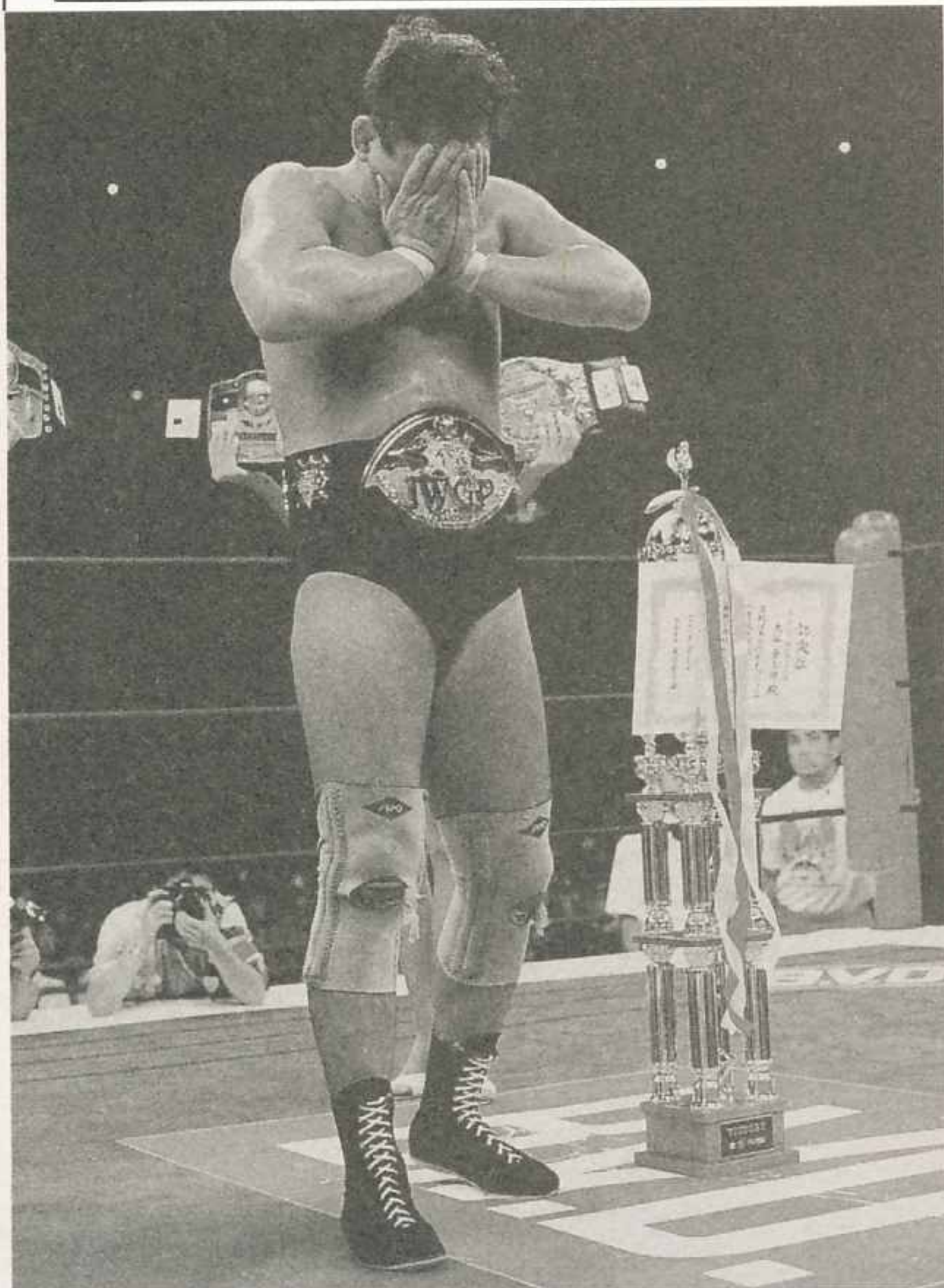
大谷　しばらく見てなかったんだけど、前住んでたところがサムライTVに入ってたんで結構見るようになったんですよ。根がプロレスファンだから（笑）。それで雑誌とかサムライとか見ててコレ一回見に行ってみたいっていうのが二つあるんですよ。

――それはどこですか？

大谷　闘龍門とDDT。でもDDTはこの前見に行ったんですよ。元WARの石井（智宏）君っているでしょ？　彼はウチの道場たまに練習に来るんで「DDT見たいんだよね」って言ったら「いッスよ、ぜひ来てくださいよ」って。それでボク、アレが見たかったんですよ。あの蛇界から来たっていう？

――ポイズン澤田ですね（笑）。

大谷　そうそう、ポイズン澤田！　ポイズン澤田には蛇の魔法があるんですよ。ガッと手を振ったら相手が苦しんじゃう。アレが見たくてねぇ、どんな技なんだろうって。でも見に行った日は出なかったんですよ。あれだけが悔やまれますね（笑）。あとは闘龍門も行きたいんですよ。雑誌とかテレビとか見ても凄くお客との一体感があるよう

PRIDE、パンクラスetc...
7·29空前のマット界大戦争!! 出かけるときは忘れず1票!

号外

な感じがするんですよ。

——その辺に目が行くのはさすがプロレスファン上がりですよ。

大谷　でもひとつ関心したのが、DDTのファンって、ある意味、子供の頃、新日本を見てたのと内容は違うけれど質が似てるように感じたんですよ。もう没頭してる。ガラガラとやったって「なんだ、それ!」って言わずにみんなやるわけじゃないですか。ああいう一体感って必要だと思うし、あれは他の団体にはないものですよね。もしあの蛇の魔術を新日本でやったらおそらくお客さん帰っちゃいますよ（笑）。

——大仁田さんじゃないですけど、ポイズンさんでもいい試合する自信はあるんですか？　蛇の魔術かけられると思いますけど（笑）。

大谷　いや？　術にはかかんないんじゃないかなぁ。

——大蛇二晋二郎に改造されちゃいますよ（笑）。でもマスクマンとかペイント系って全然なかったですよね。海外でも。

IWGPベルトを全部制覇するのはボクだったんですよ!

大谷　去年海外行った時、今だから言うけどマスク被ろうと思ってたんですよ。2ヶ月ぐらい消息不明になって初めて試合したのがイギリスのマットだったんですけど、日本のファンからしてみれば「大谷っぽいけど……大谷かなぁ？」って、そういうのをやりたかったんですよ。その時WCWのカズ・ハヤシにマスクを頼んでたんですよ。でも会場に送られてきたのがサイズは小さいし、マスクのデザインが仮面ライダーのショッカーの戦闘員みたいなので、下のロングタイツがまたパジャマみたいなので、こりゃダメだと（笑）。

——アハハハハ。

大谷　まあ時間がない時に頼んじゃったんでしょうがないですけど。

いつ何時でも感情剥き出しのファイトが信条の大谷はリング上で涙を見せることも多い。己の目標でもあるIWGPヘビー級のベルトを腰に巻いたとき、大谷の目から大量の涙が溢れ出ることだろう

——でも大谷選手って海外行くのが遅かったから、付き人期間とか長かったんじゃないですか？

大谷　ボクはいっぱいやりましたよ〜。最初は短かったけどマサ斉藤さん。その後、橋本さんで2年半くらい。それからすぐにクビなったけど（笑）長州さん、木戸さん。その途中から佐々木さんとダブルになって、途中から木戸さんに高岩がついてボクが佐々木さんだけになって。最後の佐々木さんはトータルで考えたら3年近くやったかなぁ。普通は海外行って帰ってきたら終わりなんですよ。でもボクって海外行かないでチャンピオンなったりしたから、ジュニアの7冠チャンピオンの時も付き人やってたんですよ（笑）。だから移動とか10本近くベルト持って移動した時期もありましたもん。

——念願のIWGP王者も不遇だったんですねぇ（笑）。付き人の時の橋本選手の印象ってどんな感じでした？

大谷　橋本さんはねぇ、下の人間がこの人と一緒にやっていこうかなって気持ちにさせるものを持ってるんです。確かにねぇ、こういう言い方は失礼だけど凄くいい加減なところはありますよ（笑）。でもねぇ、あの人偉ぶったりしないんですよ。例えば何か下の人間が困ったら、この人だったら何かしてくれるって雰囲気を持ってるんですよ。

——頼れるアニキみたいな。

大谷　そうそう、そういう感じなんですよ。今回橋本さんがゼロワンって行動を起こすと聞いてやっぱ正直惹かれたし。

——やっぱり橋本選手だからって部分もあるわけですね。で、同じ三銃士の武藤さんとは、最近は連絡取り合ってるんですか？　凱旋直後はタッグ組んでましたけど。

大谷　武藤さんとは今も心は繋がってますよ。たまに連絡もいただけるし、食事も誘っていただけるし。今、武藤さんがBATTってユニットで頑張ってますけど、やっぱりBATTは元々ボクと武藤さんが始めたんだって気持ちもあるし、ボク自身も気持ちではBATTってのはあるんだけど、新日本とゼロワンってのが冷戦状態なんで、ボクが武藤さんの名前を出したりBATTの名前出すことで迷惑かかっちゃうんじゃないかって最近思ってるんですよ。武藤さんやBATTのメンバーにも迷惑かけるし、おまけにボクの好きな新日本プロレスさんにも迷惑かけるんじゃないかって。

——好きなのに好きと言っちゃいけないってのはもどかしいですねぇ。

大谷　だから、武藤さんが「大谷はゼロワンのBATTだよ」って言ってくれたのはホント嬉しいんですよ。武藤さんがボクの力を必要としてるというのなら、及ばずながら力を貸すっていう気持ちはありますね。

——では、最後になりますけど、子供の時に夢見た大谷晋二郎ってレスラー像は順調ですか？

大谷　まぁボクの中ではまっすぐ突き進んでるでしょうね。新日本のトップに立つって気持ちは消えてないし、挫折はしてないと思ってますよ。でもホントね、新日本辞めてこんなこと言うのもアレなんだけど、やっぱねぇ、IWGPのベルト巻いて新日本のトップに名実共に立つっていうのはずっと夢見てきたし、最近夢でも見るんですよ。IWGPベルト持ってコーナー駆け上がってみんなが祝福してくれて……ボクは泣きながらベルトを掲げてるんですよ!

——それを何年後かに実現させないと。

おおたに・しんじろう■昭和47年7月22日、山口県山口市出身。平成4年6月25日福島大会での山本広吉（現・天山広吉）戦でデビュー。7月12日に行われたZERO-ONEzeep東京大会では石川雄規とのタッグでラバダ＆コリノ組を撃破しNWAインターコンチネンタルタッグ王座を奪取。現在ノリにノッている熱すぎる男である。180センチ、104キロ。

大谷さんは史上初のIWGPヘビー・ジュニア全シングル・タッグ王座に一番近いところにいますからね。

大谷　そうなんですよ!　IWGPベルトを全部制覇するのはボクだったんですよ!（笑）。これはもう、必ず実現させますから!（唐突に）ちなみにボクのインタビュー、何ページぐらい載るんですか？

——一応、8ページの予定です。

大谷　（驚いて）エッ、8ページなんですか？　じゃあもっと話さなきゃ（笑）。ボクは時間あったら一日でも話しますよ!

【00年7月6日、東京・ゼロワン事務所にて収録】

あのWWFでメインを張った 日本が生んだマット界のイチロー

TAJIRIは ホントに 凄いんです!

TAJIRIはホントに凄いんです！UFC-Jで一躍ブレイクした桜庭和志のマイクではないが、凄いモノは凄いとしか言いようがないのがTAJIRIのWWFでの活躍っぷりである。星の数と言われる総レスラー数を誇るWWFマットにおいて、すでに何度かメインイベントにも登場しているTAJIRI。日本が生んだ"マット界のイチロー"TAJIRIの凄さを、因縁浅からぬプロレス活字代表・ジミー鈴木とシュート活字代表・田中正志がそれぞれのプロレス愛で激筆！

構成／チョロ＆ガンツ　撮影／ジミー鈴木

design by ZERO graphics

その"凄さ"を「プロレス活字」代表ジミー鈴木と「シュート活字」代表田中正志が誌上バトルレポート

"日本芸能界で1番WWFに詳しい男"
ハチミツ二郎の『WWF』観戦記付き

“アメリカ通信員の元祖”ジミー鈴木の

「プロレス活字」的視点で見る TAJIRIの凄さ!

WWFでのTAJIRIの活躍っぷりを知りたければ、この男の出番！　海外で活躍する日本人レスラーのことを書かせたら右に出る者はいないと言われる男・ジミー鈴木である。『ゴング』『ファイト』『東スポ』のみならず、最近では2ちゃんねるまで活動範囲を広げているジミーが激筆！　TAJIRIが凄いのはここだッ!!

TAJIRIは世界的知名度で日本で活躍するレスラー達の全てを追い抜き大差をつけた

世界的に見た場合、プロレスの世界で活躍する日本人で「番付け」が一番上なのはＴＡＪＩＲＩである。

なにせ天下のＷＷＦで「関脇昇進を間近に控える今場所勝ち越しの小結」といったポジションにいるのだから…。

狭い日本の中でこそ「ＩＷＧＰ王者」だの「三冠王者」だのが最高のポジションとされているが、世界１００ヶ国以上、アフリカの奥地まで知れ渡るＷＷＦスーパースターズの仲間入りしたＴＡＪＩＲＩは世界的知名度で日本で活躍するレスラー達の全てを追い抜き、そして大差をつけたといえる。

三年前に日本を飛び出した田尻義博。デビュー当時からそのレスリング・センスは評価されており、ＩＷＡジャパン時代、そして大日本時代も「一番巧い選手」とマスコミ関係者が口を揃えていたものだが、所詮はインディーの選手。

日本を飛び出す前の実際の収入に関してはさすがに面と向かって本人から聞くのは失礼とあって、色々調べてみると「ひと試合７０００円で更にちゃんこ代として一ヶ月数千円引かれていた」という恐るべき事実が確認された…。月に10試合こなしたとして月給7万円で、そこから食事代を引かれる…。

それから考えればまさに「人生の逆転満塁ホームラン」を放ったといえる。

筆者が田尻の試合を始めて見たのは大日本をおん出て、最初に漂流？したメキシコのＥＭＬＬのリング。

たしかコリセオあたりの試合だったが、「青パン」のタヒリ（ＴＡＪＩＲＩのスペイン語読み）に対する印象は「器用な選手」という以外これといってインパクトはなかった…。

初めてその「凄さ」に気付いたのはそれから一年以上して…武藤がアトランタに住みＷＣＷで活躍していた昨年の夏ごろである。

なにかが変わった…ＥＣＷで活躍するＴＡＪＩＲＩの変幻自在のファイトを見て唸ってしまった…。

いまから考えるとメキシコで世界最高レベルの技を身につけたＴＡＪＩＲＩはＥＣＷで闘っているうちにサイコロジー（心理学）を身につけたのである（その頃よく武藤の取材をしていたのだが、私のＴＡＪＩＲＩへの入れ込みぶりに武藤は「昨日、そっちの好きなＴＡＪＩＲＩの試合をテレビで見たよ」などと言っていたものである）。

当時、まったく曲がらなくなった膝と闘いながら必死に新しいムタをやっていた武藤だが、私はこの時「ひょっとしたら田尻こそ21世紀版のムタじゃないか？」とまで考えていた…。

ＴＡＪＩＲＩのフルタイム契約選手としてのＷＷＦデビューは5月7日、ニューヨーク州ユニオンデールの「ＲＡＷ　ＩＳ　ＷＡＲ」大会のダークマッチ。

テレビ放映がされる前の試合でショー・フナキとシングルで対戦し、裏ＤＤＴで破れている。

ダークマッチ…ＷＷＦは新人が入るとその力量をテレビ前の試合でテストするというのが恒例であり、ＴＡＪＩＲＩはこの試合でテストされたわけである。

試合結果だけ見れば「敗戦」ということになるが世界で最も進化したプロレスを見せるＷＷＦでは「勝負論」は二の次…そんなことどうだっていいのである。

ＴＡＪＩＲＩ自身「レスラーに必要なのは、強い弱いよりも感動させること」と明言している。

さて、結果であるがその後のＴＡＪＩＲＩの使われ方を見れば「満点合格」であったことがハッキリとわかる。

それから15日後の5月22日…カリフォルニア州アナハイムでの「スマックダウン」でＴＶデビュー。

”悪徳コミッショナー“を演じるウイリアム・リーガルに「僕を使って下さい」と仕事をもらいにいったら、そのまま”お茶くみ“にさせられてしまった…。

その後のＴＡＪＩＲＩ、この”お茶くみ“係のロールでいい味を出しまくる。

ビンスやストーンコールドと絡む役どころな

月給7万円だった男が、この世に「大逆転」が実在することを見せてくれている

のだから、誰もがうらやむような、「ものすごく美味しい役」である。

ところが当のTAJIRI、なぜかこの役に対して「これはこれ、試合は試合と割り切っている…。いくらプロモで凄い選手と絡んでも、それは試合で絡んでいるわけではないから、本当のスターの地位を手に入れたことにはならないと思うんです」と自分に厳しい田尻。

筆者の電話でのインタビューでこうキッパリと語るところに、プロのレスラーとしてのプライドを垣間見た思いである。

その後TAJIRIは全米、いや世界中のファンを試合内容で引き付けていく。

なんとWWFの公式ホームページの中で行なわれた「キング・オブ・ザ・リングで優勝してほしいレスラー」というファン投票において一時的ではあるが堂々トップに踊り出て、一位クリス・ジェリコに迫る大人気の獲得を証明。関係者をアッと言わせた。

で、実際の「キング――」トーナメントでも6・12の「スマックダウン」ボルティモア大会でクラッシュ・ホーリーを破り堂々ベスト8入り。

同月18日のタンパにおける「RAW」での準々決勝でライノに敗れたものの、その内容でまたまたファンの心をガッチリと掴んでいる。

翌19日の「スマックダウン」オーランド大会ではリーガル・コミッショナーのところに「ストーンコールドとの対戦」を直訴に来たTAKAに「待った」をかけ、そのまま対戦。得意技としてフィニッシュにしている「延髄へのハイキック」（ECW時代はバズソーキックと呼ばれていた）を決めて、この日本人対決を制している。

「あの人のECW時代のファイトを見ていて、これは勝てないなぁと…もしWWFに来たらスグに抜かれるだろうなぁと思っていました」とはTAKAの言葉…これを堂々とインタビューで喋るTAKAも「男」だが、ここまでいわしめるTAJIRIの凄さ…。

認めたのはTAKAだけではない…翌週、6月25日と26日にはあのMSG（マジソン・スクエア・ガーデン）で二日連続でメインイベントに登場。

初日の「RAW」ではクリス・ジェリコとシングルで、翌日の「スマックダウン」ではリーガルと組み、ジェリコ＆スコッティ・トゥー・ホッティ組と対戦。

試合結果こそ二連敗に終わったが、マジソンのメインをデビュー二カ月で張った男は長いアメリカン・プロレス史上でも恐らく初めてであろう。

TAJIRIの成功は、いま日本のスポーツ新聞を騒がせているイチローに迫るものがある。

「100ヶ国以上の人が見ている」ということを考えればイチロー以上の世界的有名人…。

この男の成功の理由を分析すると、日本とメキシコでアクションを覚え、アメリカでサイコロジーを覚えた…これまでにやってきたこと…元をたどれば高校生の時にやっていたキックボクシングからサラリーマンの経験…これらのすべてがいいように経験として積み重なり、それがいま開花したということであろう。

このままどこまでのし上がるのだろうか…たったの三年前、月給7万円だった男が、この世に「大逆転」が実在することを目の前で見せてくれている。

夢を与えてくれるプロレスラー田尻義博…プロレスとはかくも生きる勇気を与えてくれる素晴らしいものである。

“シュート活字の教祖”田中正志が激筆！

TAJIRI成功の要因は「シュート活字」にあり！

このところ、田村潔司や高山善廣などUWF、総合格闘技の話が続いてきた「シュート活字」コーナー。今回は久々にアメプロ話に帰ってきた！ TAJIRIとはプライベートでも親好がある田中正志氏が、まっとうにTAJIRIの凄さを伝えます！

TAJIRIは2強団体時代のまともな契約書にサインした最後の選手

ＥＣＷ時代のTAJIRIとニューヨークの日本食店で食事をとる筆者（左から2番目）。右がスペル・クレイジーだ。

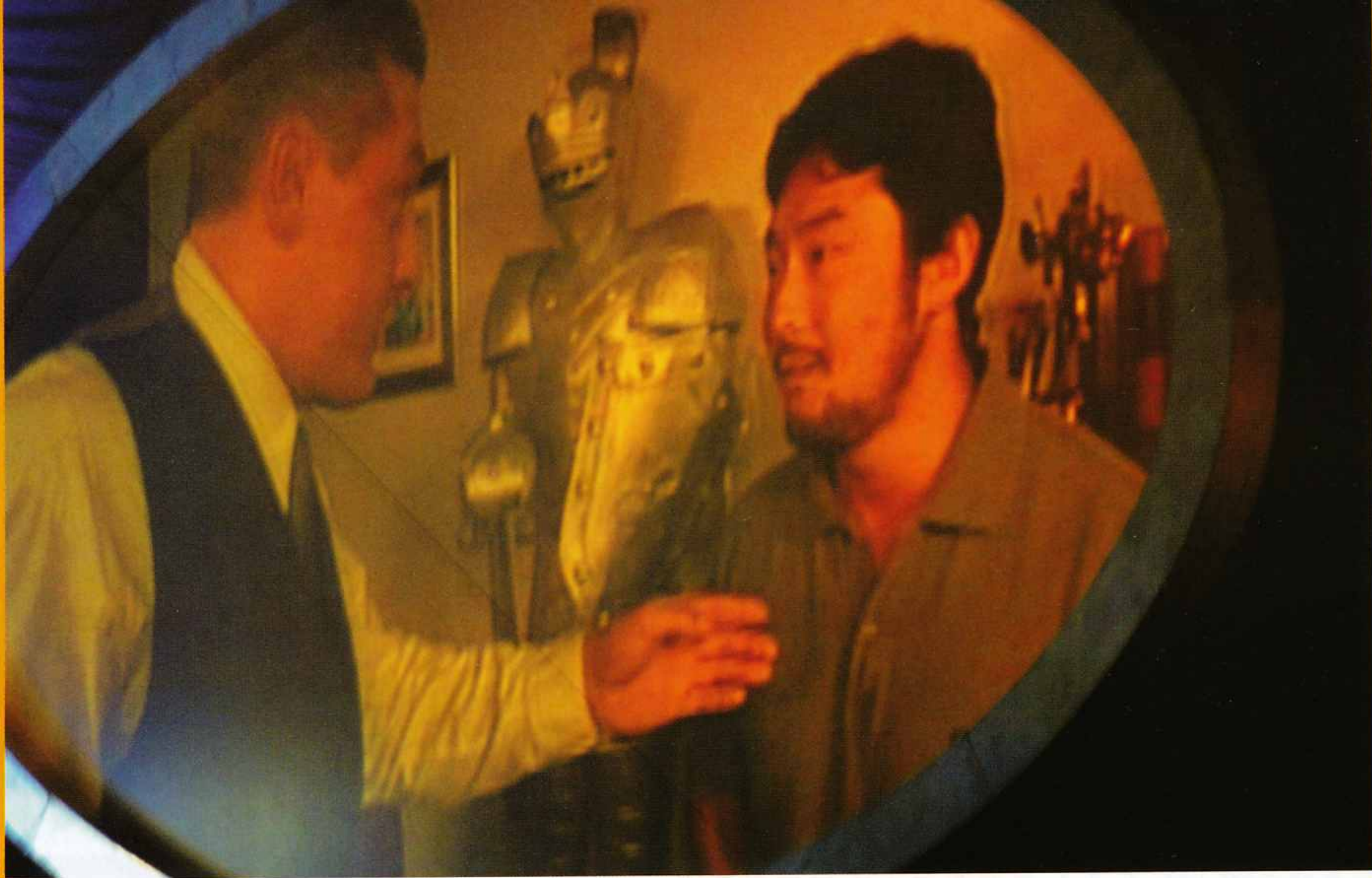
毒霧を撒き散らずジャパニーズ、ＴＡＪＩＲＩの人気が全米で爆発しそうな勢いだ。ＭＳＧでメインをはったり、ＲＡＷやスマックダウンに連続出場していて、ウィリアム・リーガル卿扮するコミッショナーとの、日本語を使ったスキット（コント）も大好評だ。今、混乱期に突入した唯一のメジャー団体ＷＷＦでは、一体何が起こっているのだろうか？

ニューヨーク在住時代の私が、素顔の田尻選手と知り合ったのはＥＣＷである。本人が兄弟だと紹介してくれたスペル・クレージー選手は、彼がアメリカ生活のスタート時から一年間を一緒に暮らした文字通りの相棒。現在はプエルトリコのＩＷＡで活躍しているが、今のＴＡＪＩＲＩがあるのはメキシコから来たクレージーと抗争することで技量を磨いていったから。そんな兄弟は、大日本プロレスの市販ビデオを私のマンハッタンのアパートから見つけ出し、「なんでこんなマイナーなテープまで持っているのか？」と不思議がられてしまった。しかし、北米の日本マニアの間では、「大日本で有望なのは覆面を被ったアクエリアス選手だけ」がすでに定説だったのだ。やがてポールＥ代表に気に入られ、末期のＥＣＷでは何度もメインに登場。いや、試合順こそメインでなくとも、「誰が一番その日の興行で良かったか？ 目立ったのか？」のレポートとなると、全国どこを巡業してても必ずＴＡＪＩＲＩの名前が上がるようになった。私たちはすぐにプライベートでも一緒に遊ぶ仲になっていた。

残念ながらマット界の革命軍だったＥＣＷは崩壊してしまったが、ＴＡＪＩＲＩはポールＥ代表のＷＷＦへの去就がはっきりする以前に、正式な三年契約（一年延長オプション付）を貰えた数少ない「選ばれた者」となる。ＥＣＷの象徴でもあったサンドマン他、声がかからなかった選手リストの膨大さを思えば、その快挙がわかってもらえるかも知れない。また、その契約成立の直後に、ＷＣＷがＴＶ編成局長の「プロレス番組撤退」の命令を受けて消滅してしまい、北米大陸は事実上ＷＷＦのみの独占市場になってしまった。もはや選手の側に二股を賭けたギャラ交渉ができなくなり、新規の契約が軒並みダウンしている現状を考えれば、ＴＡＪＩＲＩは二強団体時代のまともな契約書にサインした最後の選手でもあったのだ。

もちろんＷＷＦは上を見たらキリがない。年俸が億円単位のスーパースターがゴロゴロしている巨大なエンタテインメント帝国である。まだまだ成功したとは言えない。田尻伝説は始まったばかりなのだ。この組織で上がっていくにはリング上の試合だけを掘り下げても失格。多角的にキャラを修飾せねばならない。演技力、ヒールとしての好感度の演出など、まだまだ課題は山積みなのだ。しかし、ＴＡＪＩＲＩの辿った軌跡は、近年の新崎人生、ＴＡＫＡみちのく、ショー・フナキらと違うことも事実なのだ。

一番大きな差異の理由は、ＥＣＷ時代の人脈と信頼関係を武器に、「シュート活字」系のレポーターに絶大に支持されたことに尽きる。日本からの上記三先輩が海外生活を始めても、既存の「活字プロレス」系のメディアにばかり目が向いていた。いわば日本から海外に派遣された、東京本社のご機嫌ばかり気にする商社マンよろしく、現地での新しいプロレス報道の潮流に注意を払おうとしなかったのだ。

しかし、アメリカではミック・フォーリーの書いた、完全にケーフェイ破りのノンフィクション本が、かのニューヨーク・タイムズ紙のベストセラー・リストの一位に、処女作と2作目

TAJIRIと海援隊の差異は「シュート活字」の支持度に尽きる

の両方が輝くという快挙があったばかり。情報の開示が日本の業界の常識や掟をことごとく覆していて、「聖域なき構造改革」が1989年の「エンタテインメント宣言」以来、円熟期を迎えている状況にある。

北米ではブッカーと呼ばれる現場監督や、自分の職業に意識的なミックたち選手が、熱心に精読するのが「シュート活字」の情報と分析なのだ。ファンタジーとしてプロレスを楽しむのではなく、まっとうなジャーナリズムとして業界の発展を考え、真面目にビジネス分析を乗せているからこそ、フォーリーの本の中でも何度も引用されているし、だからこそ、ウォール・ストリート・ジャーナル紙だって書評を載せられるのだ。既存の「プロレス活字」だったら、たとえ大人気アイドル歌手の本であっても書評の対象にならないし、そもそも現在の北米市場で売れるとも思われない。そういう環境をまず頭に叩き込んでいただきたいのである。

つまり、「シュート活字」で大きく取り上げられるかどうかが実は死活問題であり、実際それでTAJIRIはプッシュされてきたのだ。逆に"海援隊"は支持基盤を失い、大男たちの周りをチョロチョロ動き回るコメディーの役割しか与えられてない現状は、この辺りの事情を端的に表しているといえるだろう。

TAJIRIはとにかく完璧主義者だ。プロレスは聖なるライブ空間でたった一度だけ演じられる最強芸術である。綿密に打ち合わせをしても、思い描いた通りの試合にならない場合もあれば、観客のリアクションが予想外であることも少なくない。演劇ではありえないのだ。だから職人のTAJIRIは「シュート活字」の人脈から貪欲に情報を吸収して、常にレベルアップを図ってきた。

私が今でも忘れられないのが、正式にWWFとの契約が成立したのに、最初はしばらく自宅待機だった時期のこと。本人はとにかく待ちきれないらしくて、「何とか早く始められるように言ってくれ」とか、無理難題をぼやきまくり。まぁそれで、自分を爆発寸前まで高めていたのである。もちろん、TAKAみちのくらの社内での扱いを徹底的に研究して、準備期間に参謀となる味方を増やしていったからこそ、いざ出番が来た段階では周囲の応援体制が完成されていたことになる。

日本語での演技一つとっても、誰か言葉のわかる関係者がしゃべった内容を伝えることも考慮して、気を抜かずに、ちゃんと会話として意味的にも成立することを言っている。視聴者の年幅が大きいWWFだと、一部にしか受けないギャグをやっても駄目なのだ。始めに英語でスキットの説明を受ける時点では、まだよくわからない事も多いそうだが、一度通してリハーサルしてみると次々とアイデアが浮かんでくるタイプらしい。その場でのアドリブや仕草が受けて、そのまま放送されることも多いそうだ。TAJIRIのパフォーマンスは、リング上であれリーガル卿の「お茶汲み」役であれ、実は綿密に計算され考えられたものなのだ。

この記事執筆時点のWWFは混乱期にある。WCWの名称の権利と過去のビデオ遺産のみを買い取り、文字通りの市場独占企業となったまでは良かったが、その後のライバル団体アングルの露出計画がことごとく失敗し、「2時間ごとに予定変更」の陰口を叩かれてしまった。一端WCWの名称にネガティブなイメージが大衆層に浸透してしまうと、「新日対Uインター」や「WCW対NWO」のような、対等な架空ライバル団体としてファンが認めてくれない。たった一度のRAWの失敗から、急遽「WWF対WCW+ECW連合軍」の図式に変わったのだが、結局は昔から使い古しているマクマホン一家の家庭断絶アングルの焼き直しが進行中である。

さて、この窮地を救うのは誰なのか？　ポール・E(元ECW)代表やTAJIRIの一挙一動から目が離せないのである。

追記：TAJIRI選手は色々な皆様の意見にとても貪欲です。公開メールアドレスはg-mist@lycos.ne.jp

“日本芸能界NO.1のWWFマニア”

ハチミツ二郎の

『WWF』観戦記

ヒクソンだって ストーンコールドのスタナー 喰らったら死ぬんだから!

『紙プロNO.37』のレッスルマニア座談会にも出席した芸人さん＆トンパチプロ社長のハチミツ二郎。今回は自他共に認める日本芸能界屈指のWWFマニアの二郎さんが『キング・オブ・ザ・リング』『ロウ・イズ・ウォー』『スマックダウン』というWWFの豪華三連戦を渾身リポート！　これを読めば、あなたもWWFが見たくなること間違いなし！

『レッスルマニア』観戦から約3ヶ月、またアメリカにWWFを観に行ってしまった。理由なんかない。『レッスルマニア』から帰ってきた次の週にはもう申し込んでいた。今回は『キング・オブ・ザ・リング』というPPV大会。しかも翌日、翌々日は、あのMSGで『ロウ・イズ・ウォー』と『スマックダウン』まで観れるという贅沢ツアー。行って当然なのである。

最近は日本でもスカパー、ケーブルテレビの普及のおかげで、かなりWWF人口も増えてきたが、まだ見てない人の為に最近1番面白かったシーンを紹介します。

『ロウ・イズ・ウォー』カナダ・カルガリー大会番組開始。オーナー、ビンス・マクマホン入場。観客はビンスに対してブーイング。みのもんたのような顔をして会場を見渡すビンス。

ここからはビンスのスピーチ。

「カルガリーに来られて気分がいいぞ」

客席は「ウソつけ！」とブーイング。

「率直に言って、私も普通のアメリカ人観光客同様、ここに来ると、とても落ち着く」

客席の一部から「いいぞー！」の声。しかしその後、ビンスに向かって「クソ野郎！　クソ野郎！」と大ブーイング。

「どんなに罵られようが私は同胞のアメリカ人にぜひ国境を越えるよう勧める。カナダに来て人々の温かさに触れなさいと。ここだけだ。異なる言語を話す人々が仲良く暮らしているのは。驚きだぞ！」

ビンスは続ける

「確かに税金は高すぎるしカナダドルの価値は低いが……うまくやってるじゃないか！」

盛り上がり始める館内。

「お前達は胸を張ってこう言うんだろ・アイ・アム・カナディアン！（私はカナダ人だ！と）」

館内スタンディングオベーション。ビンスの言葉に大熱狂。ゆっくり客席を見渡すビンス。

さらに盛り上がる館内。

「ただ住むには最低だけどな」

とビンス。館内、大ブーイング。

ここでカナダ出身のクリス・ジェリコ登場。

今、WWFで一番元気で人気のあるタッグチームがマットとジェフのハーディー・ボーイズだ。一度見やがれ！

コントは続く。

どーですか？　団体のオーナーが喋りで2万人を手のひらに乗せてるんですよ。凄いことですよ。

さて、ここからは旅日記風に。

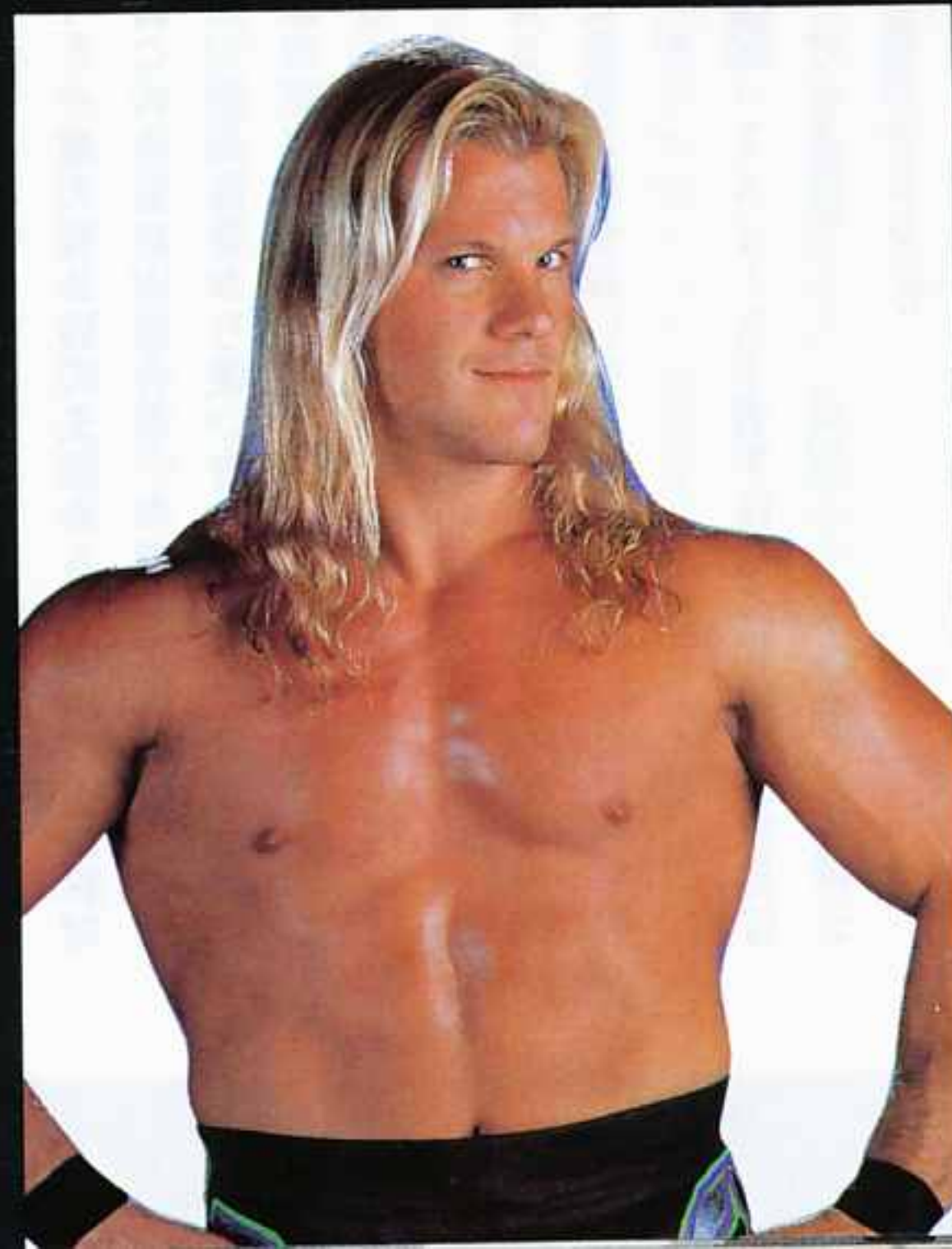
6月23日　NY着。

MSGの真ん前ペンシルバニアホテルが宿。ここに4泊。

「WWF　NY」へ。タイムズスクエアのド真ん中。闘魂ショップと似た風情。専門店なのに品薄。アンダーテイカーが来るとのことで入り待ちファンが300人。

6月24日『キング・オブ・ザ・リング』

まず花火がハンパじゃない！　観客はここでまずやられる。WWF版G1トーナメントのハズが興行的に柱というワケでもなく若い世代のエッジが優勝。

オーナーの息子シェインと五輪金メダリス

ライオン・ハートとして日本マットでもお馴染み“Y2J”クリス・ジェリコ。パートナーはあのクリス・ベノワだ!

ト、アングルが壮絶ストリートファイト。ラストは壁に向かって投げっぱなしジャーマン。社長の息子が喰らう技じゃないよ。シェインは前回のＰＰＶでも15メートルダイブを敢行した天才レスラー。

メインはオースチンvsジェリコvsベノワの三つ巴世界戦。

全員、平成初期の新日にいたレスラー。

ＷＣＷ、ブッカーＴが乱入するもオースチンが防衛。

ちなみに帰りのハイウェイにはドデカイ、テイト・オーティズvsシノシックの看板が。

6月25日『ロウ・イズ・ウォー』ＭＳＧ

今のＭＳＧにはハンセンがサンマルチノの首を折った頃や藤波がジュニアベルトを奪取した頃のような赴きはなく、改装されすっかり横浜アリーナに似たキレイな会場に。

合間、合間にＭＳＧクラシックとしてスヌーカやスローター、アンドレなどの映像が流れる。

ハードコア王座を通路でマイク・アッサム（グラジエーター）が奪取。後ろにポーゴがいるかと思った（んなわきゃない）。またもやブッカーＴ乱入。ブッカーＴ超人気。

メインにＴＡＪＩＲＩ登場。相手はジェリコ。ＴＡＪＩＲＩは言葉の壁を思い切り日本語で喋るというウルトラＣで越えている凄い男。

6月26日『スマックダウン』ＭＳＧ

3日間観て1番人気があると思われるのがクリス・ジェリコとハーディーボーイズ。子供は全員ハーディーボーイズのＴシャツを着ている。もちろんボクも着用。

今日もＷＣＷ勢が乱入。ＷＷＦ2軍が追っかけまわす。客席は蜂の巣をつついたような騒ぎっぷり。海の向こうでも対抗戦は人気があった。

そしてなんとこの日もＴＡＪＩＲＩはメイン。客席にはＴＡＪＩＲＩのプレートを持った現地人も結構いた。

とまあこんなカンジです。是非、現地に観に行ってください。近畿日本ツーリストでいいツアーやってます。言葉が分からなくてもＷＷＦのスーパースターズは顔芸で訴えかけてくるから。アメリカ人が志村のコントで笑えるようにね。

団体のオーナーが喋りで2万人を手のひらに乗せるなんて凄いですよ！

格闘系しか見ない人も是非、見てください。どんだけヤオガチ論争交わしてもアンダーテイカーのほうがコールマンより喧嘩強ぇし、ヒクソンだってストーンコールドのスタナー喰らったら死ぬんだから！　日本芸能界で1番ＷＷＦに詳しいハチミツ二郎が言ってんだから間違いねぇよ。そういうことだ。

戦場・格プロ・ルチャ・アメプロ・シュート

いつ何時、誰とでも戦う!

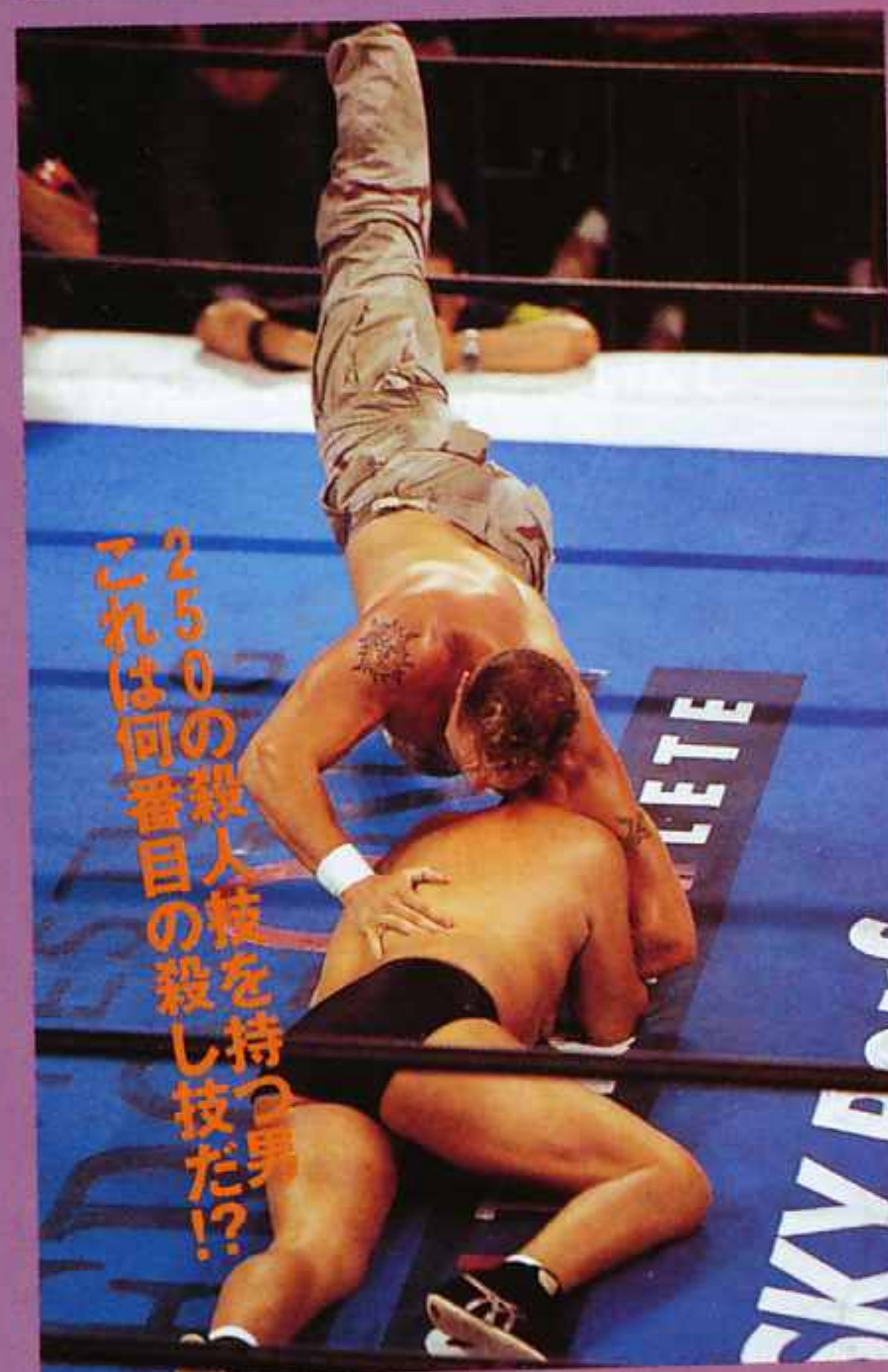
見てみい！このシビれる入場シーン！

250の殺人技を持つ男 これは何番目の殺し技だ!?

常在戦場

トム・ハワード

Thomas Howard

「バッバッバッバッ！　バッバッバッバ！」

旋回する軍用ヘリの音が場内に鳴り響き、凄い男がやって来る。四角いジャングルに獲物を求め、未知の強豪が日本マットを踏みしめた！　さあしっかりこの男の名前を胸に刻み込め！

その名は、トム・ハワード!!

そう、6・14大阪『真撃』で初来日ながら破壊王とのメインイベントに登場し、我々の想像を遥かに超える激闘を繰り広げた男である。

このトム・ハワードはグリーンベレー部隊の一員として世界中の危険な紛争地域で暴れ回っており、白兵戦はお手の物という格闘エキスパートである。

プロレス界に身を投じたその後もコールマン、マーク・ケアー、キモといった格闘技界の野獣達とドス黒い血を流しながら格闘技術を研鑽。その一方ではメキシコマットでマスカラスと闘ったり、そうかと思えばWWFに誘われてみたりと、戦場からルチャまで幅の広さも戦場級のダイナミックな行動を展開。

「ピエロをやるにしても昔のレスラーは下地があったんだよ」とは前田の言葉。が、ピエロを演じるつもりはさらさらないが、その言葉通りしっかり懐にドスを隠し持っているのがハワードの魅力。そのドスの使い方をWWFのスーパースター、カート・アングルにまで伝授してるのだから「地上最強のアメリカン・プロレス」の火を灯しているのはハワードといっても過言ではない。

「いつ何時、誰とでも闘う」という猪木イズム全開のハワード。これからも「アメリカの怒り」をぶつけてくれ！　ZERO-ONEを頼むぞッ！

史上初！
医大生がUFC王者に!!

難攻不落の王者パット・ミレティッチを破り、"褐色の宮本武蔵"カーロス・ニュートンが遂にUFC世界ウェルター級王座を奪取した！　新生UFCに相応しい、新時代の王者ニュートン。その素顔は意外にも、医者を目指す大学生だった！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／佐々木小太郎
designed by hisa (Two Three)

JUST A RONIN
CARLOS NEWTON
カーロス・ニュートン

あのミレティッチを破りUFC王座を奪取！

Photo by Mr.K

——大変遅ればせながら、UFC王座奪取おめでとうございます！

ニュートン　アリガトウゴザイマ～ス。ガンバリマシタヨ～（ニッコリ）。

——得意の日本語ですね（笑）。ところで、やはりUFCの王座奪取はニュートン選手にとっても念願でしたか？

ニュートン　そうだね。ボクは格闘家としてまだ新人だった16歳の頃から、いつかはUFCのチャンピオンになりたいと思っていたんだ。だからホントに嬉しいよ。

——〝難攻不落の王者〟と呼ばれたパット・ミレティッチと闘ってみた感想は？　かなり苦しい闘いだったと聞いてますけど。

ニュートン　ホントに苦しい闘いだったよ。パットは非常に実績、経験を持っていて、成熟した選手。それから影響を与える力があり、実行力がある選手だからね。

——そのミレティッチに自分が勝てたのは、どんなところが上回っていたんだと思いますか？

ニュートン　ボクが勝てた要因は、彼のこれまでの対戦相手とは違う体勢で試合に挑んだからだと思う。まず、彼のペースにハマらないこと。そして必ず一本勝ちするために技術と力を使ったことだね。

——ニュートン選手は大抵勝つときは判定ではなくて一本勝ちなんですけど、やはりこだわりがあるんですか？

ニュートン　判定には弱い方なんで、判定が嫌いなんだよ（笑）。

——あ、単に判定勝ちは苦手と（笑）。

ニュートン　苦手っていうか、ボクは判定に運がないんだ。例えばUFCでダン・ヘンダーソンと闘ったとき（97・5・15『UFC15』ミドル級トーナメント決勝）もボクが判定負けになったんだけど、試合後にUFCのオーナーが後で謝ってきたくらい自分が優勢に試合を進めていたし、ダン自身もボクの勝ちだと思っていたらしいんだ。ダンはこの試合でアゴの骨を折ってしまったくらいだからね。それでもボクは判定で勝てなかったんだ。

——それはガックリくるどころの騒ぎじゃないですね。

ニュートン　うん。だからボクは毎回、判定などで納得できない負けをした後は、必ず衣（ギ）を着て柔道の練習をする。それによって自分の気持ちを落ち着かせることが出来るんだ。

——やはり闘いにはメンタルな部分は重要ですか？

ニュートン　非常に重要だね。特にボクにとってはある部分フィジカル面よりはるかに重要だとも言える。

——そうしてUFCのベルトを奪ったわけですけど、このニューデザインのベルトは気に入ってますか？

ニュートン　ホントのことを言えば前のデザインのベルトが好きだったよ（笑）。

——あまりお気に召してないと（笑）。

ニュートン　パットは古いタイプのベルトをもってるから、リマッチが組まれたら、パットには古いベルトを掛けてもらおうかな（笑）。

——ベルトだけじゃなく、UFCは組織も新しくなって、しかもティト選手やニュートン選手みたいな、若くてハンサムなチャンプが誕生したので、また若い人の人気も上がって来るんじゃないですか？

ニュートン　やはり選手が若返ったことで、新しいエネルギーが吹き込まれ、バイタリティーと活力が吹き込まれたと思う。だから凄い勢いで人気が上がっているよ。これからも上がっていくんじゃないかな。

——日本ではいまUFCのテレビ放送をしていないので、組織が新しくなって、どこが変わったのかがイマイチわからないんですけど、何が一番変わりましたか？

ニュートン　プロモーターの発想が根本的に変わったね。

——どんな風に変わったんですか？

ニュートン　昔のUFCのプロモーターやオーナーは、バーリ・トゥード（以下VT）という競技自体にあまりにも頼り過ぎだった。「VTだからチケットも売れる」という風に思っていたんだよ。でも新しいプロモーターは個々のファイターを重視するようになったんだ。それが一番大きな違いだと思う。ボクシングだって、ボクシングという競技自体というよりも、ファンはスター選手を目当てに集まるだろ？　マイク・タイソンのようなスター選手がエキサイティングな試合をすればファンは見に来るんだよ。それを新しいUFCは理解して、エキサイティングな試合を見せられるファイターを見つけることにこだわった、それが大きな要因だと思うね。

——新しいUFCは対戦カードが本当に魅力的になりましたもんね。

ニュートン　ファイターが魅力的でなければ、ファンは見に来てくれないし、自分からリス

【5・4UFC31】遂に無敗の王者ミレティッチを王座から引きずりおろしたニュートンはカメハメ波のパフォーマンス。

Boutreview.com

UFC王者になれたのは嬉しいけど国語のテストが64点だったから悔しい（笑）

CARLOS NEWTON

クを背負えるようなファイターや、技術を見せることができるファイター、その技術がシンプルで美しいファイターがファンは好きなんだと思うよ。

——それにすべて当てはまるのがニュートン選手ですよね（笑）。

ニュートン　いやぁ、そうなるように頑張っているところだけどね（笑）。

——今回チャンピオンになったわけですけど、やはりUFC王座というのは、NHBのファイターにとって特別なものですか？

ニュートン　ボクはどんなベルトでも取れたら嬉しいよ。別にUFC王座だけが、最高の喜びというわけじゃない。今回、UFCチャンプになれたけど、その代償としてテストで悪い点を取ってしまったから、それは悔しいし（笑）。

——え!?　ニュートン選手って学生なんですか？

ニュートン　うん、大学に通ってるよ。UFCの一ヶ月前に大学で国語のテストがあったんだけど、それが64点しか取れなくて、すごく腹が立った（笑）。

——では、テスト勉強をしながらUFC王者になったってことですか！

ニュートン　イエス。試合前のトレーニングと試験の準備を両立するために、ヨガをしたりしてリラックスに努めたんだけど、国語の試験のときはリラックスし過ぎて準備不足だったんだと思う（笑）。でもUFCの2日前にやったテストは95点だったよ。

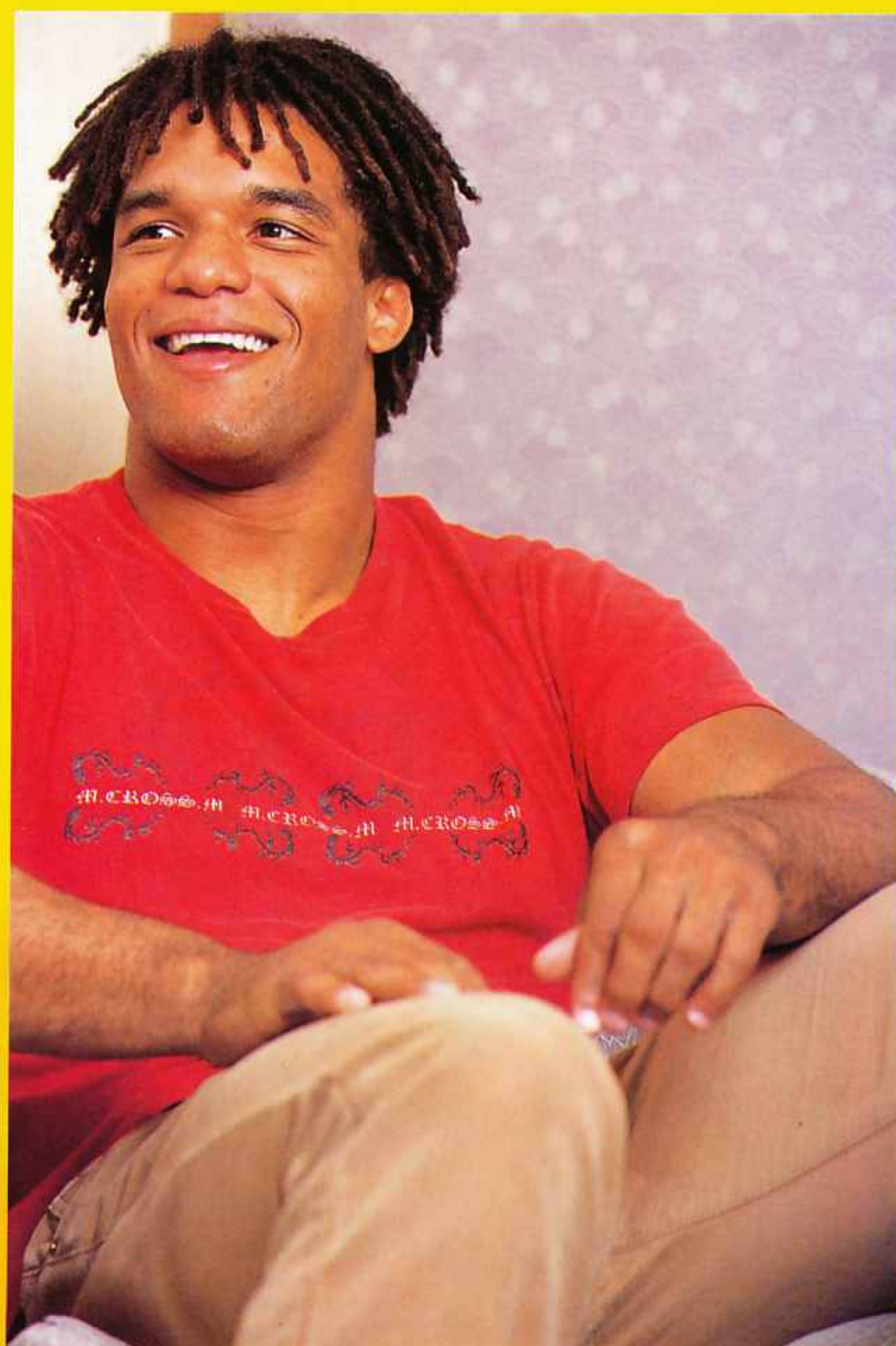
——UFC王者になる2日前にも学校の試験を受けてましたか！（笑）。

ニュートン　そんなに難しい話じゃないんだよ。ひとりの人間として、UFCだろうが、試験だろうが、つながっているものだと思う。ボクにとっては闘いも勉強も同一線上にあるものなんだよ。だから点数が悪かったときは、ボクが勉強と練習のバランスを崩していたということさ。

——UFCと学校の試験が同一線上にあるのはニュートン選手だけだと思います（笑）。でも、ということは大学のクラスメートはニュートン選手がUFCチャンプだって知ってるんですよね？　まわりでもヒーローなんじゃないですか？

ニュートン　ちょっとはね（笑）。ボクはカナダ人で初めてのUFCチャンプだから、友人、知人がパーティーを開いてくれたんだけど、そのときには5年以上会ってないないような、名前も覚えてないような友達も来たからね（笑）。

——それはありがちですね（笑）。ニュートン選手自身はスター願望はあるんですか？　ティト選手は「〝リアルファイトのストーンコールド〟になる」といってますけど（笑）。

ニュートン　彼がストーンコールドならボクはドラゴンボールの悟空か宮本武蔵になりたいよ（笑）。本当に何事も一生懸命やり自分の正しい規律を守って暮らす。そしてアーティストであるような、選手になりたいんだ。ただのヒーローではなく、自分の人生を真剣に生きている、そういうモデル（模範）になりたいね。

——ティト選手とは実に対照的ですね（笑）。

ニュートン　ティトはティトでいいと思うよ。でも、やっぱりUFCという競技は知らない人が見ると、どうしても〝バイオレンス〟だと思われてしまうんだ。ボク自身、クラスメイトから「UFCチャンプなら、このクラス全員ブチのめせるじゃないか」と言われたりすることもある。そういうのは心地よくないんだ。ボクはただ毎日を一生懸命に生きているひとりの人間であって、自分をスペシャルだとは思っていないよ。ただチャンピオンになるということは、想像を絶するような努力を必要とする。そういうものの集大成を見せたときに、自分の心が決まっていなくて、どんな分野でもチャンピオンになるための努力を始めていない人が自分の試合を見たときに「うわぁ」という感動を受けて、そのセンセーショナルな動機付けになると思うんだ。

——ニュートンもいろいろな人に影響を与えるようなファイターになりたいと。

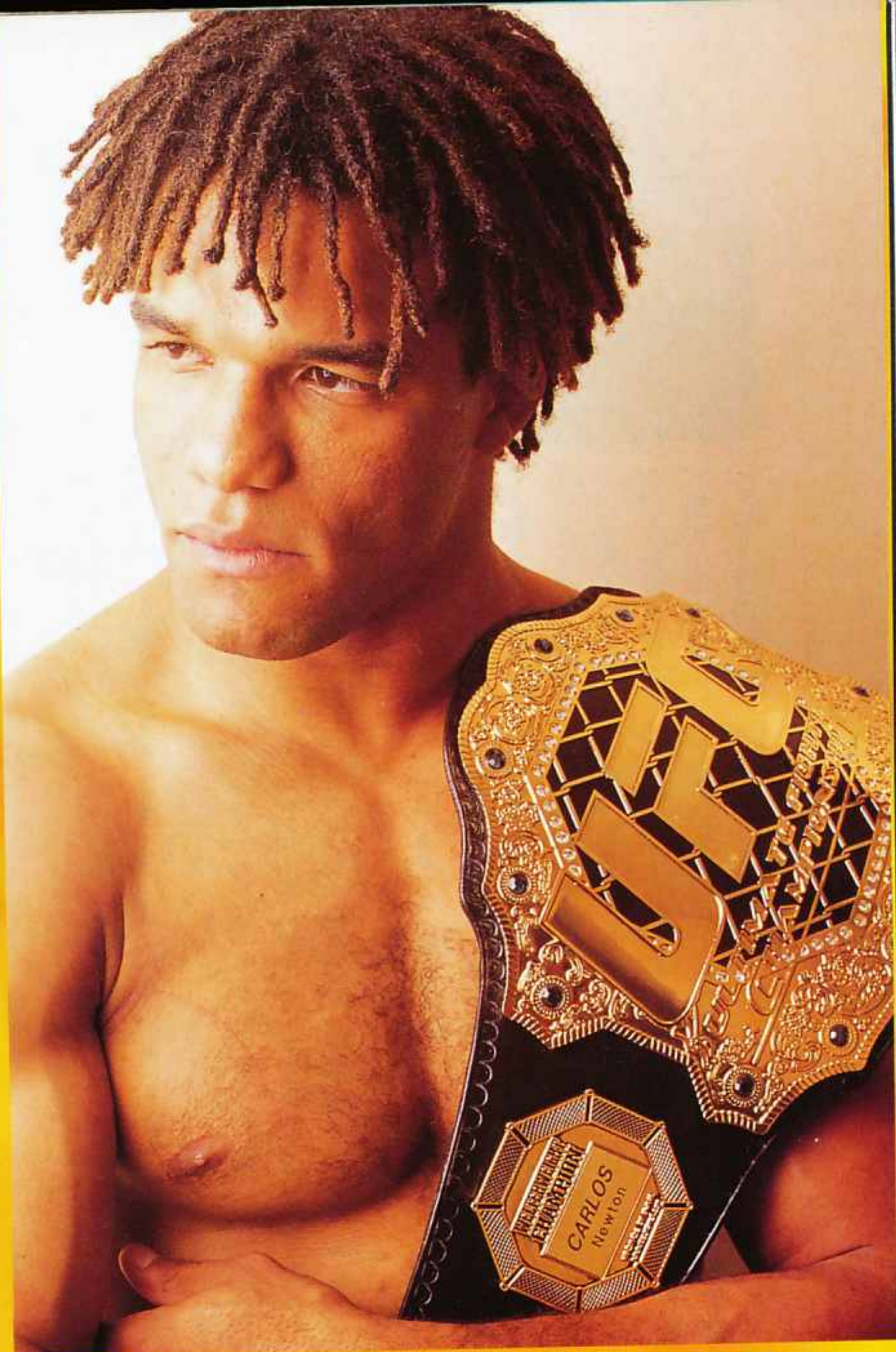
ニュートン　人々に「自分にもなにかできるんだ」と思わせたい。それと同時に「そのためには凄く努力をしなくてはならない」ということもわからせたい。「できる」ということを感じさせると同時に「難しいことなんだ」ということもわからせて、それに対する決心や動機付けになるような闘いをしたいと思ってるんだ。

——身近なところだと、クラスメイトなんかは、ニュートン選手に影響を受ける人が結構いるんじゃないですか？

ニュートン　でも人によるけど、多くの人はスポーツとしての闘いとただのケンカを混同する人が多いんだ。ボクの哲学の教授なんかも「闘うということは、暴力的な感情の表現である」なんて言ったりしている。

——やはりそれが一般的な見方なんですね。

ニュートン　残念ながら、まだまだそれが現実なんだ。それはボクらが変えていかなければならないと思う。

宮本武蔵は武士であり芸術家だった ボクはファイターであり医者でありたい

【CARLOS NEWTON】1976年8月17日、英領バージン諸島出身。177cm、79kg。スタンドでもグラウンドでも決して動きが止まらないファイトスタイルから、"ボール"とも言われるドレッドヘアーの業師。『ＰＲＩＤＥ・3』で、サクに敗れるも『ＰＲＩＤＥ』史上に残る技術戦を展開している。ＵＦＣ王者になったいま、再戦が見たい！

CARLOS NEWTON

――ところで、いま大学生ということですけど、卒業したらファイターに専念するつもりですか、それとも他にやりたいことがあるんですか？

ニュートン　実は医者になりたいんだ。

――い、医者ですか！

ニュートン　うん、実際いま大学では医学を勉強しているし、病院でのボランティアを始めて1年経ったんだ。

――へ～、カーロス・ニュートンは医大生でしたか！

ニュートン　ボクがボランティアをしている科は外科なんだけど、そこには例えばお尻の外科手術とか、ヒザの外科手術などを受けているお年寄りがたくさんいて、彼らを歩かせたり、エクササイズさせたりしているんだ。この病院での経験を通して、ボクはファイターとして人間として成長してきたと自負しているんだ。

――では、大学卒業と同時にファイターも引退してしまうんですか？

ニュートン　いや、ドクターとファイターを両立しようと思っている。

――え！　それはかなりしんどいんじゃ……。

ニュートン　確かに周りの友達も「絶対ムリだ」と言うけど、自分ではファイターとドクターは両立していけると思う。実際にいまボクは医学を勉強する身であり、ファイターでもあるけれど、学校の成績もほとんど「A」だし、試験の結果もいいからね。だから要は集中力の問題だと思うんだ。たいていの人は二つの物事を同時にするときに、別個に考えるけれど、別個に考えてしまったら、一方で学んだことを他方に応用していくことができない。だけどボクはすべての事柄は繋がっていて、同じ原則の元で作用していると思うんだ。だから例えば、ランニングをする時間がなくてできなくても、6時間勉強したとしたら、自分にとってはひとつの瞑想になっていると思うし、それで闘いの準備ができたとも言えると思う。

――勉強もトレーニングの一環ということですか。

ニュートン　イエス。だから、やっていることが違っても、ひとつのことに集中するということが修行になっていると思うんだ。サムライだって同じさ、サムライは剣術を学ぶだけじゃなくて、学業にも励んでいた。ボクが宮本武蔵になりたいというのは、そういうことでもあるんだ。宮本武蔵は武士であり、芸術家であった。ボクもファイターであり、ドクターでありたいんだ。

――ではバーリ・トゥードに限らず、ニュートン選手のこれからの夢、目標は何になりますか？

ニュートン　ボクの夢は、お金が貯まったら自分の住んでいる家の後ろに日本式の道場を作ること。そのためにボクはさっきこういう本を買ってきたんだ。（と言って数冊の本を出す）

――「こだわりの和風住宅」！（笑）。

ニュートン　そう、ボクはこういうのが、凄く好きなんだ（微笑）。こんな道場を建てるのがボクの夢だね。

――ファイターとドクターと道場経営となると、そうとう忙しいですね。

ニュートン　いや、道場「経営」はしないよ。金儲けではやりたくないんだ。ほとんどの人は道場をビジネスでやっているけど、ボクは道場を持つことができたら、すべての人にオープンな無料の道場にしたいと思ってるんだ。

――タダですか！

ニュートン　一生懸命働いて、お金を貯めて、その余剰な分のお金で道場をつくって、自分が格闘家として体験したことをみんなと共有したいんだ。

――でも、お金ぐらいとってもいいんじゃないですか？

ニュートン　ボクは15歳のときから柔術の道場に通っているんだけど、親元を離れて自活しなければならなかったから、お金がなかったんだ。その時に本職が警察官だった道場の先生が、ボクがお金がないことを知って無料で教えてくれていたんだよ。だから今度はボクが無料の道場を開いて、還元したいんだ。

――見上げたもんですね！

ニュートン　そうでもないけど（微笑）。だからそのためにも、もっと勉強しないとね。

――勉強もいいですけど、次の試合の予定は決まっていないんですか？　チャンピオンになったニュートン選手の試合を日本のファンも見たがっていると思いますよ。

ニュートン　ボクもはやく日本で試合がしたいよ。いま、スケジュールを調整しているところなんで、またすぐに日本で闘う機会があると思う。

――闘いたい選手はいますか？

ニュートン　たくさんいるけど、もし彼がやりたいならサクラバとやりたいね。前回は負けているので、今度は新生ニュートンというものを見せたいと思う。ボク自身、あの頃よりずいぶん成長したと思うから。（日本語で）ミナサン、オーエンシテクダサ～イ（笑）。

【01年5月26日／都内某ホテルにて収録】

これがニュートンが大量に購入した日本のインテリア本。「こだわりの和風住宅」「和庭の美と景」ホントに日本文化だ大好きなのだ。

狼の魂を受け継ぎし者はリングスの救世主となるか!

ヴォルク・アターエフ

6・15横浜で衝撃のKOデビュー

「ハンに恩返しするためにも必ずKOKの王冠を奪うよ」

噂の“ハン最強の弟子”ヴォルク・アターエフが遂に来日！　ハンが本誌のインタビューで「私の弟子で、対戦相手のアゴ、足、頭蓋骨をへし折る、凄いとしか言いようがない男がいる」と語っていた通り、見事一撃KOデビューを飾った。リングスを救うのはこの男だ!

聞き手／堀江ガンツ　撮影／吉場正和

designed by hisa (Two Three)

本気で打撃を出したら大変なことになる だからいつも力をセーブしているよ

VOLK ATAEV

――昨日は見事なKO勝ちでの日本デビューおめでとうございます! まずその試合の感想から聞かせて下さい。

アターエフ 昨日はもの凄く緊張したよ。この一戦で日本における自分の格闘家人生が半ば決まってしまうんじゃないかと思っていたんで、勝ててホッとしているよ。それと同時に、日本のファンが、非常に熱く迎え入れてくれたんで、感動したし、まだ興奮が冷めないくらいだよ。

――実はハン選手がインタビューで「私の弟子でもの凄く強い男がいる」と、発言されていて、ファンの間では来日前からアターエフ選手のことが騒がれていたんですよ。それはご存知でしたか?

アターエフ いや、実を言うと、ハンにこれだけ評価されているというのは、日本に来て初めて知ったんだ。ハンには「日本でお前の宣伝をしてくれているから、絶対に勝て!」と言われたんだけど、まさかハン自らが宣伝してくれてるとは思ってもみなかったよ(笑)。

――アハハハ、そうでしたか(笑)。普段はあまり誉めてもらえないんですか?

アターエフ ロシアでは酷いもんだよ。練習中に毎日のようにブン殴られて、「この、負け犬!」とか「根性なし!」など汚い言葉で散々罵られているからね(笑)。だからこんなに評価をしてもらっていたなんて、驚いたと同時に本当に嬉しかったよ。

――道場でのハン選手は相当厳しいらしいですね。

アターエフ 大変だよ(苦笑)。ハンは普段は大変陽気な人で、常に周りの人間を楽しませようとする。それが彼のライフスタイルだけど、練習になると人間が変わるんだ。親、兄弟、親友、弟子、すべての関係を一切忘れて本気で技を仕掛けてくるんだよ。

――試合ではなくて、練習なのにそこまで非情になりますか。

アターエフ ハンは何事でも勝ち負けに関しては妥協しない人なんだよ。一回のスパーリングでも絶対負けないという気持ちで臨んで来る。あんな負けず嫌いはいないね(笑)。足なんか取られたら、本当に折られるんじゃないかと思うよ。それで普段から「関節技は相手の骨を粉々に砕くつもりで仕掛けろ」とか言ってるからね(笑)。

――とんでもない師匠を持ってしまったもんですね(笑)。でも逆にハン選手はハン選手で、「アターエフと打撃のスパーリングをやると、ブッ壊されるんじゃないかと思って、怖いくらいだ」って言ってましたよ。

アターエフ やはり打撃は私の庭だからね、そういう部分もあるかもしれない。だから実はハンとはまともに、打撃のスパーリングをしたことがないんだ。それがハンだけではなく、道場の他の選手もそうで、まだ打撃で自分と対等に闘える選手がハン道場にはいないんだよ。自分が持ってる打撃の技術をすべてぶつけたら、大変な事態になるので、打撃のスパーリングのときはいつも遠慮しているよ(笑)。

――遠慮した打撃でハン選手を恐れさせていましたか! では、普段はどこで打撃を練習しているんですか?

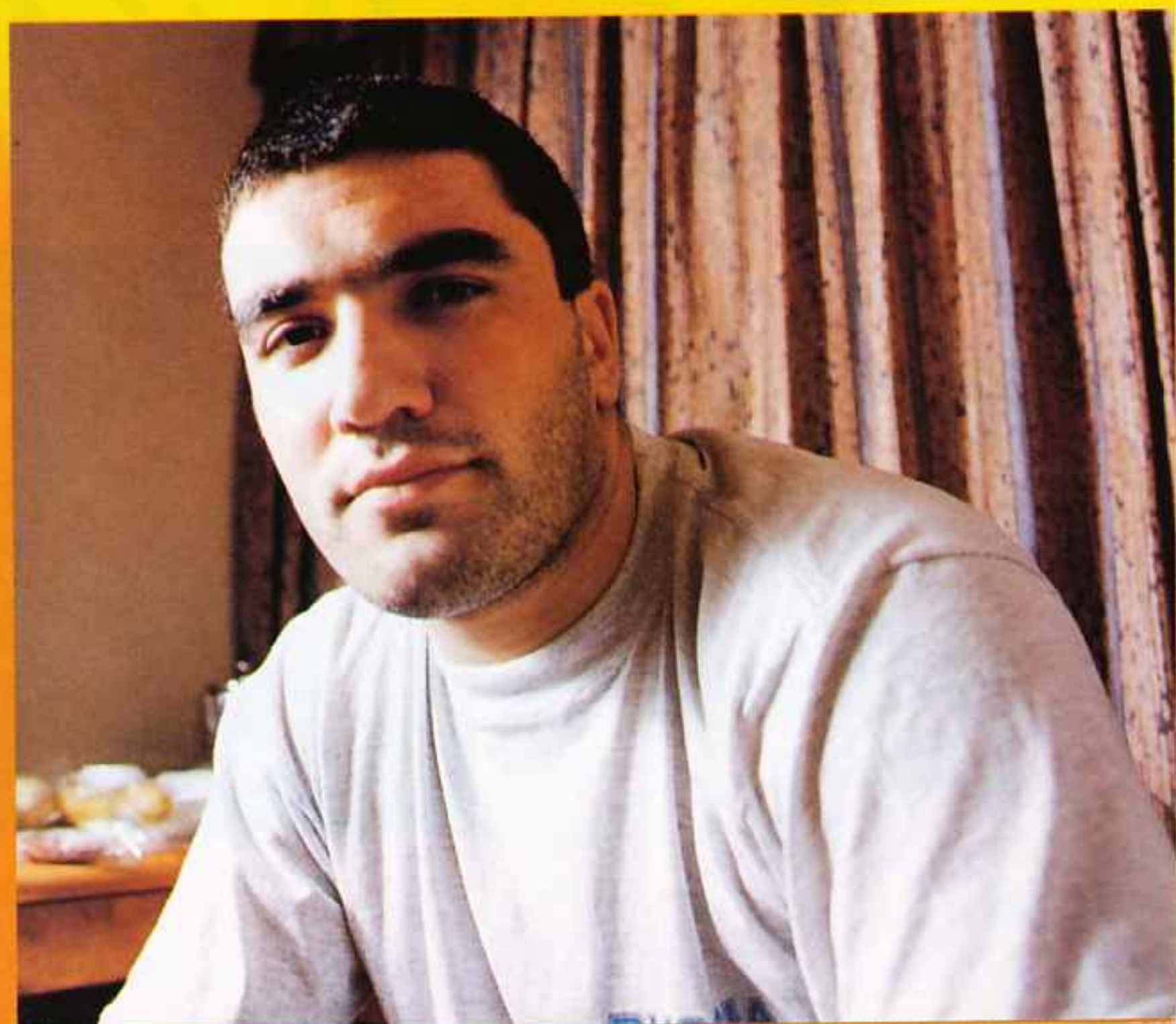
アターエフ 私はハン道場の他に、キックボクシングとボクシングのジムに通っていて、そこで打撃の練習しているんだ。そこなら遠慮することもないからね。立ち技も寝技もスペシャリストに学ぶことができているから自分は恵まれていると思うよ。

――日本に来る前にハン選手からは、何かアドバイスを受けましたか?

アターエフ あまり口数は多くなかったね。「おまえは日本で試合をするレベルに達している。後は試合をするだけだ。得意の打撃でだけではなくグランドも試すように」と、それだけ言って去ったよ。

――それだけですか(笑)。それでは同じハン道場で練習しているミーシャ選手やヒュードル選手からは何かアドバイスはありましたか?

アターエフ ヒュードルとは日本に来る前には残念ながらは会うことが出来なかったけど、普段から自分のダメな部分をミーシャと共に指摘してくれているので、仮に会っていたとしても特にアドバイスはなかったと思う。あとは一緒に練習しているたくさんの仲間から「グッドラック」という言葉を受けたり、故郷のダゲスタンにいる友達や両親からも応援の電話が殺到したよ。私の日本デビューをみんながサポートしてくれたんだ。

――ハン道場の先輩であるラバザノフ・アフメッド選手なんかは、日本での食事が合わなくて、かなり痩せてしまったことがあったんですけど、「日本は大変な所だよ」なんて言ってませんでしたか?(笑)。

アターエフ ラバザノフは2ヶ月間、日本に住み込みで練習していたけど、食事が合わないというよりコミュニュケーションの問題だったたんじゃないかな。やはり言葉がまったく通じなくて身振り手振りしか出来なかったわけだから、一種のホームシックになってしまったんだろう。彼は社交的な人間だから、精神的に大変な思いをしたんだと思うよ。ただ、これだけは日本のファンに言っておきたい。ラバザノフはホントに強い選手なんだ。まだまだ実力を発揮していないので、次の来日をゼヒ楽しみにしてほしいね。

――アターエフ選手自信は日本に来てみて、どんな感想を抱きましたか?

アターエフ 今回はとにかく試合に集中していたし、緊張していたんで正直、何と言ったらいいか分からないなぁ。「大変気に入った」とでも書いといてくれよ(笑)。

――アハハハ、無難な答えでまとめておけ、と（笑）。

アターエフ まぁ、それは冗談だけど、街がすごくキレイなのでビックリしたよ。そして日本人は凄く行儀が良くて、優しい人が多いと思うね。そんな素晴らしい日本だけど、もし住むことになったら、ラバザノフと同様にコミュニュケーションの問題で、一ヶ月ぐらい経てば痩せてしまって、使い物にならなくなるだろうね（笑）。

――アターエフ選手は日本の格闘技のビデオとかはご覧になっているんですか？

アターエフ もちろんよく見ているよ。日本には世界中のいろんなタイプの強い選手が集まっているからね。彼らを分析するのは非情に勉強になるよ。

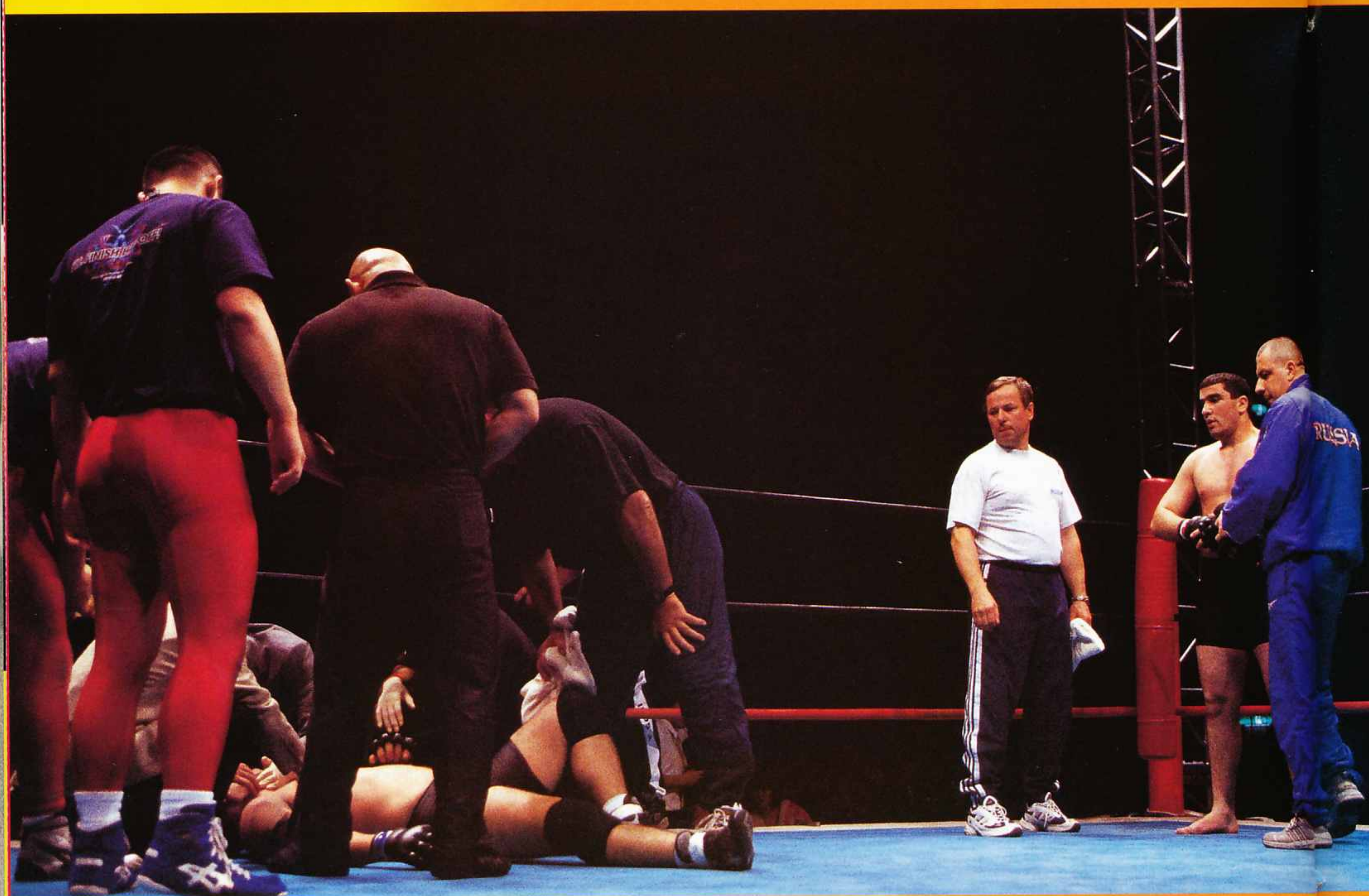
――中でも特に「強い」と思った選手はいますか？

アターエフ （即座に）ヴォルク・ハン！（笑）。

――ハン選手以外でお願いします（笑）。

アターエフ ハン以外か……。う～ん、そうだなぁ、リングスに登場する選手はみんな強い選手だから、記憶には残っているよ。例えばブラジルの選手であれば、グラウンドが強い選手が多いと思うし、日本の選手は立ち技と寝技のバランスに優れていると思う。ただ、たくさん強い選手はいるけど、自分にとってスターはハンだけなんだ。私はハンの試合を見て総合格闘技を始めようと思ったぐらいだからね。

――ロシアでも日本でのハン選手の試合が見れるんですか？

アターエフ 自分がまだ故郷ダゲスタンの寄宿舎にいたころにTVでよく放送していたよ。その時間になると練習を放り出してTVの前に釘付だったね（笑）。

01・6・15横浜文化体育館■注目の日本デビュー戦となったメイナード・マルコム（オーストラリア）戦。「アターエフの試合結果はKOするか、相手に酷いケガを負わせるかだけだ」と言われるとおり、左ストレート一発で失神KO勝ち！　マルコムがまったく起きあがってこないため、一時リング上は騒然となった。〝ロシアの破壊王〟アターエフ恐るべし！

――寄宿舎ですか？

アターエフ そう。「ラ・シュビ」という国立の全寮制格闘技学校に12歳の頃からハンの道場に入るまで8年間通っていたんだ。そこの寄宿舎だよ。

――全寮制格闘技学校！　それはどんなところなんですか？

アターエフ 今から15年前にマガメーエフという格闘技を愛する人が建設した格闘技学校で、一般的な学校の授業もあるけれど、基本的に朝から晩まで格闘技の練習をしている。全寮制だから家には月に一回しか帰れない。ダゲスタンの裕福な家では、暴漢に襲われても自分の力で倒せるようにと、そこに子供を預けるんだよ。

――そこではどんな格闘技を教えているんですか？　例えば柔道のオリンピック選手やサンボや空手の世界大会レベルの選手を育成したりするところなんでしょうか？

アターエフ 教える格闘技は基本的に散打が専門だよ。柔道やサンボ、空手などは教えていない。だから数年前から「国立」という名前は付いているけど、別にオリンピックを目指す場所ではないんだ。ただ2004年から散打がオリンピックの種目になるという噂もあるので、そうなれば「オリンピック選手養成学校」という位置づけになるだろうね。

—散打以外は教えていないんですか？

アターエフ　最近テコンドーが導入されたくらいだね。それから一般的にはあまり知られていない格闘技だけど、中国の「セグン」という武道も教えているよ。学校の創始者が中国の哲学的な武道が好きだったから、この学校に入るとまずは「セグン」から習い始めるんだ。

—「セグン」というのは、どんな格闘技なんですか？

アターエフ　自分も「セグン」のルーツはそんなに詳しくはないのだけれど、少林拳に近い武道だと思う。「セグン」には独特の練習方法がたくさんあって、例えば『鉄のシャツ』という体を鉄で叩いて鍛える練習もあったね（笑）。

—鉄で身体を叩きますか！　入学早々とんでもない荒行をさせますね。とても国立の学校とは思えない（笑）。そんな練習をその学校ではみんなやってるわけなんですか？

アターエフ　ああ。この「セグン」の練習で、格闘技の基本と精神力を鍛えるんだ。

—ほとんど「虎の穴」ですね（笑）。その学校にはアターエフ選手のように有望な選手は他にいるんですか？

アターエフ　体格はさほど大きくないけど、自分から見て3人ぐらい天才的な選手がいるよ。以前の私と同様、まだ寝技を知らないので通用しないと思うけど、総合格闘技をやる意志はあるようだから、将来経験を積んで凄い選手になるんじゃないかな。

—それにしても、その学校は格闘技好きの男がたくさん集まるわけですよね。もめ事とか起こらないのですか？

アターエフ　とにかく規律が厳しい学校なんで、もめ事はほとんど起こらないね。学校の規則で、汚い言葉使いや、ケンカとかイジメであるとかは一切禁止されているんだよ。学校に入った当初はまだ子供なので色々な問題が起きることはあるけど、学校の先生がその性格を矯正するのでみんな優しい性格になっていくんだ。

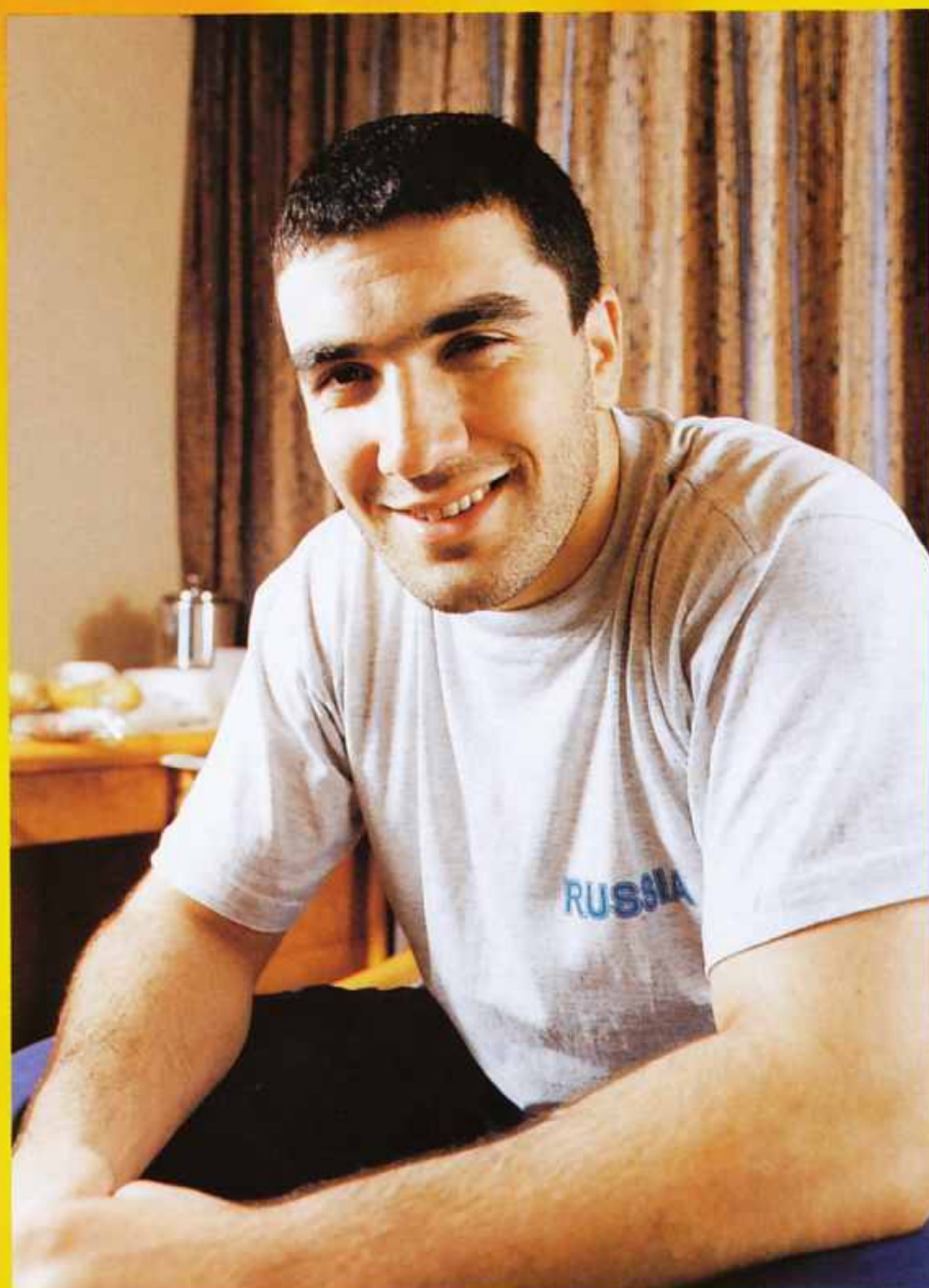
—格闘技だけではなく人格形成の場所でもあるわけですね。

アターエフ　そういうことだね。だから正直いって自分が学校を出たときは、普通の町での生活に慣れるのに半年かかったよ。それだけ学校の雰囲気と世の中の雰囲気が違うんだ。あの学校は厳格な場所だったと思うよ。

—学校を出ようと思ったのはどんな理由からですか？

アターエフ　もともと自分はプロの格闘家になって、リングスで闘いたいと思っていたんだ。でも、あの学校にいたのではプロの試合には出れない。あと、もうひとつ。学校に自分と対等にスパーリングが出来る選手が実力的にも体格的にもいなくなってしまったということもあるね。自分がもっと強くなるには、学校を出なくてはいけないと思ったんだ。

—それから『ヴォルク・ハン格闘術』の道場に行くことになったのですね。

アターエフ　そうだね。ハンはタゲスタンでは大変な英雄であったし、親父の勧めもあって入門したんだ。そして、実際ハンに会ってみて改めて尊敬される人物だということがわかったよ。例えば、ハンは弟子が試合をしてファイトマネーを得ても、少しも金銭を要求しないんだよ。

VOLK ATAEV

【VOLK ATAEV】1979年12月3日、ロシア・タゲスタン出身。本名ヴァズィキッド・アターエフ。8歳からボクシング、12歳からロシア国立格闘技学校で散打を学ぶ。散打世界王者となった後、『ヴォルク・ハン格闘術』に入門。以来、リングスルール6勝、アブソリュート3勝を挙げ、プロではいまだ負けなし。試合で相手の頭蓋骨やアゴ、足の骨を砕くなど、その打撃の破壊力は計り知れない。E・ヒョードルと並ぶリングス・ロシアのエース候補。182cm、96kg。

—コーチ料も取らないんですか？

アターエフ　一切受け取らないね。その代わりプロとしてやっていける才能のある人間しか入門させないんだ。ハンは「自分の力で稼げるようになったら、それで良い」と、そういう考え方なんだよ。本当に自分は恵まれた指導者に会えたと感謝している。だからハンに恩返しする意味でも、近い将来必ずKOKの王冠を手に入れたいね。ハンの道場に来てから、常にそのことを考えているよ。

—これからリングスのトップ選手と闘っていくとなると、グラウンドの技術がどうしても必要になってくると思いますけど、アターエフ選手はハン道場にきてから、グラウンドの練習を始めたんですよね。ハン道場は寝技のエキスパート揃いだから、最初は大変だったんじゃないですか？

アターエフ　いま現在も大変な思いをしている最中だよ（笑）。みんなグラウンドのレベルが高いので、一瞬にして倒されたり関節技を極められたり、毎日悲鳴をあげない日はないくらいさ。でもこの一年間でかなりサンボとレスリングの練習したので、もはやグランドは自分の弱みではないよ！

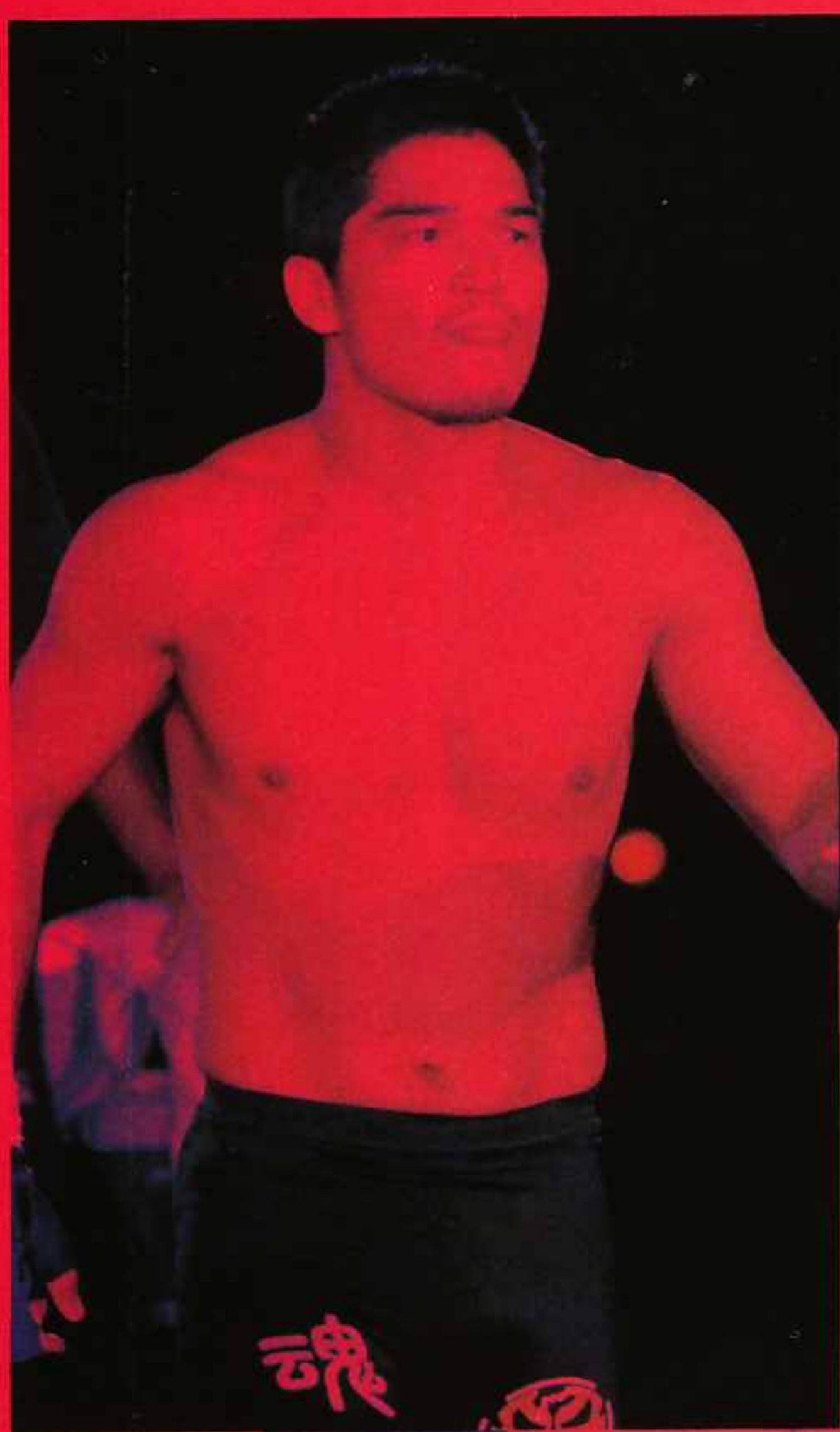
—おおっ！

アターエフ　ただ、強みとも言えないけど（笑）。

—ズコッ！　自分で落としますね（笑）。最後に聞き忘れてましたけど、「ヴォルク・アターエフ」というリングネームは気に入ってますか？

アターエフ　実はそのリングネームは日本に来て初めて知ったんだ（笑）。師匠のハンと同じ名前がつくのは、非常に光栄なのと同時に、凄くプレッシャーを感じるね。でも「ヴォルク」という名を受け継いだからには、ハンが10年間リングスのトップで闘い続けたように、自分も向こう10年はリングスの第一線で闘っていくつもりだよ。

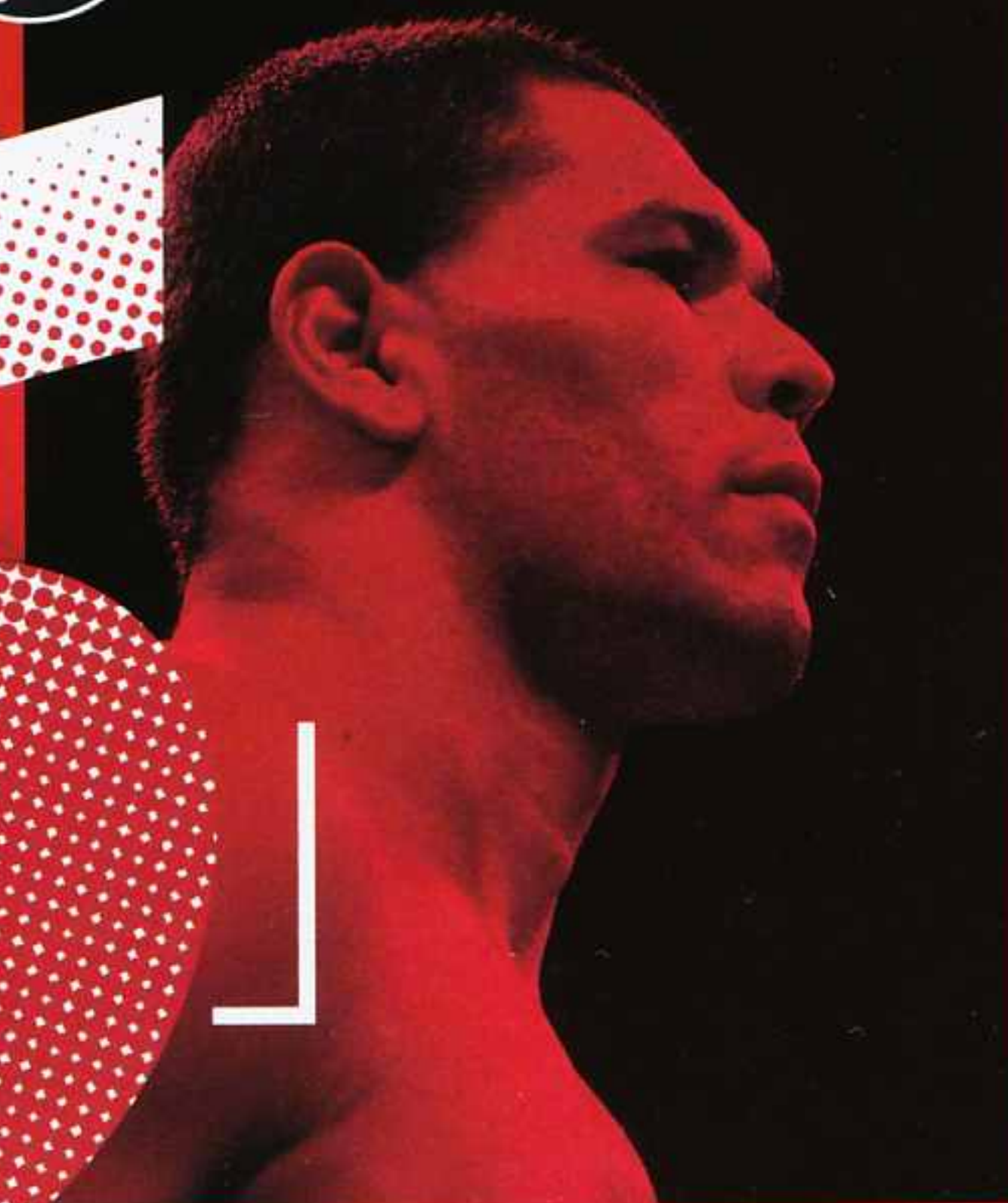
—いや〜、非情に頼もしいですね、期待しています！

【01年6月16日／都内・某ホテルにて収録】

暑い夏には熱い闘いがよく似合う

元気ですかッ！　皆さんは昨年の真夏の西武ドームの興奮を覚えていますかッ！「暑い夜には熱い闘いがよく似合う」と、そんな猪木さんの言葉通り熱い闘いが繰り広げられた『PRIDE. 10』のことです！　今年の夏もそれに劣らぬカードがラインアップされています。さあ、熱い闘いで燃え上がるために『PRIDE.15』を超直前で語ってみますかーッ！

『PRIDE.10』
あの夏の興奮をもう一丁っ！

燃えろ！「PRIDE.15」超直前座談会

構成／クレ斉藤
designed by さおとめの事務所

クレ　皆さん、大変です。7月29日にさいたまアリーナで行われる『PRIDE.15』のカードが発表されました。去年の夏に行われた『PRIDE.10』同様に豪華なカードたくさん組まれまして、胸躍るわけですが…

山口　おまえ、何でそんな棒読みなの？（笑）。

チョロ　なんか入社したてのニュース・キャスターーみたいだな（笑）。

クレ　そ、そんなことないですよ。『PRIDE.15』はもの凄く楽しみですよ（それでも棒読み）。

山口　全国1千万人の『紙プロ』読者の皆さま、この男は、大阪のボンボンの片山ボンちゃんと同時期に入ってきた、雀鬼の下で7年間内弟子をやっていた、新人のクレ斉藤君です。

ガンツ　盆と暮れで、クレですか。ベタですねぇ（笑）。

山口　なんでもいいんだよ（笑）。

クレ　そ、それで、今日の座談会では『PRIDE.15』が10倍楽しく観れる見どころなんかを皆さんに語ってもらいたいんですけど。

ガンツ　それは堀辺先生に聞きに行きましょう！（笑）。

山口　そうだ！　堀辺先生に語ってもらおう。それじゃ、今日の座談会はおしまいってことで（笑）。

クレ　（慌てて）で、プ、『PRIDE.15』の一番の注目はなんといっても桜庭和志vsクイントン"ランペイジ"ジャクソンですよね。

山口　これは試合が注目されてるより、桜庭の復帰戦が注目されてるわけでしょ。

ガンツ　どっちが勝つんだろうっていう興味は全くないですね（笑）。

山口　何者ですか、そいつは？　名前すら知りません（笑）。

ガンツ　なんかスクラップされたバスに住んでるらしいですよ（笑）。

クレ　ホームレスらしいんで、連絡取るのも大変らしいですよ。

チョロ　どうなんだろうね。ホームレスってのは本当なのかな？

クレ　森下社長は本当だって言ってましたけど。

山口　森下社長が言っていたらウソだろう。違うか（笑）。でも"とんだいっぱい喰わせ物"なのか、それとも凄い実力者なのか。未知の強豪っていう部分では面白いよね。

ガンツ　リングス10周年興行でマット・ヒューズ戦が決まった金ちゃんは、桜庭の相手とやりたいって言ってましたけどね（笑）。

山口　ガハハハハ！　相変わらずだな、金ちゃんは（笑）。

ガンツ　「たまには山の中から出てきた未知の強豪とやらしてよ！」ってボヤいてました（笑）。

桜庭が想像を超える試合をやってくれれば何の文句もない（山口）

山口　ガハハハハ！　でも金ちゃんみたいにさ、みんなも桜庭の復帰戦の相手はシャノン・リッチレベルの相手じゃないかって想像してるわけでしょ。でもわかんないからな。

チョロ　それに、かなり胡散臭いんで興味がないって人も多いですよね。

山口　オレはメチャクチャ興味あるけどな。たとえ相手が弱くても、改正されたルールの中で、桜庭のテクニックがどれだけ見れるのかと思うと、実に楽しみなんだよね。

クレ　『PRIDE.7』の（アンソニー・）マシアス戦みたいな感じですね。

山口　うん。相手がマシアスなのかリッチなのか、オマエはどっちなんだっていうさ（笑）。

チョロ　ホームレスなだけにリッチか？　プアーか？　ヒャヒャヒャ！

【一同沈黙】

チョロ　じ、冗談はともかく、最近は"初物"に当たりが多いですからね。『真撃』のUPWに始まって、未知の強豪が復活する時代なんですよ！

山口　俺は相手が誰であれ、桜庭が想像を超える試合をやってくれれば何の文句もない。これさ、田中正志も言ってるけど、オレは10年前から言ってるからね（笑）。

ガンツ　想像を超える試合というと、打撃だけで倒すとかですか？

山口　例えばシウバvs大山戦の30秒以上の秒殺をしたりね。4ポイントからのヒザで失神させるとかね（笑）。桜庭には、広く深い意味でのプロレスを期待したいです。それを総合のリングでやってきたのが桜庭の道筋だからね。だから相手が弱すぎるからっていう批判もごく一部ではあるらしいけど、全くオレにはピンとこないんだよなぁ。桜庭はもっと強い相手とやれとか、ネットに書き込みがあるけどさ、今までの実績からいったら桜庭が一番あるじゃない。それに、仮に弱い相手だとしても、それが何でダメなの？　逆にオレは聞いてみたいよね。

クレ　多分、『PRIDE』のビジネス的な部分が見えすぎるのが嫌なんじゃないですか。

ガンツ　要は11月の東京ドームで再戦させるまで、シウバも桜庭も傷つけ

SAKU IS BACK

世界が恐れるIQレスラー
桜庭和志

VS

暴走ホームレス
クイントン"ランペイジ"ジャクソン

真夏の西武ドームにサクラ咲く！　桜庭が『PRIDE』に帰ってきた！　しばらく振りにサク・ワールドが堪能出来るぞ！　相手の"暴走ホームレス"クイントン・ジャクソン相手にどんな試合を魅せてくれるだろうか。ホームレスの面倒を頼むぞーッ！

さいたまアリーナを揺るがした『PRIDE.13』衝撃のシウバ戦。あの敗北から半年、桜庭が再起に向けて動き出す！

座談会出席者

本誌鬼畜編集長
山口日昇

キャットファイト案内人
松澤チョロ

本誌屈折男
堀江ガンツ

本誌麻雀バカ一代
クレ斎藤

瞬間愛モーダー
片山ぼん

たくないってのが見え見えっちゃ〜、見え見えですからね。ある意味、お休みを頂いてるわけじゃないですか？ お休みマッチやってんじゃないよって ことなんじゃないですか。

山口 例え弱い相手だとしても桜庭の試合が見られたら、それは贅沢なことだと思うけどね。『PRIDE』は、単なる純バーリ・トゥードとは違って、いかにバーリトゥードをわかりやすく見せるかという非常に困難な役割を背負ってるわけだからさ。リングスはそれとは全く逆の残酷なマッチメイクを組むけどね。

ガンツ 残酷すぎますよ（笑）。

山口 でも、残酷ってことで考えると、桜庭は今度シウバとやるときは必勝なわけでしょ。それだって残酷だよ。噂される11月の東京ドームでやるとしたら、絶対負けられないわけだからね。

ガンツ いまの桜庭人気は今度負けたらハッキリいって終わっちゃますからね。

山口 ボクシングの畑山がロルシーに負けて、モチベーションが上がらないから辞めるかもって言ってるでしょ。でも、桜庭だってモチベーションが上がらないことなんて腐るほどあったと思うよ（笑）。そっからどうやって「闘魂の火種」に火を付けるのかが、〝プロレスラー〟と呼ばれる人間の一番の宿命じゃない。それをファンは見てるわけだから。プロボクサーとかはいいよね、ある意味。世界チャンピオンでも嫌になったら引退すりゃあいいんだから。他のプロレス以外の格闘技の選手は引退という道が比較的ラクに選べるから。何度ドン底に落ち込んでも、そこからモチベーションをあげるのがプロレスラーの宿命だからね。いまガンツが、桜庭がシウバと東京ドームでやって負けたら終わりだっていったけど、そっからの逆襲も見たいと思うでしょ。ファンは。

ガンツ でも従来のプロレスとは違う、ボクシングと同じように負けたら終わり感があった方がいいと思うんですよ。見る側としても緊張感があって、面白いと思いますしね。

山口 それはあった方がいいよ。でも〝プロレスラー〟と呼ばれる人はそこで負けたから終わりにはなれないんだよな。だから、ボクサーでも、アリとか、世界に3度返り咲いた輪島功一なんかは、俺は〝プロレスラー〟だと思うからね。

ガンツ このカードに文句を言うってのは、昔の新日本の猪木さんに、毎週TVマッチの度にジェット・シンやハンセンと一騎打ちをやれって言ってるようなもんですよ。地方でアレンあたりとシングルマッチがある以外は、最終戦の蔵前国技館までは、6人タッグでいいんですよね。

〝プロレスラー〟は負けたら終りにはなれないんだよ（山口）

超頂上対決

第2回KOK王者
アントニオ・〝ミノタウロ〟ホドリゴ・ノゲイラ

『PRIDE』GP王者
マーク・コールマン

『PRIDE』王者と『KOK』王者が遂に激突！ 今までリングスからは、無差別王者のアイブルや初代KOK王者のヘンダーソンが登場しているが、王者対決とも言えるこの一戦は、今までとは注目度が格段に違うカードだ！ そしてノゲイラのテーマ曲「バスゴ・ダ・ガマ」が『PRIDE』の会場でも鳴り響くか!? そっちも注目！

山口 これに文句をつけてるネットレベルの人たちはやっぱり総合格闘技はそういうもんじゃないっていう、もっとシビアな目があるわけだよね。でも相手の力を引き出したり、弱い相手にプロレス的ストーリーを周辺に含めて埋めていく作業とかを、万が一があるバーリ・トゥードのリングで出来るっていうのは逆に凄いことだよね。時代性の中で進化してるよ。

ガンツ 総合格闘技のファンは、この試合をボーナス・トラックと思ってくれればいいんですよ。

山口 （突然）ボンちゃん！ 君は座談会初参戦だろ。何か発言しないと、大阪のお母さんやおばさんも見てるぞ。

チョロ ボンちゃんがファンとして大阪にまだいたら、桜庭vsホームレスは見に来るの？

ボン さ、桜庭vsホームレスですかぁ？ 大阪からは来ないですね。でも桜庭を迎えるお客さんの雰囲気というのは気になります。暖かいムードなんでしょうけど。

山口 暖かいムード……？

ボン 「お帰りなさい！」みたいな。

山口 それは嫌だなあ（笑）。

ガンツ 馬場さんがケガして復帰するんじゃないんだからさ（笑）。

山口 まあ桜庭の復帰戦だし、かなり爆発的に盛り上がるだろうね。この試合がメインになるって？

クレ メインはコールマンとノゲイラの『PRIDE』王者vsKOK王者対決らしいですね。

ノゲイラをなめるなよ！

ガンツ こっちは本来の『PRIDE』のあるべきカードというか。『PRIDE』に決闘を求めている人は、

圧倒的なパワーで相手を粉砕するコールマンと、驚異の極めの力も持つノゲイラ。先に相手の上になった者が勝利を呼び込むか!?

コールマンが勝てると思ってるのならノゲイラをなめすぎだよ（山口）

こういうカードじゃないといけないわけですよね。

山口　ボンちゃんはどうなの。このカードは？　お母さんとおばさんが見てるぞ。

ボン　こ、コールマンvsノゲイラですかァ？　いやぁ、よく知らないんで、興味ないですね。

山口　それはコールマンとノゲイラが悪いよなあ〜。ボンちゃんは悪くないなぁ〜（笑）。

クレ　ワハハハ！　なんでコールマンとノゲイラが悪いんですか！（笑）。

山口　クレは大阪の『真撃』を取材してないから知らないのか。ボンちゃんの大阪に住んでるお母さんとおばさんはな、凄い品のある人たちなんだよ。お金持ちで。ボンちゃんは25歳にして働くのは初めてでしょ。いろいろカマしてくれるから「お母さん。聞いてくださいよ！　コイツはFAXも送れないし、コピーも取れないんですよ」って言ったら、「秀ちゃん！（ボンの本名）それは覚えないかんなあ。部屋にFAX買って上げようか？　練習用に」だって（笑）。

クレ　ワハハハ！　練習用にFAXを買うんですか（笑）。ゼヒ編集部にも買ってもらいましょう（笑）。

山口　それで、おばさんが「でもそれは、ひょっとして会社のFAXの機械がおかしいちゃいますのん？　秀ちゃんは悪くない。きっとそれはFAXの機械が悪いんやなあ〜」だって（笑）。スゴイだろ！

ボン　そ、そんなスゴイですか？

クレ　ワハハハハ！　凄すぎます！

で、ノゲイラvsコールマンなんですけど（笑）。

ガンツ　元リングス勢もいい加減に、そろそろ勝てこの野郎！って感じですね。

クレ　リングスからの『PRIDE』移籍第1戦は現在3連敗中ですからね。

ガンツ　いままでね、黙ってましたけどね、リングスからスカウトするのはいいんでよ。それでマット界が面白くなるんだったら。でも、もったいない使い方しかしてないわけですよ。

山口　それはいきなり強い相手とやらせるんじゃなくて徐々に上げればいいのにっていうこと？

ガンツ　明らかに上げようとしてないマッチマイクが多いじゃないですか。

クレ　そういう意味で今回は、『PRIDE』王者のコールマンという相手ですから、一矢報いるチャンスでもありますよね。

山口　ノゲイラが勝てば『PRIDE』の頂点が崩されるわけだから、ノゲイラが勝った方が面白いんだよね。でも、はたしてお客さんは『PRIDE』vsリングスという見方をしてるんだろうか。

ガンツ　というか、『PRIDE』側はあまりリングスという名前を出さないようにしてますよね。

山口　まあ、コールマンにノゲイラを当てるというのはいいカードだと思うけどね。でもコールマンが勝てると踏んで『PRIDE』がマッチメイクしたとしたら、ノゲイラをナメすぎだと思うけどね。

チョロ　しかも7・20の新日札幌ドーム大会の永田戦のすぐあとですからね。やれんのかーッ！

山口　オーフレイムと一緒ではないよね、ノゲイラは。オーフレイムも強いけど、イザとなったときにの強さはノゲイラに方があるし、安定感はあるからね。

ガンツ　コールマンが永田と試合してるときに、ノゲイラは浜松の「バスコ・ダ・ガマ」の施設で必死のトレーニングをしてると思いますよ。ここでノゲイラがマーク・コールマンに負けるようであれば、一旦ブラジル柔術は時代の中で幕を下ろすということになりますからね。

山口　『PRIDE』の時代の中に高田の時代があり、桜庭の時代があって、それと並行してグレイシーという時代があったわけだよね。いまはマーク・コールマンに代表されるようなレスリング＋パワーのタイプが有利だと思われてるから、やっぱり時代vs時代だよね。それと、ノゲイラが勝てば、より『PRIDE』のリングは混沌としてくると思うんだよ。その混沌が『PRIDE』に何をもたらすかというのも見てみたい。

クレ　この一戦は時代の中での主導権を握る闘いというわけですね。

ガンツ　主導権を握るという意味で、ノゲイラに絶対勝ってもらいたいのは新ルールになってからの『PRIDE』のあのスタイル、本当にパワーの時代じゃないですか。これからラリアット・プロレスみたいなバーリトゥードになってくるわけですよ。最終的には抑え込んで顔面パンチで勝つより、一本極めて勝つ方を日本人は望んでいますからね。

山口　柔よく剛を制すだね。

ガンツ　そっちの方が尊敬しますからね。ヒクソンがいままで生きながらたのは、いままでの試合で常に一本勝ちをしてるからですからね。

山口　桜庭もそうだよね。

クレ　桜庭はホイスには一本勝ちしてないですよ。

山口　そういうくだらないツッコミを

石澤常光・真夏の復讐劇

仮面の告白 **石澤常光**

最狂のグレイシー **ハイアン・グレイシー**

ハイアンの狂拳か!？　石澤の執念か!？　一年の時は経て新日本VSグレイシーがまたもや激突する！　石澤にとっては新日本の看板を背負うというより、男としてのケジメの一戦と言える。終了のゴングが打ちならされたとき、まだ見ぬ石澤常光のリアルな姿が映し出される！

ハイアンの狂気の前に散った『PRIDE.10』。この1年、果たして石澤に〝溜め〟はあったのか？　それは爆発するのか!?

入れるんじゃないよ、おまえは！　ホントに帰るぞ！（怒）。
クレ　ち、ちょっと待ってくださいッ！　もう一つの目玉カードである石澤vsハイアンを語ってもらわないと！

石澤は佐山になれるのかッ！

ガンツ　ボンちゃん、石澤vsハイアンは盛り上がってるの？
ボン　メチャクチャ盛り上がってますよ～。ボクが現役で一番好きな日本人と外人の選手が石澤とハイアンなんですよ。
ガンツ　ハイアンが一番！（笑）。石澤は良しとして、なんでハイアンが一番好きなの？（笑）。
ボン　ハイアンって、ブラジルのコーヒー園でコーヒー豆を運んでいたころの猪木さんの目をしてるんですよ……。
【一同沈黙】
ボン　し、してないですか？
ガンツ　いや～、ブラジル時代の猪木さんを見たことないからわかんないよ（笑）。
山口　ボンちゃんは猪木さんを冒涜してるとしか思えないね（笑）。
ボン　い、猪木さんとハイアンは同じハングリーな目をしているんですよ。
山口　あのね、猪木さんの名誉のために言っておくけど、ハングリーとキ○ガイは違うんだよ！　猪木さんはキ○ガイなの！
チョロ　その発言も冒涜してると思うんですけど（笑）。ボンちゃんはそんなに石澤戦がインパクトがあったの？
ボン　試合自体は別になかったですけどね。ハイアンのテーマ曲が小柳ゆきだったじゃないですか？
山口　は？　何？（笑）。
ボン　小柳ゆきの曲が西武ドームにハマってたんですよォ。去年の『PRIDE.10』の印象は小柳ゆきしかないんですよ。だから、いまでもあの曲を聴く度にジーンときちゃうんですよね……。
【一同沈黙】
チョロ　さすがターザンに憧れて上京してきたことはある！　このわけのわからなさはターザンになれますよ（笑）。
山口　ガハハハハ！　2代目ターザンはキミだ、ボンちゃん！（笑）。
ボン　大阪から石澤のテーマ曲の「スカイウォーク」を聞きにいったというのもあったんですよねェ。
山口　おまえ、さてはプロレスファンだな（笑）。オレはプロレスファンじゃないから、その気持ちはわからない（笑）。石澤があんな負け方して新日本ファンは落ち込んだの？
ボン　落ち込んだっていうか、石澤に男性ファンはあまりいないんですよ。
山口　ガハハハハ！　全然答えになってねえよ！（笑）。
チョロ　サスケ社長は石澤が素顔で出てきたことを「マイナス100点！」って言ってましたけどね（笑）。「マスクマンのプライドはないのか！　マスクマンとしてプライドがあるならバーリトゥードでもデメリットはないはずだ。素顔のときより後ろはよく見える！」って言ってましたけどね（笑）。
山口　ガハハハハ！　そこでデメリットはないはずだって言えるサスケは素晴らしいな（笑）。でも、石澤は勝てるだろう。どれくらい石澤に極めの技術があるのかわからないけど、打撃さえ克服出来れば勝てると思うよ。
ガンツ　これだけ強い選手が出てきてる中で、ハイアンは負けちゃいけない選手のレベルですからね。
山口　だからさ、石澤という素晴らしい素材を活かしきれなかった90年代の新日本プロレスの責任はデカイと思うよ。馳は小泉首相に付いて、演説してる場合じゃないよ（笑）。長州と馳が、プロレスと格闘技を、新日本には悪い意味で切り離したんだから。せっかくレスリングの技術を持っていても活かしきれない体制を取っていたら意味がないよ。
ガンツ　去年の新日本自体、石澤vsハイアンをなかったことにしてますからね。それで、明らかに石澤の扱いが下がったじゃないですか。
クレ　すぐ後の高岩戦やドームでの飯塚戦がそうでしたね。

石澤を活かしきれなかった90年代新日本の責任はデカイよ（山口）

山口　だから、今回の石澤には、そういう裏に溜めてる情念が見たいよね。
ガンツ　マーク・コステロに負けた佐山聡の気分になってるいるかどうかですよね。コステロに負けて、全部佐山のせいにされて。あんなのに負けやがってって猪木さんまで激怒しちゃって（笑）。でもあれは佐山にしか出来なかった凄いことだったんですけどね。
山口　だいぶ以前、佐山に「あの一戦が格闘技に向くきっかけになったんですか？」って聞いたことがあって、佐山は「全然そんなことないで～す。それより前からですよぉ。押忍！」って言ってたけど、絶対その敗戦は佐山にとってバネになったはずだよね。石澤も相当悔しいはずだしさ。カシンでは出せない〝表情〟を見たいよね。表情っていうのは、額面通りの表情って意味だけじゃなくて、内

打撃！　打撃！　打撃三昧！

リアル「空手バカ一代」
佐竹雅昭
VS
北の最終兵器
イゴール・ボブチャンチン

佐竹が遂に総合のリングで爆発？　『PRIDE』ストライカー最高峰ボブチャンチンに闘いを挑む！　佐竹の総合集大成でもあり、崖っぷちでもある運命の闘い！　「ロシアンフック」か!?　「ジャパニーズ・アッパー」か!?　なんでもいいから、凄い打撃を見せてくれ！

『PRIDE.13』の安田戦では体格に圧倒され消化不良の1戦となった佐竹。今回は思う存分、殴り合える相手だ。

石澤にはカシンでは出せない悔しい〝表情〟が見たいよね（山口）

面から滲みでるものとか、試合に出る〝表情〟を見たい。

ガンツ 石澤のこれからの方向が決定するんじゃないですか？

山口 だから安易にハイアンへのリベンジがどうのこうのっていう視点で見る闘いではないんだよね。

ガンツ リベンジなんて言ったらキリがないですからね。

山口 石澤が去年の自分自身に対してのリベンジするというならならわかるけどね。石澤は、ハイアン戦では自分自信に裏切られた感覚があると思うんだよ。想像だけど。

ガンツ レスラーが柔術家にタックルを決められたわけですからね。石澤常光というレスラーを全否定されたわけじゃないですか。

山口 その裏切った自分を、今度は逆にいい意味で裏切ることが出来るかどうかだよ。

ガンツ ここで負けたら石澤常光っていうレスラーが終わっちゃうワケですからね。

山口 さっきの桜庭といい、柔術といい、何でも終わらせちゃうな、おまえは（笑）。さっきも言ったけど、それでも終われないのがプロレスラーなんだよ。石澤が今後、単なる『PRIDE』戦士になるのであれば終われるけどね。〝プロレスラー〟っていうのは〝生き様〟を闘いを通して見せていく職業だから。ボンちゃんは石澤に勝ってほしい？

ボン いや、ハイアンにも勝ってほしいです。ボクはこの一戦に勝ち負けは求めてないんですよ。

山口 はぁ（笑）。

ボン でも一回負けてるだけに喜んだ石澤の顔を見てみたいですね。

山口 ホント、ボンは恋愛感覚でプロレスを見てるよなぁ。プロレスに恋してるね、キミは（笑）。やっぱりファンとして見てたら大声援を送るの？

ボン 声は出さないですね。……嗚咽は出ますけど。

チョロ お、嗚咽！（笑）。

山口 ガハハハ！ 面白い！。

ガンツ プロレスの会場で「オェッ！オェッ！」って出るんですね（笑）。

山口 ボンは週プロに入った方が良かったんじゃないか。〝愛モード〟も始めたみたいだし（笑）。

ボン ホントに今度の石澤 vs ハイアンでも嗚咽が出そうですよ。

山口 仕事で行くんだから、嗚咽なんかさせねえよ（笑）。

チョロ ボクは石澤には勝ってもらいたいんですけどね。昔は新日の若手で一番幻想感じてた選手なんで。

山口 ホントは石澤は猪木軍団として捉えた方が面白いんだけどね。影の猪木軍団というか。石澤も、どっこい猪木軍団だぜっていうのを見せてくれたら面白いんだけど。

ボン 去年はプロレスを背負って出ていったと思うんですよ。今年はどっちかというと、個人の闘いというか。

山口 去年の方が個人的な闘いでしょ。今年は石澤の〝プロレス観〟を背負った闘いだと思うよ。「目指すは地上最強のプロレス！ バーリトゥードだろうが、なんだろうが、どこだっていってやるぜ！」それがオレの考えている、本来の新日本の理念ですよ。長州や馳はなんて言うかは知らないけどね（笑）。

ガンツ 石澤が負けたら、新日本がやってるグローブを着けたチャンチャラおかしいプロレスが、さらにチャンチャラおかしくなりますからね。T2000とかBATTとかはいいんですけどね。猪木さんから続いている様な新日本を求めているのであれば重要な一戦ですね。

山口 だから、常にそういう気持ちを持ってれば、ふだん純プロレスの試合やっててもいいんだよね。みんな新日本一丸となって出てくればいいと思うよなぁ。前田日明がいま新日本にいたら、まっ先にセコンドについちゃうよ。「石澤、チ○ポ出せ！チ○ポ」って（笑）。

クレ それは山憲がヒクソンにネック・ロックを極めたときに言った、ステキなアドバイスですね（笑）。

山口 もっと腰を突き出せっていう意味のね（笑）。

チョロ 小川は藤田にジェラシー感じてるのがなんとなくわかるんですけど、石澤って誰にジェラシー感じてるんですかね？ 藤田なのか、それとも永田とかなのかな？

ボン ボ、ボクは家族に抱いてると思いますね。

山口 何を言ってるんだ、コイツは（笑）。

ボン 石澤は市長さんの息子さんなんですよ。それでプロレスをやってるいうことに引け目を感じていて、真剣勝負でも強いっていうのを家族に見せたいっていうがあると思うんですけど……。

ガンツ 思う？ 石澤が言ってたんじゃないんだ（笑）。

山口 それはコンプレックスだろ（笑）。でもそれを出すのが、いいプロレスなんだよ。ホント、石澤は崖っぷちだから本性出してほしいよね。

大山には乗れないんですよ！

クレ まあ背景は違うといえ、ボブチャンチン戦が決定した佐竹も追い込まれてますよね。

山口 佐竹はホント崖っぷちだよね。桜庭みたいに結果を出していればいいんだけど、佐竹の場合は結果が出てない割にいい扱いでしょ。もちろんK-1の中でやってきた役割を考えれば扱いが良くても当たり前の話なんだけど、もうそろそろ結果出さないとな。それは勝つってことだけじゃなくて、佐竹主軸でたとえ負けても記憶に残るような試合を見せてほしいね。

ガンツ 今回佐竹はハッキリ言って、ボブチャンチンに勝てると思いますよ。

山口 打ち合いになれば、勝てる可能性あるよね。迫力という点ではエンセンの打撃は迫力はあるけど、技術的な部分でいったら佐竹の方が全然上だからね。昔の佐竹はカッコよかったんだけどよ！ 佐竹をバカにする人がいるけどね、佐竹のやってきたマット界の中での役割は凄いよ。特攻隊長的にシュート試合をドンドンやってね。

ガンツ ジャンルを切り開いていった人ですよね。

山口 そういう意味では高田と被るんだよね。『PRIDE』に出ていった高田と、正道会館を背負って、リングスやいろんなところに出ていった佐

ヘンゾ欠場でイズマイウ参戦！

平成のエスペランサ
大山峻護

VS

グレイシーハンター
ヴァリッジ・イズマイウ

ヘンゾが負傷欠場で大山の相手は狂犬イズマイウに変更！ 柔術の技術もさることながら凶暴ファイトが売りなだけに、大山にこの変更はどうでるか!？ またもや試練の1戦！

『PRIDE』新旧世代闘争勃発

霊長類ヒト科最強
マーク・ケアー

VS

テキサスの荒馬
ヒース・ヒーリング

マーク・ケアーのリストラマッチ！ かつてウゴ、シカッテックをびびらせた怖いケアーが見たいんだ！ 面白くなくてもいいから凄ぇケアーを見せてくれ！

竹が。

クレ　高田、佐竹が切り開いていった道を、桜庭や大山（峻護）が歩いていってるんですね。

ガンツ　大山かぁ……。オレはイズマイウに勝ってもらいたいですね。

山口　イズマイウに。へぇ〜。それは何で？

ガンツ　イズマイウはアルティメットの衝撃を受けた初期の頃の選手ですから。一応思い入れはありますよね。イズマイウはボクの中では一応プロレス側なんですよ。

山口　プロレスの長い歴史の中の一員なわけね。

ガンツ　ええ、戦友ですから！

山口　ガハハハ！　おまえはイズマイウと戦友なんだ。イカれてるね（笑）。

ガンツ　イズマイウはプロレス界には貢献してますからね。パンクラスが船木vsヒクソンまで貯金があったのは、高橋（義生）がイズマイウに勝ったお陰ですからね。

チョロ　小路もイズマイウに勝ってからガンガン上がりましたからね。

山口　確か金ちゃん（金原弘光）は、高橋がやる前に、イズマイウとやる予定だったんだよな。キングダム時代に。

ガンツ　そうでしたね（笑）。あそこでイズマイウに勝っていたら、歴史が変わりましたね。ホント繋がりがあるんですよ。それを大山は「すぼると」の宣伝効果で、大歓声を浴びちゃってるんですからね。1ミリたりとも思い入れないですから！

山口　プロレスファン特有の屈折した見方だな（笑）。でも臼田（勝美）が貯金を無くしたのはイズマイウのせいだぞ（笑）。

チョロ　ウヒャヒャヒャ。でも、この前『KOTC』でシャノン・リッチに勝ったじゃないですか。

山口　確かに『PRIDE』が、これまでのプロレスの文脈とは違う、溜めがなくても結果が伴えば光れる場にしていこうとするのはわかるんだ。だけど結局はプロレスラーを出したり、他の場所で溜めのある人を出してるでしょ。大山って、溜めがない本当にポッと出って感じがするんでしょ。それが新鮮なんだけど、昔ながらのプロレスファンは乗れないんだろうなあっていうのはわかるね（笑）。

チョロ　『PRIDE』は日本人の新顔はあまり出てこないし、大山の試合は面白いし、いいと思いますけどね。シウバ戦も納得いってないみたいだし、今回もいい試合にはなるとは思いますよ。俺は大山派！

ガンツ　あのシウバとの睨み合いもちっとも乗れないんですよ。誰かが桜庭は目をそらしたから、おまえは睨み付けろって言ってるんじゃないかって感じがプンプンするんですよ。

山口　また屈折した見方するね、キミは（笑）。オレは大山っていう選手の臭気をあんまり感じないから、まだよくわからないんだよなぁ、魅力が。それが一般ファンに受けるって言うのはわかるんだけどね。

チョロ　自分は大山よりは、松井（大二郎）の上がり方の方が不思議ですね。

純白のリングを血で染まる！

K—1帰りの暴風雨
エベンゼール・フォンテス・ブラガ

VS

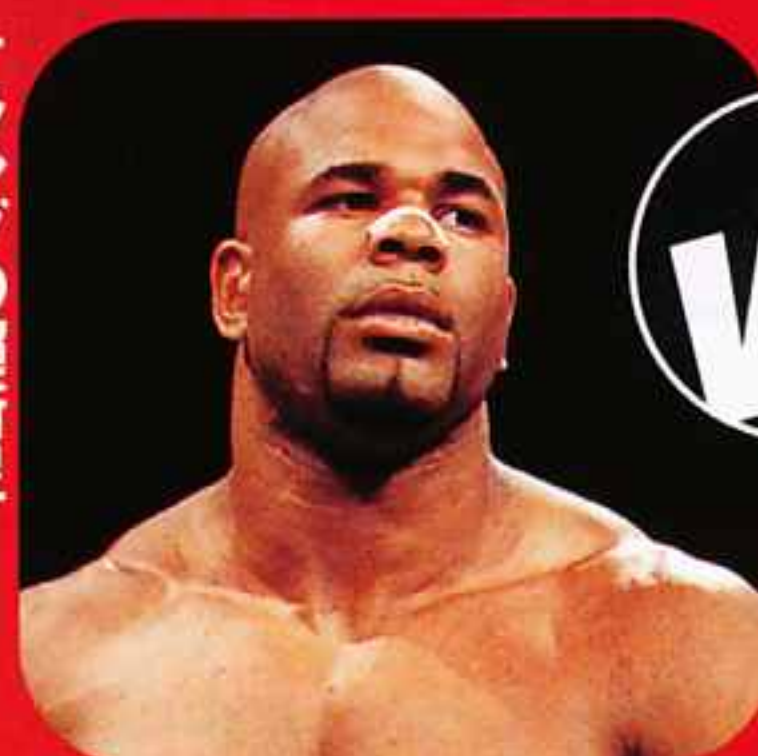
高田道場の特攻隊長
松井大二郎

またしても松井に狂敵が立ちはだかる！　シウバ戦を熱望する松井にとってシウバ並の凶暴さを持つブラガは仮想シウバにはピッタリ。ベレに続く大物喰いだ！

這い上がるのはどっちだ!?

アナザー・シウバ
アスエリオ・シウバ

VS

オランダの超新星
ヴァレンタイン・オーフレイム

シウバに続け！　あのシウバと同じ名前で、同じジムのアスエリオ・シウバが参戦！　強烈な打撃でヘビー級でもシウバ旋風を巻き起こす！

『PRIDE』に出たいのは自分の力以上のコロモを付けてくれるから（ガンツ）

山口　それはまたなぜ？

チョロ　こないだのベレ戦は確かにいい試合でしたけど、高田道場効果炸裂っていうか。『PRIDE』ではそんな結果は出してないのに、入場してきたけど爆発的な大歓声じゃないですか！　やっぱり高田道場は凄い！

山口　でも、松井は強い相手とやってきてるでしょ。

チョロ　そうなんですけどね。あんだけ大歓声浴びれるんであれば『PRIDE』に上がりたいっていう格闘家が、たくさんいるのもうなずけますね。『PRIDE』っていう場は凄いんだなあって改めて思いましたし。

山口　もはやブランドだからね。『PRIDE』は。

ガンツ　ズバリ言って『PRIDE』にみんなが上がりたいってなってるのは、上がればおいしいていうか、自分の力以上のコロモをつけてくれるからなんですよ！　普段陽の目をみない人ばかり見てるオレとしては『PRIDE』ベビーフェイス軍には全員負けてほしいぐらいなんですよ。世の中ひっくり返してやりたいですよ！（ドンッ）

山口　おまえは、ターザンか(笑)。そのベビーフェイス軍っていうのは何だよ(笑)。『PRIDE.15』でいうと桜庭、松井、大山、佐竹がそうなるの？

ガンツ　佐竹は逆なんですよね。ベビーはボブチャンチンですね！

山口　じゃあコールマン？

ガンツ　コールマンなんて『PRIDE・GP』で優勝する前なんか、終わったって言われてた選手ですよ。それに今度のコールマンvsノゲイラなんて、オーフレイム同様ノゲイラに、ビックリするほど歓声がないと思うんですよ。

山口　シーンとしちゃうの？（笑）。でも最近の『PRIDE』の雰囲気からすると、ガンツが思ってるほど歓声はなくはないと思うよ。

チョロ　歓声の大小はありますけど、思ってるよりは歓声はあると思いますけどね。

山口　いまの客は何でも騒ぐって（笑）。

『PRIDE.15』生け贄三人衆を見よ！

山口　でもさぁ、いまの『PRIDE』はみんなベビーフェイスだよね。

ガンツ　コールマンが新日の札幌ドームで永田に勝って『PRIDE.15』に上がったら、凄い歓声が上がりますよ。それがプロレスファン根性っていうか、リングス好きだった自分の日陰者根性に火がつきますよね〜。

山口　ガハハハハ！　確かに『PRIDE』にヒールがいないっていうのは気にかかるところだよね。最近は会場全体がどんなカードでも暖かいんだよね。

クレ　KRS時代の『PRIDE』は殺伐としてましたよね。格闘技側とプロレス側がせめぎ合っていて。

ガンツ　格闘技側がベビーフェイスでしたからね。プロレス側が生け贄になっているというか。だから燃えたんですよ。

山口　桜庭対グレイシーでは、グレ

『PRIDE』に喰い物にされそうな選手には勝ってもらいたい（ガンツ）

イシーがヒールになってたけどね。いまの『PRIDE』って、ヒールっている?

クレ シウバはちょっと違いますよね。

山口 シウバは桜庭に勝ったから可能性はあるよね。また桜庭とやったら間違いなくヒールになれるけど、でも相手次第だね。シウバは、相手次第ではいまでもベビーフェイスになるでしょ。憎たらしいくらいの強さは感じないもんね。

チョロ いまは、つまらない試合する人がヒール扱いされるぐらいですよね。

山口 格闘技の世界ではヒールを作りづらいっていうのはあるんだけど。KRS時代であるとか、桜庭vsグレイシーなんかは、ヒールがいたからだから面白いってところもあったわけだから。それは自然と出来てくるものだとは思うんだけど、いまの状況では生まれにくいかなぁ。K−1状態だから。

ガンツ まずヒールは見る側が作りますよね。だいたいバーリ・トゥードが、どっちもガンバレになったらおしまいですからね。

山口 いま、『PRIDE』でヒールになれるといったらは前田日明くらいしかいないんだろうな。禁煙なのに葉巻くわえてリングに上がって（笑）。「プロレスラーは帰れッ!」とか「暴力王」とか「ニセ格闘王!」とか言われてモノが飛んだりして（笑）。

チョロ 最近は太り気味なんで、「相撲じゃねえんだぞーッ!」とか（笑）。

山口 試合しなくてもいいから、前田には『PRIDE』に上がってもらいたい（笑）。猪木さんなんかもスーパーヒールになれる可能性があるんだけどね。「猪木は帰れッ!」とか言われて、それによって燃えさかる闘魂が見たいよね（笑）。そうなったらきっと我々の想像を超えたことをしてくれるでしょう（笑）。ホント、『PRIDE』にヒールがほしいよなあ。

ガンツ ヒールとはちょっと違いますけど、元リングス勢って外様扱いなんですよ。リングス勢にだけに冷たいんですよ! これがまた燃えますね〜。

山口 ガハハハハ! 日陰者根性を持つガンツとしてはたまらないと（笑）。でも、去年の石澤には外様とか生け贄って感じがあったけど、今年はそれを感じないでしょう。だから、イマイチ石澤vsハイアンに熱がこもらないのかもしれない。

ガンツ もし田村なんか上がったら、絶対ベビーフェイスでなんか迎え入れられるわけないですからね。外様とか生け贄ですよ。だから田村が『PRIDE』に出たら燃えますよ!

山口 『PRIDE』側が生け贄にしてやるというのがそこはかとなく見えた選手の試合は面白いよね。小川なんかもそうだしさ。

ガンツ もうねえ、記者会見なんかで森下社長と一緒に並んでる方々は嫌いなんですよね!

山口 ガハハハハ! 確かに『PRIDE』に冷遇されてる人に熱を持って見た方が面白いかもなぁ。

ガンツ 冷遇もなにもないですよ! オーフレイムの相手のアスエリオ・シウバなんて、ヴァンダレイ・シウバと同じ名前で同じジムなだけで、きっと「すぽると」に出て会場人気が出るんですよ! 5年間日本で頑張ってきたオーフレイムの立場はどうなるんだって!

山口 ガハハハハ! 今日は日陰者根性爆発だね、おまえ（笑）。

ガンツ ホント『PRIDE』に喰い物にされそうな選手には絶対に勝ってもらいたいですね! だから今回の『PRIDE.15』の見どころは、イズマイウ、オーフレイム、ノゲイラの生け贄3人衆ですよ! この3人が『PRIDE』ベビーフェイス軍団の生け贄になるかどうか!? それだけですね!

山口 どうだい、ボンちゃん。

ボン い、いやぁ、ボクは石澤vsハイアンしか興味がないですからぁ。

山口 それはボンちゃんに興味を抱かすカードを組まない『PRIDE.15』が悪いんやなぁ〜。ってそんなわけねえだろッ!

ガンツ とにかくボクは、イズマイウ、オーフレイム、ノゲイラで燃えますよォォォォ!（ターザン調に大炎上）。

【ダブルクロス編集部にて】

燃えろ!『PRIDE.15』超直前座談会

燃えろ!『PRIDE.15』『紙プロ』愛の瞬間勝敗予想

勝敗コメント	山口日昇	松澤チョロ	堀江ガンツ	クレ斉藤	片山ぼん
サクvsホームレス	桜庭一本勝ち（ゆりかもめがホントに炸裂!）	ホームレス（ボクもバスに住ませて）	桜庭一本勝ち（ヒザ十字）	桜庭一本勝ち（腕ひしぎ）	桜庭一本勝ち（新関節技により）
コールマンvsノゲイラ	ノゲイラ一本勝ち（下からの逆十字で勝利）	ノゲイラ一本勝ち（足関）	ノゲイラ一本勝ち（腕十字）	コールマン試合放棄（ノゲイラのテーマ曲に驚いたため）	コールマン一本勝ち（フロントチョーク）
石澤vsハイアン	石澤TKO勝ち（上四方からのヒザ）	石澤一本勝ち（三角絞め）	石澤一本勝ち（フロントチョーク）	石澤・ワキ固め（木戸が引退するため）	石澤判定勝ち
佐竹vsボブチャンチン	佐竹KO勝ち!（カウンターの右フック）	ボブ判定（その後猪木軍団入り・vsK−1）	佐竹判定	佐竹KO勝ち（変な名前の蹴り技で）	佐竹判定勝ち
大山vsイズマイウ	イズマイウKO勝ち（打撃戦で大山沈む）	大山KO勝ち（右フック）	イズマイウ1本勝ち（チョークスリーパー）	大山反則勝ち（イズマイウの噛みつきにより）	イズマイウ判定勝ち
ヒーリングvsケアー	ヒーリング・チョーク（霊長類最強スタミナ切れ）	ヒーリング（打撃によるレフェリーストップ）	ケアー判定	ヒーリング（テキサスクローバー固め）	ヒーリングKO勝ち（パンチ）
松井vsブラガ	ブラガ判定勝ち（松井粘るが決め手なし）	ブラガ判定（その後猪木軍団入りvsK−1）	松井判定	ブラガKO勝ち（寝てる松井にフッドスタンプ）	松井1本勝ち（腕ひしぎ十字）
オーフレイムvsシウバ	オーフレイムKO勝ち（第2のシウバはたぶん弱い）	シウバTKO（打撃による流血ドクターストップ）	オーフレイム（パワーアキレス）	オーフレイム（散々痛ぶり判定勝ち）	シウバKO勝ち（ハイキック）

『PRIDE.15』

【日時場所】7月29日（日）さいたまスーパーアリーナ

【試合開始】16:00〜（開場14:00）

【アクセス】JR高崎線・宇都宮線・京浜東北線さいたま新都心駅より徒歩にて3分・JR埼京線北与野駅から徒歩にて7分

【チケット】VIP/¥100,000　RRS/¥23,000　スタンドS/¥13,000　スタンドA/¥7000

【お問い合わせ】DSE　tel.03-5775-5700

8.11 有明コロシアム
リングス10周年記念興行
見どころ大分析座談会
遂に開催される「リングス旗揚げ10周年記念興行」。今回も粒ぞろいの好カードがずらりと並んだが、リングスが放つ光は『PRIDE』のようなギラギラ太陽の光ではなく、夜空に静かに光る月のようなもの。今回はその月光の美しさを、月見酒が大好きな編集部の野郎どもが語り倒します！
賞金総額10万円！
8.11 有明観戦記
大募集!!
詳しくはP93へ！
8.11 リングス 有明コロシアム
金原弘光の
月光を見よ！
構成／堀江ガンツ
designed by さおとめの事務所
89

ヘイズマンが優勝したら、それは リングスネットワーク10年の勝利

山口　さぁ！　とうとうリングスが10周年を迎えたね。
ガンツ　実に感慨深いですね（笑）。
山口　知ってた？『紙プロ』とリングスってのは同級生なんだよ。『紙プロ』発足もリングス発足も、いまは無きUインターも全部91年にスタートしてるんだよ。
チョロ　W★INGもそうですよね。
山口　（無視して）『紙プロ』は91年10月だったかに第1号出したんだよ。いまの読者は知らないと思うけど、ちっちゃい判型で。そっから紆余曲折いろいろあったんだよなぁ……と、遠くを見つめる山口日昇であった、って感じだね（笑）。
ガンツ　リングスも10年間でいろいろありましたよね。
山口　いま現在もいろいろあるよね。また「前田恐喝」とか東スポにデカデカと出てるし（笑）。
ガンツ　記事がデカい割には「フィルム抜き取り事件」って、えらくミニマムな事件だったりするんですけどね（笑）。
山口　まぁ、ウチもどんなに前田日明が怖くとも、前田日明に屈せずにやっていこう！（笑）。
チョロ　まぁちょくちょく離脱者は出るかもしれないですけどね（笑）。
山口　ガハハハ！　困ったもんでウチもリングスに負けず劣らず離脱者は多いからね（笑）。じゃ、各人それぞれ、記念すべきリングス10周年大会の見どころを語ってってもらおう。まずは、新人のボンちゃんから！
ガンツ　お、破格の扱いですねぇ〜。
山口　いや、大阪に行ったとき、またお母さんたちにお世話になるから（笑）。
ボン　ぼ、ボクですか。ボクはヴォルク・ハンvs藤原喜明にしか目がいかないんですよ。
チョロ　あらっ。
ガンツ　エキシビジョンにしか目が行かないというのも失礼な話だな（笑）。またしても地味な強豪とメインで当たる金ちゃん（金原弘光）の立場はどうなるんだ！
山口　また金ちゃんがボヤくよ（笑）。
ボン　大阪に住んでたファンの時でも、これならエキシビジョンマッチの時のために有明行ってますね。10万払ってでも惜しくないです。
チョロ　ホ、ホントかよ！　そんな金あるなら、俺にくれ！
山口　そりゃまた何でなの？　たしかにいいカードなんだけど。エキシビジョンだし、しかも旬を過ぎた選手同士の闘いでしょ。6・15の文体でスペシャルマッチとして発表された後にも、共同会見で前田日明がわざわざ言い直してたじゃない。「あれはね、スペシャルマッチって発表するほど、スペシャルじゃないよ！」って（笑）。
ガンツ　「笑い起きてたやんけ」（笑）。
山口　「だから言うたやろ！」って広報に向かって言ってたもんね（笑）。そんなカードでも観たいっていうのはそりゃなんで？　ヴォルク・ハンがリングスの象徴っていう部分があるの？
ボン　そうですね、この試合にしかリングス10周年を感じれないんですよ。
ガンツ　エキシビジョンにしか感じられないリングスらしさってどんな10年間だったんだ（笑）。
ボン　でも、この試合が一番盛り上がるんじゃないですか？
山口　これが一番盛り上がったら、それはそれで問題があるよ（笑）。
チョロ　でも、こういうファンがいるならマッチメークしたかいありましたね。
ガンツ　まぁ、ワタクシがリングス番として、この試合の見どころを言うなら、エキシビジョンの中に"闘い"を見ろ、ということですね。
山口　ほぉ〜。さすがリングスの忘年会で毎年必ず酔っぱらって、その後会社で、みんなに迷惑かけるだけあるね。教えてもらいましょう。
ガンツ　この二人はプロとして腕一本とるだけで大観衆を沸かせる自信があると思うんですよ。例えば、ヴォルク・ハンがスタンドのアームロックでワーッと盛り上げたら組長はそれ以上に鮮やかに腕を取らなきゃ引き下がれねぇなと。そういう職人同士の意地の張り合いが見られると思うんですよ。これもひとつの"闘い"ですからね。
山口　うん、単なる模範演舞じゃない、そういう意地の張り合いなら見たいな。でも、10周年だから当たり前だけど、紆余曲折を経て、旗揚げ当初からは、かなりリングスは変わってるわけでしょ？　ルール的にもKOKルールに移行したリングス10周年の目玉は何？　ガンツ！　ここもまず、リングス番のキミに語ってもらおうか（笑）。
ガンツ　そりゃあミドル級とヘビー級王者を決めるトーナメントですよ！
山口　それは誰だってわかるだろ（笑）。
ガンツ　そのすごさがちっとも伝わってないのが毎度のことながら問題なんですけどね（笑）。これなんて第一次UWFからの流れで見ると、「思えば遠くにきたもんだ」って気持ちになりますよ。剛竜馬とかラッシャー（木村）とかマッハ隼人とか、あのへんのコク深い強者たちがやってたものが、グスタボ・シムなんてのにまで辿りついたという（笑）。
山口　第一次はともかく、第二次UWFの時は総合格闘技っていう言葉を前田が広めて、それと平行して佐山聡の修斗というものも、紆余曲折を経ながら成長して、総合が脚光をあびてると。で、UWFが太陽だとしたら、修斗は月だったんだよ。で、いまこの10周年で、ようやくUWF的なものと、修斗的なもの、つまり太陽と月が邂逅した、月食のような興行なんですよーーーッ！　マット界の月食を見なかったら、ハッキリ言ってそいつはアホだ！　それだけで遅れを取ってますよォォ
ガンツ　会長（山口日昇のアダ名）、すっかりターザンになってますよ（笑）。
山口　ガハハハ！　でもこれで真の総合のタイトルとランキングをつくるっていうのは、リングスが大きくなっていくための足掛かりにはなるの？
ガンツ　ランカーは途中からどんどんいなくなってしまうという問題もあるんですが（笑）
チョロ　空位、空位、空位！（笑）。
ガンツ　そういう危険性もはらんだ、いま見なきゃしょうがないという刹那的な部分もありますから（笑）。
山口　いまリングスの場合、実績を積んだり、人気が出た選手は『PRIDE』に出ちゃうっていう現象が起きてるけども、逆にファンもスカウトの目で見ればいいんじゃない？（笑）。
チョロ　だからこれは『PRIDE』スカウトキャラバンじゃなくて、『スター誕生』！
山口　ダイヤモンドはここにいるぜっていう目で見りゃいいんだよ。
チョロ　最初からもう各事務所スカウトの皆さんの席を用意したらいいんですよ！（笑）。
ガンツ　スカウトって……ブッカーKさんや、ブッカーUさんの席を用意するわけですか？（笑）。
山口　ガハハハ！　それはある意味、10周年に相応しいゲストだね（笑）……やめた。これ以上調子に乗ると、また前田総帥に怒られる。前号の「前田日明座談会は是か非か座談会」は怒られたから（笑）。
ガンツ　それはいいとして、この辺りで予想でも一発してみますか。
山口　まぁミドル級だとやっぱり優勝候補筆頭はアブダビ2階級制覇のアローナだよね。
チョロ　ヘビー級の優勝候補に上がってもおかしくないですよね。
山口　で、一回戦で組まれているジェレミー対アローナが事実の決勝戦だよね。
ガンツ　そして勝った方が晴れて『PRIDE』行き！（笑）。
山口　おまえ、知らないよ、ホントに（笑）。
チョロ　でも、リングスファンとしたら、事実上の決勝戦といわれるジェレミー対アローナの勝者が優勝するのは阻止したいところですよね。
山口　リングスファンとしてはやっぱりヘイズマンになるわけ？
ガンツ　そうですね。ヘイズマンって金ちゃんみたいなもんなんですよ。
山口　オーストラリアの金ちゃん（笑）。

WORLD TITLE SERIES
～旗揚げ10周年記念特別興業～
世界の強豪大集結!!
でもよく知らないかたのためにこっそりおしえちゃいま～す！

事実上の決勝戦！

ジェレミー・ホーン vs ヒカルド・アローナ

ジェレミー・ホーン（リングス・USA）
ティト・オーティズが持つUFCライトヘビー級王座への挑戦も噂されるアメリカNHBのトップファイター。

ヒカルド・アローナ（ブラジリアン・トップチーム）
1回戦で金原を破った優勝候補筆頭。ミドル級なのに、アブダビでは無差別でも優勝するなど、そのパワーは驚異。

ヘイズマン、再度ブラジル狩り！

グスタボ・シム vs クリストファー・ヘイズマン

グスタボ・シム（ファス・バーリ・トゥード）
1回戦で、あの田村潔司を完封したファスVTの新鋭。その打撃は今大会ナンバー1か。

クリストファー・ヘイズマン（リングス・オーストラリア）
一回戦でカレコに一本勝ち、KOKでは柔術世界王者バヘートを破った“柔術キラー”。苦労人の初戴冠なるか。

MIDLE WEIGHT
KOKの日本人最高位であるベスト4進出経験を持つ金原と田村が、揃って1回戦負けしてしまうほどのレベルを誇るミドル級。注目はアブダビ・コンバット2階級制覇という偉業を成し遂げた、寝技最強のアローナを誰が止めるか。ジェレミーとの一戦は格闘技史に残る名勝負となる可能性大。ヘイズマンの大ブレイクにも期待だ。

ダスタボ・ジム
クリストファー・ヘイズマン
ヒカルド・アローナ
ジェレミー・ホーン

KOCK王者vsV・ハン格闘術

ボビー・ホフマン vs イリューヒン・ミーシャ

ボビー・ホフマン（ミレティッチ・ファイティング・システム）
格闘技界屈指のハードパンチャー。6・25にキング・オブ・ザ・ケージヘビー級王者になるなど絶好調。

イリューヒン・ミーシャ（リングス・ロシア）
ヴォルク・ハン格闘術の重鎮。長年、リングスのポリスマンを努めてきた実力者に春は訪れるか？

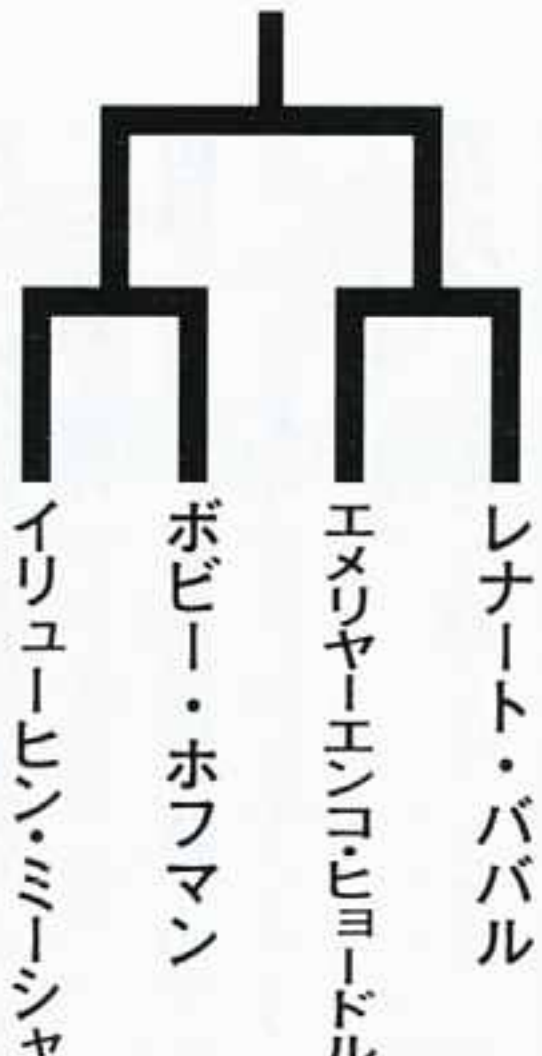
新「ブラジルvsロシア」頂上対決

レナート・ババル vs エメリヤーエンコ・ヒョードル

レナート・ババル（リングス・ブラジル）
金原、TK、田村のすべてに判定勝ちした、判定のリングス・ジャパンキラー。その実力は本物。

エメリヤーエンコ・ヒョードル（リングス・ロシア）
ヴォルク・ハン格闘術を代表するロシアの新エース。世界最強の男となれる超逸材がその実力を満天下に示すか？

HEAVY WEIGHT
ロシアvsブラジルの新世代頂上対決がいきなり組まれたヘビー級。あのアローナをも破ったヒョードルが、ババルとどんな闘いを見せるか。両者ともに立って良し、寝て良しのタイプだけに、ヘビー級とは思えない技術戦になるか。『PRIDE』と提携しているKOTC王者となったホフマンの闘いぶりにも注目。

レナート・ババル
エメリヤーエンコ・ヒョードル
ボビー・ホフマン
イリューヒン・ミーシャ

ガンツ　こう言ってしまうと金ちゃんに失礼なんですけども、いわゆる昔からのリングスファンにとっては金ちゃんは外様だし、ヤマノリ、TK、田村なんかよりは、思い入れがなかったんですよ。

山口　スター性もないしね（笑）。

ガンツ　そういうこと言わない！（笑）。

山口　いや、実際ひと昔前だったらスター性はないでしょ。

ガンツ　それが腕一本でのし上がって、いまやリングスファンの心のよりどころですからね。同じようにヘイズマンなんていうのも、ずっとリングスの前座にいたのが、いつの間にか気づいたらルタ王者の（アレシャンドリ・）カレコから一本取っちゃったり、カーロス・バヘットみたいなヘビー級の柔術世界チャンピオンに勝っちゃうぐらいの強者になってたんですよ！

山口　いつの間にかグラウンドも上達してるしね。

ガンツ　離脱者が続出したリングスのファンの心を勝利で癒して、いつの間にか思い入れを抱ける選手になってるんですよ。

山口　金ちゃんにしてもヘイズマンにしても実力で今の地位を勝ち取ったっていうのは時代の変遷を考える上で重要なことだよね。

ガンツ　リングスが見つけてきて、リングスネットワーク内で育ってきたヘイズマンが、ブラジルが生んだ世界最高の寝技師・アローナや、アメリカのNHBのトップであるジェレミー・ホーンを上回って、もし優勝するようなことがあったら、これこそリングス・ネットワークの10年間が勝利したということですよ！

山口　マニア的に見ればそういうことかもしれないね。それプラス、リングスというのはプロレスの流れを汲む団体だから、ガチガチの格闘技マニアからしてみると「どうせプロレスあがりの団体じゃん」みたいな目でみられてる部分もあったわけでしょ。プロレスを親として生まれた団体の、プロレスから育った金ちゃんとか、リングス・スタイルから育ったヘイズマンがこれだけやれるっていうのは、UWFがやってきたことの、ひとつの証明でもあるからね。

ガンツ　そう、プロレスの勝利でもあるわけですよ！　だからこそ応援のしがいがあるんですよ。ヘビー級のほうも、リングスネットワークの中ではミーシャとヒョードルが残ってますしね。あとまぁ、いちおう「リングス・ブラジル」って肩書きがあるレナート・ババルがいますけどね（笑）。

山口　でも、ババルも『PRIDE』行きそうだもんなぁ。

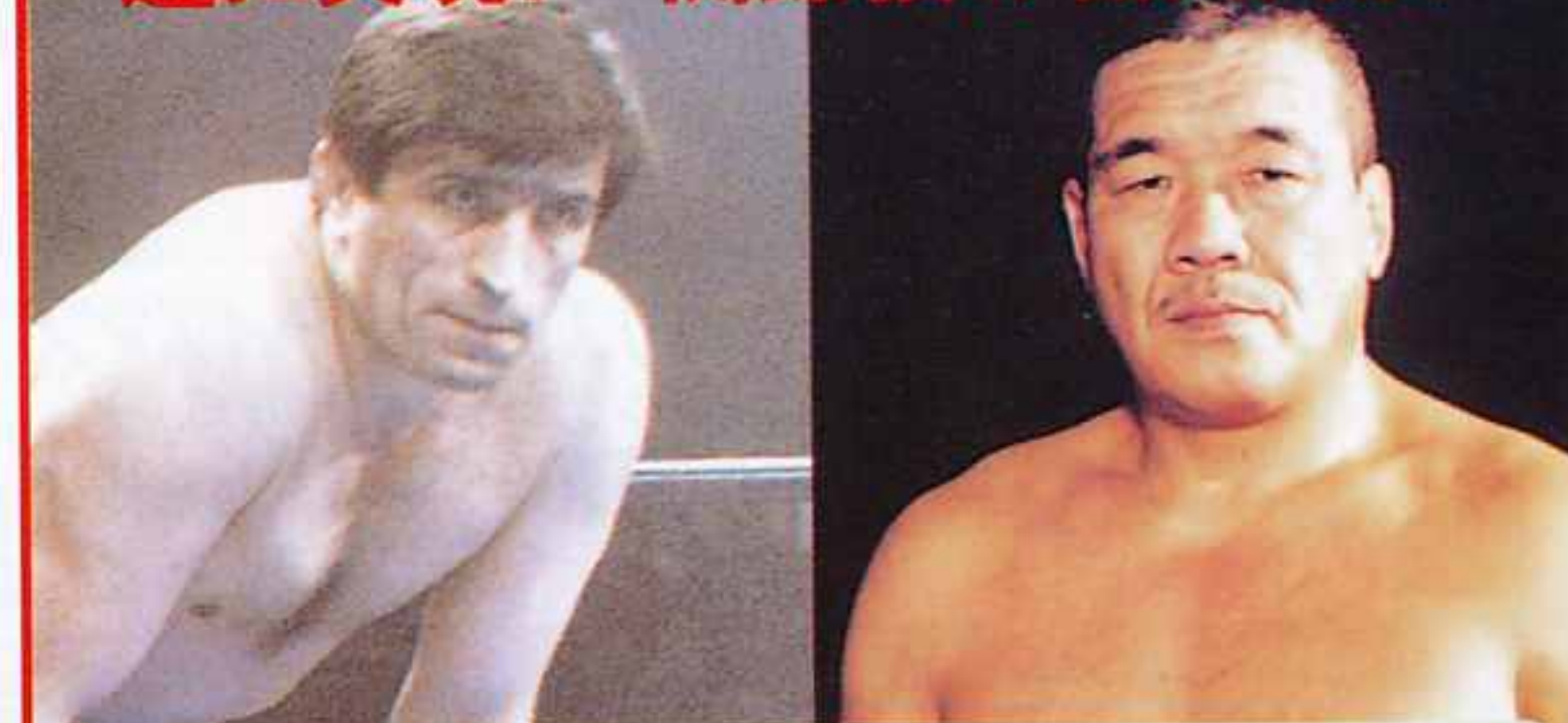
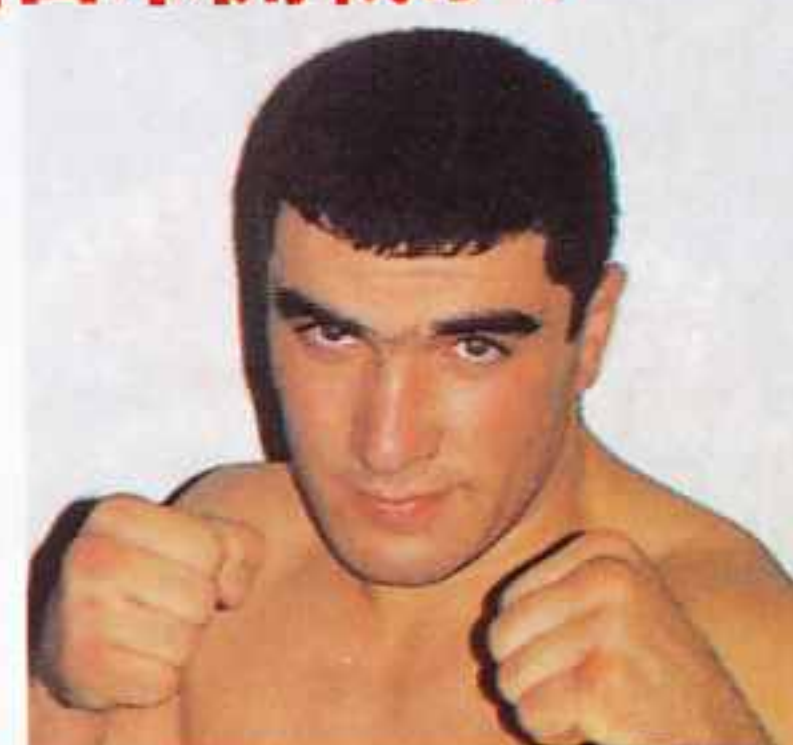
ガンツ　だからそういうこと言わない！（笑）。

山口　いや、雰囲気として（笑）。で、どうなの？　ヘビー級は。

ガンツ　そうですねぇ。やっぱりロシアですよ！　このヒョードルっていう選手もリングスならではの選手なんですよ。いわゆるいまのバーリトゥード文脈とは全く違うところから出てきた選手で、それでいてヘビー級トップとして闘える逸材。こういう選手を発掘できるのはリングスだけですね。

山口　去年やったヒョードルvsアローナを見てても、お互いの出身母体にスタンスを置いた、リアル異種格闘技戦という趣があるから面白いよね。

ガンツ　また面白いのが、ロシア側がブラジルを過剰に意識しているじゃな

リングスVS新日本は最終的に犬軍団VS狼軍団の全面対抗戦になる!

いですか。おそらく、この試合はハンが次に試合が控えているにも関わらず、セコンドとして大騒ぎするに決まってるんですよ!(笑)

山口　ガハハハ!　ハンはいつも燃えてるもんなぁ、セコンドに付いたら。このロシア勢の気骨の持ち方っていうのは、何回も言ってるけど、やっぱり我々が描く〝プロレスラー〟に求めているもの、そのものだよね。とにかく相手の土俵であろうが何だろうが、「倒しにいこう」っていう気迫が見えるからね。前田とロシア勢の気が合うっていうのはよくわかるよね。猪木さんじゃないけど「後継者は日本人じゃなくてもいいんです」っていう部分で、ヒョードルなんか前田イズムの後継者として、非常に注目していい選手だと思うんだよね。

ガンツ　「私は前田の兵隊だ」と言っているハンの弟子が、リングスを継ぐ者になるというストーリーも素晴らしいですよ(笑)。

山口　ホント前田とロシア勢の関係っていうのも素敵なんだよなぁ。

ガンツ　ボクなんか、前田が司令塔になってリングス・ロシアが丸ごと『PRIDE』に殴りこんでほしいぐらいですから(笑)。

山口　前田軍団として(笑)。

ガンツ　おそらく日本国民でリングスファンぐらいですよ、こんなにロシアに好感情抱いてるのは(笑)。

山口　かもね(笑)。

ガンツ　リングスっていうのは、前田が日本人選手離脱について聞かれたときに、「ジャパンなんて、8カ国のリングスネットワークの8分の1にすぎないんだよ」って言っていたように、ネットワーク全体が〝日本陣営〟みたいなもんなんですよ。だから気持ち的にヒョードルもミーシャもヘイズマンも「リングス」っていう国籍を持った同士で、その選手がブラジルやアメリカの選手と対抗戦をするから燃えるんですよ。

山口　そう見ると熱く見られるわけだ?

ガンツ　そうです!　頑張れ、リングス・ネットワークですよ!

山口　よし、次!　チョロが感じる10周年大会の見どころは?

チョロ　10周年を機に、これも賛否両論あるんでしょうけど、苦肉の策なのかなんなのか、新日本プロレスとの交流が始まりそうですよね。その一発目がヴォルク・アターエフ対新日本選手っていうのが、思い切ったというか、非常に楽しみですよね。

山口　でも新日本の選手でKOKルールできる選手いるの?

チョロ　やっぱりここは特訓している健介や、負傷欠場している飯塚だ、カシンだ、安田だ、ということになると思うんですけど。

山口　それと小原の名前も上がってるよね。新日のテレビ中継見てたら、7・20の安田戦に向けて、小原は「俺がバーリトゥードの闘いを教えてやる」って吠えてたよ。

ガンツ　ゼヒ、教えてほしいですね。ウチで「小原道由のバーリトゥード講座」をやってもらいましょうか(笑)。

チョロ　だから小原が出てきたら、狼対犬!　最終的には犬軍団対狼軍団の全面対抗戦になりますよ!

山口　ガハハハ!　ただ、KOKっていうのは高度だから、新日本の選手が弱い云々じゃなくて、このルールは大変だと思うんだよね。

チョロ　KOKルールを知らない可能性のほうが強いですからね。

ガンツ　破壊王が去年ヤマノリに「KOKに出てください」って言われたときに、「KOKってなんだ!?」って聞いた伝説がありますからね(笑)。

山口　間違って藤波辰爾社長が出て来ちゃったらどうなるんだろう?　ゾクゾクするな(笑)。

ガンツ　ドラゴンvsアターエフ!　藤波vs破壊王の時みたいに、また打撃でドラゴンが腕曲げたまま硬直しちゃいますよ!(笑)。

山口　誰が出てくるにしろ、新日本の選手が参戦することには、俺はもう大賛成なんだよ。どんどんこういった他流試合を新日本の選手はやっていったほうがいいと思う。最初は新日勢が悲惨な目に合うかもしれないよ、もしかしたら。でもそういう悲惨な目を乗り越えたからこそ、いまのリングスや『PRIDE』があるんだから。新日

金ちゃん、メインを勝利で飾れ!

金原弘光(リングス・ジャパン) VS マット・ヒューズ(ミレティッチ・マーシャルアーツセンター)

TKがザザの実弟と激突!

髙阪　剛(リングス・ジャパン) VS グロム・コバ(リングス・グルジア)

遂に実現!　関節技の職人対決

藤原喜明(藤原組) VS ヴォルク・ハン(リングス・ロシア)

リングスvs新日本開戦か?

?

X(?) VS ヴォルク・アターエフ(リングス・ロシア)

リングスの秘密兵器がデビュー

リカルド・フィエート(リングス・オランダ) VS 横井博考(リングス・ジャパン)

月になったリングスと金原が月光をどこまで届かせるかが見たい

本の選手がもし本当に出てくるんだったら、それはその勇気を讃えたいけどね、俺は。これがプロレス復権の礎になるかもしれないし。

ガンツ 最後に会長の見どころはどこですか？

山口 俺の見どころは一つしかないいんだよ。

チョロ 一つ！ それはなんでしょう？

山口 金ちゃん！

ガンツ それは見どころじゃなくて注目選手ですよ！（笑）。

山口 まぁ、聞けよ（笑）。なぜかと言うと、このミドル級、ヘビー級の凄いメンツのトーナメントを押しやって、今回は金ちゃんがメインを張るでしょ。そこで何を見せてくれるかに注目したいんだよ。

ガンツ メインイベンターとしての金ちゃんの闘いぶりですよね。

山口 ただこの金ちゃんvsマット・ヒューズっていうのは、もうハッキリ言っとくけど、つまんない試合になる可能性はあるんだよ。ヒューズは判定でもいいから勝ちにくる選手だから、去年の田村vsミレティッチみたいな闘いになる可能性もある。で、「金ちゃんも面白い試合は期待しないでくれ」って言ってたんでしょ？

ガンツ ええ。「（6・15の）アローナ戦でも面白い試合をしようとして、立とうとしたところで取られちゃったんで、今度はホントにつまんない試合でも勝つよ」と言ってました（笑）。

山口 だから俺の見るべきポイントは金ちゃんしかない。で、和田レフェリーが言うように「桜庭が太陽だとしたら金原は月になっちゃった」と。「ただ実力的には全く一緒だ」と。その月である金ちゃんが太陽になれるかどうかという闘いなわけだよね。こういう発言をすると余計なプレッシャーがかかっちゃうかもしれないけど、そのプレッシャーをいい方向に転換して、金ちゃんにいい形で勝ってほしいね。で、プラス面白い試合にしてくれたら最高だなぁと。いままで面白い試合なんて腐るほどやってるわけじゃない、金ちゃんは。ただやっぱりさぁ、顔が悪いからね（笑）。

ガンツ そこで落としますか！（笑）。

山口 いや、いわゆる芸能界的な見地から見たらってことね（笑）。まぁ、以前のサクもそうだけど。でもさ、輝くと味のある顔に変わっていくじゃない、やっぱり。だから、金ちゃんも輝いて、さらにコクのある顔になってほしいなぁと思うんですよ。

ガンツ 誉めてるんですか、ケナしてるんですか！（笑）。

山口 リングス自体も『PRIDE』に対していま、月になってるでしょ（笑）。その月であるリングスと金ちゃんが、その月光をどこまで届かせるか！ やっぱり夜に見たら月の光はキレイだな、という部分を感じたいんだよ。ほのかな光になるのか、太陽のようにギラギラ輝くのかわからないけども、とにかくリングスと金原弘光の月光の美しさを見たいね。

ガンツ それにしても、この勝たなきゃいけない10周年のメインで、比較的知名度がないのにメチャクチャ強いという、一番割に合わない選手をぶつけてくるのは前田総帥らしいですよね（笑）。

山口 ホント残酷なマッチメイクが多いよね、リングスの場合は（笑）。

ガンツ 一説によると当初、金ちゃんの相手として、今回離脱した日本人某選手にオファーを出したという話もありますからね（笑）。

山口 ああ、それは見たかった（笑）。それからもわかるように、前田のマッチメイクっていうのは非常に純粋で残酷なんだよ。選手をプロレス的にストーリーで繋げて上げていこうっていう意識のマッチメイクじゃないでしょ。そっちの方向に思い切り針を振ってるのは、非常に前田日明的だなぁって気がするんだよね。前田日明は〝プロレスラー〟なんだけど、プロレス的なやり方が嫌いなんだなぁって思うね。だって田村がヘンゾ・グレイシーに勝った直後に、アイブルとぶつけたりしたでしょ（笑）。

ガンツ さらに、その直後に『コロシアム2000』で田村とジェレミー・ホーンと当てたり（笑）。

山口 それは確かに選手がイヤになるのもわかるね（笑）。でも格闘技の本質を突いてるというか、残酷だけど純粋な、非常に前田らしいマッチメイクだなって気がするんだよね。やる選手にとっては辛いだろうけどけどね（笑）。金ちゃんだって6・15のアローナ戦で膝をケガしたけども、今回出る。TKも故障抱えてても出るわけだし。非常にこう気骨を持ったファイターたちの無骨な大会になりそうだね。8月11日は記念すべき日になる可能性があるよ！

チョロ おお！ それほどですか！

山口 いや、この日は俺の誕生日なんだよね（笑）。

ガンツ まったく関係ないですけど、おめでとうございます（笑）。

山口 俺は小学生の頃から誕生パーティーなんて一回もやってもらったことないんだよ。夏休み中だから（笑）。だから俺は誕生日を自分で自分を祝うためにも、この大会に面白くなってもらいたいなという気がします（笑）。

チョロ 金ちゃんから「素晴らしい試合」という誕生日プレゼントをもらいましょう（笑）。

山口 ガハハハ！ そうそう、ゴーインだけど、頼むよ金ちゃん！って感じだね（笑）。な、ボンちゃん。

ボン （蚊のなくような声で）た、誕生日プレゼント……。

ガンツ まったく意味がわかってないみたいなんで、これにて終了！

賞金総額 10万やぞ 10万!!

8.11リングス有明 ワールドメガバトル オープン観戦記大募集!! 締め切りは8月15日必着!! たった4日間 すぐ書け！

というわけで、大注目の8・11「リングス10周年記念興行」の観戦記を大募集します！ なんと今回は優勝賞金5万円！賞金総額10万円だ！ しかも予選通過上位5通を前田日明審議委員長が直接読んで、入賞者を決定！ 締め切りは、有明大会からたった4日後の8月15日必着！ 入賞作品は8月下旬発売の『紙プロ』41号で大々的に掲載予定！ 書けよ、ほんなら！

熱い日本男子（女子も）必読の応募要項

■400字詰め原稿用紙5枚以内（2000字以内）
■あとは、ただひたすらに熱い文章を書くだけ！
■締め切り：8月15日必着。 ■発表：8月下旬発売の『紙プロ』41号
応募は郵送もしくはメールにてお願いします。なお、原稿はお返ししません。
■宛先 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス 紙のプロレス編集部「お金が欲しい人は来て下さい」係
メールアドレス radical@kamipro.com

“赤いブレザーの頑固者” 特別審議委員長 前田日明

ヒカルド・アローナ

**組み技世界一「キング・オブ・アブダビコンバット」が
リングス初代ミドル級チャンピオンに王手!**

「先のことは わからないが オレがベルトを 奪うのは確かだ」

6・15リングス横浜大会で、リングスファンの悲痛な願いもむなしく、金原を見事ヒザ十字固めで斬って落としたアローナ。アブダビ2階級王者、寝技世界最強の名に恥じない実力を見せつけ、リングス初代ミドル級チャンプの座に王手をかけた！　この男の勢いは止まらない！

聞き手／堀江ガンツ
撮影／松本崇
designed by さおとめの事務所

ヴァンダレイが最強？ 笑わせるなよ

残酷な結果だった。

リングスが10年目に初めて認定する、ヘビー級とミドル級のチャンピオンシップ。その初代王者を決めるトーナメント。

すでに田村、高阪が敗れ、ここで負けたら8・11有明『10周年記念大会』で行われる決勝大会を前にジャパン勢全滅という状況。しかも選手大量離脱があった直後とあって、文字通り団体を背負ってリングに上がった金原を、残酷にも打ち砕いたのが〝キング・オブ・アブダビ〟ヒカルド・アローナである。もちろんリングス初代ミドル級王者最有力候補であることは言うまでもないだろう。

本誌はその金原戦の直前、明大前の『アクシス柔術アカデミー』で最終調整を行っていたアローナと、最強の参謀マリオ・スペーヒーをキャッチ、インタビューを行っていたので、そのときの模様をお伝えしよう。

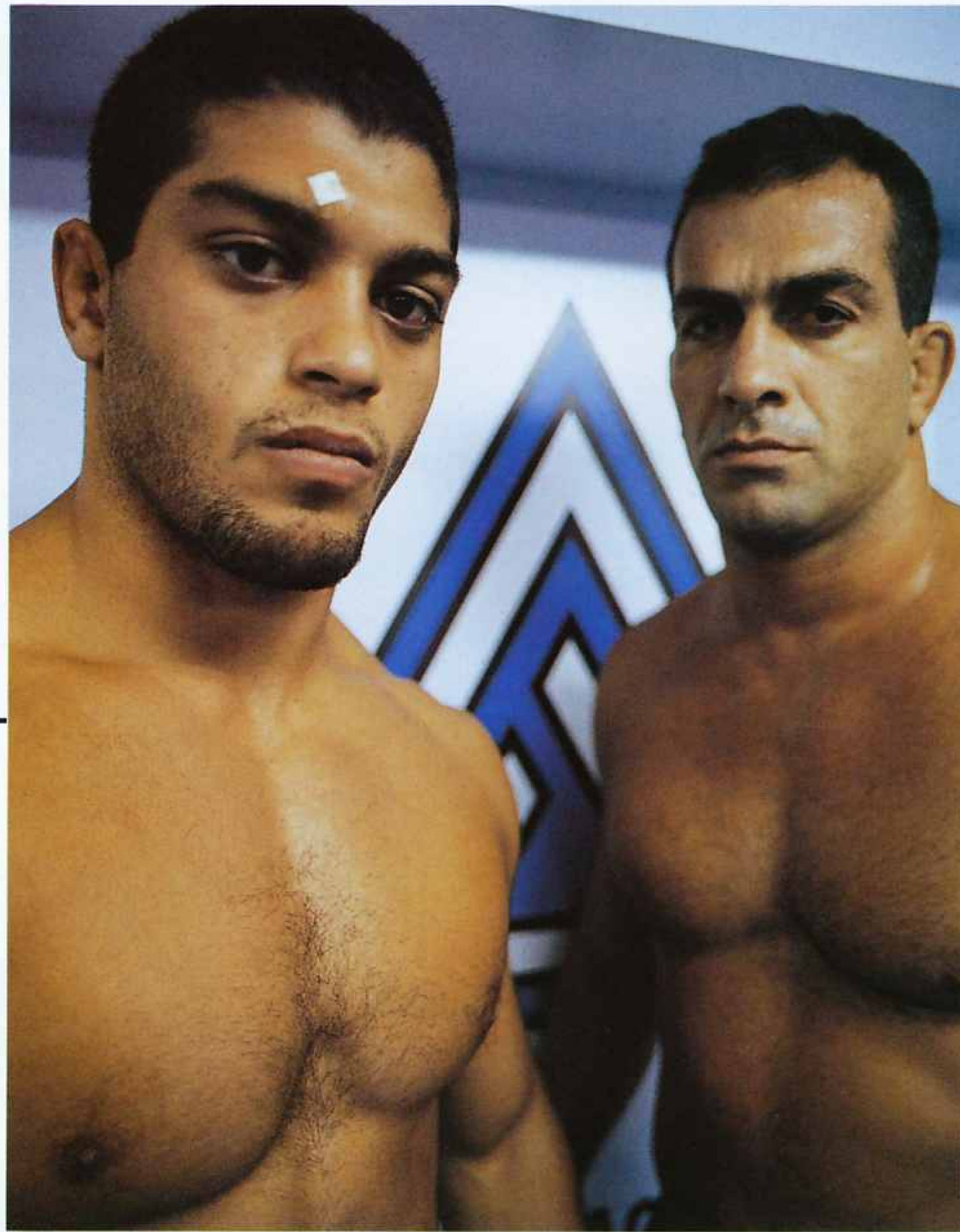
アローナはこの2ヶ月前の〝組み技世界一決定トーナメント〟『アブダビ・コンバット』で98キロ以下級と無差別級を制覇。文句のつけようがない、強豪中の強豪である。

『アブダビ』での体重が94キロ。無駄な肉がほとんど付いていないアローナであるが、今回のリングス・ミドル級は90キロ以下契約。さぞかし減量に苦しんだかと思いきや、練習場に現れたアローナの体重は90キロジャスト。アローナ自身が「パーフェクト」と胸を張る最高のコンディションに仕上げてきた。そのために金原戦について質問すると、やはり自信満々な答えが返ってきた。

「カネハラは何でもできる凄い選手。だから油断はできないが、どちらが勝者かと問われたら自分以外には考えられない。彼とはできれば決勝戦であたりたかったね」

ブラジリアン・トップチーム司令塔マリオ・スペーヒーがそれに続ける。

「我々はカネハラのビデオを何度も見て、彼の動きのすべてを研究しシミュレーションも万全だよ。非常に危険な相手ではあるが、それだけの練習を積んできたので、私は私はアローナの一本勝ちを予想する」

結果はご存じのとおり、ヒザ十字固めでアローナの一本勝ち。金原が一瞬の隙をつかれた形であったが、これはトップチームのシミュレーションの賜物だったのだろう。

RICARD ARONA

RICARD ARONA
1978年7月17日、ブラジル・リオ出身。00、01アブダビ98キロ以下級2連覇。今年は2階級制覇という、現・寝技世界最強の男。ミドル級トーナメントでは1回戦で金原に一本勝ち。優勝候補筆頭。

MARIO SPERRY
1966年9月26日、ブラジル、リオ出身。最強軍団B・トップチームの総大将。96〜99柔術世界選手権4連覇。99アブダビ2階級制覇など、凄まじい実績を誇る。その実力は金原がノゲイラ以上と断言するほど。

金原戦の直前取材だったため、質問は金原戦中心だったが、それ以外の質問でも、やはりアローナの自信がビンビンに伝わってくる答えであった。その中の一つ「闘ってみたい相手」を聞くとやはりこの名前が出てきた。

「一番闘いたい相手はサクラバだ。なぜならサクラバはいろんな柔術家を倒していて、多くの人から柔術家より強いと考えられている。オレは実際に闘って、本当に柔術家より強いのか、それともサクラバが闘った柔術家が弱かったのか、それを確かめたい」

サクラバが闘ってきた柔術家とオレは違う！ そんなアローナの自信とプライドが感じられるではないか。そして、その桜庭をKOし、一躍ブラジル最強のファイターと呼ばれるようになったヴァンダレイ・シウバに対してもアローナはこうだ。

「ヴァンダレイがナンバー1？ 彼はビクトー・ベウフォートに46秒で負けた選手だよ。確かに彼の打撃は凄いし『日本でナンバー1の選手に勝った男』ではあるが、ブラジルのナンバー1とは言えないよ」

そのシウバに勝ったことがある、現UFCミドル級王者ティト・オーティズについても聞いてみた。

「彼とはアブダビで闘ってみて、とても強い選手ではあったが、練習すれば誰でも勝てるレベル。負ける相手じゃない」

現在、押しも押されぬUFCの主人公となったティトを「練習すれば誰でも勝てるレベル」と言えるのもアローナぐらいだろう。

アローナはあのアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラが「いまブラジルでナンバー1」と断言するほどの男。アローナの現在の強さについてスペーヒーに聞いてみた。

「ナンバー1と呼ばれる選手は何人かいるが、アローナはその中のひとりに入っていることは間違いない。今回の闘いでアローナはリングス・ミドル級のナンバー1であることを証明できるだろうし、他の団体に出たり、対戦することができれば、もちろんアローナはそこでも勝てるだけの実力があるので、ナンバーワンになるのは可能だよ」

そうなると、早くも気になるのがアローナの去就。同じトップチームのノゲイラが闘いの場を『PRIDE』に移したが、アローナはこれからの闘いをどのように考えているのか？

「これから先、何が起こるとか、何を決めるとか、自分がどこに行きたいとか、それはまだ決められない。ただ確かなことは、リングス・ミドル級のベルトはオレが奪うこと。そして来年の『アブダビ』スーパーファイトでマーク・ケアーを倒すことだけだよ」

ヒカルド・アローナ現在23歳。大ブレイクの足音は迫っている。

取材協力：アクシス柔術アカデミー　03-3325-6699　www.axisjj.com

●●より強い(?)リングスの秘密兵器が 8・11有明コロシアムで遂にベールを脱ぐ!

“和製エメリヤーエンコ・ヒョードル”

横井宏考

フィエートを倒して、同年代の アローナ、ババル、ホーンとやりたい!

聞き手＆撮影／堀江ガンツ
designed by さおとめの事務所

デビュー戦でいきなりフィエートと激突!!

8・11リングス有明コロシアム大会において、いきなりオランダの〝狂〟豪リカルド・フィエート相手にデビューを果たす横井宏考。彼には〝ロシア人疑惑〟がある。

「金原さんや和田さんに『ロシア人だ』って言われるんですよ。自分ではたぶん日本人だと思うんですけど(笑)、骨格がロシア人ぽいらしいです」

人に言わせると、横井はリングス・ロシアのミーシャや、コピィロフ、ヒョードルのように、とにかく骨太で力が強く、グラウンドが強いらしい。

そのグラウンドの強さは、15年に渡って続けてきた柔道の下地に基づいたものだ。

「柔道は小学校1年からやってるんですけど、ホントは空手がやりたかったんですよ。それで町道場で2階で柔道、3階で空手を教えているところがあって、道着を着てるんで『空手だ』と思って入ったんですけど、そこは柔道場でした(笑)」

そんな単なる間違いで始めた柔道であるが、その後も通い続け、中学時代は柔道部がない学校に自ら柔道部を設立。そして柔道の推薦で旭川龍谷高校、近畿大学へと進学と、まさに柔道一直線!といった感じ人生に思えるが、すでにこの頃から、総合格闘技の道へ進もうと決心していたのだ。

「大学まで柔道をやる気はあまりなかったんですよ。自分は前田さんのファンだったんで、高校卒業と同時にリングスに入るつもりだったんです。でも親が涙ながらに『大学だけは行ってくれ』と言うので、仕方なく進学しました。でも、ホントは中学時代は中卒でUWFに入りたかったくらいなんですよ(笑)」

リングス入りが先送りとなっても横井は、来るべき日に向けて、着々と準備を進めていった。近大柔道部に2年でレギュラーを獲得後、いよいよアマ修斗で総合格闘技をスタートさせたのだ。

「前田さんの本を読んだら、『ライルーツコナン』(旧UWF戦士である森泰樹氏が主宰するジム)が載ってまして、大学3年の秋に入会したんですよ。そしたら入って1ヶ月ですぐ『アマ修斗に出ろ』と言われまして、そのときは柔道だけで勝ちました(笑)。」

こうして総合格闘技への第一歩を踏み出した横井。実はリングス入り前に、修斗でプロの舞台も経験している。

「修斗はアマチュアでいい成績を残すとプロデビューが出来るんですよ。ボクは3試合連続で1ラウンド一本勝ちしたんで、デビューできたんです。でもプロデビュー戦は頭の中が真っ白になって、とりあえず「殴らな」って(笑)。それで判定勝ちだったんです」

「『コナン』はすごく雰囲気がよかったんですけど、修斗だけじゃ食べていけないし、夢もあったんで、大学卒業と同時にリングスに入門しました」

こうして遂に念願のリングス入門をはたした横井。しかし入門直後に日本人選手のリングス大量退団が勃発してしまう。

「自分は成瀬さんにも山本さんにもよくしていただいたんで、すごく寂しかったですね。でも同時に『自分でやらなアカン』という気持ちが強くなったんですよ」

入門していきなり大激震が起こってしまったわけだが、それは結果的に横井の肉体面と精神面の成長を早めることになった。そして、入門4ヶ月という、リングス史上最短のスピードでデビューが決定。しかも相手はKOKにも出場しているリカルド・フィエートだ。

「フィエート選手は打撃がすごいですよね。でも、組んでしまえば負ける気はしませんから。得意のサイドからのアームロックで一本勝ちを狙います! 得意と言っても、それしかないだけなんですけど(笑)」

「組めば負ける気がしない」という一本勝ち宣言! 実に心強い限りである。それもそのはず、横井はさらに先を見ているのだ。

「フィエートに勝って、一日も早くアローナ、ババル、ジェレミーといった〝同年代〟の選手とやれるようになりたいです」

そう、いまや世界の総合格闘技は、20代前半から半ばの選手がトップとして活躍している。日本もその年代が出てこなければ、世界から遅れを取ることになるだろう。それだけに、日本人では数少ないヘビー級のホープとして、リングスだけでなく、格闘技界にとっても横井に期待がかかるところだ。

「これからもっと身体を大きくして、ミーシャさんみたいな身体にしてヘビー級でガンガンやっていきたいですね」

選手離脱が相次ぎ、焼け野原となったかに思えたリングスであるが、この横井、そして9月デビューが予定されている伊藤と、確実に新しい芽が出始めている。

8・11有明では、その息吹を感じさせてくれ、横井!

バトラーツ?

公称身長167センチ! その小さな体で初期新日本、メキシコ、第一次UWF、全日本、ジャパン女子、ユニバ、そしてみちプロを渡り歩いた男が、30年のプロレス人生を語る!

聞き手／吉田 豪
撮影&構成／堀江ガンツ
designed by matsu (Two three)

"小さな巨人" グラン浜田

荒川と俺は違うから！ バカな部類と一緒にされたら困るよ！

——押忍！　今日は浜田さんの波瀾万丈なプロレス人生のお話を、たっぷり聞かせていただきたいと思います。

浜田　あんまり語るような、いい話はないよお（笑）。

——いやいや、昭和の新日本プロレスを通過してきている選手の方々は、インタビューやっても絶対に外れがないですからね。そういうわけで、よろしくお願いします。

浜田　はい、わかりました！

——で、浜田さんは新日に入る前に、ずっと柔道をやられていたんですよね？

浜田　そうそう。昔、町相撲ってあったじゃない？　勝つと商品がもらえるようなヤツが。それを家に持って帰るとオヤジやお袋が喜んでくれるんだよ。結構勝ってたんだけど、ある日たまたま仲のいい友達に負けちゃってね。それで、そいつが柔道をやってるって聞いたもんだから「オレもやってみようかな」って始めたのがキッカケ。

——じゃあ、もともと相撲で強くなるために柔道を始めたんですか（笑）。

浜田　そう！　もっと率直に言えば、商品をもらいたいために始めたようなもんだ（キッパリ）。子供心に、親の喜ぶ顔が見たかったんだろうね。勝てば醤油とか味噌とか米がもらえたわけだから。

——柔道は何歳から始めたんですか？

浜田　早かったよ！　4歳から。

——また早いですね（笑）。立ち技と寝技ではどっちが強かったんですか？

浜田　そりゃ立ち技だよ！　相撲を想定して柔道やってたんだから、寝かした後は関係ないもん。

——まあ、そうですね（笑）。それだけ相撲には熱心に取り組んでいたと。

浜田　でも、相撲も好きでやってたわけじゃないからね。賞品欲しさにやってただけだったから……。そのうち柔道の方が面白くなってきたけど。

——高校の頃、柔道ではかなりの好成績を収めることになるわけですけど、なおかつ同期の強豪にはミスター・ポーゴさんもいたんですよね？

浜田　そう。別々の高校だったけどね。一緒に強化合宿行ったり、遠征したりしてましたよ。あの頃はロクなヤツがいなかったな（笑）。

——ダハハハハ！　ロクなヤツじゃありませんでしたか（笑）。でも、ポーゴさんとは勝ったり負けたりで、かなりいい勝負をしてたみたいですね。

浜田　ポーゴとは3回試合して、オレの2勝1敗だね。

——勝ち越してるわけですね！　しかも、ポーゴさんに勝って優勝した大会もあったという話ですけど……。

浜田　そのときは準々決勝で当たったのかな？　まあ、「勝った方が優勝するだろう」とは言われてたよ。

——意外なんですけど、ポーゴさんって柔道強かったんですねえ。

浜田　デカいしねぇ。そんでデカいわりに技もキレたしね。当時のオレは体重60キロぐらいで、ポーゴは120キロあったんだけどね。

——あ、そんなに体重差があったんですか（笑）。

浜田　まあ、弱点があったからね。……アイツ、すごい気が弱いんだよ。

——ダハハハハ！　それは、いまでもそうみたいですけどね（笑）。

浜田　でしょ？　それを逆手に取って脅すんだよ。「お前とは、もう一緒に遠征行かないぞ」とか言って（笑）。アイツ、1人じゃ遠征行けないから！

——それでポーゴさんが動揺して負けちゃうんですか？

浜田　まあ、それは冗談だけど（笑）。実際に強かったよ。他のどんなヤツと試合をしても「オレが勝つだろうな」と思ったけど、ポーゴとやるときだけは「ひょっとしたら負けるかもしれないな」と思いながら試合してたもん。

——当時、2人でプロレス入りの夢を語り合ったりしてなかったんですか？

浜田　まったくしてない（キッパリ）。当時、身長160センチで体重60キロのオレがプロレスラーになれるなんて思ってもいなかったからね！　あの頃は新日本と全日本しかなかったし、そこでは2メートル近い男たちが試合してるわけだから。

——ポーゴさんは、当時からプロレスラーになるつもりだったんですよね。

浜田　あいつはそのつもりだったんでしょ？　でも、オレは柔道が好きだったし、未練もあったからさ。たまたま、プロレスラーになれたけどね。

——ポーゴさんが新日本に入ったのは、市会議員だったお父さんの関係もあったとかって噂も聞きましたけど。

浜田　いや、それは知らないけどね。あいつがプロに入ることになったときも、「オレは柔道で頑張るから、お前も頑張れよ」なんて言って合宿所まで送っていったんだからね。そしたら、何だか知らないけど送りに行ったオレまで入ることになっちゃって（笑）。

——しかも、連れられて行った浜田さんだけが残ってしまったと（笑）。

浜田　そうだよ！　「一緒に行こう」と言ってた人間が先に辞めて（笑）。それがいまじゃプロレス生活30周年なんだから、世の中わかんないよね（笑）。

——浜田さんの場合、その30年間がまた波瀾万丈ですからね（笑）。そういえば、ポーゴさんのお父さんが亡くなったときに、浜田さんが葬儀屋として現れたという伝説を聞いたことがあるんですけど、それはどういう経緯だったんですか？

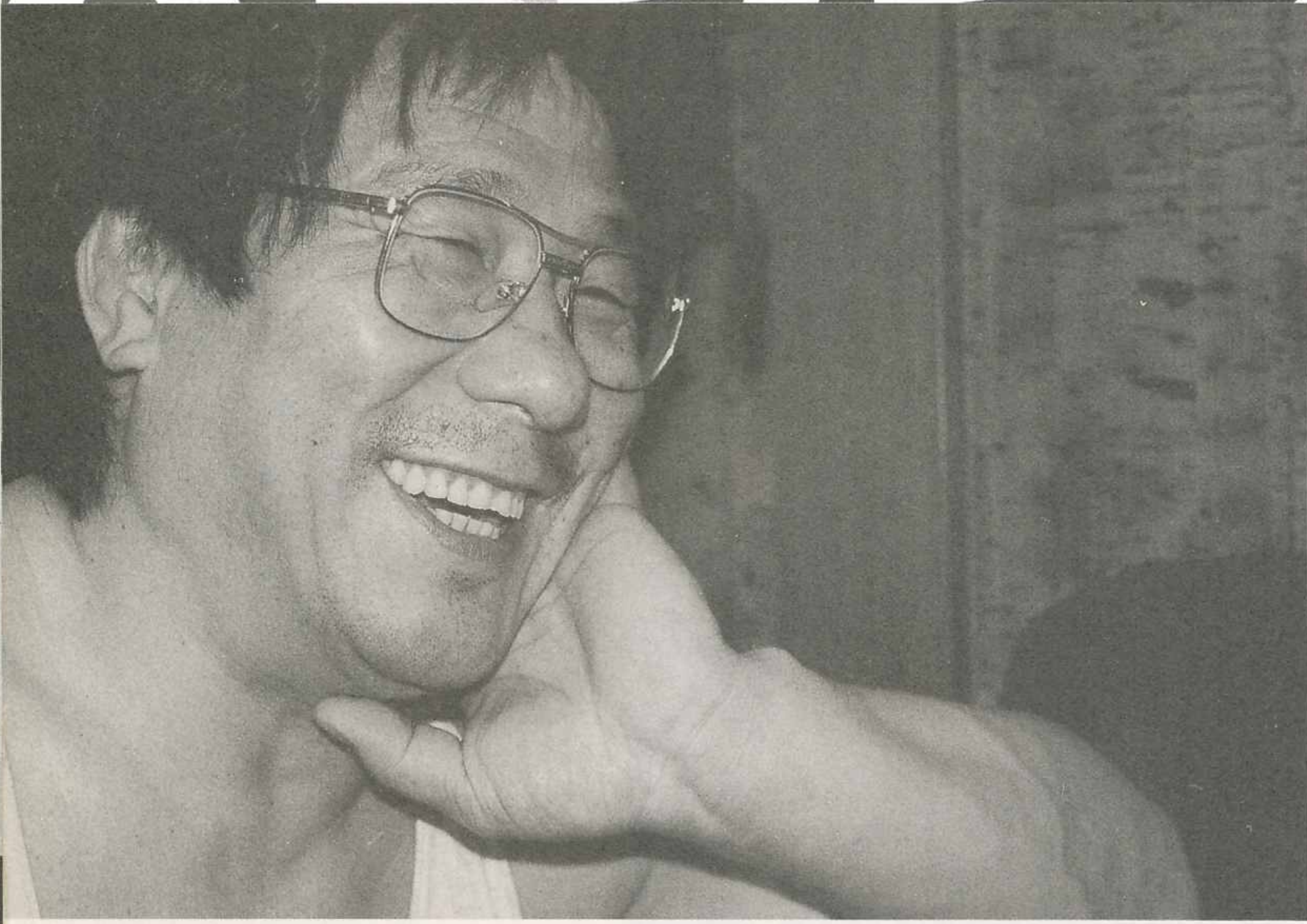
浜田　ああ、それはね……。高校卒業した後、オレは柔道やるために静岡県浜松市にある河合楽器に就職したの。でも、1年ぐらい経った頃に急性肝炎で身体を壊しちゃったんだ。そのときに、群馬の実家に戻ってプラプラしてたら、「葬儀屋の仕事は金もいい」って話を聞いてね。「特にやることもないから、やってみるか！」ってことで始めたんだ。で、ある日、宿直で泊まってたら病院から電話があって、遺体を引き取りに行ったら、それがたまたまポーゴのオヤジさんだったんだよね。

——いやぁ、お2人の関係にはつくづく運命的なものを感じますね！

浜田　そうだねぇ……（しみじみと）。

——そんな2人が、いまでもプロレス界で活躍してるんだから凄いことですよ！　で、ポーゴさんと一緒に入団された当時の新日本って、どんな感じだったんですか？

浜田　あの当時は練習以外にやることなかったからね。いまほどプロレスも盛んじゃなかったから、誰も取材なんて来ないしね。死ぬような思いをしたよ。でも、柔道で練習の厳しさってものは味わってきてるからね。ましてや、柔道時代なんてオレはいつも減量しなくちゃいけないからキ

バトラーツ？

ツかったんだよ。

——それと比べたらプロレスは最高だったわけですよね。

浜田 そう！ プロレス入ったら「太れ！ 太れ！」ってことで食いたいものをガンガン食わしてもらったしね。だから……天下だったよな（キッパリ）。

——ダハハハハ！ 天下でしたか（笑）。だけど、プロレスは柔道とでは練習も全然違いますよね？

浜田 でも、投げることなら絶対負けないと思ってたよ。

——スパーリングやってみて、そう痛感したわけですか？

浜田 オレのすぐ上の先輩が藤波辰巳（当時）さんだったんで、よくやってたよ。案の定、立ち技ならポーンッと投げることができた。寝技もいい勝負にはなったんだけど、最終的にはプロレスの粘り強さに抑え込まれてたね。

——当然、猪木さんともスパーリングしてたんですか？

浜田 たまにやりましたよ。で、投げるとポーンッと投げられるんですよね。

——猪木さんも投げましたか！

浜田 一瞬、「なんだ、アントニオ猪木っつっても簡単に投げられるじゃねえか」と思ったよ（笑）。まあ、冷静に考えれば自分から投げられてたんだろうと思うけどね。でも、何てことはない。次の瞬間には、もうオレは関節を極められてたから（笑）。

——肌を合わせてみて、「この人は強いなぁ」って人はいましたか？

浜田 全員強い！（キッパリ）。そりゃそうだろ！ オレは一番下っ端だもん。やっぱり体重差は大きかったよ。唯一勝てたのは藤波さんだけだな。

——藤波さんには勝ってましたか（笑）。

浜田 体重差もなかったし、歳もオレより若かったからね。でも、その藤波さんにも勝てないこともあったから。鼻っ柱を折られるわけだよ。

——ちょっと天狗になっていたら。

浜田 中学、高校で柔道やってきて勝ち続けてきたんだから、少しは天狗になるじゃない？ プロレス入ったら天狗になるヒマもなかったけどさ（笑）。

——でも、当時の新日本を経験してるってのは、すごい勲章になることだと思うんですよね。

浜田 うん！ オレはいま50歳なんだけどね、20歳そこそこの人間と一緒に試合をして、スタミナやスピードも下手すりゃオレの方があるぐらいだからね。柔道をやって、新日本でみっちりプロレスの基礎を学んだおかげでしょ。その積み重ねがいまになって出てきてるんじゃないかな。あの頃の選手はもうイヤになるぐらい、みんな元気でしょ？

——イヤになるぐらい（笑）。ホント、いまでもみんな元気ですからね。あの頃の新日本の前座戦線には、もの凄いキャラクターばかりいたわけだし。

浜田 いたよぉ！ キラー・カーン、木村健吾、藤波辰巳でしょ。……辞めてった人間もいるけどね。あの頃の新日本はホントに凄かった。戻れるなら、あの頃にもう一度戻ってみたいなぁ。

——それぐらい浜田さんにとってもいい時代だったわけですか。

浜田 うん。でも、それはいまが悪いってわけじゃないよ（笑）。ただ、いまになって考えると、あの頃が一番楽しかったし、やりがいもあったよね。

——ボクらもあの時代には凄く幻想を持ってるんですよ。道場の伝説もいろいろあって面白いですよね！ すぐにムキになってケンカしたり、それですぐ和解して急に仲良くなったり（笑）。

浜田 そうそう（笑）。ガキが集まってたからね。アホばっかだから！ しょうがねえよな、まったく（笑）。

——ダハハハハ！ アホばっか（笑）。

浜田 アホじゃなきゃ、あんなところ来ないよ（笑）。そうでしょ？ そういう連中が集まって生活してりゃ、ケンカもあるよ。でも、カラッとしてるから、次の日になったら普通になってるんだよ。そんな連中ばっかりだったから。そういうのが試合にも出てたよね。ケンカみたいに激しい試合をやっても、試合が終わったら「ありがとう！ でも、次やったら負けねえぞ」って感じでさ。それが面白かったね。

——話を聞く限り、ホントに面白そうですもんね。

浜田 よく練習して、よくケンカして、よく食って、よく飲んで、よく寝て……。

——ちなみに、浜田さんもケンカしたりしたんですか？

浜田 ……1、2回はしたのかな？ でも、忘れちゃった（笑）。いい思い出だよね。

——それって、やっぱり派手な殴り合いなんですか？

浜田 殴り合い？ したよ！

——（ドン）荒川さんなんか、道場で果たし合いまでやってたらしいですからね（笑）。

浜田 （呆れたような表情で）あいつはアホだもん！ オレとは部類が違うから！ ああいう部類の人間とオレは、ちゃんと分けて把握してよ！

——ああ、そこは違うんですね（笑）。

浜田 あれはどっちかというと「キ」がつく人達の部類だから（キッパリ）。バカな部類と一緒にされたら困るよ！

——なるほど（笑）。

浜田 そこまでは言わないけど

ね、アホだよ！　たとえば、レストラン行ってもさ、テーブルに置いてあるのがお酢と醤油だってことぐらいわかるでしょ？　それを「これ、ジュースだろ？」ってコップに入れて飲んじゃうんだから！

――ダハハハハ！　凄いなぁ（笑）。

浜田　腹一杯食い過ぎて、バケツ一杯分もどして救急車で運ばれるんだよ？　オレはそんな男と一緒にされたくないよ！　あれとは別の組だから！

――一緒にしてくれるなと（笑）。じゃあ、当時の浜田さんは誰と仲が良かったんですか？

浜田　キラー・カーンだね。試合もよくやったし、渋谷とか新宿にも一緒に飲みに行ったし。どんなに飲んでも崩れないし。楽しい酒だったよ。

――どうも当時の話を聞くと、酒飲んで思いっきりハメを外してそうなイメージばかりがあるんですけどね（笑）。

浜田　それはなかったなぁ。飲む量は多かったと思うけど（笑）。まあ、仲間が酒飲んでケンカしたとかトラブルに巻き込まれたって話はよく聞いたけどね。自分がそういう現場に居合わせたってこともないし。

――じゃあ、あの頃の新日本の伝説って、一部の大暴れした人達の話が一人歩きしてただけなんですね（笑）。

浜田　全員が大暴れしたわけじゃないからね。勘違いをしたらイカン！

――押忍！　わかりました（笑）。

浜田　まあ、あの頃からカーンと2人して噺家の立川談志さんにかわいがってもらってね。よく高座を見に行った後、飲みに連れて行ってもらったりしましたよ。

【84・4・　大宮スケートセンター】
現在の総合格闘技の礎を築いた第1次UWFの旗揚げショット。ここには浜田も参加していたのだ。それにしても前田の凛々しさ、高田の初々しさ、剛竜馬の鍛え上げられた太股、そしていまや還暦ラッシャーの熊のようなゴツさには驚きだ。

――ああ、その頃から交流があったんですね。よく談志さんの本の中に浜田さんのことが出て来るんで、不思議な交流だなぁと思ってたんですよ。

浜田　那須に合宿に行ったときかな？　先生（＝談志）がたまたま来ててね。「おう、来いよ」なんて言われて飲みに連れていってもらったのがキッカケなんだけど。よくかわいがってもらってますよ。

――談志さんも猪木さんと同じように変わった人というか凄い人ですよね。

浜田　うん。でも、猪木さんのように毎日いっしょに先生といたわけじゃないからね。たまに飲んでただけだけど、やっぱり凄い人だと思うよ！　すごく勉強家だしね。

――ちなみに、浜田さんにとって身近で見てきた猪木さんっていうのはどういう存在だったんですか？

浜田　一言で言うと……怖い！　凄い！　そんだけ（キッパリ）。

――あ、そんだけですか（笑）。

浜田　だって、語れねえだろ！　いまでもそうだけど、当時はまともに目を見てしゃべれなかったもんな。

――それほど凄い存在であると。

浜田　そうだよ！

――押忍！　わかりました。で、話は戻るんですけど当時の試合で一番記憶に残っているのはどんな試合ですか？　やっぱりカーンさんとの試合とか？

浜田　やっぱりカーンとの試合は、大きいヤツと小さいヤツの試合ということで盛り上がったよね。あれはいい思い出だ。いい時期だなと思うから、「あの頃に戻りたいな」と思うよね。

――試合も激しくて、試合の後も覗きをやったりバカやったりして（笑）。

浜田　なんかやってたみたいだね。

――あ？　当時、浜田さんは覗いてなかったんですか？

浜田　あのね、不思議なもんでオレはやってなかったんだよ……。意気地がなかったんだろうな。カーンは結構好きで覗いてたけどね（笑）。

――ああ、カーンさんはけっこう好きだったんですね（笑）。

浜田　その覗きの最先端を行ってたのが佐山（聡）！

――有名な話ですよね（笑）。

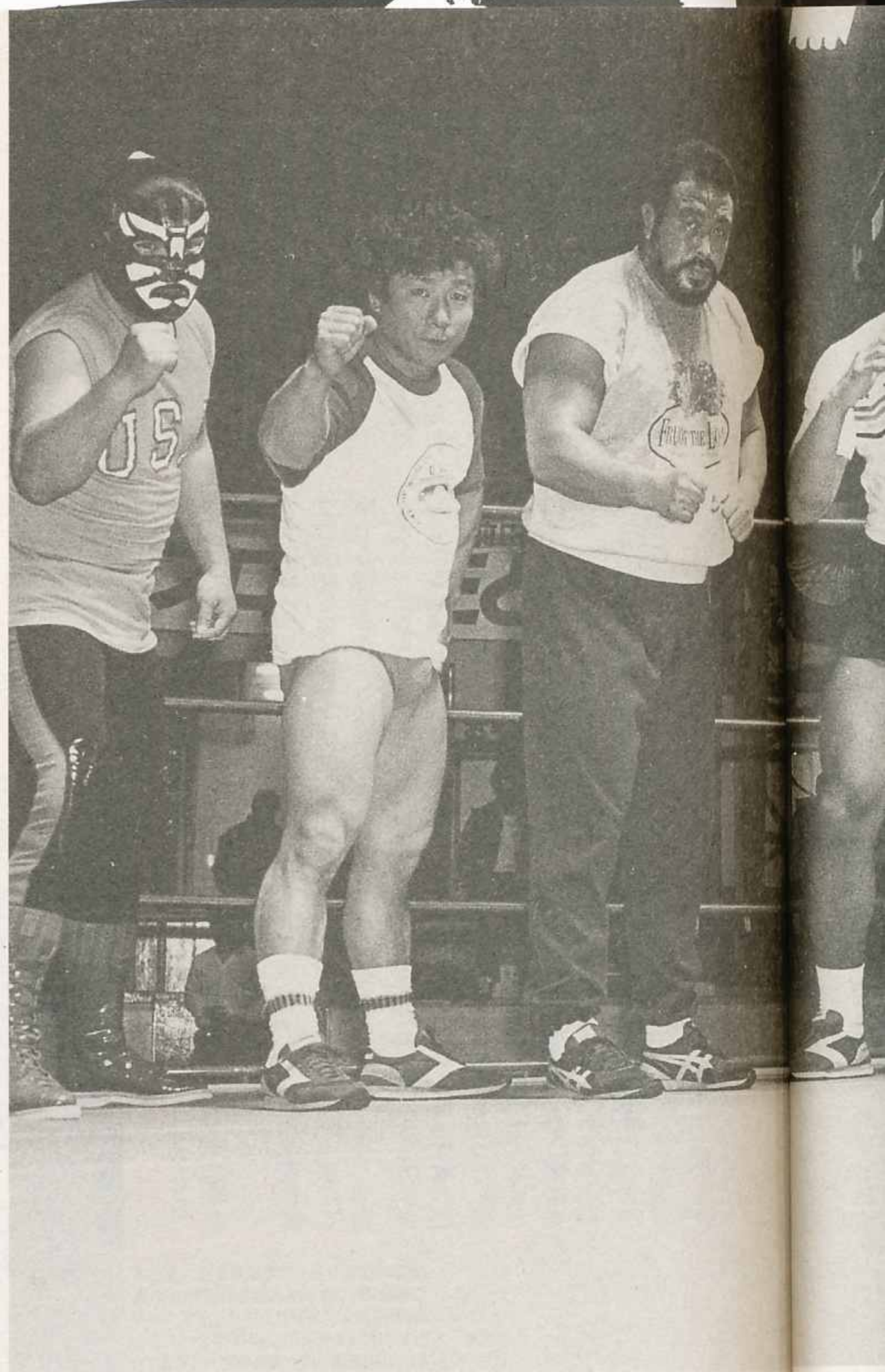
浜田　あれが先発隊で覗いてきてさ、みんなに「今日覗けますよ！」ってみんなに教えてたんだから（笑）。

――いまも基本的には変わってない気がするんですけど（笑）。

浜田　もう、そのまんまオトナになってるような感じでしょ？　しかしアンタ、よく知ってるねぇ……。そんな色々知ってるんだったら、オレに聞かなくてもいいじゃない（笑）。

――いやいや（笑）。話題は変わりますけど、浜田さんはそんなに楽しい新日本から海外遠征で離れるわけですよね。メキシコで最初に成功した日本人が浜田さんだと思うんですけど。

浜田　（そっけなく）知らない。

バトラーツ?

昭和プロレスの凄みに触れる
実録! 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

あまり言いたかないけど プエルトリコのリングで 豹と闘ったよ!

だって、別にオレは成功してないじゃん! ただ単に長く滞在して、長く試合をしてただけだから。

―あ、そうなんですか(笑)。じゃあ、メキシコに長い間滞在した最初の日本人ということですね。

浜田 そうだよ! 滞在期間が短いと、なかなかプロモーターもチャンスを与えにくいからね。「ハマダは長い間メヒコ(スペイン語で「メキシコ」の意)にいるから、じゃあ、あいつに試合をさせてみようか」ってなるわけだよ。そんなもんじゃねえかな?

―そんなもんですか(笑)。当時のメキシコはいかがでしたか?

浜田 メヒコは同じ体格の連中ばっかりだったから、やりやすかったけどね。でも、オレはあんまり体重で枠を決められるのはイヤなんだよ。いまは時代も変わってきてるから、ジュニアはジュニアの枠だけでやってるけどね。

―でも、ボクもプロレスには無差別級の魅力が必要だと思いますね。

浜田 そうだね。ジュニアがヘビーに勝つってのは、しょせん無理な話なんだけど、それでいいと思うんだ。それで実際にヘビーの選手に勝ったら勝ったで、また面白いじゃん。

―同感です! あと、メキシコのリングは固いってよく聞きますけど。

浜田 うん、固いね。酷いところになると、板の上におがくずをパラパラまいて、その上にシートかぶせるところもあったから。リングの上に木のカケラが転がってたりね。

―うわっ! それじゃ飛び技なんて危なっかしくて出来ないですね。

浜田 まあ、それでも遊びに行ったわけじゃないから、やらないといけないんだよ。そんな状態であっても、毎日試合が組まれることの方が幸せだったね。

―いちいちプロですねぇ! そういえば談志さんが言ってたんですけど、浜田さんは「動物と闘ったこともある」らしいですね?

浜田 ああ、あるよ。あれはメヒコじゃなくて、プエルトリコでだけどね。

―ホントに闘ってたんですね(笑)。実際、何と闘ったんですか?

浜田 何だっけな……?

―豹だって噂を聞きましたけど。

浜田 そう、豹! (嫌そうに)あんまり言いたくないんだけどね。

―そんな! せっかくだから教えてくださいよ(笑)。

浜田 まあ、豹が相手といってもマウスピースみたいなのハメてるから噛まないし、ツメも全部切ってあるし。何も武器がない状態だから組み伏せちゃったけどね。遊びみたいなもんだよ。公式記録には残ってないけど、日本に帰ってきたらそれをなぜか談志さんが知ってたんだよ(笑)。会うなり「向こうで豹と闘ったんだって?」って(笑)。

―すごい情報網ですねえ(笑)。

浜田 オレは「一切記事にしてくれるな」って言っといたんだけどね。こんなバカげた話、自分から言えないよ。

―その当時、熊と闘ってる選手は多かったんでしょうけどね。豹と闘った人は初めて見ましたよ(笑)。

浜田 ああ、熊とやってる人は多いよね。オレはやらないけど。オレは自分よりデカいヤツは嫌いだから(笑)。

―豹は浜田さんよりも小さかったからOKだったんですね(笑)。

浜田 そういうこと(笑)。

―メキシコ、プエルトリコ以外の国には行かなかったんですか?

浜田 グァテマラには行ったよ。あとパナマ。場所は違っても基本的にはメヒコと一緒だよ。みんな陽気だよね。何をやってもワーワー騒いでるし、本気で怒るし。

―浜田さんは、どこでもベビーフェイスだったんですか?

8・11リン
て、いきなり
フィエート相
考。彼には“
「金原さん
て言われるん
だと思うんで
ぽいらしいで
…人に言わ
アのミーシャ
ように、とに
ドが強いらし
そのグラウ
けてきた柔道
「柔道は小
ど、ホントは
それで町道場
えているとこ
『空手だ』と

浜田　そうそう。ベビーフェイス的な試合してたからね。あの頃はそっちが拠点にして日本で試合するのが出稼ぎだったから。それで良かったんだと思うよ。あの当時の新日本でずっとやってたら、いま頃ブッ壊れてるよ（笑）。

――でも、日本に戻ってくるたびに新日本プロレスの人気が上がっていくのが実感できたんじゃないですか？

浜田　そうだね。帰ってくるたびにお客さんは増えているし、試合数も増えてるし、楽しかったよね。一番いい時期の新日本プロレスを味わったんじゃないかな？

――それにメキシコにいたから、新日の内部がだんだんゴタゴタしていく過程を見ずに済んだっていうのもあるんじゃないですか？

浜田　うん、ああいうのが一番イヤだもんな……（しみじみと）。人間関係のゴタゴタを気にしながら試合するよりも、酒を飲んでワーって大騒ぎしながらメヒコで試合してる方がいいよ。オレは新日本の人間だったけど、主戦場はメヒコだと思ってたからね。

――ただ、新日本が分裂していく中で、浜田さんは新間寿さんと必ず行動を共にしてるイメージがあるんですよね。

浜田　まあ、一緒に行動していたわけじゃないけどね……。でも、嫌いな人間だったら一緒にはやってないよな。新日本に入るときに面接を受けたのも新間さんだったし。東京に出てきたときもね、休みになっても友達なんかいないから新間さんがやってたパン屋に行ったりね。売るほどパンがあるわけだから、そこに行っちゃあ、食い放題食って帰ってきたりしてね（笑）。

――そういう恩義があったんですね。

浜田　うん。ちょっとキザなセリフになるけど、受けた恩は忘れたくないからさ。オレの生き方がそうだからね。新間さんに「こういう団体があるから、やろうぜ」って言われて、オレに出来ることなら何でもしようと思ったね。

――あのときは「ＵＷＦが出来るから来てよ」って感じだったんですか？

浜田　そうそう（笑）。まあ、詳しい内容は話せば長いけどね、「新間さんが音頭を取る」「猪木さんも後から来る」って何も知らない人間が聞かされたらさ、それは新日本の子会社なんだろうなって思うじゃない？

――ええ（笑）。それだったら、「行きます！」ってことになりますよね。

浜田　そうでしょ？　でも、いざ行ったら話が違う。でも、スタートしなきゃいけないからね。プロレスラーなんてのは、リングに上がって初めてプロレスラーなんだよ！　リングに上がらなけりゃ、プロレスラーでも何でもないわけだ、こんなもん！　だから、オレはリングに上がれるだけでいいと思ったね。

――それで、新間さんがＵＷＦを抜けるのと時を同じくして、浜田さんもＵＷＦを抜けたんですか？

浜田　いや、そのＵＷＦの中でもいろいろゴタゴタがあったわけ。オレはそれを何も知らないんだよ。ＵＷＦのシリーズがないときはメヒコに行ってたからさ。

――ああ。つまり、常にゴタゴタの現場にはいなかったんですね（笑）。

浜田　そう！　でも、現場にいない人間が何故か一番悪者にされてるんだよ。そんな馬鹿な話があるかってんだよ！　なぜかオレの名前が出て来て、「ちょっと待てよ！　オレは何も知らねえよ」ってことが多かったな（しみじみと）。でも、人間ってだいたいそうじゃん。いない人間を槍玉にあげて、利用されるんだよな。だから、「オレで役が果たせるなら、ドンドン使いなさい！」って開き直っちゃったよ（笑）。

――男ですねぇ！　ＵＷＦを抜けてからは、メヒコに戻ったんですか？

浜田　そうだね。向こうでガンガン試合があったからね。日本のことを考えてる余裕もなかったんだよ。その頃、全日本に2シリーズほど参戦したけど、その後はずーっとメヒコで試合してたよ。

――全日本に出た経緯というのは？

浜田　いやぁ、組まれたから出ただけだよ。まあ、失礼な言い方かもしれないけど、特に感慨もなかったね。

85年には2シリーズだけながら、全日本にも参戦。たった一度だけ開催された「世界最強ジュニアタッグリーグ」でマイティと組んだ浜田は、チャボとヘクターのゲレロ兄弟を破り見事優勝をはたした。

――「遂にライバル団体に出るんだ」っていう感慨もなかったですか？

浜田　うん。割とオレはそういうことを考えないんだよね。リングがあるから上がるだけで、出た以上は一生懸命やるけどね。キザな言い方をすれば「そこにリングがあるから」ってことなんだよ。

――カッコいいですね（笑）。そういう考え方というのは、おそらくメヒコで身につけたモノなんでしょうね。

浜田　たぶん、そうだろうな。

――でも、浜田さんの場合はなぜか行く先々でいろんな揉め事が起きるような気がするんですよ（笑）。

浜田　そうそう。……別にオレが揉め事を作ってるわけじゃねえぞ！

――ええ、わかってます（笑）。でも、浜田さんが在籍した新日本、ＵＷＦ、ジャパン女子、ユニバーサル、みちのくと、なぜか順調に同じような事態に陥ってるんですよね。

浜田　結局、オレは上手く立ち回れないわけだ。全然関わってないのに、いつも巻き込まれてるんだよな……。

――ジャパン女子でコーチをしていた頃も、大仁田（厚）さんと女子プロレスのリング上で試合をしたりしてましたよね。あれも新間さんのルートで関わるようになったんですか？

浜田　いや、違うよ。ジャパンにウチの娘のソチ（浜田）が来たから。そのときジャパンにはプロレスを教えられる人間がいないってことだったから手伝ったんだけどね。

――そうやって関わっていたのが、いつのまにか大仁田さんと伝説のケンカマッチを繰り広げるハメになってましたよね。

浜田　（しばらく沈黙して）……あれは大仁田が来たから悪いんだよ！　あいつさえ来なければ、何もなく普通にコーチとしてやっていけたんだから。引退した人間が来て、どうのこうの言うのがおかしいんだよ。いまになって思えば、オレは大仁田が現役復帰するキッカケを作ったようなもんだな。（吐き捨てるように）アホみてえなもんだな！

――でも、あれが日本のインディーの原点になったと思うんですけどね。

浜田　まあ、いろんな揉め事があったけど、その中のひとつひとつに全部オレがいるんだよなぁ……（しみじみと）。何でだろうね？　よっぽどツイてねえのかな？

――ダハハハハ！　でも、歴史的な瞬間に居合わせてるわけですから、これはある意味、凄いことですよ！

浜田　でも、それが何一つ金には結びつかないからね（笑）。

――正直言って、あのとき大仁田さんとの試合をやればジャパン女子の選手から反発を食らうというのはわかっていたわけですよね？

浜田　……そりゃね。

――それでも敢えて試合をしたというのは、「組まれた以上は試合はする！」という信念からだ

バトラーツ？

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！ 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

ったんですか？

浜田　まあ、オレの哲学だね。あの頃、ジャパン女子にいてキャリアがあったのは、ジャッキー佐藤とナンシー久美だけでしょ。神取（忍）とか風間（ルミ）もいたけどさ、あの頃はデビューしたばっかりだったからね。そんなプロレスのプの字も知らねえ人間が、とやかく言うもんじゃねえよ！

――なるほど。選手たちは「私たちのリングで男子プロレスをしないで！」って泣いてましたけどね。

浜田　確かに彼女たちの言い分もわかる。でも、「私たちのリング」うんぬんじゃねえんだよ！　オレに言わせりゃ、「男のプロレスってものを目の前で観てみなさい」ってことだから。それを目の前で見て、そこから何かを掴み取ってくれればいいというプラス思考でオレは試合をしたわけだから。そういう部分を汲み取ってくれたら、あの団体ももっともっと面白くなったんじゃねえかと思うけどね。

――その後、ユニバーサルでは男子の団体なのに女子の試合もバンバンやってましたからね。そういう意味じゃ、浜田さんが先駆けとなって火を付けてるんですよね（笑）。ユニバーサルもジャパニーズ・ルチャの先駆けだったし。

浜田　そうだよね。あのまま我慢してやってれば、みんないま頃いい生活をしてたんじゃないのかな？　オレはその原点を作ってるだけで、まったくいい生活出来てないんだけどね（笑）。

――ダハハハハ！　いま、話にも出たユニバーサルも結局ゴタゴタでダメになっちゃったわけですけど……。

浜田　あのさ、さっきからゴタゴタの話ばっかり聞いてないか？　ホントは今日、オレの取材じゃなくてゴタゴタの取材に来たんだろ（笑）。

――いや、違いますよ（笑）。

浜田　ホント？　まあ、話を戻すとユニバーサルの場合は単純な話で資金難だよな。

――そうらしいですね。

浜田　知ってるんだったらオレに聞くんじゃねえよ（笑）。「そうらしいですね」なんて言っちゃって、まったく！

――ダハハハハ！　すいません！

浜田　結局、支払いが追いつかなくなっちゃったわけでしょ。給料も払えなくなって、生活できなくてみんな辞めちゃった。その詳しい事情ってのも、オレはメヒコに行ってたから知らないんだよ。それにオレは多少遅れていたけど、ギャラはちゃんともらってたから、余計に文句は言えないしね。「みんな、我慢して頑張ろうぜ！」って言う資格もオレにはないんだ。

――あのときの浜田さんは選手側と新間さんのフロント側、両方の気持ちが分かる立場だったと思うんですよ。

浜田　そうだね。選手にしても経営者側の気持ちを考えないといけないだろうし、経営者にしても選手の気持ちを考えなきゃいけないだろうし。両方に思いやりがなかったんだな。どっちがいい悪いという問題じゃないよ。「もう我慢が出来ないから辞めよう」って話だよ。

――普通に接している分には、どっちの言い分もわかると？

浜田　そうだよ。オレも全てを把握してたわけじゃないけどね。

――そんな浜田さんが一番最後に体験したゴタゴタというのが、みちのくプロレスの分裂騒動だと思うんですが……。

90年6月に日本初のルチャリブレ団体「ユニバーサル・レスリング連盟」が旗揚げ！　浜田はエストレージャ（ルチャのスーパースターの意）と共に、実力を存分に発揮。これがみちプロ、闘龍門などの源流だ。

大仁田現役復帰のキッカケになるとはアホみてえなモンだ！

浜田　またゴタゴタの話!?（笑）。まあ、みちのくの分裂もデルフィン離脱に端を発してるんだけどね、オレも詳しいことはよくわかんないんだよ。つい最近の藤田（穣）と愚乱・浪花の離脱のことならわかるけどね。

――あ、ぜひ聞かせて下さい！

浜田　なぜなら、あいつら2人に直接いろいろ話を聞いたりしてるからね。まあ、会社の味方をするわけじゃないけどね、いまの若い子ってああいう感じなのかな？　自分達の言い分や考えは必要だと思うけど、やっぱりある程度のガマンは必要だから。

――確かに、「雑用はイヤなんです」っていう言い訳にちょっと説得力がなかったかなという気はしましたね。

浜田　あいつらが仙台で辞めることになった前日かな、浪花と一緒にメシを食ったんだよ。「もうイヤになりましたよ」って言うからさ、「もうちょっと我慢しろよ。東京に帰ってから、ゆっくり話をしよう」って言ったんだよ。そしたらオレの目の前で「はい。わかりました」って言ったんだよな。それで次の日、オレは自分の試合が終わったら先に帰ったんだよ。そんで新幹線を待ってたら電話が入って、「藤田と浪花が辞めると言ってる」なんて連絡が入ってきてさ。

――また、浜田さんのいないところでゴタゴタが起こったわけですね（笑）。

浜田　あれは腹立ったな！　「はい。わかりました」って言った人間が何で次の日に辞めてやがるんだって！　オレはいろんな団体を転々としてきて、我慢ということを身体で覚えてきたからさ、それを若いヤツに伝えようと思ったけど……抑えきれなかったね（しみじみと）。

――浜田さんが柔道や新日本とかで経験してきた我慢のレベルなんて、相当凄かったわけでしょうからね。

浜田　もう、我慢で生きてるようなもんだよ（笑）。やっぱり苦労をした後に、いい思いをした方が最高でしょ。苦労もしないでいい思いだけしてると、後で絶対苦労するようになるよ！　……いまちょっとカッコいいこと言ってるだろ？（笑）。

――ええ、浜田さんのようなキャリアがなきゃ言えない言葉ですよ！　じゃあ、大阪プロレスについては……。

浜田　（もの凄い勢いで言葉を遮り）知りませんっ！　昔、一緒にやってた連中だけど、最近は全然見てないし。オレは余計な知識は入れないから。プロレス雑誌も、自分から好んで読むわけでもないしね。そういう知識を下手に入れちゃうと、その現場に居合わせた人間にいろいろ聞きたくなっちゃうじゃん。一切知識を入れなければ、そんなこ

プロレスでは我慢できるけど、パチンコだけは我慢できねえな（笑）

ともない。簡単な話だよ（笑）。

――なるほど。じゃあ、実際に（ディック）東郷選手がみちのくに戻ってきたりして、ようやく初めてわかるという感じなんですね（笑）。

浜田 「おう、また一緒にやろうぜ」って感じ。なんで辞めたとか聞く必要もない！　だって、イヤだから辞めてきたわけでしょ？　イヤな話なんか聞きたくないもん。

――それは非常によくわかりますね。いい話しか聞きたくない、と（笑）。

浜田 そうそう。金になる話なら聞きたいよ（笑）。

――その辺の感覚はメキシカン的ですよね（笑）。浜田さんは根がメキシコ人なんですよ、きっと。

浜田 ああ、最近オレもそう思ってきた（笑）。簡単な人間だからね。要するにゴタゴタには一切絡みたくない！　いい試合をして、その後でうまい酒を飲んで。……それが金に結びつけばいいんだけどね。

――金を儲けたいなと（笑）。お金はギャンブルに消えちゃうんですか？

浜田 まあ、パチンコをちょっとやるぐらいだから、そんなに出費はしてないよ。自分の小遣いとヘソクリの範囲内でやってるから（笑）。

――パチンコの収支はどうですか？

浜田 儲かってりゃこんな苦労するかってんだよ!?

――ダハハハハ！　うまくいかないですねぇ（笑）。最近はプロレスラーが手っ取り早く儲ける手段として、『PRIDE』のような総合格闘技も出てきてますね。浜田さんは最近「『PRIDE』にも興味がある」と発言されてましたけど。

浜田 オレも柔道をやってきたからね、「総合格闘技の試合に出ないか？」っていうオファーが来たらやってみたいなとは思うよね。言っとくけど、これはすぐに「やる」ってわけじゃないよ！

――ええ。興味があるってことですね。

浜田 それに、いいギャラが伴えば言うことないけどね。

96年秋に開催されてた新日本のジュニアタッグリーグに浜田も出場。それにしても、クリス・ベノワ、ディーン・マレンコ、エディ・ゲレロにスコーピオなど、凄まじいメンバーが集まっていたモノだ。

――最近、カト・クン・リーが総合格闘技の試合に出ることになったんですけど……。

浜田 （呆気にとられて）ええ～っ!!　あいつが出てどうすんだよ!?

――あ、やっぱり知らなかったんですね（笑）。「ケンカは強い」って伝説があるんで非常に興味深いんですけど。

浜田 あいつ、オレより歳だよ！　もうガタガタじゃん（笑）。へぇ～、頑張ってねぇ～（と、他人事のように）。

――一応、応援はするんですね（笑）。

浜田 してねえよ！　別に、他人のことなんかどうでもいいもん！　まあ、そういうチャンスがあって、本人も出るっていうのはいいことだね。オレも話があったら、「出てみたいな」という気持ちはあるよ。

――浜田さんは自分からどっかの団体に出てみたいという気持ちは持たないタイプなんですか？

浜田 あんまり自分からは動かないよね。

――とにかく「声がかかれば……」っていうスタンスなんですね。

浜田 サービス精神に欠けてるんだろうね。でも、それでいいんだよ！　パチンコする時間がオレにはあるから！

――楽しく生きられればいい、と。

浜田 そうだよ。もう人生半分以上生きてるんだから、残りの人生も楽しく生きていかないと！

――いま所属しているみちのくプロレスでもすでに長いと思いますけど、サスケ社長っていう人はいかがですか？

浜田 ……いいんじゃない？　自分で判断してよ。

――えっ？　面白い人だし、ボクは大好きなんですけど……。

浜田 じゃあ、それでいいじゃない？　ごめんね、あんまり人のことはとやかく言いたくないんだよ。ああだこうだ言うと、必ず「どうしてですか？」と聞かれる。その質問に対して一つずつ細かく答えないといけないでしょ？　そういうのが嫌いなの！　サスケも7～8年も小さい団体ながら一生懸命やってるんだから、いいと思うよ。まあ、ゴタゴタがあって、ついていけない人間は辞めていったけどね。さっきのガマンの話と同じで、ガマン出来る人間が残ってるんだよ。

オレは、この先みちプロがどうなるか見ていたいと思うしね。たしかにいまはつらいけどさ、そのうちよくなったときはギャラをいっぱいもらおうと（笑）。まだまだ老体に鞭打って頑張らないとね。

――それまでは、また我慢なんですね。いやぁ、ホントに今日のキーワードは我慢ですね。

浜田 オレもプロレスでは我慢出来るんだけどね、どうしてもパチンコだけは我慢出来ねえなぁ（笑）。まあ、オレはプロレスラーだからさ！　プロレスさえ出来れば、他に我慢することなんてないんだよ！　リング上で自分の試合だけ全力を尽くせばいいんだけだもん。

――日本のルチャの選手は、そういうメキシコ的な考え方をした方がいいのかもしれないですね（笑）。

浜田 ……今日は揉め事の話ばっかり聞いてくるから疲れたな（笑）。

――ダハハハハ！　今日はありがとうございました。

【7月12日都内パチンコ店横の喫茶店にて収録】

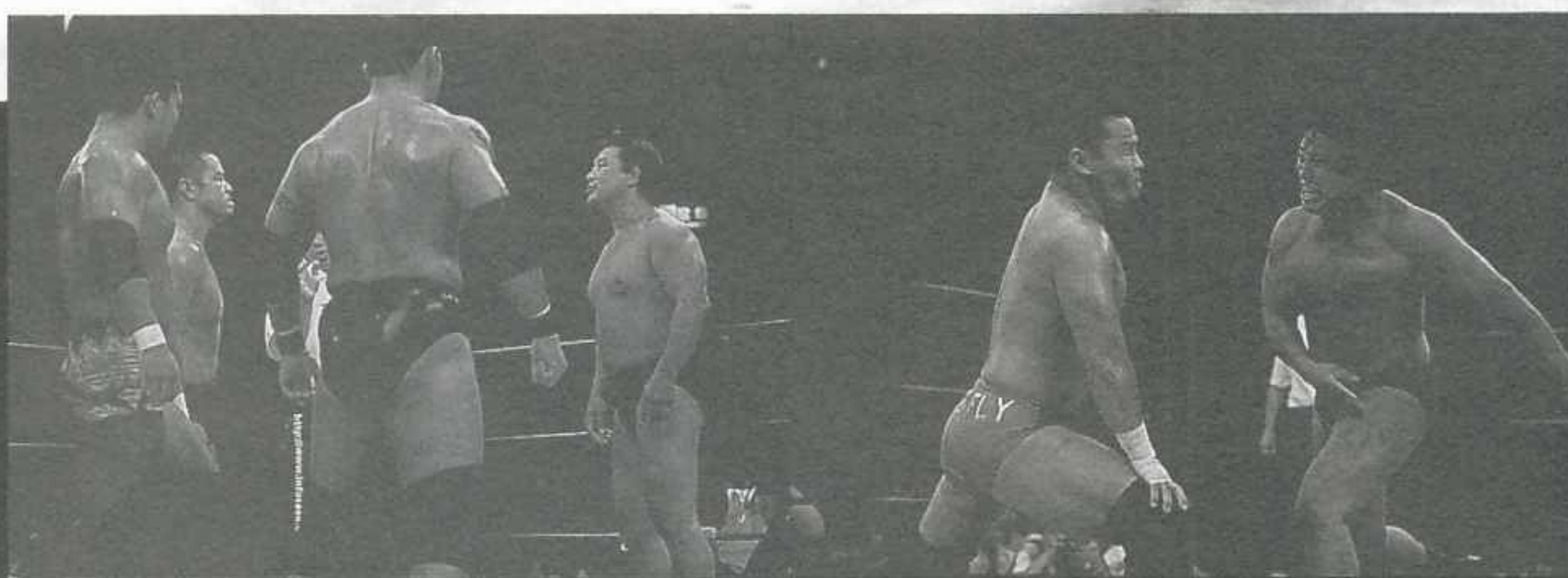
【ぐらん・はまだ】本名・浜田広秋。S25年11月27日、群馬県前橋市出身。47年に旗揚げ間もない新日本で藤波辰巳戦でデビュー。30周年を迎える大ベテラン。長くメキシコマットを主戦場とする、日本人ルチャドールの第一人者。167cm、92kg。

バトラーツ？

いつまでも“窮地”じゃねえよ!!（村上一成調）

7・5 バトラーツ

熱気集会

Report

田中将斗、邪道、外道のコンプリート・プレイヤーズと1vs 3マッチを敢行した石川社長。最初から勝ち目があるわけがないが、案の定、これまでの人生の中で最大の流血に追い込まれた。それでも不敵＆不気味＆狂気の笑みを浮かべ、石川は延髄斬りをブチ込んでいく。猪木vs国際軍団では、あと１人というところまで猪木が突破したが、石川の情念は力尽き、１人も勝ち抜けずにマットに這いつくばってしまった。しかし、決着が付いても石川を痛ぶるコンプリをアッという間に蹴散らしたのが、石川の宿敵・村上一成だったから驚いた！　この２人は共闘していくのか、それとも……。

石川雄規、1vs3で“狂鬼”になる!!

喧嘩心と冒険心!! バトの"核"はただいま臼田勝美にあり!!

96年4月の旗揚げから98年11月の両国のころまでは、地方も含めて足繁くバトの会場に通っていた。最近は、ビッグマッチ（バトなりの）しか行かないが、バトラーツがいつも〝窮地〟といわれてるような印象を受ける。

いつまで窮地なんだよ、オイ。と、ボクは窮地というものに対して食傷気味だった。

そして、〝窮地〟といわれる度に使われるのが、〝熱〟という言葉である。バトに旗揚げ当初の熱を。バトに熱が戻ってきた。〝窮地〟という言葉とセットになって、〝熱〟という言葉は、そんな使い方をされてきた（ように思う）。

ところで熱ってなんだ？

臀部のことか？　それはケツか。

演出としての熱――。

売りとしての熱――。

ビジネスとしての熱――。

同情としての熱――。

そういう類の熱は、ほんの一瞬で冷める。

でも、ここのところのバトに熱が戻りつつあると言われても、ズバリ言って、そういう類の熱しか感じ取れなかった。

もちろん、村上一成や松井大二郎などに代表される、熱を持った闘い方をする外部の人間が入ってきた試合などはバツグンに面白いし、バト内でも面白い試合はたくさんある。

でも、ボクがバトに感じたいのは、〝地熱〟のようなものなのだ。バトの内部からジワッと滲み出てくるような地熱だ。

それを生むのは大会のコンセプトや、試合スタイルではない。もちろん、アングルでもない。おそらくそれは、〝方向性〟と言われるようなものだろう。

極真空手がかつて〝地上最強の空手〟を謳ったように、バトにも目指すベクトルが必要な気がするのだ。

「やっぱり方向性がガチッと決まらないと人間というのは力が出ないんだよね。100の力を200にするくらいの。『あそこを攻めるぞー！』って言った時にやっぱり進軍ラッパでね、みんなが突進していかなきゃ」

と、アントン総帥が最近言っていたが、バトにはいまだからこそ、方向性が必要なような気がする。

かつて極真空手は、〝地上最強の空手〟と謳った。これはさっき言ったか。

創始者である大山倍達が、実際に地上最強かどうかはともかく、いや、仮にそうじゃなくても、〝地上最強の空手〟を目指すベクトルは本物だった。だからこそ、極真には求心力がついたのだ。

そんなことを漠然と考えてるうちに、7・5の後楽園大会がやってきた。

その名も『熱気集会』――。

たしかにいつもよりは熱気は感じた。面白かった。でも、地熱は感じない。それが正直なところだ。

しかし、臼田勝美が、ZERO―ONEの高岩竜一を破ったときに起こった、大「ウスダコール」を聞い

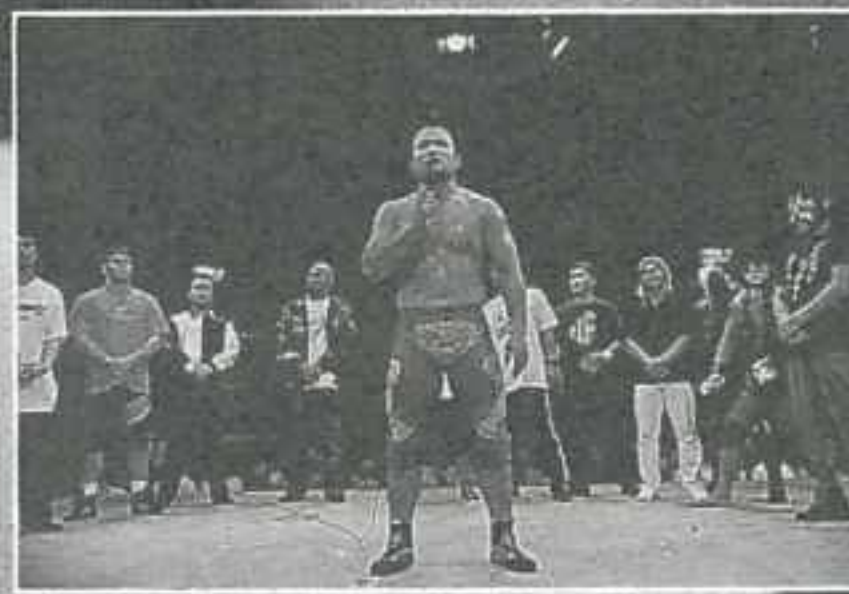
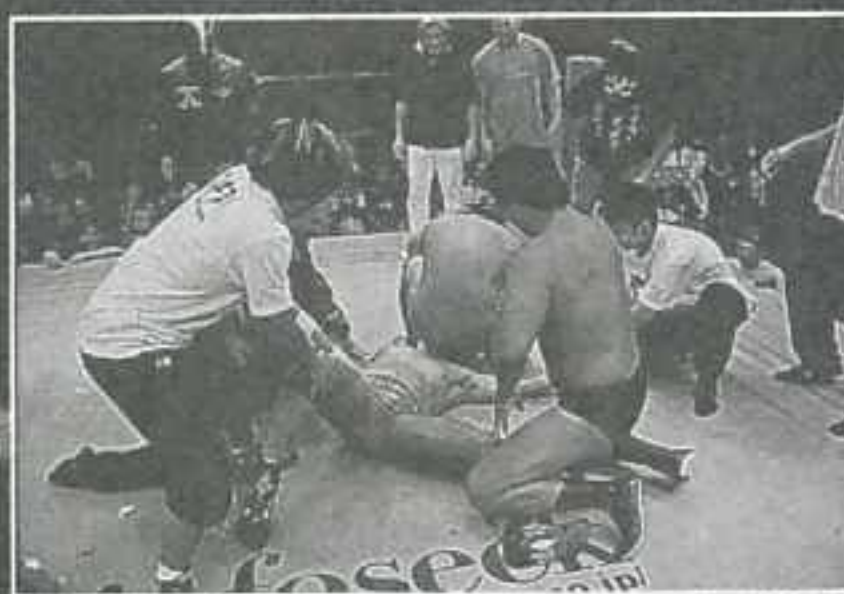
ZERO―ONEの高岩竜一を、「KOTC」でリッチを破ったのと同じ技、ヒール・ホールドで撃破した瞬間、後楽園は世界初の大「ウスダコール」に包まれた。デスバレーやパワーボムなど重たい攻撃を凌ぎ、最後は「ナメんじぇねえ」という気持ちで一本！　それにしてもワッシーと較べると、高岩は巨人だ！

て、もしかしたら、いまバトの核を担ってるのは、この男じゃないかという気がしてきた。
本人に聞いても「担ってないっスよ」と言うに決まってるが、臼田には、〝冒険心〟と〝喧嘩心〟がある。
バトは冒険心を核としていたから、「格闘探偵団」と名乗ったのではないか？　喧嘩心があったから初期に「喧嘩格闘プロレス」と名乗っていたのではないか？
臼田はもう何年も前に、ヴァリッジ・イズマイウにブラジルまで挑みに行った。今年の4月には、知らないうちにアメリカで、総合ルールでのシュート・マッチに出陣した。そして、ご存じの通り、この6月には『ＫＯＴＣ』で、桜庭和志と闘って名を馳せたシャノン・〝ザ・キャノン〟・リッチも破っている。
バトには、もともと強いと聞けば挑み、面白いと聞けば飛んで行く。バーリ・トゥードだろうが、ルチャだろうが、どこにでも出撃する。そういう冒険心と喧嘩心があったはずだ。そういえば、プロレスをナメたことをした某空手団体と喧嘩したときのバトは素敵だったよな。
バトよ、キミたちが目指すのも〝地上最強のプロレス〟だったはずだ。それを漫画のようにやってきたのがバトだったのだ。
ボクはバトにウマいプロレスは求めていない。他の団体でいくらでも見れるからだ。バラエティに富んだ興行が見たいわけでもない。そんなもんはメジャーでもインディーでもやっているからだ。
10・14、バトは動員が難しいと言われるＮＫホールに進出する。ＮＫを満員にしろ！　満員のファンをビックリさせてくれ！
いつまでも窮地なんて言ってるな。冒険して、喧嘩しまくれ。おやすみなさい。
【ノビー】

7・5 バトラーツ
熱気集会
Report

髙田道場とZERO-ONEが熱気集会

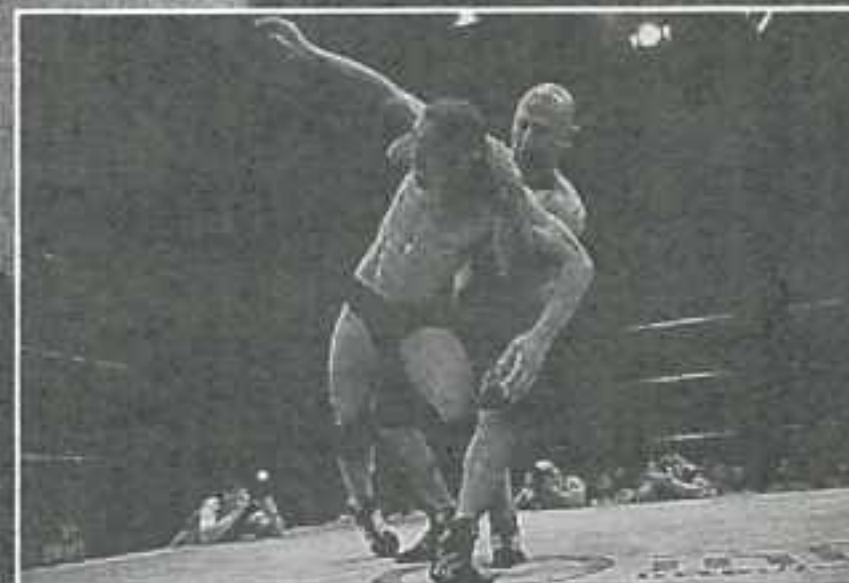
松井＆カールvs大谷＆日高の、まさに熱気集会的なタッグ戦も実現！　髙田道場とZERO-ONEが遂に初遭遇を果たした。松井が日高を斬って落としたが、試合後は大谷が「松井！気に入った！」とマイクで叫べば、松井も「大谷、熱いな、コノヤロー！」と返した

アーバン・ケン！　涙と笑いの引退!!

「アーバン・ケンに負けないくらい、次の人生頑張っていきます！」。石川社長との3分間のエキシビジョンを終えたアーケンは、そう言って、たった1年半の現役生活に別れを告げ……られるわけはなく、最後はつぼのバーミヤン・スターンプ！　じゃあな、アーケン！

アレク相手にホントに期待の新人デビュー

ごく一部の関係者の間では、本誌鬼畜編集長の山口日昇に顔がソックリだと言われる大場貴弘が、アレクを相手にデビューを果たした。B-CLUB出身の24歳だが、マット捌きはデビュー戦とは思えないほどスムーズ。アレクからエスケープを奪うも、最後は力尽きた。頑張れよ、山口！（違うか）

rinning』
(格闘探偵団バトラーツ公式ファンクラブ会報)

出張版

の「書く闘探偵団!!」

ブレイク目前の臼田勝美が、アメリカ格闘探偵を自分リポート❶

ゴッチさんとの再会、そして本当に久しぶりに社長とゆっくり時間を過ごせたことが俺にとっては嬉しかった

4月24日～29日まで、社長（石川雄規）と2人でアメリカに行ってきた。

現地時間で4月27日に、アメリカはフロリダ州タンパのウィンターヘブンというところで行われたタイガーズ・ワールド・ジム主催のシュート・ファイト大会に出場するために行ってきたんだが……。

試合もさることながら、俺的には今回は（カール・）ゴッチさんに会えるってことが一番の楽しみだった。

試合当日、社長とタイガーズ・ワールド・ジムのリックさんと俺の3人で、社長が借りたレンタカーでゴッチさんを迎えに、ゴッチさんの自宅へと向かった。

途中、いくつもの湖と森林を通り過ぎながら、俺は『プロレスの神様・ゴッチさんは、こんな大自然に囲まれたところに住んでいるのかぁ～』と思いながら、まっすぐに続く道を見てアメリカという国の広さ、デカさを感じていた。

ゴッチさんの自宅に着いた。社長がドアをノックする。

家の中から神様が出てきた。

俺もゴッチさんに会うのは10年ぶりだ。さすがに少し緊張した。

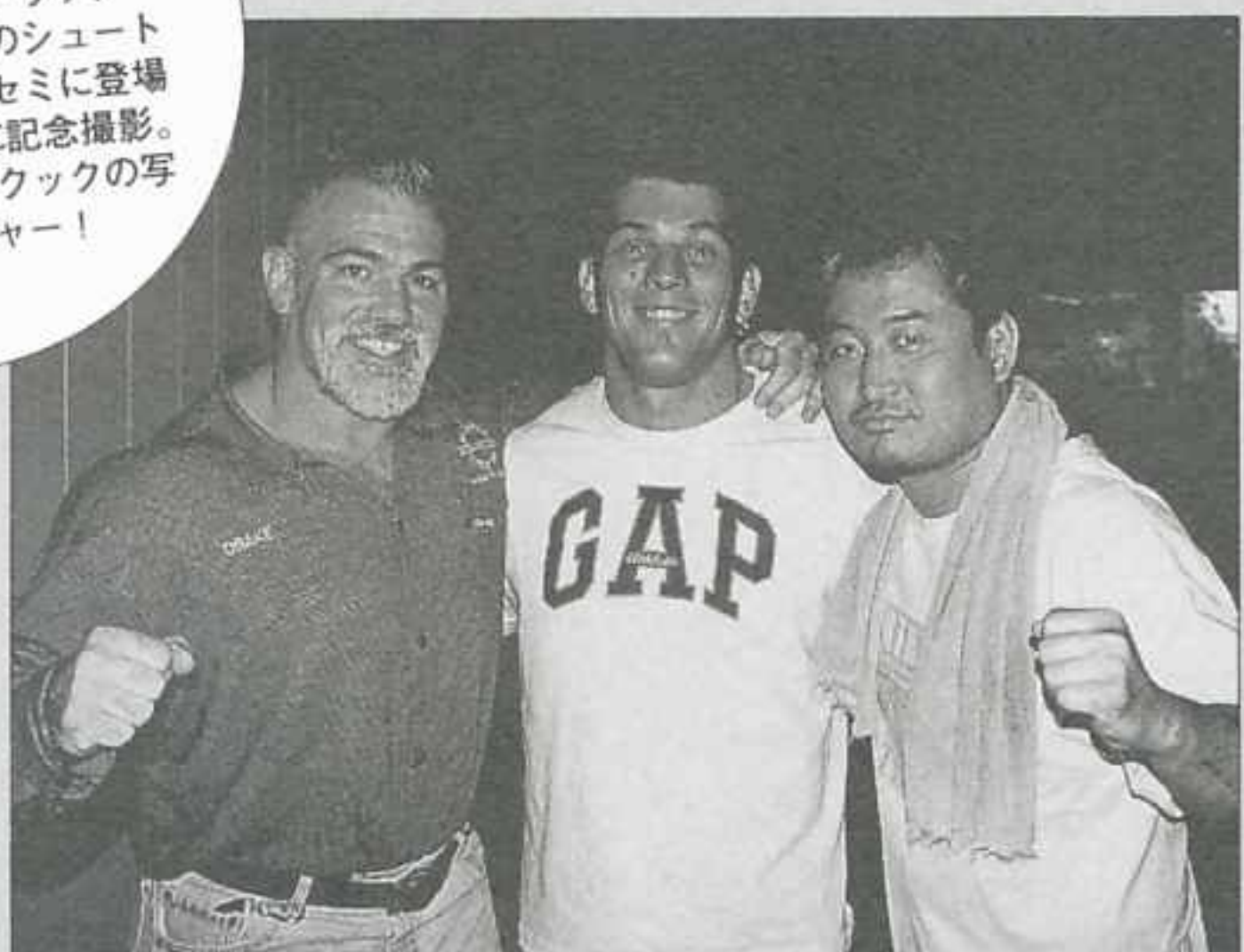
最初はゴッチさんも口数が少なかったが、車中レスリングの話になると、10年前とまったく変わらず、約1時間、タイガーズ・ワールド・ジムに着くまで、話が途切れることはなかった。

4月下旬、神様とエロ社長と総合ルールで、アメリカを満喫！

日本のプロレスファンのイメージでは、カール・ゴッチという人は非常に厳格な頑固者という印象だと思うが、俺の中ではゴッチさんはユーモアがあって、とってもオチャメなおじちゃんって感じだ。

ジムに着くなりゴッチさんに「ウスダ!!」と呼ばれ、いきなり「ブリッジをしてみろ！」と言われた。そして「トーイ！」と社長も呼ばれ、2人でゴッチさんから「こういうやり方のプッシュアップは知ってるか？」「こういうのもあるんだ。やってみろ！」と、いままで見たこともないプッシュアップをその場でやらされた。社長と2人でプッシュアップをしながら『なんか新弟子の頃を思い出すなぁ。懐かしいなぁ』とノスタルジックな気分になった。

"プロレスの神様" カール・ゴッチと10年ぶりに再会したウッシー。ウッシーの原稿に出てくる神様の話は、素敵すぎるほど素敵で、元気すぎるほど元気だ！　ゴッチさんは「50年たってもいまだに拳の握り方に疑問を感じるよ」と言っていた大山倍達総裁のようだ

その日の夜、いよいよ試合だ。全10試合、メインエベントに出ることになった。オープン・フィンガー・グローブを着けての総合ルール。5分3ラウンド、対戦相手はケビン・クックという黒人選手だ。カール（・マレンコ）もこの大会に出場していて、セミファイナルでチョーク・スリーパーで秒殺勝利！　自分の試合が終わると、すぐに俺のセコンドに付いてくれた。

一番左にいるのは6・23『KOTC9』で、その強さと、いいキャラぶりを発揮したティム・カタルフォ。ウッシーが試合した4・27のシュートファイト大会ではセミに登場したカールと一緒に記念撮影。しかし対戦相手のクックの写真はナシ。ウッシャー！

カールと社長の2人がセコンドとしてリング下からアドバイスしてくれる……はずなんだが。

試合が始まると、すぐに社長が「ウッシー、落ち着け！　落ち着け！」と声を張り上げる。

『言われなくても落ち着いてるよ！　始まったばっかじゃん』――内心そう思いつつ次の社長の言葉に笑いそうになった。

「大丈夫だ。松井だと思え！」

そう。ケビンの顔は髙田道場の松井大二郎選手ソックリなのだ。

そして2ラウンド終了後コーナーに戻ると、社長が真顔で「よーし、ウッシー。ラウンドガールはもうこれ以上いないな。ラウンドガール3人とも全員見たからもういいゾ！　次のラウンドで決めろ！」と言い放った。

う～ん、さすがはエロ社長！　アメリカに来てもエロ社長はエロ社長っと妙に感心してしまった。

結局、試合は3ラウンドフルに闘って、時間切れ引き分けだった。

試合後、ゴッチさんにいろいろアドバイスをしてもらった。試合では特にケガもしなかったけど、試合後にゴッチさんにアーム・ロックをかけられて左ヒジを痛めた（笑）。

勝てなかったのは残念だったけど、プロモーターの（デュセル・）バットにも「いい試合だった。サンキュー」と言ってもらえたし、凄く楽しいアメリカ遠征だった。

なによりも、ゴッチさんとの再会、そして新弟子時代以来、本当に久しぶりに社長とゆっくり時間を過ごせたことが俺にとっては嬉しかった。

また行きてぇ～なぁ～、アメリカ!!

【臼田勝美～格闘探偵団バトラーツ公式ファンクラブ会報より】

ブレイク目前の臼田勝美が、アメリカ格闘探偵を自分リポート!❷

しかし、あのレフェリー、なんでストップしなかったんだろう……勝っちゃったじゃねえか（笑）。

『Begin

（格闘

臼田勝美（ウッシー）の「言

6・23『KOTC9』で、あのシャノン・〝ザ・キャノン〟・リッチに激勝

元気ですかーーッ!? 俺はいま右ヒジと、首をケガしてまーすッ!!

とゆーわけで、その右ヒジと、首をケガした試合、6・23、アメリカはカリフォルニアのソボバ・カジノで行われた『キング・オブ・ザ・ケイジ』（以下『KOTC』）での出来事を自分でリポートしよう!（リポートなんてしたかぁねぇけど、山口さんに原稿書けって言われたから……）

まず、アメリカに行く前に苦しんだのが減量。

180ポンドでの契約ウェイトでの試合のため、今回5キロくらい減量をした。今年で31歳の俺は、体質がオヤジ体質に変わったためか、なかなか体重が減ってくれない。大好きな晩酌も週に1度にして、ようやく契約ウェイトまで落とすことに成功!

シンガポール航空で、いざロスアンジェルスへ!

ちなみにシンガポール・エアラインのスッチーは、みんな金星だった。4月にフロリダに行ったときのノースウェスト・エアラインとは、エライ違いだ。

ロスに着いたその日の夕方。「ビバリーヒルズ柔術クラブ」で「ビバ柔」の生徒たちと練習をした。今回の『KOTC9』に出場したRJWの光岡（映二）クンと江（宗勲）クンとも、そこで一緒に練習した。

いよいよ試合当日。本当にクソ暑い日だった。会場に向かう車の中で「このままバックレて、海行きましょうよ、海!」って言葉がノドまで出かかった。

会場に着くと、見たことのあるツルッパゲのガイジンが近寄ってきた。

バス・ルッテンだ!!

あのリッチを破ったウッシーと、『KOTC9』ではデイブ・ベネトゥーのセコンドとして来場したドン・フライ。フライは右ページでウッシー＆カールと一緒に映っているカタルフォ（フライがセコンドに付いたベネトゥーを撃破）と一触即発状態になった！

俺たち日本人を見つけたルッテンは、近寄ってきて、日本語で「ゲンキデスカァー!」と叫んで走り去っていった。俺は、「ルッテン、お主もなかなかやるのぉ」と、心の中で呟いた。

試合の始まる前、ケイジ（金網）の中で各選手がウォームアップを始めた。俺もジュンジ（junji.com）と一緒にウォームアップをしていると、対戦相手のシャノン・〝ザ・キャノン〟・リッチがズゥーッと俺の動きを見ていた。すると、仲間らしき奴がシャノンに何か言っている。

「おまえの相手はプロレス・ボーイだろ。たいしたことはない。イージーだ」

6・23『KOTC9』の会場で、東海テレビの深夜番組『PRE・PRIDE』の第2回大会優勝者、そしてこの日も、アメリカ海兵隊の狙撃兵、ジェラルド・ストレベントを破った光岡映二と。しかし、対戦相手のリッチの写真はナシ。ウッシャー！

そんなようなことを言ってるように俺には聞こえた。その瞬間、俺の横中魂に火がついた!

横中とは、俺が卒業した中学校。ガラスの破損記録が3年連続、八王子でNo.1で、何度か新聞にも載ったことのある、ある意味、有名校だ。

『絶対にタップだけはしないからな!』——俺に試合前にそう思わせたのが、アイツの失敗だ。

試合では三角絞め、逆十字を完全に極められてしまった。

でも、俺はタップしなかった。「これだけ完全に極まってれば、レフェリーがストップするだろう」と思った。ところが……バキバキバキッと、ヒジがブッ壊れる音がしても、レフェリーはストップしない。『なぜだ!?』と、シャノンはビビッたことだろう。

しかし俺もビビッていた。『なんでレフェリーは止めないんだろう?』って……。

なんとか逆十字を逃げて、シャノンの足首を取りヒール・ホールドを極めると、シャノンは、あっさりタップした。

勝った瞬間、俺は心の中で『ザァマァアミロ!!』って思った。

日本人をナメんなよ! プロレスラーをナメんなよ!

試合前に俺に『絶対にタップはしない!』って思わせたのが、シャノン・リッチの失敗だ。そしてタップをしなかったために右ヒジと首をケガしたのが、俺の失敗だ（笑）。

……しかし、あのレフェリー、なんでストップしなかったんだろう……勝っちゃったじゃねえか（笑）。

また行きたいなぁ……『KOTC』……ってゆーか、アメリカ（笑）。

【臼田勝美＝書き下ろし】

グズグズしてるとノリ遅れるゾ！
今すぐキミもノリノリこめ～!!

EVENT ノリノリ情報局

高山堂とは何か？
（高山善廣は24時間働きます！）

高山善廣が個人事務所「高山堂」を設立！　今後はプロレス・格闘技・芸能とグローバルに視野を広げて活動していくという。
高山堂の連絡先は
〒161-0032
東京都新宿区中落合2-12-23-602　ぱる内
電話：03-3386-3324
FAX：03-3565-2700だ。
高山に愛の手を！

―猪木祭りへの序曲―
猪木信者よ、この機会を見逃すな！アントニオ猪木トークショーに行きますかーっ！

8月29日～9月2日の期間にて「アントニオ猪木トークショー　猪木が21世紀の若者たちへのメッセージ今後の格闘技界展望を語る」が以下日程にて開催される。

●名古屋編
8月29日(水) 名古屋国際ホテル　電話：052-961- 5822
●大阪編
8月30日(木) ホテルシーガルてんぽーざん大阪
電話：06-655-5009（5011）
●神戸編　8月31日(金) 西神オリエンタル　電話：078-992-8127
●滋賀編　9月2日(日) ホテルニューサイチアネックス
電話：0775-43-2511
※詳細は各会場窓口まで。

志賀賢太郎（ウマナミ）＆金丸義信トークライブ開催！

[日時] 8月11日(土) 19:00～
[場所] ルネック７Ｆ（ＪＲ勝川駅正面）
[参加方法]
8月30日春日井大会の前売券をアイビーブックス、プロレスバーＳＴＦ、ハイブリット・スポーツプラザにてお求めの方に参加券を差し上げます。
[お問い合せ]
アイビーブックス
（0568-31-0727）まで。

ホイス・グレイシー JAPANツアー2001 セミナーのお知らせ

[東京] 9月8日＆9日　場所：台東リバーサイドスポーツセンター　問い合せ：グレイシー・ギア・ジャパン　0425-30-7547 **[名古屋]** 9月15日＆16日　場所：愛知県スポーツ会館　問い合せ：052-962-7224 **[神戸]** 9月22日＆23日　場所：王子スポーツセンター　問い合せ：090-812-28041　受講料：1日のみ15000円　2日間27000円　※定員次第締め切り。セミナー受講者には全員ホイス・グレイシーからセミナー受講の認定証が授与される。

ものまね王・『ユリオカ超特Qの渋谷ダイナミック』ライブ

[日時] 9月13日(土)
[開場] 19:00 **[開演]** 19:30
[会場] Za Hall
[チケット] 前売り1300円　当日1500円（全席自由）
[お求め先] チケットぴあ
[問い合わせ]
03-5456-8130
ユリオカ超特Qが一念発起して放つ週イチライブ！　ユリオカとゲストとの愉快痛快で一期一会なトーク。この日のゲストはくどめ。

映画『悪名』に高木三四郎が出演

蘇る大和魂
的場浩司×東幹久

的場浩司と東幹久といった若手演技派が数多く出演している青春群像アクション大作『悪名』に我らが高木三四郎がお相撲さんとして出演（なぜだ!?）。監督は多くの男っぽい映画を手がけてきた和泉聖児監督だから間違いなし！　7月28日（土）より全国順次ロードショーなので今から前売り券を買っておくべし！

その他のノリノリNEWS

■トンパチ・プロ　夏休みスペシャルライブ
『八月は野方に行こう』
[日時] 8月17日（金）
[会場] 中野区・野方区民ホール
[料金] 前売り・2000円　当日・2300円
（「チケットぴあ」にて絶賛発売中）
[出演]
ハチミツ二郎　マキタスポーツ　他
[審査員]
バクシーシ山下　山口日昇　ターザン山本　他
※ケガ等により一部出演者変更の場合あり

●

■謙吾ＶＳ佐伯代表決戦直前トークショー
[場所] マルイワン新宿1階　特別催議場
[日時] 8月11日（土）12:00〜13:00
[開催内容] 謙吾選手・佐伯代表トークショー、謙吾選手サイン会、1・8 DEEP2001名古屋大会ビデオ＆DVD発売、パンクラスグッズ販売　等
[問い合わせ] マルイワン新宿　03-3354-0101

●

■高阪剛トークライブ＆サイン会開催
[日時] 8月4日（土）16:00〜
[場所] 吉祥寺PARCO　ワールドスポーツプラザKINGS 特設会場
※トークライブは無料、サイン会は店頭グッズ購入者のみ

●

■ 総合格闘技ジム　坂田道場EVOLUTION
[入会金] 15000円
[月会費] 一般　10000円、中・高・大学生・女性8000円、キッズ会員　6000円　※法人会員も受付。
[練習時間] 火曜日〜土曜日／16:00〜21:30（閉館22:00）　日曜日・祝日／14:00〜19:00（閉館19:30）
[休館日] 毎週月曜日・試合当日・夏期休暇・年末年始など
[住所] 〒454-0013
名古屋市中川区八熊2-4-8 坂田道場
[アクセス] JR線「尾頭橋」駅より西へ徒歩10分　市バス「八熊2丁目」バス停より南へ徒歩1分
[問い合わせ] 052-339-3090

●

■「夕刊プロレス」2000号記念大会開催
[日時] 2001年8月19日（日）　13:00〜15:30
[場所] ディファ有明
[プログラム] ホーキング青山トークライブ
[全日本女子プロレス提供試合] カード未定
[プロレスリング・ノア提供試合]
本田多聞・井上雅央VS丸藤正道・杉浦貴
[入場料] 指定席2500円　自由席2000円
[チケット発売所] ディファ有明（03-5500-3731）、夕刊プロレスHP（http://member.nifty.ne.jp/RXG00410/）
※この大会はプロレスファンの手作りメールマガジン「夕刊プロレス」の創刊2000号を記念するイベントです。

●

■六本木のど真ん中に誕生したフィットネスと格闘技のコミュニケーションスペース「BODY PLANT」
☆ランチタイム格闘技「荒武者グラップリングスクール」
[日時] 毎週火曜日＆金曜日　11:15〜12:15
[参加費] 会員1500円／非会員2000円（ビジター料金）
お昼にランチタイムクラスの格闘技スクールが誕生した！　柔術とレスリングをベースに投げ技から、関節　技、受け身まで楽しく丁寧に指導。知りたければすぐにアクセス！　東京都港区六本木7-14-7 4F
電話：03-5772-2791
詳しくはhttp://www.bodyplwnt.com

●

■Ｊスカイスポーツはホームページをリニューアルオープン!!
アドレスはhttp://www.jskysports.com/

●

■フィットネスショップ水道橋店・格闘技スタジオ
※このスペースでは有名格闘家によるセミナーやスクール、そして時間貸しレンタルスタジオとして、プロから一般の方まで幅広くご利用頂けるスペースとなっております。詳しくは
〒101　東京都千代田区三崎町3-6-13　寺本ビル
電話：03-3265-4646

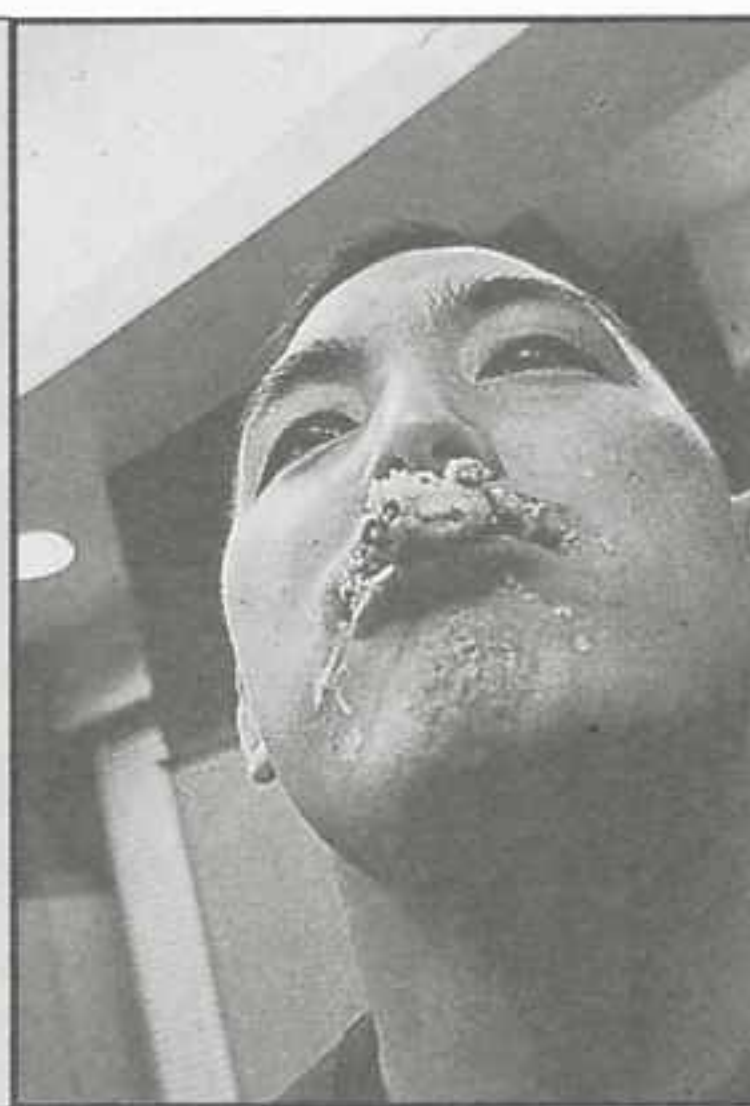
『紙プロmini』もノリノリ!

週プロが“愛モード”なら、『紙プロ』はH“・Feel H”だノリ〜。オフィシャルサイト「格闘MAX」内で『紙プロmini』が始まってるぞ！　タイムリーな情報や壁紙配信など、随時更新!!　今すぐキミも『紙プロmini』に行くノリ〜！
[@KMAX/KAKUTOU/TOP.CG]

ノリノリEVENT報告

6/14 [PUREBRED 大宮] 山本“KID”徳郁＆リオ・ファーディナンド対談

スポーツ好きな人たちのコミュニケーション・ネットワークを作ることが目的に設立された“Desporter”のネットワークで修斗の山本“KID”徳郁とサッカーのイングランド代表のリオ・ファーディナンドが知り合い、KIDの出場した、6月10日のコンテンダーズにリオ選手が観戦に訪れた。試合に感動したリオがPUREBRED大宮ジムに遊びに来てスポーツ談義に花が咲いたという。もっと詳しくは知りたい方はHP http//www.desporter.com

7/1 [お台場／マーシャルアーツカフェ] エンセン井上と楽しく食事会をしよう！

エンセンのＨＰに書き込みをしているファンの掛け声で行われた今回のお食事会。エンセンファンなら誰でも参加できますよ〜！　という呼びかけで約40人が集まった。会はエンセンを囲んでの食事という形で進行。エンセンがこの日のために作ったという写真とコメントの作品をプレゼントするジャンケン大会ぐらいから会は大盛りあがりで２時間の予定がなんと２時間オーバー（すげぇ！）。みんなの晴れ晴れした顔が印象的でした。

ノリノリ情報局に遊びに来てくれたIWGPチャンプ（たぶん）成瀬昌由さん（右）

PART 2

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである――（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場
書評の星座

祝・復刻！　……ということで、鬼の黒崎健時先生の名著『必死の力・必死の心』（日本スポーツ出版社）はここで紹介するスペースがないから、『ゴン格』の連載を参照。さらに皆様からの応援メッセージですっかりやる気が出てきてつい原稿を書きすぎてしまい、2冊分（ターザン本とキム・ドク本）は次号送りとなってしまった書評コーナー。〈e-mail:go@kamipro.com〉

『グレイシー一族の真実 すべては敬愛するエリオのために』
（近藤隆夫／毎日コミュニケーションズ／1800円）

思えば下馬評を完全に覆したマルコ・ファス戦での電撃勝利で東京ドーム中に感動の嵐を吹き荒れさせたはずのアレクも、いまや貯金がなくなったと言われて久しい今日この頃。だったら、その試合でアンチ・プロレス魂に溢れた暴走テレビ解説をしたため「何を言ってるんだ、ボケー！」（アレク）だの「そんなこともわからんとつべこべ言うな、アホー！」（前田日明）だのと当時各地で突っ込まれまくった近藤隆夫君の借金もそろそろチャラにしてあげていいんじゃないだろうか？

そういうわけで、「二宮清純になりたい人」とでも言うべきスポーツライター・近藤隆夫君が二宮清純の推薦文付きでリリースした、装丁だけは異常にカッコいいこの本。

どうも「グレイシー本をいま出すのはタイミングがズレている」なんて声が聞こえてきそうな気がしてならないんだが（幻聴）、ハッキリ言ってそんなことはどうだっていい。

むしろ、これまで『グレイシー柔術の一冊』（日本スポーツ出版社）ぐらいにしか書かれていなかったホリオン・グレイシー対ベニー・ユキーデ戦のことや、そのホリオンが『刑事スタスキー＆ハッチ』のディレクター宅へと掃除に行って夫人から**「あなた、そんなにハンサムなのにどうして清掃をしているの。映画に出ればいいじゃない、俳優になれるわよ、私が主人に言ってあげるわよ」**と言われるなりハリウッド進出を目指したことなんかを知れば知るほど、エリオでもヒクソンでもホイスでもなくハンサム野郎・ホリオン幻想が無限に膨らむばかりなのであった。

さらには、これである。

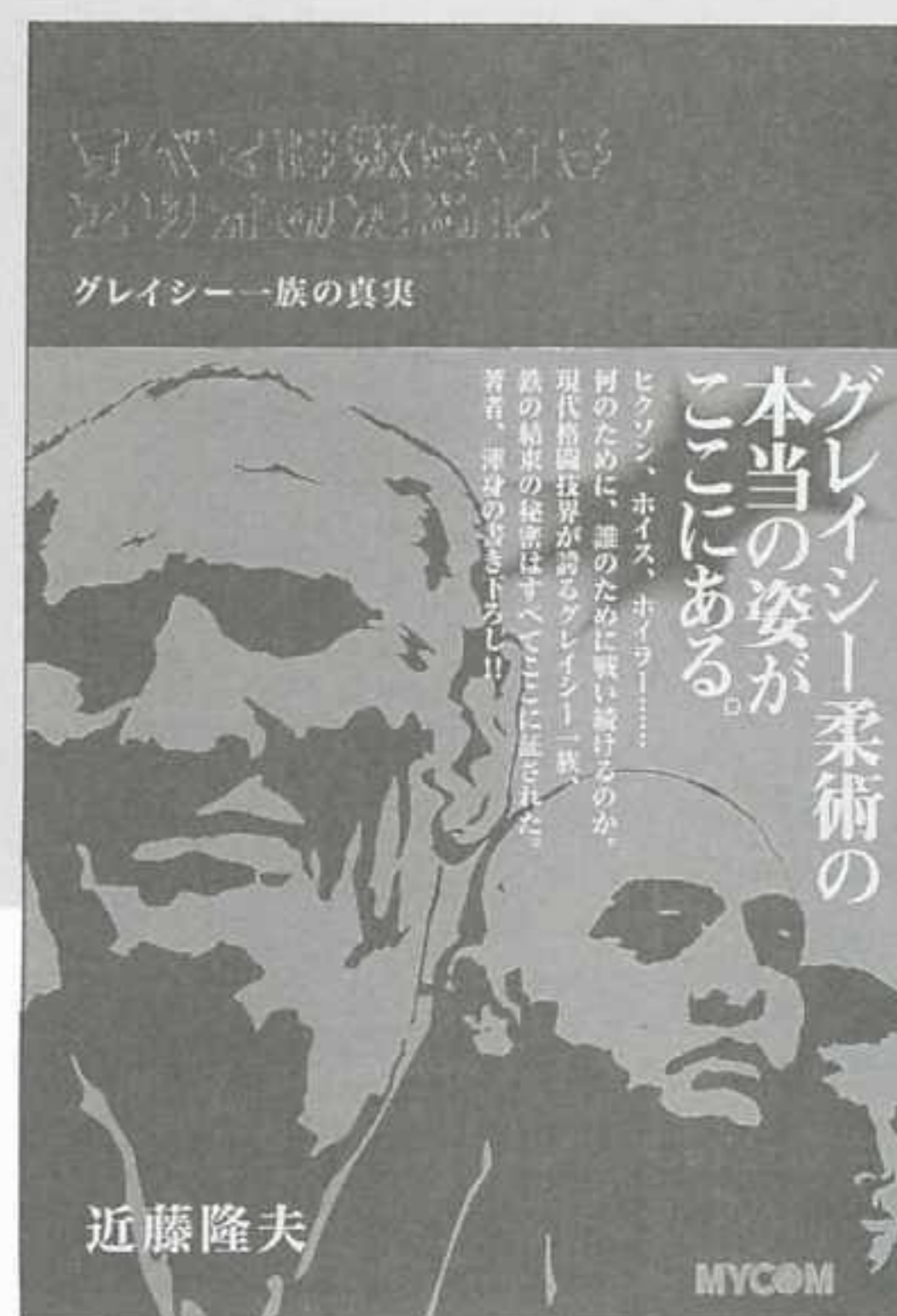
「UFCをスタートさせる際には、試合場をどう設定するかについて、彼は随分考え迷った。選手が逃げられないようにするために金網に囲まれたオクタゴンを用いたわけだが、別の案も多くあったそうだ。『周りに水をためたタンクを設置し、そこにワニを放り込む、あるいは電流を流すというのもあった。当時は真剣だったけど、まあ半分ジョークのようなアイデアだった』」

そう、ホリオンはもはや完全に松永光弘級でしかないデスマッチな発想（W★ING魂）の持ち主だったわけなのである！　凄え！

こんなグレイシー一族の魅力をキッチリ引き出せるのは、ヒクソンとの信頼関係を築き上げた数少ない男・近藤隆夫君ぐらいのもの。

できることなら思いっ切りグレイシー側に偏った原稿を書くことを期待したんだが、桜庭に負けたホイスが**「私は、やめるとは言わなかった。タオルを投げたのはホリオンだ」**と言い訳するなり、近藤君は**「その言葉を聞きながら、私は虚脱感に見舞われた。それはないだろうと思った」**と常識的なことを言い出すから本当に残念なのだ。

これまで信じていたグレイシー一族に裏切られた……。おそらくそんな心境だったのであろうことは、かつて『語ろう！　プロレス』（95年／竹書房文庫）なる書物に残していた近藤君のこんな発言を読めばわかるはず。

「『紙のプロレス』という雑誌があるでしょう。あの本の作りというのは従来のプロレス雑誌とは、まったく違うもので、その手法は、それはそれで面白いのだろうけれどインディ団体と一緒で、もういい加減にしてくれよという部分もある。『世間とプロレスする雑誌』でしたっけ、そういう言葉にも表れているようにね、プロレスが茶化されているんですよ。そう茶化された時点で、もう絶対的なレスラーが生まれないで、お笑い系と化している。プロレスもお笑いも一緒だというのは、本質的には正しいとは思っていても、プロレスファンが、ああいう本を作って、それを迎合して読むファンがいるというのは、僕が好きだったプロレスの世界とは、もう違うんだよ。寂しい気分になりますね」

そんな思いから、幻想の持てる絶対的な存在・グレイシー一族に感情移入をしていったらしい近藤君。ところが敬愛するグレイシー一族まで『紙プロ』や『SRS-DX』に茶化されたのみならず、目の前で当の本人からも説得力のない言い訳をブチ上げられてしまったのだからグレイシー最後の良心・ヒクソンに夢を託す気持ちは決してわからないでもないのである。

なお、マラカナン決戦でエリオを敗った柔道の鬼・木村政彦に対して、当のエリオがこんなことを言っていやがるのがボクにとってはこれまた腹立たしい限りなのであった。

「マラカナン決戦から半年ほど経った頃に、木村は二度にわたりブラジルで、ワルデマ・サンタナという男と試合をしている。ワルデマは、かつてエリオの弟子だった男であり、エリオは公私ともに親身になってワルデマを道場で指導していた。しかし、ある時、エリオはワルデマを破門にした。理由は彼が、『フィクスド・ファイト』に身を染めたからである。フィクスド・ファイト……それは八百長試合のこと。つまり、あらかじめ勝敗を決めているにもかかわらず真剣勝負に見せかけて行われる試合のことである。木村はワルデマと2度戦っているが、その時、ワルデマはすでにエリオに破門されていた。2試合ともフィクスド・ファイトであった」

つまり、エリオは木村政彦のことを「この八百長野郎！」と北尾光司ばりに糾弾していたわけなのだが、そのくせよく読んでみるとワルデマ戦はこんな内容だったらしいのだからボクには非常に納得がいかないというか。

「彼らの取り決めは次のようなものだった。1ラウンドから4ラウンドまでは観客の興味を引くために、お互いが技をかけ合って、いずれも決めることはせずに戦い続ける。そして最終の5ラウンドにはフィクスド・ファイトをやめて真剣勝負を始める。結果、2試合はいずれも5ラウンドの30秒過ぎに木村が勝利を収めている」

そんなの、**「あらかじめ勝敗を決めて」**はいないんだから八百長であるわけがないし、むしろサービス精神に溢れた単なるプロフェッショナルな真剣勝負だとボクは思う。

そして後日、エリオの甥であるカーウソン・グレイシーとの試合を木村が申し込んできたら、エリオはこう断ったらしいのだ。

「あなたはワルデマとフィクスド・ファイトをしましたね。本当は1ラウンドで簡単に決めることができたにもかかわらず、5ラウンドまで戦った。そんなことをした後でカーウソンと戦って、あなたが1ラウンドで勝ったら、世間の人は、どんな風に思うでしょう。カーウソンよりもワルデマの方が強い、そう思うに違いない。そんなことが私に許せるとでもお考えですか」

戦う前から負けることを考える馬鹿がいるかよ！　出てけ！　ボクはエリオにそう言ってやりたい気持ちで一杯なのであった。

『真樹日佐夫のダンディズム人生相談 マッキーに訊け！』
（真樹日佐夫／ぴいぷる社／1400円）

元フルコン・山田編集長が創刊した『格闘Kマガジン』の連載が、遂に単行本化。その後書きに真樹先生らしい筆致でクールに描かれている連載開始時の香気なエピソードを、まずはざっと引用してみるとしよう。

「『ページを開いてみて、『な、なんという――』。思わず絶句。声は裏返り、目は点に。次に山田編集長が来訪した折、『マッキーとはなにかね、マッキーとは』。眉を吊り上げてみせると、わざとのように彼は顎を縮めつつも、『斬新かつ愛嬌があると、大変評判がよろしいのですが』。『俺はマッキーなのか、え？　なぜ事前にひとこと言ってくれなかった』。『こりゃあッ。どやしつけられて終わり、とわかってましたもので』。ご丁寧に物真似までされて、すっかり調子を狂わされた」

【お詫び】ネットでのターザン日記にイニシャル表記で書かれていたため「SはShow氏？　それとも沢野慎太郎・元猪木秘書？」と一部で噂されていた件の真相が、遂に発覚！　本誌No.37の「書評の星座」における佐々木徹氏の著書に関する一部の表現において、関係者各位に多大なご迷惑、ご心労などをおかけしたことをお詫びします。佐々木なだけに「正直スマン！」。という冗談はともかく、全日選手のタイツの履き込みよりも深く反省します。〈吉田豪〉

こんな調子で始まったらしい、この連載。
　自流派を率いる身ながら、空手の雑誌で「**空手なんて、いざという時に役に立つもんじゃないよ。だけど、『自分も死ぬ代わりに相手を道連れにしてやる』というくらいのことはできる、と思いたい**」なんてことをクールに言い切る真樹先生にはつくづくシビレる限りなんだが、なにしろバスジャックなどで続発する少年犯罪について読者に聞かれれば平然とこう答えてみせるほどなのだ。
「**（俺も）青酸カリをひとビン抱えて、『貯水池に叩き込んでやる』って山を彷徨したこともあるくらいだからなぁ（笑）。それを考えるとバスジャックなんて可愛いもんだよ**」
　なんと真樹先生が少年時代に無差別殺人を計画していたことが、いきなり発覚！
　さらには「**日本プロレス史上、セメントで最強の男は誰だと思われますか？**」と聞かれれば、思いっ切り意外なことを即答していくから本当に衝撃的すぎなのである。
「**豊登じゃねぇかなぁ。力道山は生前、『いちばん強いのはトヨだ』と言っていたというしな。豊登というのはちょっと桁違いだったんじゃないか？　現役時代に会ったこともあるけど、なんというかオーラが感じられたね。セメントで強い奴というのはもう技術じゃなくて、腕相撲が強い奴だよ**」
　最強・豊登！　なお、個人的に最も衝撃的だったのは「**フランスの雑誌が俺の特集を組むというので取材された**」という一文なのであった。フランスで真樹先生ブームが!?

『これが勝ち組！　12人の成功プロセスだ』
（大浦淳司／ビジネス教育出版社／1500円）

　スカイ・シンク・システムなる会社の代表取締役が聞き手となって各界の「勝ち組」にインタビューするという構成で、絶賛スカパー放送中の番組『21世紀・成功への旅』。そのうちゲスト12人分のエピソードが、ひっそりと単行本化されたのだが、読んでビックリ。
　米長邦雄、桜井章一、オール巨人、有森裕子といった大物たちと並んで、なぜか藤波辰爾と森下直人という自分の力で会社を成功させたとはどうしても思えない2人の社長が登場しているのだから驚くばかりなのであった。本当に「これが勝ち組」なのか!?
「**その番組でゲストのみなさんと接するうちに感じたのは、12人すべてが現在も勝ち続けていらっしゃる、まさに『勝ち組』と呼ぶにふさわしい方々であり、『一時代を築く人はそれなりのストーリーをお持ちになっている』ということでした**」
　果たして藤波はいまも勝ち続けていて、それなりのストーリーを持っているのか？
　どうしても「**例えば試合中に手がだらんとなって、気合いが抜けているような光景が見えると、控え室から（猪木さんが）飛んでくるわけですよ。で、試合をしている僕らを殴るわけですよ。お客さんは何が何だか分からない。もう、ハプニングですよ（笑）**」といったプロレス人生の有名なエピソードを披露しつつ、「**プロレス以外の世界にも、いろいろ興味はあります。山登りなんかも好きです。料理なんかも好きですし**」などと趣味人ぶりをアピールする藤波を見る限りでは、勝ち組らしい要素は皆無なのだ。
「**無我夢中でやれば道は開ける**」という成功へのアドバイスにしても、自分がない＝無我イズムのアピールだとしか思えないし。
　そしてK－1との違いを「**K・1はキックボクシングに近いルールで、PRIDEはケンカに近いルールです**」とシンプルに説明する森下社長の場合。人生にドラマがあまり感じられないのはもとより、『裏プライド読本』と並べて読めばこの発言にも奥深い何かが感じられてならないのであった。
「**格闘技の世界でビジネスを興そうと思ったときに、やはり相当覚悟がいった部分はありました。まったく知らない世界ですし、個人的に、第三者的に見るとかなりグレーな部分が多い印象がありましたので。それまで普通のビジネスを展開してきていたので、グレーな部分に足を踏み込まなければいけないという覚悟がいりました。ただ現状では、いろんな問題が法律上で整備されていますので、興行という世界も、法律に守られる部分がかなりあると思います**」
　……この発言はフォローしているようで、逆に格闘技興行の恐ろしさをアピールすることになっているとしか思えないのである。

『裏プライド読本　超人気格闘技——もう一つの楽しみ方』
（西本廣司／同朋舎／1300円）

「**『あんまり（PRIDEのことを）ほじくっていると、マジで埋められるぞ』。突然、彼はそう言った。彼とは、格闘技やプロレス業界に強い影響力を持つ、人気格闘技大会のプロデューサーである**」
　あからさまにK－1の石井館長だとしか思えない問題発言も引用してPRIDEのダークサイドを謎の著者が推理しまくる、この本。
　著者プロフィールや、前田日明に対する「**何といっても〝プロレス〟と書いた編集長を女子トイレでボコボコにした御仁。悪口を書いたライターを名指しで『殺してやる』と言ってたりする、シロウト殺しですからね**」という表現を見るだけで、ボクは「お前、西田健（K－1本もリリースしてる『噂の真相』ライター）だろ！」とツッコミたくなった次第なのであった。
　まあ、西田健名義で『噂の真相』に書いたPRIDE暴露記事とかなり内容が被っているので正体は明白だったりするんだが、かつて前田ネタを書いたときには「西田健とかいうヤツを絶対捕まえる！　草の根分けても捕まえる！　俺の全人格、全人勢懸けても絶対捕まえる！」とまで言われておきながらも気にすることなく平気でこんなことを書いていくビッグハートぶりには、つくづく感服するばかり。
「**リングスは、WOWOWの撤退、エース田村潔司をはじめとする選手の大量離脱と続き、2001年4月には、『リングス解散』という風評まで流れる始末。事実上、崩壊したといっていい**」
　いっていいのかよ！　……とまあ、とにかくよく取材してはいるんだろうが著者のプロレス～格闘技に関する知識不足ぶりがちょっと気になってしょうがない一冊なのである。
　たとえば、「**ガラスのチャンプ**」やら「『**高田の腰巾着**』やら『**忠犬**』などと心ないファンから呼ばれて」いるらしい「**プロレスのビデオ収集が趣味というオタクの入った現代っ子**」（すべて初耳）という桜庭の強さについて、彼はこう語っていくのだ。
「**桜庭の肉体は、レスラーとしては、打撃に対する耐久性も、長い時間を戦う持久力もない、実に脆弱なものでしかないのである。つまり、弱っちい選手でしかなかったのだ。今でこそ一流選手と誉れ高い桜庭が、PRIDE参戦前はまったくの無名だったことが何よりの証拠であろう**」
　確かにUインター時代の桜庭は弱かった。
　しかし、「**プロレスがグレイシー柔術登場以前に異種格闘義戦で強かったのは、圧倒的な防御力で、あらゆる攻撃に耐えることができたからだ**」という発言を読む限り、Uインターや一連の異種格闘義戦を迷わずガチと捉えているようだから、それでは他の暴露発言にも説得力がなくなってしまうはず。
「**各団体のチャンピオンというのは、団体のレベルを計る絶好のサンプル。いくら〝プロレス〟といえども、チャンピオンになれるかどうかはガチンコの実力で決める**」
　結局、彼がプロレス自体を正しく理解しているとは到底思えない次第なのである。
　それは、近頃の橋本についてこう書いていることからも容易にうかがえるはずだろう。

「**ZERO－ONEを旗揚げした橋本真也が、プロレス的格闘技大会『真撃』で、WWFの選手を招聘しようとして『WWFの妨害にあった』と断念したというが、WWFにしてみれば、余計なお世話なのである。別に『世間一般』に対して『強い』とは言ってもいないし、八百長とカミングアウトしているWWF選手を、ガチンコの大会に呼ぼうとした橋本は営業妨害そのもの**」
　もちろん、あれはWWFではなく米国の弱小インディー団体から身長だけは大物なタッグチームを真撃に招聘しようとしただけのことだったのだから、それで真撃＝ガチンコ、プロレス＝八百長と短絡的に結論付けてしまう姿勢にもちょっと問題ありすぎなのだ。
　他に「**PRIDEのファイトマネーは、前座クラスでも500万円以上**」という、谷津やアレクが聞いたら憤慨しそうなデータも載っていたりするものの、その辺に目をつぶりさえすればそれなりに楽しめるはず。
「**谷川が、血まみれになった桜庭の姿を『凄惨さこそガチンコだ』と煽り、その姿がスポーツ紙の一面を飾ったと喜ぶ。正直、読んでいるうちに吐き気すらした。今回のルール変更がいかに危険であるかをとうと述べたてた跡に、平然とこう書けるのだ。『桜庭敗れて一人勝ち』、と。本が売れ、雑誌が売れ、自分の番組出演が増えるからだろう。PRIDEが盛り上がり、自分たちが潤うから、そう言いたくもなってくる**」
　こうして谷川さんにだけは必要以上に牙を剥き出しにするのも最高だし、『プロ野球ニュース』での高田は「**中卒でレスラー一本だから常識もないうえ、まったく他のスポーツのことを勉強しない。あげくの果て、本番中、居眠りまでした**」だのと、どこから聞いたのかもわからないが不思議と説得力のあるTV関係者のコメントもかなり絶妙なのだ。
「**トーク番組だったんでいつものダーやビンタが定番。打ち合わせのとき、せっかくだからと、こちらからPRIDEやプロレスの話題はどうですかと聞いてみると、全然、反応しない。それより猪木さんが熱心に話していたのは『豆腐パン』や『ダイエット』の新しい手法。マジでこちらに『みのもんたさんを紹介してもらえないか』、と。『おもいッきりテレビ』で豆腐パンを紹介してほしいみたいでした（笑）**」
　こんな猪木に関する証言にもかなりのリアリティがあるし、何よりもボクが最近気になっている杉良太郎のちょっといい話も掲載されていたから、個人的にはもう文句なし！
「**数少ないヒクソン・グレイシーの日本人の愛弟子に、タレントの山田純太がいる。杉良太郎の実息で、水戸黄門の角さんを演じるが、ロサンゼルス留学中、ヒクソンの道場で学んでいた一人なのだ**」
　杉良ジュニア、恐るべし！
　できればグレイシー・ジャパンの実力者らしい菅原文太ジュニアとのリアル『ネオ格闘王伝説・Jr．WARS』（上川端通先生の傑作劇画）がぜひとも見てみたい今日この頃なのである。

【お詫び】本誌No.37の吉田文豪劇場「書評の星座」における、佐々木徹氏の著書に関する記述の中で、一部に過剰な表現があり、佐々木徹氏及び（株）アミューズブックス及び関係者各位に多大なるご迷惑、ご心労をおかけしたことを、本誌の編集発行人としてお詫びします。吉田豪には、「それはそれで反省するとして、今後とも遠慮すっこたぁねえよ。お互いのプライドがルールだ。死ぬまでやれや、死ぬまで！」と言っておきました。また佐々木徹氏には、いつでも反論、名誉回復のためのスペースを開ける用意があることをお知らせします。〈山口日昇〉

紙のプロレス RADICAL Back Number Information

No.5 高田延彦をもう一丁ッ!!!

↓高田延彦表紙バックナンバー↓

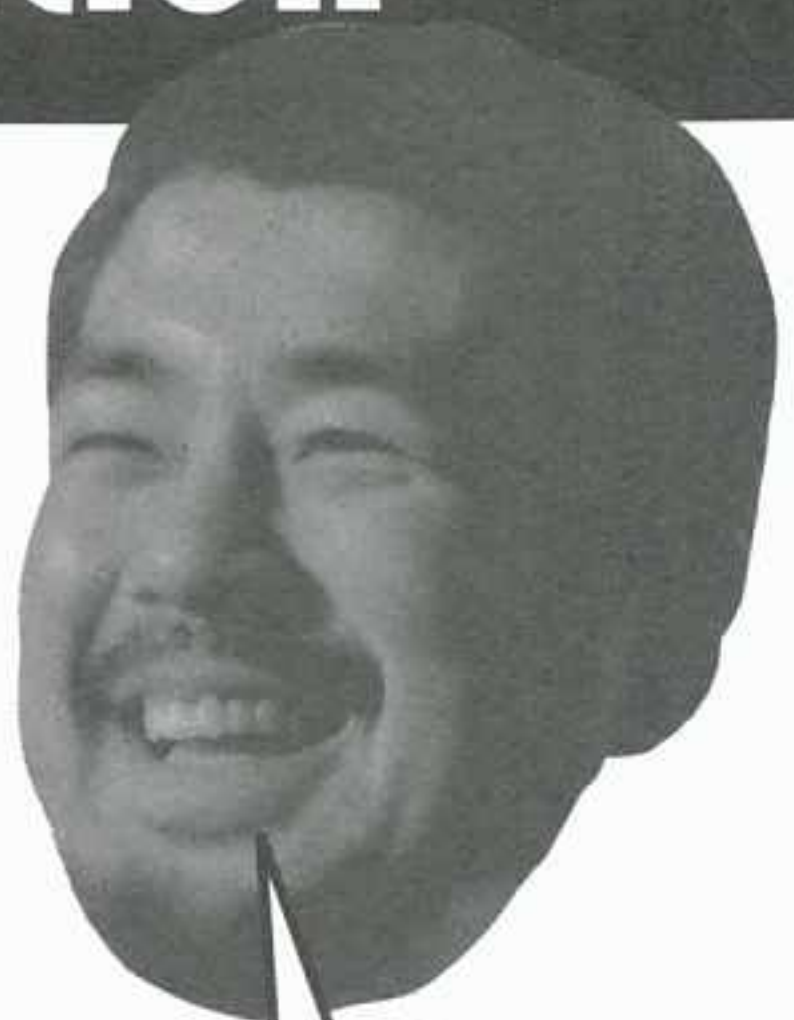
1997年　8月号
★高田延彦、樹海へ……ヒクソン戦直前大特集号
猪木／Puffy／安岡力也／赤井英和／ガッツ石松／浅草キッド／佐山たちが、世紀の一戦・高田vsヒクソン戦を大予想!

No.11　1998年 8月号
★衝撃対談・高田延彦vsエンセン井上が実現!!
リングス・ラストマッチ前田vs山本／引退記念・グレート・カブキ／"S多重アリババ"アポロ菅原

完売間近

No.12　1998年 9月号
★高田延彦、2度目のヒクソン戦直前特集号!
『ガンバレ高田!』浅草キッド／菊田早苗と郷野聡寛が吠える!／ヤマケン・リングス所属時インタビュー

No.19　1999年 6月号
★今度はM・ケアー!　高田延彦の新たな挑戦!!
小川直也『PRIDE』初出陣／上田馬之助にお見舞い／前田日明が小川リングス参戦問題を語る

No.38　2001年 5月号
★高田の"忘れ物"は小川!!ラスト・オブ・「もう一丁ッ!!」
標的は長州!?　ジェラルド・ゴルドー／阿修羅原が突破者人生を語る／ノア3連発!力皇・杉浦・丸藤

忘れ物は、
『紙プロ』
バックナンバー

No.7★田村潔司・「紙プロ」初のロングインタビュー記念号
木村健吾／前田日明／富宅飛駈／垣原賢人／冬木弘道／松永高司／T・アボット

No.10★前田日明vsエンセン井上スクープ対談実現記念号!
高田延彦／谷津嘉章／サスケVS松永高司／北沢幹之／冬木弘道／T・山本

完売間近

No.13★アレクサンダー大塚・『PRIDE』大ブレイク記念号
高田延彦／前田日明／谷津嘉章／浅草キッド／ケンドー・ナガサキ／松永光弘

No.15★小川直也、橋本を破壊! 1・4ドーム大激震号
前田日明／カレリン／馬場さん追悼特集／語ろうマサ・サイトー／佐野なおき

No.16★猪木! 前田! エンセン! ロングインタビュー連発号
田村潔司／坂田亘／高阪剛／山本喧一／M・コールマン／語ろうジャンボ鶴田

No.17★UFO襲撃三昧! オーちゃん大特集号!
桜庭和志／高田延彦／猪木／前田日明／山本宜久／成瀬昌由／タイガー戸口

No.23★1・4新日&『PRIDE』GP2大ドーム特集号
高田延彦／大仁田VSエンセン／前田日明／ヒクソン・グレイシー／ヘンゾ

No.24★頭打ちすぎたかアレク!! 『PRIDE』GP特集号
桜庭和志／田村潔司／堀辺正史／サスケ×矢追純一UFO対談／守山竜介／WWF

No.25★格闘ロマン続行ーッ!!藤田和之『紙プロ』初登場記念号
田村潔司／前田日明／小川直也／村上一成／石川雄規&小路晃／ミスター高橋

No.26★世紀の大一番ホイス戦直前! やっちゃってくれサク!
前田日明&田村潔司／桜庭和志／小川直也／大仁田厚／村浜武洋／斉藤彰俊

No.28★オーちゃん、ヒクソン襲撃準備完了記念号
前田日明／田村潔司／鶴田夫人／ヘンゾ・グレイシー／TKおかん／堀辺正史

No.29★「格闘環境」は激化する! ノア勢「紙プロ」にフル登場!
秋山準／三沢光晴／丸藤正道&金丸義信／桜庭和志／仲野信市／里村明衣子

No.30★『PRIDE.10』直前! 燃えよ! 闘魂の火種!!
村上一成／小川直也／石沢常光／「長州vs大仁田戦」をブッタ斬り／高阪剛

No.31★歴史に残るベスト興行『PRIDE.10』大特集号
小川直也／桜庭&TK／永源遥／ユセフ・トルコ／川田語録／田村潔司

No.32★リングスvs新日! 10・9新プロレスvs純プロレス開戦!
小川直也／高田延彦／サク／前田日明／金原弘光／藤波語録／ラッシャー木村

No.34★「猪木祭り」、「長州vs橋本戦」を斬りまくり! 特大号
小川直也／高田延彦／T・オーティズ／金原弘光／ヴォルク・ハン／藪下めぐみ

No.35★「純プロレス」を考え倒せ! 「純プロレス」徹底検証号
橋本真也／大仁田厚／馳浩／杉浦貴／ジョー樋口／リングスKOK大特集

No.36★面白くなきを面白く! 「純プロレス復興記念号」
橋本真也／三沢光晴／高山善廣／前田日明／桜庭和志／金原弘光／鍋野ゆき江

No.37★小川と三沢が遂に絡んだ!! 純プロレス戦国絵巻号
小川直也／橋本真也／安田忠夫／村上&小路／田村&ヘンゾ／アブダビ大特集

No.39★どうなるんだ! リングス!? 前田日明isデッド!?
前田日明／山本・小川襲撃／金原弘光／田村潔司／田上明／藤原敏男／桜庭和志

紙のプロレス RADICAL
★NO.1〜NO.4
★NO.6
★NO.8/NO.9
★NO.14/NO.18
★NO.20〜NO.22
★NO.27/NO.33
は、完売!!!!

【バックナンバー申し込み方法】

●お申し込みは郵便振替と現金書留の2通りになっております（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）
【郵便振替】00130-3-769154（株）ダブルクロス　　【現金書留】〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロス
●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封して下さい。
●代金は、NO.5〜NO.10=680円　NO.11〜NO.19=780円　NO.21、NO.24〜NO.32、NO.35=840円　NO23、NO.33、NO.34=880円　NO.36〜NO.39=840円　送料1冊=310円　2冊=380円　3冊〜4冊=450円　5冊=520円　6冊以上=700円　※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。
●『紙のプロレス・RADICAL』バックナンバー常備のリスペクト店
アイドール新宿店、新宿ファイター、大山アメリカン、プロレスマニア館、チャンピオン東京、チャンピオン大阪、リングパレス、パディスラム、タコシェ、レッスル渋谷店、レッスル池袋店、書泉ブックマート、書泉ブックタワー、書泉グランデ、ワールドスポーツプラザKINGS（池袋店・渋谷WEST店・新宿アルタ店・名古屋店・大阪店・札幌店・福岡店）、グレート・アントニオ

第8号
特集 さらば新日本プロレス

ワイド座談会／初登場ザ・グレート・サスケにロングインタビュー／セメントインタビュー関根勤／恐山でジンギスカンを食い、八戸で仮面貴族を見た

第13号
特集 道場破りとは何か？

安生グレイシー道場破り失敗事件記念企画 山本小鉄&上田馬之助に緊急インタビュー／サブ特集「ファミコンプロレスとは何か？」デルフィン登場

第14号
特集 神秘とは何か？

佐山聡、大槻ケンヂ、プロボディーガード・清水伯鳳、鈴木みのるが神秘を語る！／遠藤幸吉、高田文夫にロングインタビューを敢行！

第15号
特集 インディペンデントの逆襲

インディーレスラー10人斬り+大物インディー3人 高野拳磁、ポイズン澤田、中牧昭二／巻末特集「K-1とは何か？」石井館長インタビュー

第16号
特集 新日本凸凹大学校

『紙プロ』的昭和新日総力検証
マサ斉藤、キラー・カン、田中ケロ、破壊王、後藤達俊インタビュー／ユセフ・トルコvs由利徹対談

第17号
特集 実況パワフル北朝鮮

猪木×永島のナマハゲ対談（©大仁田）、村松友視がミーハーヒロイズム宣言!? ブル中野、破壊王も登場／巻末特集「藤原組の逆襲」

第19号
特集 さようなら紙のプロレス

『紙プロ』の廃刊騒動の顛末。新編集長誕生!／サスケ×高野拳磁『紙プロ』を偲ぶ座談会ミスター・ポーゴ、山崎一夫インタビュー

第21号
特集 幻的格闘技

古武道を通じてプロレスを考えよう！ 前田日明も登場！ スクープ・寛水流空手二代目会長の世古典代氏登場!／高田文夫、ユセフ・トルコが登場

第22号
特集 この人が喝っ!!

巻頭インタビュー・ジョージ高野／プロレス雑誌を斬る!!／高阪剛、セッド・ジニアス、小佐野景浩、熊久保英幸インタビュー／M・マスカラス宣言号

極真とは何か？

不撓不屈の極真魂が溢れる16人を直撃!／松井章圭館長、磯部清次南米支部長、F・フィリョ、黒澤、ニコラス・ペタス、某格闘技雑誌編集長らインタビュー

パンクラス公式読本［矛］

97年夏当時、横浜道場にいたパンクラシストたちを中心に構成！／なぜか突然、佐山聡が登場！／故・長谷川悟史選手のロングインタビューも掲載

パンクラス公式読本［盾］

97年夏当時、東京道場にいたパンクラシストたちを中心に構成！偶然か、必然か？／故・ジャイアント馬場がパンクラスを語った衝撃のインタビューも掲載!!

紙の前田日明
インタビューという名のエネルギー史

『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で掲載した前田インタビューを再構成してディレクターズ・カットで再録!／引退直前の覚悟のインタビューも新規収録!／完全保存版

【『紙プロ』が独占できる通販方法】

●その他の号、「猪木とは何か?」「猪木とは何か? キラー編」「大山倍達とは何か?」は完売しました。どうしても欲しい方はヤフー・オークションで落札してください。
●代金は半額セールのため、8号は¥700→¥350、11号～22号は¥780→¥390、パンクラス公式読本「矛」「盾」は¥1260→¥630、「極真とは何か?」は¥1530→¥630、「紙の前田日明」は送料込みでサービス価格の¥2000となってます。
●送料は1冊＝¥310、2冊＝¥380、3～4冊＝¥450、5冊＝¥520、6冊以上は¥700となります。
●申し込みは現金書留と郵便振替でお願いします（バックナンバーは通販しか取り扱っていません。）
【現金書留】――〒151－0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3－11－3－702 （株）ダブルクロス
【郵便振替】――00130－3－769154 （株）ダブルクロス

●郵便振替の場合は通信欄に希望号数を明記し、現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封して下さい。

【「紙プロ」本誌・50%OFFセールの王道ショップ】
アイドール新宿店・大山アメリカン・プロレスマニア館・チャンピオン東京・チャンピオン大阪・リングパレス・パディスラム・タコシェ

本誌キャットファイター・松澤チョロの「俺が俺が」な読者ページ

ごくごく近い将来 結婚しますっ!

（いつだったかの高田調で）

前号の座談会でさんざん結婚ネタを突っ込まれていたチョロです。おかげさまで、取材に行く度に「結婚おめでとう!」と声をかけられる毎日。まあ、来年の1月が来れば30歳になるし、結婚のひとつやふたつしてもおかしくない年齢なんだけどさ。ネットの「2ちゃんねる」でも「『紙プロ』チョロの結婚相手って誰?　よくあんなのと結婚する気するよ」と言った、温かいお祝いのお言葉から（違うか?）「ヒント1.こないだまでFMWでマネージャーとかで あがっていた女の子。あの二人がデキていたのは有名。だから『紙プロ』でもインタビューとかやっていた」といった、謎の事情通まで現れる始末。そうか、俺と薫子ちゃんはデキてたのか?　ヒャッホー!（勘違い万歳）

読者の声

★「面白かったのはチョロさんの読者コーナー。やっぱチョロさんやね。久々に"ゆずっ子"の名が『紙プロ』に載って感動やね。『やっぱコンビニはポプラやね』（by鮎川誠）『九州・山口の人限定笑える…やね』」
【山口県・ゆずっ子・22歳・フリーター】

★「面白かったのはゴルドーのページ。今までゴルドーを良い扱いで載せた雑誌はなかったと思う。それが、その『恐さ』を迫力の写真とともに載せてくれた。UFOの一員のゴルドーを扱ってくれると、ますますハマる」
【山梨県・松儀博史・29歳・ドラッグストア勤務】

★「面白かったのはザ・検証。読んでいて声を出して笑ってしまいました。せき詩郎氏の健介ネタは最高です」
【秋田県・佐々木桂・24歳・会社員】

★「面白かったのは田村さんインタビュー。プロレス界の人間関係って複雑」
【香川県・滝川洋子・22歳・保母】

★「滑川康仁インタビューが面白かった。とても弱かったころから気になっていた!!　彼にはカリスマがあったのだろう。そして今、リングスを救うのは彼しかいないと確信した!!　もっと強くなってほしい!!今はただケガの回復を祈るのみ」
【大阪府・川上滋一・36歳・自由業】

★「星野育蒔の表情は本当に良いスね。何故か大友克洋の絵を思い出してしまいました」
【宮城県・入澤琢磨・26歳・寝てます】

★「面白かったのは紙の新聞（特にドラゴンネタ）いつもひとりで涙を流して笑ってます」
【東京都・市橋正浩・39歳・字幕翻訳業】

★「面白かったのは石川雄規with臼田勝美&島田裕二座談会。石川氏がヤケ気味で面白いから」
【宮城県・三井剛・25歳・アルバイト】

★「つまらなかったのはターザンの日記。キモい」
【東京都・渡辺拓也・28歳・グラフィックデザイナー】

イラスト番長★中川画伯

前号から始まった「ほんとにジョーク」。ズバリ言って投稿がほとんどジョーク…じゃなくて、ほとんど来なかったんで、今回はお休み。書いて書いて書いてネタ書いて裸になって●ス掻いて……

名人芸★青木雄大

この混乱期のニッポン すぐれた人材が政治の舞台にのぼり 国を建て直さなければなりません! したがってそれにふさわしくないこの私 出馬しません!!

パチパチパチ パチパチ パチ

乾電池よ、もう一丁

「PRIDEのリングに大きな忘れ物をしてきた・・・」

ノブ兄さんイラストを書いてきてくれた乾電池ちゃん、カラーで載せられなくて正直スワン（それは白鳥）また頼むドン。それと"読者投稿の鬼"青木雄大さん、変わらぬご愛顧の程を

アントニオ文朱&杉田八郎「ポイント インポ」

バックスクリーン100連発 / クロマティ / アミアントン / 500才 / シアトルの門番

○今夜、北勝海に何かが起こる
○リングスの新人2人、とても強そうで良い

リングス 新人

巷ではアントニオ文朱＝杉田八郎説も飛び出しているが、そんなことは誰も興味がないと思うので、あえて調査はしませんよ。

人生長いこと生きていると色んなことが、あるものです。例えば、マイケル・ジャクソンのコンサートで満州で生き別れになった両親と出会ったり、たのきんトリオの電撃解散とか。それでも、地球は回り、巣鴨のピンサロは大繁盛。そして、私は格闘技のイベントをプロデュースします。イベントは、スニーカーを履いた黒服とワンレングスのハウスマヌカン（夜霧）の10対10の勝ち抜き戦を行います。会場は代官山の原発、地下45階。イベント終了後には、お楽しみ抽選会もアルヨ。土俵生活に限界を感じた、私はこうしてプロデュース業を始めることにしました。大麻も密売してるんで、みんな買ってね。あゆからのお願い。さあ、出かけるぞ。T2000と遊びに行くぞ！

星野さん、やっちゃってイイですか?

入澤さん、いいところに目を付けた。俺は星野育蒔のイラストは全部載せますよ!　ふがふが

帰ってきた、ももぢ!!

しばらくご無沙汰だった、ももぢが帰ってきてくれました。これも、前号で、わたくしチョロが読者ページを担当したからだと思われます（自画自賛）。ありがとう、ももぢ。壁に耳あり小路晃。ガンガン行くぞ!

紙の CAT FIGHT 通信

日増しに盛り上がりを見せているキャットファイト界。新日本キャットファイト連盟が月イチ興行を始めたかと思えば、今度は、スカイパーフェクTV913chパラダイスTVが週イチで「エロ生格闘ナイト!!」をスタート。一発目の7月5日放送分では杉作J太郎さん、MANNZAI-Cの西野さん、草凪純ちゃんらが進行役を務め、各種キャットファイトを生紹介。キャット界が熱くなってきたJ! 犬軍団ならぬ猫軍団がマット界を引っかき回す日も近い!?

キャットファイト界のガチンコ女PP-7が、なんとボディ・プラント主催の大会に出場したぞ。藤原道場と掣圏道で練習している神尾選手相手にドローという結果を残した。ちなみにレフェリーはタナケンだ!

おかぁさ～ん、ボクは元気でやってます（片山ボン）

本誌初（?）おぼっちゃま編集部員、片山ボンのお母様から心温まるお手紙が届きました!

「プロレスマスコミで働きたいんだったら東京に出てこなきゃダメですよぉ!」とターザンに言われるがままに東京に出てきたのが本誌・編集見習い片山ぼん。なぜ、ぼんなどというホーリーネームが付いたかというと、そのまんま、ボンボンのおぼっちゃまだからだ。高校時代は月に●0万以上も洋服代に注ぎ込み、レスリー・チャンのコンサートがあれば香港までひとっ飛び。そんな、ぼんちゃんのお母様に『真撃』の取材で訪れた大阪でお会いした。その場所はというとお母様が経営する超高級クラブ。そこで繰り広げられた至福のひとときの模様は次号で紹介!

読めば読むほど心温まり涙なしでは見ることができない素敵なお手紙である。ボクもこんな家庭に生まれたかった。そして、ぼんちゃんのお母様、礼状を書かなければいけないのはボクたちです。今度、取材で大阪に行ったときは、お礼がてら、またおいしいお酒を飲ませて下さい（図々しいな）。最後にお母様、勝手にお手紙を掲載してしまい、正直スマン!

〝悲しき天才〟ジニアス君の勝手にコラム投稿CLIMAX!!
『郷ひろみと昔美人だった人達が教えてくれたプロレスの一番大切なもの』

7月12日（木）府中の森芸術劇場のどりーむホールで行われた、郷ひろみコンサート・ツアー・2001・MOST LOVED HITS OF HIROMI GOを見に行った。

プロレスの世界でも、音楽の世界でも、その場だけで盛り上がり、翌日には全て忘れてしまうというような風潮になっていることは現実である。

あの日、私は、東府中の駅から会場へ向かう道を歩きながら、郷ひろみのコンサートを観に行く昔美人だった人々の顔を注視しながら会場へ向かった。その昔美人だった人々の期待に胸を膨らませた、夢を見に行くような期待感あふれた昔美人だった横顔に、何か人間らしい暖かさを感じずにはいられませんでした。

あの日、会場に来た昔美人だった方々の大半が、30才以上の昔美人だった女性でした。昔美人だった彼女達には、日常という現実があり、様々な悩み、心の葛藤を持っているであろうと思われます。そんな昔美人だった彼女達にとって、唯一、非日常の世界に飛び出すことができるのが、郷ひろみコンサートなのでは……。

子供のような好奇心を持ち、泳げ!ひろみくん（当たりハズレがあり、沈むひろみくんの場合もあり）や要望の高かったストレッチ地の誰でもフィットするTシャツ等グッズを買う昔美人だった彼女達（私は、昔美人だった彼女達の香水の匂いで危うく意識を失う寸前でしたが……）。そして、開演までのわずかな時間に、今から始まる非日常の世界への期待感、それが、昔美人だった彼女達の〝心の安まる場〟なのでは……。

ショーが始まり、幕が開き、郷ひろみの姿が見えた瞬間の昔美人だった彼女達の〝はじけた姿〟は、日常では絶対見ることのできない、非日常であり〝唯一心を無にできる安らぎの場〟なのかもしれない……。

プロレスの世界でも〝心に残る〟というものがなくなってしまっており、音楽の世界でも、去年のレコード大賞を誰が取ったかも分からないほどであり（確か去年のレコード大賞は『らしくもないぜ』だったと……）やはり、音楽の世界も、プロレスと一緒で、その場だけ盛り上がり、翌日には全く忘れてしまうという風潮になってきていることは現実のようです。そういう時代なのかもしれませんが……。

今回の郷ひろみのコンサートの選曲は、ファンからのアンケートの上位20曲をニューアレンジ・バージョンで歌うというもので、インターネットでの第一位は、GOLD FINGER（アッチチ）だったらしいが、ハガキ等も含めた最終結果は、郷ひろみがまだ10代で女の子のようだった頃のナンバーで昭和48年にリリースされた〝よろしく哀愁〟だったことが郷ひろみ本人より観客に伝えられた瞬間の昔美人だった彼女達の拍手を聞いたとき、私は、あぁ、やっぱり、あぁ、なるほどと思い、今日は本当に来てよかったと思いました。きっと昔美人だった彼女達は、あの日のコンサート、そして、あの〝よろしく哀愁〟を一生忘れることはないでしょう。いや、きっとではなく、絶対に……。

私は、プロレスとは何かということをよく考えます。簡単なようで難しいこのテーマですが、あの日の郷ひろみのコンサートを見て、一つの答えが見えたような気がします。

プロである以上、数字というものも大切ではありますが、それ以上に大切なものは、人々の心に何を残すか、何を与えるかということではないでしょうか。会場までの道、泳げ!ひろみくんや昔美人だった方々の要望によるストレッチ地ででもフィットするTシャツ等が売っているグッズ売場、開演を待つまでの一時、コンサート中、帰りの駅までの道、電車の中……あの日の昔美人だった彼女達の本当に幸せそうな昔美人だった顔を見て、私は、あぁ、今の時代にもこんなに暖かくて心に残るものがあるんだなぁ、本当に観に来てよかったと感動していました。

昔美人だった彼女達も、そして私も、あの日のことは一生忘れないでしょう。〝心に残る感動〟……今のプロレスから失われてしまった一番大切なものを郷ひろみさん、そして、昔美人だった彼女達より教えて頂いたような気がします。プロレスと郷ひろみと昔美人だった彼女達……非て似なるものなり……。

投稿&ハガキ 大募集!

相変わらず読者ハガキが少ないぞぇ。一体どうやったらハガキを書いてくれるんだ。一体なんだったんだ7DAYSというわけでハガキが嫌ならメールをくれ!
choro@kamipro.comまで!
〒151−0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702（株）ダブルクロス『ミノタウロ』係まで。

青木雄大先生のように、お前らもドシドシ投稿してこい! それでは、また来月会おう!

『紙プロ』次号、超予告! 遂に公開!! W★INGの真実

何故かこんなところで次号の予告! すでに取材は終わっているのですが、あまりにも衝撃的な発言の連発に急遽、次号ロングインタビューでお届けするのが〝ミスターW★ING〟茨城清志である〝AWAに世話になった〟茨城の話を楽しみに待て!

……というわけで8月6日は『W★ING』を観に後楽園へ迎え!!（18時30分開始）

★★★プロレス&格闘技専門ビデオショップ★★★

チャンピオン

Champion

【ホームページURL http://www.champion-j.com】

水道橋劇場ネタ切れの為、遂に終了？ たまには、まじめにグッズ大特集でもやりますかー!!

紙プロ読者も満足(？)の人気おすすめグッズ!!

今、人気のSOULグッズ!!最新アイテム入荷!!

左上から
魂 テープラインTシャツ3・・・・・・・・・・・・¥3,045
魂 テープラインTシャツ4・・・・・・・・・・・・¥3,045
SOUL テープラインTシャツ7・・・・・・・・¥3,045
各Tシャツのサイズ：M～XLまであります。
カラー：ホワイト／ブラック／ネイビーがあります。
魂'01キャップ（メッシュあり）・・・・・・・・¥3,045
カラー：ホワイト／ブラック 他
SOULアローキャップ・・・・・・・・・・・・・・¥3,045
カラー：ホワイト／ブラック／レッド／ネイビー 他

格闘ファッションの定番といえばPANCRASE!!

左上から
スペシャルエディッション2001TシャツA（ホワイト）・・¥3,675
スペシャルエディッション2001TシャツB（ホワイト）・・¥3,675
スペシャルエディッション2001TシャツC（ラグラン）・・¥3,675
PROOF TOUR Tシャツ（ブラック）・・・・・・・・・・¥3,675
NEW 謙吾 Tシャツ（ホワイト）・・・・・・・・・・・・・¥4,095
NEW 美濃輪育久Tシャツ（ホワイト／ブラック）・・・・・¥3,675
各Tシャツのサイズ：M／L（謙吾TのみXLまで）あります。
パンクラスキャップ（ブラック）・・・・・・・・・・・・・・¥3,675

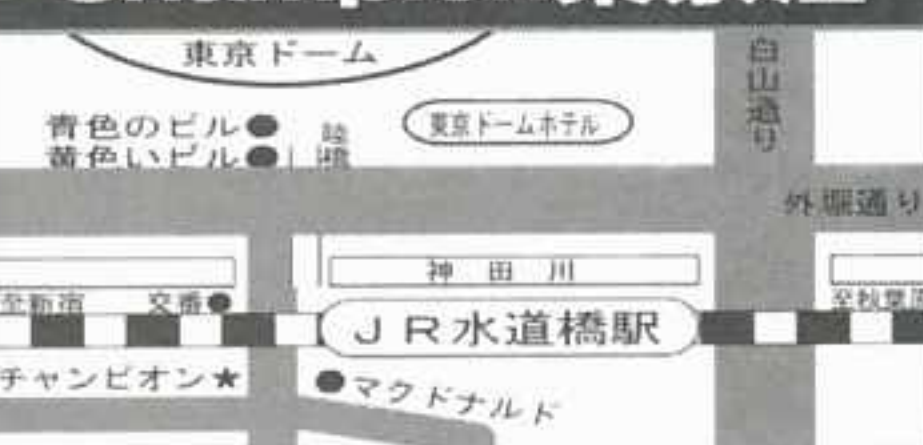
復帰直前！SAKUグッズで応援に行こう!!

左上から
桜庭Ver. 5Tシャツ（ホワイト）・・・・・・・・¥3,990
桜庭バーコードTシャツ（ネイビー）・・・・¥3,990
桜庭39SAKUTシャツ（スカイブルー）・・・¥3,990
桜庭1stモデルTシャツ（オレンジ）・・・・¥3,465
各Tシャツのサイズ：S～XLまであります。
桜庭バーコードキャップ（ネイビー）・・・¥3,675
桜庭マスクキーホルダーVer. 2・・・・・・¥1,260
工作キットSAKUベルト・・・・・・・・・・・・・¥2,625

Champion独占!!こんなTシャツ売れてます!!

大ヒット中→

左上から
時間無制限一本勝負Tシャツ（カーキ）・¥2,000
革命Tシャツ（ブラック／ネイビー）・・・・・¥2,000
心技体Tシャツ（ホワイト／ブラック）・・・・¥2,000
大巨人Tシャツ（オレンジ）・・・・・・・・・・¥2,000
ミスターTシャツ（ホワイト）・・・・・・・・・・¥2,000
無冠の帝王（ブラック／カーキ）・・・・・・・¥2,000
こんな会社、辞めてやる。Tシャツ・・・・・¥2,000
（ブラック／グレー）
各Tシャツのサイズ：F／2Lまであります。

［通信販売お申し込み方法］ ●ご注文は、電話・FAX・WEBサイトからご利用いただけます。（いずれの場合も必ず商品の在庫をご確認して下さい。）
●お支払方法は代金引換（商品代金＋送料）になります。●商品のお届けはヤマト便にてご発送します。
●配達の日時指定が出来ますので、お申込み時にお伝え下さい。（但し、離島・一部の地域では時間指定が出来ない場合もありますので、予めご了承下さい。）●店頭に在庫のない商品に関しては、お取り寄せに多少お時間がかかります。●通販のご注文は1000円以上からお願いします。

Champion東京店

〒101-0061
東京都千代田区三崎町3-8-1西田ビル6F
TEL03-3221-6237 FAX03-3221-6267
営業時間 11:00～22:20（年中無休）
E-mail webmaster@champion-j.com

Champion大阪店

〒556-0011
大阪市浪速区難波中3-3-23桧ビル4F
TEL06-6645-5186 FAX06-6645-5187
営業時間 11:00～22:00（年中無休）
E-mail east@champion-j.com

直接、店に来るもよし!!面倒なら自宅から注文するもよし!!

チャンピオンだから出来るレンタルシステム

その1 店頭にてレンタル、店頭へのご返却
（通常のレンタルビデオショップと同じ方法です）

その2 店頭にてレンタル、宅配便でのご返却
（店頭で借りて、返却は最寄のコンビニで手続き）

その3 TEL･FAXにてご注文，往復宅配便レンタル
（ご自宅にいながら宅配便を利用してレンタルできます）

※店頭にてご入会される場合は、身分証明証をご持参ください。
（免許証／保険証／学生証他、住所確認ができるもの）
※通信レンタルをご希望される場合は、400円分の切手を同封の上、お名前ご住所・電話番号を明記の上、資料を請求して下さい。
（到着後、入会申込書・案内書を送付いたします。）
東日本地区の方は、東京店へ
西日本地区の方は、大阪店まで
※通信レンタルでの入会手続きには、約1週間ほどかかります。

●こんなとこからイベント情報ー8／19（日） 15:00～ 女子プロレスラー・仲村由佳&石田リングアナのYUK"A"YA SHOPを出店します。（東京店）

夏だ！ コラムだ!! ぐるぐるぐるぐるぐるぐるぐるぐるぐるぐる……
BEST OF THE
TM
JULY.2001
★今号のラインナップ★
●花くまゆうさく
『リングの汁RADICAL』
●掟ポルシェ（ロマンポルシェ。）
『業☆勝ちます』
●イナズマ★K
『最狂プロレスファン列伝 UZIさん』
●大坪ケムタ
『エロ・サムライ』
●ラーメン王・石神秀幸
『闘魂たべある記』
●真下純子
『ひりきな奥さん』
※武田いづみさんの『ディスカバー・シンニホン』は今回お休みします。次回にご期待ください!!
Title&Illustration/Jerry Ukai for ADS

BEST OF THE スタジコラム

最新刊「野良人リサイクル」発売中よろちく

花くまゆうさく リングの汁 RADICAL

この夏ひっそりと公開される『ビヨンド・ザ・マット』を見た。ひっそりとレイトショー公開されるようだがこの中身は、ひっそりとじゃすまないかもしれない。プロレスの試合前の打ち合わせをじかに映像で見せてしまってます。プロレスの勝敗は事前に決まってるはずなんかなく真剣勝負なんだとかたくなに思う人は、少なくとも日本には7万人は存在すると思われる（おそらく世界一の多さ）。そんな彼らにこれを見せたらどうなるんだろう。あっさり「あーゆーのはWWFだけ！」とかわすのか？　バーリトゥードで負けたら「あんなのはあっちのルールだから」とかわすように。永遠に馬の耳に念仏状態なのか。

この映画は単なる暴露物で終わらず、すべてさらけだした上で飲み込んだ上で、感動させる感銘させるもんであった。

いきなり冒頭からバックステージでのビンスがかっこいい！　バリバリ働く男のカッコよさ光線出しまくり。ビンスだけじゃない、ミック、ロック、JR……舞台裏の彼らはみんなかっこいい！　すべてさらけだした上でプロレスの魅力や凄さを見せてくれる。プロレスに抱く嫌な感じをまったく抱かせないし、好きにさせてしまう。プロレス好き度をガンガンなくしてくれる新日とは大違いだ。

そう思うと新日もすべてカミングアウトしたらどうなるのかとちと妄想。舞台裏での長州や健介や天コジ、フロントのたぬきと子供面、辻アナに柴田記者、みんなかっこよく見えてしまうのだろうか？（真の舞台裏でのドラゴン見るのはちと恐い気もするが）

いまの新日のプロレスや不思議な格闘技戦も楽しめるようになるのかな!?　ホーク人形買って以来、闘魂ショップ行ってないがまたグッズ欲しくなって行くようになるのか？

そんなことを少し考えたあとテレビで「フレーフレー人生」という夜10時にやるにしては昼ドラみたいな内容の不思議なドラマを見てびっくりした。女優・松下由樹の巨大化に！　とにかくがたいがデカイ！　顔に比べて体がデカすぎる（大昔のマイティ井上のように）、いつからあんなにデカくなったのか。昔、ダイナマイト・キッドとデービーボーイ・スミスがいきなし異常に体デカくして来日した時あったけど、あの驚きに近い。若手が海外いくとなぜかデカくなるのと同じ感じ。しばらく見ないうちに、えっ！て感じ。無論、女優松下がステロイドやるわけない（やる理由がない）が、ステロイドなしであのようにデカくなるのは、太れないレスラーは参考にするべきでないか。それにしてもあのバランスのおかしいデカさは気になった。

気になるといえば、今度のプライドと同じ日にやるパンクラス（昼の部のほう）。他流派多数のネオブラ、林vs伊藤、高瀬vs強豪外人、佐々木vsデルーシア、美濃輪vs秋山と見どころいっぱいではないか。最近の後楽園カードに限っていえば修斗負けてるかも。ルールもほとんど一緒だし、今後もありそうな選手流出も含めて、お株を奪われないよう願う。

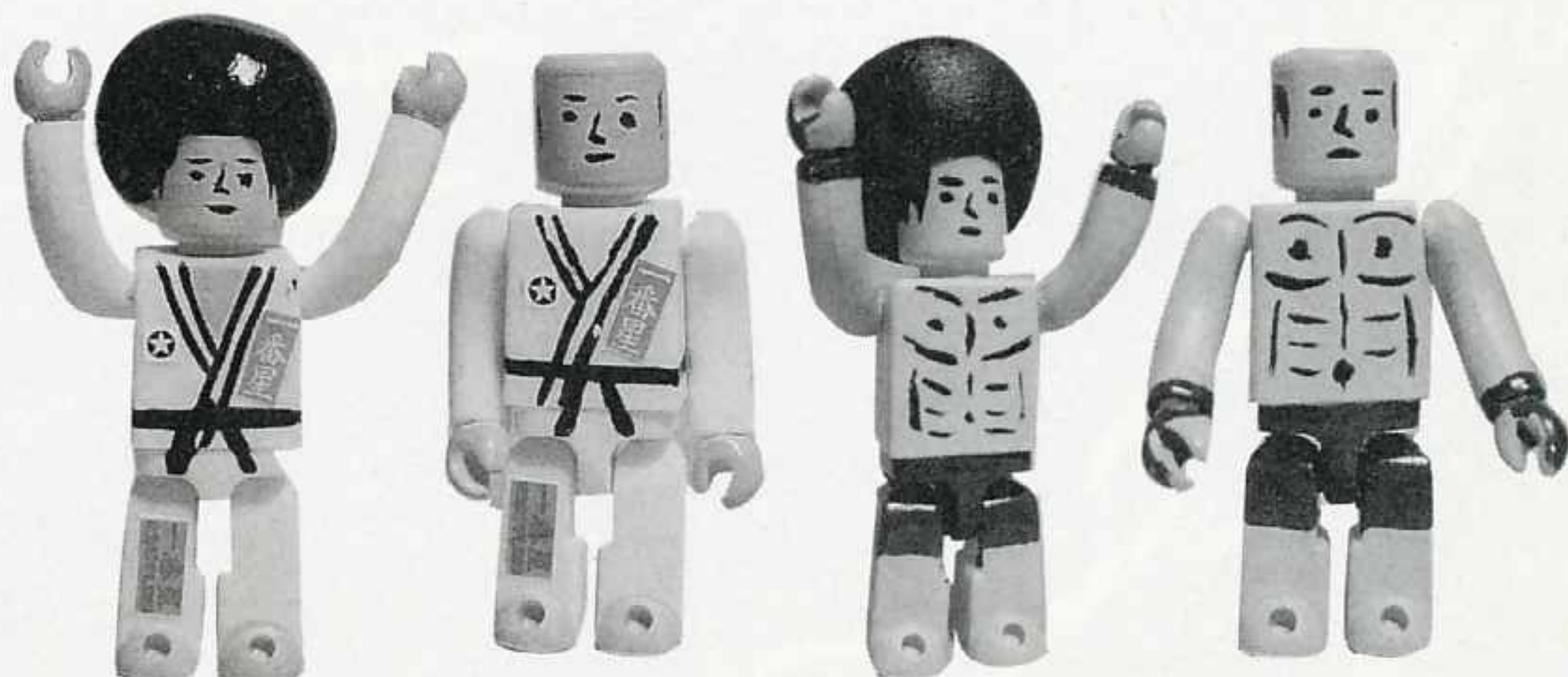
それにしてもこないだのバレット戦での戸井田つよいなあ。さすがは補強の慧舟會、宇野といい、試合での生命力が凄い（よし俺も練習後に補強しようと思うが懸垂数回でやめる、補強という名の気休め）。勝田vs小ノゲイラより、戸井田vs小ノゲイラのほうが試合としては面白そうでしょ。

大ノゲイラはコールマンとだ。プライドルールの中、がぶらせて巻き込みスイープや、ハーフガードからのスイープなど炸裂したら燃える。腕十字とったら最高だ。柔術ガンバレ！

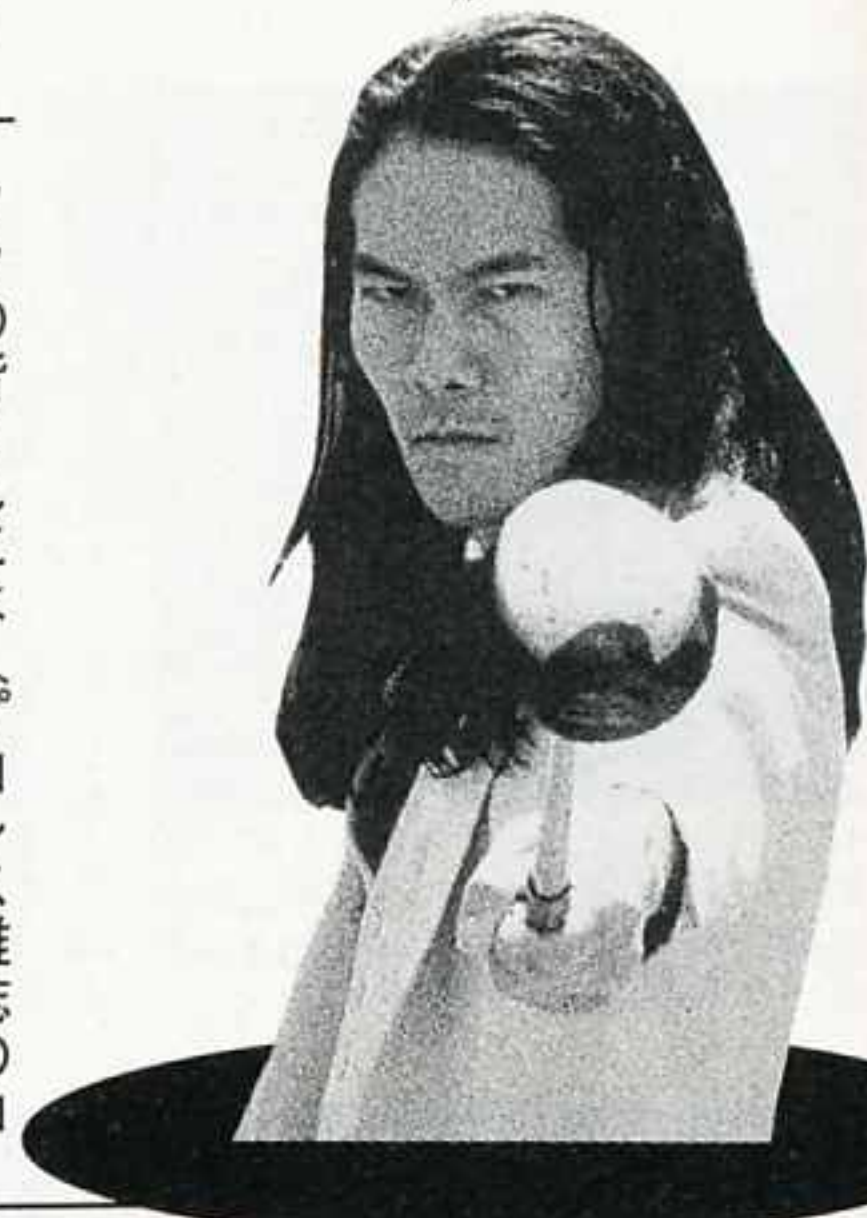
そんでK-1vs猪木軍。ホントにやるんなら、休暇で外国に……いやドン・フライのとこで格闘技用の練習をしているという健介は猪木軍のメンバーとして帰国してやってほしい、健介vsバンナ！

バンナだけじゃない健介vsベルナルド、vsアーツ、どれも黄金カード！　マジで対K-1やるんなら見たいのは健介と橋本の二人。石井館長、奇跡起こしてください。リングスでロシアとやるのも健介だったらいいのになあ。

このグッズは最高でした。
健介バージョンは買わなかったが…

はなくま・ゆうさく■テレビでドクタードリトル見てたら少し涙腺がホロリ。めちゃイケ台湾対決での極楽加藤の涙にもついホロリ。

男道コーチ屋稼業・掟ポルシェ（ロマンポルシェ。）の

柔☆勝ちます

『石川梨華の正体を探る』の巻

モーニング娘。について考えるのに忙しくて、プロレスのことまで全然頭が回らない。困った。本当に困った。だがしかし、そんなのは全て現在の四角いジャングルの中にモー娘。を上回るだけの面白いニュースがないからであって、どう考えても俺のせいじゃない（堂々と逆ギレ）。こんな時は開き直ってモー娘。のことだけを考えるに限る（モラトリアム丸出し）。

青春の1ページって
地球の歴史からすると
どのくらいなんだろう
ああ　愛しいあの人
お昼ゴハン何食べたんだろう

モーニング娘。の新曲『ザ☆ピ〜ス』の曲中に出てくる石川梨華のモノローグだ。こんなことをいわれた途端、「ああ、愛しのチャーミー、今日のお昼はサンクスの猪木パン全種類イッキ食いだったよ」と、実に素直に反応してしまう。西村修はその昔「ファンはバカです」と発言して波紋を呼んだがものだが、確かにモーニング娘。ファンである俺は、石川梨華の前ではただのバカだ。思えばクレアラシルのCMで島田奈美が「想われニキビができちゃった。♪ダ〜レのっかなっ」と呼びかけた後にも、TVの前で「俺のに決まってんじゃねえかよオ！」と絶叫し、自分の額に想いニキビを急造するべくおでこにラードを塗りたくってから登校したりしたもんだし、倉沢淳美が「♪あ〜つ〜みっ×2よ・び・す・て〜にし・て〜♪」と唄った時にも勢い余って葛飾柴又でロケ中の寅さんまで「オイこら！　あつみ！」と馴れ馴れしく呼び捨ててしまい、「今時の若ぇモンは言葉遣いがなってねえ！」と、初対面なのにチョーパン入れられビックリしたりしたもんだが、その素直すぎる性格は未だに治っておらず、モー娘。の新曲を聴いて以来、彼女が住んでるであろう横須賀の方角に向かって、昼メシのメニューをメガホン片手に律儀に毎日報告しているという訳なのである。ピ〜ス！

そして石川梨華といえば『イジメられキャラ』だということは熱心なモーヲタの皆さんには（プロレス雑誌のコラムであることを著しく無視して）説明不要だろう。番長キャラ・中澤裕子に一挙手一投足の仕草を全てボロクソにいわれることで成立してきたのが石川であって、そのあまりのボロカスな言われように男子なら劣情を催さずにはいられない、というのが石川の人気の秘密だ（これを業界用語では『ネバー・マインド・ザ・ボロクス』という）。番長役の中澤が脱退したら石川イジメは沈静化するものかと思われたが、モー娘。内部では石川イジメがスッカリ定着！　年下の加護や辻にまで「りかちゃんが作ってきたヤキソバは便所臭くて食えたもんじゃない」とテレビ公録中に暴露されたり、保田に「【石川梨華がイジメに遭っている】とかインターネットにカキコんでんのおまえだろ！　この自作自演女が！」とメチャクチャなあて推量をされてしまったりと、中澤なき後も全メンバー万遍なく石川イジメを後継している模様。しかも新曲『ザ☆ピ〜ス』では一番目立つセンター位置に石川がおさまり、他のメンバーが嫉妬からただでさえ厳しいイジメを加速度的に侵攻させていく恐れがある。このままでは十年持つ石川の娘。生命が一年で終わってしまいかねない。せっかく前園さんが「イジメ…カッコ悪いよ」と無闇に伸びた無精ヒゲを気にしなくなるほど悩みながら訴えていたというのに、娘。たちには全く届かなかったというのか。これでは前園さんもヒゲのばし損である。

だが一つ疑問に思うのは、何故石川がイジメの標的になっているのかということだ。イジメの構造をよく分析していくと、実はイジメられる側にワケありな場合が多いもの。石川をどうしてもイジメたくなる理由というのが何かあるのだろうか？

その理由はモーニング娘。FC会報VOL.13の中澤裕子インタビューをみれば明らかなのだった。

「悪気はないと思うんですけど一言多い娘なんですよ（笑）。例えば年齢の話をしているときにあえて『歳なんか、関係ありませんよ』と言っちゃったりとか…。テレビを観ている人はわかると思うんですけど、なにかとツッコミを入れたくなるタイプなんですよね」

二十八歳にして浮いた噂の一つもなく、小皺をメイクで隠すのに精一杯な中澤の焦りをアッサリ無視する天然の無神経ぶり。なにかといってはならない一言を次々と口走ってしまうがために、周囲の人間をイラつかせるパーソナリティ……アレ？　これってどこかで見たような気が…。

そう！
石川梨華とは川田利明なのである！

「三沢さん強いッスねぇ。あんまり練習してないのに」と、学生時代から一言多いばっかりに、ノア旗揚げ時に一人だけ（渕は●●●●●●ので除く）切り離された川田に石川はあまりにも似すぎているのだ。石川が余計な一言を言うことで、モーニング娘。内部の人間関係がシュートでゴタゴタして面白くなっているのと、「人間が出来てない」だとか「気が狂ってる」とまでいわれる川田がリング内外の言動で他のレスラーをカチンとさせ、その結果試合そのものがイビツになり、面白いプロレスが展開された光景はまるで合わせ鏡なのである。

ん？　ていうことはなにか？　俺が今まで愛して止まなかったものはデンジャラスKだったっていうことなのか？　チャーミー石川がヘアスタイルを一新して後ろ髪がヘンに伸びた角刈りになったとしてもそれはそれなりにシックリくるってことなのか？

もし石川梨華が佐々木健介と対戦することになったとして試合がどれだけショッパかったとしても年間最高試合に選出しなけりゃならんのか？

イヤ、君が言うことならどんなにデタラメでカチンとくることでも、俺なら素晴らしいバンプをとってみせるよ！　アア、石川梨華に悪気のない余計な一言、言われてみてぇなぁ……。

そう！石川梨華とは川田利明なのである！

BEST OF THE スパコラム

おきて・ぽるしぇ■8月4日大阪CLUB DAWN、8月9日名古屋クアトロにてロマンポルシェ。ライブやってやるって！　首洗って待ってろって！　今年の夏はアツイって！
【問】03・5728・3381　ミュージックマイン

実録 最狂プロレスファン列伝

プロレスが好きな人、この指止まれ!!

構成／イナズマ★K

PROFILE

No.16 UZI

タンクアボットのごときルックスのラッパーUZI。ZEEBRA等が所属するヒップホップ集団UGBの結成以来のメンバーだ。先日は、27の誕生日にもらったブルーのマスクを被り、韓国で初の日本語ラップのライヴを行ったそうだ。そしてソロとしては4年ぶり『マイクロフォン〜』収録の新作『9mm』がリリースされたばかり。

「『紙プロ』読んでる人で、ヒップホップに興味なかった人が少しでも興味もってもらえたら最高だし、格闘技好きな人なら、絶対ほくそ笑むような曲だと思んで、そこから日本語ラップに触れあって欲しいですね。他の曲でも格闘ネタの歌詞がドンドンでてくるんで、次のアルバム作る時にはまた入れようと思ってます。自己マンなんですが、聴いて共感して面白いやと思ってもらえればこれ幸いですね」

そんな彼が一番好きな選手は、子供の頃に見たメチャクチャっぷりがこびり着いて離れないブロディ、アンドレ、ハンセンだ。

「彼らの墓を（一人存命中だが）、いつか必ず回りますよぉ!」

ここにもまた一人、ラップでプロレス&格闘技を表現しているアーティストがいた。UZIは『マイクロフォン・デスマッチ』というタイトルからして、ビンビンの格闘ヴァイブレーションを発してる。「更にへし折る儀式、腕ひしぎ」「ルーテーズばりの鉄人レスリング」等これらのフレーズは全てリリックだ。

「もうガキの頃からズーッと見ちゃってて。ひたすら好きでウンチクたれてナンボみたいな状態ですね」

この曲はパンクラス野口選手が使っているぞ。そして生年月日も一緒で仲が良いというK-1の中迫選手は『9㎜』で入場だ。

「最初『マイクロフォン〜』聴かせたら『一撃フィリョ』ってフレーズ入ってて、これで出てくわけにはいかないじゃないですか（笑）。次はそういうことが無いように、あらゆる選手が今まで積み重ねてきたものを発表するのと、オレたちラッパーが練習してライヴに挑むと一緒だって曲をやりたいッス!」

さっそく飛び出した、パンチラインは!

「この曲でもいってる通り、オレにとってのステージは、彼らにとっての四角いリングなんだと。ホント、格闘技と音楽はオレにとって一緒なんで。ラッパーとして格闘技、サッカー、スポーツが無いことは考えらんない」

さて、大好きなゲームやマンガも、当然のごとくプロレスものが多い。

「ゲームは『闘魂列伝』かセガのサッカーしかやらないです。マンガはやっぱ『列伝』が。あれを純粋に信じれるとプロレス楽しいじゃないですか。そういう子供で良かったなと。そこで梶原一騎が猪木シメたとかは大人になってから。あのワクワクさせる感じは最高ですよ。今は、スピリッツでやってる『アグネス仮面』はマジ面白いッスよ!『ガチ』は一ヶ月でしぼんじゃったんで（笑）」

パッと見コワ系なUZIさんが満面の笑みで語るプロレスLOVE。その熱さは遭遇率の高いレスラー目撃談へとつながった。

「ここ一ヶ月に長州、三沢、高田と逢ったんですよ。長州はトーヨーボウルのパチンコ屋で、凄いオーラ出して、誰もやってない『電車でGO』のシマで打ってました。一番好きな選手の中の一人だから、話かけらんなかったのは残念です。ゴールデンカップスは5年くらい前に麻布十番祭りで見ましたよ。永田は自由が丘のパチンコ屋で、『握手してください』っていったら『あ〜あ〜』って。きっと景品交換のことばっか考えてたと思うんですけど、あれで好きじゃ無くなりましたよ〜。井上京子は全女時代、五反田のパチンコ屋で握手を。温かったですよ〜、京子は。でも不思議と2回遭遇する人いないですね。あっ谷津は3回くらい見ましたけど、握手はいいやって（笑）」

数々の遭遇から、UZI流握手力実力判断も発明された。

「やっぱり三沢はホントに強い人の手だなって感じました。この間、友達の結婚式にいった時、高田に握手してもらったんですよ。あとサイパン帰りに空港で飯塚にも握手してもらって。その感じは似てて、でも三沢は全然違ったんですよ。もし長州と握手できてたらそれを感じれたかなと思いました」

そんな目撃談も、最後はちょっとホロ苦い思いで話で幕を閉じようじゃないか。

「ゲーリー・オブライトとスティーヴ・ウィリアムスが大好きで。友達と恵比須の改札で待ち合わせしてたら、偶然同じ場所で、『アーッ!』って。ウィリアムスも良かったけどオブライトは超ウェルカム。なんて良いヤツだって。で、あとから聞いたら、彼らもTOPで、オレらもT.O.P.RANKAZっていうのをZEEBRAとかと組んでて。あいつらオレらの曲『一晩中』が大好きでホテルの廊下でかけまくってたらしいんですよ。お互いそうとは知らずに凄く良いヴァイブスで接触して。あ〜次に逢った時はその話をしようと。なのにもうオブライトとは再会できなくなってしまったんですよねぇ（しみじみと）。やっぱりレスラーの人間性見れると嬉しいじゃないですか。ほとんどの選手は話したこと無いけど、試合の動きにも出ますよね。さらにキャラとインタビュー読んで選手の想像を固めていく。そういうの考えるのが好きですね〜」

4年ぶりのソロ・シングルは“俺モノ”“格闘モノ”&DJ WATARAI REMIX。深く練られたリリック、強力かつ破壊力あふれるラップがたまらないぞ!（ポリスター）

プロレスとエロどっちも裸のおしごとです

文・大坪ケムタ

エロ・サムライ

vol.7 エロ業界の夢を叶えた男の巻

何故かエロ本につきものなのが、プロレス好きの編集者。コラムから写真のキャプション・編集後記の中でプロレスネタが無いエロ本なぞ皆無！ てのは言い過ぎだけど、そんな印象を受けるほど多いのは事実。

その中でエロ本とプロレス本の編集長を経験した業界の憧れNO1がインディーズAVファンの圧倒的な支持を得るAV情報誌『ビデオメイトDX（コアマガジン）』の松沢雅彦編集長。

「見てるのは日本プロレスの頃からですよ。でも小1の時に東京から宮城に引っ越して、そこでよく見るTVのアンケートを書かされたんですよ。それであげたのが『1位日本プロレスリング中継・2位キックボクシング中継・3位ボクシング中継・4位キックの鬼・5位タイガーマスク』。それで点数の悪いヤツと良いヤツが見てる番組ってデータを出されたら全部俗悪番組（笑）。それで全部見ちゃいけなくなって」

と、今やれば人権蹂躙級のアンケートのおかげで一度はプロレスから離れるものの、再びその熱を復活させたのは、やっぱり猪木。

「小5で東京に戻ってきたんだけど、その当時は新日・全日に別れたことすら知らない。それが友達がプロレスの話してて、思い出したように見たのが猪木vsストロング小林戦。その次が大木金太郎戦で、それ見ればどうなっても猪木フリークになるしかないよねぇ」

テレビの前にラジカセを置いて試合を録音し、必殺技全集や入場曲集を作っていたという当時から凝り性な松沢少年。しかし一番見ていて燃えた試合は？ というと猪木の格闘技路線でもIWGPでもないのだな。

「格闘衛星闘強導夢じゃないですか？ レッドブル軍団がやってきた平成元年の。プロレス雑誌の企画書上げちゃったもんね、それがまた『ドームに5万人入るんだから5万部ぐらい売れるだろう』ってそんな内容で（笑）。会社の上の人間もプロレス好きな人多いってのもあったんだけど、『そんなに入るのか!』で決定。全部は無理でも2万は固いだろうと（笑）」

それで生まれたのが知る人ぞ知るプロレス誌『レッスルボーイ』（少年出版社・現コアマガジン刊）。社員は自分一人、しかもビデオメイトDX他をかけ持ちしながらの体勢。ライターもマグナム北斗ともう一名という少数異色の陣容の中、90年末ライガーの表紙で第1号が発売される。

「念願の雑誌？ そりゃ楽しかったですよね。でも『紙プロ』みたいなインタビュー中心で出来るとは思ってないから、情報誌的なことをやらなきゃいけないのが難しかったね。第1号は最初は上々って言われてたんですよ。内容的なものも『プロレス王国』とか同時期に出たプロレス誌の中では一番いいんじゃないかと。都内の中心書店見てもイケると。でも問題は地方票だったんですよ。正月明け1月4日プロレス見に行って写真撮って、意気揚々と正月出社したわけですよ。そしたらど〜も数字が良くないよと。6割ぐらい返ってきたんじゃないのかなぁ？」

と期待感とは裏腹だった豪快な返本率の理由は何だったのか？

「批判される部分は企画なんですよね。この企画はプロレスをバカにしているとか、酒飲み話だとか、そういうお叱りが多かったんですよ。障害者プロレスのドッグレッグスとか、レスラーの定番ギミックとかを面白おかしく書いたり。まぁ早すぎたとか言ってくれる人もいるけど、単純に作りが雑だっただけ（笑）」

とある種、現在の『紙プロ』に通じる所を感じる同誌。しかしU系寄りになっていた当時としては珍しいルチャ特集の2号を最後にいきなり休刊してしまう。

「3号では全日をテーマにやるつもりが元子さんから『ウチは「東スポ」「週プロ」「週ゴン」「ファイト」しか載せないんで』ってあっさり却下されちゃったんですよ。代打案も出ず『すいません一月発売日遅らせたいんですけど』と上に言ったら遅らせるんだったらやんないって。始めるのも簡単だけど辞めるのも簡単ですよ（笑）」

いくら売り上げが悪かったとはいえ、このあきらめの早さもエロ本ライクといいますか。最後にいつものお題、エロとプロレスの関連性について聞いてみましょ。

「エロもプロレスも、やってる人って元々別の夢があったと思うんですよ。エロ本だったら作家先生や有名カメラマンを使う仕事したかったとか、プロレスだったらオリンピックとか空手チャンピオンとか。藤波なんかは走り高跳びの選手ですからね（笑）。それが挫折してドロップアウトして今の場所にいるっていう、近いコンプレックスを感じる所はある。あとエンターテイメントである以上、闘いなんだけどロープに飛ばされて帰ってきた方がいいのかってのあるじゃない？ エロ本だって全部逆十字みたいなガチガチのエロ写真ばっかり撮っても仕方ないんですよ（笑）。こんな現実離れしたことあるわけないって作品があるからこそ見たい、と思わせるわけで。幻想を持たせる部分ってのはどちらも重要ですよ」

おおつぼ・けむた■ちなみに『ビデオメイトDX』では大坪もレビュアーとして参戦中、ぜひご一読あれ。

ラーメン王・石神秀幸の

闘魂★たべある記 VOL.6 『竜ちゃんラーメン』

これまでプロレス系ラーメン店を連載してきた本連載だが、今回の店は空手。しかも経営者がファンではなく選手自身！　レスラーキラーとして有名な士道館・村上竜司氏だ!!　話題にのぼらず未知のベールに包まれているが、店も生涯現役で行けるぐらい繁盛してるのか？

左は店長の田村直樹さん。残念ながらこの日は経営者の村上竜司さんは姿を見せませんでした。押忍!
竜ちゃんラーメンDATA■東京都杉並区阿佐谷北4-4-8 藤井ビル1F　TEL.03-3339-6070
【営業時間】11:30～23:30　年中無休

村上竜司氏がラーメン店を出したという噂は耳にしていたが、俺自身はもちろん、知人のフリークでも実際に足を運んだ者はいなかった。つーか、どこにあるのかすら知らなかった。情報交換が活発なラーメン業界でこれは異例のことで、通常、有名人の店などはすぐに詳細が知れ渡るものだ。競争の激しいラーメン業界ではオープンから三ヶ月も持たずに閉店など珍しいケースではないが、色んな意味で、村上氏に限って不渡りを出すとは考えにくい（あまりツっ込まないように）。

とはいえゴンタ揃いの格闘界でも指折りのコワモテ、村上竜司は最も接客業に向いていないと思われる人物。あのイカツイ顔でラーメン作られたら、麺が伸びてても「年寄り向けの優しい配慮だ」と自分を納得させるしかないし、注文そうちのけで「グラップラー刃牙」を読まれても、ただただエキサイトしないのを祈るしか術はない。最大の恐怖は会計時で、ラーメン代を払うだけなのになぜか強い圧迫感を受け、まるで借金返済を迫られているような錯覚を起こしそうだ。村上竜司のラーメン店→店主が恐くて客が来ない→閉店。の構図を妄想し一人納得していたカフェの午後、阿佐ヶ谷にて発見！　の計報、もとい朗報が飛び込んできた。これまではファンの店だったが今回は本人が経営、これは取材せねばと思いつつ「どんな圧力にも屈せず本音の批評！」を信念とする俺は強いプレッシャーも感じた。もしマズくても言えるか？　レスラー何人も倒してるぞ？　俺は自慢じゃないが骨が弱い。かといって無理してカルシウムをとるような無粋なマネもしたくない。だから鎖骨打ちとかされたら絶対鼻血を出す自信がある。様々なパターンをシュミレートした結果、マズいのに感想を聞かれる最悪の事態になったら、ユーモアを交えた世間話で乗り切ることにした。季節は夏真っ盛り、セミの命話がいいだろう。経験上、はかない二週間の命に話が及ぶと、どんな冷酷非情な人間でも、歩く暴力君でも涙を流すもの。ましてやそこに笑いも交えれば……グフフ。涙と笑いはエンタテインメントの王道だ。心の準備万端で、いざ阿佐ヶ谷へ。店の前に立つと可愛らしい竜のイラストがお出迎え。キャラ違うって、アンタ昇り竜だよ！　しかし客の側に降りる営業努力は買いだ。重苦しい気持ちを奮い立たせて扉を開くと、村上氏とは正反対の柔和な店長が現れた。

「村上さんはオーナーで、週に二回ぐらいしか来ないよ。オープン当初は格闘関係者も多かったけど、今は一般の常連さんがほとんどだね」

店長は様々な飲食店を渡り歩いた後〝家系〟ラーメンの有名店で修業。家系とは横浜を中心に全国区の人気になりつつあるラーメンの総称で、その特徴は濃厚な豚骨醤油スープに極太麺。八王子で新店の立ち上げに参加した店長は〝家系〟を基盤にさらにアレンジを加え、独自の味を完成させた。

「家系の特徴である濃厚な豚骨鶏ガラスープに、カツオダシやワイン、XO醤等も加えて味に深みを持たせたんだ。醤油も三種類ブレンドしてるよ」

飲食店経営を計画していた村上氏がこの味に惚れ込み、店長を引き抜いたというわけ。

「最初は恐いイメージがあったけど、実際にはちっとも威張らない優しい人だよ。味についても薄いとか濃いとか言うぐらいだね」

とはいえ壁には眼光鋭い村上氏の写真が。女性は入りづらいのでは？

「女性のお客さん多いよ。オープン当初だけだね、人相の悪い人が出入りして一般のお客さんに恐がられたのは（笑）」

チラシによると『芸能人、著名人、スポーツ選手御用達』との事。さすが村上人脈！　一体どんな大物がやってくるのか？

「宣伝のために打ったんだけど、実際にはオープンの時しか来なかったね（笑）」

緊張していたのがバカらしくなるほど気さくな店長で、ラーメンも美味しく有意義な取材だったが、帰り際に店長が一言。

「有名人といえば安藤昇先生は来るね。あと真樹日佐夫先生はボトル入ってるよ」

恐いっつうの……。

店内にはご覧のような竜司さんとマイケル・ジャクソンとの記念写真や、ヤクザ映画、さらには藤原紀香ポスターが貼られていた。

こちらがオススメの竜ちゃんラーメン（650円）

スープを飲み干せばゴルゴチックな竜司さんが登場！

いしがみ・ひでゆき■今夏は喜多方、札幌、新潟と全国ラーメン取材に忙しく、プロレス観戦に行けず悲しい日々を送っている。キモみたいなタトゥーを入れるか検討中。

スペースローン・ワイフ
真下純子の

ひりきな奥さん VOL.5『厄払い』の巻

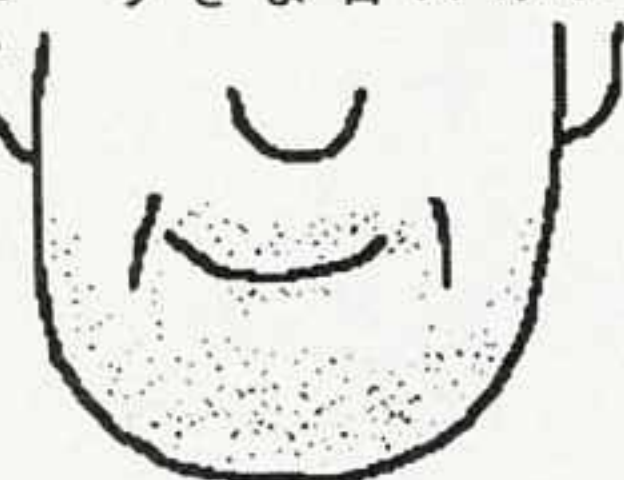
わたくし、今年厄年・大厄・本厄です。

（厄年：数え年で男性の場合25才、42才【大厄】、61才。女性の場合19才、33才【大厄】、37才）

何かいいことがあっても「神様ありがとう」などとは思わないくせにイヤなことがあると「やっぱり厄年だものね。神も仏もないのね」と厄及び神仏のせいにしたりしている今日この頃。風邪がやたら長引くのも厄年のせい、肌のハリがなくなってきたのも厄年のせい、どうもこうもないですわ、タコばっかですわ（長渕）、と不摂生や加齢による衰えもすべて厄年のせいにして今年上半期をやり過ごして参りました。

さて、突然編集部を退社された坂井ノブさん（数え年25才厄年）、以前、「フジロックに行きたい…」とおっしゃっていたのでスワ退職理由はフジロック？　ひょっとして二日目？　と心配しておりましたらば現在は再就職され新しい世界でバリバリご活躍だそうです。

坂井さんの場合、厄年である25才が人生の大きな転換期だったということなのでしょう。つか、厄が落ちたって感じ？　ものすごく失礼なことを書いているような気がしてきましたが先を急ぎます。

昭和34年生まれの前田日明さんは男性の大厄の「後厄」だそうです。前田さんの厄はわたくしのような「そう言えばついてない」程度の厄とは違い、常に様々なトラブルが取り巻き、「ナマの厄年見せたろか！」といったご様子です。

そこで、わたくし気になっていることがございます。前田さんのあの「高貴なヒゲ」。あの、画像をMacで取り込んで解析すれば毛穴の数で本数が割り出せそうなあの「高貴」と言うにはあまりにもお寂しいヒゲ。

ジャニーズの某二人組アイドルの片割れの、整髪料によって無理矢理貼り付けられたモミアゲのように不自然な・かつ勢いのないあのヒゲ。破壊王のモミアゲと並んで「それ、生やしてて何か良いことあるの？」ってピーコさんにピシャリと怒られそうなあのヒゲ。

あのヒゲを蓄えられてからの前田さんは運勢的なものが低下されてるのではないか、と。あの時も、あの時も、前田さんの顔にはサラサラとヒゲが流れていました。

あのヒゲ、ひょっとしたら「厄ヒゲ」なんじゃないでしょうか？　どうでしょう、ここはひとつ厄払いにあのヒゲ剃ってみては。厄年だの何だの回りくどいことを書きましたが、わたくし、前田日明リングス総師のあのヒゲ、ズバリ言って似合わないと思うんですよ。どうですかみなさん。

ヒゲが無くても葉巻は吸えます。赤いブレザーも革パンも大丈夫です。「厄ヒゲ」さっぱり落としていただいて、さあリングス10周年！　そして厄年に躍動!!……これがもし前田さんの目に留まってわたくしが怒られたら、それは「わたしの厄」ということで片付けますんで。どうかひとつ。……とりあえず怒られませんように、と神社へ御祓い行ってきます。

ヒゲの決め手は毛穴の量

↑やたら毛穴の多い桜庭選手

ました・じゅんこ■厄年らしく、夏だというのにインフルエンザにかかりました。何日も微熱が続きすっかり植田まさしキャラのような顔つきに。製薬業界のパルチザンこと『小林製薬』の「熱さまやわらかアイス枕」は最高です。

ザ・検証

プロレス点と線

小原の格闘技路線やキムケン久々のCD発売など『ザ・検証』効果か最近、維震軍の周りが慌ただしい。ついでにドラゴンも誘惑光線にクラッ☆っときたのか「KOKルールでやってもいい」発言も飛び出し慌ただしい（いつも）。検証ネタは尽きませんが、今回も「死神Tシャツ」は非公開。御免！

ザ・検証

【今月の検証】ドラゴンin健康ランド

by椎名基樹

空梅雨であった。水不足が心配である。特に、九州の方たちは、今から夏に必ず行われるであろう、節水に頭を悩ませているのではないだろうか？　さぞかし、心細いことだろう。水は人間生活の基本である。水がなければ、ご飯の支度もできないし、洗濯もお風呂できない、うんこした後流すことすらできないのだ。チョー大変だ。

しかし、九州の人たちには、こう考えてもらいたい。「水不足に悩まされる自分たちは、むしろ幸せなのではないだろうか？」。前記したとおり、水は人間生活の基本である。したがって、水不足を経験することは、水のありがたみを知り、人として成長できるチャンスなのだ。そう思えば、辛い水不足も乗り越えられるはずである。しかし、そうは言っても、今年の夏は暑い。暑すぎる。死にそうだ。暑くて暑くて、原稿なんか書きたくない。

気が狂いそう。
やさしい歌が好きで。
あ～あなたにも、聴かせたい。
人にやさしく
してもらえないんだろ？
だったら俺が言ってやる！
大きな声で言ってやる！
自分自身に言ってやる！
がんばれ！
もらいっちょう！
がんばれ！
まだまだ！
がんばれ！
まだいける！
がんばれ！

と、行数稼ぎに、な～んにも考えずに、書いてきたが、それはそれで、面倒臭くなってきた。面倒臭くはなったが、何をテーマに書いていいやら、いっこうに、わかりま7（セブン）なのである。

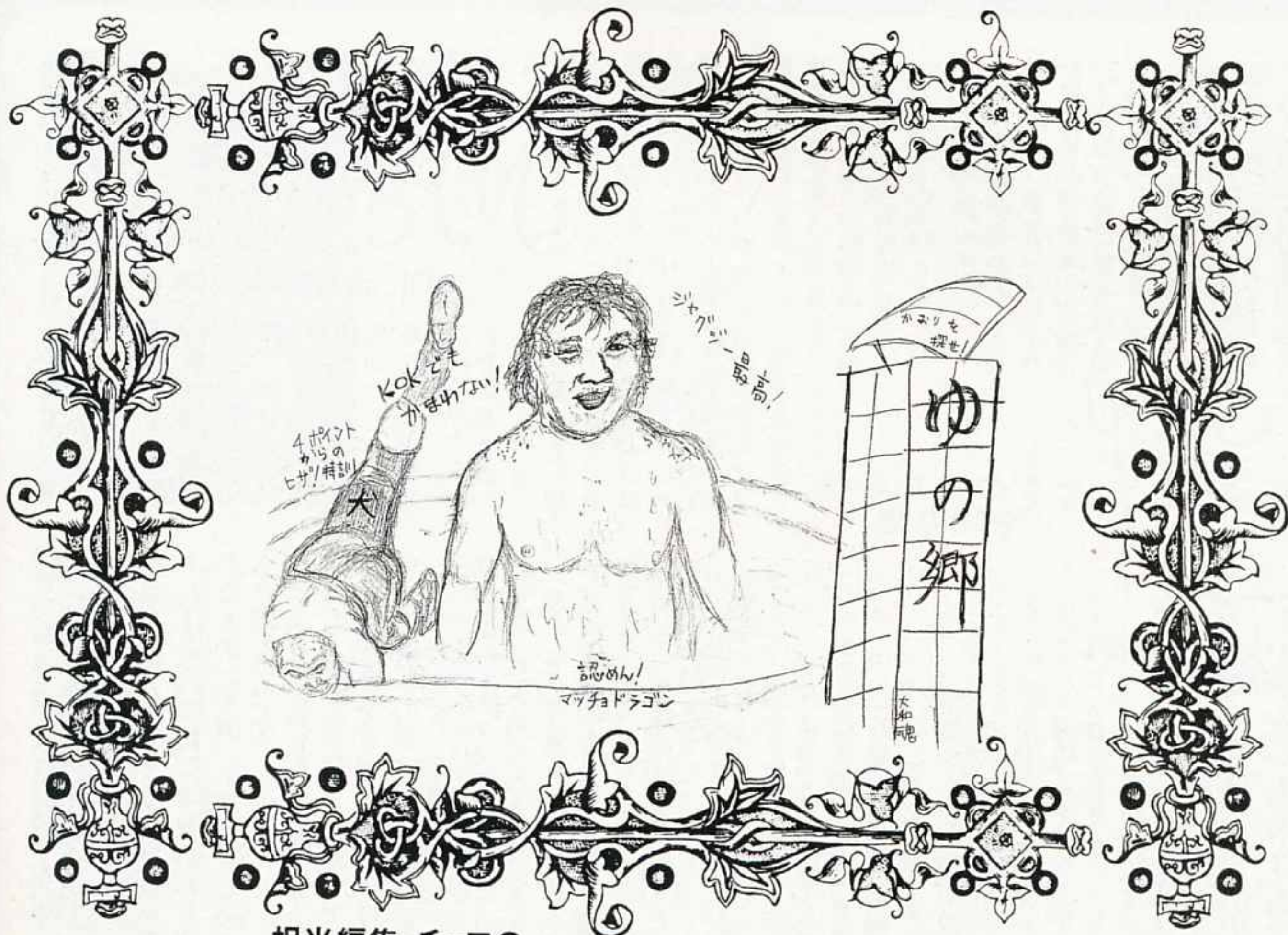
それもそのはず、最近、俺は、プロレスにも格闘技にも、昔ほど興奮していない。もちろん、「昔ほど」ってだけで、格闘に対する興味は一生続くだろうし、今でも桜庭や桜井マッハのビッグマッチが組まれれば、すぐに興奮状態になるであろう。

しかし、実際、3年くらい前の興味と興奮は、今の俺にはない。それは、よく言われるように、桜庭vsホイスで一段落したってことが一番の原因であろう（次なる興奮のストーリーはすぐに訪れると思うけど）。そして、藤田vs高山で、肩固めをかけられた高山が、苦しい印に腕を高々と上げて、それがパタリと下りたと同時に「落ちた～」なんて試合に、俺が興奮できるわけがないのも、事実だ。もっと端っこ歩きなさいよ～（by美川さん）である。

そんな中、細々ながら唯一、興味を失わせることがない、おもしろ男がいる。もちろん、藤波である。最近、俺の元に藤波の目撃情報が寄せられている。それは、ある編集者が、行きつけにしてる調布市の健康ランドで、藤波を何度も目撃しているというのだ。彼曰く、行くたびに見かけるとのことだ。

調布市は、俺も昔住んでいたことがあり、街で野上を見かけたことがあった。そういえば、調布駅から乗り込んでくる、2メートル男・高野拳磁も見たことがあった。調布は新日の道場から近く、住んでいる所属選手も多いらしい。藤波も近所に住んでいるのだろう。

しかし、新日の社長ともあろう人が連日の健康ランド通いとは、あまり庶民的というのいうには、あまりに無防備&無我すぎやしないだろうか？　市民に混ざって、サウナに耐える、ドラゴン。打たせ湯（腰に）に打たれる、ドラゴン。個人用の蒸し風呂みたいなのから、首だけ出している、ドラゴン。どれも、本当に素敵過ぎる！　見たい！　どうしても、見たい。と、いうことで、来月は、ドラゴンを探しに、健康ランドに行ってみたいと思います。

PS　前にテレビの「お宅訪問」で見た、藤波のメルヘン御殿は、千葉だった気がしたんだけど、ドラゴン、別居中なの？

担当編集・チョロの
『チョロっとプロレス子守歌』……vol.2

ザ・検証

【今月の検証】全日崩壊後のマット界を動かしているのは誰か？

by せき詩郎

渡辺美里の西武球場でやるやつと同じ位、夏の風物詩と言えば24時間テレビ。たまたまテレビをつけるとやってる番組としてお馴染みである。丸一日やっているわけだから、その日にチャンネルを変えていれば、意図しなくても目に飛び込んでくる確率が高いのは当たり前だ。とにかく見ようとして、または毎年楽しみにして、あるいは見ないと次の日クラスの話題についていけないからと見る番組ではないことは確かである。

しかし今年は違う。今年の24時間テレビは何がなんでも見なければいけない。なぜか？ 司会がモーニング娘だから？ いや、もはやその理由は弱すぎる。もしも司会がドン・フライだというなら確実に見るであろうが。Sepulturaの音楽にのってブーイングを浴びながら武道館に登場するドン・フライ、結んであった髪をほどき募金を呼びかけるドン・フライ、感動的なVTRに涙ぐむドン・フライ、番組中放映される巨人戦の始球式を勤めるドン・フライ、その時わざとバッターに球を当て乱闘に！ なんていう見せ場もきっちり作るドン・フライ、ナイター中継の副音声に挑戦するドン・フライ、そこで「優勝には高橋の復活が鍵」と実に的確でありふれた指摘をするドン・フライ、「いや、高橋は当分復活しない」と言う江川に対し怒るドン・フライ、そして江川と乱闘に！ なんていう見せ場をまたしてもきっちり作るドン・フライ、夜中若手芸人と一緒にゲームを楽しむドン・フライ、少し眠そうに目をこするドン・フライ、仮眠をとるも寝過ごしてしまい、パジャマ姿のまま&枕を抱え慌てて戻ってくるドン・フライ、実は毎年手塚アニメを楽しみにしていたドン・フライ、一時話題になった疑惑のグローブの中に入っていたのは実はコツコツ貯めた小銭！ それを募金するドン・フライ、最後谷村新司と肩を組みながらなんだかという歌を熱唱するドン・フライ、……などなど、いつものフライとは違った一面が見られるのだから、見ないわけがない。しかしドン・フライが司会になるわけがない。ドン・フライは新日のリングに上がっているわけだし、契約の問題、そしてテレ朝と日テレの問題があるだろうからだ。まったくテレビ放映権の問題は夢のカードを夢のままにしてしまう。ドン・フライが「24時間テレビのリングに上がりたい」と発言したからといって、「はい、そうですか」とすんなりあがれるわけではないのだ（契約でも放映権でも、はたまたリングでもない）。チビっ子相手のファミコン番組、朝早くやってるラジコン番組、夜もひっぱれ、笑点、そしていいとも。ドン・フライが司会をやれば今以上におもしろくなるだろう番組は数多い。「ドン・フライならなんの司会をやっても許されるのか！」といわれれば、「多分そうだと思います」と少々曖昧にぼかしながら即答できることは間違いない。

などとドン・フライはさておき、話を戻す。なぜ今年は24時間テレビを見ようと思ったのか。その理由はただひとつ。今年のマラソンランナーが研ナオコなのだ。この情報を知った時、私はただただ驚いた。どうして研ナオコなのか！ と。研にスポーツのイメージはないし、今人気が再燃しているというわけでもない（ナオコばあちゃんストラップが大人気とか）。あまりにも唐突すぎやしないか。いったい24時間テレビのマッチメイク（マッチメイクじゃない）は誰がやっているのだ。蝶野だったら確実に怒っているはず。確かに衝撃的ではあるし、視聴率はあがるであろう。武道館という大会場を埋めるだけの動員は見こめるかもしれない。しかし、いきなり研にマラソンさせるというのは仕掛け過ぎではないか。いや、まてよ。これが研的謎かけなのか？ 次回の24時間テレビに繋がる伏線となるのか？（本当は研の芸能生活30周年だとかそういう理由。良くは知らない）。とにかく見ずにはいられない。

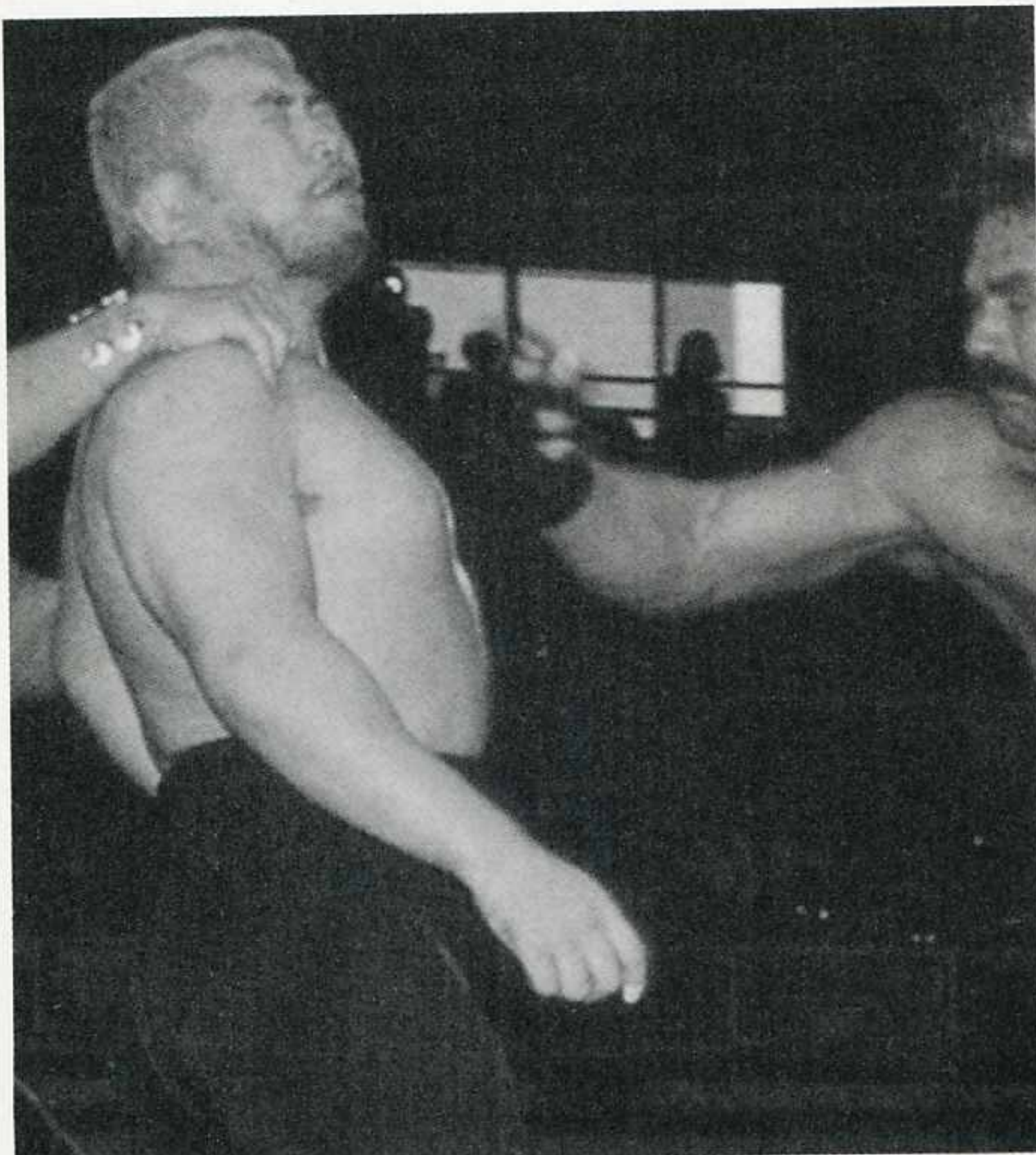
などという世迷言はさておき、研のマラソンよりも突然で、しかも大事件が起きた。小原である。

「オレは今、あるものに向かって照準を定めている。ちょっと外に出て勝ったぐらいでいい気になっているらしい。邪魔だからオレがたたきつぶす」

突然発表された小原の決意。いきなりの格闘技路線。安田戦、そしてリングス参戦。もうじっとしてはいられない。とりあえず札幌に行く。本当は今回札幌の模様を書きたかったのだが、それだと発売日に間に合わないらしい。よって、次号に持ち越し！ リングス参戦（決定？）の模様も合わせて書くとしよう。

そういうわけで、無理矢理まとめると、小原の路線変更も含め、全日崩壊以後のマット界は実に流れが速い。ちょっと前だと考えられなかったようなカードも実現し、または決定しようとしている。その原因は何か？ それは多分武藤じゃないかなあ。全部武藤の仕掛けなんだよ、きっと。ほら、武藤って思いきってスキンヘッドにしたじゃない？ あのイメチェンがちょっぴり恥ずかしかったんじゃないかな。それで、武藤が色々仕掛けて、マット界を激動させ、みんなの注意をそっちに向けといて、その隙にイメチェンしたというわけ。ほら、思い出してみて。パーマかけた次の日に学校行くのってちょっと照れくさいじゃない。「お前、パーマかけたの!?不良じゃん！」なんて言われるし。

それと同じ。全ては武藤の仕掛け！

まったく的外れなまとめをしてみたところで、以上！ いまから札幌行ってきます。

◎告　知◎

8月11日から19日までLAPNET SHIP（たしかラフォーレの隣）で行われる『DOLLHEAD EXHIBITION 2001』というドール展覧会に、私がひょんなことからデザインさせていただいた維震モデルの人形が登場します。リバプールのユニフォームに維震の袴というポップさゼロで場違いな人形を是非とも見に行ってください（タレントショップに行った帰りとかに）。
詳細はhttp://www.petworks.co.jp/dollhead/にて。
よろしくお願いします。

マット界の新たな潮流
DEEPとは何か？ Part.2

注目の格闘技イベント『DEEP』第2弾興行、8・18横浜大会の全対戦カードが発表、
第1回を上回る好カードが出揃った！　まだまだマニアにしか注目されていない
このイベントであるが、これから成長する可能性は十分。
ここでは見どころと注目選手のインタビューをお届けしよう！

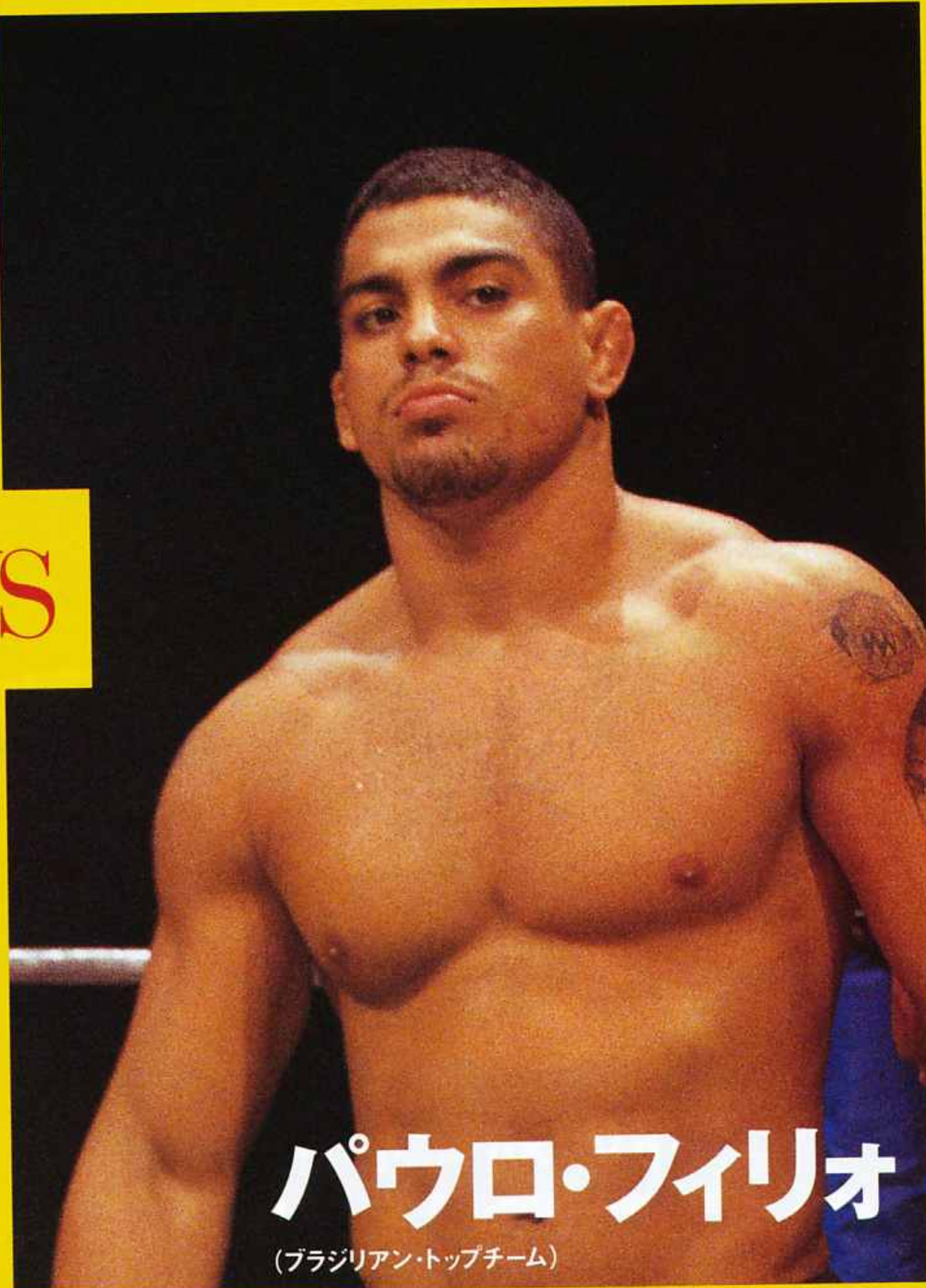
構成／堀江ガンツ
designed by hisa（Two Three）

8・18横浜文化体育館

DEEP 2001 全対戦カード決定!!

近藤有己
（パンクラス東京）

背水の陣!
近藤にまたしても試練!

VS

パウロ・フィリオ
（ブラジリアン・トップチーム）

パンクラス［ライトヘビー級］壊滅の危機!

美濃輪、山宮を下したパウロ・フィリオが エース近藤に刃を突きつけた!

村浜vsホイラー、美濃輪vsリボーリオの2大カードが爆発し、一躍注目を浴びるイベントとなったDEEPの第2弾興行。8・18横浜文体の全カードが遂に発表になった!

今回のテーマはズバリ、日本vs世界! 日本人、外国人ともに、第1回大会以上の豪華メンバーが出揃った!

まずなんといっても注目はメインイベント、近藤有己vsパウロ・フィリオ。

船木引退後のパンクラス新エースとなりながら、ティト・オーティズ、ウラジミール・マティシェンコにUFCで連敗し、もう後がない近藤が、KEI山宮、美濃輪育久を破り、パンクラス完全制圧に王手をかけたパウロ・フィリオを迎撃。どうしても負けられないこの一戦。近藤の真価が試される。

セミファイナルでは、第1回大会でホイラー・グレイシーをあと一歩まで追いつめる激闘を見せ、総合格闘家としてのバリューを一気に高めた村浜が、VTJの常連ジョン・ホーキと対戦。ホーキは97〜99年まで3年連続でVTJに出場し、巽宇宙、朝日昇、池田久雄という修斗トップクラスと対戦。いずれも時間切れドローであったが、判定があれば3連勝といわれる実力者。ことVTに関しては、ある意味ホイラー以上の強敵であろう。村浜が総合格闘家として、どこまで成長しているか注目だ。

パンクラスを席巻するグラバカからは、菊田と郷野のトップ2が揃って出場。

まず、『アブダビ・コンバット』を制し、寝技世界一の称号を得た菊田は、シェマック・ウォレスと対戦。菊田の相手としては、正直物足りないといった印象だが、どうやら当初は大物柔術家との対戦が決まりかけながら、直前で流れてしまったらしい。ここは菊田には鮮やかな一本勝ちで、9月のパンクラス横浜大会に弾みをつけて欲しい。

そしてもうひとりのグラバカ郷野聡寛。郷野

なに!? ノゲイラが2人？
ホドリゴ・ノゲイラの双子の弟
ホジェリオ・"ミノタウロ"・ノゲイラ参戦決定!!

ジェゼリオ・"ミノタウロ"・ノゲイラ VS **藤井克久**
(ブラジリアン・トップチーム) (フリー)

村浜、再び柔術世界王者狩り!

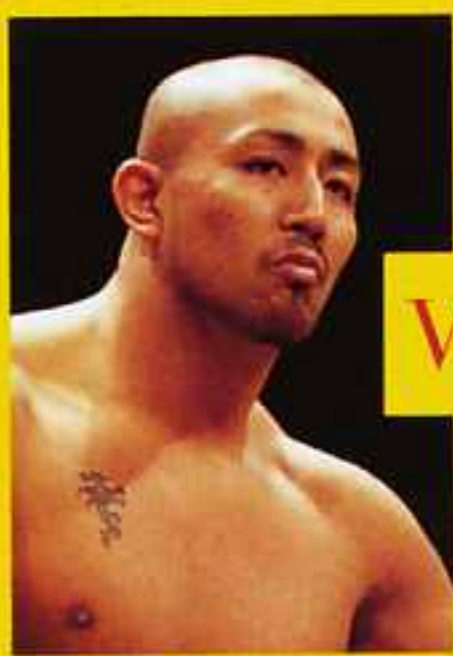
村浜武洋 VS **ジョン・ホーキ**
(大阪プロレス) (ルイス&ペデネイラス柔術)

グラバカトップ2揃い踏み!

菊田早苗 (GRABAKA) VS **セマック・ウォレス**
(コロンビア・マーシャルアーツ)

郷野聡寛 (GRABAKA) VS **ダスティン・デニス**
(ブラジリアン・トップチーム)

大久保一樹 (U-FILE CAMP) VS **カト・クン・リー** (フリー)

窪田幸生 (パンクラス横浜) VS **上山龍紀** (U-FILE CAMP)

謙吾 (パンクラス東京) VS **ドスカラスJr.** (AAA)

坂田亘 (エボリューション) VS **エイドリアン・セラーノ**

は6月のパンクラス後楽園大会では、渡辺大介に圧勝。試合後「美濃輪戦以外ではパンクラスに上がるつもりはない」と挑発しているだけに、9月に美濃輪戦を実現させるためにもインパクトある勝利を望みたい。

そして今回の"隠し球" ホジェリオ・ミノタウロ・ノゲイラ！ その名前と、見た目が第2回リングスKOK王者のホドリゴ・ノゲイラにそっくりなことでもわかるように、なんとノゲイラの双子の弟なのである。バーリ・トゥードは初挑戦ながらも、その寝技での実力は昨年のワールド柔術選手権に優勝するなど確か。現在は兄ホドリゴらと最強軍団ブラジリアン・トップチームで練習に励んでいるということで、今回、その鮮烈デビューが見られることだろう。

この他にも元リングス坂田のフリー第一戦やドスカラス、カト・クン・リーなど、硬軟取り混ぜ見どころたっぷり。

総合の新たなムーブメントを体感せよ！

DEEP2001 in YOKOHAMA

8月18日（土）、神奈川・横浜文化体育館
[試合開始] 午後6時（開場午後5時、5時30分からフューチャーファイトあり）

[入場料] ※当日1000円増し

VIP（最前列）	30000円	アリーナS	20000円
アリーナA	15000円	アリーナB	10000円
2F指定	10000円	3F指定	6000円

[問い合わせ]
DEEP2001事務局 052・339・0303
http://www.deep2001.com

「嫌われてナンボ」
俺は総合格闘界の
ヒールを目指す!

8・18
DEEP
横浜大会
出場決定!

郷野聡寛

Akihiro Gono

［TEAM GRABAKA］

「桜庭さん、菊田さん以外の同階級の日本人選手には負けるわけがないと思ってますから」

聞き手／チョロ　撮影／森田友美

designed by hisa（Two Three）

郷野聡寛が遂に格闘ボーダレスのステージに姿を現した！　長らく親しんだ修斗を離れパンクラスに登場。そしてDEEPへの参戦決定と、不遇の時代の時間を取り戻すかの如く、動き始めた郷野。その躍動する言葉を聞け！

――久々の『紙プロ』登場ですけど、8月のDEEP出場が決まったみたいですね。

郷野　現時点では、まだ相手が決まってないんですけどね（この取材後、ダスティン・デニス戦が正式決定）。

――修斗を辞めてフリーになってから選択肢はだいぶ広がったと思うんですけど……。

郷野　（遮って）フリーといっても俺は昔っからフリーだったし、グラバカでしたからね。修斗の選手と見られてましたけど、修斗を辞めたっていうよりは、修斗以外に出たために、その結果、修斗に出られなくなったっていうだけなんで（笑）。その辺はちょっと言っておきたいですね。

――失礼しました（笑）。郷野さんは、DEEP、パンクラスだけではなくリングスとかも視野に入れてるっていうことでしたけど、実際8月のリングスの10周年興行も選択肢の一つに入ってたんですよね。

郷野　そうですね。リングスさんにも良い評価をして頂いてますし、チャンスがあれば出ていきたいですね。これからは、いい相手と闘って勝って名前を上げたいし、もちろんお金も大事ですけど（笑）、欲張りに全部手に入れていきたいですね。

――キックボクシングの方も話があったらやりたいっていうことでしたけど。

郷野　自分はキックの試合をしても別にかまわないと思うし、やってみたいですね。たまにSVG（キックボクシングジム）に行くんですけど、そこの人にも「キックだけでも出来るじゃん」とか言われて、結構その気になってますからね（笑）。

修斗時代、リングスで金原との対戦が決定したマット・ヒューズに郷野はパワーに押し切られる形で判定負けを喫した。郷野にとって強くて無名な外国人は大きな壁となって立ちはだかっていたのだ。

――キックの試合なのに所属はグラップリングバカっていうのもいいですよね（笑）。

郷野　グラバカでキックのリングに上がるっていうのは、かなり斬新ですよね。それでセコンドには何故か菊田さんが付くという（笑）。でもホントにいつかキックの試合はやると思いますよ。

――でも、キックの世界もそうですし、今はボーダレスな時代って言われてますけど、実際は垣根が無いようでいて、かなりあるっていうのが現状ですよね。

郷野　いろいろありますからねぇ（笑）。リングスとパンクラスという過去に色々あった団体をまたに掛けて闘うことによって支持してくれる人もいるだろうし、両方のファンから嫌われたりもするだろうし、俺はむしろ嫌われたいんですけどね（笑）。

――ヒール願望が強いんですね（笑）。

郷野　この間のパンクラスでも言いましたけどハッキリ言って俺はヨソ者ですからね（笑）。俺みたいにホームリングを持たない人間が、そこの選手を倒していくわけですから、その団体のファンは俺に対していい感情は持たないだろうし、いい感情持たないってことは対抗戦みたいな感じで盛り上がるじゃないですか。そういう風に盛り上がるんであれば俺はいくらでも嫌われてもいいし、むしろ嫌われるの得意ですから。小学、中学って結構嫌われてたんで（笑）。

――嫌われ者だったんですか（笑）。何か思い当たる節はあったんですか？

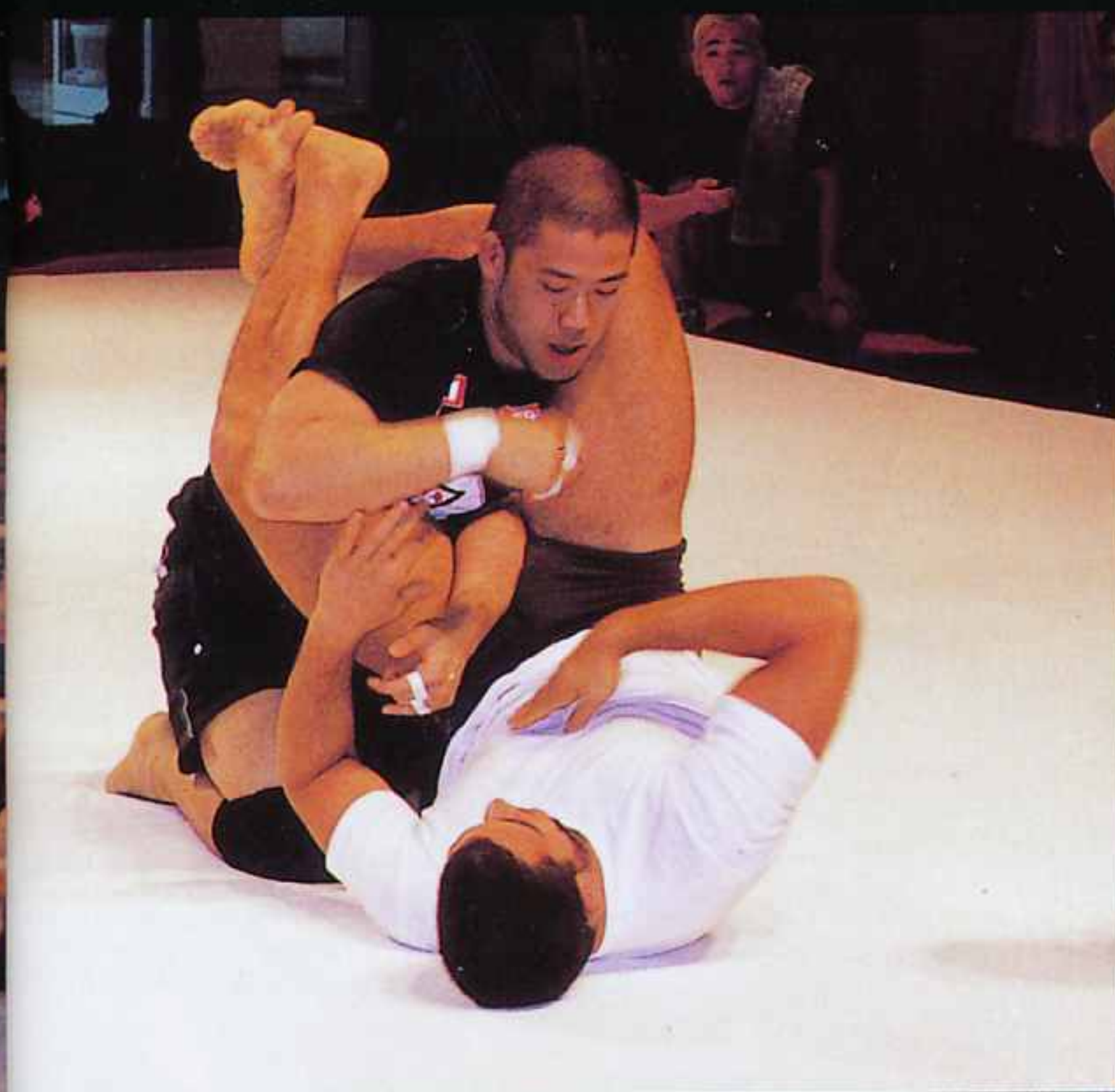
郷野　キン肉マンで見た技を次の日友達に掛けて、帰りの会で「郷野君にパロスペシャルやられたんですけど、やめて欲しい」とか言われてたし（笑）。つーか、俺は普通にしてても嫌われると思うんですよ。嫌われ者の素質があると思うんで。

――でも、女の子からも嫌われていいんですか？（笑）。

郷野　それは嫌われたくないですね（笑）。女の子にはリングとは違う一面を見せてアピールしようと思ってるんで（ニヤリ）。

――そこは譲れないと（笑）。実際に格闘技界にはプロレスの様にホントの意味でのヒールはいないですからね。

郷野　いないですよね。しいて言えば一時期グレイシーとかはプロレスファンとかにとってはヒールでしたけどね。それに、元々グラバカ自体がそういう方向性だったし、ボス菊田からも「ドンドン嫌われなさ～い」というお達しもありますし（笑）。俺も今まで修斗でいい子でいようって感じがあったんですけど、これからは素でいけるんで、その辺もスッキリした一因だと思いますね。

――菊田さんは「嫌われなさい」と言う割には結構いい人っていうイメージがあるじゃないですか？　実際はキツイことも平気で言う人なんですけどね（笑）。

盛り上がるんであれば俺はいくらでも嫌われていいですから

郷野　『紙プロ』でもいろいろありましたからね（笑）。でも、ボス菊田は根本的にいい人間だと思いますよ。そこが俺との違いでしょうね。俺は根本的に嫌われるタイプだし、その辺で嫌われっぷりに差が出てくるんじゃないかと思ってますけど。

――グレイシーもそうですけど、郷野さんもヒール宣言するなら美濃輪選手に限らずプロレスラーをターゲットにした方がヒール扱いされやすいでしょうね。

郷野　そうですね。やっぱりプロレスラーを名乗ってる人には知名度では勝てないですからね。そういう意味で、今は美濃輪は凄い人気があるし、パンクラスのファンも美濃輪を見たくてチケットを買うって人も多いだろうし、俺はそういうパンクラスファンのヒーローをやっつけるって言ってんだから嫌われて当然だと思いますね。

――そこまで言うからには、美濃輪選手に勝つ自信はかなりあるわけですね。

郷野　（自信満々に）ありますねぇ。ハッキリ言って図式的には俺が挑戦するように見えるだろうけど、俺の中ではそんな気持ちサラサラないですから！（キッパリ）。

――サラサラないですか（笑）。

郷野　美濃輪は凄い活躍してるけど、俺もそれ以上のことやってきたと思ってるし、打撃も投げも寝技も負ける要素はひとつもないし、いくらシュミレーションしても負けることはないですから。まあ負けるとすれば根性負けぐらいかな。自分は何やっても結構諦めが早い性格なんで（笑）。

――それはやばいですね（笑）。

郷野　美濃輪は追い込まれても気持ちが折れないし、最後は相手が疲れたり一瞬の隙をついて勝ったりとかが多いんで、怖いのはそれだけですね。それさえ注意すればハッキリ言って一本かKOは取れますよ。

――またハッキリ言いますね（笑）。

郷野　まあ、万が一判定になっても、かなりボコボコにして勝てるでしょうね。

――話は変わりますけど、以前の『紙プロ』（NO12）でのインタビューはファン、関係者含めて、かなり反響があったんですよ。

郷野　いろいろありましたねぇ（笑）。あれ読んで怒ってたプロレスラーがいるっていうのも知ってるし。でも俺もあの頃と違って、もう今はプロレスと一緒にされたくないとかっていう部分では別にこだわりはなくなりましたけどね。

――で、郷野さんはリングスに上がってた頃、成瀬さんや坂田さんと闘いたいって言ってたじゃないですか？　その2人もリングスを退団してフリーになったんで闘う可能性も出てくるとは思うんですけど。

郷野　全然問題ないですけど、向こうがやらないんじゃないですか？　俺は知名度もないし、俺とやっても向こうにはメリットは何もないわけですからね。でもそれは当然の考えだと思うんで、とりあえず俺はパンクラスをグラバカで制覇して、DEEPとか名前を上げていくしかないですね。

――美濃輪選手以外で闘いたいと思ってる選手はいないんですか？

郷野　今は何も考えてないですね。ただ俺が修斗でやってて思ったのは、最近は90キロ未満で結構選手が出てきたじゃないですか？　で、やっぱり桜庭選手は凄い強いと思うし、菊田さんも実際凄い強いし、あの二人は別格みたいな感じがあると思うけど、他の『PRIDE』出たり、UFC出たり、ようは修斗以外の総合格闘技の選手で、同じぐらいの体重の日本人選手だったら誰とやっても負けるわけがないと思ってますからね（キッパリ）。

――相変わらず凄い自信ですね（笑）。

郷野　誰ってことはないけど、俺より弱いだろっていう選手が表舞台に出てますから（笑）。やっぱり、そういう選手が目立ってるっていうか、チヤホヤされてる状況は面白くないですから。出来ればそういう人達とやっていきたいですね。

――誰のことだろ？（笑）。でも、郷野さんも、マッハ、ルミナさんも含めて修斗時代はファッション誌などでも頻繁に取り上げられてたし、若者からはチヤホヤされてたわけじゃないですか（笑）。

郷野　そうですかね。自分には全然そんな実感ないですけどね。

――修斗時代っていうのは、『PRIDE』とか他の大会と比べると正当な評価はされてなかったって感じてたわけですか？

郷野　う〜ん、そういうわけじゃないけど、他でやったらもっと注目されんだろうなって気持ちはずっとありましたね。

――聞くところによると修斗の大会ではセコンドにも付けなくなったみたいですね。

郷野　下北の興行でグラバカの選手が出たんですけど、セコンドに付くなって通達が来たんですよ。それは解せないですけどね。一緒に練習してる仲間のセコンドに付くのを拒否される理由はないと思うし。

今年のアブダビはニーノ“エルビス”の前に一回戦で敗退したが、他団体の日本人選手との交流の中で自分を見つめ直す機会を得たという。アブダビで郷野は決意したのだ。

俺より弱いだろっていう選手が表舞台に出てチヤホヤされてる状況は面白くないですね。

n Gono

郷野聡寛【ごうの・あきひろ】1974年10月7日、東京都東久留米市出身。96年10月のトッド・ビョーナサン戦で修斗デビュー。打・投・極のバランスに優れたルミナ、マッハらともに修斗の未来を担う“総合格闘技の申し子”と呼ばれる逸材であった。今年の5月に修斗を離れ、盟友菊田が活躍するパンクラスにGRABAKAの一員として参戦した。

殴った方が快感は全然上だし、血がダラダラ出たら、もう最高!

——それはそうですよね。

郷野　でもまあ、そういう風になるのを覚悟してこういう行動取ったんで仕方ないと思いますけどね。修斗と共にっていう人は俺のこと快く思ってないだろうし、組織全体としても俺のことを嫌いだと思うし。ホント、この世界でみんなと仲良くなるのは無理なんだってよく分かりましたよ。ただ坂本プロデューサーだけは俺のこと気に掛けてくれてて、最後も「また、いつかウチでやれたら出てくれや」って言ってくれたし、坂本さんだけはホント感謝してますね。

——そうでしたか。郷野さんの近いところでの目標っていうと何になるんですか?

郷野　具体的に言うと、ブラジリアントップチームの強豪と闘いたいっていうのと、さっきから言ってる美濃輪戦ですね。今はその二つしか考えてないですね。

——その二つを倒したら相当知名度も上がるでしょうからね。

郷野　でもブラジリアントップチームの選手ったって誰も知らないと思いますよ。(ヒカルド・)リボーリオ、パウロ(・フィリヨ)って言ったって「誰だ、そりゃ?」って感じでしょうけどね(笑)。

——確かに(笑)。

郷野　で、俺は手っ取り早くリボーリオかパウロとやりたいんですよね。美濃輪選手が勝てなかったじゃないですか?

——いい試合はしましたけど、結果的にはパウロに負けてますからね。郷野さんが倒せば美濃輪戦への流れが出来るし。

郷野　それを狙ってるんですけどね。

——それに郷野さんはリボーリオとはアブダビでやって負けてますけど、総合ルールだったら勝つ自信はあるんですね?

郷野　ありますね。寝技だけならば俺の知らない技とか知ってんだろうけど、スタンドだったら相手が喰らったことのない打撃を喰らわせてやりますよ! それでダラダラ血を流させたいですねぇ(笑)。

——タチ悪いですねぇ(笑)。それで、リングスを退団した成瀬さんは新日本に上がることになったんですけど、例えば郷野さんは条件が良かったらプロレスのリングに上がるっていう可能性はあるんですか?

郷野　今のところ全く考えてないですね。逆にリングスから日本人選手がいなくなって俺が目立てるところが増えたっていう感じなんで。先発の駒が足りないチームに移籍してきたピッチャーみたいな感じになりたいと思ってますから(笑)。

——即戦力になってやるぞと(笑)。

郷野　でも正直、プロレスはよくわからないし、今はないですけど、でも3ヶ月後どう気が変わってるか自分でもわからないんで(笑)。コロッと変わるかもしれないし。

——3ヶ月後はわからないってことですけど、やっぱり一生グラバカでいたいっていう気持ちは強いんですね?

郷野　そうですね。俺はグラバカを愛してますから。それに菊田さんも沈んだ時期があったじゃないですか。『紙プロ』のインタビューのあと結果出せなくて(笑)。俺も悩んだ時期があったし、そういう時を一緒に過ごした仲間ってのは切れないっていうか、強力な仲間意識がありますから。こればっかりは3ヶ月経っても変わることじゃないですからね(笑)。

——郷野さんはグラバカとはいえ打撃が得意じゃないですか。やっぱりスタンドで勝った方が気持ちいいんですかね。

郷野　そうですね。グラバカの中では一番俺がグラバカじゃないんじゃないですか(笑)。やっぱり殴った方が快感は全然上だし、血ダラダラ出たら、もう最高!(笑)。

——アハハハ! それは天性のヒールの素質がありますよ(笑)。

郷野　渡辺戦のヒザ蹴りもホント気持ち良かったぁ(しみじみと)。この間なんて傷口広げにいってましたからね。もっと血を出させなきゃって思って(笑)。

——逆に返り血を浴びたいぐらい?(笑)。

郷野　燃えますねぇ(笑)。そういう意味では近藤選手がサウロ(・ヒベイロ)を倒したときはジェラシー感じましたね。あれは、かなり気持ち良かったと思いますよ。

——血もダラダラ出てましたしね(笑)。郷野さんは、S、Mで言ったら、バリバリのSなんでしょうね?

郷野　いや、それは状況によりますねぇ。相手によっては、いじめられたいときも有るかもしれないんで(笑)。

——それは言えますね(笑)。最後に今度の試合の意気込みを一言お願いします。

郷野　なんかいろんな選手が出るみたいですけど、自分が一番目立ちますよ!

【00年7月11日、東京・新大久保「仙力」文にて収録】

Akihiro

今回の取材の場所となったのが、郷野のいきつけの店・大衆魚岸料理「仙力」。新宿スポーツ会館で練習帰りの郷野と遭遇できるチャンスだ。【新大久保駅から徒歩3分 TEL.03-3367-2745】

沈黙を破り、リングス離脱
道場設立から今後の
ターゲットまで語りまくる!

坂田亘

Wataru Sakata

8・18
DEEP
横浜大会
エイドリアン・
セラーノ戦
決定!

「パンクラスにも『PRIDE』関連でも
けじめつけたい相手がいる!」

聞き手＆撮影／チョロ
designed by hisa（Two Three）

山憲、成瀬、そして田村と離脱者の相次いだリングスで最後の最後に退団が発表されたのが坂田亘である。2月の柳澤戦以来、ケガの治療と地元名古屋でオープンする自身の道場の設立準備に追われ、沈黙を守る形となっていた坂田。道場の正式オープンも決まり、今後に向けて始動しはじめた坂田に、リングス退団の理由から道場設立の目的、さらには前号で飛び出した金原発言への返答まで、坂田が語った！

――以前から噂されていましたけど、地元の名古屋で道場をオープンすることになったみたいですね。

坂田　そう。道場名はエボリューション。

――前々から道場設立っていうのは考えていたんですか？

坂田　やっぱり、俺がこの世界に入るきっかけになったのが浜口ジムだから、そういう意味では、ジムを経営するっていうのは浜口さんの影響が大きいよね。

――坂田さんは浜口ジム出身ですからね。

坂田　当時は自分でジムやりたいとかそういうふうには思わなかったけど、田村さんが教えたりしてるのを見て、なんかこういうのっていいなって思ったのもあるし、自分の地元が総合の熱が弱いっていうのもあるしね。前田さんがいた頃は違ったけど、リングスの時に名古屋で大会があっても客の入りはまばらだし、ちょくちょく名古屋に帰っても総合のジムはあるにはあるんだけど、なんか今ひとつ盛り上がってないからさ。

――やっぱり、東京とか大阪に比べると格闘技熱は弱いんでしょうね。

坂田　そうそう。なんでかなって考えると、やっぱり現役の選手が教えてないからっていうのが大きいと思うし、だったら自分がいった方がいいかなって思ってね。

――道場名の『エボリューション』っていうのは、どういう考えで付けたんですか？

坂田　エボリューションっていうのは「進化する」とかって意味なんだけど、いろんな意味で俺は進化していくんだよ！（笑）。

――いろんな意味で期待してます（笑）。

坂田　でもね、俺は別にジム経営で食っていこうとは思ってないからさ。

――やっぱりファイトマネーを一番の収入源にしていこうと思ってるんですか？

坂田　そうだね。今はフリーっていう状況になったんだから、どんな相手とやろうが一回一回が凄く大事だからね。負けたらジムの名前に傷が付くわけだし。

俺がパンクラスの選手とやるんだったら、あの選手しかいないでしょ

――確かに、坂田道場の道場主としては、これまで以上に一戦一戦負けられない闘いが続くわけですね。

坂田　そうなんだよ（苦笑）。でも、自分でそういう状況にしたんだから、それはそれで今はいい緊張感を感じてるよ。やっぱりジムに人を呼ぶにあたって何が一番手っ取り早いっていったら、いい試合して勝つっていうのが大きいだろうから。

――それで、坂田さんが次にリングに上がるのは8月のDEEPになるわけですか？

坂田　まだ決まってないけど（この取材後、正式に出場が決定）、一番熱心に声をかけてもらってるから、そうなると思うよ。

――村浜選手のようにDEEPと年間契約とかは考えてないんですか？

坂田　あぁ、それは絶対ない。どっかに所属しちゃったら何のためにリングス出たのかわかんなくなるしね。

――確かに。それで、坂田さんは具体的にはパンクラスの第一世代と闘いたいって言ってましたけど、ズバリ誰なんですか？

坂田　まだ決まってるわけじゃないから具体的には言いたくないけどね（笑）。まあ俺もやらなきゃいかんこともあるし、いろいろ考えてることもあるからさ。

――まあでも、坂田さんの過去の発言を遡れば誰と闘いたいかは何となくわかるような気がしますけどね（笑）。

坂田　まあ、あってると思うよ（笑）。やるからにはテーマのある闘いをしたいし。

――佐伯社長は坂田対高橋戦を12月の両国大会で実現させたいって言ってたし、願ったりかなったりじゃないですか。高橋さんとやりたいのかはわかりませんけど（笑）。

坂田　どうだろうねぇ（笑）。あとは向こう次第だけど、俺がパンクラスの選手とやるんだったらそれしかないんじゃない？

――そのカードはファンも望んでると思いますし。古くからのリングス、パンクラスファンなんかは特に（笑）。

坂田　俺もリングスじゃなくなっちゃったけど、まあ期待に応えるよう頑張るよ（笑）。でもさ、ファンが望んでるって言うけどさ、確かに俺らはファンあってのもんだけど、いちいち全部聞いてたらキリないし、ファンの声に自分の進路を委ねるようなマネもしたくないしね。前田さんだって新日時代に、いつも反骨精神じゃないけど、そういう感じで生きてきて、それが受け入れられてファンが付いてきたわけでしょ？　ファ

過去、高橋の「前田を殺す！」発言に対し「俺が前田さんを守る！」と真っ先に反応したのが坂田。フリーとなった今でも究極の対抗戦として実現が望まれるカードである

第１回のＫＯＫトーナメントＢブロック一回戦で激突した坂田とヘンゾ。結果的には腕十字で秒殺されてしまった坂田だが、虎視眈々とリベンジのチャンスを狙っていたのだ

いつ何時でも臨戦体勢の村上と坂田の一戦はリングスで決まりかけていた小川対山本戦のセミで実現の可能性があったという。大谷ではないが、熱い男同士の闘いが見たい！

ンっていうのは後から付いてくるもんだと思うし、だから「ファンのニーズが」とかよく言うけど、そんなの関係ないよ！

――逆にファンが付いてくるような闘いを見せていけばいいわけですからね。

坂田　そうそう。そうならないとダメだと思うよ。それに夢のカードなんて言ってたらいくらでもあるじゃないですか？　例えば、俺が獣神サンダーライガーとやったらどうなのかとか、そんなの言い出したらキリないしね。いい意味で、今は山本さんと成瀬さんがやってくれると思うよ。

――で、今回のリングスとの契約の時には、他団体にも上がりたいとか、いろいろ要望は出したみたいですけど、結果的にお互い歩み寄れなかったわけですよね？

坂田　そうだね。まあ、前田さんの言いたいこともわかるんだよね。

――他の大会に出たいんだったら、最低限自分のところの試合に全部出てからっていうことを言ってますよね。

坂田　それは凄い当たり前のことだし、よくわかるんだけどね。前田さんは前田さんで俺らの気持ちもわかってると思うし、やっぱり、お互いにわかる部分があるから、どうしようもないんだよね。それに自分はジムのことも考えてたんで、例えばリングスに所属したままでいても、ジム生が育ってきて「あれ出たいこれ出たい」って言って、いろんな話はできたと思うんだけど、自分はリングスしか上がれないってなると、ちょっとどうかなって思う部分もあったしね。

――田村さんと同じような悩みですよね。

坂田　そうだね。それに前田さんも俺らのこと甘やかしていたところがあったって言ってたけど、まあそれもいろんな意味で言ってるんだと思うんだけど、こっちも実際、甘えてた部分もあったと思うしね。

――それはどういった部分ですか？

坂田　これはリングスを辞めるって決心してからなんだけど、例えば、いま大和ジムにキックの練習に行ってたりとか、ボクシングの松田ジムに出稽古行ったりして、なんかジム生の凄いハングリー精神を感じるんだよ。プロになって試合してTV出ていい金もらって、有名になるぞっていうね。

――プロ志望の格闘家としては当然の欲求でしょうね。

坂田　そうそう。自分はそういう気持ちが薄れていたんじゃないかって部分も正直あるしね。そういう意味で選手として凄い刺激を受けたから。結局、そういうギリギリの状況に自分をおきたかったっていうのもあるし、別にこれは格好付けてるわけじゃないけど、そういうのは凄い感じるよ。

――結局、坂田さんはリングスには何年いたことになるんですか？

坂田　8年！　だから正直つらかったよ。一応、生え抜きだしね。

――坂田さんは、リングスに所属しつつ、他の団体にも出ていきたかったんですよね。

坂田　まあ前田さんの立場になってみれば、もっともなこと言ってんなとは思うし、ただこういう時代だから、なんとか前田さんにも少しでもうまくいくようにやって欲しいと思ってたけど、そこまでいくには時間が掛かると思ったし。だったらもう、自分たちから外に出るしかないしね。他のみんなもそうだと思うよ。

――成瀬さんを例に出せば、新日本を選択したわけですけど、坂田さんは選択肢にプロレスのリングはないんですか？

坂田　ないっていうか、別に本気で話も来ないし、どうなんだろうなぁ？　興味は、なくもないけど、やらなきゃわかんないこともあるだろうし、今の段階で何も想像がつかないし、今はジムのことで頭がいっぱいいっぱい（笑）。それにウチは総合格闘技ジムって謳ってるわけだしね。だからってプロレス嫌いって言ってるわけじゃなくて、やっぱり簡単な気持ちで「プロレスやります」って言えない部分もあるし……でもまあ長くやっていけばいろんな展開が出てくると思うからわかんないけどね。

――坂田さんは大仁田嫌いで有名だし（笑）、プロレスと自分たちがやってることとは一線を引きたいって感じでしたけど。

坂田　だから、対プロレスって考えた時に、結局これまでの展開を見れば最後はみんな呑み込まれてるわけじゃない？

――Uインターにしろ全日本もそうですけど、最終的にはそうなっちゃいますよね。

坂田　呑み込まれないぐらいの力を持ってればいいんだろうけど、今の時代じゃそれも難しいと思うしね。今はわかんない！　あくまでも俺は総合格闘技をやっていこうと思ってるし、ただ何でもそうだけど、絶対はないでしょう。

――そうですか。それで、前回『紙プロ』に出てもらったのは柳澤戦の前だったんですけど、その時は強気な発言連発で試合を期待してたんですけど、結果的に……。

坂田　（嫌そうに）いいよ、その話は。

――実際はブーイングを浴びるような試合になってしまったんですけど（苦笑）。

坂田　（即座に）すいませんでした！

――いきなり謝りますか（笑）。

坂田　柳澤選手とどっかでまたやることになったら、またもう一回、同じことを言ってやってやるよ。でもね、結果的にリングス最後の試合がああいう試合になったのは俺が一番辛いんだよ！（苦笑）。

――試合後のマイクアピールも含めてブーイングは凄かったですからね（笑）。

坂田　言うなよ、あんまり！（笑）。だってこれからだよ、これから！

――わかりました（笑）。次リングに上がる時は、必ず面白い試合を提供すると。

坂田　もちろん！

――でも8年もいたわけですし、リングスのことは辞めても当然気になりますよね。

坂田　そりゃそうだよ。

結果的にリングス最後の試合がああいう試合になったのは俺が一番辛いんだよ！（苦笑）

膠着試合となり、試合中からブーイングに包まれた今年2月の坂田対柳澤戦。試合後「体調がベストに戻るまで休みます。すみませんでした」とマイクで語った坂田。結果的にはこの試合がリングスラストマッチに

Sakata

リングスで一回決まりかけてた俺と村上の試合ってどうかな？

——金原さんは抜けていった選手は横柄な人が多かったとか言ってましたけど（笑）。

坂田　別に言わしときゃいいんだよ。別にそれはそれでそういうふうに思っとけばいいじゃん。ただどうかなぁ、あんまりそういうことお互いに言わない方がいいんじゃないかなとは思うけどね。あっ、でも田村さんは金原さんのインタビュー見て呆れてたらしいよ（笑）。

——呆れてましたか（笑）。

坂田　途中で読むのやめて『紙プロ』放り投げたみたいだよ（笑）。

——アララ。あと、金原さんは田村さんだけじゃなく、坂田さんに対しても「練習に来ない」とか「来ても態度が悪い」とか言ってたみたいなんですけど、坂田さんからは何も反論はないんですか？　別に煽ってるわけじゃないですけど（笑）。

坂田　あるけど言わないよ。ガキの喧嘩じゃあるまいし、俺は言わしときゃいいと思ってるから（キッパリ）。「その通りです」って書いといていいよ。

——そうですか。でも、いつになるかはわからないですけど、金原対坂田戦っていうカードも俄然楽しみになってきましたね。

坂田　まあ話は来ないと思うけど、もし今後、リングスに上がる機会があるんだったら金原さんと対戦もありえるだろうね。

——いやぁ、それは期待してます。でもフリーになったわけですから、当然『PRIDE』とかにも興味はあるわけですよね。

坂田　そりゃあるでしょう。

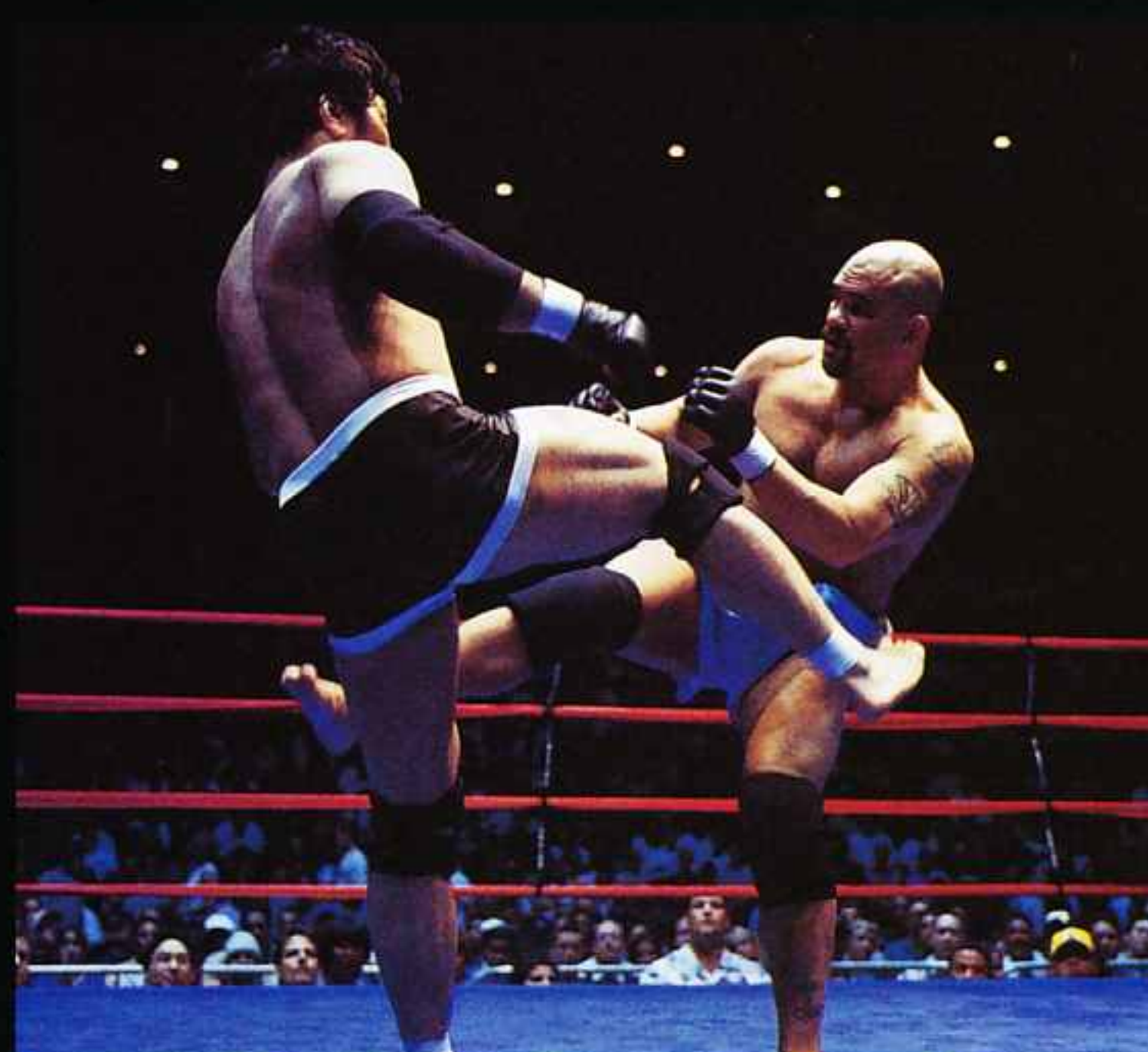
——『PRIDE』では誰か闘いたい選手とかいるんですか？

坂田　けじめつけたい相手がいるんだよ。

——けじめですか？　『PRIDE』関係で坂田さんと接点があるっていうと……やっぱりヘンゾとかですか？

坂田　そうだね。ヘンゾも、オレがやりたいって言ったら、一回勝ってるからやるって言うんじゃない？（笑）。

——結果だけ見れば、ヘンゾ戦は秒殺されてしまったわけですけど、やっぱり打倒グレイシーっていうのは坂田さんの中ではかなり大きいわけですか？

坂田　グレイシーって言っても他のグレイシーは知らないもん。接点もないし。ただ、ヘンゾとはもう一回闘ってみたいんだよ。

8・18ＤＥＥＰ横浜大会ではエイドリアン・セラーノとの対戦が決まった坂田。セラーノはパンクラスで美濃輪、リングスＵＳＡ大会では金原に敗れており、道場長＆フリー初戦となる坂田にとって負けられない一戦である。勝つんだ、坂田！

——けじめをつけたいということは、今度やったら自信はあるわけですね？

坂田　そうだね。まあ同じ結果にはならないと思うよ。

——『PRIDE』系の日本人選手で闘いたい人とかはいないんですか？

坂田　全然いない（あっさり）。

——いないんですか（笑）。『PRIDE』以外でもいいですけど。

坂田　山本さんじゃないけど、一回決まりかけてた村上選手ってどうかな（笑）。

——エッ、そんな話ありましたっけ？

坂田　山本対小川戦の話があったときに、そのアンダーカードで俺と村上が組まれるっていう話があったんだよ。結局、最後はぽしゃったけど（笑）。

——山本さんはリングス時代に話があった小川戦を実現させたいっていうのもリングスをやめた一因だって言ってましたけど、坂田さんも同じような感じなんですか？

坂田　俺はそんなんじゃないけど、あの時は前田さんから電話があって、「村上とやれるか？」って言うから、「やります」って言っただけだよ。見たいの？

——坂田対村上戦っていうのは凄くいいカードですよ。キャラ的にも近いし（笑）。

坂田　（驚いて）えぇっ！　マジ？

——どっちも熱い男というか、喧嘩っ早いっていうイメージがありますからね（笑）。

坂田　なんで無理矢理煽るかなぁ（笑）。

——無理矢理じゃなくて、村上戦はホント見たいですよ。山本対小川戦が決まったら、そのセミとしては抜群ですよ！

坂田　そうなの？　俺は何をやるの？　やるならプロレスなのかな？

——プロレスのリングでも面白いとは思いますけど、やるんだったら総合格闘技ルールで実現して欲しいですね。

坂田　だったら問題ないけどさ。

——まあ村上戦に限らず、今後誰と闘うことになるのかわからないですけど、これからの坂田さんには期待してますんで、エボリューションし続けて下さい！（笑）。

坂田　まあパンクラスにも『PRIDE』関連でもけじめつけたい相手がいるんで、それに向かって頑張るよ。

［00年7月8日、東京・後楽園近くのレストランで収録］

Wataru S

上山龍紀

U-FILE第2の男が 8・18 DEEP横浜でパンクラス窪田と決着戦!!

「今度はリング中央でアームロックを極めます!」

今春吹き荒れた、リングスの日本人選手大量離脱。田村、山本、成瀬、坂田の4選手の退団で幕を閉じたが、同時にリングスの準構成員的な立場であった上山もリングスのHPから姿を消した。元々、自由な立場であった上山ではあるが、これからはより大きなフィールドで闘っていくことになりそうだ。まずはパンクラス窪田との決着戦。負けられない

聞き手＆撮影／堀江ガンツ

designed by gutty（Two Three）

——上山さんって、ナルシストですよね（笑）

上山　ハハハハ、そう見えますか？（笑）。

——いや、肉体が素晴らしいんで。ウエイト・トレーニングの後に、鏡の前で自分の身体を丹念にチェックするタイプなんじゃないかと（笑）。

上山　自分の体って全然、見ないんですよ。雑誌とかテレビとかで見て、「自分の体ってこういう体してるんだ」って思うぐらいで。風呂から上がったときも見ないですね。

——では、別に肉体美に憧れたわけじゃないと（笑）。

上山　そうですね。でも一応格闘技やってるからには、しょっぱい体もあれなんで。最低限作っとこうと思って。そんだけなんですよ。ごはんとかも気にしながら食べてますけど、週一回は好きなモノ食べるし。

——U-FILEでは田村さんもいい身体してますよね。田村さんの場合は多分鏡の前でポーズ取ってるんじゃないかと（笑）。

上山　それは分かんないですけどね（笑）。

——ではそろそろ本題に入ります。今回、田村さんがリングスを退団という形になりましたけど、、率直に言ってどう思われました？

上山　そうですね…。田村さんが辞められたことについては自分は言える立場じゃないし、言っても怖いんですけど（笑）。自分自身は前と変わらず、リングスも含めて色んな団体に上がっていきたいなと。実際にリングスさんの方からも「いつ上がれるんだ」っていうお話もらってますし、自分は変わらずリングスに上がりたいですね。

——もともと上山さんは「リングス・ジャパン」所属じゃないですもんね。選手紹介のコールでも「ファイテングネットワーク・リングス　U-FILE　CAMP」（笑）。

上山　長い肩書きでしたね（笑）。そこから「ファイティング〜」が取れるくらいで、ホント変わらないんですよ。ただ毎年恒例のリングス餅つき大会は呼ばれないかもしれないですけどね（笑）。

——アハハハ！　リングスのホームページからも姿を消していたんで、呼ばれないかもしれませんね（笑）。

上山　まぁ、ホームページはU-FILEのが出来たんで、2つあるのもおかしいですからいいですよ。

——上山選手はリングスのホームページを見たりするんですか？

上山　リングスのは全然見てなかったんです。でも、聞いた話なんですけど、「上山選手を新宿で見かけました。仕事もプライベートも大変そうでした」ってカキコミがあったらしいんですよ（笑）。それはビックリしましたね。

——プライベートは深く詮索しないでおきましょう（笑）。仕事の方では『DEEP』でパンクラスの窪田（幸生）選手との再戦が決定しました。この試合に関してはいかがですか？

上山　前回はKOKに近いルールだったんですけど、今回はバーリトゥードなんですよ。自分なにげにバーリトゥードは初めてなんで（笑）半分不安で、半分楽しみですね。多分ルール的には向こうの庭だと思うんですけど、負けられないです。

——前回闘ってみて、窪田選手はどういう印象を持ちましたか？

【1・8DEEP愛知県体育館】今年1月のDEEP第一弾では、リングスvsパンクラスという図式が濃かったためか、両者ともに、負けない闘いに終始し、結果はドロー。今回はより個人の闘いとなる決着戦。アグレッシブな闘いを期待したい。

どんなルールでも出ますけどホントはUWFルールが好き

上山　窪田選手は足腰が強くて、圧力が凄かったですね。強いと思います。でも、周りの人にも言われたんですけど、アームロックは極まってたかなって（笑）。

――疑惑のストップ・ドント・ムーブですね（笑）。確かに腕は反り返ってましたけど、やはり勝ったと思いましたか？

上山　ハイ。正直もらったと思ったんですけど、運がなかったですね。運も実力のうちなんで、しょうがないですけど（笑）。ちょっとあれは……。だから前回とはルールが違いますけど、続きなんであえて腕を狙っていきます！

――おお！　今度こそ止めんなよ、と（笑）。

上山　今度はリング中央で極めてレフエリーに止めてもらいますよ（笑）。

――でも窪田選手は極めに来るタイプではなく、相手にガードを取らせて上から殴ってくるタイプだから、やりにくくないですか？

上山　そうですね、やりにくいですね。向こうが極めにこないと、自分もなかなか極められないとは思うんで。でも向こうが攻めてくれれば、勝つにしろ負けるにしろ早く勝負がつくと思いますよ。攻めて来たら、自分は速攻で極めに行きますから！

――まあ、若いうちから、負けられない闘いするもんじゃないですからね。

上山　ガムシャラにいきます。極めにいけば自分も極められるリスクはありますけど、取られてもギブアップするつもりはまったくないですから！

――ところで、田村さんはバーリトゥードには否定的な考え方ですけど。上山選手は別にそういった思いないんですか？

上山　そうですね、自分はオファーがあればバーリ・トゥードでもコンテンダーズでも出ますけど、ホントはUWFルールが好きなんですよ。レガース着けて、掌底でやって。

――そうなんですか⁉　いまの選手であのルールが好きっていう選手はあまりいませんよね。

上山　いないですか？　ボクは好きですけどね。グローブ着けてやるのも嫌いじゃないですけど。

――何でUWFルールが好きなんですか？

上山　膠着がないからですからね。こっちの方が展開が色々あって動けるんで。

――別に田村さんに耳元で「UWFルールはいいぞ」って囁かれたわけじゃないと（笑）。

上山　それはないです（笑）。だからパンチもスタンドはアリでいいですけど、寝ても顔面パンチだと膠着になってしまうのが多いと思うんで、そう考えるとKOKルールもいいですよね。だから10周年の有明大会はDEEPがあるので出られませんけど、9月の後楽園にはゼヒ出していただきたいですね。

――今回バーリ・トゥードに出るのは「一回チャレンジしてみようか」っていう好奇心みたいな感じですか？

上山　好奇心というか、そういうオファーがあったんで。良い経験にもなるとは思うんで。

――窪田戦をステップにパンクラスの方び浸食していこうとかないですか？

上山　今回は再戦になってしまいましたけど、ホントはパンクラスでも色んな選手と闘いたかったんですよ。パンクラスの選手とは体型が合ういい選手が多いと思うんで。リングスでは20キロ差とかでもやってましたからね（笑）。あれはきつかったですね。

――いま体調はいかがなんですか？

上山　そんなに良くないですね。ボクはUインター、キングダムのときからヒザと足首が悪くて、正座が出来ないんですよ。

――そんなに悪いんですか？

上山　正座すると〝女の子座り〟になるんですよ（笑）。

――そうは見えないですけどね。

上山　やっぱり人には見せないようにしてんるんで。タックルとかも工夫してヒザに負担が、かからないタックルをやってるんです。でも、それ以外は大丈夫なんで、どんどん試合をしていきたいですね。試合をしなきゃいけない時期だと思うし。

――それではこれから、どんな試合をしていこうと思ってますか？

上山　そうですね。アグレッシブにいきたいですね。プライベートはアグレッシブにいけなくて膠着状態なんですけど（笑）。

――プライベートの膠着状態ってどんな状態なんですか（笑）。

上山　小心者で、マイナス思考なんですよ。だから押せないとこがあって、女の子に電話番号とかも自分から聞いたことないですから。いま彼女募集中です（笑）。

――それは紙面を通じてアピールしておきましょう（笑）。

上山　プライベートでは膠着でも、試合はアグレッシブにいきます！　闘う場所も拘りはないでんで、パンクラスでもリングスでも『PRIDE』でも。経験積んで強くなって田村さんに恩返ししたいですね。目標は田村さんですから。

――では8月18日の窪田戦は期待してます！

上山　はい！　新技も出すんで。窪田選手が読んでるかもしれないんで、どんな技かは言えないですけど。期待していてください！

【01年7月13日／川崎市登戸『フレッシュネス・バーガー』にて収録】

カト・クン・リーと闘う男　大久保一樹を直激‼

――大久保選手はプロ何戦目になるんですか？

大久保　リングスのディファ有明大会（3・20）でデビューしたので、プロになって2戦目です。

――では、今回のDEEPがバーリトゥード初挑戦ですか？

大久保　ハイ、初めてです。

――心境の方はいかがでしょうか？

大久保　練習しないと、とてもじゃないけど難しいです……。

――難しいですか（笑）。試合の話があったのはどういう経緯からですか？

大久保　田村さんから電話があって、「今度試合が決まったけど大丈夫？」って言われまして、「よろしくお願いします」って言ったんですけど。そうしたら相手が50歳の人だと言うんで、自分も最初はビックリして聞き直したら田村さん笑ってました…。

――最初は田村ギャグかと思った、と（笑）。

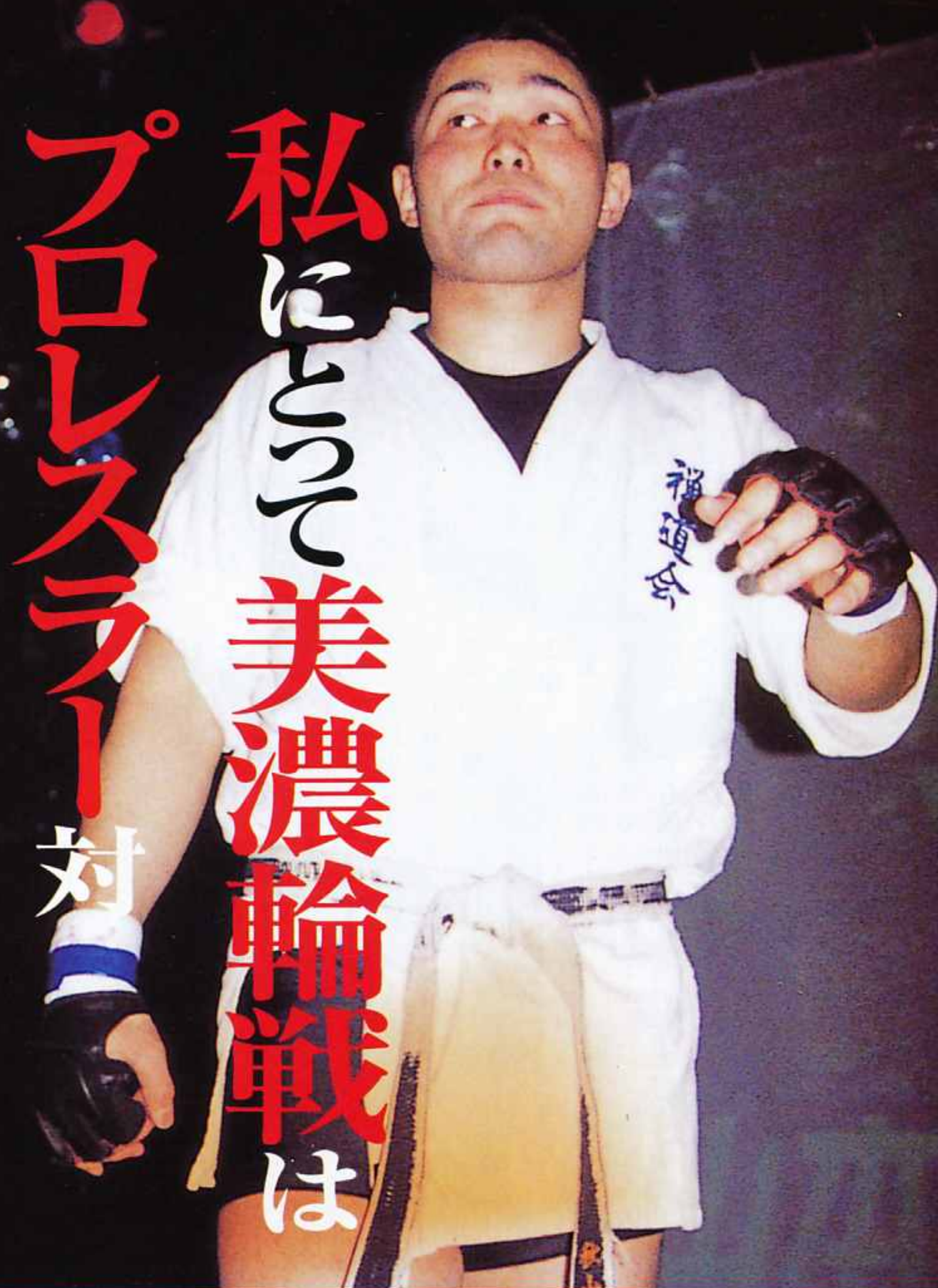
大久保　「顔面有りのルールだけど大丈夫？」って聞かれたんですけど、出れることは光栄なことだと思って「練習して頑張りますのでよろしくお願いします」って言ったら、相手はマスクマンだって……。信じてなかったんですけど…。

――それも田村ギャグだと思ったと（笑）。実際ホントだと分かってどうですか？

大久保　どんな闘い方するんだろうって…。

――それはボクにも見当がつきません（笑）。作戦は練ってるんですか？

大久保　周りジム生は「飛んでみろ」とか…、「マスク被って入場しろ」とか言うんですけど。とてもボクは、そんな余裕ないし……飛び技出来ないんで……。府川（唯末）さんに教えてもらって頑張ります（笑）。

私にとって美濃輪戦はプロレスラー対空手家の異種格闘技戦です！

た闘いが見たいヤツは

後楽園大会に集合!!

聞き手＆撮影／チョロ
designed by matsu (Two three)

奇しくも『PRIDE.15』と同日開催となったパンクラス昼夜興行。他流派大挙襲来で例年以上に盛り上がりを見せるネオブラッド・トーナメントが昼夜を通して行われるが、昼の部のメインを務めるのが今やパンクラスの"名勝負製造マシーン"美濃輪育久。そして対するは、未だバーリ・トゥード負けなしの禅道会・秋山賢治である。知名度はそれほどないが、かつて大道塾のエース格として活躍した秋山はこの一戦に賭けているのだ。その意気込みを聞け！

地上最強の空手を追求する
バーリ・トゥード無敗の男

秋山賢治
［禅道会］

——初登場のパンクラスでいきなりのメイン登場っていうのは凄いですね。

秋山　はい（微笑）。

——しかも、いま一番勢いのある美濃輪選手が相手なんですけど、ズバリ自信のほどはいかがでしょう？

秋山　まあ、実力を出せれば十分にあるんじゃないかと思ってますけどね。それにボクは前から美濃輪選手と闘いたいって希望してたんで、希望通りやれることになって嬉しいですね。山本（喧一）選手もそうでしたけど、ボクはスピリットを感じる選手とやりたいんで。

——ヤマケンとか美濃輪選手はスピリットの塊ですからね（笑）。

秋山　そうですよね。まあ、正直な話、総合ルールをリングの上でやるのが三戦目なんで、いきなり美濃輪選手かっていうのはあるんですけど、それ以外の試合の経験は豊富な方なんで、十分に闘えると思ってますけどね。

——秋山さんはバーリ・トゥード（以下VT）では何試合ぐらいしてるんですか？

秋山　12戦してますね。一応、それでは全部勝ってますけど。

——VT無敗なわけですね。

秋山　今のところ無敗ですね。負けてないんで（微笑）。

——そういう意味ではパンクラスは初参戦とはいえ、負けられないですよね。

秋山　負けられないですね。それで、ボクが武道家としてやらなきゃいけないのは、格闘技とか武道のリアリズムを見せることだと思ってますから。

——武道家のリアリズムですか！

秋山　観客を完全に無視することはでき

ないと思うんですけど、ボクが見せるとしたらリアリズムなんですよ。いかにリアルな精神性を見せれるかっていうことだと思うんですよ。ボクはプロレスラーになろうと思って次の日からやる人はいないと思うんですよ。

――まあ、それはいないですね（笑）。

秋山　しかしながら、リアリズムとか求道性っていうのに憧れて始める人はいると思うんですよ。もしくはボクみたいなおっさんが頑張ることによって（笑）、「俺でもやれるんじゃないかって」っていう可能性を持ってる人はいるんじゃないかと。

――秋山さんとしては、やる側の人間を増やしたいっていうことですね。

秋山　そうですね。

美濃輪選手に勝ったら ヴァンダレイ・シウバか ホイス・グレイシーと闘いたいです！

――美濃輪選手以外で闘ってみたい選手っていうと誰になるんですか？

秋山　ボクは美濃輪選手に勝てたらヴァンダレイ・シウバ選手と闘いたいと言おうかなと思ってます（笑）。

――エッ、シウバですか！

秋山　シウバもスピリットが強いじゃないですか？　そこには闘う人間としては惹かれますよね。惹かれるって言うとマゾヒストみたいですけど（笑）。

――アハハハハ！

秋山　自分がそういう人間相手に技術とスピリットで立ち向かえるか試したいですね。もうひとつは世に問えるという意味では一番旬な選手じゃないですか。

――確かに旬ですよね（笑）。なんか話を聞いてると、美濃輪戦も、シウバ戦も相当自信があるみたいですね。

秋山　いえいえ（微笑）。

――でも、美濃輪、シウバを連続で撃破したら一躍時の人ですよ（笑）。

秋山　そういうのはいいですよ。まあでも、時の人になったらエッセイでも書きたいですね。自分の生い立ちから書いて、読んだ人が希望が持てるようなものが書きたいですね（微笑）。

――エッセイですか（笑）。でも、美濃輪戦の日は、『PRIDE』も興行があるんですけど、意識はしますか？

秋山　ボクと美濃輪選手の試合っていうのは、凄い畑違いな総合格闘家の対決だと思うんで。目指しているものも違うと思うし。そういう意味では久々に異種格闘技戦になるなと思ってますね。

――異種格闘技戦ですか！

秋山　今は異種格闘技戦ってないじゃないですか？

――そうですよね。総合の技術が上がってきて、ホントの意味での異種格闘技戦ってなくなってきてますよね。

秋山　美濃輪選手とは畑も完全に違うし、考えてることも違うし、人間も違うんで、異種格闘技戦の面白さが見せらるんじゃないかと思いますけどね。

――今の時代にあえて異種格闘技戦をやるっていうのは面白そうですね。ましてや『PRIDE』と同じ日ですし。

秋山　そうですね。でも、わざわざ面白い試合にはしないですけどね（微笑）。リアリストに徹しますよ。

7・29は『PRIDE』だけじゃない！　究極のプライドを懸けた　闘

――リアリストですか（笑）。

秋山　そうですね。あの、極真空手の地上最強の空手っていうのはファンタスティックだったじゃないですか？

――ファンタスティックですよね（笑）。

秋山　でも、当時はリアリズムだったんですよね。

――年齢にもよりますけど、リアリズムと思って見てましたよね。

秋山　でも禅道会は本当にそれを目指すんで。地上最強の空手を目指してますから！（キッパリ）。

――ほぉ～。となると、地上最強のプロレス対地上最強の空手の異種格闘技戦になるわけですね。

秋山　そうですね。ボクは、プロレスラー対、地上最強の空手をまっとうにやってきた人間だと思ってるんで。空手家は途中で競技に逃げる人が多いんですけど（笑）、禅道会は極真ルールから来て、その流れの中でまっとうに地上最強を目指してやってる唯一の団体だと思ってますから。

――その部分に関しては揺るぎない自信があるわけですね。

秋山　それは自信を持って言えるところですね。その異種格闘技戦は絶対面白いと思うんですよ。プロレスラーを継承しているのは美濃輪選手だと思うし、今回は完全に柔術は無視で（笑）。

――プロレス対空手に柔術は必要ないですからね（笑）。

秋山　そうですよね。それで、ボクは美濃輪戦の次にやりたいのは、シウバと、もう1人はホイス・グレイシーと、それも道衣を着てやりたいんですよ。

――ホイスはシウバとは全然タイプが違いますよね。しかも道衣ですか。

秋山　シウバとは違いますけど、精神、スピリットの部分ですね。もうひとつは柔術対空手っていう意味で、やりたいですね。ホイス・グレイシーがグレイシーの中で一番実戦性にこだわってきたと思うんですよ。求道性だとか。

――でも、そういう夢の対戦を実現する意味でも美濃輪戦は重要ですよね。

秋山　そうですよね。美濃輪戦に勝たないとできないですからね。だから、ホントに気合い入ってますよ（微笑）。それに美濃輪選手はボクのことを消化試合ぐらいに考えてるかもしれないなって感じるんですけどね。

――そうはさせないと。

秋山　こんなはずじゃなかったって当日わかってもらいたいですね（微笑）。

――ホントに期待してます！（笑）。

【7月13日・東京・渋谷区・パルテノンプロにて収録】

【あきやま・けんじ】昭和45年8月23日、埼玉県出身。禅道会総本部所属。95年、96年の北斗旗体力別重量級で優勝するなど、かつては空手道大道塾のエース的存在として活躍。その後さらなる実戦性を追求し、禅道会に身を移す。禅道会の大会（VT）では負けなし。ヘンゾの弟子、ショーン・アルバレスにも判定勝ちを収めるなど、格闘技界では知る人ぞ知る強豪。クラブファイト、パンクラス出場を期に格闘技界の表舞台での活躍が期待される。176cm、82kg。

7·29 総合格闘技『PRIDE.15』ファンはどこへ……

現在『PRIDE』を観るより未来『ネオブラ』を観に行け!

構成・文／クレ斎藤
designed by matsu (Two three)

7月29日
後楽園ホール
DAY 1:30
NIGHT 6:30

佐藤伸也 (P's LAB東京) vs 長岡弘樹 (ロデオ・スタイル)

佐藤光留 (パンクラス横浜) vs 三崎和雄 (GRABAKA)

中台 宣 (パンクラス東京) vs 岩崎英明 (ストライブル)

太田洋平 (A³) vs 梁 正基 (パワー・オブ・ドリーム)

『紙プロ』にはインタビューしてもらったし、読者のためにも優勝しますよ!!

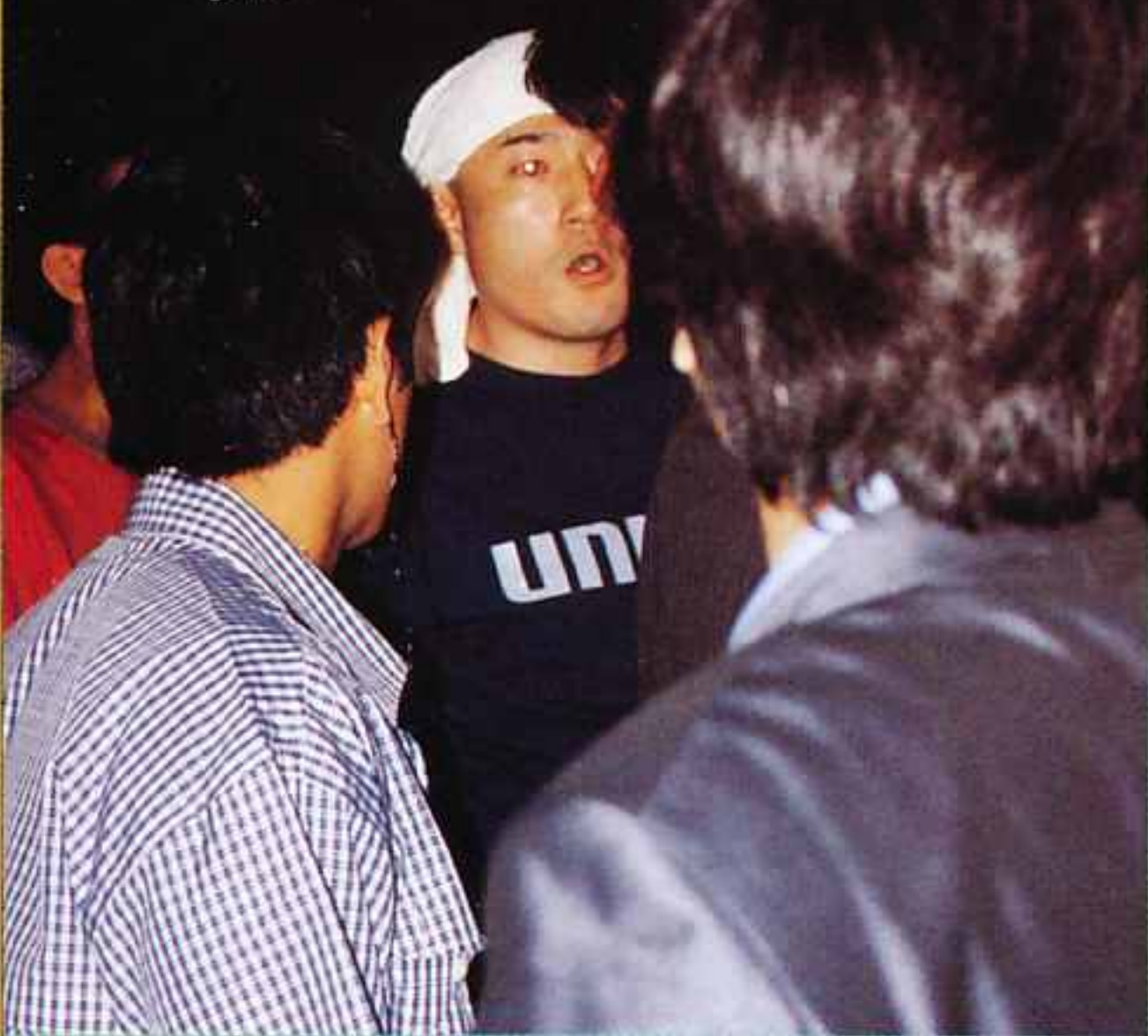
29日の選挙の投票は午前中に済ませろ。『PRIDE.15』は録画して、後でテープがすり切れるまで見るんだ。フジロックはサマー・ソニックのスリップ・ノットで満足したから別にいいだろう。さあ、ゴチャゴチャ言わず7月29日は若き虎たちの闘い、ネオブラッド・トーナメントに行け! 後楽園に総合格闘技の未来を感じに行くのだ!

5月5日に行われた予選から、熱い闘いが繰り広げられたネオブラット・トーナメントは、昨年から他流派の大量参戦によって俄然ヒートアップしている。1回戦からGRABAKA vs横浜道場の対決となる三崎和夫vs佐藤光留の闘いなどは、ネオブラッド屈指の熱いカード。負けられない意地がぶつかり合う!

当然、流派の看板を背負うこと以外にも、パンクラスという場から総合の世界に自分の名を売る大チャンス。自分の未来を賭けた闘いでもあるのだ。今回のネオブラッドで『紙プロ』一押しファイターでもある梁正基は、タイタンファイトで優勝しステップアップしてきただけにネオブラッドでも勝ち上がり、大ジャンプしたいところだ。「このあたりのレベルで負けるようじゃ、ランデルマンはブッ倒せないッスから!」と吠え、さすがヤマケンの弟子と思わせるビックマウスの裏にみなぎる自信と、常に前へ向かうアグレッシブなスタイルで未来を掴むことが出来るのか!? 行けッ、リョウォ! 他の奴らを食い潰せ。おまえが最後に残った血塗れの虎になるんだ!

NIGHT			DAY		
渋谷修身 (パンクラス横浜)	vs	ティム・レイシック (アメリカ)	ジェイソン・デルーシア (アメリカ)	vs	佐々木有生 (GRABAKA)
KEI山宮 (パンクラス東京)	vs	河崎義範 (RJWセントラル)	高瀬大樹 (和術慧舟会)	vs	ラバーン・クラーク (アメリカ)
國奥麒樹真 (パンクラス横浜)	vs	ショーン・シャーク (アメリカ)	伊藤崇文 (パンクラス横浜)	キャッチレスリング	林 俊介 (SKアブソリュート)

後楽園にくぎ付けなその他のカード

後楽園に風が吹くゼェェェ!
キャッチレスリング (1R)
鈴木みのる (パンクラス横浜) vs 石川英司 (GRABAKA)

TITAN FIGHT

7月1日
TRCアールンホール

構成・撮影／クレ斎藤
designed by matsu(Two three)

タイタンファイトは殺し合いじゃないんだ！サブカルチャーなんですよ！

「これじゃ相撲だろうが！　マイクをよこせ！　コラァ！」

そんな罵声と共に、「タイタンファイト」のステージが乱入者によって土足で蹂躙された！　それも観客にである！

大会中から悪質な野次を飛ばしていたこの乱入者は、冒頭の言葉から考えるによっぽどこのドロップアウトルール（場外2回で転落失格）が気に入らなかったのだろう。だからといって、こんな無法振りが許されるわけはない！　案の定、場内からは大ブーイング。出場選手からも「入場料を返すから帰れ！」の声も飛んだ。昭和新日であれば半殺しの目に遭ってやむなしのこの興行破りもどき。実際にヤマケンの一番弟子の梁正基などは「山本さん！　やっちゃっていいんですか!?」と前田日明ばりに臨戦態勢！　その後も吠えまくった乱入者だが、それ以上の混乱を起こすことなく大会関係者に抑えられる形で会場を後にし、無事（？）表彰式が行われた。

この混乱を招いた思われるドロップアウト。今回はその場外転落での決着が、13試合中8試合と半分以上を占めた。乱入するのは論外として、消化不良の部分もあったのは事実である。

だが、ヤマケンの言葉を借りれば「タイタンファイト」は将来ある選手を壊さず、陽を当てるスター誕生の場。もう1つのタイタンの売りであるニブイ音が響き渡る素手の打撃をドロップアウトが中和し、未来ある選手を守っているともいえるのだ。

実際にドロップアウトで敗れようと光る選手は光る！　アマチュア大会荒らしの所英男（パワーオブドリーム）や前回のタイタン優勝者でもある奥田を武人杯で破って登場の久原清幸（真武館）などは場外転落で敗れたが、強烈なインパクトを残している。ゴチャゴチャ言わんと、スター誕生の瞬間を見ればいいんや！

乱入者の言葉ではないが、タイタンファイトは相撲じゃない！　しかしタイタンのステージでの激しい闘いには、感動したーッ!!（小泉首相風）

「相撲じゃねえんだぞ！」無法者が土足で蹂躙！

13試合中8試合がドロップアウト決着……されどドロップアウトも進化する！

グラップリング・ルールでタイタンファイトのステージにヤノタク見参！　和術慧舟會の松藤晴裕と対戦となったこのワンマッチは、慎重に間合いを取る松藤に対してヤノタクが側転フェイントを敢行し、虚を突かれた松藤がバランスを崩しそのまま場外に転落！　このルールにしてドロップアウト決着か、と思われたがヤノタク得意の三角締めで無事（？）松藤を失神に追い込み勝利した。

体重65キロというトーナメント参加者最軽量の所英男（パワー・オブ・ドリーム）は準決勝で場外転落により敗れ、残念ながら3位だったものの、2回戦では35キロの体格差を物ともせずに下からのヒールホールドを極めるなど会場を大いに沸かし、KOKやコンテンダーズ、グラップリングBなど数々のアマチュア大会を荒らしまくる実力を発揮した。ジムの先輩の梁正基に続き、要チェックの選手だ。次回の闘う場所は一体どこだ!？

見てみい！　アマ修斗でも実績がある今回の優勝者の石井淳（超人クラブ）の強烈なヒザ蹴り！　素手による打撃も含めタイタンは物騒極まりない場であるのだ。ドロップアウトにしても、腕を極められてロープエスケープ代わりしたりそのまま持ち上げて落としたりと、ドロップアウトのバリエーションもアップしている。マウントを取ってパンチを繰り出していたが、勢い余って場外に手が着いてしまった選手もいた。なんてこった…。

ヤマケン激白！

「自分が金網の中に入って闘えばいいんですよ」

今日は乱入者が出ましたけど、これだけ格闘技があるんですから、見たいとこに行けばいいんですよ。ウチは入り口でルールは配ってるわけで、とやかく言われる筋合いはないんですよ！　彼がそんなに残酷ショーが見たいんでしたら、自分が金網の中に入って闘ってみればいいんですよ（笑）。今日の優勝者なんかとね（笑）。そうすればホントに将来ある選手の身体を守るためのスター誕生の場になるのかって分かると思いますよ。タイタンファイトのステージっていうのはサブカルチャーなんですよ。総合格闘技のメジャーの首脳陣から注目してもらってるんでね。優勝した選手も、日本人には重量級が少ないですから貴重な人材じゃないんですか。ドンドン選手をスカウトしてもらいたいぐらいですわ。自分も今年の下半期は大暴れするんでね、期待して待っててくださいよお！
（大会終了後コメント）

クラブファイト開催【8月20日・渋谷WOMB19：00 open】
新たなる賞金首はパンクラシスト！石井大輔（パンクラス東京）vs未定/高橋洋子（Jd'）vs石原美和子（禅道会）/秋山賢治が恐れる男・山本孝夫（禅道会）も参戦。

GIRL!』こそ

である!

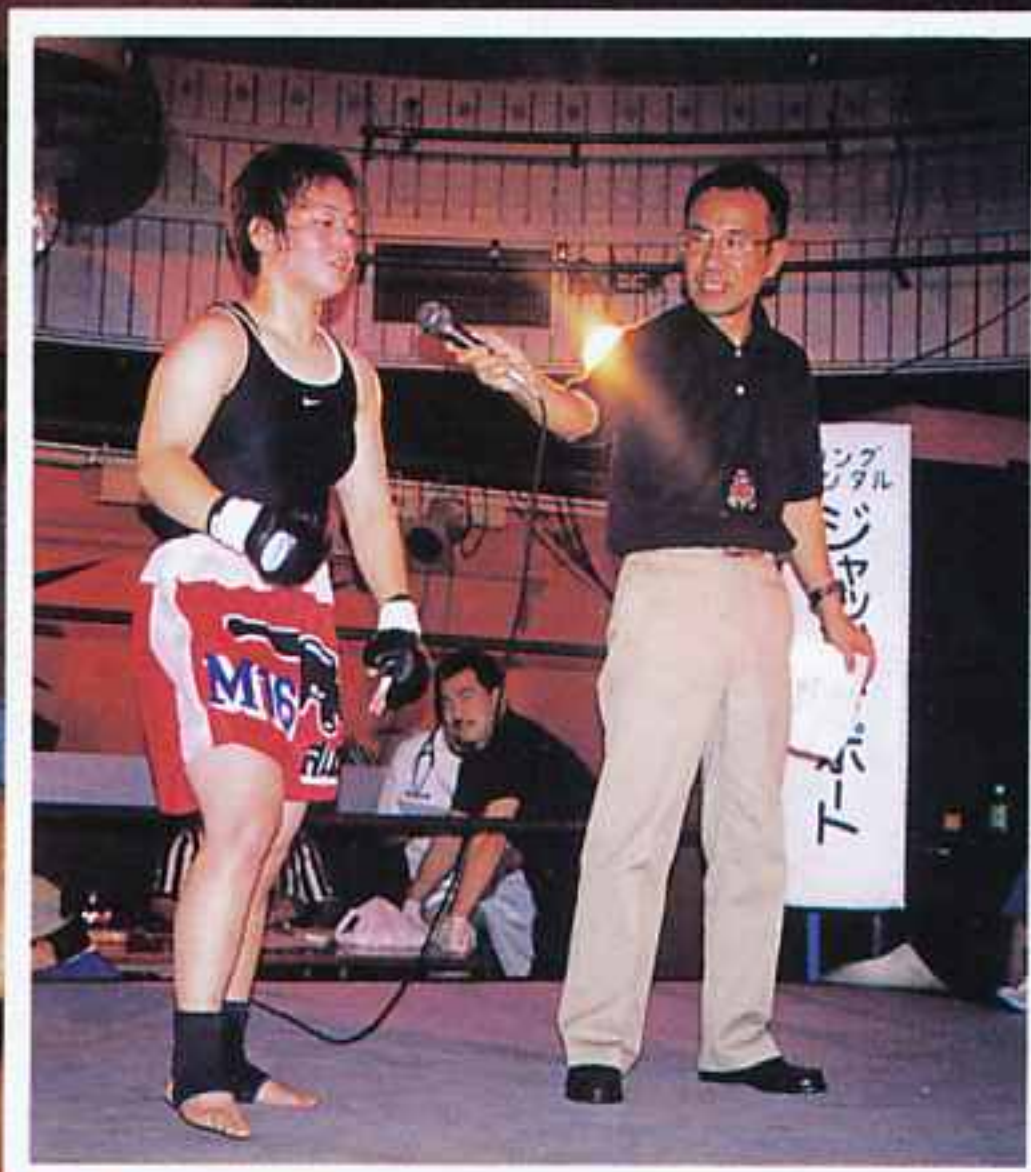
6・28 渋谷club ATOM

SMACK GIRL!

渋谷系女子格闘技

構成／チョロ
撮影／片山ぼん
designed by matsu（Two three）

オリジナル必殺技 〝アップルニュートン〟炸裂!!

99%の真実と100%の天然ファンタジー娘 星野育蒔を喰らえ!

すっかりお馴染みとなった天然格闘家・星野育蒔（通称マァ☆ティン）。試合後は恒例のパンチ＆キックのボディアクション付きインタビュー。今後、闘いたい選手は？との質問に「人間みんなとやりたいです！　ふがふが」と真顔で答えるから場内は目が点！　所さんじゃなくても「すっごいですねぇ〜！」と言わずにはいられない

『SMACK GIRL!』もS●Xも ナマに限る!

スマック・ガール解説者チョロが断言!

星野育蒔（通称・マァ☆ティン）は凄いッ！

ナマでマァ☆ティンの試合（＆入退場、リングインタビュー含む）を見たことがある人には改めて言うことでもないだろう。

キャッチフレーズの〝天然格闘家〟が表すとおり、この娘はかなり天然だ（いい意味で）。だいたい、「ふがふが」だとか「むきぃ〜」だとか、マンガにしか出てこないようなフレーズが、マァ☆ティンの口からは次から次へと自然に飛び出してくるのだ。この娘なら、日常生活で「ぎゃふん」なんていうマンガ用語も当たり前のように口にするに違いない。

観察しているだけで楽しめる新しいタイプの格闘家がマァ☆ティンなのだ。ぎゃふん。

満面の笑みを浮かべ闘うことが嬉しくて嬉しくてしょうがないという感じの入場シーンも一見の価値有り。今となっては入場だけで銭が取れる数少ないファイターと言える。

当たり前の話だが、リング上の星野も凄い！「コンソメパンチ」「リボ払い」「コブ絞め」「コケラ落とし」「泣き落とし」「サミシ刈り」など数多くのオリジナル必殺技を持つマァ☆ティン。正直な話、技の名前を羅列したはいいが、それがどういう技なのかは、さっぱりわからない。それでも、とにかく凄い技なんだろうなぁというのは、これまでのマァ☆ティンの全試合を見ているボクが保障する。

6月28日に行われた張替美佳戦でも驚愕の新必殺技が飛び出した。

その名はアップルニュートン！

それが、どういう技なのかは上の写真を見てもらいたいが、簡単に言うと、亀もしくは横四方の体勢から、逆立ちする要領で天に向かい

なぜかスマックガールの解説をしている本誌チョロ。「ちっとちっと」と、どもりまくりのチョロがどんな解説をしているのか、冷やかしで見てみては。実況は揚田あきさんだ

星野の活躍ばかりが目立つスマックガールだが、この久保田有希も、そのミステリアスなルックスと未だスマック負けなしの実力で人気急上昇中。八木や高橋洋子らとの大型対決も近い？

星野だけではない！スマックは女子を輝かせるステージだ！

渋谷系女子格闘技と謳っているだけに、可愛らしい格闘家の闘いが見られるのもスマックの魅力のひとつ（写真は6・28デビュー戦を勝利で飾った角田絵美）

キャッチフレーズは"スマッククィーン"の八木淳子。ReMixでは、さしたるインパクトを残せず評価を落としたヤギジュンだったが、スマックでは無敵の強さを誇っている

総合格闘技はデビュー戦となる元LLPW佐藤めぐみ（ニックネーム・キャサリン）。プロレスラーの意地を見せ、最後はネックロックでタップを奪い、嬉しい勝利！

『SMACK G

ボクらが望んだ

『渋女』の姿

思いっ切り足を振り上げ、逆立ち状態から一気にヒザをド～～ン！（ニコニコ笑いながら）と、ぶちかますというプロレスラー顔負けの四次元殺法なのだ。

しかも、この試合でマウントを取ったマァ☆ティンは、その体勢からもアップルニュートンを炸裂させたから驚き！　マウントからヒザ蹴りという、これまでの格闘技界の概念を自らのヒザ小僧（かなりワガママ）でぶち破ったマァ☆ティン。マウントパンチ禁止のＲｅＭｉｘルールだけに、かなり有効な技となるはず。

入場で沸かせ、試合で魅せ、試合後は必用以上に大喜び（もしくは大泣き）するのがマァ☆ティン。ジムでの練習中に急に髪が切りたくなって、自分でチョキチョキと髪の毛を切り落とすなど、ホント何をやるにも動物的なのだ。

目指すは「最強！　ふがふが」と、公言しているマァ☆ティン。世界最強の男はリングスが決めるみたいなので、世界最強の女はスマックガールで決めましょう。もちろん最強の座は、星野さん、奪っちゃって下さい！（前田調）このページのタイトルと原稿の内容が変わってしまったが、それほどボクは声を大にして言いたい！　一度でいい、星野育蒔を見ろと！

（チョロ）

遂に"あの女"がマットに上がる！

［紙プロ］発売日当日に行われるスマックガールでデビューするのが篠原光（写真中央）。そう、彼女は力道山を刺した男の娘なのだ。すでに写真週刊誌に登場したり、新宿プロレスで何度かリングに上がっている（公開練習やエキジビションだが）ので知っている人も少なくないはず。ストリートファイト無敗のこの女の対戦相手は元ＬＬの佐藤めぐみだ。

ザ・グレート・サスケ

［みちのくプロレス社長］

巻末サスケ・スペシャルインタビュー

The Great SASUKE

PTSD症候群に悩まされるサスケ社長が、久々の『紙プロ』登場で

『前田日明』『RINGS』『DEEP』『カト・クン・リー＆ドス・カラスJr』から『「噂の真相」の真相』まで

仮面の大激白！

『紙プロ』へはお久しぶり（タマリンぶり？）の登場となる“みちのくの英雄”ザ・グレート・サスケ。リング上ではディック東郷に裏切られたり、外道に肩を外されたりとついていないサスケ社長。リングを降りても、『噂の真相』でスキャンダルが発覚（？）したり、PTSD症候群に悩まされたりと、これまたついていない。元気を出してもらおうとサスケ社長を訪ねると、心配したのがアホらしくなるぐらいの絶口調で、「前田日明」から「カトの親父」まで語り倒した六本木の夜。

聞き手／チョロ　撮影／丸山剛史

designed by hisa (Two Three)

――いつも時代の最先端を行くサスケ社長ですけど、最近なにかと話題の、ＰＴＳＤ症候群（心的外傷後ストレス傷害）に悩まされてるみたいですね？

サスケ　そうそうそう！　よく知ってるねぇ～？　もう結構ウワサになってるの？

――かなりのウワサですよ（笑）。サスケ社長は岡田美里が衝撃告白をする前から、ＰＴＳＤにかかってたんですか？

サスケ　う～ん、同時期ぐらいかな！　やっぱり、ディック東郷に２回も乱入されちゃったから、今度は、いつ誰が乱入するんだって、ビクついちゃってるんだよ。さすがのオレも人間不信に陥っちゃって……例えば、誰かが「サスケさん、手紙ですよ」って手紙をポンと置くだけで、もうオレは怖いんだよ。そういうわけで大変なんだよ。

――東郷さんの件もそうですけど、ここ数年は離脱者続出で、まるで、リン……。

サスケ　（相手の言葉を遮りながら）そう！　これだけは言わせてくれ！　先月号の『紙プロ』を読んで、オレは前田（日明）さんの気持ちが痛いほどよくわかる！　前田さんは元気を装ってるけどね、絶対に陰で泣いてると思うんだよ。

――泣いてますか（笑）。猪木さんが昔、大量離脱があったときに「大掃除が出来た」と言ってたみたいな感じなんですかね。

サスケ　うん、前田さんがそのコメントを見習ったかどうかわからないけどね。「影響ないよ」って言ってはいるけど、影響がないわけはないと思うし。そして、心で泣いてると思うね。頑張って欲しいよね。あとは……金原（弘光）がいいね！

――おおっ！　金原さんですか！

サスケ　アイツとは新日本プロレス学校で一緒だったんだよ！　アイツはあまり「サスケと同期だった」ってことはしゃべりたがらないみたいだけどな（笑）。

――アハハハ。ボクも忘れてました（笑）。

サスケ　アイツとは一緒に遊んだりしたし……あのインタビューは良かったね！

――今まではボヤキが多かったんですけど、最近は結果も出してるんで、言葉も説得力がありますよね。

サスケ　アイツは、ちゃんと義理を果たしてると思うよね。離脱した人達のことはよくわかんないけど、たぶんデルフィンたちと一緒なんだろうなぁ。

――金原さんは、過去２回も所属団体が潰れるという経験もしてますからね。

サスケ　そうだね。前田さんの気持ちも痛いほどわかるよ。それにね、オレは映画が好きだからＷＯＷＯＷに加入してるんだけど、リングスもよくチェックしてるんだよ。今のリングスはホント面白いよ。

――映画が好きなのは有名ですけどリングスまでチェックしてましたか（笑）。そういえば、サスケ社長には『噂の真相』の一件についても聞いとかないと（笑）。

サスケ　ガハハハハハ！

――「Ｇ・サスケの元愛人兼秘書が銀座高級クラブ『ティファニー』でホステス」っていう記事が載った直後、すぐさまパンチの効いたリリースを流してましたね（笑）。

サスケ　（嬉しそうに）あれもねぇ。『紙プロ』さんなら元ネタはわかるでしょ？　『紙プロ』だけだよ、ああやって扱ってくれたのは！　マスコミ全社にリリースしたのにさ、他のマスコミはこのギャグセンスを判ってくれない！　ダメだな。

――実際、アレは事実無根なんですか？

サスケ　いや、あれはねぇ……お互い傷ついてるわけよ！

――エッ、事実だったんですか！（笑）。

サスケ　まあそれは冗談としてね（笑）。事

実無根に決まってるじゃない、そんなもん！ 愛人兼秘書ってねぇ……確かに私、愛人は何人かいますけどね（笑）。

——何人もいるんですか！（笑）。

サスケ ガハハハ！ 絶好調のときは、愛人4人いたことがあるからね！

——4人って、また生々しいですね（笑）。

サスケ でも、秘書なんて持ったこともない！（キッパリ）。ましてや銀座なんか私の年齢では敷居が高くて行けないよ（笑）。やっぱり私は六本木ですよぉぉ！

——まあ、今日も六本木ですからね（笑）。

サスケ 六本木はいいよぉ（笑）。赤坂なんかも、まだ早いなって感じだから。銀座に到達するまでには、あと20年はかかるね。

——そんなにかかっちゃいますか（笑）。

サスケ それに、銀座『ティファニー』なんて聞いたことない。全然知らない！

——事実無根ということで、今日はですね、どちらかというとデルフィンさんや大阪プロレスと親しいみたいですけど、佐伯社長の『DEEP』っていう……。

サスケ （遮って）いや、それは違う！

——えっ、何が違うんですか？

サスケ デルフィンと佐伯社長は仲が悪いでしょ（キッパリ）。

——今は仲が悪いんですか？

サスケ そう、今はね。佐伯社長もたいがいデルフィンには愛想を尽かしてるんじゃないの？ 「ダメだ、こりゃ」ってボヤいてるみたいだから。

——サスケ社長は、佐伯社長とはお話ししたりするんですか？

サスケ たまにしてるよ。挨拶程度のものだけど、佐伯社長にはウチの選手がみんな可愛がってもらってるんでね。

——それで今度の『DEEP』にはルチャリブレから2人も選手が出るということで、お話を聞かせてもらおうかと思って。

サスケ はいはい。なんでも聞いて下さい。

——ルチャファンというか、プロレスファンの注目は、やっぱりドスカラスJr.とカト・クン・リーの出場なんですよ。サスケ社長はカト・クン・リーとはタッグを組んで、みちのくのタッグリーグ戦で優勝したこともありますからね。

サスケ そう、オレの親父ね（笑）。カト・クン・リーはユニバーサル・プロレスのとき初来日したんだよ。まだオレがMASAみちのくだった頃だ（笑）。試合前の練習中にカトの親父からいろいろ教わってたのよ。私はそのとき「マサ、お前なかなかやるな！ お前こそ、マイ・サン（私の息子）だ！」と言われましたからね！

——そうだったんですか（笑）。カール・ゴッチさんが木戸修さんを「マイ・サン」と認めたように、カトさんはサスケ社長を認めたわけですね！

The Great SASUKE

前々号の花くま先生のコラムにもあったが、サスケのトペコンの威力を測定すると、プロレス以外の格闘技も含め歴代5位という結果が。ちなみに一位は川田のキックだという。

サスケ ガハハハハ！ そうそう、ゴッチさんと一緒だよ！ 「マイ・サン」と呼ばれてね……そのとき一緒に練習してたのが当時のモンキー・マジック・ワキタ（スペル・デルフィン）とかパニッシュ&クラッシュ（邪道&外道）と厳鉄魁（ディック東郷）。その中でも私だけが「マイ・サン」だった、と。これだよ、やっぱり！

——見る目があるんですね（笑）。

サスケ でしょ？ これがオレとカトの親父の絆だよ。

——メヒコでも試合はしてるんですか？

サスケ いや、あっちでは一緒にやってなかったね、残念ながら。こういうことを言うと日本のファンの夢を壊してしまうかもしれないけど、当時カトの親父は第一線を退いてたからね。だから野球で言うと3軍ぐらいのポジションだったから。メヒコだと1、2軍はオールスター選手で、大会場で試合出来るんだけど、3軍以下になると地方周りになっちゃうんだ。

——へぇ〜、ちなみにメヒコは何軍ぐらいまであるんですか？

サスケ 36軍ぐらいまであるよ！

——ゲッ！ 36軍ですか⁉

サスケ それだけ、もの凄く層が厚いわけ。その時、オレやモモタロウ……今のデルフィンはね、ギリギリで1軍の前座あたりで使ってもらってたんだよ。

——おお、それは凄いですね！ でも、カトさんは現在50歳ということですけど、その年齢でバーリ・トゥード（以下VT）に出るって聞いたときはどう思いました？

サスケ 前々から「出るだろう」という噂はあったんだけど、でもまさかホントに出るとはねぇ。半分オドロキ、半分「頑張れよ！」みたいな（笑）。

——で、対戦相手は田村潔司さんのジム所属の大久保一樹選手なんですよ。まだ若い選手みたいですけどね。

サスケ あっ、日本人が対戦相手なんだ？ じゃあ、カトの親父の楽勝じゃん！

——楽勝ですか！（笑）。

サスケ いや、ブラジル系の凄い選手と当たるのかなと思ってたよ（笑）。でも、ブラジル系の凄い選手とやってもね、カトの親父はいいところまで行きますよ。年齢も関係ない。カトの親父は強いよぉ〜。

——「ストリートファイトでは負けたことがない」ってのは、よく言われてますよね。

サスケ まあ、ストリートファイトはあまり技術はいらないじゃん。あとはハートの問題だから。でも、カトの親父は本物の打撃の技術も持ってるからね。

——あっ、そうなんですか？

サスケ うん、絶対大丈夫。ただ寝技に持ち込まれると、ちょっとマズいけどな。

——佐伯社長が、カトはピストルで何人か

カトの親父はピストルの弾もよけちゃうから打撃は喰らわない！

殺してるかもしれないって言ってましたけど（笑）、ハートは強いんでしょうね。

サスケ　う〜ん……でもね、カトの親父はピストルの弾もよけちゃうからね！

——ハハハハハ、よけちゃいますか（笑）。

サスケ　そうだよ！　私はよけるところも見たから。もう凄いから！　まあ、そういう部分から分析するとね、カトの親父が打撃を喰らうことはあり得ないね。

——ピストルの弾をよけられるんだったら打撃なんて喰らわないでしょうね（笑）。でも、そういう発言を聞くと安心して見ていられますね。やっぱりボコボコに殴られて負ける姿は見たくないですからねぇ。

サスケ　それは絶対にあり得ないね。寝技とスタミナ不足だけが問題だよ。正直言って寝技も上手くはないけど、「チョークスリーパーを何分耐えられるか？」っていう遊びをこないだカトの親父が来たときにタイガーとやったんだよ。そしたら、普通ならすぐ落ちちゃうところも気力で耐えてたからね！　長期戦に持ち込んで寝技を我慢すれば勝てるんじゃないかな？　やっぱり息子として言わせてもらうとKO勝ち以外は考えられないね。

——KO勝ちですか！

サスケ　今のVTの選手って、キックボクシングとかボクシングの打撃を使いますよね？　カトの場合はカンフーとか空手とか、あっちの方の打撃を使うからね。こ〜れは要注意よ！　相手は絶対に戸惑うと思うよ。今の総合の技術とは根本的に違うからね。腰がはいってるとか、腕が伸びきってるとか、そういう問題じゃないから。

——どういう問題なんですか（笑）。

サスケ　とにかく気が入ってるから……合気道の試合みたいに対戦相手が吹っ飛ばされるかもしれないよ。まあ、あんまり私がしゃべりすぎて技を警戒されるといけないから、この辺でやめときますけどね（笑）。「マイ・サン」としてはカトの親父に勝って欲しいからね！

——でもマジメな話、対戦相手も戸惑うでしょうね。年齢差も含めて（笑）。まあでも、サスケ社長の話を聞く限り、カトさんには十分期待できそうですね。

サスケ　できる！　ルチャファンもプロレスファンも大いに期待して欲しいね。カトの親父も根性だけはあるからな。

——アラッ、根性だけなんですか（笑）。

サスケ　いやいやいや（笑）、カトの親父には期待して欲しいね！　親父は強い!!

——一方のドス・カラスJr.なんですけど、こちらは因縁の男ですね。サスケ社長は、パパのドス・カラスにはさんざん痛い目に遭わされてますからね（笑）。

サスケ　残念ながらそうなんだよ（苦笑）。

——ドスカラスJr.に関しては、どういう情報を入手してるんですか？

サスケ　（即座に）デカい！

——ハハハハ！　それだけですか（笑）。

対戦相手の謙吾選手はグラウンドは得意じゃないんで何とか殴りにくると思うんですけど、それをアマレス五輪代表候補のド

カトパパと「マイ・サン」サスケが慕うカト・クン・リー。2人はみちプロタッグリーグ戦「みちのくふたり旅」で優勝するなど、さすが親子だけあって息のあったところを見せている。

スJr.がどう対処するか見物ですね。

サスケ　まあ、ドスカラスJr.のアマレスの実績なんて驚くほどのものではないですよ。実はメキシコのレスラーはみんなそうだからね。みんなちゃんとアマレスを通過してますから。

——へぇ〜、そうなんですか。

サスケ　オレはアマレス未経験だったから、メキシコ修業時代は合同練習でコロンコロン寝かされてフォールを取られたもんですよ。そこでオレはカルチャーショックを受けたんだけどね。そこからオリンピックを目指す人もいるしね。でも、オリンピックのアマレスでメキシコの選手が活躍したって話は聞いたことないけどな（笑）。

——そうですね（笑）。

サスケ　でも、みんな真剣にオリンピックを目指してるんだけどね。その中でも特に大型のドス・カラスJr.だから期待は出来ると思うよ……ただ、アマレスとVTは違うからなぁ。

——そこなんですよね！

サスケ　VTでフォール奪われたからって、「だから、ナニ？」ってぐらいのものでしかないでしょ？　だから、今回のドスカラスJr.は正直言って分が悪いと思うよ。

——それで、ドス・カラスJr.はマスクを付けたまま闘うみたいなんですよ。

サスケ　そりゃそうだよ！　マスクは脱いじゃダメだよ！　だからオレは（ケンドー・）カシンに言いたい！「お前、ナニ脱いでんだ？」と。なにがなんでもマスクは脱いじゃダメだよ！（怒）。

——サスケ社長のように、マスクと一体化してしまった選手は、試合中もマスクの影響はないんでしょうけどね（笑）。

サスケ　（得意げに）ノー問題！

——それが、例えVTであろうとも？

サスケ　当たり前だよ！　それ以前にマスクマンの命はマスクそのものなんだから、それを脱いだらプロレスを辞めるのと一緒なんだよ。だから脱いだらダメだ！

ドスJr.は謙吾のことをコロコロ寝かせると思うんだよ。だけど…

——わかりました。今度の『DEEP』は、ルチャの選手が初めてVTの世界に踏み込んできたということで注目を浴びてますけど、そういった下地を考えると、逆に遅かったぐらいなのかもしれませんね。

サスケ　そうそう。別に驚くべきことじゃないよ。ただ、今はVTそのものがひとつの競技になってるから、そのルールに慣れてる方が強いんだろうけどな。

——カトさんと比べるとドス・カラスJr.の場合は、サスケ社長的にも不安な部分があるみたいですね。

サスケ　うん……ドス・カラスJr.は謙吾のことをコロコロ寝かせると思うんだよ。だけど、謙吾としては「だから何？」って起きあがってきて、バンバン打撃でいくと思うんだよ。そういうシュミレーションだな。

——謙吾選手と面識はあるんですか？

サスケ　ないなぁ……でも、写真集は持ってるよ！

——ハハハハ！　何でですか？

サスケ　佐伯社長からもらったんだけどさ、いいね！　いい身体してるよぉ〜（笑）。

——謙吾さんもサスケさんのように、ケツ出してましたからね（笑）。それで、今回はルチャの選手が2人出るわけですけど、他にVT向きだと思う選手はいますか？

サスケ　よくぞ聞いてくれた！（笑）。私が一番お奨めするのはブルー・パンテル！

——おぉ、意外ですね！

サスケ　あと打撃は弱いけどグラウンドが強いアパッチェ。

——なるほど。ちなみにブルー・パンテル選手は何が凄いんですか？

サスケ　アイツは全部凄い！　日本にはユニバーサルしか来てないけど、出て欲しいね。ブラジリアンの強豪とやってもどっこいどっこいの勝負は出来るはずだよ。

——そんな話を聞いたら、ネットワークの広い佐伯社長は電話一本で呼んじゃうかもしれないですね（笑）。あっ、電話と言えば、サスケ社長は携帯電話に凄いアンチを唱えてましたよね？

サスケ　あぁ、アレはダメだ！　携帯自体がもうダメだ！　だいたい、なんだよ、アレ！　親指でメールを打つこと自体が間違いだよ。メールというものはキーボードで打つもんだ、と。

——もしくは直接話しやがれ、と（笑）。

サスケ　そうそう。オレもしょうがないから会社で契約した携帯を持ってるんだけどね。一応、iモード仕様になってるんだけど、オレのはiモード抜きだからさ。寿司のサビ抜きじゃねえんだからな（笑）。

——アハハハハ！

サスケ　そんぐらいイヤなんだよ、携帯のメールってものが。大嫌いだね！

——そんなときにアレなんですけど、『週

iモードは人類の退化だね。携帯のおかげで景気が悪くなってんだよ！

プロ』はiモードが表紙ですよ（笑）。

サスケ　ああ！　これだから、佐藤新編集長はダメなんだよ、バカもんが！（笑）。

──でも、これは凄い表紙ですよね（笑）。

サスケ　確かにインパクトはあるけどな。もう、iモードは人類の退化だね。この携帯のおかげで景気が悪くなってんだよ！

──景気が悪いのは携帯電話のせいでしたか！

サスケ　そうだよ。みんな携帯の通話料に金をかけすぎてさ。そんでどこにしわ寄せが来てるかっていったら、プロレスのチケット代に来てるんだから！

──みんなiモードとかの速報で結果を見て、それで満足しちゃうんですかね。

サスケ　そう！　それで「生観戦しなくてもいいや。通話料も高いし」ってなるじゃん！　バカな世の中になったよ。今の日本は携帯不況だよ、完全に！　ダメだ！

──今の日本は携帯不況ですか！

サスケ　そうでしょ？　それにプロレスは生で見て、そのプロセスも楽しむもんだから。あと、言い忘れたけど、カトの親父にしろ、ドスJr.にしろ、ひとつ忘れてはいけないのは、「腕試し」的な気持ちでVTに挑んだらダメだよ。それだけはカトの親父にも勘違いして欲しくないよな。

──勘違いはするな、と。

サスケ　絶対にそれは違う！　VTの連中というのは、ホントにアマレスや柔道でオリンピックに行けるぐらいの技術がある連中ばかりだからね。これは技術合戦なんだということは、絶対忘れちゃいけないね。ケンカじゃないぞ、競技だぞということはオレから忠告しておきたいね。そこを間違えるとコロッと負けちゃうよ。

──下手な負け方をしちゃうと「ルチャって弱いじゃん」って思われますからね。

サスケ　まあ、ルチャとVTは競技として全く違うものだからさ。そこだけを本人達にはわかっていて欲しいね。でも、ウチも『DEEP』の翌日、仙台でビッグマッチがあるんだよ。

──エッ、そうでしたっけ？

サスケ　あるんだよ。それなのに、なんでオレは人の興行の宣伝してんだよ（笑）。

──それは失礼しました（笑）。

サスケ　だって、あれだよ、武藤（敬司）さんも出るんだよ、白使とタッグ組んで。

──あぁ、そうでしたね。なんか武藤さんは別キャラで出場するみたいですね。これは見逃せない！

サスケ　そうそう！　これはプロレスLOVEがあるなら来なきゃダメだよな（笑）。『DEEP』もいいけど、ホントのルチャファン、そしてプロレスファンだったら、次の日はみちプロ仙台大会へ来いと！

【7月11日／東京・六本木「らぶねっと」にて収録】

The Great SASUKE

ある意味衝撃の、携帯電話が表紙の『週プロ』（NO1042）。週プロｉモードが始まるということだが、携帯嫌いのサスケはどうする？

みちプロ真夏のビッグマッチは8・19だ！

あの"三冠チャンピオン"武藤敬司が初キャラでみちのくに登場！ 注目の武藤&白使の対戦相手は新日所属選手だ！（各自調査）

『LOVEみちのく』

8月19日（日）宮城・ニューワールド屋外駐車場特設リング〈仙台市〉（17:00）

『みちのく夏バテ解消宣言』

7月27日（金）青森・弘前市河西体育センター（18:30）
7月28日（土）宮城・松島町民体育館（18:30）
7月29日（日）福島・ビッグパレットふくしま〈郡山市〉（15:00）
7月31日（火）山形・寒河江市民体育館（18:30）
8月1日（水）岩手・二戸市ショッピングストア「ニコア」（18:00）
8月2日（木）青森・はちのへハイツ〈八戸市〉（18:30）
8月3日（金）宮城・女川町総合体育館（18:30）
8月4日（土）宮城・夢メッセみやぎ〈仙台市〉（15:00～17:30予定）
8月5日（日）山形・鶴岡市体育館（12:00）
8月7日（火）秋田・本荘市民体育館（18:30）
8月8日（水）岩手・釜石市民体育館（18:30）
8月9日（木）岩手・江刺市民体育文化会館（19:00）
8月10日（金）秋田・大曲市仙北圏民体育館（18:30）
8月11日（土）青森・むつ市民体育館（18:30）
8月12日（日）青森・青森県民体育館（15:00）
8月14日（火）新潟・新潟フェイズ〈新潟市〉（19:00）
8月15日（水）山形・米沢市営体育館（19:00）
8月16日（木）福島・白河市中央体育館（18:30）
8月17日（金）宮城・古川市総合体育館（18:30）
8月18日（土）山形・山形市厚生年金休暇センタースケートリンク（18:30）

【すべてのお問い合せ】みちのくプロレス　TEL.019-626-1333

紙の新聞

●マット界の1ヶ月丸わかり●

編集長／堀江ガンツ
助手らしきこと／片山ぽん

6/22 → 7/16

締め切り直前7月19日に、バトラーツから1枚のFAXが流れてきた。その内容は先日バトラーツを首の負傷を理由に退団した、土方隆司がいけしゃあしゃあと全日本マットに登場したことについて断罪するもの。「これはバトのファン関係者への裏切り」「社会人として道を外した行為」「土方選手のような選手を育ててしまったことを後悔」など。まったくもって、情念のFAXなのであった。

6/26

【パンクラス】
後楽園ホール

"寝技王"菊田、入れ墨男を秒殺！

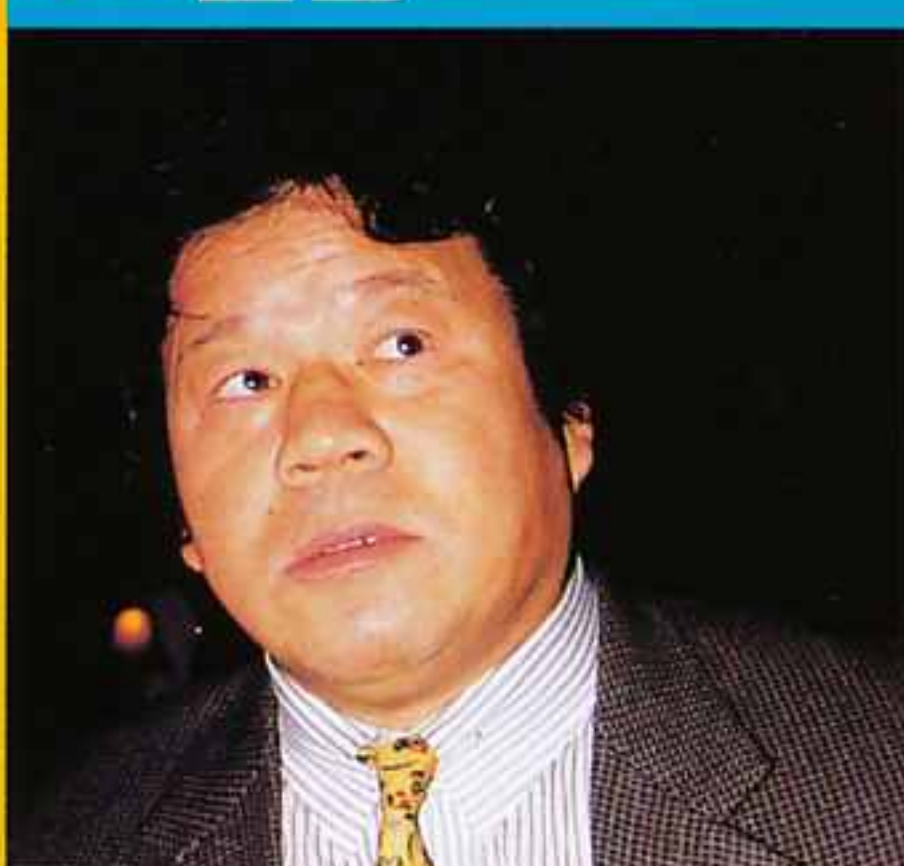
ADCC2001を制した"寝技世界一"菊田早苗が、アブダビ以来初となるパンクラス公式戦を行った。その対戦相手はマット・トライヘイ。いつのまにやら設立されていた「パンクラス・オーストラリア」所属の選手である。このふたつ前の試合で同じパンクラス・オーストラリアの選手が、高橋義生のパンチ一発でKOという、見事なシャノン・リッチぶりを発揮していたが、このトライヘイもまた菊田の寝技にアッサリ瞬殺。菊田が強すぎるのか、パンクラス・オーストラリアが弱すぎるのか……。ただひとつ言えることは、その全身入れ墨といい、やられっぷりといい、なつかしのカイル・ストゥージョンにキャラが被りすぎということである。

6/27

【全日本プロレス】

川田激白!「蝶野は品がない」

新日本7・20札幌ドームでの武藤との一戦に、「三冠王座を賭けろ」と要求していた蝶野に、全日のエース川田が「待った」をかけるた! 川田は、「3冠王者には品も必要。オレが言うのもなんだが、蝶野は品がない。挑戦者と認めるかどうかは、武道館での試合と3冠戦の結果で判断したい」と、蝶野の品性を断罪した上で一騎打ちを要求! しかし、「馬場社長は、川田さんがガンガン蹴りを使うと『な、余り強く見えないだろ?』なんて指導してくれるんですよ。蹴りを多用すると品がない。品がないということはトップとしてダメなんだとおっしゃってました(秋山・談)」という『すべてが本音。秋山準』に掲載されたエピソードを読むにつけ、天国の馬場さんによる「お前が言うな」というツッコミが聞こえてくるようなのであった。

6/25

【新日本プロレス】

ドラゴン、長州との対戦を熱望!

「ジャンボとやりたかった」「前田を復帰させて闘いたい」「オレだって三沢とやりたい」などなど、自らの止め処ない欲望を無節操かつ馬鹿正直に口に出してしまうことが毎度裏目に出てしまうドラゴンが、懲りもせずまたしても新たな対戦をブチ上げた! 今度のターゲットは永遠のライバル、長州力! ファン思いのドラゴンのこと「『雪の札幌事件』で流れたこの一戦を札幌のファンに見てもらいたい!」という一心からの長州戦アピールかと思いきや、「G1や武藤の三冠も視野に入れているが、いきなりトップ選手と闘うのは危険。徐々に試合のリズムをトップギアに戻すには、同世代の相手が最適」という「肩慣らし」「リハビリ」とも取られかねない身勝手な理由であることが発覚! そしてやっぱり今回もドラゴンの欲望は実現しないのであった。

6/24

【新日本プロレス】

小原が総合格闘技進出宣言!

T2000加入以来、一時期(「ビール持ってこい、ビール!」時代)の暴れっぷりが鳴りを潜め、すっかり"飼い犬"と化していた犬軍団の小原が、あまりに唐突に総合格闘技に目覚めてしまった! 喉輪、反則、ビールにネックブリーカーと、これまで総合格闘技とは対局をなすような闘いぶりばかり見せてきた小原であるが、国士舘大学柔道部出身というバックボーンを持つだけに自信満々。取って付けたようにオープンフィンガーグローブをつけた小原は、「ある大会に向けて照準を絞っている。その試運転として、まずは安田の野郎を叩きつぶす!」と、やっぱり犬らしく吠えるのであった。

6/22

バンナ 爆弾要求
藤田戦はコンクリートマットで

「PRIDEはオシッコ」ナメまくり発言も

【K－1】

バンナが『PRIDE』を罵倒!

猪木軍団vsK－1軍団が取りざたされる中、ジェロム・レ・バンナが、『PRIDE』を罵倒した!「バーリ・トゥードなんてションベンみたいなもんだ。どんなルールでも受けてやる!」と『PRIDE』ルールでの対戦も辞さない構えをみせたバンナはであるが、「やるならコンクリートの上だ!」とまずはラーメンマンvsブロッケンJr.ばりの試合形式を要求。そして「オレなら四つん這いなった相手の急所を蹴り飛ばしてやる。寝技に来たら噛みついて終わりだ」と明らかに反則の残虐ファイト予告を聞くにつけ、ホントはちっともやる気がないことが、嫌と言うほどわかってしまうのであった。は～カックン。

7/12

仰天！ ドラゴン「KOKルールで闘ってもいい」

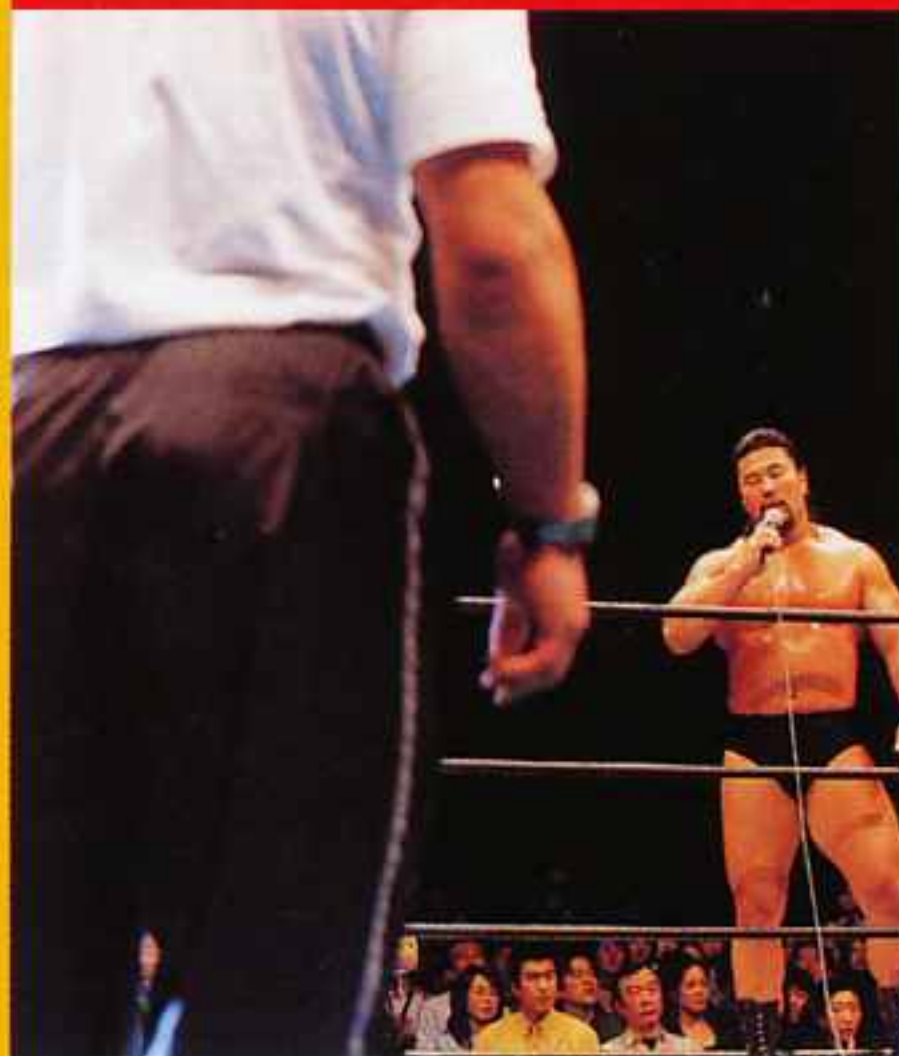
ドラゴンと前田の友情は続いていた！ドラゴンが選手離脱で窮地に追い込まれたリングスに、救いの手をさしのべたのだ。同情を嫌う前田の性格をよく知るドラゴンは、「選手貸し出し」ではなく、あくまで「新日本からリングスに持ちかけた話」として、8・11有明への新日選手出場を打診。さすが心優しきドラゴン、やはりいまでも同志であった前田が苦しんでいるところを見ると、手をさしのべずにはいられないのだ。……と思ったところでドラゴンはこんな発言。「来年はウチも30周年。KOKルールで俺が前田と闘ってもいいよ」……やっぱりそれが目的だったのか……。

7/7

【新日本プロレス】
新日本プロレス事務所

アントン、38度線に平和の灯火

この日、マスコミ各社に流されたアントン緊急記者会見のFAX。もちろん「猪木軍vsK-1軍」の全面対抗戦正式発表かと思いきや、アントンの口から出てきたのは意外な言葉であった。「南北朝鮮38度線に平和の灯火を灯す！」……は!? 平和の灯火？ もちろんこれは「猪木軍vsK-1軍」の話でなく、アントンが「私の専門分野」と言ってはばからない「エネルギー問題」についての発表だったのだ。アントン曰く、ソーラーパワーが世界のエネルギー危機を救い、その象徴として38度線に光の線を作るということ。やっぱりアントンは計り知れない……。

7/5

【新日本プロレス】

昨年優勝者・健介G1欠場決定！

正直、スマン！ そんな欠場のお詫びもまったくないまま、家族と過ごす長い長い夏休……もとい、傷心のアメリカ格闘技特訓のために新日マット離れ3ヶ月が経った我らが健介。昨年度王者として、今年のG1でも暑い夏に暑苦しいファイト（＆後ろ髪）を見せつけてほしかったが、「いまだ連絡がない状態。タイムリミットになったので今回は見送りました」とG1欠場が発表されてしまった。しかし、こんな状況なのにファンが鶴を折ったり、ドラゴンが、あの手この手の珍案を試みるなどの、リング復帰支援が皆無。改めて健介の不人気ぶりが浮き彫りになったのであった。

6/29

【UFC】
アメリカ、ニュージャージー州

宇野薫、UFC初勝利！ 近藤は完敗

昨年、修斗を離脱し、現在は好カードを連発することで大好評の新生UFCを主戦場にする宇野薫。前回、UFC初参戦でいきなりUFCバンタム級王座決定戦というビッグチャンスを掴みながら、ジョンズ・バルヴァーに敗れてしまった宇野であるが、今回はブラジルの強豪ファビアーノ・イハに見事失神KO勝ち！ 世界のUNOへの一歩を改めて踏み出した。宇野とは対照的に評価を落としてしまったのが、パンクラスの近藤。ここで勝てば、ティトへの再挑戦も検討されていたが、マティシェンコに持ち味を完封されてしまった。無差別級王者シュルトも敗れたパンクラスよ、どうする？

東スポは前田に屈しない

いくら彼が"怖い存在"だからといって、目をつぶることはよそう

前田フィルム抜き取り事件

前田の行為は恐喝、業務妨害、器物損壊になる

徹底的に告発

【リングス】

「許されぬ暴挙！ 前田恐喝」

前田が新日本事務所を訪れて、ドラゴンと両団体の交流について話し合うという、歴史的会談があった直後、またしても不祥事が起きてしまった！ 翌日発行の東スポに踊る「前田恐喝」の文字。「徹底糾弾告発」「東スポは前田に屈しない」と物々しい。はたしてなにが起こったのか!? よーく見てみると、小さな文字で「前田フィルム抜き取り事件」と書いてあるのを発見。要は「フィルム出さんかい！」とカメラマンがフィルムを奪われただけの事件。それがなぜこうも大きく報道されるのか、そしてなぜ前田が東スポに凄んだのか。その裏には違う事情が隠されているのとは、想像に難くないのだ。

7/11

【SPWF】
仙台市体育館第2競技場

ダークサイド・オリャ津谷章嘉、現る！

この日、デビュー20周年を迎え、その節目として、9月『PRIDE・16』にてゲーリー・グッドリッジ戦に挑むことを発表した、我らが谷津親分。これから『PRIDE』の練習一本に絞って、アスリートの道を突き進むかと思いきや、突如、ペイントレスラーに変身してしまった！ その名も「津谷章嘉」！ 名前をひっくり返し、ダークドラゴンならぬ、ダーク・オリャに変身。その姿は学芸会風のチープなコスチューム、そして不気味なペイント。SPWFにカツを入れるためとはいえ、鶴見青果市場臭が漂いすぎなような……。

7/6

【新日本プロレス】
岐阜産業館

永田、中西が打倒K-1宣言！

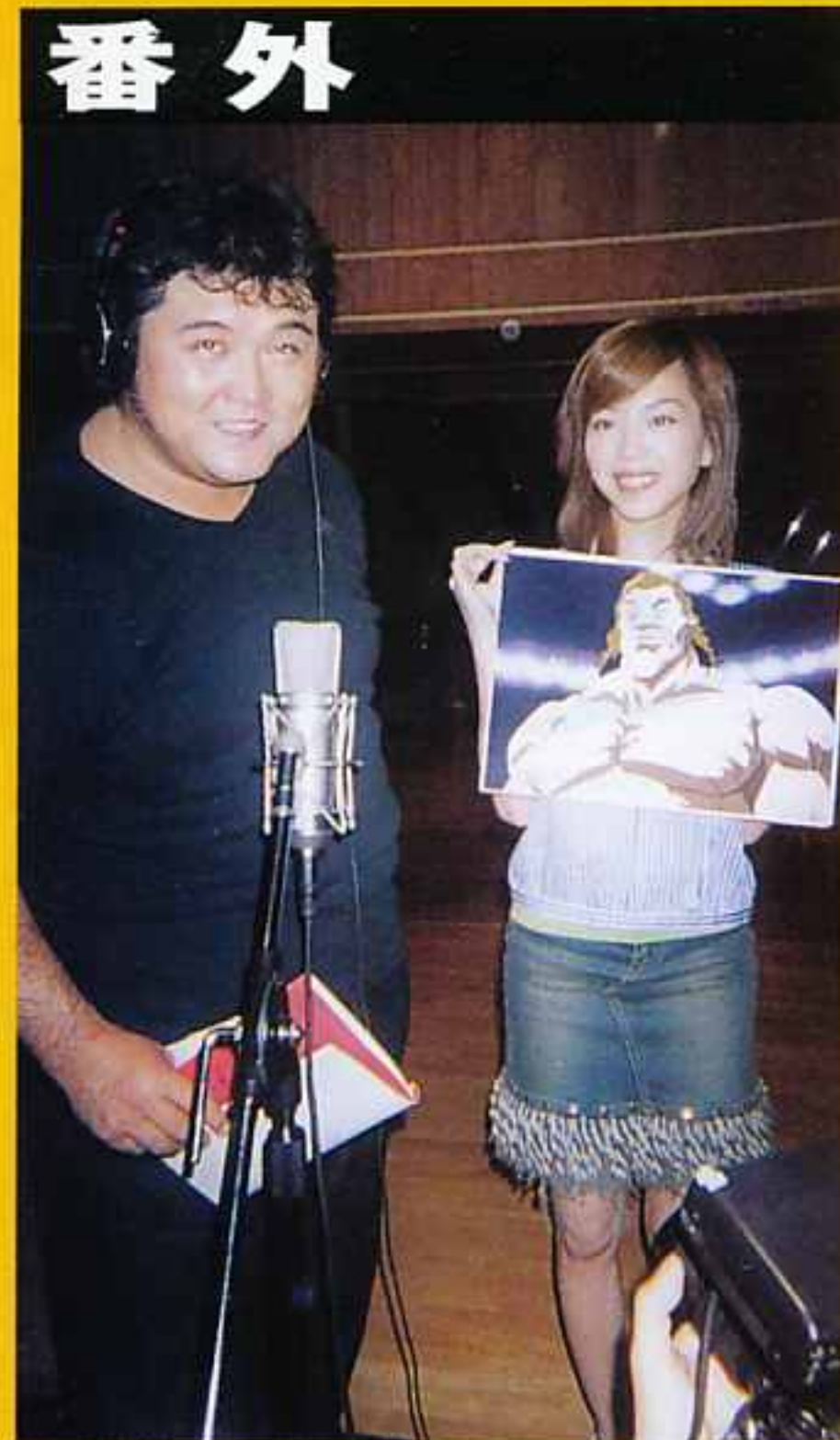
新日本に対する外敵を迎え打つために結成された格闘集団G－EGGS。その割にはちっとも役目を果たしていないような気がしていたが、遅ればせながら遂に立ち上がった！ 新聞紙上を賑わす「K-1軍団対猪木軍団＋新日本」の全面対抗戦に参戦を表明したのだ！ しかし、そこは策士・永田、条件を付けてきた。「1人3000万、いや5000万円ならやる！」ど～ですか、この新日本がUインターに突きつけた、なつかしの「リスク料」を思わせるこの金額。誰が聞いても、体のいいお断り文句だ。こうしてこの10日後、G－EGGSは、タマゴの殻を破ることなく解散することとなったのであった（ホントに）。

7/1

【新日本プロレス】
新日本プロレス事務所

ドラゴンと長州、4年ぶりにタッグ結成！

好カード連発の7・20新日本、札幌ドーム大会の全カードがこの日発表になった。中でも注目はドラゴン、長州、木戸vs若手3人衆の6人タッグ。かねてから、札幌ドームで長州との一騎打ちを訴えていたドラゴンの希望がまたしても無視された挙げ句、若手相手の前座に追いやられたにも関わらず、当のドラゴンは呑気なもので「俺と長州、お互いの動きを見た上で、次のシングル戦に挑もうということだな」と、勝手にいい方向に解釈。日本一おめでたく、日本一丸め込まれやすい社長キャラをこれでもかと見せつけたのだった。やっぱ、ドラゴン最高！

番外

破壊王声優デビュー&Tシャツプレゼント!

破壊王、声優デビュー！　伝説の名盤「橋本元年」を聞くまでもなく、その爆発力のある美声には定評がある我らが破壊王が、アニメ「グラップラー刃牙」で声優デビューをはたした。それを記念するわけではないが、お馴染み『グレート・アントニオ』から「VIVA破壊王Tシャツ」と「時は来たTシャツ」が新発売。サイズは共にXS～XLまで。定価はどちらも3500円だ。今回は井上きびだんごさんのご厚意で、各サイズ2名様ずつプレゼント! 欲しい人は破壊王への人生相談を記入して、読者プレゼントにお葉書ください。

番外

【ZERO-ONE】

ゴルドー、児童刺殺事件に怒る!

6·15真撃での「恐怖プロレス」で強烈なインパクトを残したゴルドーが、翌15日、六本木の格闘技バーで、ひっそりとファンとのふれあい会を開いていた。ここでゴルドーはオランダでも大きく報道されているという、大阪の児童殺傷事件があった池田小学校に寄付するために、試合で使用したグローブやTシャツのオークションを行った。来日以来、犯人は死刑になるのか?などと常に事件を気にしていたゴルドー。その怒りと悲しみは収まらず、「あの男（宅間被告）を俺の前に連れてこい！　たっぷりと時間をかけていたぶりながら殺してやる！」と正義の拳をふるわせていた。怖い！

7/14

【JTC】
フィットネスショップ水道橋

アマチュア統一! JTC結成

実力のあるアマ選手がプロデビューできる道を明確化したいという理念のもとに、事務局長・木下雄一氏を中心に発足されたのがJTCだ。格闘技道場間の交流を活発にするため連絡先がわからないところ以外にはすべて連絡してみたという木下局長の熱意が実ったのか早くも、パンクラスをはじめ6つの団体、道場がその理念に賛同。中立なコミッショナーとしての役割を担い、年3回の予定でオープントーナメントを開催していく予定のJTC。だがよく見てみるとパンクラスの横のつながりだけの気がしてしまうのは気のせいにちがいない。（ぼん）

7/13

【リングス】
前田道場

前田道場入門テスト 1名補欠合格

選手の大量離脱により、選手育成が急務のリングス前田道場がこの日、新弟子入門テストを行った。テストを受けたのは、応募5通中書類選考に通った2名。内ひとり、アマ修斗中部大会優勝やアマKOK準優勝の実績をもつ上原力君が仮入門を許された。この日は御大前田直々にテストを監督。最近、また道場に通いだしたというCEOは、なぜか現役時代と同じ黒のショートタイツ姿（上はポロシャツ）で登場。この前田の姿に早くもドラゴンは、「前田がヤル気になった」と熱くなっていた、という話はまだ入ってきていない。

訃報

人間魚雷テリー・ゴディ死去

先月、ノア三沢社長のアメリカ視察旅行で、かつてのライバルと久々の対面をはたした、人間魚雷テリー・ゴディが、現地時間16日（月）にアメリカ・テネシー州の自宅にて心不全で帰らぬ人となった。日本では、全日本のトップ外人として活躍。ウィリアムスとの殺人魚雷コンビは、超獣コンビと並び称されるほどだった。この突然の訃報にノア三沢社長は「突然の悲報に戸惑うばかりですが、令息テリー・レイ・ゴディ・ジュニアが父の意志を継いでいるので、彼の闘う場を整えられれば、天国のゴディも喜んでくれると信じている」とコメント。パワーボムを日本に広めた名レスラーだった。

7/15

【新日本プロレス】

驚愕! 小原がリングス殴り込み宣言!

突如、降ってわいたような新日本vsリングスの交流話。決定権を持ち合わせているとはとうてい思えないドラゴンがGOサインを出しただけなので、まだまだ実現するかどうかは未知数であるが、この交流話に、なんと犬軍団・小原道由が名乗りを上げた！　かねてから格闘技系進出を宣言し、田子作タイツにオープンフィンガーグローブという、抜群のビジュアルで暴れている小原。もしホントに参戦が実現するとなると、あのロシアの超破壊王ヴォルク・アターエフと激突することになる。狼とと犬か闘えば、やはり結果は見えているか……。

7/14

【全日本プロレス】
日本武道館

マイク女絶叫! 無法地帯全日本

あの安生洋二がなぜかミスタープロレス天龍源一郎と「グーパンチャーズ」を結成！　東京プロレスの3億円ベルト以来のタイトル挑戦として、歴史と伝統の世界タッグのベルトになぜか挑戦。そしていつかネタに使うだろうと誰もが思っていた「裏グーパンチ」からのスクラップバスターでなぜか王座強奪に成功した！　そのあとが凄い。天龍のグーパンチに怒ったスミスファンと思われる女性が木原リングアナのマイクを奪い絶叫！　椅子をリングに投げるファンがいたり、栄光のベルトやトロフィーを投げつける天龍がいたりと分裂後1周年、あいかわらず何かがおこる全日本なんである。（ぼん）

ジャイアントなプレゼントがたくさん！

ジャイアント読者サービス Vol.6

読プレで無理矢理「サクvsシウバ」実現!?

★桜庭オリジナル・ウオッチ
サクのオリジナルウオッチが遂に登場したぞ！ 色は当然桜庭カラーのオレンジだ！ 1390本の限定品！ 手に入れろ！【イグニッション提供】
お問い合わせ◎(有)共同開発システム 011-836-1755

1名様

★シウバサイン入り「明星・一平ちゃん」3箱分
シウバが成田空港に置き忘れた「PRIDE」勝利者賞の「明星・一平ちゃん」(3箱分)を手に入れた！ シウバが取りに来る前に食ってくれ！【DSE提供】

1名様

狂乱のフィギュアウォーズ

各2名様

★レスラーフィギュア
高田、ムタ、蝶野、長州が2頭身でフィギュアになった！ どれもレスラーの魅力が伝わってくるステキなフィギュアだ！【レッズ提供】
お問い合わせ◎03-3863-0576

2名様

★藤原組長フィギュア
な、なんと一升瓶付きで藤原組長フィギュアが登場だ！ 8月5日有明ビックサイト東館「ワンダーフェスティバル」会場にて「インスパイア&ゼクシズ」ブースにて「藤原組長」フィギュア発売記念サイン会も行われるぞ。今すぐスケジュール帳に書き込むんだ！【インスパイア提供】
お問い合わせ◎03-5670-9283

2名様

★愚地独歩フィギュア
刃牙に続く第2弾！ 虎殺し・愚地独歩が登場だ！ リアルに作られた独歩にシビることは間違いない！
【アートストーム】
お問い合わせ◎03-3469-0304

プレゼント？ 束になってかかってこい！ 猪木ワールドダー！

各1名様

★猪木フィギュア
元気ですか！ 元気に編集部の片づけをしていたら猪木フィギュアを発見したぞ！ 欲しいヤツは束になってかかってこい！
【ダブルクロス提供】

各2名様

★猪木サウンドバンク・猪木サウンドキーチェーン
お金を入れると何と猪木の声で「行くぞー！ 1、2、3、ダー」「アリガトー！」そして「猪木ボンバイエ」が流れ始めるお金がなくても貯金したくなる猪木サウンドバンクとボタンを押すと「猪木サウンドバンク」同様に猪木の声が元気良く流れ始める猪木キーチェーンをプレゼントダー！ それでは皆さん、聞きますかーッ！
【イワヤ株式会社】お問い合わせ◎03-3889-6115

今月のTシャツ特集の妙技を味わいな!

各5名様

FRONT

★アレクTシャツ
おなじみダイエット・ブッチャー・スリムチキンがデザインしたアレクTシャツ!かわいいアレクと夏を過ごせ!
【アレクサンダー大塚提供】
お問い合わせ◎バトラーツ 0489-63-0005

3名様

I NEED ALL THE HONOR I CAN GET!

FRONT　BACK

★モハメド・ヨネTシャツ
ヨネもモチロン着ているヨネTシャツ! バトラーツ会場でも販売中なので会場に走れ!
【ボディプラント提供】
お問い合わせ◎03-5772-2791

3名様

ステッカー付き!!

BACK　FRONT

★ゴルドー・ドジョーカマクラTシャツ
オイ! このTシャツが誰のTシャツだと思っているんだ!? ジェラルド・ゴルドー様のだぞ! 欲しくないないヤツは正拳突き連打をお見舞いだ!
【ゴルドージャパン提供】
お問い合わせ◎03-5561-0502

BACK

1名様

"GRAPPLE BOXER"

★郷野Tシャツ
もう会場では販売されてない修斗時代の貴重な郷野Tシャツ! 郷野選手の修斗の思い出が着ながらにして感じられるぞ!
【郷野聡寛提供】

8名様

BACK　FRONT

★ウォーリアーズTシャツ&うちわ
「紙プロ」ウェア常備の絶対行かねばなショップ「少年ジェッター」の姉妹店「ニードレス」の新作Tシャツ! うちわと共に夏を過ごせ!
【ニードレス提供】お問い合わせ◎06-6251-5800 www.needles.co.jp

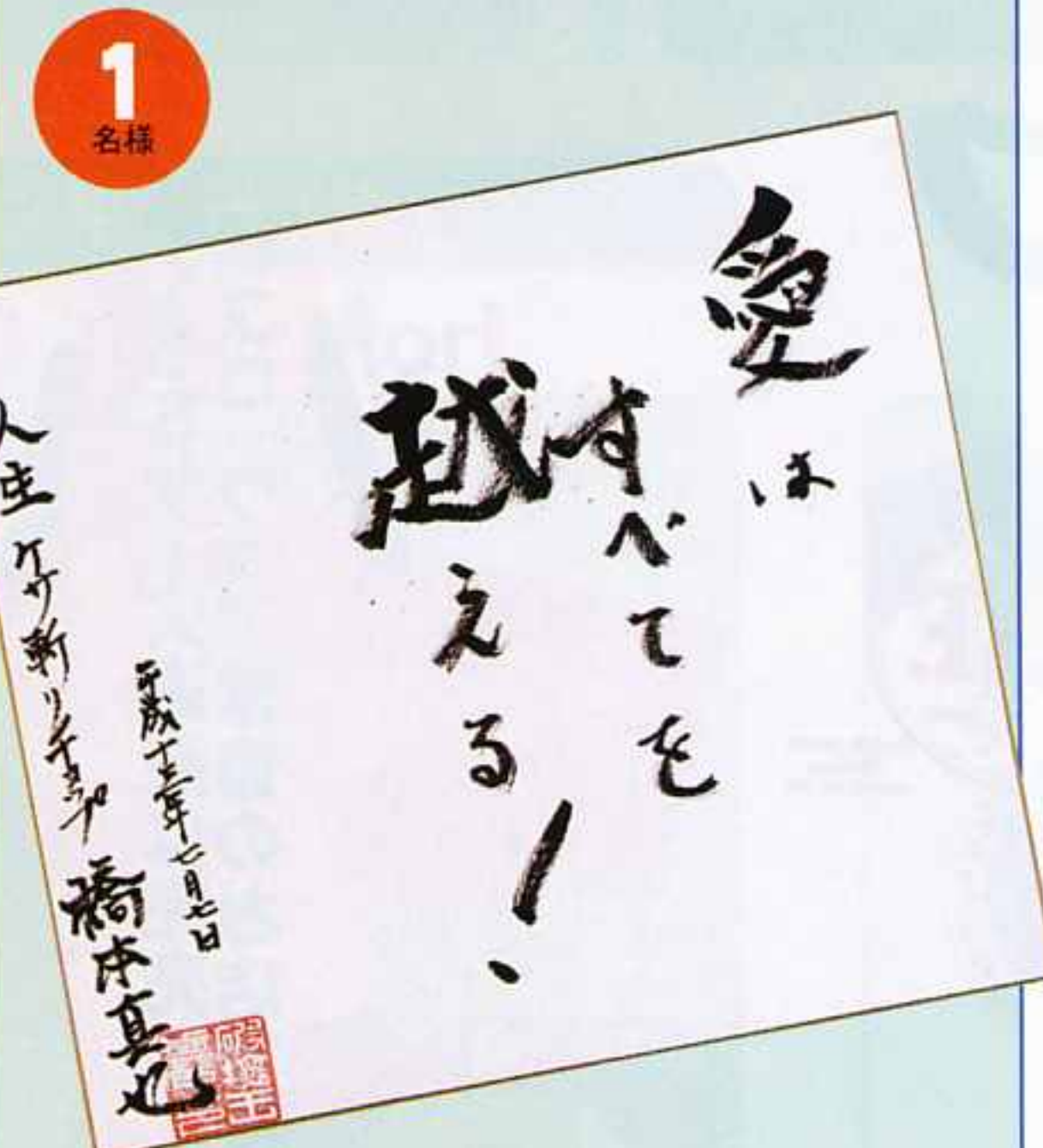
『PRIDE』で燃えろ!

★『PRIDE.14』ビデオ・DVD
横浜アリーナを揺るがした『PRIDE.14』が、今度はビデオ・DVDでも揺るがすぞ! 藤田vs高山、松井vsベレなど、ド迫力ファイトは何回見ても最高だ! 【メディアファクトリー提供】
お問い合わせ◎03-5469-4880
月〜金 10時〜18時(祝日を除く)

各3名様

★『PRIDE』カンバッチ
高田、ボブチャンチン、シウバ、グッドリッジら各選手のロゴ、そして中川画伯の描いたサクマシンをデザインしたカンバッチ!『PRIDE.15』から先行発売されるぞ!
【DSE提供】

『紙プロ』愛モード

1名様

★破壊王メッセージサイン色紙
破壊王から愛のメッセージ! どんな悩みがあってもこの色紙があれば大丈夫! 道はどんなに険しくても愛を持って行こうぜ! 【橋本真也提供】

真樹日佐夫・人生指南

4名様

★『マッキーに訊け!』
あらゆる悩みを真樹先生がズバッと解決! 格闘Kマガジンで連載中の「マッキーに訊け!」が単行本になったぞ。関根勤との対談も特別収録しており必見の一冊!
【ぴいぷる社提供】
お問い合わせ◎03-5232-6661

今月のお前に夢中

4名様

★桜庭あつこ写真集出版記念テレホンカード
桜庭あつこのヌード写真集「アルティメット・ハンター」出版を記念してサイン会が行われるぞ! 8/5秋葉原・石丸電気ソフトワン・16時から(お問い合わせ◎03-3251-5555)全て捨て去り駆けつけるんだ!
【竹書房提供】
お問い合わせ◎03-3234-6381

応募要項

❶郵便番号・住所・電話番号
❷氏名
❸年齢・職業
❹希望商品
❺面白かった記事&その理由
❻つまらなかった記事&その理由
❼選挙に出て欲しいレスラーと掲げる政策は何ですか?

応募券

【宛先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「G・読者サービスvol.6」係まで
※締切は2001年8月25日(土)当日消印有効

ノア・ファーストテーマCD

2名様

★「プロレスリング・ノア」・テーマアルバム(2枚組)
ほとんどがテレビ・会場使用のオリジナル音源の「ノア」全選手のテーマ曲がCD2枚組で登場! 三沢からラッシャーまで大音量で聞きまくるんだ! 【Bap提供】
お問い合わせ◎03-3234-5710

暑い夏は熱いビデオ・DVDがよく似合う

★We are BATT(ビデオ)
武藤のプロレスLOVEが団体の垣根を超えた! BATT勢の熱いLOVEを感じろ!
【ヴァリス提供】

★これがアルシオンだ!!(ビデオ)
これを見れば浜田彩子の全てが分かる! プライベート映像も観れるぞ!
【ヴァリス提供】

お問い合わせ◎ヴァリス 03-3531-5181 http://www.valis.to

★小島聡(DVD)
小島の特集DVDが出ちゃうぞ〜この野郎! 見るだろ? おう、コジ!
【ヴァリス提供】

★獣神サンダーライガー(DVD)
怒りの獣神が大爆発! 常にジュニアの先頭を走り続けてきた怒りを注入するんだ!
【ヴァリス提供】

★4・9新日本大阪ドーム DVD VOL.1 /VOL.2
藤田のIWGP戴冠劇、健介を長期欠場に追い込んだ橋本戦。新日本が死んだ日と呼ばれた大会ライガーをDVDでゲットしろ! 新日IS デッド!?
【ビームエンターテイメント提供】
お問い合わせ◎03-5828-1688

各3名様

★「グラップラー刃牙」DVD VOL.1/VOL.2
アニメ・グラップラー刃牙がDVDになって登場だ! 格闘マンガの最高峰をアニメでとくと味わえ!
【ビームエンターテイメント提供】
お問い合わせ◎(株)エストレア03-5775-7166

★通販方法は左のページを参照してください。★紙プロウェアは全て(メイドインジャパン)特別注文でつくってま〜す。

紙のプロレス RADICAL
No.40
2001年8月26日発行

No.41は
8月下旬発売予定!

※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

●編集兼発行人
山口日昇
●編集スタッフ
松澤チョロ
堀江ガンツ
八木賢太郎 (瀬戸内寂聴さんへのお中元を考えるため非番)
●編集見習い
クレ斉藤
片山ぽん
●スーパーバイザー
吉田豪
●助っ人
中村カタブツ君
スモーノブ

●アートディレクター
出田さん(TwoThree)
●デザイン
ヒサくん
マツくん
村松さん
グッチー
ミネ(以上TwoThree)
トメさん
はなえちゃん
あっちゃん(以上さおとめの事務所)
海老沢勇(Zero graphics)
古賀ゆきえ

●出前
出前持ち入江(TwoThree)
●カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
遠藤政文
黒田史夫
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
森田友美
●試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃

●引きこもり
ジャイ子
●お勘定&衣料部
林“ヘックション”一枝
●フィニッシュ
ツー・スリー
さおとめの事務所
●印刷
図書印刷株式会社
●印刷人
大杉すぎすぎ昌也

発売元●株式会社ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町一番地 TEL.03-3357-2911(販売・営業)
発行元●株式会社ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 TEL.03-3403-5188(編集・制作)
 編集内容等に関するお問い合せは(株)ダブルクロスにぶつけろ!

この夏に『紙プロ』Tシャツ！

紙のプロレスRADICAL おもいっきりロゴT

¥3,800 SorM or L (SOLD OUT)

21世紀を記念して作られた、『紙プロ』Tシャツをあなたに！『紙プロ』ゆかりの関係者がロゴで総登場!!

U.M.F. Tシャツ〈黒×黄〉

¥3,800 SorM or L (SOLD OUT)

花くまゆうさく先生書き下ろしのイラストの「U.M.TTシャツ」左ソデのワンポイントがたまらないぞ。

SS Tシャツ半ソデ〈赤〉

¥3,500 S (SOLD OUT) or M or L

すっかりおなじみになったSSTシャツ!! 持ってる方もプレゼント用、保存用、観賞用にもう1丁っ！

リングおじさんパーカー（黒）

¥6,000 MorL

リングおじさんパーカーは永遠に不滅です！ 冬が来る前に今から準備だ！

リングおじさんパーカー（黒×白）

¥6,000 MorL

おもいっきりロゴTシャの ロゴが入ったリングおじさんパーカー！

紙プロネックピース

¥~~1,200~~→大特価¥600

大処分特価のために人気集中の紙プロネックピース！ 品切れ間近なので急ぐんだ!!

SS Tシャツ長ソデ、リングおじさんトレーナー、パトTシャツ、ジャイ子Tシャツの通販分は完売しました。下欄外の直販店でお求め下さい

通販方法

希望商品の代金十送料¥500（何枚でも:ネックピースだけなら¥300）を郵便振替か現金書留で、下記住所まで送ってください。あなたの郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、希望商品（サイズとカラー）を必ず記入すること！ これがないと商品の発送が出来ないのであしからず。隣のページのTシャツと一緒の申し込みもOKですよ。

■郵便振替の宛先
00130-3-769154
■現金書留
（株）ダブルクロス
〒151-0051
東京都渋谷区
千駄ケ谷3-11-3-702

お問い合わせ先 （株）ダブルクロス TEL03-3403-5188

【紙プロウェアが常備のスゴイお店】★チャンピオン東京店（TEL.03-3221-6237） ★チャンピオン大阪（TEL.06-6645-5186）★岐阜・バンザイ商会（TEL.0584-75-4966）
★宮城・スクワット（TEL.022-264-8160） ★大阪・少年ジェッター（TEL.06-6541-3551） ★グレートアントニオ（TEL.03-3219-9550）

平成13年8月25日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地　電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　電話／03-3403-5188
ワニマガジン社

ISBN4-89829-661-0
C9476 ¥838E

雑誌　69862-80

印刷：図書印刷株式会社

INDEX

全日本プロレス ➡03-3403-7344
〒106-0032 東京都港区六本木7-3-12

プロレスリング・ノア ➡03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25

新日本プロレス ➡03-5468-3111
〒150-0011 東京都渋谷区東2-1-11

FMW ➡03-5496-0671
〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-23-15　ダヴィンチ下目黒6F

リングス ➡03-3461-0257
〒150-0036 東京都渋谷区南平台13-1　サトウビル202

WAR ➡03-5477-0461
〒154-0015 東京都世田谷区桜新町1-14-23　萬豊ビル2F

みちのくプロレス ➡019-626-1333
〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8

SPWF ➡03-3814-6371
〒113-0001 東京都文京区白山1-17-4　クロサキビル

パンクラス ➡03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25

IWAジャパン ➡03-3352-3366
〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1　四谷サンハイツ401

大日本プロレス ➡045-937-0811
〒224-0053 神奈川県横浜市都築区池辺町4347

バトラーツ ➡0489-63-0005
〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43

DDT ➡03-3356-8493
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-17-18 オリエンタル千駄ヶ谷102プリントオフィス内

髙田道場 ➡03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6　ワールドパレス武蔵小山1F-B1

UFO ➡03-5447-2121
〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5　OK白金台ビル7F

大阪プロレス ➡06-6243-5131
〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場3-1-7　日宝東心斎橋ビル301

闘龍門JAPAN ➡078-333-9797
〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通り3-17-8　TOWA元町ビル901

ダイプロデュース(大仁田興行) ➡03-5496-4900
〒141-0031 東京都品川区西五反田1-32-3　大北ビル3F

ZERO-ONE ➡03-5730-3401
〒105-0014 東京都港区芝2-30-11

掣圏道 ➡03-5456-7333
〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-6-14　恵比寿スカイハイツ607

レッスル夢ファクトリー ➡03-5828-8494
〒165-0032 東京都中野区鷺宮5-15-11

キングダム・エルガイツ ➡0423-31-2797
〒206-0822東京都稲城市坂浜2305

キャプチャー ➡044-959-3333
〒215-0011神奈川県川崎市麻生区百合丘2-2-1　横山ビルB1

国際プロレス ➡0467-86-0197
〒253-0052神奈川県茅ヶ崎市幸町20-14

メビウス ➡03-5382-6991
〒167-0034東京都杉並区桃井4-1-15

つぼプロモーション ➡03-3498-4710
〒107-0062 東京都港区南青山6-15-1　アパルトマン青山2F-E

華☆激 ➡092-522-1901
〒810-0022 福岡市中央区薬院4-8-29　エステートピア薬院302

喧嘩プロレス二瓶組 ➡044-588-2438
〒212-0055 神奈川県川崎市幸区南加瀬5-32-2　二瓶ビル

ZIPANG ➡03-3312-0328
〒166-0011 東京都杉並区梅里2-40-21　ハイネス梅里201

T.A.M.A ➡042-572-6795
〒185-0031 東京都国分寺市富士本1-23-5

CMLL・JAPAN ➡075-601-7816
〒612-8221 京都府京都市伏見区禅正町151

UNW ➡03-3362-3014
〒164-0003 東京都中野区東中野4-4-5-311

栗栖ジム ➡06-6790-8896
〒547-0014 大阪府大阪市平野区長吉川辺3-1-7

ドリームステージエンターテインメント ➡03-5775-5700
〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-4　ルーメリ赤坂103

K－1 事務局 ➡03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-14

修斗コミッション ➡03-5725-7338
〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1-2-10　エビスユニオンビル202サステイン

GCM COMUNICATION (和術慧舟會、A^2GYM、RJW) ➡03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10　松楠ビル9F

DEEP 2001事務局 ➡052-339-0303
〒460-0017 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F

怪獣王国 ➡03-5952-1177
〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-7-3F

コロシアム事務局 ➡03-5473-3148
〒105-8012 東京都港区虎ノ門4-3-12　テレビ東京事業部内

全日本女子プロレス ➡03-3493-6541
〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17

JWP ➡03-3839-4161
〒110-0005 東京都台東区上野1-15-10　大秀ビル502

LLPW ➡03-3945-7926
〒112-0005 東京都文京区水道2-13-4　ビクセル文京105

GAEA JAPAN ➡03-3795-2555
〒154-0004 東京都世田谷区太子堂5-15-3　COVAMOC BUILDING 2F

Jd’ ➡03-5561-0522
〒107-0052 東京都港区赤坂2-3-4　ランディック赤坂ビル4F

アルシオン ➡03-5720-5217
〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南3-7-1　代官山島田ビル3F

NEO ➡044-422-8344
〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102

エヌ・イー・オー ➡03-3796-7461
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-19-13　ドミシール平野503

暑中お見舞い申し上げます。

フィルムジャンキーを狂わしてやまない
日本が世界に誇る映画監督

三池崇史

（真樹道場・青帯）

究極の師弟対談実現！

格闘ジャンキーを狂わしてやまない
日本が世界に誇る小説家&脚本家

真樹日佐夫

（真樹道場首席師範）

驚愕の対談内容は
次号を待つべし！

押忍!!

本格格闘プロレス小説

『無比人』映画化決定!?

『紙プロ』編集部おススメ興行

★ 山口日昇　♠ 松澤チョロ記者
◆ ガンツ堀江　◎ クレ斉藤
¥ 片山ぼん

TORY(19:00)
00)
0)
ープ(18:30)
車場特設(17:00)
ーナ(18:30)
)
00)

アルシオン■東京・後楽園ホール(12:00&19:00)
大日本■三重・四日市オーストラリア記念館(18:30)
バトラーツ■愛知・名古屋市体育館(15:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(13:00)

14 TUE.

みちのく■新潟・新潟フェイズ(19:00)
ノア■宮城・筑紫町総合運動公園体育館」(17:30)

15 WED.

みちのく■山形・米沢市営体育館(19:00)
ノア■秋田・皆瀬村とことん山キャンプ場特設リング(18:30)
修斗■東京・北沢タウンホール(18:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(19:00)

16 THU.

みちのく■福島・白河市中央体育館(18:30)
大日本■愛知・名古屋市体育館(18:30)

17 FRI.

みちのく■宮城・古川市総合体育館(18:30)
キングダム■東京・北沢タウンホール(17:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(19:00)

18 SAT.

みちのく■山形・山形市厚生年金休暇センタースケートリンク(18:30)
DEEP■神奈川 ・横浜文化体育館(18:00)◆◎
バトラーツ■島根・益田市民体育館(18:30)
大日本■静岡・アクトシティ浜松(17:00)

19 SUN.

みちのく■宮城・ニューワールド屋外駐車場特設リング(17:00)★♠◆◎¥
全日本■東京・後楽園ホール(12:30)
K—1ジャパン■埼玉・さいたまスーパーアリーナ(16:00)
大日本■神奈川・横浜文化体育館(15:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)

20 MON.

バトラーツ■徳島・徳島市立体育館(18:30)
クラブファイト■東京・渋谷WOMB(19:00)

22 WED.

バトラーツ■宮城・Zepp Sendai(19:00)

24 FRI.

FMW■群馬・渋川市総合公園体育館(18:30)
大阪■大阪・梅田ステラホール(未定)

25 SAT.

バトラーツ■北海道・札幌テイセンホール(18:00)
パンクラス■大阪・梅田ステラホール(18:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
FMW■東京・江戸川競艇場(10:30)

26 SUN.

ノア■千葉・東金アリーナ(15:00)
全日本■東京・後楽園ホール(12:30)
FMW■埼玉・大宮中央青果市場(16:00)
バトラーツ■北海道・札幌テイセンホール(13:00)
修斗■大阪・大阪府立体育館(14:00)

27 MON.

ノア■東京・後楽園ホール(18:30)

28 TUE.

ノア■東京・後楽園ホール(18:30)
全日本■大阪・高石臨海スポーツセンター(18:30)
アルシオン■富山・福野町ア・ミュール広場(18:30)

29 WED.

全日本■岡山・岡山オレンジホール(18:30)

30 THU.

ノア■愛知・春日井市総合体育館(18:30)
全日本■広島・広島市東区スポーツセンター(18:00)
真撃■東京・日本武道館(19:00)★

31 FRI.

ノア■大阪・大阪府立体育館第二競技場(18:00)

9 September

1 SAT.

ノア■京都・KBSホール(18:00)
全日本■熊本・熊本市田崎森永青果市場特設リング(18:00)
NEO■東京・ディファ有明(18:30)

2 SUN.

ノア■静岡・ツインメッセ静岡(17:00)
修斗■東京・後楽園ホール(18:00)
全日本■大分・大分県立荷揚町体育館(17:00)
Jd'■東京・東京流通センター・アールンホール(16:00)
GAEA■東京・後楽園ホール(12:00)

3 MON.

全日本■大分・三重町フレッシュランドみえ(18:30)

4 TUE.

ノア■宮城・多賀城市総合体育館(18:30)

5 WED.

ノア■岩手・岩手県営体育館(18:30)

6 THU.

ノア■弘前・青森県武道館(18:30)
全日本■広島・府中市ウッドアリーナ(18:30)
新日本■新潟・リージョンプラザ上越(18:30)

7 FRI.

愛知・名古屋国際会議場イベントホール(18:30)
新日本■新潟・新潟市体育館(18:30)
全日本■愛知・名古屋国際展示場イベントホール(18:30)

8 SAT.

ノア■新潟・長岡市厚生会館(18:00)
全日本■東京・日本武道館(18:00)
新日本■新潟・三条市厚生福祉会館(18:00)
『PRE-STAGE.1』■千葉・銚子体育館(未定)

9 SUN.

ノア■東京・ディファ有明(15:00)
バトラーツ■東京・後楽園ホール(18:30)
新日本■千葉・東金市アリーナ(18:00)
Jd'■東京・葛飾金町地区センター(16:30)
FMW■東京・後楽園ホール(12:30)

RADICAL CALENDAR

7 July

26 THU.
みちのく■福島・楢葉町民体育館(18:30)
SMACK GIRL■東京・渋谷club ATOM(19:00)♠

27 FRI.
NEO■東京・板橋区産文ホール(19:00)
ノア■東京・日本武道館(18:30)¥
みちのく■青森・弘前市可西体育センター(18:30)
大日本■東京・後楽園ホール(18:30)
修斗■東京・北沢タウンホール(18:00)
全女■東京・代々木第2体育館(18:00)

28 SAT.
みちのく■宮城・松島町民体育館(18:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
ZIPANG■東京・葛飾区金町地区センター(18:00)

29 SUN.
みちのく■福島・ビックパレットふくしま(15:00)
闘龍門■兵庫・チキンジョージ(16:00)
大日本■東京八王子みなみ駅前特設(13:00)
アルシオン■東京・大田区体育館(16:00)
JWP■東京・ディファ有明(12:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(16:00)
DSE『PRIDE.15』■埼玉さいたまスーパーアリーナ(16:00)★◎¥
パンクラス■東京・後楽園ホール(1:30&6:30)
全女■東京・全女事務所ガレージマッチ(12:00)
LLPW■東京・江戸川競艇場(10:45)

30 MON.
FMW■福岡・博多スターレーン(18:30)
全女■静岡・藤枝駅前多目的広場(18:30)

31 TUE.
みちのく■山形・寒河江市民体育館(18:30)
大日本■和歌山・和歌山県立体育館(18:30)
FMW■福岡・北九州市小倉井筒屋新館9階パステルホール(18:30)

8 August

1 WED.
みちのく■岩手・二戸市ショッピングストア「ニコア」(18:00)
NEO■東京・板橋産文ホール(19:00)

2 THU.
みちのく■青森・はちのへハイツ(18:30)
大日本■大阪・鶴見緑地公園水の館付属展示場(13:00)
FMW■愛知・春日井市総合体育館(18:30)

3 FRI.
みちのく■宮城・女川町総合体育館(18:30)
アルシオン■東京・お台場パレットタウンVINO STORY(19:00)
FMW■東京・後楽園ホール(19:00)

4 SAT.
新日本■大阪・大阪府立体育館(18:00)
大日本■福井・福井市体育館(18:30)
みちのく■宮城・夢メッセ(16:00〜19:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)

5 SUN.
新日本■大阪・大阪府立体育館(16:00)
大日本■福島・双葉町体育館(18:30)
ノア■東京・ディファ有明(18:00)
みちのく■山形・鶴岡市体育館(12:00)
新宿プロレス■東京・歌舞伎町クラブハイツ(18:00)
全女■東京・立川競輪場横駐車場(19:00)
Jd'■東京・ディファ有明(12:00)
アルシオン■埼玉・越谷市桂スタジオ(1:00&5:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(15:00)

6 MON.
新日本■愛知・愛知県体育館(18:30)
ノア■東京・ディファ有明(17:00)
W☆ING21■東京・後楽園ホール(18:30)♠
JWP■東京・東京キネマ倶楽部(19:00)

7 TUE.
みちのく■秋田・本荘市民体育館(18:00)
全女■茨城・取手市ふれあい道路セントラルグループ(18:30)
大阪■京都・亀川駅前通りパチンコジャンボ店駐車場特設(17:00)

8 WED.
新日本■宮城・仙台市体育館(18:30)
FMW■岐阜・岐阜産業会館(18:30)
みちのく■岩手・釜石市民体育館(18:30)

9 THU.
みちのく■江刺市民体育文化会館(19:00)
全女■埼玉・熊谷市民体育館(18:30)
大日本■茨城・ひたちなか市松戸体育館サブアリーナ(18:30)
大阪■大阪・京橋・太閤園(18:30)

10 FRI.
みちのく■秋田・大曲市仙北圏民体育館(18:30)
新日本■東京・両国国技館(18:00)
大阪■大阪・京橋・太閤園(18:30)

11 SAT.
みちのく■青森・むつ市民体育館(18:30)
リングス■東京・有明コロシアム(16:30)★◆
IWA■埼玉・越谷桂スタジオ(18:00)
新日本■東京・両国国技館(18:00)
全女■東京・後楽園ホール(18:30)
FMW■東京・駒沢オリンピック公園体育館(18:00)
大日本■静岡・ツインメッセ静岡(18:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)

12 SUN.
みちのく■青森・青森県民体育館(15:00)
IWA■群馬・本状市民体育館(14:00)
新日本■東京・両国国技館(15:00)
全女■東京・ディファ有明(12:30)
Jd'■大阪・NGKスタジオ(16:00)

アルシオン■東京
大日本■三重・四
バトラーツ■愛知・
大阪■大阪・デルフ

14 TUE.
みちのく■新潟・新
ノア■宮城・筑紫

15 WED.
みちのく■山形・米
ノア■秋田・皆瀬
修斗■東京・北沢
大阪■大阪・デルフ

16 THU.
みちのく■福島・白
大日本■愛知・名

17 FRI.
みちのく■宮城・古
キングダム■東京・
大阪■大阪・デルフ

18 SAT.
みちのく■山形・山
DEEP■神奈川・
バトラーツ■島根・
大日本■静岡・アク

19 SUN.
みちのく■宮城・二
全日本■東京・後
K-1ジャパン■埼
大日本■神奈川・
大阪■大阪・デルフ

20 MON.
バトラーツ■徳島・
クラブファイト■東

22 WED.
バトラーツ■宮城・

24 FRI.
FMW■群馬・渋川
大阪■大阪・梅田

25 SAT.
バトラーツ■北海道
パンクラス■大阪
大阪■大阪・デルフ
FMW■東京・江戸

26 SUN.
ノア■千葉・東金
全日本■東京・後
FMW■埼玉・大宮
バトラーツ■北海道
修斗■大阪・大阪

27 MON.
ノア■東京・後楽

28 TUE.
ノア■東京・後楽